

# 豊 後 府 内 4

中世大友府内町跡第9次・第12次・第18次・第22次・第28次・第48次調査区

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

(第2分冊)

2006

大分県教育庁埋蔵文化財センター



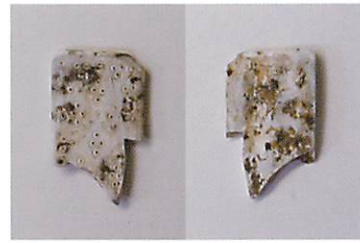
第18次西調査区SF019出土ガラス製品



第18次西調査区SP020出土権



第18次西調査区15層  
出土分銅



第18次西調査区出土骨牌



第18次東調査区出土  
分銅末製品



第18次東調査区出土  
鉄絵合子（タイ産）



# 目 次

## 第4章 中世大友府内町跡第18次西調査区

第1節 調査の概要	1
第2節 遺構と遺物	1
1. 溝	9
2. 土坑	32
3. 井戸	33
4. 掘立柱建物跡	33
5. その他の遺構	42
6. ピット	47
7. 包含層	47
第3節 小 結	60
1. 第18次西調査区における遺構変遷	60
2. 桜町周辺における遺構変遷	64

## 第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

第1節 調査の概要	67
第2節 遺構と遺物	67
1. 遺構の概要と層序	67
2. 溝状遺構	77
3. 土坑	80
4. 集石遺構	103
5. 井戸	108
6. 遺物集中区	127
7. その他の遺構	137
8. 包含層・整地層	141
第3節 小 結	172
1. 遺構の変遷	172
2. まとめ	173

## 第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

第1節 調査の概要	175
第2節 遺構と遺物	175
1. 遺構の概要と基本層序	175
2. 道路・溝	185
3. 土坑	191
4. 集石遺構	218
5. 礎石・掘立柱建物・柱穴	229
6. 井戸・その他の遺構	236
7. 包含層・整地層出土遺物	238
第3節 小 結	246

## 図版目次

### 第4章 中世大友府内町跡第18次西調査区

第1図 第18次西調査区の位置 (1/800) ……………	1	第2図 第18次西調査区遺構配置図 (1/80) ……………	2
第3図 第18次西調査区 トレンチ土層断面図 (1/60) ……………	7～8	第4図 第18次西調査区SD001・SD003 ・SD004・SE016実測図 (1/120) ……………	9
第5図 第18次西調査区 SD001・SD003土層断面図 (1/30) ……………	11	第6図 第18次西調査区SD001 ・SD004土層断面図 (1/30) ……………	13
第7図 第18次西調査区SD001 出土遺物実測図① (1/4) ……………	14	第8図 第18次西調査区SD001 出土遺物実測図② (1/4) ……………	15
第9図 第18次西調査区SD001 出土遺物実測図③ (1/4) ……………	16	第10図 第18次西調査区SD001 下層出土遺物実測図 (1/1) ……………	17
第11図 第18次西調査区SD002 実測図 (1/30) ……………	17	第12図 第18次西調査区SD002 出土遺物実測図 (1/3) ……………	17
第13図 第18次西調査区SD003 下層出土遺物実測図 (1/3) ……………	18	第14図 第18次西調査区SD003 中層出土遺物実測図 (1/3) ……………	18
第15図 第18次西調査区SD003 上層出土遺物実測図 (1/3) ……………	19	第16図 第18次西調査区SD004 出土遺物実測図 (1/3) ……………	20
第17図 第18次西調査区 SD005・SD006実測図 (1/120) ……………	21	第18図 第18次西調査区SD005-2 出土遺物実測図 (1/3) ……………	22
第19図 第18次西調査区SD006 出土遺物実測図 (1/3) ……………	22	第20図 第18次西調査区SD007 実測図 (1/140) ……………	23
第21図 第18次西調査区 SD007-1出土遺物実測図 (1/3) ……………	24	第22図 第18次西調査区SD007-2 出土遺物実測図① (1/1) ……………	24
第23図 第18次西調査区SD007-2 出土遺物実測図② (1/3) ……………	25	第24図 第18次西調査区SD007-3 出土遺物実測図① (1/3) ……………	26
第25図 第18次西調査区SD007-3 出土遺物実測図② (1/3) ……………	27	第26図 第18次西調査区SD007-3 出土遺物実測図③ (1/3) ……………	28
第27図 第18次西調査区SD007-4 出土遺物実測図 (1/3) ……………	28	第28図 第18次西調査区SD008 実測図 (1/50) ……………	29
第29図 第18次西調査区SD008-1 出土遺物実測図① (1/3) ……………	30	第30図 第18次西調査区SD008-1 出土遺物実測図② (1/1) ……………	30
第31図 第18次西調査区SD008-2 出土遺物実測図 (1/3) ……………	30	第32図 第18次西調査区SD008-3 出土遺物実測図① (1/1) ……………	30
第33図 第18次西調査区SD008-3 出土遺物実測図② (1/3) ……………	31	第34図 第18次西調査区SD008-3 出土遺物実測図③ (1/1) ……………	32
第35図 第18次西調査区SD009・SD010 実測図 (1/60) ……………	33	第36図 第18次西調査区SD009 出土遺物実測図① (1/1) ……………	33
第37図 第18次西調査区SD009 出土遺物実測図② (1/3) ……………	34	第38図 第18次西調査区SD010 出土遺物実測図 (1/3) ……………	35

第79図	SD248・270・306実測図及び 出土遺物実測図 (1/40、1/3) ……………	79	第80図	SD046・048・051実測図 (1/30) ……………	80
第81図	SK065・074実測図 (1/30) ……………	81	第82図	SK065出土遺物実測図① (1/3) ……………	81
第83図	SK065出土遺物実測図② (1/3) ……………	82	第84図	SK065出土遺物実測図③ (1/3、1/4、1/2) ……………	83
第85図	SK074出土遺物実測図 (1/3) ……………	83	第86図	SK067実測図 (1/30) ……………	84
第87図	SK068実測図及び 出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2) ……………	85	第88図	SK071実測図 (1/30) ……………	85
第89図	SK071出土遺物実測図 (1/3、1/2) ……………	86	第90図	SK077実測図及び 出土遺物実測図 (1/30、1/3 1/2) ……………	86
第91図	SK078実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	87	第92図	SK085実測図 (1/30) ……………	88
第93図	SK085出土遺物実測図① (1/3) ……………	89	第94図	SK085出土遺物実測図② (1/3) ……………	90
第95図	SK085出土遺物実測図③ (1/3) ……………	90	第96図	SK085出土遺物実測図④ (1/3、1/2) ……………	91
第97図	SK097・137実測図及び 出土遺物実測図 (1/30、1/2) ……………	92	第98図	SK138・191実測図 (1/30) ……………	92
第99図	SK203・292・293実測図及び出土遺物 実測図 (1/30、1/3、1/2) ……………	93	第100図	SK209・210・224実測図及び出土遺物 実測図 (1/30、1/3) ……………	94
第101図	SK252実測図及び 出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	95	第102図	SK253A実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	96
第103図	SK253B実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	96	第104図	SK254実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	97
第105図	SK255・256B・257実測図 (1/30) ……………	98	第106図	SK262実測図及び 出土遺物実測図① (1/30、1/3) ……………	99
第107図	SK262出土遺物実測図② (1/3) ……………	100	第108図	SK266・273・274・276・277 ・280・281実測図 (1/30) ……………	101
第109図	SK300実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2) ……………	102	第110図	SK311実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	102
第111図	SX080実測図 (1/30) ……………	103	第112図	SX244実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2) ……………	104
第113図	SX245A実測図 (1/30) ……………	105	第114図	SX245A出土遺物実測図 (1/3) ……………	105
第115図	SX302実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	106	第116図	SX303実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	107
第117図	SX309実測図 (1/30) ……………	109	第118図	SE176実測図 (1/40) ……………	109
第119図	SE176出土遺物実測図 (1/3) ……………	110	第120図	SE075・SK294実測図 (1/40) ……………	111
第121図	SE075出土遺物実測図① (1/3) ……………	112	第122図	SE075出土遺物実測図② (1/3) ……………	112
第123図	SE075出土遺物実測図③ (1/2) ……………	113	第124図	SE079実測図① (1/40) ……………	114
第125図	SE079実測図② (1/40) ……………	115	第126図	SE079出土銭貨実測図 (1/1) ……………	115
第127図	SE079出土遺物実測図① (1/3) ……………	116	第128図	SE079出土遺物実測図② (1/3) ……………	117
第129図	SE079出土遺物実測図③ (1/3) ……………	118	第130図	SE079出土遺物実測図④ (1/3) ……………	119
第131図	SE079出土遺物実測図⑤ (1/3) ……………	120	第132図	SE079出土遺物実測図⑥ (1/2) ……………	120
第133図	SE079出土遺物実測図⑦ (1/3) ……………	121	第134図	SE261実測図 (1/40) ……………	122
第135図	SE261出土遺物実測図① (1/3) ……………	123	第136図	SE261出土遺物実測図② (1/3) ……………	124

第39図 第18次西調査区SD011 出土遺物実測図(1/3) ……………	36	第40図 第18次西調査区SD013 出土遺物実測図(1/3) ……………	36
第41図 第18次西調査区SK014 実測図(1/30) ……………	36	第42図 第18次西調査区SK015 実測図(1/30) ……………	37
第43図 第18次西調査区SK015 出土遺物実測図①(1/3) ……………	38	第44図 第18次西調査区SK015 出土遺物実測図②(1/3) ……………	39
第45図 第18次西調査区SK015 出土遺物実測図③(1/3) ……………	40	第46図 第18次西調査区SB017 実測図(1/60) ……………	41
第47図 第18次西調査区SB017 出土遺物実測図①(1/3) ……………	42	第48図 第18次西調査区SB017 出土遺物実測図②(1/3) ……………	43
第49図 第18次西調査区SB017 出土遺物実測図③(1/3) ……………	44	第50図 第18次西調査区SB018 実測図(1/60) ……………	45
第51図 第18次西調査区SB018 出土遺物実測図(1/3) ……………	46	第52図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図①(1/3) ……………	48
第53図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図②(1/3) ……………	49	第54図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図③(1/3) ……………	50
第55図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図④(1/2) ……………	50	第56図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図⑤(1/1) ……………	50
第57図 第18次西調査区SP020 出土遺物実測図①(1/1) ……………	51	第58図 第18次西調査区SP020 出土遺物実測図②(1/1) ……………	51
第59図 第18次西調査区ピット 出土遺物実測図(1/3) ……………	51	第60図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図①(1/3) ……………	52
第61図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図②(1/3) ……………	53	第62図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図③(1/3) ……………	54
第63図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図④(1/3) ……………	55	第64図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図⑤(1/1) ……………	56
第65図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図⑥(1/1) ……………	56	第66図 第18次西調査区 出土遺物実測図①(1/3) ……………	57
第67図 第18次西調査区 出土遺物実測図②(1/3) ……………	58	第68図 第18次西調査区 出土遺物実測図③(1/2) ……………	59
第69図 第18次西調査区 出土遺物実測図④(1/1) ……………	59	第70図 第18次西調査区 遺構分布変遷図①(1/250) ……………	61
第71図 第18次西調査区 遺構分布変遷図②(1/250) ……………	62	第72図 第18次西調査区 遺構分布変遷図③(1/250) ……………	63
第73図 第18次西・東調査区 北壁土層断面図(1/120) ……………	64		

## 第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

第74図 第18次東調査区の位置(1/800) ……………	67	第75図 第18次東調査区遺構配置図(1/100) ……	71~72
第76図 第18次東調査区地形測量図(1/100) ……	73~74	第77図 第18次東調査区土層図(1/80) ……	75~76
第78図 SD022・023実測図(1/40、1/50) ……………	78		

第137図	SE261出土遺物実測図③ (1/2) ……	125	第138図	SE261出土遺物実測図④ (1/3) ……	125
第139図	SE307・SK298実測図及び 出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……	126	第140図	SX054出土遺物実測図① (1/3) ……	127
第141図	SX054出土遺物実測図② (1/3) ……	128	第142図	SX054出土遺物実測図③ (1/3) ……	129
第143図	SX054出土遺物実測図④ (1/3) ……	130	第144図	SX054出土遺物実測図⑤ (1/3、1/2) ……	130
第145図	SX062出土遺物実測図① (1/2) ……	131	第146図	SX062出土遺物実測図② (1/3) ……	131
第147図	SX066出土遺物実測図 (1/3) ……	131	第148図	SX150実測図 (1/30) ……	132
第149図	SX150出土遺物実測図① (1/3) ……	133	第150図	SX150出土遺物実測図② (1/3) ……	133
第151図	SX256A出土遺物実測図 (1/3、1/2) ……	134	第152図	SX308出土遺物実測図① (1/3、1/2) ……	134
第153図	SX308出土遺物実測図② (1/3) ……	135	第154図	SX310出土遺物実測図 (1/3) ……	136
第155図	SX076実測図 (1/40) ……	137	第156図	SX301出土遺物実測図 (1/3、1/2) ……	137
第157図	柱穴出土遺物実測図① (1/3) ……	139	第158図	柱穴出土遺物実測図② (1/3) ……	140
第159図	柱穴出土遺物実測図③ (1/1) ……	140	第160図	柱穴出土銭貨実測図 (1/1) ……	140
第161図	包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3) ……	142	第162図	包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3) ……	143
第163図	包含層・整地層出土遺物実測図③ (1/3) ……	144	第164図	包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/3) ……	145
第165図	包含層・整地層出土遺物実測図⑤ (1/3) ……	146	第166図	包含層・整地層出土遺物実測図⑥ (1/3) ……	147
第167図	包含層・整地層出土遺物実測図⑦ (1/3) ……	147	第168図	包含層・整地層出土遺物実測図⑧ (1/3) ……	148
第169図	包含層・整地層出土遺物実測図⑨ (1/3) ……	149	第170図	包含層・整地層出土遺物実測図⑩ (1/3) ……	150
第171図	包含層・整地層出土遺物実測図⑪ (1/3) ……	151	第172図	包含層・整地層出土遺物実測図⑫ (1/3) ……	152
第173図	包含層・整地層出土遺物実測図⑬ (1/3) ……	153	第174図	包含層・整地層出土遺物実測図⑭ (1/3) ……	154
第175図	包含層・整地層出土遺物実測図⑮ (1/1) ……	155	第176図	包含層・整地層出土遺物実測図⑯ (1/3) ……	157
第177図	包含層・整地層出土遺物実測図⑰ (1/3) ……	158	第178図	包含層・整地層出土遺物実測図⑳ (1/3) ……	158
第179図	包含層・整地層出土遺物実測図㉑ (1/3) ……	159	第180図	包含層・整地層出土遺物実測図㉒ (1/3) ……	160
第181図	包含層・整地層出土遺物実測図㉓ (1/3) ……	161	第182図	包含層・整地層出土遺物実測図㉔ (1/3) ……	161
第183図	包含層・整地層出土遺物実測図㉕ (1/3) ……	162	第184図	包含層・整地層出土遺物実測図㉖(1/1、1/2、1/3) ……	163
第185図	包含層・整地層出土遺物実測図㉗ (1/2) ……	164	第186図	包含層・整地層出土遺物実測図㉘ (1/2) ……	165
第187図	包含層・整地層出土遺物実測図㉙ (1/2) ……	166	第188図	包含層・整地層出土遺物実測図㉚ (1/3) ……	167
第189図	包含層・整地層出土銭貨実測図① (1/1) ……	168	第190図	包含層・整地層出土銭貨実測図② (1/1) ……	169
第191図	包含層・整地層出土銭貨実測図③ (1/1) ……	170	第192図	包含層・整地層出土銭貨実測図④ (1/1) ……	171

## 第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

第193図	第28次調査区的位置 (1/800) ……	175	第194図	中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図① (上層遺構群、1/150) ……	176
第195図	中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図② (下層遺構群、1/150) ……	177	第196図	調査区土層断面図① (1/50) ……	181～182
第197図	SF012土層断面図① (1/50) ……	183～184	第198図	第28次調査区における SF012変遷模式図 (1/400) ……	185
第199図	SF012出土遺物実測図① (1/1) ……	186	第200図	SF012出土遺物実測図 (1/3) ……	186
第201図	SD049実測図 (1/30) ……	187	第202図	SD049出土遺物実測図 (1/3) ……	188
第203図	SD053出土遺物 (1/40) ……	188	第204図	SD040・SD052実測図 (1/80) ……	189
第205図	SD040出土遺物実測図 (1/3) ……	190	第206図	SD052出土遺物実測図 (1/3) ……	190
第207図	SK002実測図 (1/30) ……	191	第208図	SK002出土遺物実測図 (1/3) ……	191

第209図	SK007実測図 (1/30) ……………	191	第210図	SK007出土遺物実測図 (1/3) ……………	191
第211図	SK008a・008b・009実測図 (S=1/30) ……………	192	第212図	SK008a・008b出土遺物実測図 (1~20は1/3、21・22は1/1) ……………	193
第213図	SK009出土遺物実測図 (1/3) ……………	194	第214図	SK010実測図 (S=1/30) ……………	195
第215図	SK010出土遺物実測図 (S=1/3) ……………	195	第216図	SK011実測図 (1/30) ……………	195
第217図	SK011出土遺物実測図 (1/3) ……………	195	第218図	SK015実測図 (1/30) ……………	196
第219図	SK016・022実測図 (1/30) ……………	196	第220図	SK022出土遺物実測図 (1/3) ……………	196
第221図	SK017実測図 (S=1/30) ……………	197	第222図	SK018~020実測図 (1/30) ……………	197
第223図	SK018出土遺物実測図 (1/3) ……………	198	第224図	SK019出土遺物実測図 (1/3) ……………	198
第225図	SK020出土遺物実測図 (1/3) ……………	198	第226図	SK021実測図 (1/30) ……………	199
第227図	SK021出土遺物① (1/3) ……………	199	第228図	SK021出土遺物② (1/3) ……………	199
第229図	SK025実測図 (1/30) ……………	200	第230図	SK025出土遺物実測図 (1/3) ……………	200
第231図	SK026実測図 (1/30) ……………	201	第232図	SK026出土遺物実測図 (1/3) ……………	201
第233図	SK028実測図 (1/1) ……………	201	第234図	SK028出土遺物実測図 (1/3) ……………	202
第235図	SK029実測図 (1/30) ……………	203	第236図	SK029出土遺物実測図 (1/3) ……………	203
第237図	SK030実測図 (S=1/30) ……………	204	第238図	SK030出土遺物実測図 (S=1/3) ……………	204
第239図	SK031実測図 (1/60) ……………	205	第240図	SK31b出土遺物実測図 (1~6は1/3、7・8は1/1) ……………	206
第241図	SK032実測図 (1/30) ……………	206	第242図	SK033実測図 (1/40) ……………	207
第243図	SK033出土遺物実測図 (1~3・5は1/3、4は1/1) ……………	208	第244図	SK035実測図 (1/30) ……………	208
第245図	SK035出土遺物実測図 (1/3) ……………	209	第246図	SK038実測図 (1/30) ……………	210
第247図	SK038出土遺物実測図 (1/3) ……………	210	第248図	SK042実測図 (1/30) ……………	211
第249図	SK043実測図 (1/30) ……………	211	第250図	SK043出土遺物実測図 (1/3) ……………	211
第251図	SK044実測図 (1/30) ……………	211	第252図	SK044出土遺物実測図 (1/3) ……………	211
第253図	SK045・SK046実測図 (1/30) ……………	212	第254図	SK045出土遺物実測図 (1/3) ……………	212
第255図	SK046出土遺物実測図 (1/3) ……………	213	第256図	SK047実測図 (1/30) ……………	213
第257図	SK047出土遺物実測図 (1/3) ……………	214	第258図	SK048実測図 (1/30) ……………	214
第259図	SK048出土遺物実測図 (1/3) ……………	214	第260図	SK050実測図 (1/30) ……………	215
第261図	SK050出土遺物実測図 (1/3) ……………	215	第262図	SK051実測図 (1/30) ……………	216
第263図	SK051出土遺物実測図 (1~14は1/3、15は1/1) ……………	217	第264図	SX005実測図 (1/30) ……………	218
第265図	SX005出土遺物実測図 (1/3) ……………	218	第266図	SX006実測図 (1/30) ……………	219
第267図	SX006出土遺物実測図① (1/3) ……………	220	第268図	SX006出土遺物実測図② (1/3) ……………	221
第269図	SX006出土遺物実測図③ (1/3) ……………	222	第270図	SX013実測図 (1/30) ……………	222
第271図	SX013出土遺物実測図① (1/3) ……………	223	第272図	SX013出土遺物実測図② (1/3) ……………	224
第273図	SX014実測図 (1/30) ……………	225	第274図	SX024実測図 (1/30) ……………	225
第275図	SX036実測図 (1/30) ……………	226	第276図	SX037実測図 (1/30) ……………	226
第277図	SX037出土遺物実測図 (1/3) ……………	227	第278図	SX039実測図 (1/30) ……………	227
第279図	SX039出土遺物実測図 (1/3) ……………	227	第280図	SX003実測図 (1/30) ……………	229
第281図	SX003出土遺物 (1/3) ……………	229	第282図	SX023実測図 (1/30) ……………	229
第283図	SX023周辺出土遺物実測図 (1/3) ……………	229	第284図	SB060実測図 (1/50) ……………	230

第285図	SB060出土遺物実測図(1/3) ……………	230	第286図	SX059実測図(1/50) ……………	230
第287図	ピット配置図(1/200) ……………	231	第288図	ピット出土遺物実測図① (1は1/2、2～4は1/1) ……………	231
第289図	ピット出土遺物実測図②(1/3) ……………	232	第290図	ピット出土遺物実測図③(1/3) ……………	233
第291図	ピット出土遺物実測図④(1/3) ……………	234	第292図	ピット出土遺物実測図⑤(1/3) ……………	235
第293図	SE027実測図(1/30) ……………	236	第294図	SE027出土遺物実測図(1/3) ……………	236
第295図	SX004出土遺物実測図(1/3) ……………	237	第296図	SX034出土遺物実測図 (1は1/3、2は1/1) ……………	237
第297図	包含層・整地層出土遺物実測図①(1/3) ……	239	第298図	包含層・整地層出土遺物実測図②(1/3) ……	240
第299図	包含層・整地層出土遺物実測図③(1/3) ……	241	第300図	包含層・整地層出土遺物実測図④(1/3) ……	242
第301図	包含層・整地層出土遺物実測図⑤(1/2) ……	242	第302図	包含層・整地層出土遺物実測図⑥(1/2) ……	242
第303図	包含層・整地層出土遺物実測図⑦(1/2) ……	243	第304図	包含層・整地層出土遺物実測図⑧(銅銭1/1) ……	244
第305図	第28次調査区遺構変遷図①(1/200) ……	248	第306図	第28次調査区遺構変遷図②(1/200) ……	249

## 表 目 次

### 第4章 中世大友府内町跡第18次調査区

第1表	遺構一覧表 ……………	3
-----	-------------	---

### 第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

第2表	遺構一覧表① ……………	69
-----	--------------	----

第4表	SD023計測表 ……………	77
-----	----------------	----

### 第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

第5表	遺構一覧表① ……………	178
-----	--------------	-----

第7表	中国産茶入出土地点一覧 ……………	238
-----	-------------------	-----

第3表	遺構一覧表② ……………	70
-----	--------------	----

第6表	遺構一覧表② ……………	179
-----	--------------	-----

## 遺物観察表目次

#### 遺物観察表 1

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類①) ……………	253
-----------------------------------	-----

#### 遺物観察表 3

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類③) ……………	255
-----------------------------------	-----

#### 遺物観察表 5

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑤) ……………	257
-----------------------------------	-----

#### 遺物観察表 7

第18次西調査区遺物観察表	
---------------	--

#### 遺物観察表 2

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類②) ……………	254
-----------------------------------	-----

#### 遺物観察表 4

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類④) ……………	256
-----------------------------------	-----

#### 遺物観察表 6

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑥) ……………	258
-----------------------------------	-----

#### 遺物観察表 8

第18次西調査区遺物観察表	
---------------	--

(土器・陶磁器類⑦) .....	259	(金属製品・土製品・石製品・骨製品・瓦) .....	260
<b>遺物観察表 9</b>		<b>遺物観察表10</b>	
第18次西調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(銭貨) .....	261	(土器・陶磁器類①) .....	262
<b>遺物観察表11</b>		<b>遺物観察表12</b>	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類②) .....	263	(土器・陶磁器類③) .....	264
<b>遺物観察表13</b>		<b>遺物観察表14</b>	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類④) .....	265	(土器・陶磁器類⑤) .....	266
<b>遺物観察表15</b>		<b>遺物観察表16</b>	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類⑥) .....	267	(土器・陶磁器類⑦) .....	268
<b>遺物観察表17</b>		<b>遺物観察表18</b>	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類⑧) .....	269	(土器・陶磁器類⑨) .....	270
<b>遺物観察表19</b>		<b>遺物観察表20</b>	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土製品・石製品・木器・金属製品①) .....	271	(金属製品②) .....	272
<b>遺物観察表21</b>		<b>遺物観察表22</b>	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(金属製品③) .....	273	(瓦・ガラス製品・銭貨①) .....	274
<b>遺物観察表23</b>		<b>遺物観察表24</b>	
第18次東調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(銭貨②) .....	275	(土器・陶磁器類①) .....	276
<b>遺物観察表25</b>		<b>遺物観察表26</b>	
第28次調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類②) .....	277	(土器・陶磁器類③) .....	278
<b>遺物観察表27</b>		<b>遺物観察表28</b>	
第28次調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類④) .....	279	(土器・陶磁器類⑤・土製品・その他) .....	280
<b>遺物観察表29</b>		<b>遺物観察表30</b>	
第28次調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(金属製品・ガラス製品・石製品・木製品) .....	281	(瓦・銭貨) .....	282

## 写真図版目次

### 写真図版 1

第18次西調査区全景 .....	285
------------------	-----



## 写真図版 2

第18次西調査区全景（南から）	
第18次西調査区SD003、D-H断面	
第18次西調査区SD007-3ピット列（南から）	
第18次西調査区SD007-3（南から）	
第18次西調査区SD007-3（東から）	
第18次西調査区SD008-2（西から）	
第18次西調査区SD008-2（南から）	
第18次西調査区SD013（西から）	286

## 写真図版 4

第18次西調査区SF019・SD007・SD008（北から）	
第18次西調査区SF019土層	
SD007-3出土遺物	
SF019出土遺物	288

## 写真図版 6

中世大友府内町跡第18次調査区全景（北から）	290
------------------------	-----

## 写真図版 8

SK078・SK085・SK244・SK252	292
-------------------------	-----

## 写真図版10

SK292・SK293・SK300・SX080・SX244	
SX245・SX302・SX303・SX309	294

## 写真図版12

SE079・SE261	296
-------------	-----

## 写真図版14

SX054・SX062・SX066・SX310	
遺物出土状況	
土層剥ぎ取り作業	298

## 写真図版16

漆器椀・三連分銅・分銅・和鏡	300
----------------	-----

## 写真図版18

中世大友府内町跡	
第28次調査区全景（上層遺構群）	302

## 写真図版20

SF012全景（南から）	
道路上の柱穴	
SF012華南三彩出土状況	
SF012瀬戸美濃産天目出土状況	
SF012鉄包丁出土状況	
SF012ガラス玉出土状況	

## 写真図版 3

第18次西調査区SD010（北東から）	
第18次西調査区SD009（東から）	
第18次西調査区SD010・SD009・SB018（北東から）	
第18次西調査区SB018-P2	
第18次西調査区SK015遺物出土状態	
第18次西調査区SK015完掘状態	
第18次西調査区SB017遺物出土状態	
第18次西調査区SB017完掘状態	287

## 写真図版 5

SF019出土遺物	
SP020出土遺物	
15層出土遺物	
第18次西調査区出土遺物	289

## 写真図版 7

SD023・SD306・SK046・SK065	
SK075・SK067・SK068・SK077	291

## 写真図版 9

SK253・SK254・SK255・SK256	
SK262・SK273・SK274	293

## 写真図版11

SE176・SE075	295
-------------	-----

## 写真図版13

SE261	297
-------	-----

## 写真図版15

SE079出土漆器皿・椀	
SE261出土木製品	
備前陶器小壺・金箔土師器	
土人形	299

## 図版17

鉄・銅・ガラス製品・硯	301
-------------	-----

## 写真図版19

中世大友府内町跡	
第28次調査区全景（下層遺構群）	303

## 写真図版21

SD040（南から）	
SD040（北から）	
SD053	
SD049	305

SF012撤去後（南から）			
SF012撤去後（北から）	.....	304	
<b>写真図版22</b>			<b>写真図版23</b>
SK002			SK010検出状況
SK007			SK010完掘状況
SK008検出状況			SK011
SK008a土層			SK015
SK008a完掘状況			SK016
SK008b遺物出土状況			SK017
SK009			SK018
SK010遺物出土状況	.....	306	SK019
<b>写真図版24</b>			.....
SK020			307
SK021			<b>写真図版25</b>
SK022			SK029
SK025			SK030
SK026			SK031検出状況
SK026遺物出土状況			SK031完掘状況
SK028検出			SK031b漆器出土状況①
SK028完掘状況	.....	308	SK031b漆器出土状況②
<b>写真図版26</b>			SK032
SK035			SK033
SK038			.....
SK042			309
SK043			<b>写真図版27</b>
SK044			SK048
SK045			SK050
SK046検出			SK051
SK047	.....	310	SX005
<b>写真図版28</b>			SX006
SX036			SX013
SX037			SX014
SX037完掘			SX024
SX039			.....
SX003検出状況			311
SX003			<b>写真図版29</b>
SX023			SE027
SX023根締め石	.....	312	SE027（井筒部分）
<b>写真図版30</b>			SB060
SF012出土遺物			SX004（焼土層）
SD049出土遺物			SX034
SD040出土遺物	.....	314	SP1209
			L17区漳州窯系青花出土状況
			懸仏出土状況
			.....
			313
			<b>写真図版31</b>
			SK007出土遺物
			SK010出土遺物
			SK008出土遺物

	SK009出土遺物	
	SK020出土遺物	
	SK021出土遺物	315
<b>写真図版32</b>	<b>写真図版33</b>	
SK025出土遺物	SK033出土遺物	
SK026出土遺物	SK044出土遺物	
SK028出土遺物	SK038出土遺物	
SK029出土遺物	SK043出土遺物	
SK031出土遺物	SK050出土遺物	
	SK045出土遺物	317
<b>写真図版34</b>	<b>写真図版35</b>	
SK051出土遺物	SX013出土遺物	
SX005出土遺物	SX037出土遺物	
	SX029出土遺物	319
<b>写真図版36</b>	<b>写真図版37</b>	
ピット出土遺物	包含層・整地層出土遺物	321
SE027出土遺物		320

## 第4章 中世大友府内町跡第18次西調査区

### 第1節 調査の概要

第18次西調査区は大分市錦町3丁目に所在する。現在は宅地として利用されているが、昭和30～40年代まで水田が広がっていたと伝えられるように、地表下1m前後において水田面が広がり、その上には盛土による整地が行われていたことが確認できた。本調査区は、「府内古図」による大友館北西端と第2南北街路、および第2南北街路に面する「桜町」の位置に該当し、これらの遺構群の実態が発掘調査によって明らかとなった。

発掘調査は、450㎡の調査面積を平成13年11月から平成14年3月まで5ヶ月間、実施した。

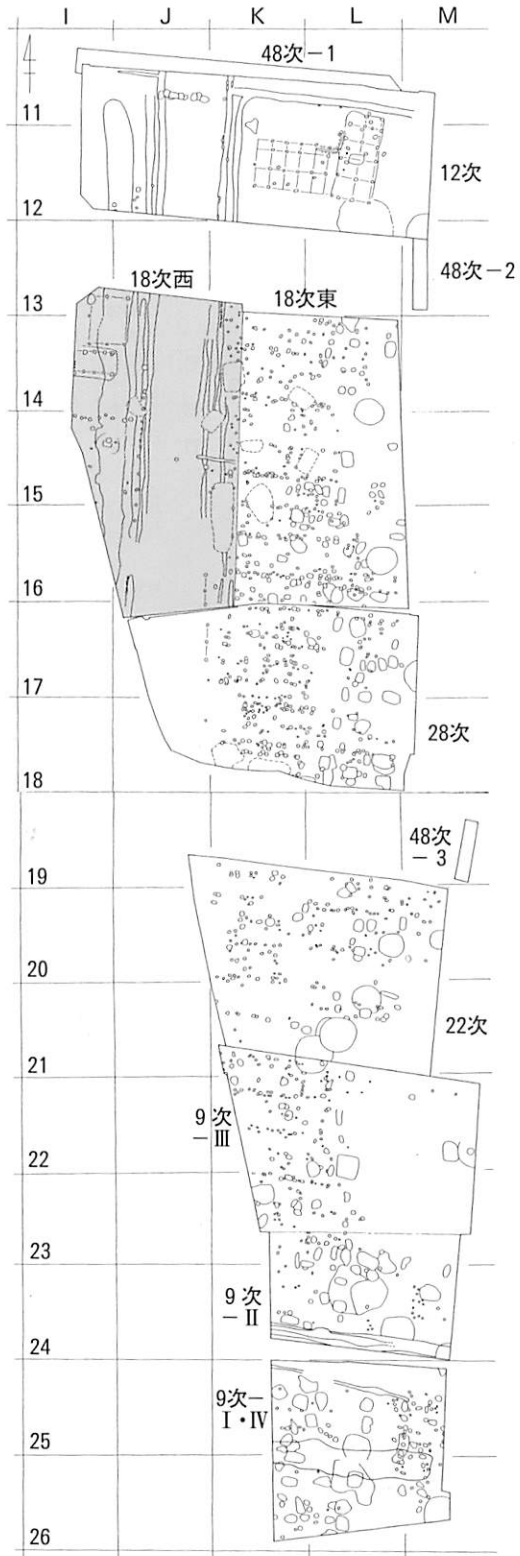
調査期間  
2002年  
11月～  
2003年  
3月

発掘調査  
面積450㎡

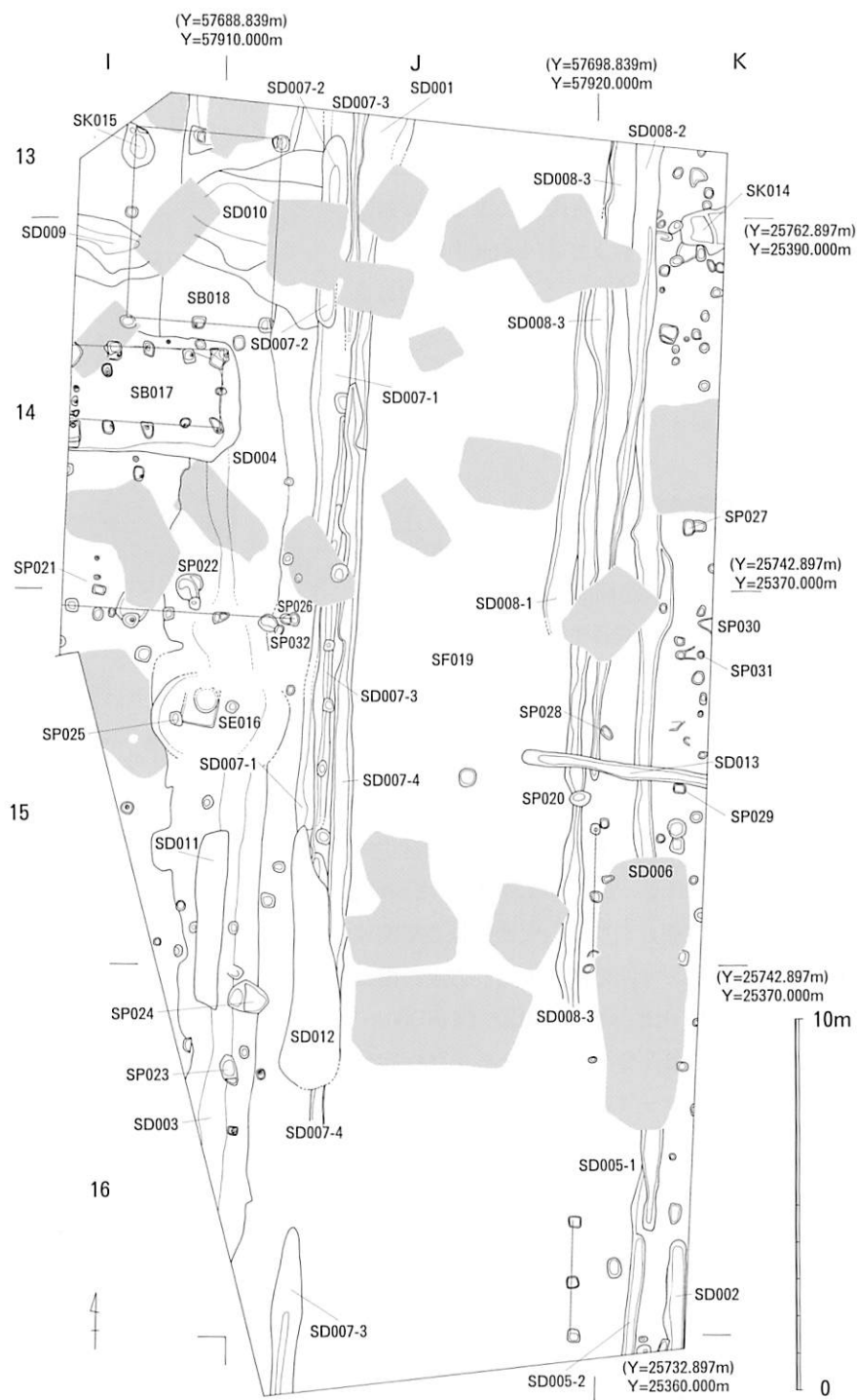
### 第2節 遺構と遺物

本調査区の主要遺構は第2南北街路に相当するSF019、それに伴う道路側溝(SD007・SD008)、およびこれらと重複して先行する溝状遺構(SD001・SD003・SD004)であろう。道路遺構に先行して西側に最も早く営まれる溝状遺構は14世紀に帰属すると考えられるSD001であり、このSD001の西側肩部を切り、SD003・SD004が掘削されるが、この両者は開削された時期が異なり、調査区中央付近で南北に分かれる。この両者が埋没して以降、第2南北街路の整備およびその東西には町屋関連の遺構がひろがる。今回の調査では、大友氏館跡の保存に伴い、第2南北街路(SF019)下のSD001・SD004は断ち割り調査を行い、将来の史跡保存整備に向けての基礎データの取得のみに留めた。また、第2南北街路(SF019)に関しても完掘せず、断ち割り調査による土層堆積状況の把握のみに留めた。

第2南北街路(SF019)整備後には、急速に町屋の整備が進展する状況が確認できる。第2南北街路(SF019)の西側には2棟の掘立柱建物跡(SB017・SB018)が建てられ、このほかにもピット群が多く検出されている。第2南北街路(SF019)東側にもピット群が多く確認でき、これは18次東調査区にも続く傾向である。これらの中世遺構を覆う形で、調査区北西隅一帯に火災処理土が大量に堆積していた。



第1図 第18次西調査区の位置 (1/800)



第2図 第18次西調査区遺構配置図 (1/80)

第1表 遺構一覧表

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SD001	S018	溝	J13区・J14区・J15・J16区	14世紀		9
SD002	S019	溝	K16区・K17区	14～15世紀		9
SD003	S017-2	溝	I15区・I16区・J15区・J16区	14世紀後半～15世紀前半		11
SD004	S017-1	溝	I・J-13・14・15区	16世紀前葉～中葉		11
SD005-1	S004-1	溝	K16区	16世紀中葉～後葉		21
SD005-2	S004-2	溝	K16・K17区	16世紀中葉～後葉	SD006と同一遺構か	21
SD006	S016	溝	K14・K15区	16世紀中葉～後葉	SD006と同一遺構か	21
SD007-1	S005-4	溝	J13区・J14区・J15区	16世紀後葉～末葉	SD005-1・2と同一遺構か	21
SD007-2	S005-3	溝	J13区・J14区・J15区	16世紀後葉～末葉		21
SD007-3	S005-2	溝	J14区・J15区・J16区・J17区	16世紀後葉～末葉		21
SD007-4	S005-1	溝	J14区・J15区・J16区	近世		21
SD008-1	S006-3	溝	J・K-13・14・16区	16世紀後葉～末葉		23
SD008-2	S006-2	溝	K13区・K14区・K15区	16世紀後葉～末葉		23
SD008-3	S006-1	溝	J・K-13・14・15・16区	近世		23
SD009	S009-3	溝	I14区	16世紀後葉～末葉		24
SD010	S015	溝	I13区・I14区・J13区・J14区	16世紀後葉～末葉	SD010と同一遺構か	24
SD011	S001	溝	I15区・I16区	近世	SD009と同一遺構か	29
SD012	S002	溝	J15区・J16区	近世		29
SD013	S003	溝	J15区・K15区	近世		29
SK014	S020	土坑	K13区・K14区	～14世紀		32
SK015	S009-1	土坑	I13区	16世紀後葉～末葉		32
SE016	S021	井戸	I15区	15世紀～16世紀中葉		33
SB017	S008	掘立柱建物跡	I14区・J14区	16世紀中葉～後葉		33
SB017-P1	S008-P1	柱穴	J14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P2	S008-P2	柱穴	J14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P3	S008-P3	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P4	S008-P4	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P5	S008-P5	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P6	S008-P6	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P7	S008-P7	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P8	S008-P8	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P9	S008-P9	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P10	S008-P10	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P11	S008-P11	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P12	S008-P12	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P13	S008-P13	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P14	S008-P14	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P15	S008-P15	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB018	-	掘立柱建物跡	I13区・I14区	16世紀中葉～後葉		41
SB018-P1	P32	柱穴	J13区	16世紀中葉～後葉		41
SB018-P2	S014	柱穴	I13区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P3	-	柱穴	I13区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P4	P18	柱穴	J14区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P5	P19	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P6	-	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SF019	-	道路	J・K-13・14・15・16・17区	16世紀中葉～近世	SB018の柱穴	42
SP020	P1	ピット	J15区	近世	近世まで営まれている	47
SP021	P2	ピット	I14区	16世紀後葉～末葉		47
SP022	P3	ピット	I14区	16世紀後葉～末葉		47
SP023	P10	ピット	J16区	16世紀後葉～末葉		47
SP024	P11	ピット	J16区	16世紀後葉～末葉		47
SP025	P15	ピット	I15区	16世紀後葉～末葉		47
SP026	P16	ピット	J15区	16世紀後葉～末葉		47
SP027	P26	ピット	K14区	16世紀後葉～末葉		47
SP028	P27	ピット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP029	P28	ピット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP030	SP34	ピット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP031	SP35	ピット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP032	SP36	ピット	J15区	16世紀後葉～末葉		47

## 第2節 遺構と遺物

### 18次調査区西区トレンチ土層断面観察表

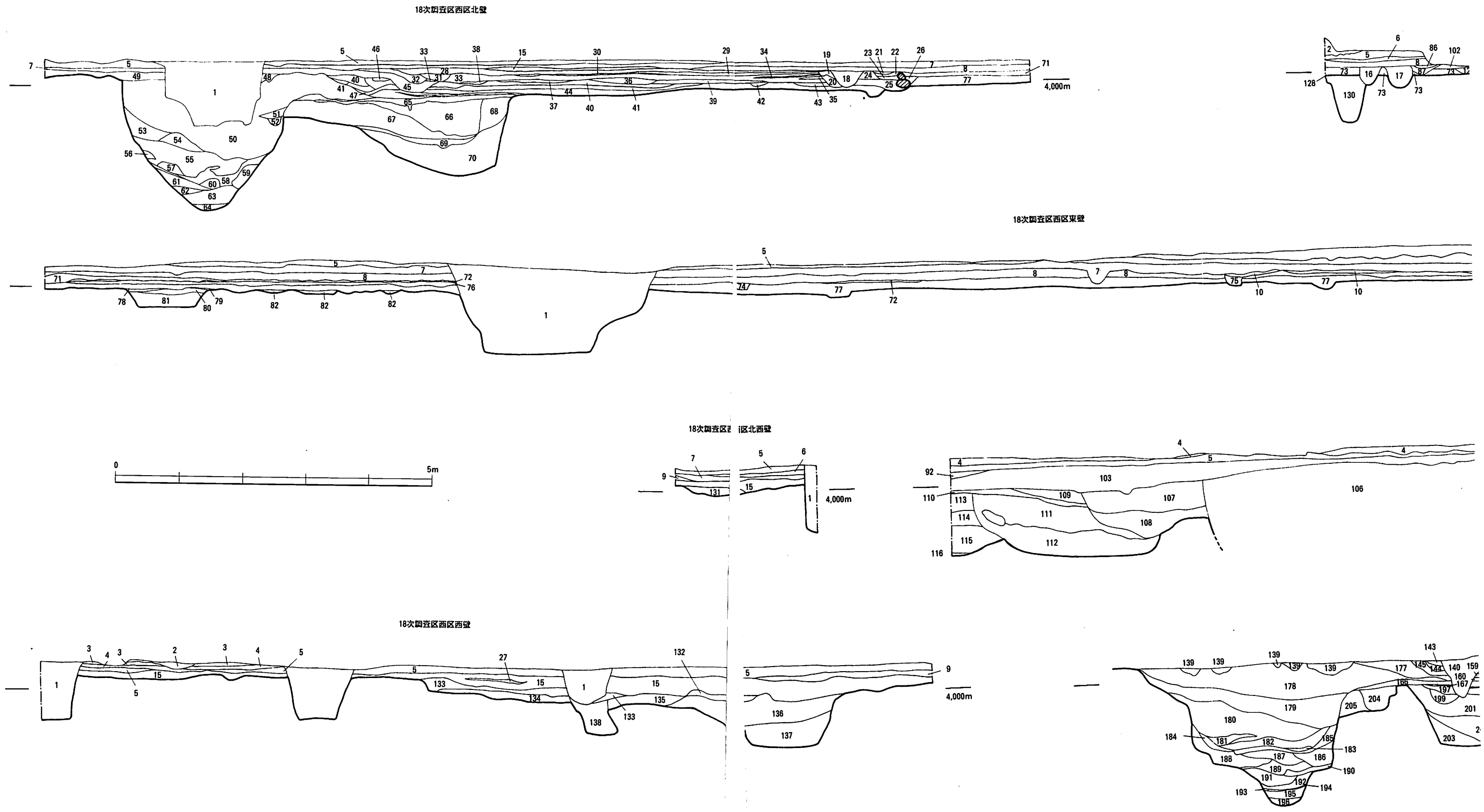
- |  |  |
|--|--|
| 1 攪乱土  | 41 にぶい黄褐色シルト質粘土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 42・43層と同一層かもしれない)          |
| 2 青灰色粘質土 (昭和期水田耕作土)                              | 42 灰黄褐色土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 41・43層と同一層かもしれない)                 |
| 3 褐灰色土 (昭和期水田床土 5層に近似するが、酸化鉄の沈着が認められない)          | 43 灰黄褐色土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 41・42層と同一層かもしれない)                 |
| 4 褐灰色土 (昭和期水田床土 酸化鉄の沈着が著しい)                      | 44 褐灰色シルト (SF019 41層よりはシルト質が強い)                                    |
| 5 褐灰色土 (昭和期水田床土 遺物包含層 酸化鉄の沈着が認められる 炭・焼土を多く含む)    | 45 灰黄褐色土 (SD007 粗砂・シルトを含む)   |
| 6 褐灰色土 (遺物包含層)                                   | 46 褐灰色土 (砂質がかっており、バサバサしている)  |
| 7 褐灰色土 (遺物包含層 基本的に6層と同じであるが、マンガング粒の沈着が認められる)     | 47 褐灰色シルト (SF019 44層に近似する)   |
| 8 褐灰色土 (遺物包含層 基本的に6層と同じであるが、マンガング粒の沈着が認められる)     | 48 灰黄褐色土 (45層とほぼ同じだが、粒子が粗い)  |
| 9 褐灰色土 (遺物包含層 基本的に6層と同じであるが、マンガング粒の沈着が乏しい)       | 49 にぶい黄褐色土 (遺物包含層 焼土粒・土器粒・炭粒を含む)                                   |
| 10 灰黄褐色土   | 50 灰黄褐色土 (SD004 地山土をはじめとして小さいブロックを含んでおり、一気に埋め戻された様相をもつ)            |
| 11 暗褐色土 (マンガングが著しく沈着する 焼土粒を含む)                   | 51 灰黄褐色土 (SD004 50層より暗く、わずかに炭・焼土が混入)                               |
| 12 灰褐色土 (基本的に5層と同じであるが、マンガング粒の沈着が認められない)         | 52 灰黄褐色細砂 (SD004 ブロック状態で入っている)                                     |
| 13 褐灰色砂質土 (基本的に14層と同じ)                           | 53 褐灰色粘質土 (SD004 50層に近似するが、やや粘質が強い)                                |
| 14 灰黄褐色砂質土 (基本的に13層と同じ)                          | 54 褐灰色粘質土 (SD004 50層に近似するが、やや暗い)                                   |
| 15 灰黄褐色土   | 55 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 地山のブロックからなる層であり、部分的に褐灰色シルトのブロックが混入する59層と同一層か)  |
| 16 ビット (焼土・炭をひじょうに多く含む)                          | 56 灰黄褐色砂 (SD004 小さな小石を含む粗砂層 ブロック状態で入っている 57層と同一層か)                 |
| 17 ビット   | 57 灰黄褐色砂 (SD004 小さな小石を含む粗砂層 ブロック状態で入っている 56層と同一層か)                 |
| 18 褐灰色土 (SD008-3 焼土粒・土器粒をわずかに含む)                 | 58 にぶい黄褐色砂 (SD004 小石・粗砂を含み、56・57層と近似する)                            |
| 19 にぶい橙色土 (SD008)                                | 59 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 地山のブロックからなる層であり、部分的に褐灰色シルトのブロックが混入する 55層と同一層か) |
| 20 灰黄褐色土 (SD008 砂粒を含む)                           | 60 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロック 55層に近似する)                                 |
| 21 褐灰色土 (SD008 土器粒・焼土粒をわずかに含む)                   | 61 にぶい黄褐色砂 (SD004 砂層中に60層と同じ土の小さいブロックが含まれる)                        |
| 22 褐灰色土 (SD008)                                  | 62 にぶい黄褐色砂 (SD004 砂層中に60層と同じ土の小さいブロックが含まれる61層に近似するが、小さいブロックが少ない)   |
| 23 にぶい黄褐色砂 (SD008)                               | 63 にぶい黄褐色砂 (SD004 粗砂・小石が混じる)                                       |
| 24 褐灰色土 (SD008 土器粒・焼土粒・炭をきわめて大量に含む)              | 64 灰黄褐色粘土 (SD004 粗砂が混じる 水性堆積層)                                     |
| 25 褐灰色砂シルト (SD008 シルト・細砂を含む)                     | 65 にぶい黄褐色砂 (部分的に小さな小石を含む粗砂が混じる)                                    |
| 26 灰黄褐色砂質土 (SD008 石積みの裏込め土)                      | 66 灰黄褐色土 (SD001 わずかに焼土粒を含む 地山の小さいブロックが含まれており、一気に埋められたものであろう)       |
| 27 灰   | 67 にぶい黄褐色土 (SD001 地山や褐灰色土の小さいブロックが大量に含まれており、一気に埋められたものであろう)        |
| 28 褐灰色砂質土 (SF019 道路整地最上層 小さな焼土粒・炭を含む)            | 68 灰黄褐色土 (SD001 微細な炭・焼土粒を含む 2~20mmの小石を多量に含む)                       |
| 29 褐灰色砂 (SF019 砂・粗砂からなり、上面はひじょうに固く締まる)           | 69 にぶい褐色粘質土 (SD001 粘性が強い)  |
| 30 褐灰色粘質土 (SF019 ひじょうに固く粘性が強い 34層とほとんど同じ)        | 70 にぶい褐色粘質土 (SD001 砂粒が大きい)   |
| 31 褐灰色砂質土 (SD007-4)                              | 71 褐灰色砂質土  |
| 32 褐黄褐色土 (SD007-3 土器粒・焼土粒・炭をきわめて大量に含む)           | 72 灰白色砂質土  |
| 33 褐黄褐色砂 (SF019 比較的柔らかく、砂・粗砂がまんべんなく含まれる)         | 73 灰黄褐色砂質土 (炭・焼土粒を多く含む)  |
| 34 褐灰色粘質土 (SF019 ひじょうに固く粘性が強い 30層とほとんど同じ)        | 74 ビット   |
| 35 褐灰色砂 (SF019 33層より細かく均質な砂)                     | 75 灰黄褐色土 (ビット内埋土?)   |
| 36 褐灰色砂 (SF019 比較的きれいな砂が互層に堆積している)               | 76 にぶい黄褐色粘質土 (マンガングの沈着が著しい)  |
| 37 にぶい黄褐色シルト質粘土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 38層と同じか) | 77 灰黄褐色土   |
| 38 にぶい黄褐色シルト質粘土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 38層と同じか) | 78 灰黄褐色砂粘質土 (SK014)  |
| 39 褐灰色砂 (SF019 比較的均質な砂)                          | 79 灰黄褐色砂粘質土 (SK014 砂質が強い)  |
| 40 にぶい黄褐色土 (SF019 44層に近似する)                      |  |

- 80 灰黄褐色粘質土 (SK014 焼土粒・炭粒がわずかに含まれる)
- 81 褐灰色砂粘質土 (SK014 土器粒がわずかに含まれる)
- 82 褐灰色砂質土 (均質な土)
- 83 にぶい黄橙色土
- 84 褐灰色砂
- 85 ビット
- 86 灰黄褐色砂質土 (SD005 焼土粒をわずかに含む)
- 87 灰黄褐色砂層 (SD005 細砂部分と粗砂部分が見られる マンガンの沈着が見られる)
- 88 褐灰色土 (マンガンの沈着が見られる)
- 89 灰黄褐色土 (SD007 炭・焼土をきわめて大量に含む)
- 90 褐灰色砂 (SD007)
- 91 にぶい黄橙色砂と灰黄褐色粘質土ブロックの混在層 (SD007)
- 92 灰黄褐色粘質土 (SD007 焼土粒をわずかに含む)
- 93 褐灰色砂質土 (SD007 焼土粒をわずかに含む)
- 94 灰黄褐色粘質土 (SF019 マンガンの沈着が認められかなり硬い)
- 95 にぶい黄橙色砂 (SF019)
- 96 灰黄褐色粘質土 (SF019 炭・焼土粒を含む かなり硬い)
- 97 褐灰色砂 (SF019)
- 98 灰黄褐色粘質土 (SF019 部分的に砂が見られ、焼土粒をわずかに含む マンガンの沈着が認められる)
- 99 灰黄褐色粘質土 (SF019 98層と類似するが、マンガンの沈着が認められない)
- 100 褐灰色土 (SF019)
- 101 灰 (SF019)
- 102 灰黄褐色土 (SF019 焼土粒が含まれる)
- 103 灰黄褐色土 (SF019 焼土粒・炭粒・土器粒が大量に含まれる)
- 104 103層と105層の混在層 (SF019)
- 105 灰黄褐色細砂シルト (SF019 灰が多く含まれる)
- 106 SD004埋土 (台風時の壁面崩落のため土層観察不能)
- 107 SD001埋土
- 108 SD001埋土
- 109 SD001埋土
- 110 灰黄褐色土 (SF019 小さい焼土粒・炭粒が含まれる)
- 111 SD001埋土
- 112 SD001埋土
- 113 灰黄褐色土 (SD001 110層と近似するが、より茶色味が強い 小さい焼土粒・炭粒が含まれる)
- 114 灰黄褐色粘質土 (SD001 焼土・炭を含む 一部に地山上の小ブロックを多く含む)
- 115 灰黄褐色粘質土 (SD001 焼土・炭をわずかに含む)
- 116 SD001埋土
- 117 にぶい黄橙色粘質土と灰黄褐色粘質土の混在層 (SF019 硬質)
- 118 灰黄褐色土とにぶい黄橙色土の混在層 (SF019 人工的整地層)
- 119 にぶい黄橙色砂質土 (SF019 1cm内外の地山ブロックを大量に含む)
- 120 褐灰色砂 (SF019 粗砂と砂が混在)
- 121 にぶい黄褐色粘質土 (SF019 炭・灰が含まれる)
- 122 褐色粘質土 (SF019 地山最上面で酸化し、ひじょうに硬化している 道路面最古段階か)
- 123 灰黄褐色砂
- 124 灰褐色砂 (SF019 127層と同一層か)
- 125 にぶい黄褐色粗砂 (SF019)
- 126 にぶい黄橙色砂 (SF019 均質な砂)
- 127 灰黄褐色砂 (SF019 124層と同一層か)
- 128 灰黄褐色砂 (きめの細かい砂)
- 129 黒褐色土
- 130 灰黄褐色粘質土 (SD002 均質な土)
- 131 にぶい黄橙色シルト (焼土・炭をわずかに含む)
- 132 灰黄褐色土 (136層に似ているが、灰が薄く層状にはいる)
- 133 灰黄褐色土 (炭・焼土が含まれるが、15層に比較すればはるかに少ない)
- 134 灰黄褐色土 (基本的に133層と同じであるが、炭・焼土はほとんど含まない)
- 135 灰黄褐色土 (炭・焼土・礫が含まれる)
- 136 灰黄褐色土 (炭・焼土・礫を含むが、15層より少ない)
- 137 灰黄褐色土 (136層に近いが、炭・焼土がより少なく、粘性をもつ)
- 138 灰黄褐色土 (ビット 炭・焼土を含む)
- 139 灰黄褐色土 (焼土粒を大量に含む 遺物を含む)
- 140 灰黄褐色土 (土坑内埋土 焼土・炭・小石をはじめ、硬質の土粒がブロック状態で大小混じる)
- 141 褐灰色砂質土 (SD008-3 焼土粒をわずかに含む)
- 142 褐灰色砂質土 (SD008-2 焼土粒をわずかに含む)
- 143 灰黄褐色土 (SD007 ほとんど焼土粒からなる)
- 144 灰黄褐色土 (SD007 ほぼ143層と同じであるが、焼土粒がやや少ない)
- 145 にぶい黄褐色土 (SD007 少量の焼土粒を含む)
- 146 灰黄褐色砂 (SF019 粗砂と細砂が層状に堆積する)
- 147 にぶい黄橙色砂質土 (SF019 砂質が強く、小石も混じる)
- 148 褐灰色砂質土 (149層とほぼ同じだが、焼土粒を含む)
- 149 褐灰色砂質土 (148層とほぼ同じだが、砂質が強く、酸化鉄を含む)
- 150 灰黄褐色砂 (SF019)
- 151 灰黄褐色砂 (SF019 147層に比較すれば粒子の粗い砂も含む)
- 152 にぶい黄褐色土 (SF019 少し砂質がかり、土器粒・焼土粒を含む)
- 153 にぶい黄褐色粘質土 (SF019 かなり硬くしまり、土器粒・焼土粒をわずかに含む)
- 154 にぶい黄橙色シルト
- 155 褐灰色土
- 156 にぶい黄褐色土 (SF019 土器粒・小石を含む)
- 157 褐灰色砂質土 (SF019)
- 158 にぶい黄褐色土 (SF019 153層と似ており、土器粒・焼土粒を含むが、やや粘性が強い)
- 159 にぶい黄褐色粘質土 (SF019)
- 160 にぶい黄褐色粘質土 (SF019 土器粒・焼土粒をわずかに含む)
- 161 灰黄褐色砂質土 (SF019 細砂でシルト質に近い)
- 162 褐灰色砂 (SF019)
- 163 明黄褐色シルト (SF019 162層と砂が互層に堆積したもの)
- 164 明黄褐色シルト (SF019 163層と同一層か)
- 165 褐灰色砂粘質土 (SF019 土器粒をわずかに含む)
- 166 にぶい黄褐色土 (SF019 互層に粘質土が堆積する)
- 167 灰黄褐色砂 (SF019 部分的に小石を含む)
- 168 褐灰色砂 (SF019)
- 169 にぶい黄褐色シルト (SF019)
- 170 褐灰色砂 (SF019 168層と同一層か)
- 171 にぶい黄褐色シルト (SF019 部分的に砂が混じる)
- 172 褐色砂 (SF019 173・176層と同一層か)



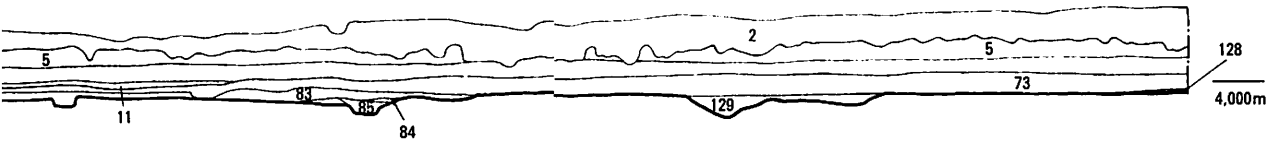
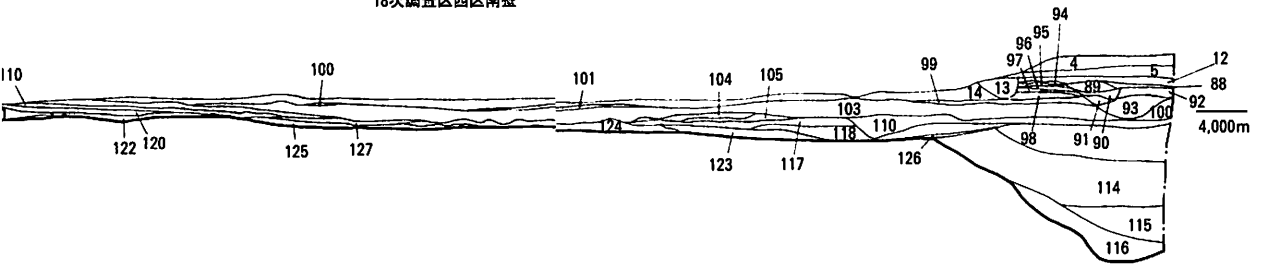
## 第2節 遺構と遺物

- 173 にぶい黄橙色砂 (SF019 172・176層と同一か)
- 174 褐灰色シルト (SF019 171層と同一層に思えるが、わずかに炭・焼土が混じる)
- 175 にぶい黄褐色土 (SF019)
- 176 にぶい黄橙色砂 (SF019)
- 177 にぶい黄褐色土 (少量だが焼土粒・土器片を含む)
- 178 にぶい黄褐色土 (焼土粒を含む 小さな焼土ブロックが入っており、一気に埋められたものであろう)
- 179 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 焼土粒・炭粒を含む 小さな焼土ブロックが入っており、一気に埋められたものであろう 178層との境目は漸移的である)
- 180 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 様相は179層と同じだが、地山ブロックが多い)
- 181 灰黄褐色粘質土 (SD004 様相は180層と同じだが、地山ブロックがほとんど含まれていない)
- 182 灰黄褐色粘質土 (SD004 181層と近似する)
- 183 灰黄褐色粘質土 (SD004 185層と近似する)
- 184 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積状の粘土であり、溝開溝時最終段階の滞水状態を示す層であらう 185層と同一)
- 185 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積状の粘土であり、溝開溝時最終段階の滞水状態を示す層であらう 184層と同一)
- 186 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 焼土粒・炭をきわめて少量含む)
- 187 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 186層と近似する)
- 188 灰黄褐色土 (SD004 焼土粒・炭をきわめて少量含む わずかに砂質化する 186・187層と同一層か)
- 189 褐灰色粘質土 (SD004)
- 190 灰黄褐色砂粘質土 (SD004 均質な土)
- 191 灰黄褐色砂粘質土 (SD004 190層と似ているが、砂の小さいブロックを含む)
- 192 にぶい黄褐色砂 (SD003 小石が上層に多く混じる)
- 193 灰黄褐色粘土 (SD003)
- 194 にぶい黄褐色粗砂 (SD003 小石が混じる)
- 195 褐灰色砂 (SD003 小石がわずかに混じる)
- 196 灰黄褐色粘土 (SD003 粘土と砂・粗砂が混在する)
- 197 にぶい黄褐色細砂土 (SD001 うすい層が互層に入っている部分もみられる)
- 198 にぶい黄褐色粘質土 (SD001)
- 199 褐色粘質土 (SD001 焼土粒・炭粒が含まれる 径3 cm前後の川原石を多く含む)
- 200 褐色粘質土 (SD001 きわめて均質な土)
- 201 にぶい褐色粘質土 (SD001 きわめて均質な土)
- 202 にぶい褐色粘質土 (SD001 201層よりは粘性が強い)
- 203 褐色粘砂質土 (SD001 砂質の粒子が大きい)
- 204 灰黄褐色粘質土 (焼土粒や大小の地山ブロックがみられ、一気に埋められたものであろう)
- 205 にぶい黄褐色土 (焼土粒・炭粒を若干含む)

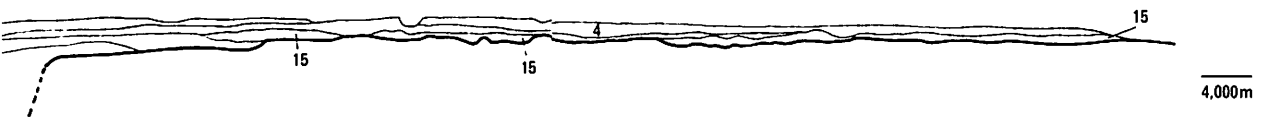


第3図 第18次西調査区トレンチ土層断面図 (1/60)

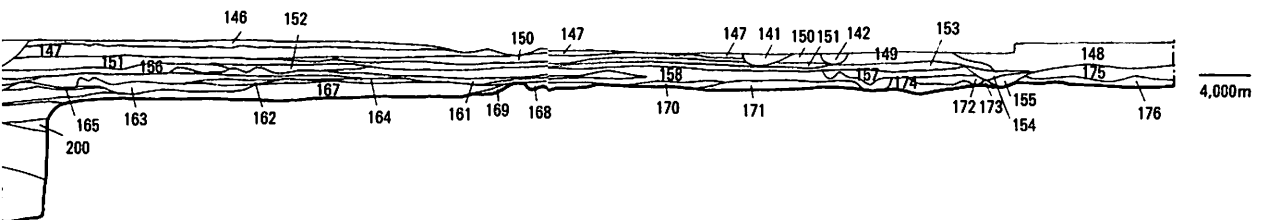
18次調査区西区南壁



18次調査区西区西南壁



18次調査区西区中央トレンチ



近世に至ると、急速に遺構が少なくなり、第2南北街路（SF019）とその周辺に少数のピット・溝が確認できているのみである。

### 1. 溝

#### SD001（第4図）

調査区中央東側のJ13区・J14区・J15区・J16区に南北方向に走る第2南北街路（SF019）下に確認された溝状遺構である。当遺構は保存目的のため、完全な発掘調査を行わず、調査区南北端のトレンチおよび中央に東西方向に設定したトレンチやJ14区・J15区の計5カ所のトレンチにおいて、遺構の存在が確認できたため、南北に連なる溝状遺構と認識した。その断面図は第3・5・6図に示したが、SF019堆積土下において確認でき、また、いずれもSD003・004に切られているため、SF019およびSD003・004に先行する遺構であることがわかる。確認できた幅は1.6～2.7m以上であり、深さ1～1.2mを測る。溝の断面形態も様々で、逆台形からU字形まで様々である。下層には礫や瓦片が比較的多く確認できている。

#### SD001出土遺物（第7～10図）

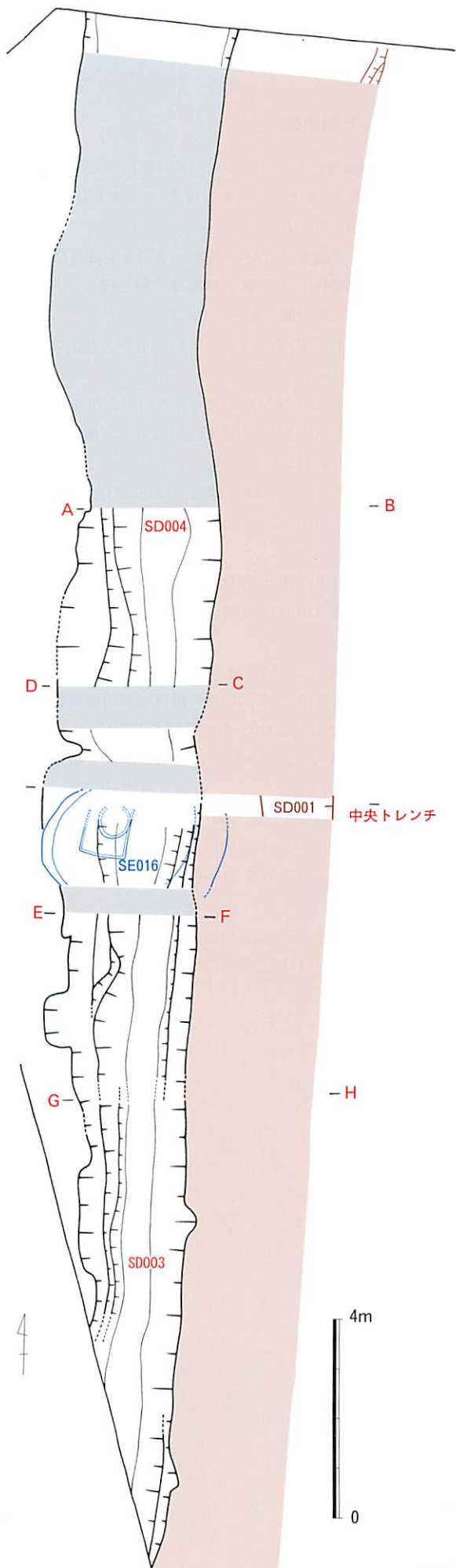
第7図1・3は軒平瓦である。1は瓦頭に唐草文がみえ、内区と外区の間に界線をめぐらす。3は変形花菱文の中心飾りをもつ均整唐草文であり、内区と外区の間に界線をめぐらす。2は軒丸瓦であり、瓦頭には左巻き三つ巴文とその周縁に珠文を配している。

第8図はいずれも丸瓦の玉縁部である。1には凹面に布目痕が、2・3には布目痕をはじめ吊り紐痕、コビキ痕が残る。凸面はいずれも縄目叩きの上からナデ消しを行っている。

第9図はいずれも丸瓦である。凹面には布目痕をはじめ吊り紐痕、コビキ痕が残り、凸面にはナデ消しがみられる。

#### SD002（第11図）

調査区南東端のK16区・K17区に南北方向に走る第2南北街路（SF019）下に確認



第4図 第18次西調査区SD001・SD003・SD004・SE016実測図（1/120）

## 第2節 遺構と遺物

### SD003、E-F断面図

- 1 にぶい黄褐色土 (SF019 SD004埋没後に堆積したものであろう 焼土・土器を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 2 にぶい黄橙色土 (SD003 焼土・土器を少量含む)
- 3 にぶい黄橙色土 (SD003 様相は2層と同じであるが、地山ブロックの混入がみられる)
- 4 浅黄橙色土 (SD003 5層に近似するが、地山ブロックの混入がみられる)
- 5 灰黄褐色土 (SD003 地山ブロックの混入がみられる)
- 6 灰黄褐色土 (SD003 5層に近似するが、地山ブロックの混入がみられない)
- 7 明褐灰色粘質土 (SD003 軟質 ブロック状)
- 8 灰黄褐色土 (SD003 5層に近似し、地山ブロックの混入がみられる)
- 9 にぶい黄橙色砂質土 (SD003 地山の崩落土)
- 10 灰黄褐色土 (SD003 8層に近似するが、9層の混入がみられる)
- 11 灰黄褐色粘質土 (SD003 地山ブロックがほとんどみられない水性堆積土 溝掘削時の最終段階の堆積層か)
- 12 にぶい褐色土 (SD003 やや粘性を帯びる 地山ブロックが多く混入し、13~15層とともに堆積したものであろう)
- 13 にぶい褐色砂質土 (SD003 小石が多く混入し、砂粒が粗い 12~15層とともに堆積したものであろう)
- 14 褐灰色砂質土 (SD003 11~15層とともに堆積したものであろう)
- 15 褐灰色砂質土 (SD003 14層と同じであるが、シルト質を帯びる 11~15層とともに堆積したものであろう)

### SD003、SD001、G-H断面図

- 1 にぶい褐色土 (SF019)
- 2 にぶい橙色土 (SF019 土器粒を含む)
- 3 にぶい橙色土 (SF019)
- 4 褐灰色砂質土 (SF019 硬質 砂粒がやや粗い 中央トレンチ土層168層(第3図)に対応する)
- 5 にぶい黄橙色土 (埋没後に堆積したものであろう 炭・焼土・土器を含む 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 6 にぶい黄橙色土 (炭・焼土・土器を含む)
- 7 にぶい黄橙色土 (8層とほとんど同じだが、地山ブロックが大きい)
- 8 にぶい黄橙色土 (炭・焼土・土器を含む 地山の非常に小さいブロックを含む)
- 9 にぶい黄橙色土 (地山ブロック 8層の埋め戻しに伴う地山ブロックと思える)
- 10 にぶい黄橙色土 (8層と同一層か)
- 11 褐灰色土 (シルト質の均質な土で部分的に酸化鉄が混じる 水性堆積土)
- 12 褐灰色粘土 (ひじょうに均質な粘土 水性堆積土)
- 13 褐灰色粘質土 (12・14層より粘性が弱い水性堆積土であらう 部分的に酸化鉄が混じる)
- 14 褐灰色粘土 (12層とほぼ同じ)
- 15 褐灰色粘質土 (10層より粘性が弱く、9層より粘性が強い水性堆積土)
- 16 にぶい黄橙色粘質土 (均質な土で溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 17 褐灰色砂 (SD003 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 18 褐灰色砂 (SD003 17層より粒子が粗い 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 19 褐灰色砂 (SD003 18層に似ているが、砂質が均質 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 20 褐灰色砂 (SD003 18層に似ているが、16層と同じ土のブロックが混じる 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 21 黄橙色粘質土 (SD003 16層の土に砂が多く混じる 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 22 浅黄橙色土
- 23 明褐灰色砂質土 (SD001 砂粒は細かい)
- 24 浅黄橙色土 (SD001 ブロックの混入土であらう)
- 25 にぶい黄橙色土 (SD001 黄色土ブロックが少量混入)
- 26 にぶい黄橙色土 (SD001 灰土ブロックが多く混入し、やや粘性を帯びる)
- 27 明褐灰色粘質土 (SD001 ひじょうにしまりがよい土である)

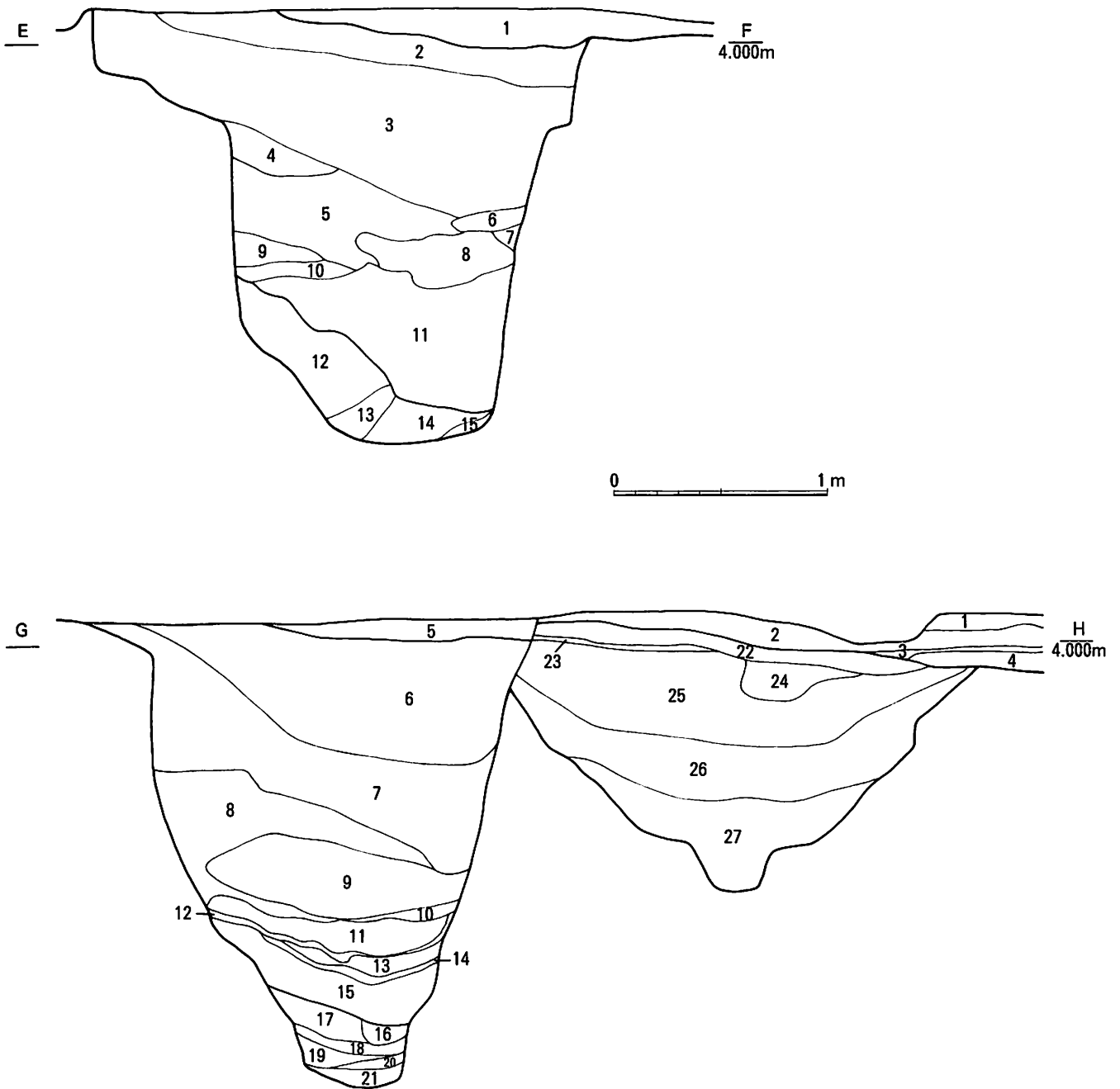
された断面台形状の溝状遺構である。確認できた長さ3mであり、幅0.5m、深さ0.75mを測る。埋土は均質な灰黄褐色粘質土であり、出土遺物も乏しいが、28次調査区に連続する遺構から出土した遺物を見ると、14～15世紀に位置づけられる遺構であろう。

**SD002出土遺物 (第12図)**

第12図は土師質土器甕である。口縁部は厚く、外反する。

**SD003・004 (第4・5・6図)**

調査区中央東側のI・J-13・14・15・16・17区に南北方向に走る溝状遺構である。当遺構SD004の一部は保存目的のため、完全な発掘調査を行っていないが、遺構上面プランは確認できた。SD



第5図 第18次西調査区SD001・SD003土層断面図 (1/30)

## 第2節 遺構と遺物

### SD004、A-B断面図

- 1 明褐色土 (SF019 硬質 砂粒をあまり含まない)
- 2 明褐色土 (SF019 硬質 砂粒をあまり含まない)
- 3 にぶい黄褐色土 (SF019 土器・焼土粒を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 4 にぶい黄褐色土 (SF019 やや粘性を帯びる 3層に近似 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 5 にぶい黄褐色土 (SF019 土器・焼土粒を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 6 灰黄褐色砂 (ピット)
- 7 灰黄褐色砂 (SF019 細かくしまりがよい 小石をあまり含まない 中央トレンチ土層167層(第3図)に対応する)
- 8 にぶい黄褐色土 (SF019 4層に近似するが、砂粒が粗い)
- 9 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロックを多く含む 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 10 にぶい橙色土 (SD004 均質な土で9層に近似するが、地山ブロックは含まない 中央トレンチ土層180層(第3図)に対応する)
- 11 にぶい橙色土 (SD004 10層と近似するが、地山ブロックを含む)
- 12 灰白色粘質土 (SD004 しまりがひじょうに強い)
- 13 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 10層に比較すると、地山ブロックを含まない 中央トレンチ土層182層(第3図)に対応する)
- 14 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロック)
- 15 にぶい黄褐色土 (SD004 やや粘性を帯びる)
- 16 にぶい黄褐色土 (SD004 灰色ブロックを少量含む)
- 17 浅黄褐色土 (SD004 灰色ブロックを少量含む)
- 18 浅黄褐色砂質土 (SD004 ブロック)
- 19 灰白色砂質土 (SD004 ブロック)
- 20 灰白色粘質土 (SD004 帯状に堆積し、粘性が弱い)
- 21 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 砂質ブロックが多く混入)
- 22 浅黄褐色砂質土 (SD004 粗砂 小石が混入する)
- 23 灰白色砂質土 (SD004)
- 24 にぶい黄褐色粘質土 (SD004 粘性が弱く、小石が混入する)
- 25 浅黄褐色土 (SD004 18層と近似する)
- 26 褐色粘質土 (SD004 粘性は弱く、ブロック状を呈す)
- 27 にぶい黄褐色砂質土 (SD004)
- 28 にぶい黄褐色土 (SD001 やや粘性を帯び、砂粒をあまり含まない)
- 29 にぶい黄褐色土 (SD001 地山ブロック)
- 30 にぶい黄褐色土 (SD001 地山ブロックが混入する)
- 31 褐色粘質土 (SD001 粘質で、瓦片・礫が多く出土する)
- 32 にぶい黄褐色粘質土 (SD001)

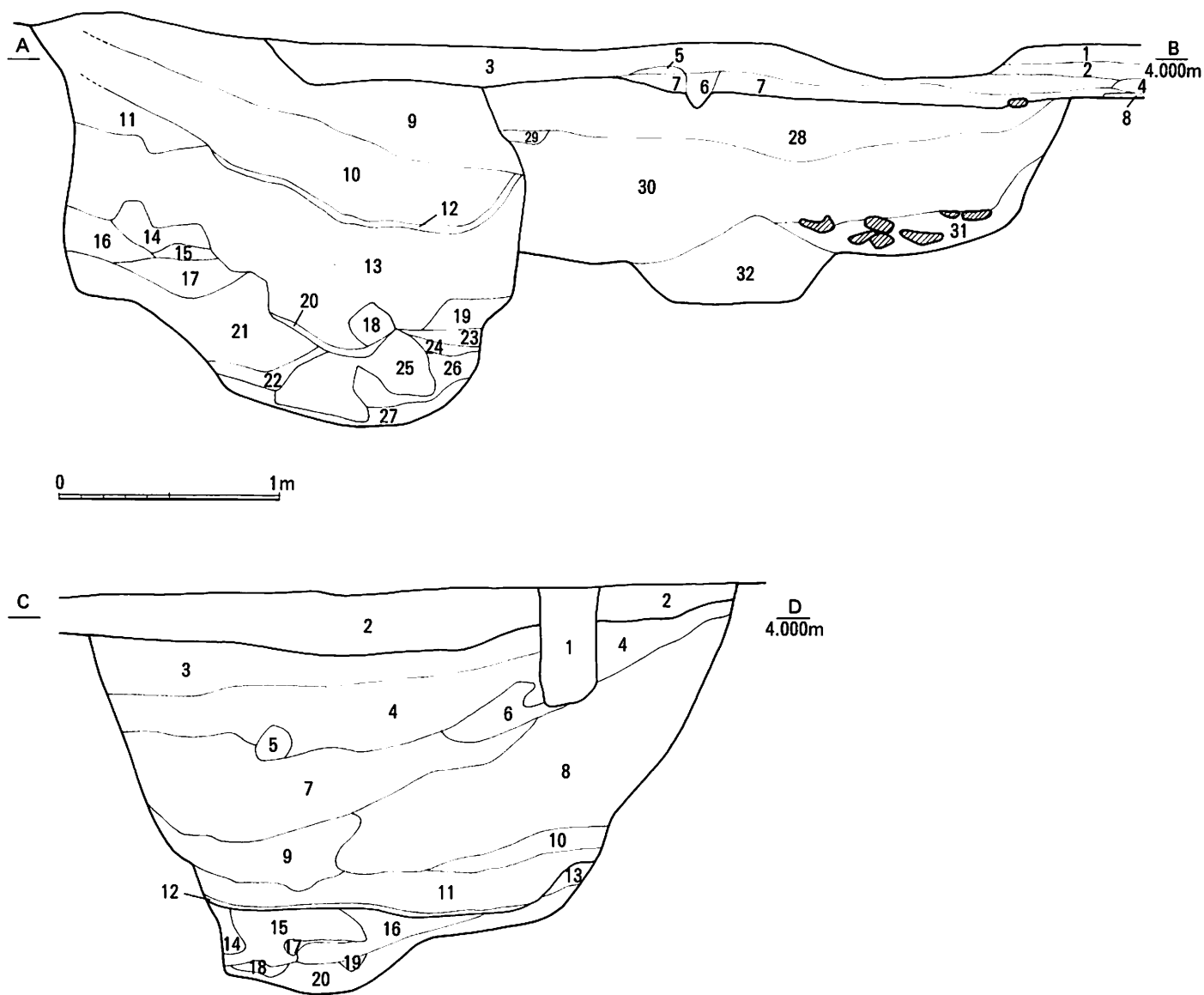
### SD004、C-D断面図

- 1 ピット
- 2 にぶい黄褐色土 (SF019 SD003埋没後に堆積したものであろう 焼土・土器を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 3 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロックを多く含む 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 4 にぶい黄褐色土 (SD004 3層に近似するが、地山ブロックの混入が少ない 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 5 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロック 軟質 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 6 にぶい橙色土 (SD004 均質な土で4層に近似 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 7 灰黄褐色土 (SD004 地山ブロックと灰色土ブロックが混入する 中央トレンチ土層182層(第3図)に対応する)
- 8 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロック 軟質 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 9 褐色粘質土 (SD004 11層と比較して粘性が弱い 灰色ブロック・炭が少量はある 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 10 にぶい黄褐色土 (SD004 8層に近似し、灰色ブロックが少量はある 中央トレンチ土層179層(第3図)に対応する)
- 11 灰黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積層 中央トレンチ土層185層(第3図)に対応する)
- 12 灰黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積層 11層中の有機物が堆積した様相をもつ 中央トレンチ土層185層(第3図)に対応する)
- 13 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロック)
- 14 にぶい黄褐色土 (SD004 地山ブロック)
- 15 灰白色粘質土 (SD004 粘性が強い 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 16 明褐色粘質土 (SD004 15層より粘性が弱い 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 17 にぶい橙色土 (SD004 有機物が集積する 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 18 浅黄褐色砂質土 (SD004 シルト状を呈する 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 19 明褐色粘質土 (SD004 ブロック状の混入土 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 20 褐色砂質土 (SD004 小石が少量はある 溝掘削直後に埋没したものであろう)

003・004はいずれのトレンチにおいても、SD001を切っており、SD001の西側掘形に重なりながら掘り返された溝状遺構である。

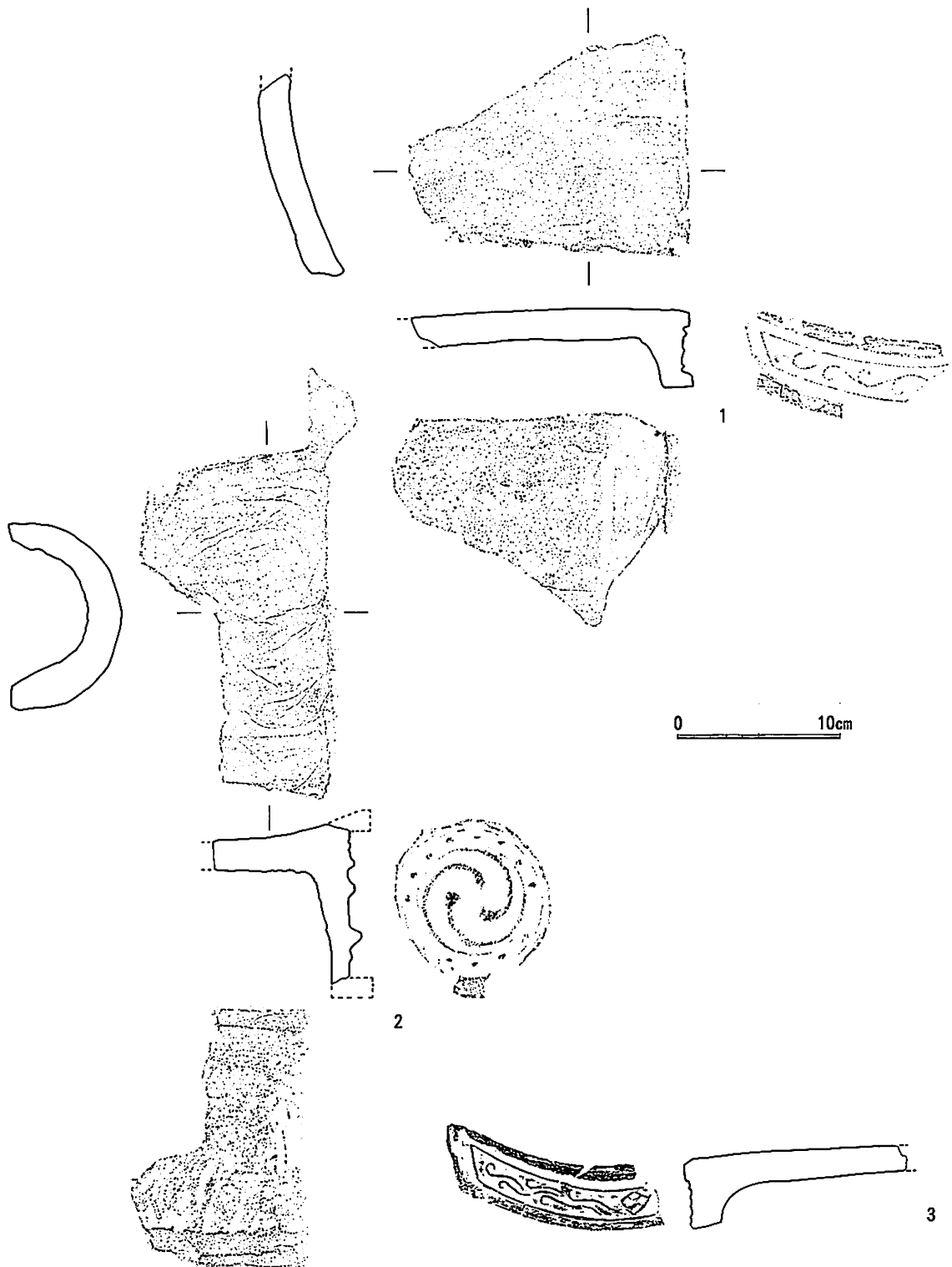
一見、南北に連なる一連の遺構であるようにも見えるが、I15区・J15区において井戸状遺構SE016と切り合い関係を持つため、SE016周辺の遺構プランを把握し得なかった。しかし、このSE016を境に南北の溝の様相は全く異なり、また、出土遺物からも溝が開溝していた時期の差が認められ、別の遺構であったことが明らかとなった。そこで、SE016の南に延びる溝状遺構をSD003、北に延びる溝状遺構をSD004として把握した。中央トレンチ断面図を観察すると、切り合い関係からSD003が最も古く、次いでSE016、最後にSD004が営まれたことがわかる。

SD003は幅1.8~2.6m、深さ2.0~2.2mを測る断面V字形を呈する溝状遺構である。SD003最下層は、溝掘削が砂層まで及んだせいか、粘土と砂がブロック状に混在した層が確認でき、掘削後に溝壁面が崩落していた様相がうかがえる。滞水状態を示す水性堆積層はこの上面の標高2.2~2.25mのレベルで確認できる。この水性堆積層である粘質土は標高2.65~2.85mまで堆積しており、この

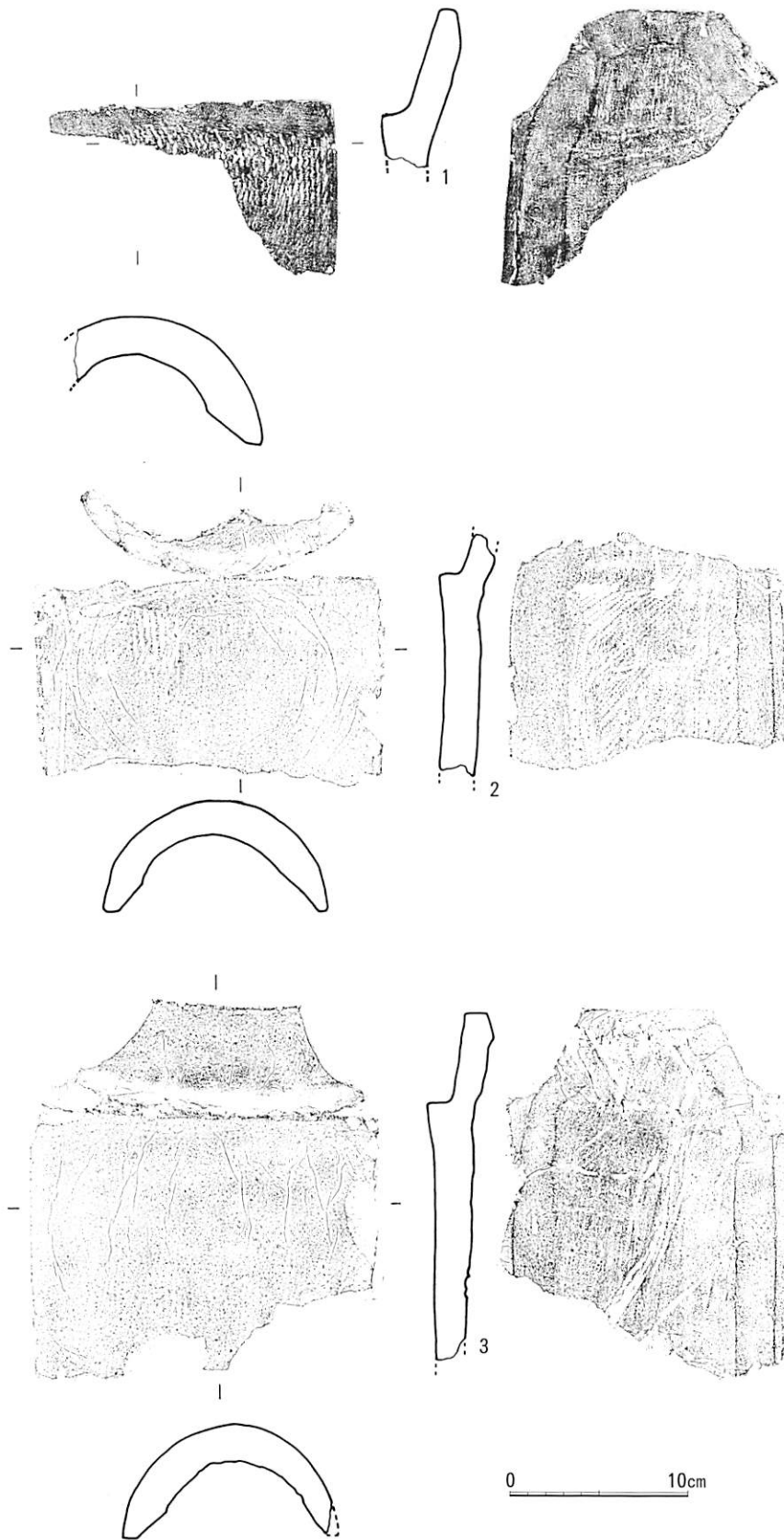


第6図 第18次西調査区SD001・SD004土層断面図 (1/30)

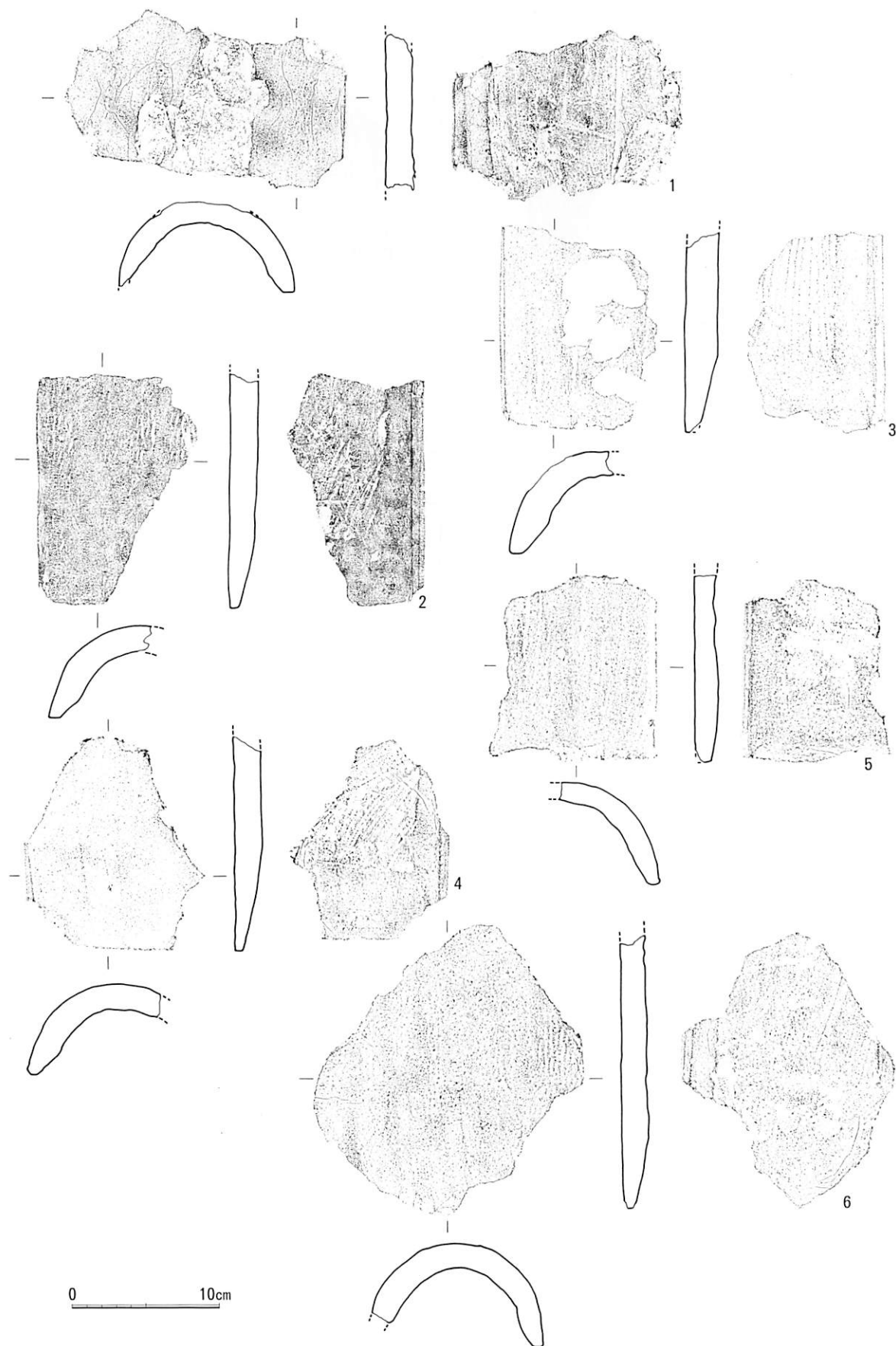




第7図 第18次西調査区SD001出土遺物実測図① (1/4)

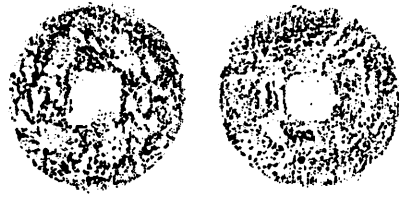


第8図 第18次西調査区SD001出土遺物実測図② (1/4)



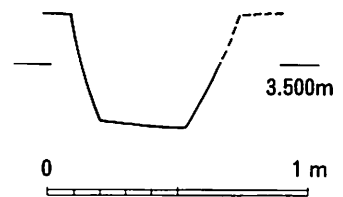
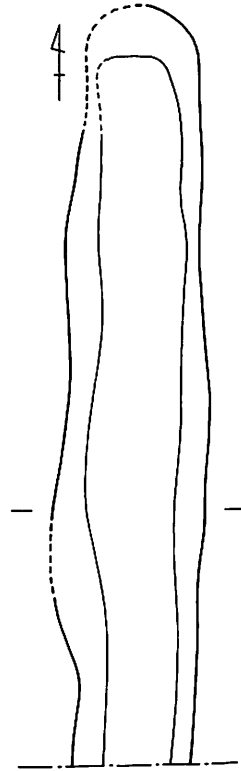
第9図 第18次西調査区SD001出土遺物実測図③ (1/4)

上層は人工的な埋土であると思われ、埋土中に地山ブロックが含まれている。この人工的な埋め土は深さ1m以上におよび、数段階に分けて行われているが、いずれも西側から埋土されたことが土層観察からうかがえる。溝の形態は東側が切り立っており、西側が比較的緩やかだが、峻険な溝であることに



第10図 第18次西調査区SD001下層出土遺物実測図 (1/1)

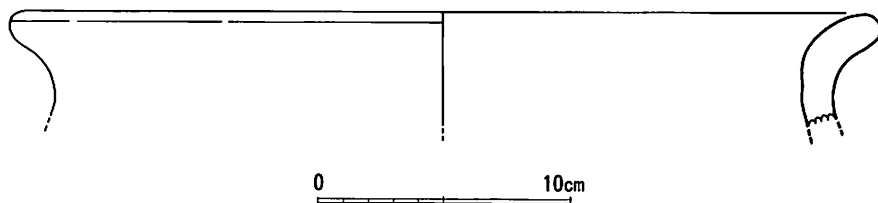
は変わらない。  
SD004は幅2.6~3.2m、深さ1.6~2.0mを測る断面U字形を呈する溝状遺構である。南限はSE016と重複するあたりであり、北限は12次調査区のSD08に続く。SD004最下層は、SD003と同様に、G-H断面17~21層のように粘土と砂がブロック状に混在した層が確認でき、掘削後に溝壁面が崩落していた様相がうかがえる。G-H断面11~15層に対応する滞水状態を示す水性堆積層は、この上面の標高2.65~2.8mのレベルで確認でき、南では厚さ5cmを測るが北に向かうにしたがい、明確でなくなる。この水性堆積層である粘質土の上層(G-H断面7~10層)は人工的な埋土であると思われ、埋土中に地山ブロックが含まれている。この人工的な埋め土は深さ1m以上におよび、数段階に分けて行われておるが、いずれも西側から埋土されたことが土層観察からうかがえる。溝の形態は東側が切り立っており、西側が比較的緩やかである。人工的に埋め戻した溝の最終段階は深さ50cmと、幅に比較すれば浅く窪地状を呈していたことがわかるが、G-H断面1~2層埋土には炭・焼土・土器を含み、これを埋め戻し整地を行うことにより、新たな都市形成の平坦地を確保したことがわかる。



第11図 第18次西調査区SD002実測図 (1/30)

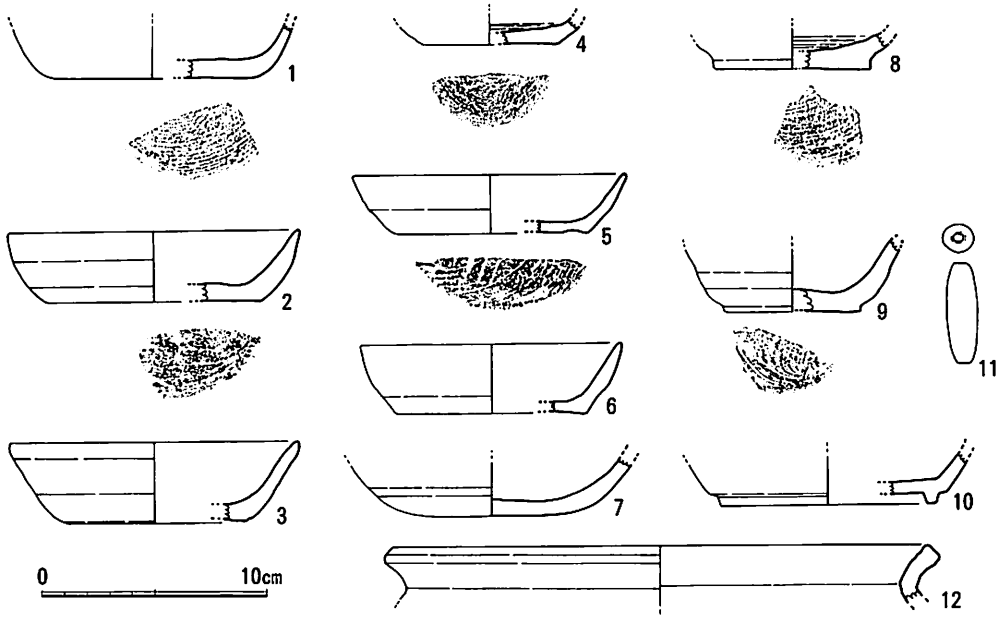
SD003・004出土遺物 (第13~16図)

第13図はSD003の下層(G-H断面11~15層)から出土した遺物である。1~3・5・6・9は土師質土器坏あり、すべての資料は底部に回転糸切り痕がみえる。5には回転糸切り離し後に板状圧痕が確認できる。4・8は土師質土器皿であり、内面に強い螺旋状のロクロ目が残る。7は底部を丸く仕上げる土師質土器坏である。内面を横方向に磨き、外面には丁寧な細かい横方向の削りを施す。10は須恵器坏である。7・10とも古代に属するものであろう。12は瓦質土器甕の口縁である。11は土錘である。

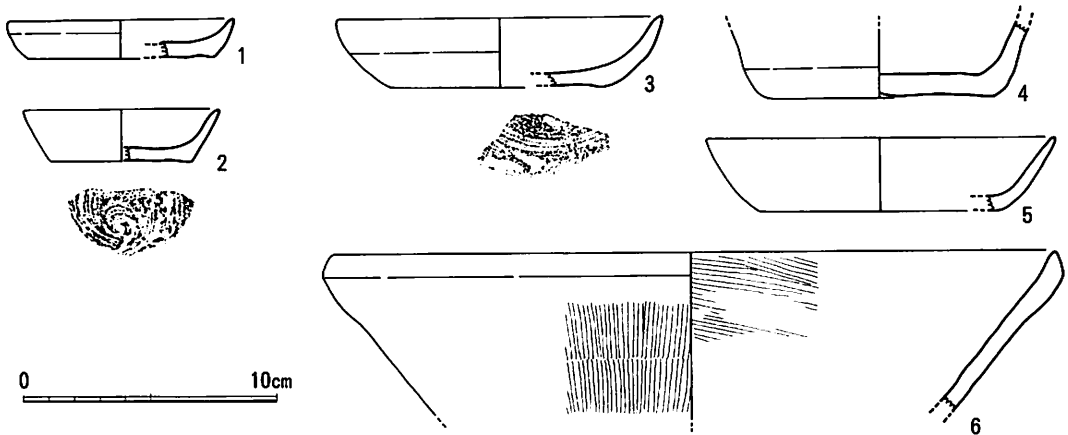


第12図 第18次西調査区SD002出土遺物実測図 (1/3)

第2節 遺構と遺物



第13図 第18次西調査区SD003下層出土遺物実測図 (1/3)

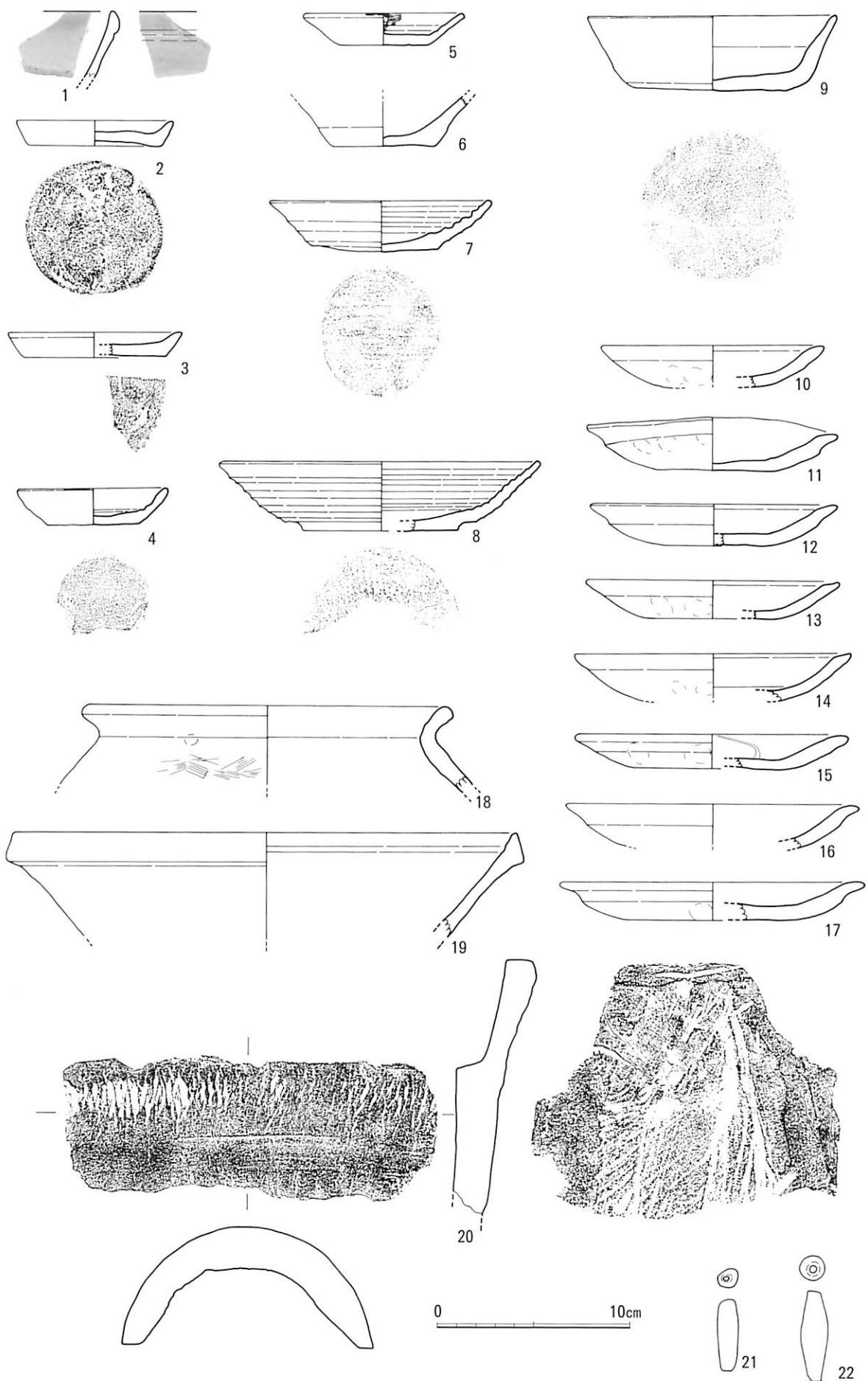


第14図 第18次西調査区SD003中層出土遺物実測図 (1/3)

第14図はSD003の中層（G-H断面7～10層）から出土した遺物である。1・2は土師質土器皿であり、3～5は土師質土器杯である。6は東播系須恵器こね鉢である。

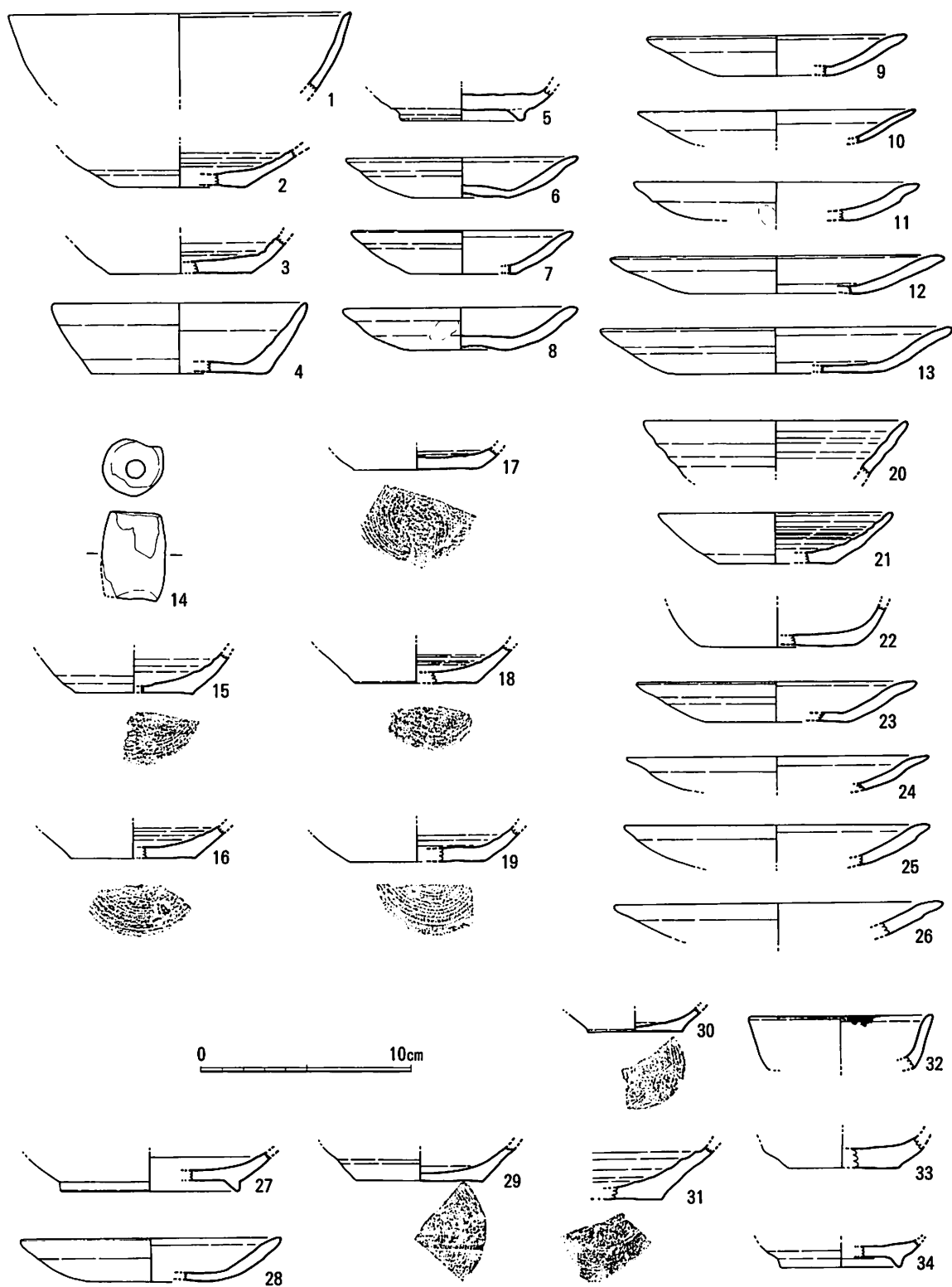
第15図はSD003の上層（G-H断面5～6層）から出土した遺物である。1は玉縁口縁をもつ白磁碗である。2～5は土師質土器小皿である。4・5は内面に強い螺旋状のロクロ目を残すタイプであり、5は口縁に煤が付着し、灯明皿として利用されていたことがわかる。7・8は土師質土器皿であり、内面に強い螺旋状のロクロ目を残し、底部には板状圧痕がみえる。6・9は土師質土器杯であり、9は底部を糸切り後にへら調整が施されている。10～17は京都系土師器皿である。塩地編年1～3期に属する特徴をもつ。18は瓦質土器甕である。19は東播系須恵器こね鉢である。20は丸瓦の玉縁部である。凹面に布目、凸面にタキをナデ消した痕跡がみえる。21・22は土錘である。

第16図1～13はSD004上層から、14～26はSD004中層から、29～34はSD004下層、27・28は床面直上から出土した。1・5・27・34は土師質土器碗である。古代の遺物であろうか。2・3・15～21・29～31は土師質土器皿であり、螺旋状のロクロ痕がみられる。4・22・32・33は土師質土器杯



第15図 第18次西調査区SD003上層出土遺物実測図 (1/3)

第2節 遺構と遺物



第16図 第18次西調査区SD004出土遺物実測図 (1/3)

である。32は灯明皿として利用されている。6～13・23～26・28は京都系土師器皿である。塩地編年1期を主体に2期が若干量混じる特徴をもつ。14は土錘であり、径が2.9cmを測り、大振りである。

**SD005-1・2、SD006（第17図）**

調査区中央東側のK16区に位置する南北方向に走る溝である。SD005-1埋土はシルト質の堆積土であり、SD005-2埋土は粗砂の堆積土である。SD005-1は最大幅約20cm、最深約10cm程度であり、SD005-2は最大幅約25cm、最深約10cm程度である。この両者は上下層に重なるため、同一遺構の上下層埋土である可能性も残るが、SD005-1埋没後にSD005-2が掘り直された印象が強い。SD005-1・2はK15・16区にみられる現代の攪乱坑により切られているが、この攪乱坑の北に確認できたSD006埋土はSD005-2に近似するため、同一遺構である可能性をもつ。SD006は北側で消滅し、また、南側は調査区南側の28次調査区にのびている。このSD005-1・2は検出面がSD008-2・3検出面の下層から確認できたため、SD008-2・3に先行するものであることがわかり、SF019と重なるため、道路側溝としての機能を考えるべきであろう。

**SD005-2、SD006出土遺物（第18・19図）**

第18図はSD005-2出土遺物である。1は中国産青磁碗であり、外面口縁部付近に櫛描波状文が一部に残る。2は中国越州窯系青磁碗の高台部である。古代のものであろう。3は口縁が端反りタイプの中国景德鎮窯系青花皿である。4は内面につよいロクロ痕を残す土師質土器皿である。5・6は京都系土師器皿である。

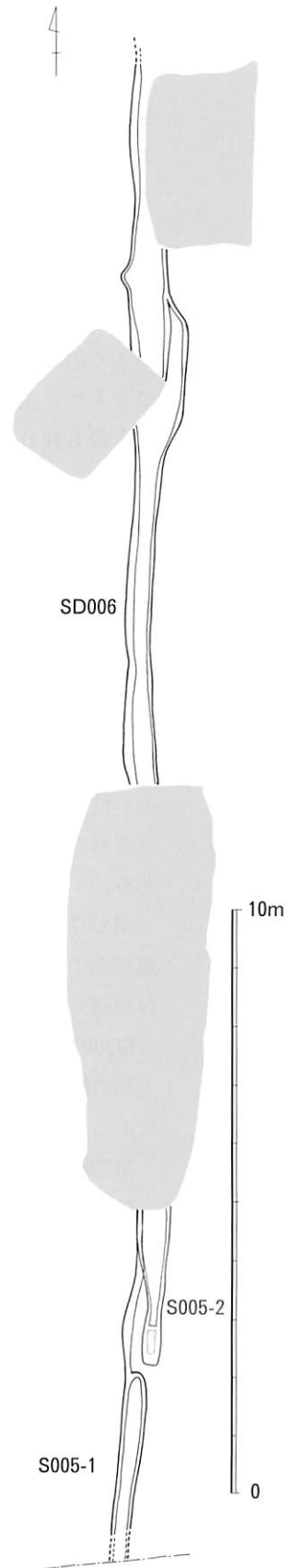
第19図はSD006出土遺物である。土師質の燭台であり、中央に細い円形孔が確認できる。

**SD007-1・2・3・4（第20図）**

調査区中央西側のJ-13・14・15・16・17区に南北方向に走る第2南北街路（SF019）の西側道路側溝である。4時期の掘り返しが確認され、古い段階からSD007-1、SD007-2、SD007-3、SD007-4と、掘り返され営まれている。

SD007-1は幅1.2～1.8m、最深約40cmと最も規模が大きく深く、以後、掘り返される側溝はいずれもSD007-1の範囲内でおさまる。SD007-1は調査区の北側に延びるが、南側は遺構面の削平が著しいせいか、J16区・J17区においては失われている。埋土は粗砂やシルトを含む灰黄褐色土である。

SD007-2は東側部分をSD007-3・4の掘り直しにより失われているため、その全貌はうかがえないが、ほぼ、SD007-1の範囲内において、東側に沿って掘り直された側溝であることがわかる。一部、J13区・J14区において最大幅60cm、最深15cmを測る規模で確認されている。このSD007-2段階には、数基のピットが溝底に掘られており、うち2例は、同様な様相をもち、中に礫が詰められ



第17図 第18次西調査区SD005・SD006実測図（1/120）



た径50cm、深さ45～50cmのピットが2.6mの心々間で営まれていた。道路側溝を隔てて、道路側を画する施設の一部と考えられよう。

S007-3はS007-2のさらに東側に重なりながら掘り直された側溝である。遺構面の削平によるためか、J14区において約4mの長さで消滅している箇所が確認できるが、調査区外の南北に延びる最も残りのよい道路西側側溝である。調査区南端部にはSD007-3の西側肩に人頭大の石を利用して石積み状に組んだ施設が検出できた。この溝状の特徴として西側肩部が直立状に立ち上

がり、東側肩部は比較的緩やかな傾斜をもつ。それとともに、溝底に7間（心心間総長12.0m、平均1.7m）のピット列8基が検出でき、溝とするよりは、柵列状遺構に伴う掘り込み遺構に近い性格であった可能性も残る。埋土中には炭や焼土が大量に含まれており、火災処理に伴い埋められた遺構であることがわかる。

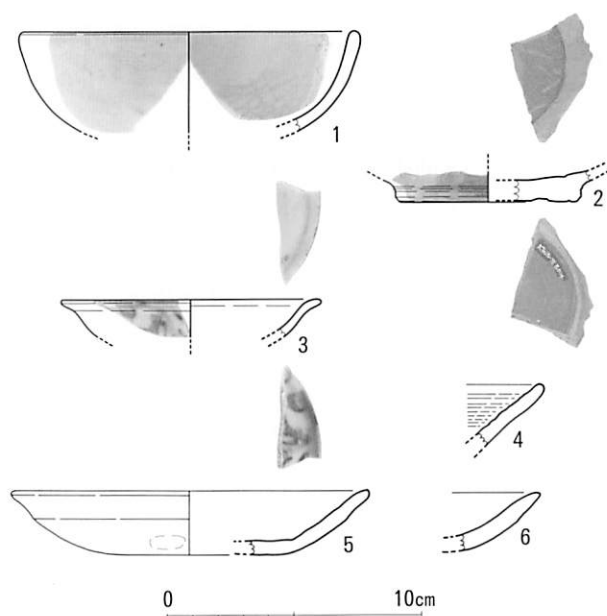
SD007-4はSD007-3のさらに東側に掘り直された側溝である。遺構面の削平によるためか、I16区において消滅しそれ以南には確認できない。埋土は褐灰色の砂質土が主体をしめる。

#### SD007-1・2・3・4出土遺物（第21～27図）

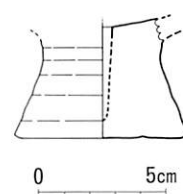
第21図はSD007-1出土の遺物である。1は瀬戸美濃系陶器筒形碗であり、大窯4期に属するものであろう。2は土師質土器皿、3は京都系土師器皿である。3は塩地編年2期に属するものである。第22図は銅銭であるが、銭種不明である。

第23図はSD007-2出土の遺物である。1は中国景德鎮窯系青花碗であり、外面に毛彫りの花文様がみられる。2・3は朝鮮王朝産陶器碗であり、3には見込みおよび高台畳付けに砂目痕が残る。4～11は京都系土師器皿であり、塩地編年1～3期の資料が混在することがわかる。4・8・11は灯明皿として利用されている。12は土師質土器皿であり、内面に螺旋状のロクロ目が残る。13は備前系焼締陶器插鉢であり、乗岡編年中世4b～5a期に属するものである。14・15は備前系焼締陶器水屋甕である。

第24図はSD007-3出土の遺物である。1・2は中国景德鎮窯系青花皿であり、2は小野分類皿B群に属し、外面に唐草文、見込みに龍文がみえる。3は中国漳州窯系青花皿である。4は白磁碗である。5は朝鮮王朝産陶器碗である。6は土師質土器環である。7は土師質土器皿であり、内面に螺旋状のロクロ目を著しく残す。8・10～20は京都系土師器皿であり、9は京都系土師器環である。21～24は備前系焼締陶器である。21は肩に耳のつく壺であり、胴部に「大」の刻字がみえる。22は玉縁状口縁をもつ壺であり、乗岡編年中世4～5期に属する特徴をもつ。25は瓦質土器鍋である。



第18図 第18次西調査区SD005-2出土遺物実測図（1/3）



第19図 第18次西調査区SD006出土遺物実測図（1/3）

第25図はSD007-3出土の遺物である。1は瓦質土器鉢である。2は軒平瓦である。瓦当文様は唐草文がみえる。3は丸瓦である。凹面にナナメのコビキ痕がみえる。4は砥石であるが、尖頭状の工具を研いだためか、数本の葉研状の溝が残る。5は筭である。

第26図はSD007-3出土の茶臼であり、きわめて丁寧に調整されている。

第27図はSD007-4出土の遺物である。1は中国景德鎮窯系青花碗である。2は瀬戸美濃系天目碗である。3は備前系焼締陶器壺である。4～10は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期の資料が混在することがわかる。4は灯明皿として利用されている。

#### SD008-1・2・3 (第28図)

調査区東側のJ・K-13・14・15・16区に南北方向に走る第2南北街路(SF019)の東側道路側溝である。3時期の掘り返しが確認され、古い段階からSD008-1、SD008-2、SD008-3と、掘り返され営まれている。

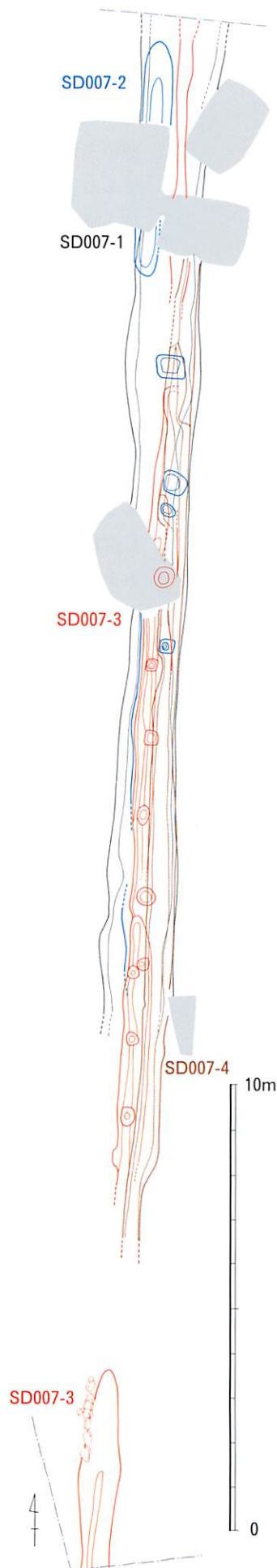
SD008-1は最大幅0.9mであり、最深は10cmに満たないが、溝として把握した。東側道路側溝としては、最も道路中央側を走る。この側溝は調査区中央以南においては、削平されているが、本来は南に続いていたことが想定できる。

SD008-2は幅0.9m、最深約25cmを測り、調査区中央以南においては削平されている。一部が、SD006に繋がるため、切り合い関係からSD006の掘り直し部分も存在するものと思える。遺構内に人頭大の石を利用した石積み状の石列が西側の面を揃えて3.2mの長さで検出でき、この石列は調査区外北側にも続くものと想定できる。溝内の石列東側の埋土は石積みを安定させるための裏込め土であり、溝埋土最下層の褐灰色シルトも石列を安定させるものであった可能性が高い。そのため、溝廃絶後の埋土は、炭や焼土が大量に含まれる火災処理土であったことがわかる。また、一部、この石列を生かし、さらに埋土が浚えられ、溝として機能していた時期が存在したことが、土層観察で確認できた。埋土の様相から道路西側側溝のSD007-3に対応するものであろう。

SD008-3はSD008-1とSD008-2の間におさまる側溝である。幅0.8m、最深約25cmを測り、遺構面の削平によるためか、南に延びるほどに規模が小さくなり、J16区において消滅している。埋土は褐灰色土であり、焼土粒・土器粒を若干含むほかは、比較的多くの礫が出土している。埋土の様相から道路西側側溝のSD007-4に対応するものであろう。

#### SD008-1・2・3出土遺物 (第29～34図)

第29図はSD008-1出土遺物である。1は中国景德鎮窯系青花碗であり、外面に花文がみえる。2は中国漳州窯系青花皿であるが、2次焼成を受け、変質している。3～9は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期に属する資料である。



第20図 第18次西調査区SD007実測図(1/140)

第30図はSD008-1から出土した「皇宋通寶」(1038年初鑄)である。

第31図はSD008-2出土遺物である。1は中国景德鎮窯系青花皿である。2は備前系焼締陶器平鉢である。3・5・6は京都系土師器皿である。4は土師質土器環である。

第32図1はSD008-3から出土した蘭形分銅である。重量1.4gを量る。2はSD008-3から出土した円形分銅である。銅製で錆着が著しいが重量2.0gを量る。

第33図はSD008-3出土の遺物である。1は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる饅頭心碗の形態をもつ。見込み部には花文がみえる。2は中国漳州窯系青花碗であり、小野分類C群におさまる蓮子碗の形態をもつ。高台周辺と見込み部に2重圈線を廻し、内外面とも高台周辺および見込み部は露胎のままである。2次焼成を受けているため胎調・釉調とも変質している。3・5は中国龍泉窯系青磁碗であり、3には内外面に片切り彫りの文様がみえる。4は中国龍泉窯系青磁香炉であり、筒状の器形に脚が3カ所につく。6は瀬戸美濃系陶器折縁皿であり、低平な器形をもち、大窯4期末(16世紀末~17世紀初)に比定されよう。7・8は瀬戸美濃系陶器天目碗の底部片であるが、高台周辺を打ち欠き、円盤状に加工したものである。9は備前系焼締陶器鉢であり、10は備前系焼締陶器壺である。11~13は京都系土師器皿である。14・15は土師質土器を径5cm弱に加工した円盤状製品である。16は備前系焼締陶器挿鉢であり、放射状スリメに加えて、ナナメ方向のスリメが付加されており、乗岡編年近世1c期に帰属するものである。17は瓦質土器風炉である。

第34図はSD008-3から出土した銅銭である。1は「洪武通寶」(1368年初鑄)である。2は「崇寧通寶」(1102年初鑄)であり、径3.3cmを測る当十銭である。3は「寛永通寶」(1636年初鑄)であり、古寛永に属する。4・5は銭種不明である。

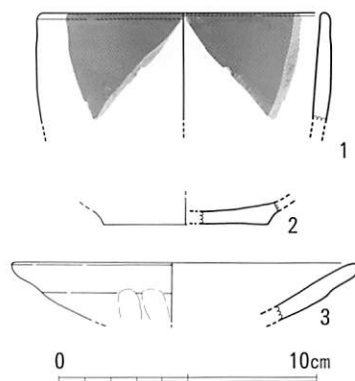
SD009、SD010 (第35図)

SD009およびSD010はI・J13・14区に位置し、その間を現代の攪乱坑により破壊されているが、一連の遺構である可能性が高い。SD010の東はSD007-1と接し、SD009の西は調査区外に延びる。双方の床面はSD009が低いので、溝状遺構であれば東から西への水流があったものと考えられる。下層に存在するSD004の調査で、SD009下部においてSD004に直交して連なる小さな溝の存在が確認できたため、その埋没過程で生じた地形の落ち込みであるとも考えられる。しかし、作為的であろうとなかろうと、この両者が一連の遺構であるなら、溝状を呈していたことは疑う余地がない。遺物は下層のSD004埋没後に浅い窪地状地形を呈していた段階で廃棄された状況がうかがえる。比較的多くの遺物が出土し、埋土中には炭・焼土がわずかに含まれていた。

SD009、SD010出土遺物 (第36~38図)

第36図は「景德元寶」(1004初鑄)である。

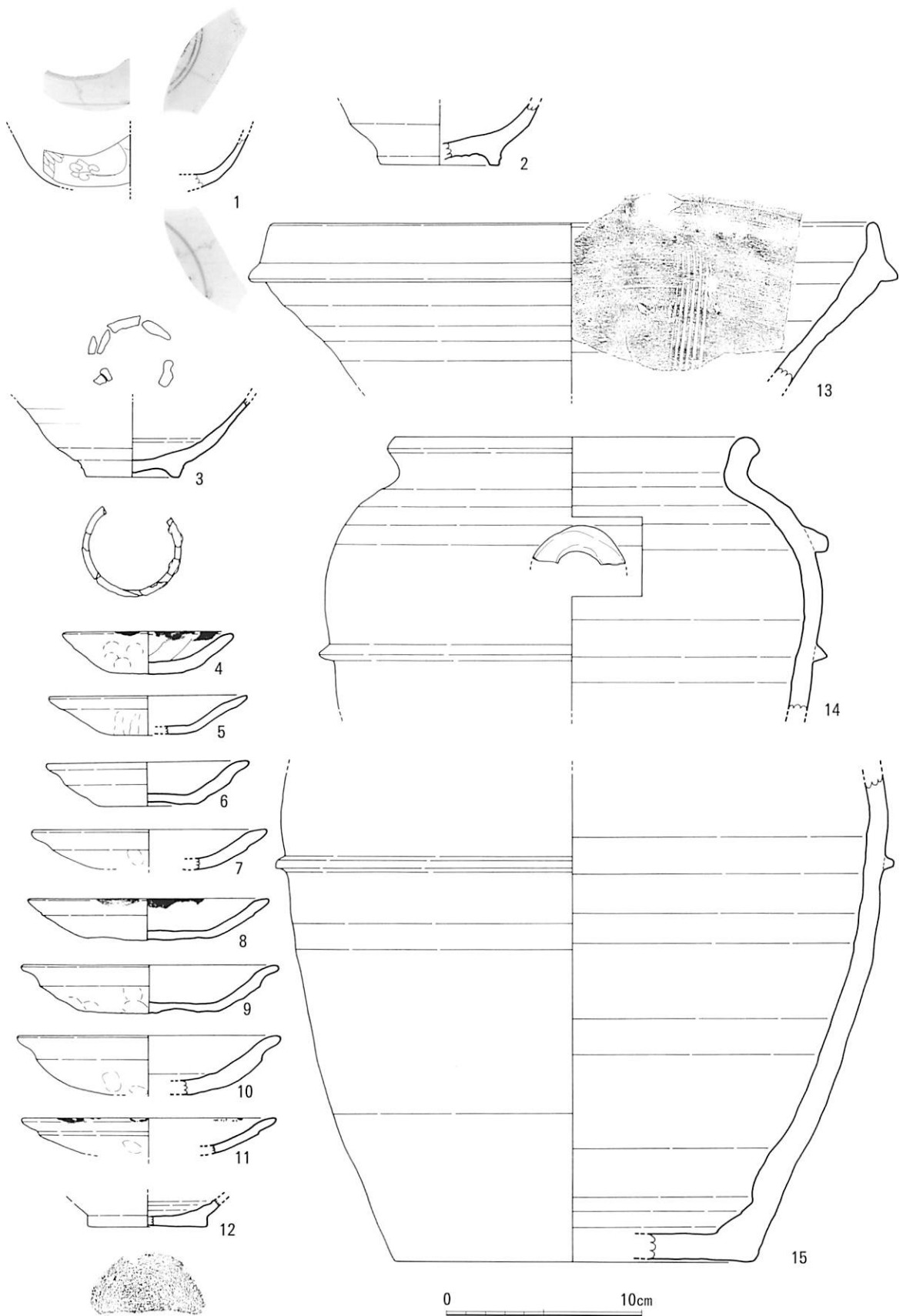
第37図1・3は中国景德鎮窯系青花碗である。1は小野分類E群におさまる饅頭心碗の形態を



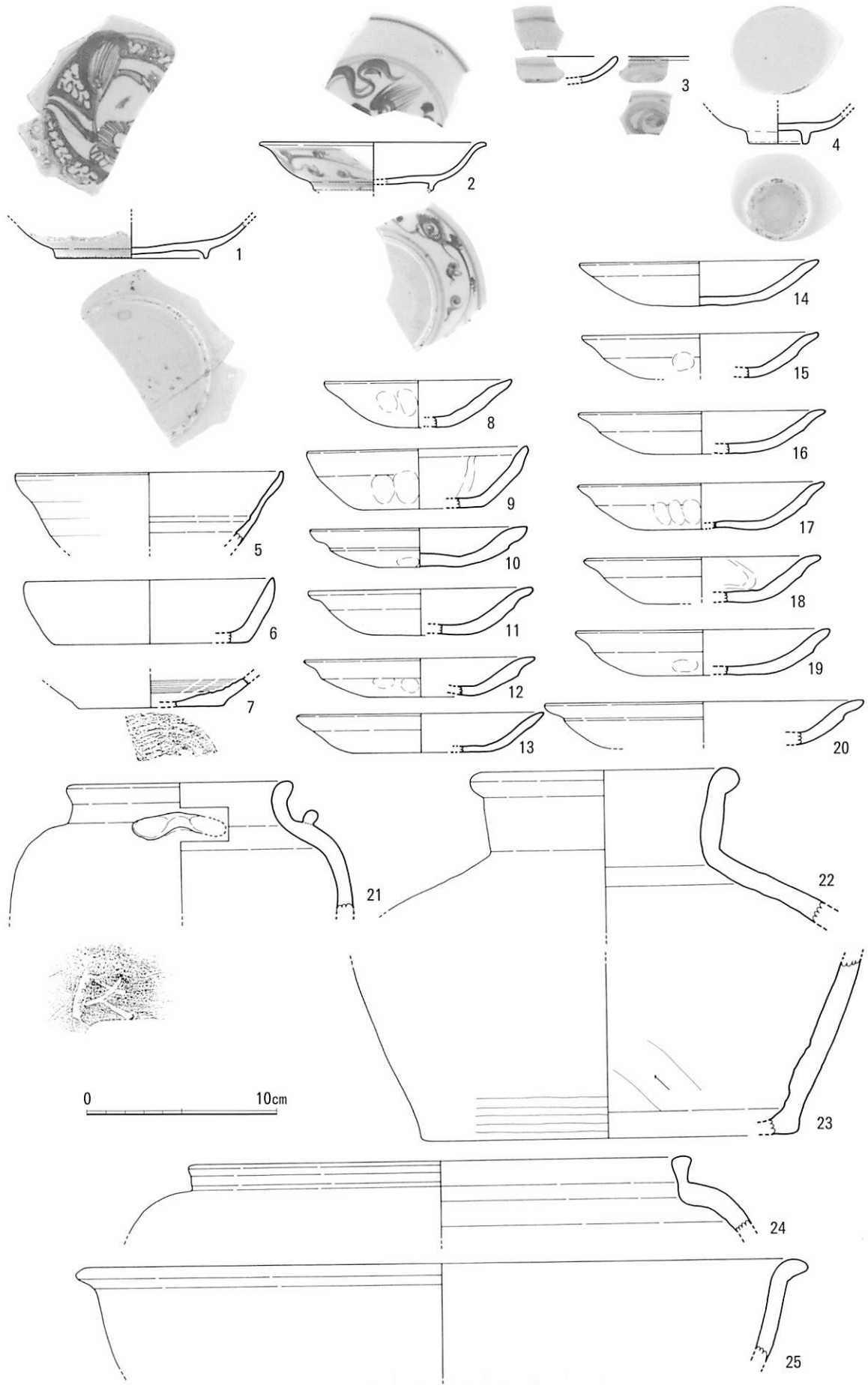
第21図 第18次西調査区SD007-1出土遺物実測図(1/3)



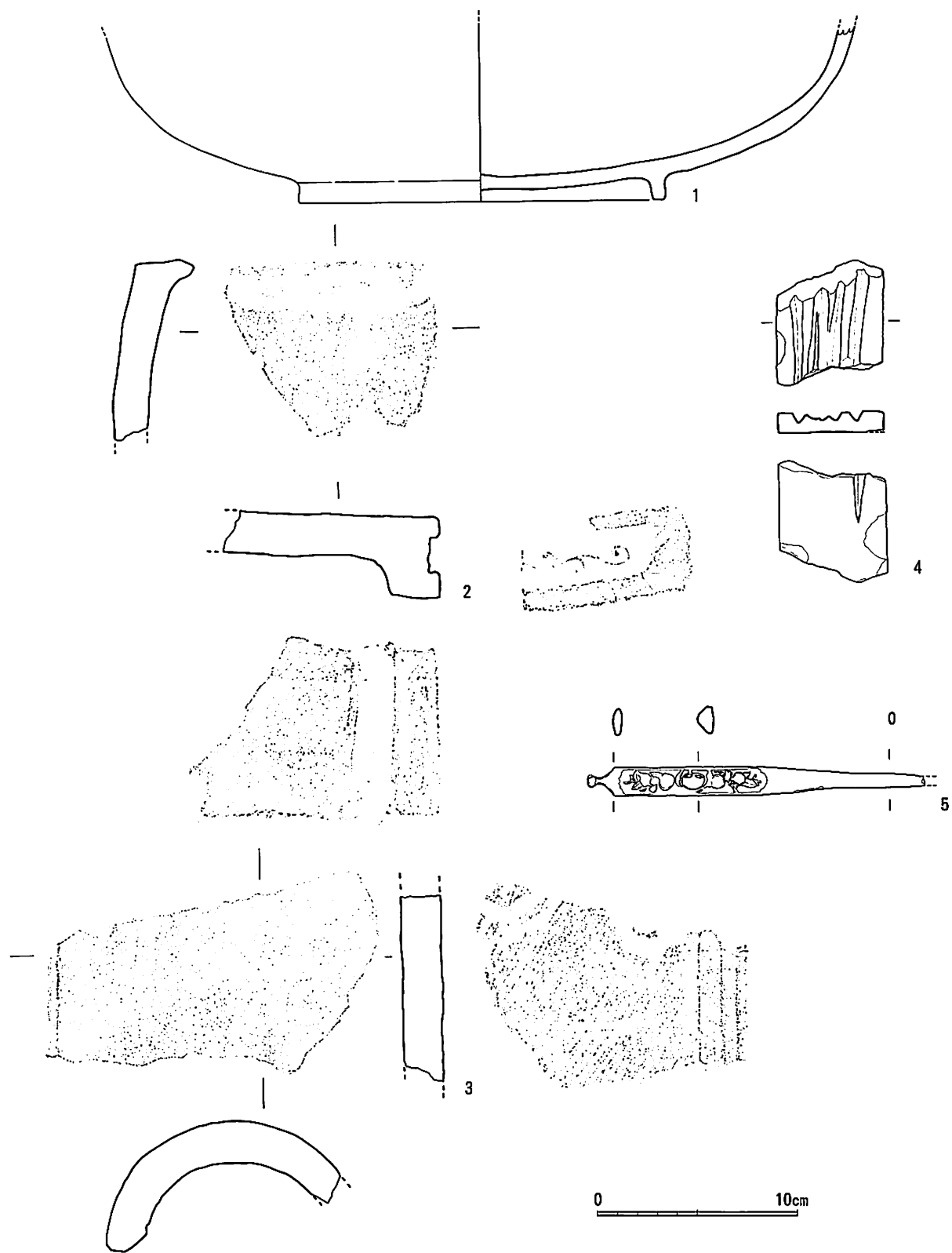
第22図 第18次西調査区SD007-2出土遺物実測図①(1/1)



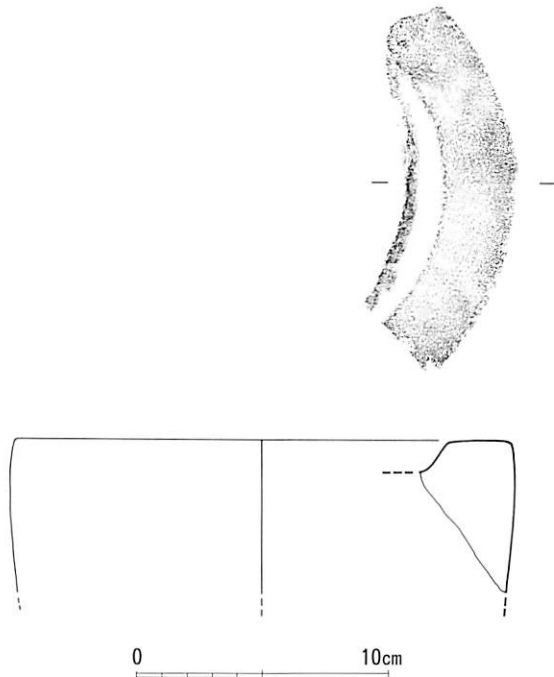
第23図 第18次西調査区SD007-2出土遺物実測図② (1/3)



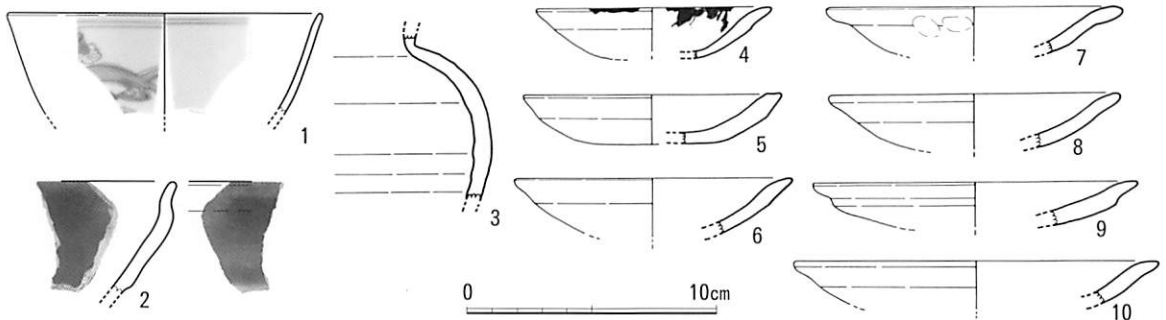
第24図 第18次西調査区SD007-3出土遺物実測図① (1/3)



第25図 第18次西調査区SD007-3出土遺物実測図② (1/3)



第26図 第18次西調査区SD007-3出土遺物実測図③ (1/3)



第27図 第18次西調査区SD007-4出土遺物実測図 (1/3)

もち、見込み部には龍文、高台内には字款がみえる。4・5は中国景德鎮窯系青花皿である。小野分類B群におさまる口縁端反りタイプの皿である。6は瀬戸美濃系灰釉陶器壺である。肩部と胴部に1単位ずつの櫛描文がみられ、それに挟まれ耳がつく。施釉は外面および内面首部にみられる。7～9・13は朝鮮王朝産陶器である。8は舟徳利であり、その他は碗である。碗には高台置付けおよび見込みに重ね焼き痕がみえる。10～12は京都系土師器である。

第38図1は中国景德鎮窯系青花皿である。2は朝鮮王朝産陶器碗である。3は土師質土器小皿であり、4～6は土師質土器皿である。4の内面には螺旋状のロクロ目を顕著に残している。7～9は体部が立ち上がる京都系土師器小皿であり、焼塩壺の蓋を転用したものである。10～38は京都系土師器皿である。塩地編年1～3期の特徴をもつものが混在するが、図化しえなかった遺物も含めて3期のものが圧倒的に多い。39・40は備前系焼締陶器挿鉢である。39は口縁を上方に拡張する形態的特徴をもち、乗岡編年中世5 a期に属する。40は放射状スリメに加えて、ナナメ方向のスリメ



が付加されており、乗岡編年近世1 a b期に帰属するものである。

#### SD011 (第2図)

調査区南西側のI15区・I16区に位置するN-4°-E方向に走る溝である。長さ4.8m、幅60~80cm、深さ約40cmを測る溝である。埋土は現在の水田に伴う床土(にぶい黄橙色土)と同じであり、近世以降、水田耕作に伴う溝であると考えられる。

#### SD011出土遺物 (第39図)

第39図1は瓦質土器である。しだいに肥厚しながら口縁に延びる筒状の形態をもつが、器種は明らかでない。2は朝鮮王朝産陶器碗であり、竹節高台をもつ。3・4は京都系土師器皿である。

#### SD012 (第2図)

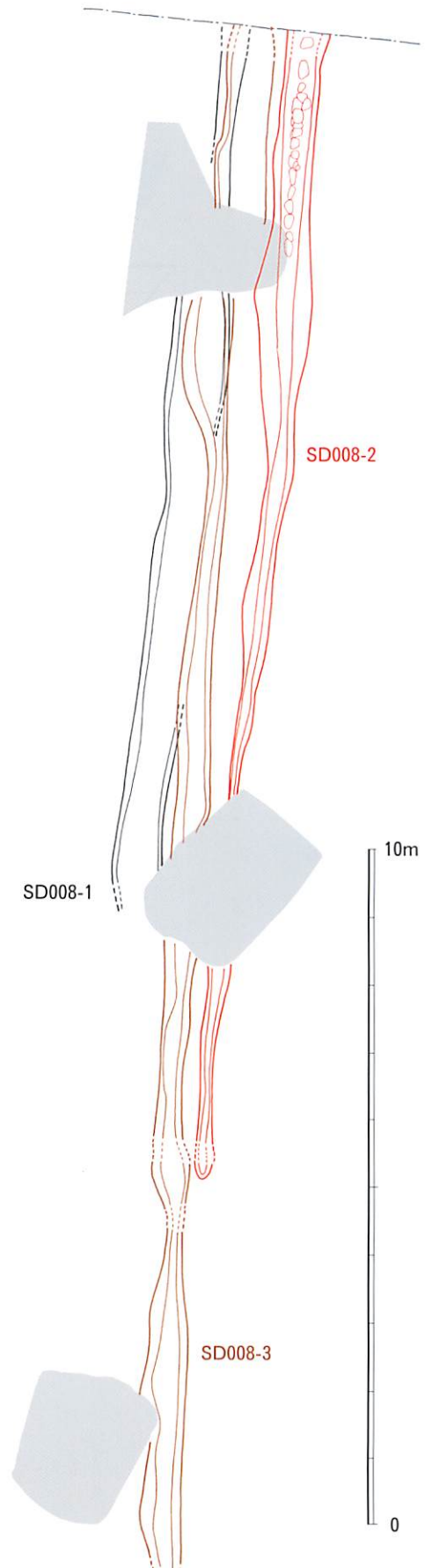
調査区南西側のJ15区・J16区に検出された南北方向に走る溝である。長さ約7m、幅約1m、深さ約20cmを測る溝である。SD011と約2mの間隔を開けて並行して走り、埋土もSD011と同様に現在の水田に伴う床土(にぶい黄橙色土)と同じであり、近世以降、水田耕作に伴う溝であると考えられる。

#### SD013 (第2図)

調査区中央東側のJ15区・K15区に位置するW-8°-N方向に走る長さ約5m、幅15~20cm、深さ最深約30cmを測る溝であり、東限は大友18次東調査区に延びている。出土遺物は少量ながら16世紀後半に帰属するもののみであるが、大友18次東調査区では、近世に属するものが出土しているため、近世以降の遺構とすべきであろう。

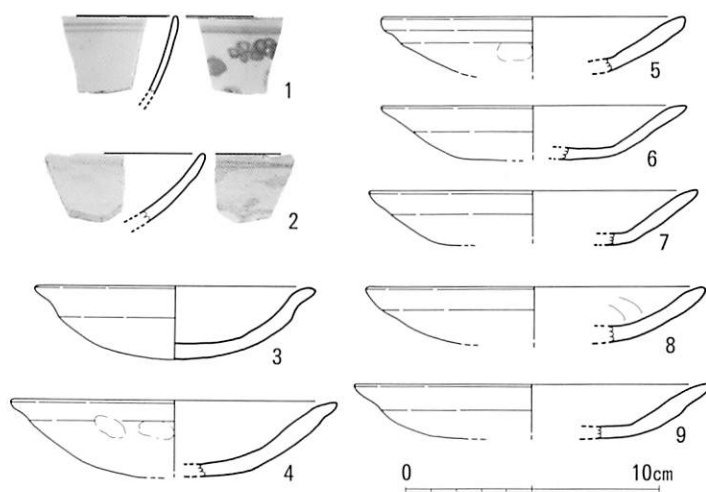
#### SD013出土遺物 (第40図)

第40図は瀬戸美濃系灰釉陶器壺である。施釉は外面胴部にみられる。円盤状の底部に粘土紐を積み上げて成形しており、また、高台も粘土紐を底部に貼り付けて成形したことがわかる。



第28図 第18次西調査区SD008実測図 (1/50)

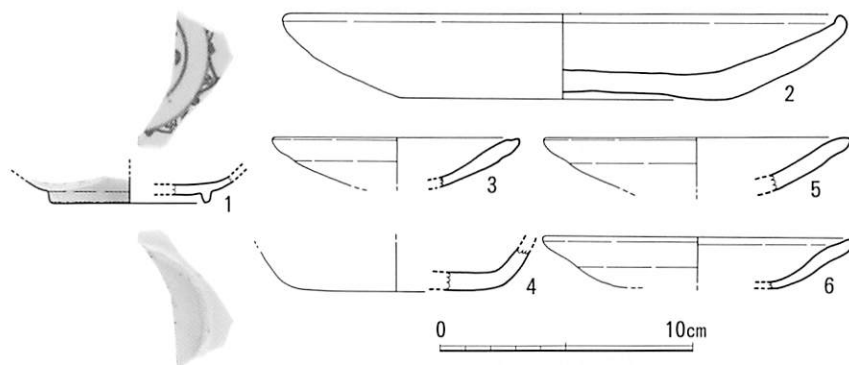




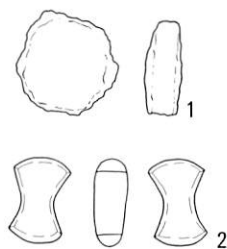
第29図 第18次西調査区SD008-1出土遺物実測図① (1/3)



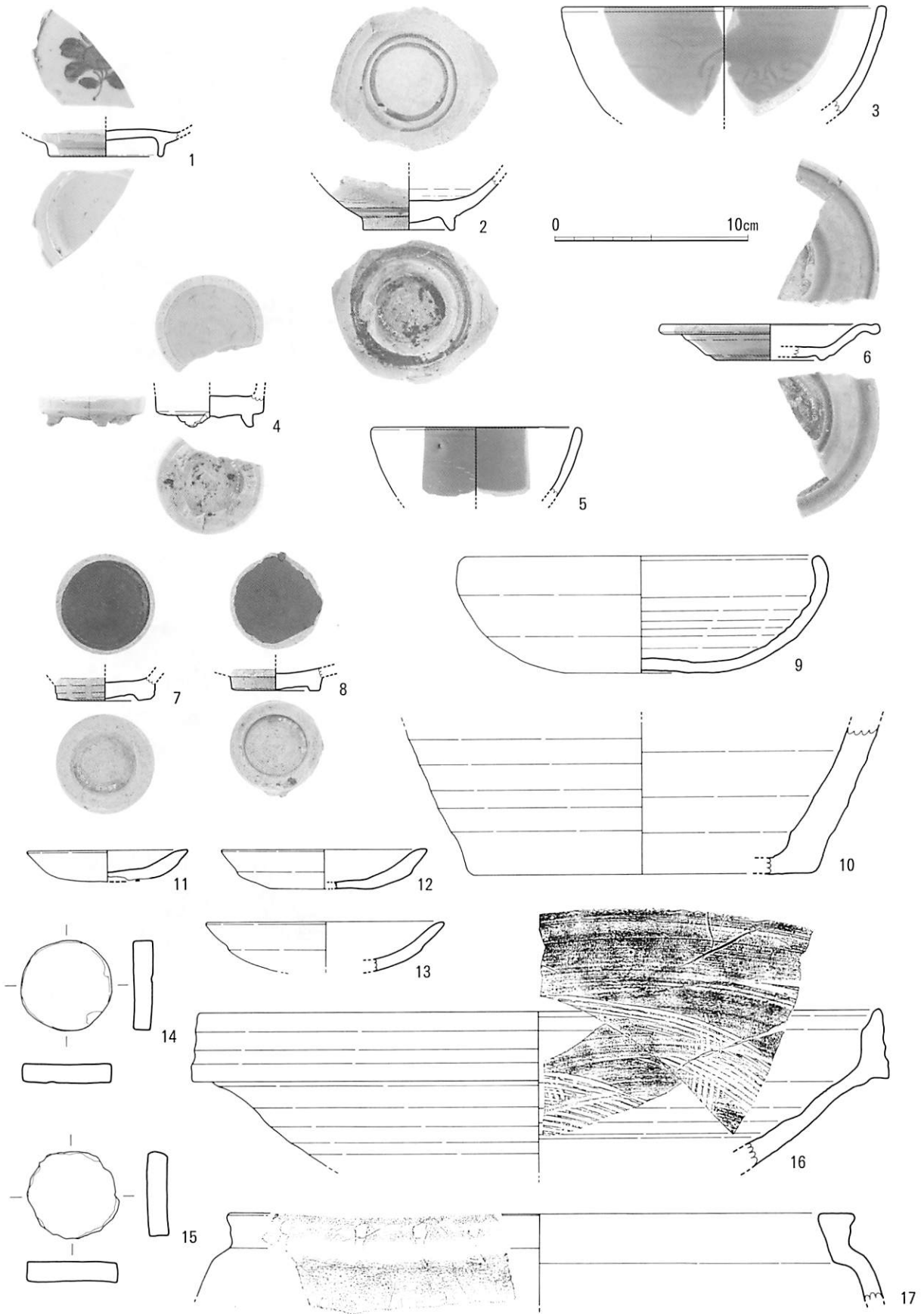
第30図 第18次西調査区SD008-1出土遺物実測図② (1/1)



第31図 第18次西調査区SD008-2出土遺物実測図 (1/3)



第32図 第18次西調査区SD008-3出土遺物実測図① (1/1)



第33図 第18次西調査区SD008-3出土遺物実測図② (1/3)

2. 土坑

SK014 (第41図)

調査区北東端のK13区・K14区に位置する不定形土坑で、幅約1m、深さ約20cmを測る。埋土は暗茶褐色で、古代の土師器坏等がみられるが、図化できる大きさのものは出土していない。

SK015 (第42図)

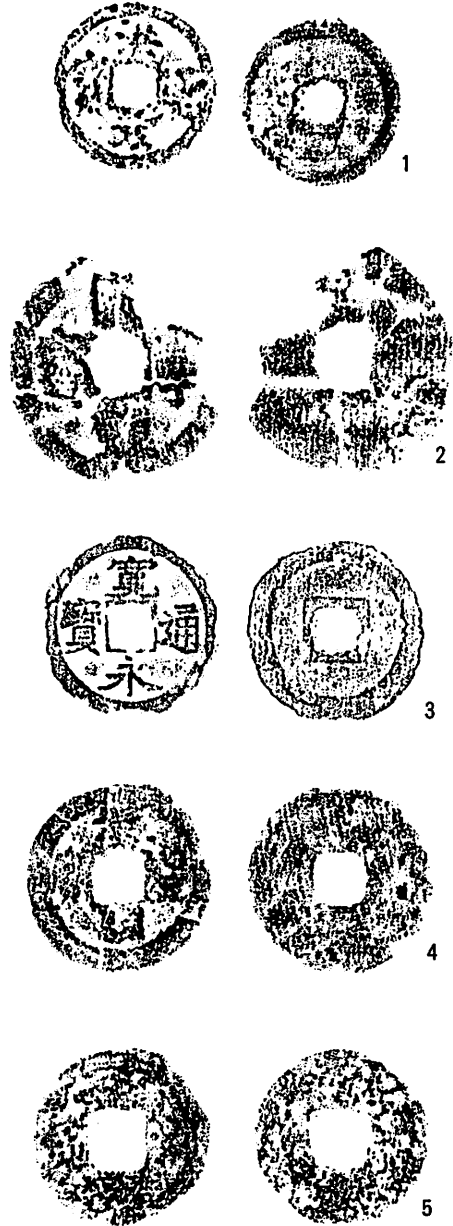
調査区北西端のI13区に位置する長径80cm、短径70cm、深さ約50cmを測る楕円形土坑である。埋土は暗茶褐色土で、焼土とともに瓦片と礫が多くみられる。このSK015は、掘立柱建物(SB018)の北西端柱穴を切っており、掘立柱建物(SB018)廃絶後に火災処理土坑として掘削されたものであることがわかる。

SK015出土遺物 (第43～45図)

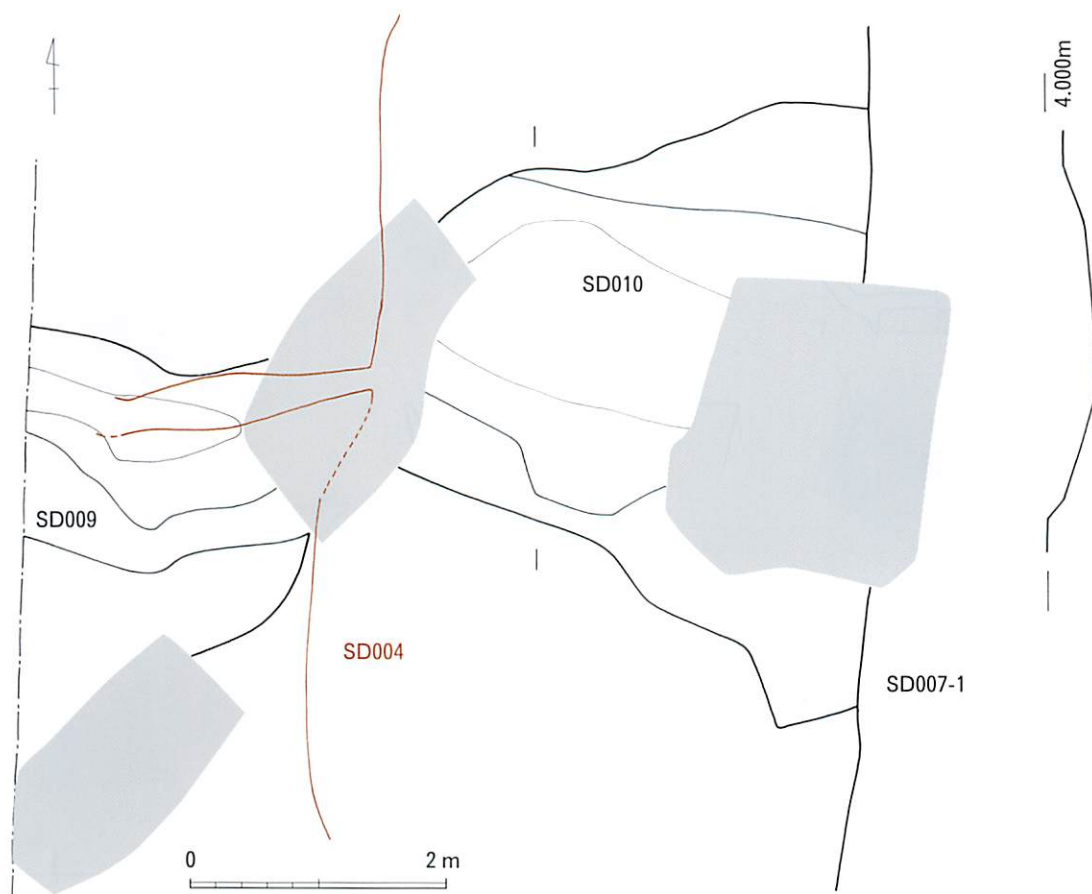
第43図1・2は中国景德鎮窯系青花碗である。1は腰部で屈曲し緩やかに外反しながら上方に延びる。3・4は中国景德鎮窯系青花皿であり、4は小野分類皿E群に属するものである。3・4とも2次焼成を著しく受けている。5～7・9・10は朝鮮王朝産陶器碗である。8は朝鮮王朝産陶器舟徳利である。11は備前系焼締陶器甃であり、口縁部の特徴から乗岡編年中世6期に属するものであろう。12・14～16は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期に属する特徴をもつ。13は京都系土師器坏であり、塩地編年3期に属するものであろう。17は備前系焼締陶器播鉢であるが、平鉢に近い形態をもつ。18は陶器鉢である。内外面に透明釉がかかり、胎土が褐色を呈するため、褐色の発色をもつ。器壁は薄く、やや厚い口縁部は鋭くS字状に外反させている。口縁上端には重焼き痕が残る。朝鮮王朝産か。19は瓦質土器火鉢である。外面口縁付近に2条の細い突線を巡らし、突線間に双頭巖手流雲文のスタンプを巡らす。

第44図1・2は平瓦である。1の凹面はコビキ痕のあとをナデ消している。3は軒丸瓦であり、瓦頭文様は中央に反時計回りの巴文とその周囲に連珠帯を配する。4は丸瓦であり、凹面にコビキ痕がのこる。

第45図1～3はいずれも丸瓦であり、いずれも凹面に吊り紐痕がみられる。1には玉縁部に釘穴がみられる。



第34図 第18次西調査区SD008-3  
出土遺物実測図③ (1/1)



第35図 第18次西調査区SD009・SD010実測図 (1/60)

### 3. 井戸

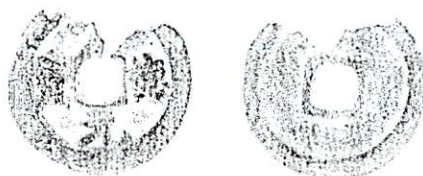
#### SE016 (第4図)

調査区中央西側のI・J-13・14・15・16・17区に南北方向に走る溝状遺構であるSD003、SD004の重複部に営まれた井戸である。SD003、SD004調査時にSE016の存在を認識しておらず、掘り下げにしたいが井戸の存在が確認できた。そのため、明確な遺構プランは確認できなかったものの、把握できた部分から径3.8m程度の円形掘形をもつことが明らかとなった。幸いにも調査区中央トレンチでSE016およびSD003、SD004の切り合い関係が確認でき、SD003埋没後にSE016が営なまれ、SE016埋没後にSD004が掘削されたことが確認できた。SE016は掘形床面が砂層まで達し、井筒が存在していたものと考えられる径60cm、深さ40cm程度の円形掘形が確認できた。これを取り囲むように一辺90cm、深さ20cmの方形掘形が確認できたため、木製井戸枠が井筒上に存在した可能性が考えられる。しかし、井戸枠・井筒とも木製品の痕跡はまったく確認できなかった。出土遺物はほとんど確認できなかった。

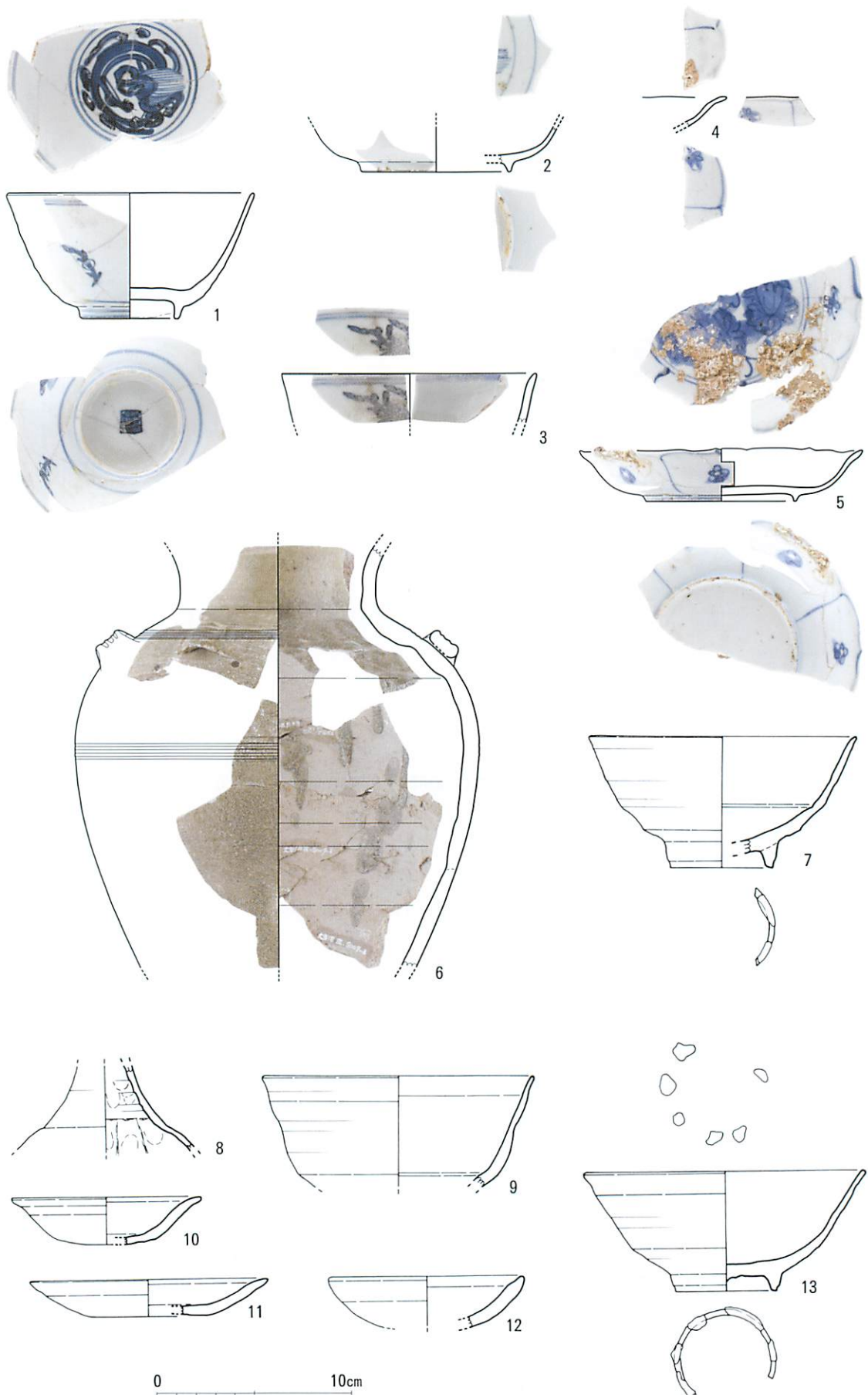
### 4. 掘立柱建物跡

#### SB017 (第46図)

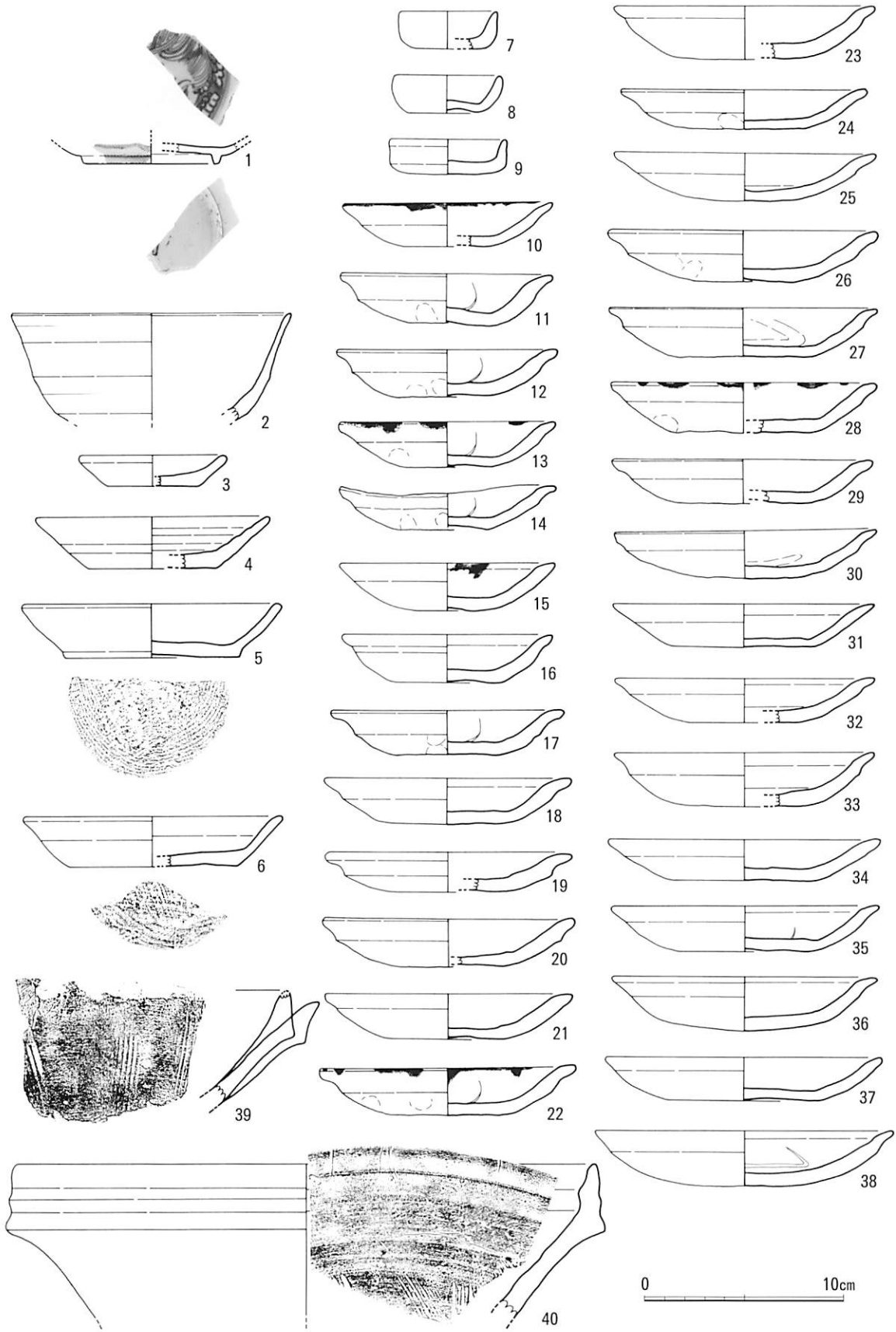
調査区北西端のI14区・J14区に検出した東西棟掘立柱建物跡である。調査区内には東西(桁行)4間(心間総長390cm)が確認され



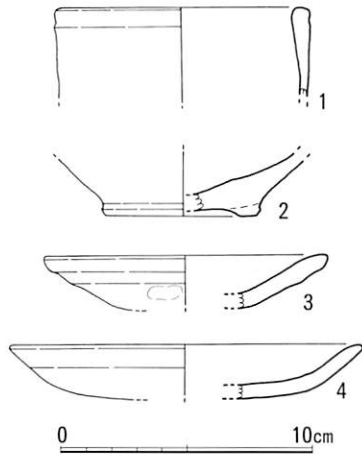
第36図 第18次西調査区SD009  
出土遺物実測図① (1/1)



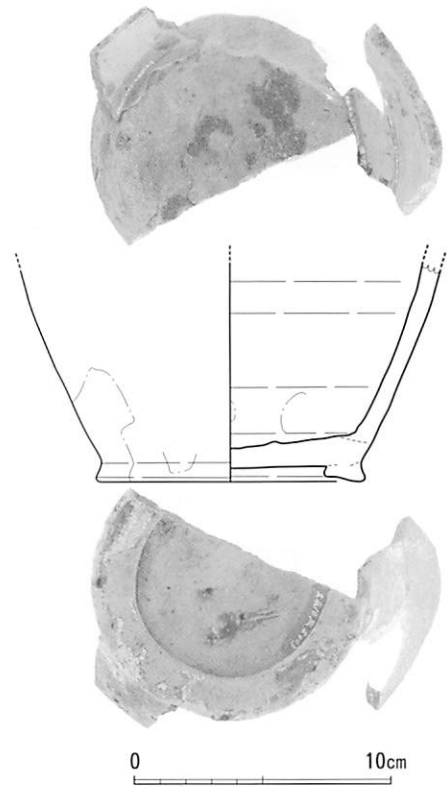
第37図 第18次西調査区SD009出土遺物実測図② (1/3)



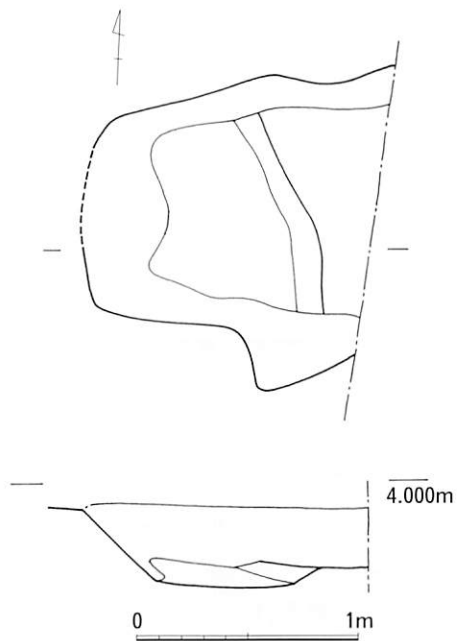
第38図 第18次西調査区SD010出土遺物実測図 (1/3)



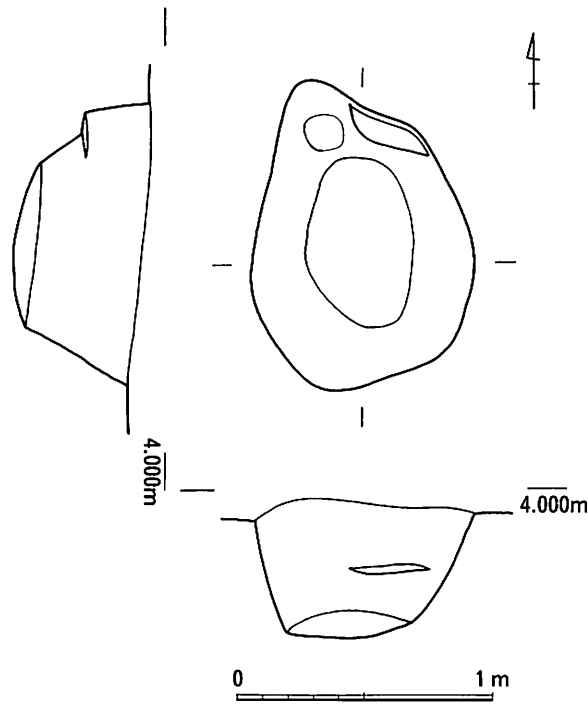
第39図 第18次西調査区SD011  
出土遺物実測図 (1/3)



第40図 第18次西調査区SD013出土遺物実測図 (1/3)



第41図 第18次西調査区SK014実測図 (1/30)



第42図 第18次西調査区SK015実測図 (1/30)

ており、各心心間は90～95cmを測る。この遺構が調査区西端に位置するため、西限はさらに調査区外に延びる可能性がある。南北（梁間）2間（200cm、北から100cm+100cm）である。すべての柱穴には径6～14cmの柱痕が確認できた。この掘立柱建物跡は平面プランが長方形になるように、周囲を最深約45cm程度掘りくぼめて設定しており、柱穴群に沿って、外側が1段高い。南北3.2m、東西4.6m以上の方形掘り沈めが確認できた。この窪地状地形に大量の焼けた川原石・瓦片を含む焼土が堆積しており、当時、周辺において火災後の片づけの際にSB017廃絶後のこの窪地に廃棄されたものと考えられる。

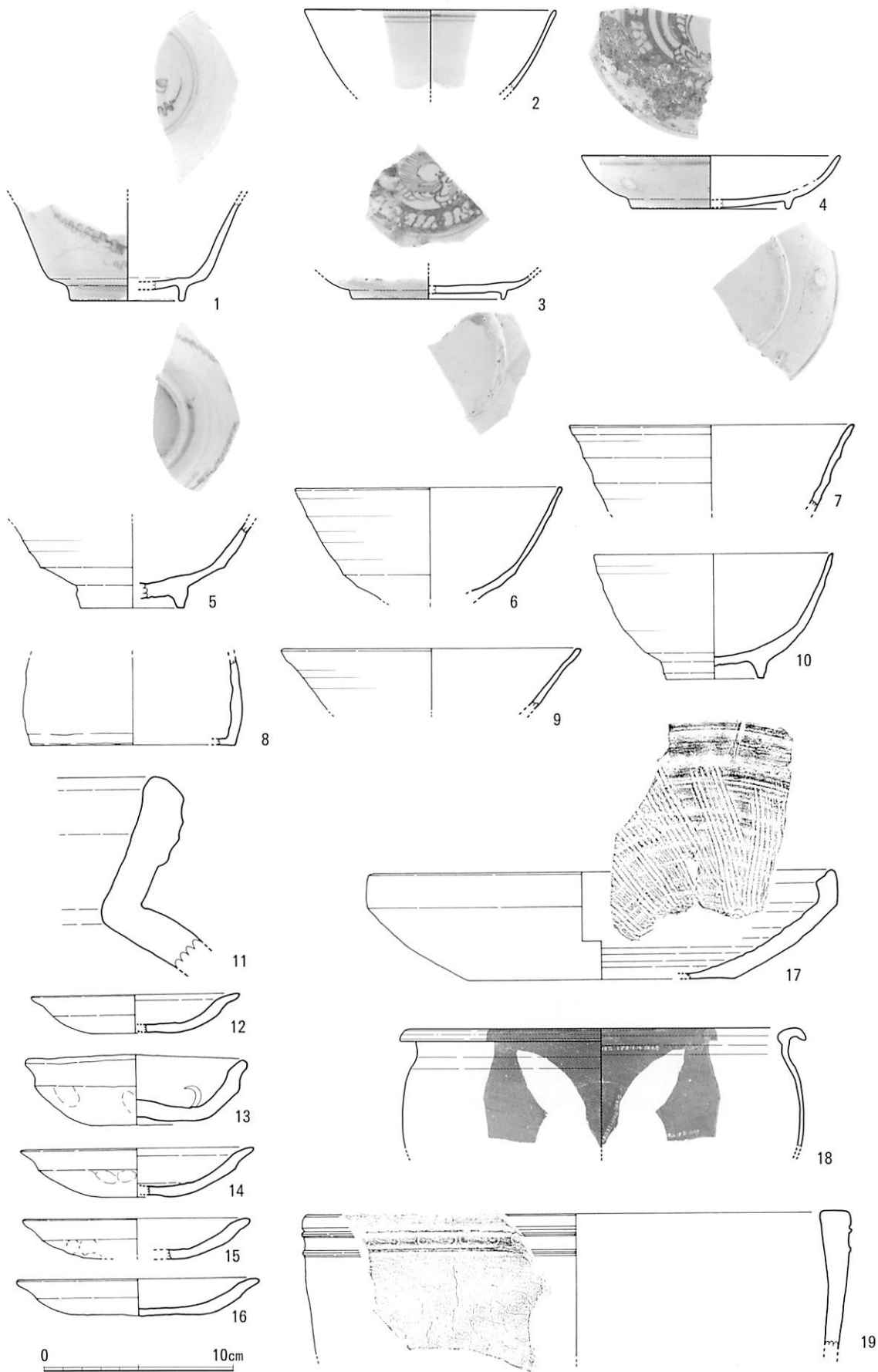
**SB017出土遺物（第47～49図）**

第47図1～8はSB017下層から、また、9はP1、10はP5、11はP15、12はP14、13はP13からそれぞれ出土した。1は中国産白磁碗であり、S字状に外反する口縁をもつ。乳白色の釉葉が厚くみられ、見込み部に砂目の重焼き痕が確認できる。2は中国景德鎮窯系青花碗であり、外面に菊文様がみえる。3・9は土師質土器皿であり、内面にはロクロ痕が残る。4は土師質土器坏である。5～8、10～13は京都系土師器皿であり、塩地編年1期に属する特徴をもつ。

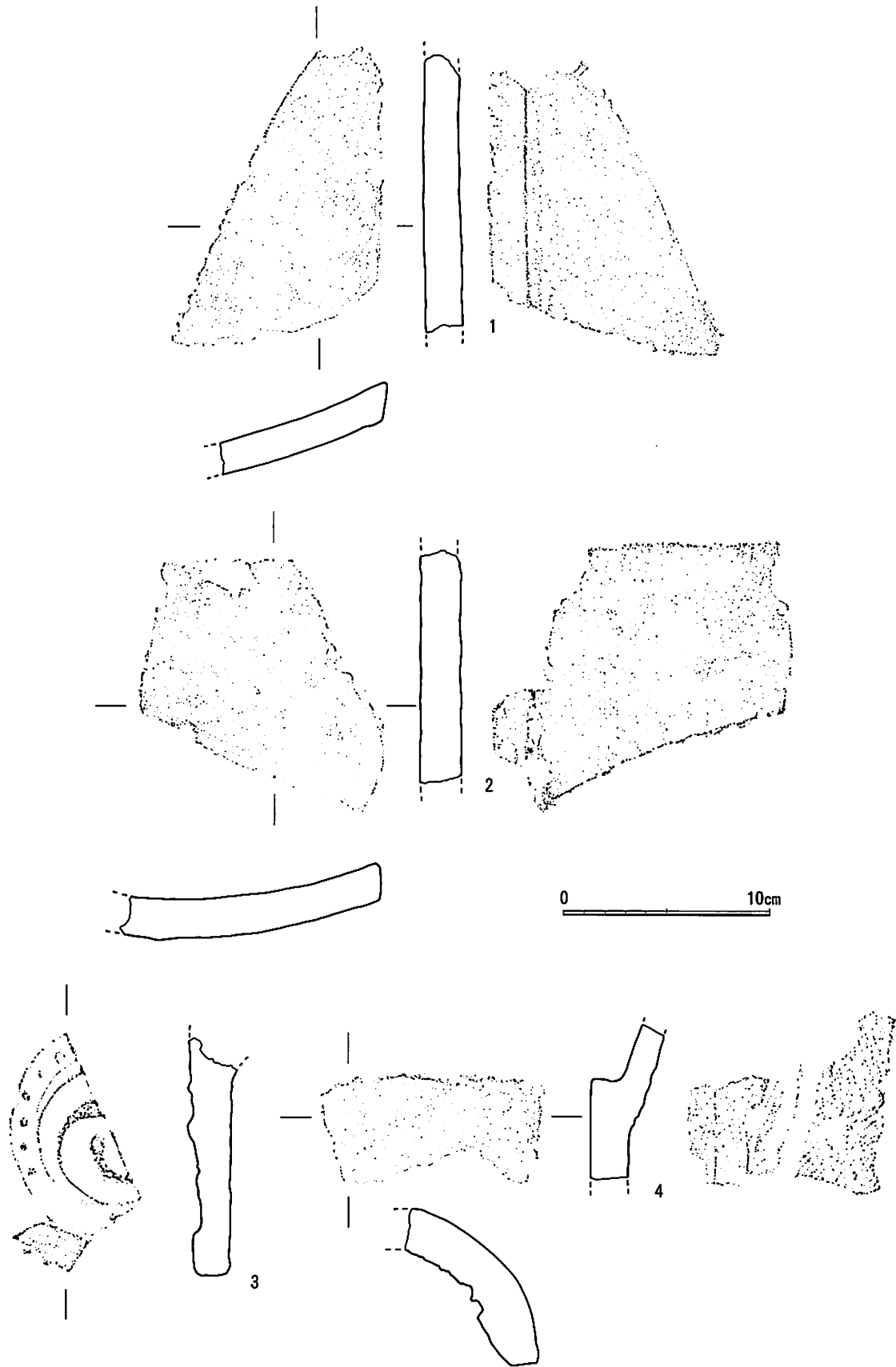
第48図はSB017が廃絶後の窪地状地形に廃棄された遺物である。1～5は中国景德鎮窯系青花碗である。5は小野分類E群におさまる饅頭心タイプの形態をもち、見込みに龍文、高台内に「上品□□」の字款がみえる。6は中国産白磁碗の底部片であり、内面見込み部を蛇の目状に釉剥ぎしている。高台に沿って円形に打ち欠いて成形し、再利用している。7は中国景德鎮窯系青花碗であり、腰部で折り曲げ上方に延びる小野分類D群におさまる。8は中国景德鎮窯系青花皿である。破片であるが円形に加工しているようにもみえる。9は中国龍泉窯系青磁壺である。10は黒釉瓶である。丸い胴部にまっすぐ上方に延びる首をもつ形態をもち、内外面に黒釉が施されている。中国産であろうか。11・12は朝鮮王朝産陶器碗であり、見込み部および高台畳付けに砂目痕がのこる。13～15は土師質土器皿である。16～23は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期に属するものであろう。

第49図はSB017が廃絶後の窪地状地形に廃棄された遺物である。1～3は備前系焼締陶器播鉢で



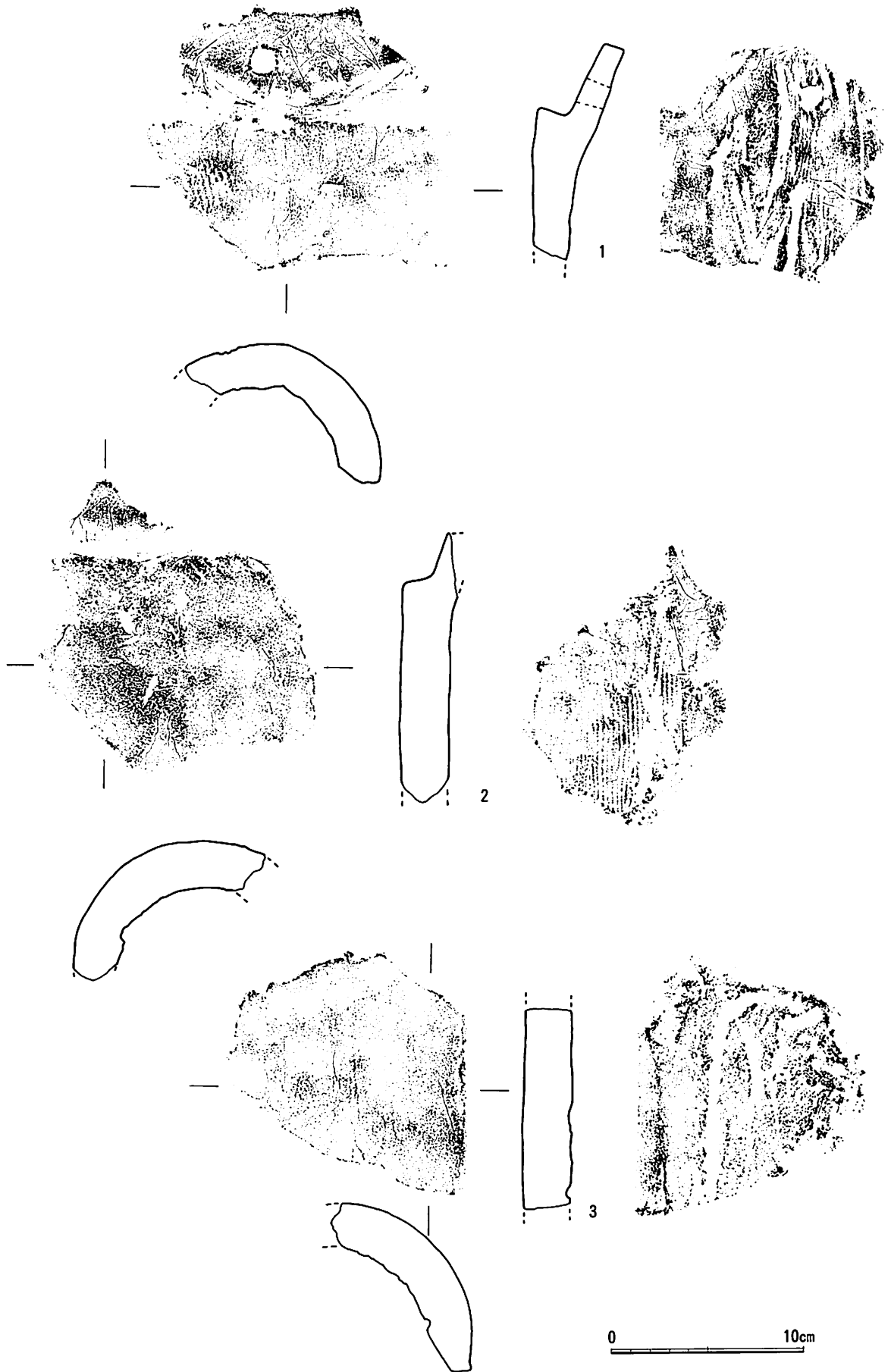


第43図 第18次西調査区SK015出土遺物実測図① (1/3)



第44図 第18次西調査区SK015出土遺物実測図② (1/3)

第2節 遺構と遺物

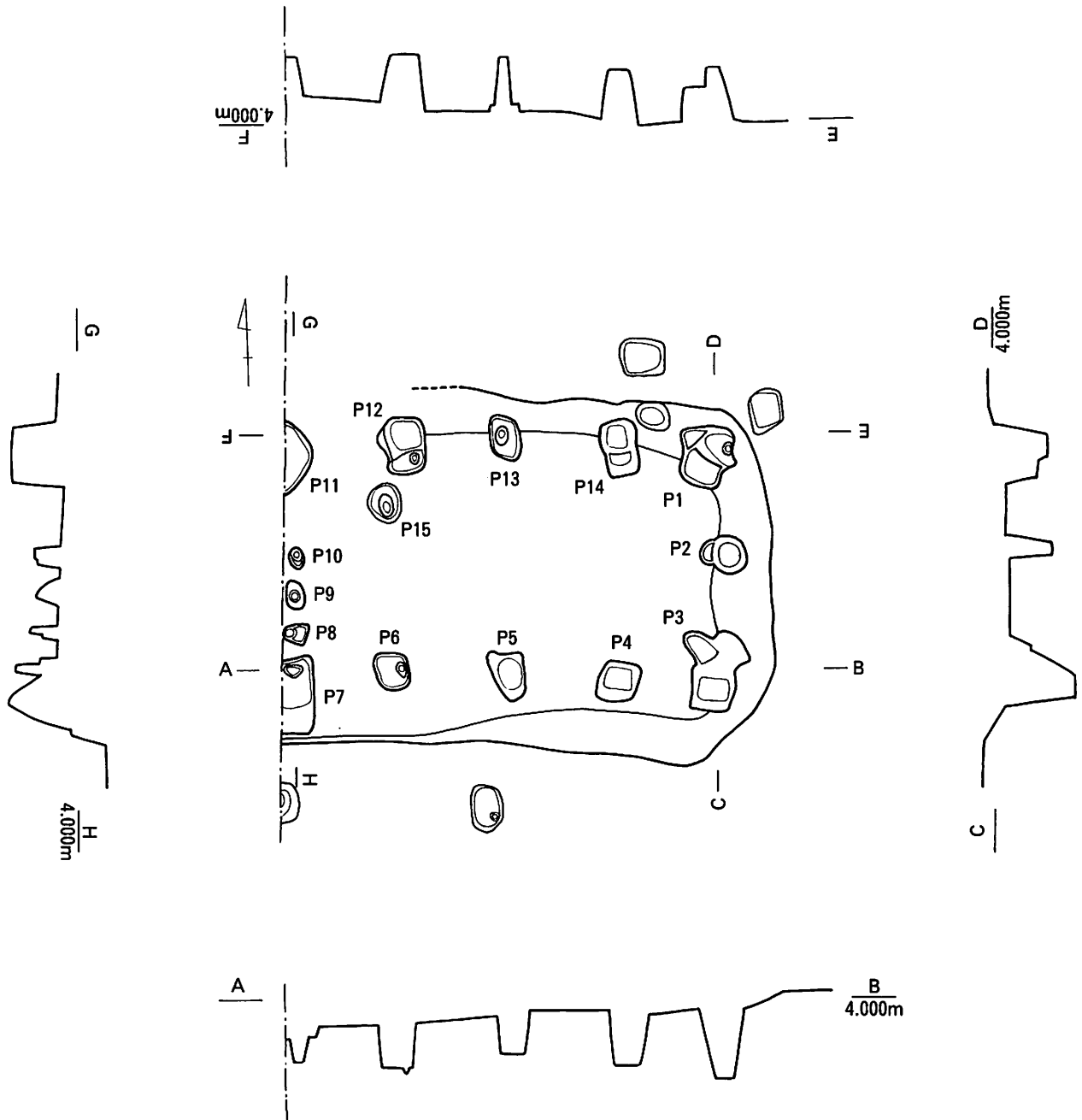


第45図 第18次西調査区SK015出土遺物実測図③ (1/3)

ある。1・3は放射状スリメに加えて、ナナメ方向のスリメが付加されており、乗岡編年近世1c期に帰属するものである。4は瓦質土器鉢である。5～7は軒平瓦であり、唐草文がみえる。8は丸瓦であり、凹面にナナメ緩弧状の糸切り痕（コビキA）がみえる。9は平瓦である。

SB018（第50図）

調査区北西端のI13区・I14区に検出した東西棟掘立柱建物跡である。調査区内には東西（桁行）2間（心間総長390cm、西から190cm+200cm）が確認されており、この遺構が調査区北西端に位置するため、西限はさらに調査区外に延びる可能性がある。南北（梁間）1間（530cm）であるが、梁間間には現在の攪乱やSD009、SD010の遺構が存在し、削平されていることも考えられるが、その可能性は低いものと思える。梁間方向はN-4°-Eである。



第46図 第18次西調査区SB017実測図（1/60）

SB018出土遺物（第51図）

第51図1・2・4・5・8はP1、3・6・7・9・10・13はP2、11・14はP4、12はP5から出土した。1は丸い胴部に短く外反する口縁がつく中国製白磁壺である。2次焼成を受けており、変質している。2は朝鮮王朝産陶器碗である。3は土師質土器皿である。4～11は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期に属する資料である。12は土師質土器皿である。径が18cmを測り、大振りであり、口縁部を上方につまみ上げる特徴的な形態をもつ。13は備前系焼締陶器甕の底部片である。14は土錘である。

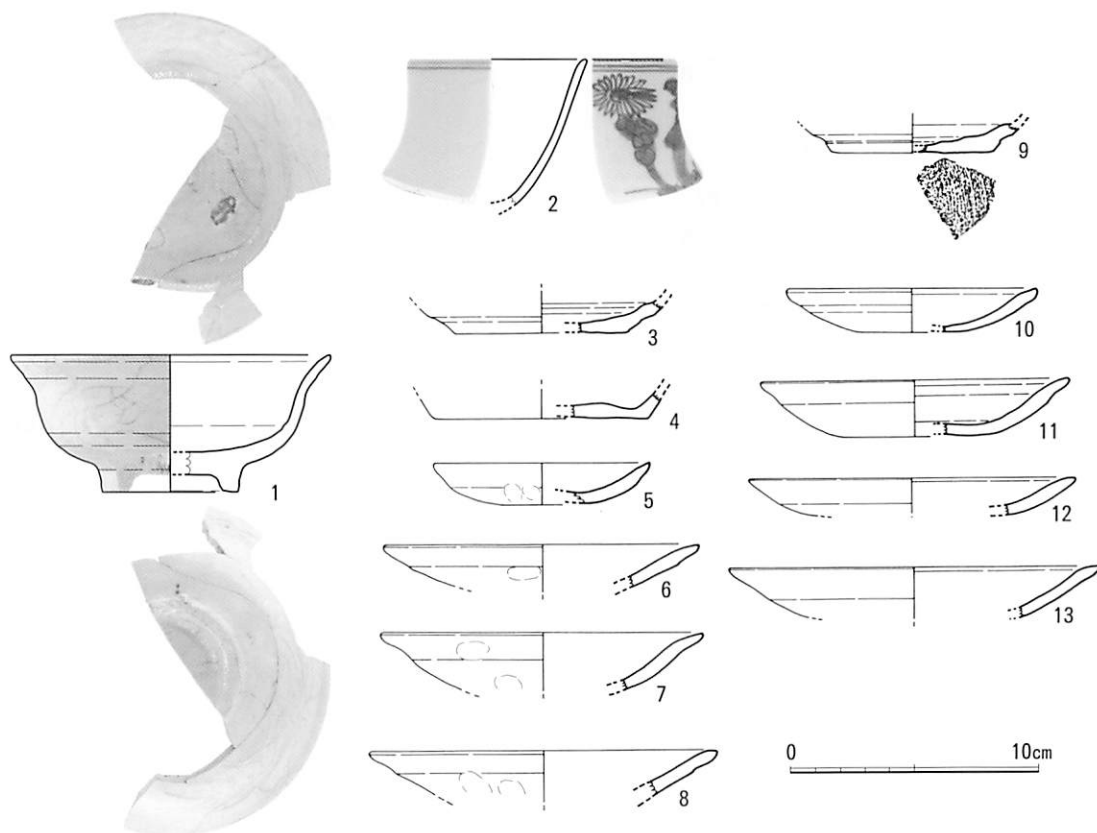
5. その他の遺構

SF019（第2・3図）

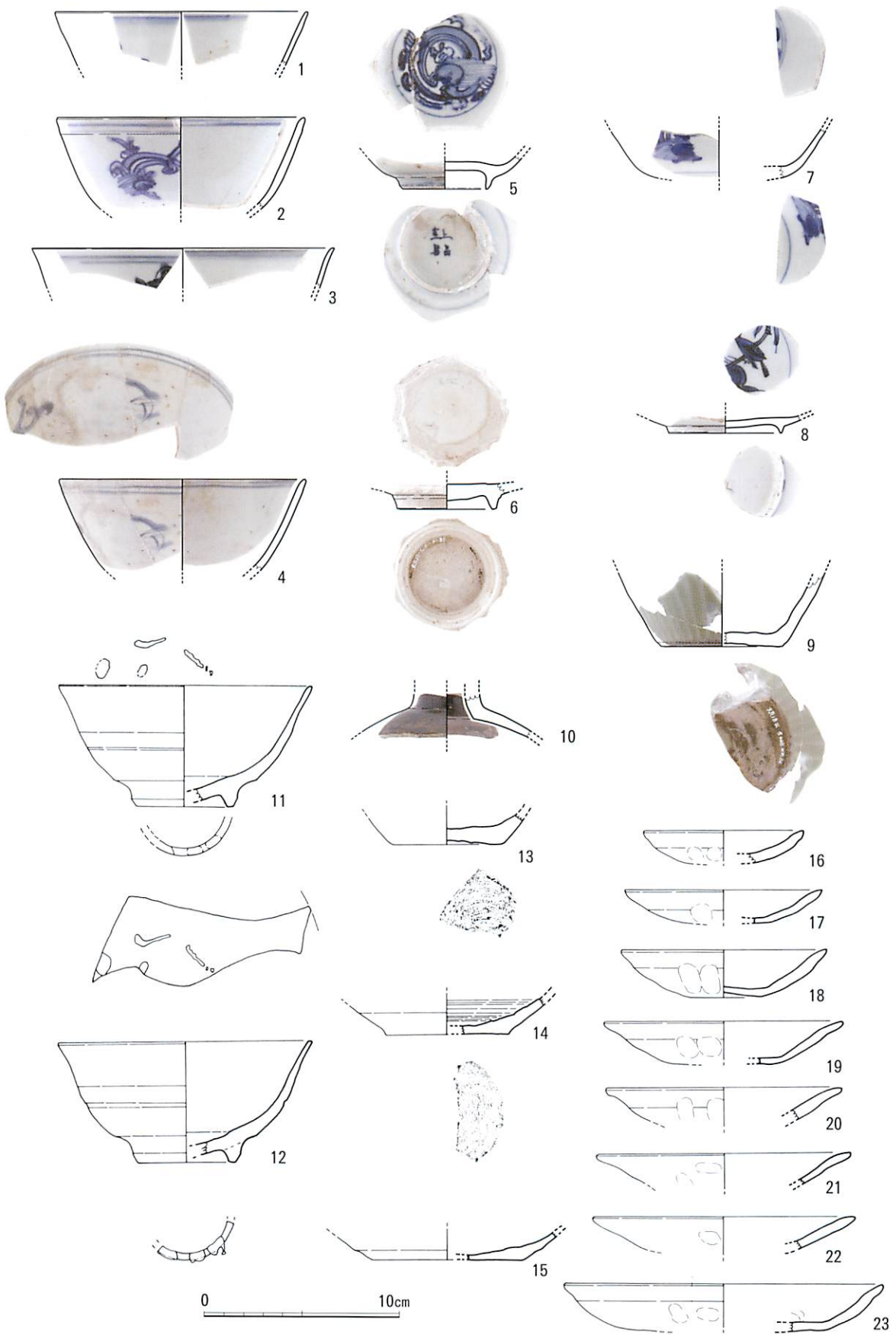
調査区中央に南北に連なり、嵩上げされている道路遺構である。地山上の最下層に灰褐色シルトが堆積し、この上面に細かく砕いた土器片（第52図）が敷かれており、道路敷設時の整地作業であると判断した。厚さ5～10cmの堆積土の嵩上げが施され、道路整地層の総厚30cm程度を測る。堆積土は砂層とひじょうに硬質な薄い粘土層が重なり合う特徴をもち、最上層は小さな炭・焼土を含む整地層であるため、火災処理土を道路整地に利用して最終段階の道路面としたことがわかる。

SF019出土遺物（第52～56図）

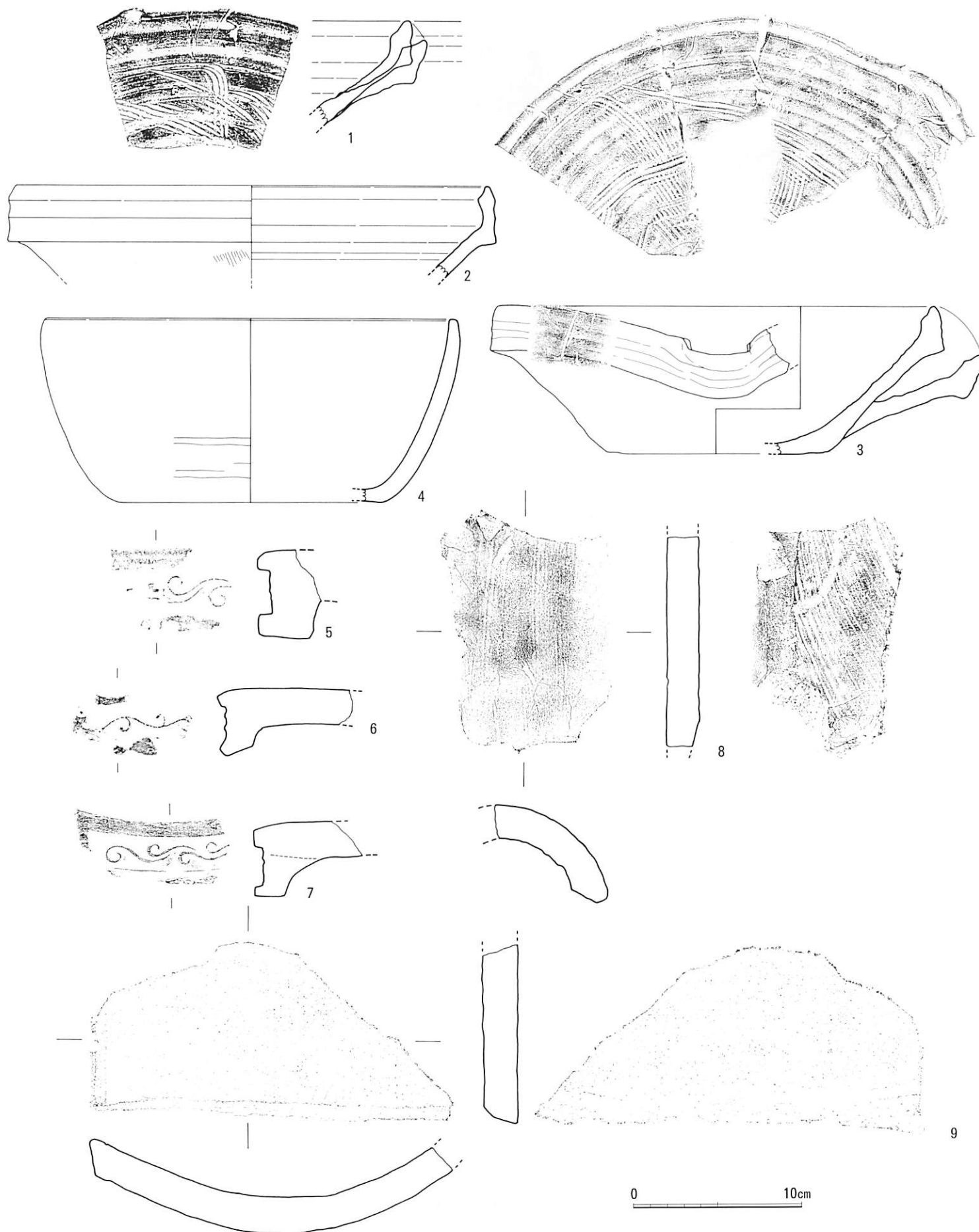
第52図はSF019最下層(44層)から検出された遺物である。1は中国景德鎮窯系青花瓶であり、緩やかに外反する頸部に直立する口縁がつく。2は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類C群におさまる基筈底タイプの形態をもつ。2次焼成を受けているため、胎調も釉調も変質している。3は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる饅頭心タイプの形態をもつ。高台内には字款がみえる。4は中国龍泉窯系青磁皿である。5中国同安窯系青磁皿であり、見込みには櫛描文がみえる。6～14は土師質土器皿である。15は土師質土器香炉である。逆台形の脚を付け、調整は丁寧



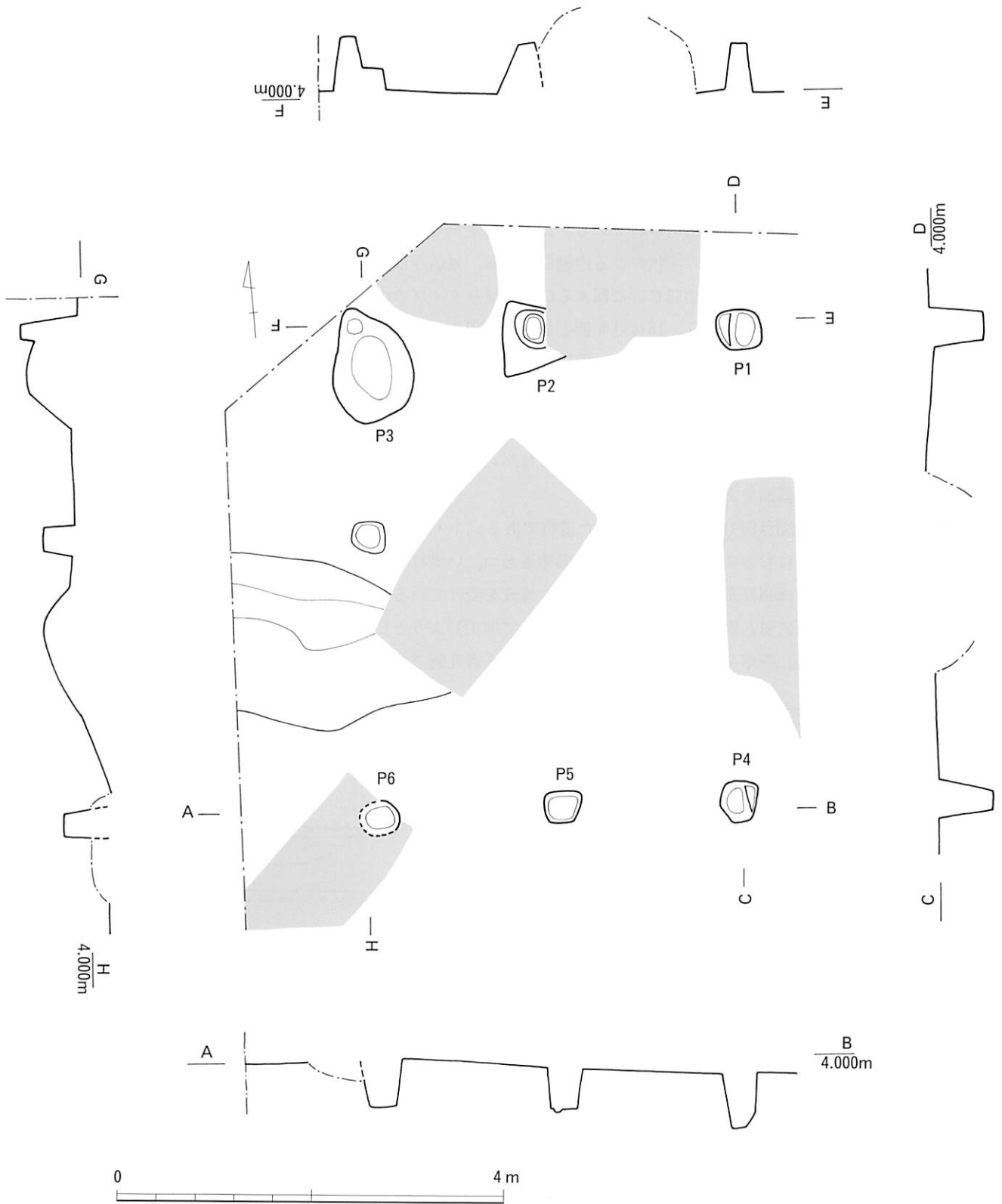
第47図 第18次西調査区SB017出土遺物実測図①（1/3）



第48図 第18次西調査区SB017出土遺物実測図② (1/3)



第49図 第18次西調査区SB017出土遺物実測図③ (1/3)



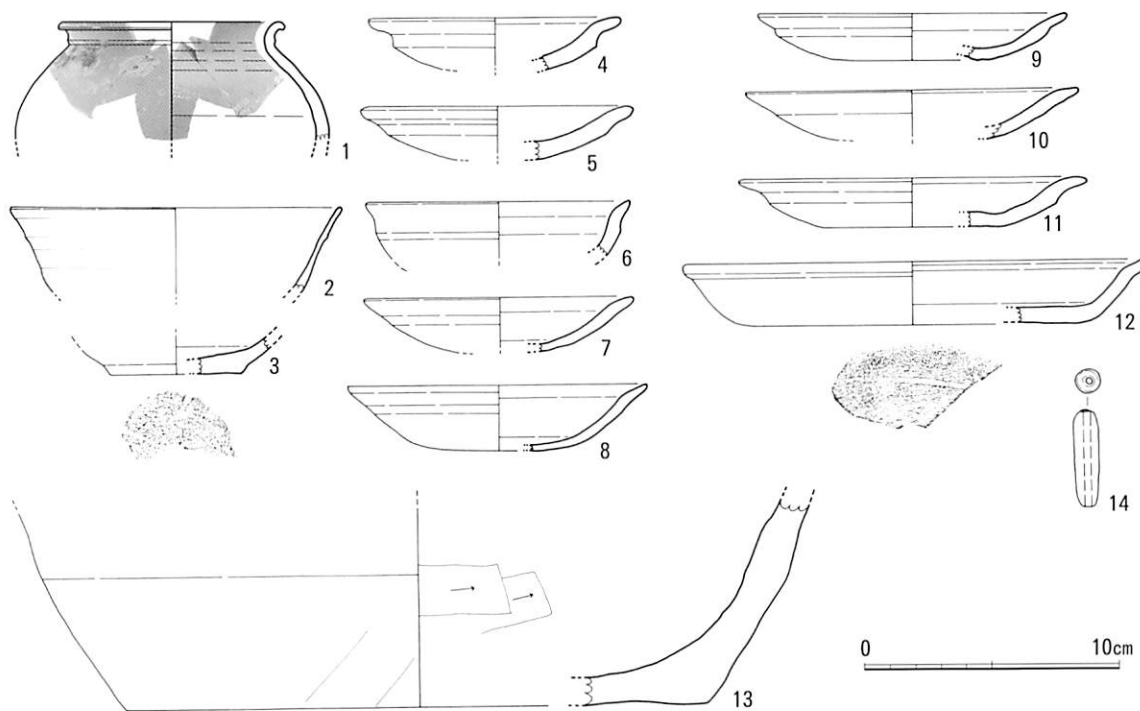
第50図 第18次西調査区SB018実測図 (1/60)



に磨いている。16～34は京都系土師器皿である。塩地編年1～2期に属する資料である。35は中国龍泉窯系青磁盤である。口縁部をくの字状に折り曲げ、口縁端部を上方に突出させる形態をもつ。36は中国漳州窯系青花碗であり、小野分類C群におさまる蓮子碗である。外面腰部に蓮弁文を廻し、見込み部には草書体の「福」の字を描いている。

第53図1～24は33層から、また、25～31は37・39層から出土した遺物である。1は白磁皿であり、乳白色の厚い釉がかけられている。2は中国漳州窯系青花皿であり、見込み部は露胎のままである。2次焼成をうけ胎調・釉調とも変質している。3は白磁皿であり、つば皿の口唇を稜花状に仕上げている。4は青白磁香炉である。5は備前系焼締陶器壺であり、肩部に櫛描文を描く。6は備前系焼締陶器插鉢であり、放射状スリ目にナナメスリ目を付加している。7は土師質土器杯である。8は土師質土器皿であり、内面に強い螺旋状のロクロ痕が残る。9～11は京都系土師器皿であり、9は灯明皿として再利用されている。12は銅製金具である。鞘尻金具であろうか。13は高台から口唇部に向かい、逆ハの字状のびる白磁皿である。見込みは露胎のままであり、乳白色の釉薬をかけている。14は小野分類皿B群に属する口縁端反りタイプの中国漳州窯系青花皿である。15から20は京都系土師器皿であり、15は灯明皿として再利用されている。21は土師質土器皿であり、外面に強い螺旋状のロクロ痕が残る。22は用途不明の銅製品である。断面八角形の棒状製品であり、太い端に2本の刻目をもつ。23は瓦質土器鉢である。24は備前系焼締陶器插鉢である。25は中国漳州窯系青花碗であり、見込みは露胎のままである。見込みの釉境には重ね焼き痕が残る。26は龍泉窯系青磁皿である。腰で折れて口縁に端反りしながら延び、内外面に線彫り模様が見られる。27～31は京都系土師器皿である。

第54図はSF019から検出された遺物である。1・2・7は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる饅頭心タイプの形態をもつ。いずれも見込みに花文、高台内に字款がみえる。3は中国漳州窯系青花碗であるが、2次焼成を受けているため、変質が著しい。4は砥石である方柱状粘板岩質石製品の中央に切り目を入れて加工しようとした未製品である。5は軒平瓦であり、瓦当文様に唐草文がみえる。6は中国漳州窯系青花碗であり、見込みを蛇の目状に釉剥ぎしている。



第51図 第18次西調査区SB018出土遺物実測図(1/3)

8は中国景德鎮窯系青花皿である。9は型作りの白磁小杯である。外面に菊模様をまわし、内面は露胎である。10は中国龍泉窯系盤であり、受け口状の口縁をもつ。11は中国漳州窯系青花碗である。12は褐釉火入れであろうか。13は備前系焼締陶器小壺であり、肩部に1条の沈線を巡らす。14は備前系焼締陶器平鉢である。

第55図は用途不明のボタン状ガラス製品である。うすく緑がかかった色調を呈し、表面は風化のためか、白色を呈する。

第56図1・2は銅銭であるが、銭種不明である。

## 6. ピット

第57図は側面に菊状の条溝をめぐる銅製権である。上端の吊り紐穴は小さな円孔を呈する。重量は50.9gをはかる。

第58図はSP020から出土した「寛永通寶」（1636年初鑄）であり、古寛永に属する。

第59図はピット出土の遺物である。1は中国景德鎮窯系青花碗であり、3は小野分類C群におさまる蓮子碗の形態をもつ。2は中国漳州窯系青花碗であり、見込みおよび高台周辺を露胎にしている。4は中国景德鎮窯系青花小杯である。腰で折れた形態をもち、見込みに毛彫りの花文を描き、高台内に「宣徳年製」の字款がみえる。6は白磁碗であるが、白濁した厚い釉葉をかけている。7は白磁皿であり、口縁端反りの形態をもつ。9は土師質土器坏である。10～15は京都系土師器皿である。16は備前系焼締陶器播鉢である。

## 7. 包含層

調査区周辺は、かつて水田地帯が広がっていたが、昭和30～40年代に約40～50cm盛土し、宅地として利用されていた。そのため、盛土下には水田耕作土・水田床土・酸化鉄沈着層・マンガン層などの旧水田に伴う土層が展開していた。旧水田に伴う土層下ほぼ全面に広がる6～9層は5～20cmの厚さで堆積しており、中世の遺構群はこの層を取り除き、はじめて確認できた。

特に注目される層はI・J・K-13・14・15地区において確認できた15層である。15層は炭・焼土等が大量に含まれる火災時の堆積層であり、出土遺物も被熱したものが非常に多く確認できる。

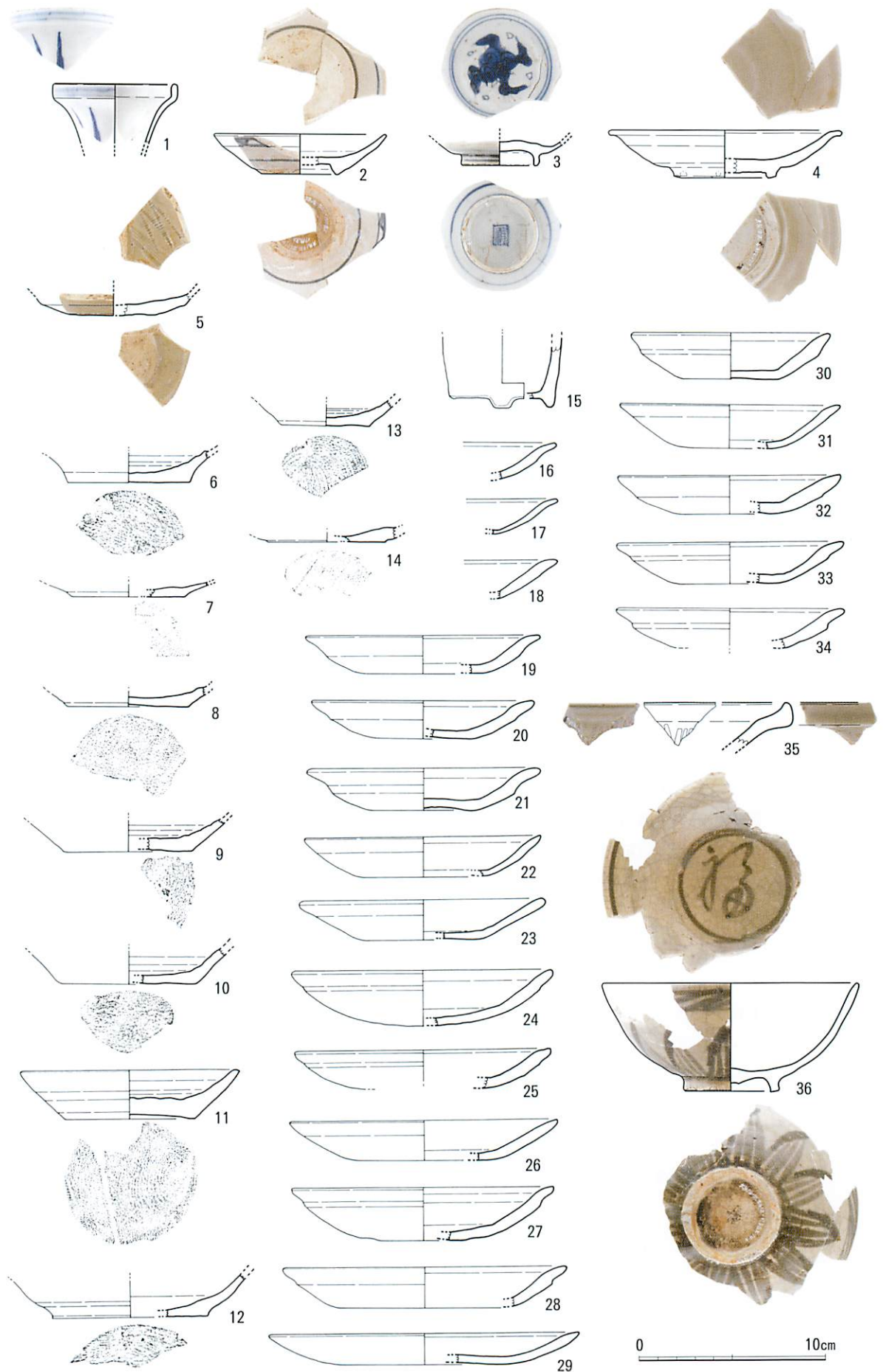
### 西調査区出土遺物（第60～69図）

#### 15層出土遺物（第60～65図）

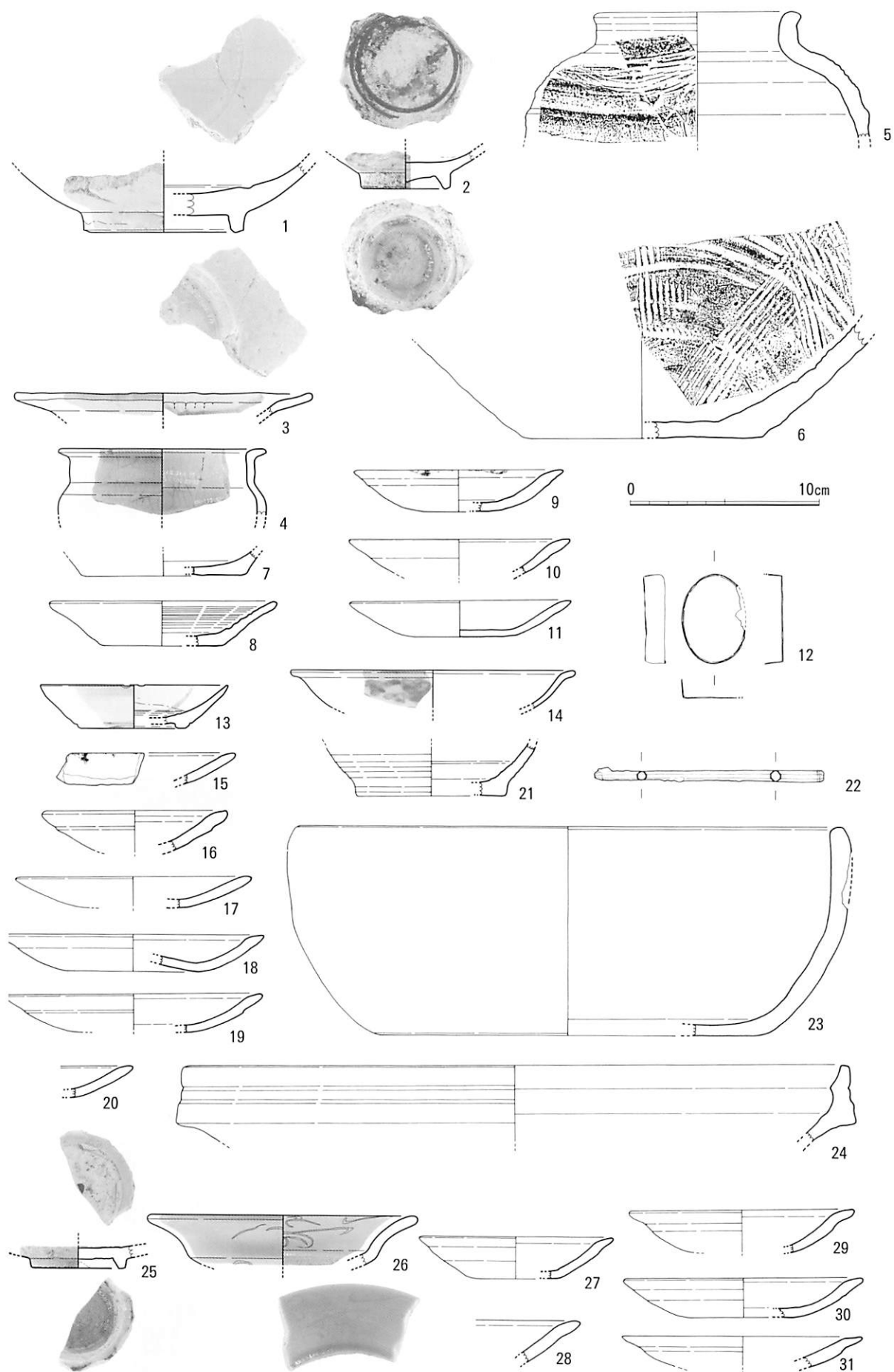
第60図は中国景德鎮窯系青花碗である。1～4・6・9は饅頭心碗のタイプであり、小野分類E群におさまる。1～5・9には高台内に字款がみえ、1～4・6・9は見込みに龍文がみえる。

第61図1～5・7は中国景德鎮窯系青花碗である。小野分類E群におさまる饅頭心碗のタイプであり、1～5には見込みに花文がみえる。8～14は中国景德鎮窯系青花皿であり、8～10は小野分類E群におさまる。15は中国産磁器五彩である。端反り形態の口唇部を玉縁状にしている。内外面に赤・緑の彩色がみられる。16は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類C群におさまる碁碁底タイプの形態をもつ。見込み部は露胎のままである。

第62図1は白磁碗である。口縁を端反りするタイプであり、外面に横方向のケズリの単位が残る。透明釉がかかるが、磁胎が灰白色を呈するため、同様の発色をもつ。2は中国龍泉窯系青磁碗である。3は中国龍泉窯系青磁香炉である。口縁を内側に肥厚させる特徴をもつ。4は中国龍泉窯系青磁盤である。5は青磁の瓶の類につく注口部であろうか。6は白磁壺である。球形の形態をもち、透明釉がかかるが、磁胎が灰白色を呈するため、同様の発色をもつ。7は白磁壺である。球形の形態に短く外反する口縁部をもつ。2次焼成を受けており、釉調・胎調とも著しく変質している。8は朝鮮王朝産陶器鉢である。薄い器壁と上げ底状の形態が特徴である。底面を含め、内外面に施釉され、陶胎の色から褐色に発色する。9～12・17は朝鮮王朝産陶器碗である。13・15は唐津産陶器皿である。13は釉葉が緑色の発色をもち、15は肌色の色調を呈し、見込みに胎土目の重ね焼き痕が



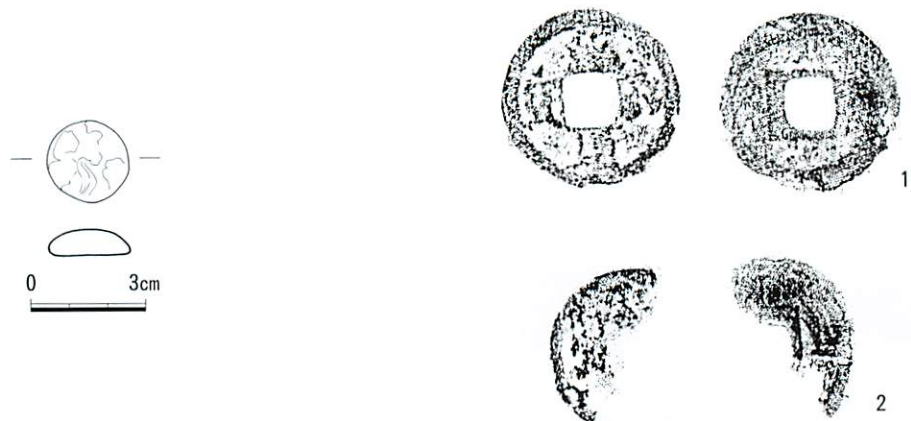
第52図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図① (1/3)



第53図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図② (1/3)



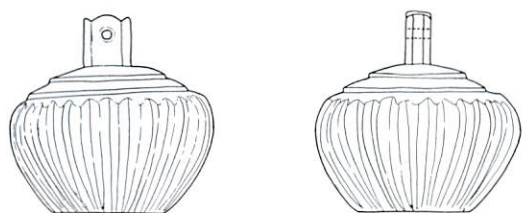
第54図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図③ (1/3)



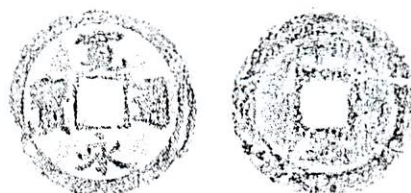
第55図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図④(1/2)

第56図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図⑤ (1/1)





第57図 第18次西調査区SP020出土遺物実測図① (1/1)



第58図 第18次西調査区SP020出土遺物実測図② (1/1)

残る。14・16は唐津産陶器碗であり、いずれも暗緑色の色調を呈する。18・19は朝鮮王朝産陶器舟徳利の口縁部片である。

第63図1は瀬戸美濃系陶器折縁皿である。低平な器形をもち、大窯4期末（16世紀末～17世紀初）の時期に比定されよう。2は土師質土器皿であるが、内面につよいロクロ痕を残す。3は備前系焼締陶器茶入れであろうか。体部に縦方向に2本の不規則な線刻がみられる。5～10・12・13は京都系土師器皿である。11は京都系土師器小皿である。14は備前系焼締陶器である。床面に緋襷文様が著しく確認できる。建水あるいは水差しの類であろうか。15は京都系土師器小皿を、また、16は土師質土器小皿をそれぞれ利用した耳皿である。17は瓦質土器風炉である。18は須恵器甕口縁であるが、産地・時期等は明らかでない。19は丸瓦であり、内面に櫛目がみられる。20・21は硯である。22は土師器片を円盤状に再加工したものである。23は土錘である。24は銅製品である。キセルの吸



第59図 第18次西調査区ピット出土遺物実測図 (1/3)

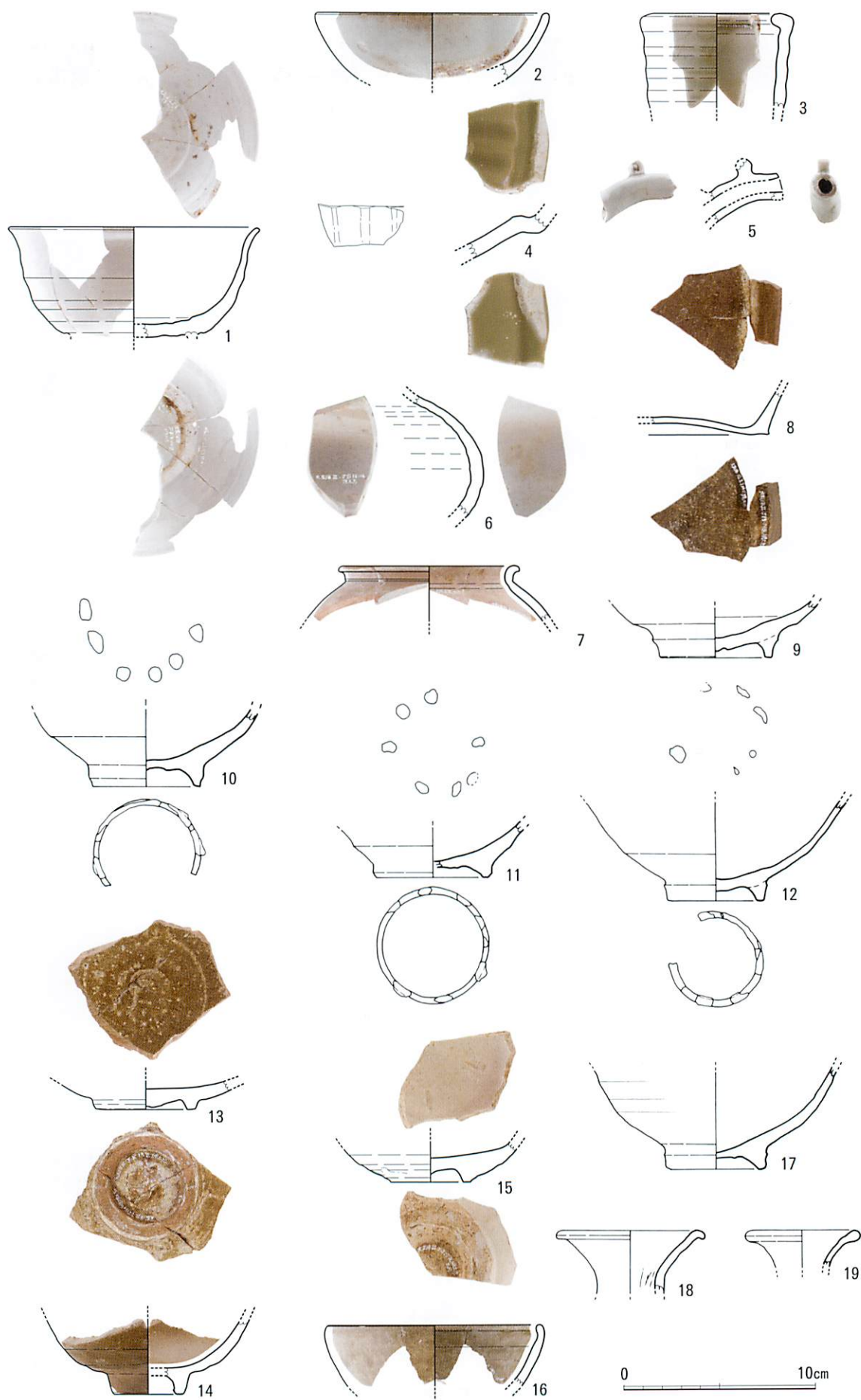


第60図 第18次西調査区15層出土遺物実測図① (1/3)

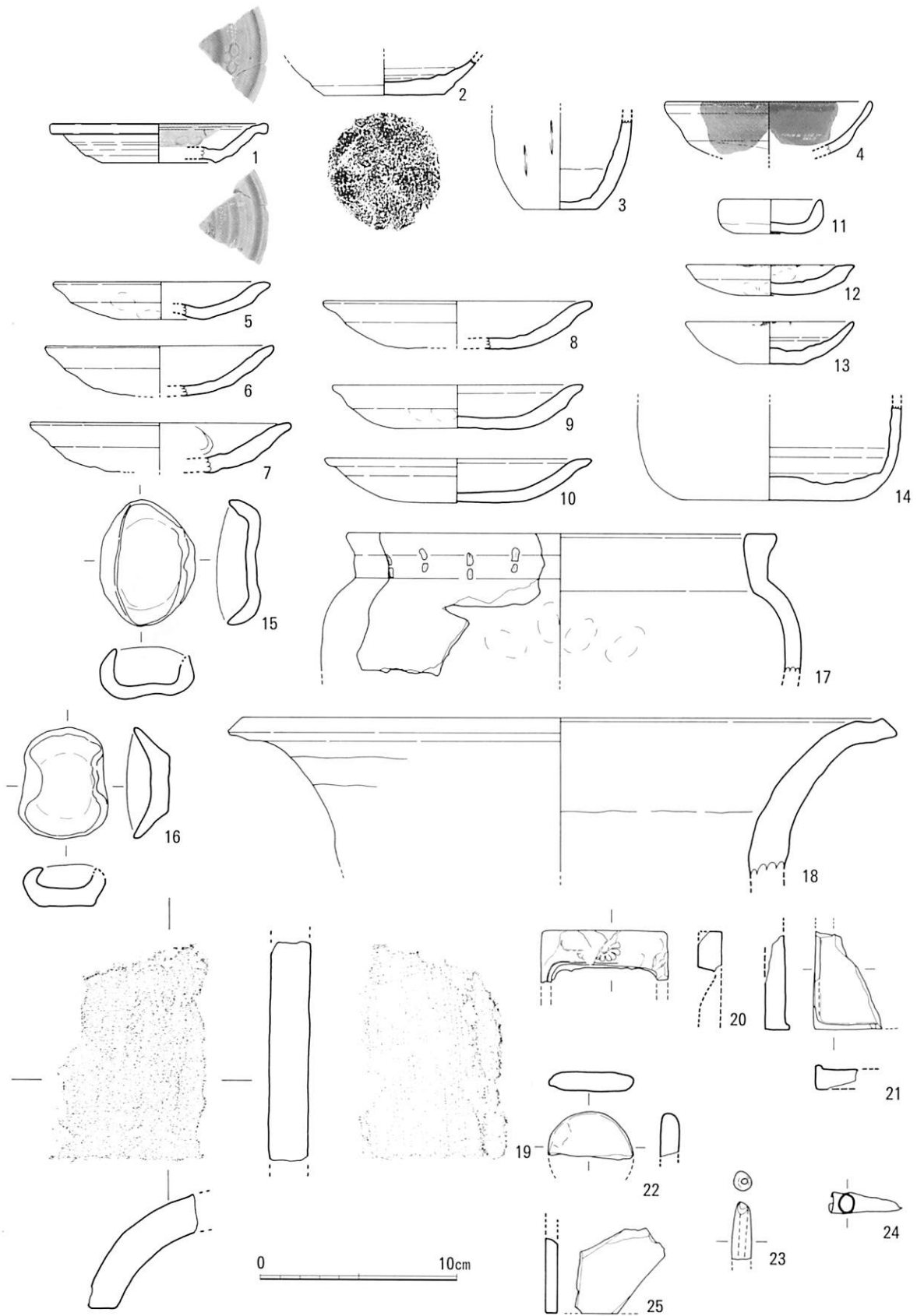


第61図 第18次西調査区15層出土遺物実測図② (1/3)





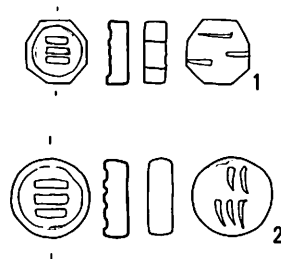
第62図 第18次西調査区15層出土遺物実測図③ (1/3)



第63図 第18次西調査区15層出土遺物実測図④ (1/3)

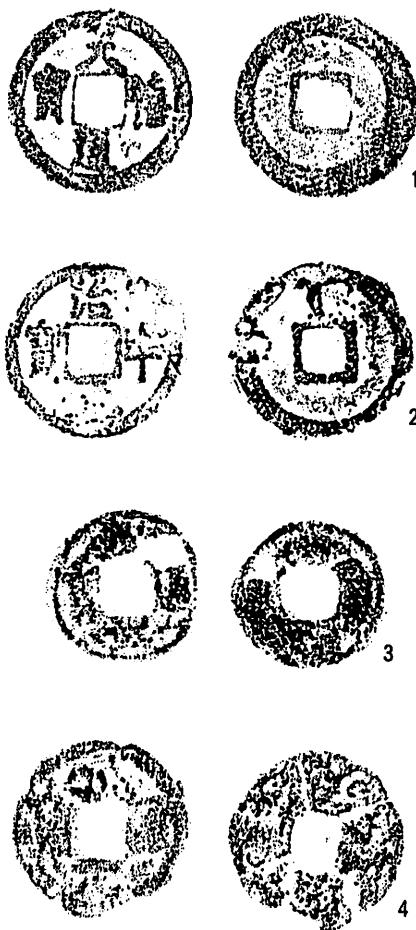
い口であろうか。25は板ガラスの破片である。透明緑色を帯び、細かな気泡が含まれる。

第64図はボタン形をした分銅である。1は平面形八角形の周縁を円形に縁取り、その中に「三」の字に似た意匠を陽刻する。裏面には三本の楔状の陰刻を彫り込んでいる。2は平面形円形の周縁を円形に縁取り、その中に「三」の字に似た意匠を陽刻する。裏面には5本の楔状の陰刻を彫り込んでいる。



第64図 第18次西調査区15層出土遺物実測図⑤ (1/1)

第65図は15層出土の銭貨である。1は「天禧通寶」(1017年初鑄)である。2は「治平元寶」(1064年初鑄)である。3・4は銭種不明である。

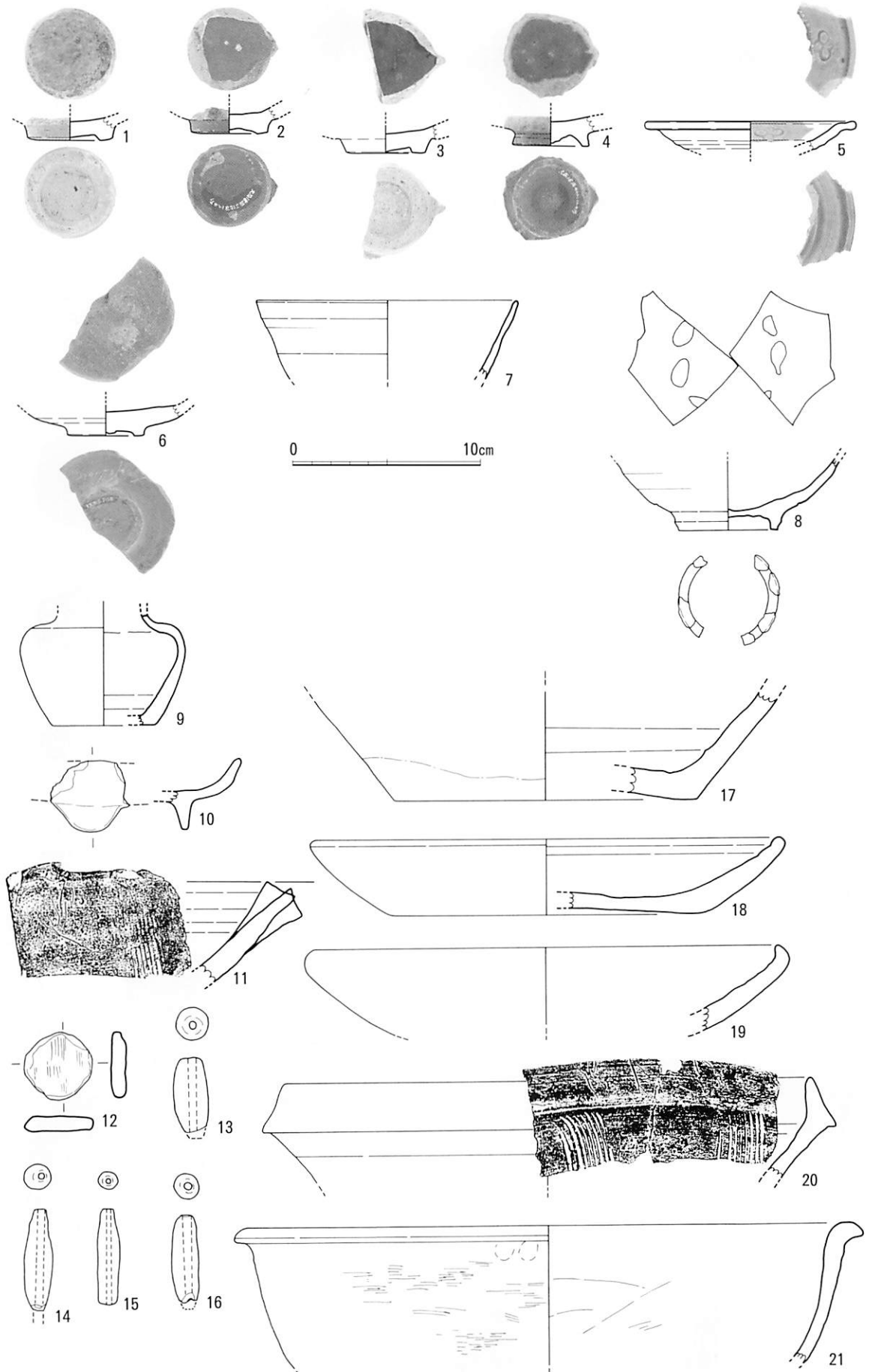


第65図 第18次西調査区15層出土遺物実測図⑥ (1/1)

第66図1は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類C群におさまる蓮子碗の形態をもつ。胴部外面には芭蕉文を描き、高台とは圏線で界する。2は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる饅頭心碗の形態をもつ。見込み部には龍文を描き、高台内には「長春□貴」の字款がみえる。3は中国景德鎮窯系青花皿であり、高台内には「□□年□」の字款がみえる。4は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる饅頭心碗の形態をもつ。見込み部には花文を描き、高台内には字款がみえる。5は中国景德鎮窯系青花皿である。胴部外面には細い鎬が施されており、高台外面にも唐草状の文様が施されている。6は中国漳州窯系青花碗である。2次焼成を受けており、磁胎・釉調とも変質している。外面高台部および内面見込み部は露胎のままであり、それぞれの釉境に圏線を回している。7は中国景德鎮窯系青花皿である。8は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類E群におさまる。9は中国景德鎮窯系青花皿であり、内面見込みに魚文および周縁部に渦巻文および波文を配する。10は碁筭底タイプの中国産磁器皿である。青白磁の釉調を呈する。11は中国景德鎮窯系青花小杯である。12は中国産白磁紅皿であり、口縁部および内面に施釉されている。13は中国漳州窯系青花皿である。14は中国産磁器皿である。15は中国産磁器碗である。施文された外面は青磁であり、内面は白磁の口縁に圏線を廻している。16は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類F群におさまる。17は中国産白磁皿であり、口縁端反りの形態をもつ。18は中国産青花皿であり、外面に濃青緑色の釉が施され、内面に青花がみられる。19は中国産青花皿であるが、2次焼成を受けており、磁胎・釉調とも変質している。20は内外面に褐釉が施された瓶の首部である。21は外面に



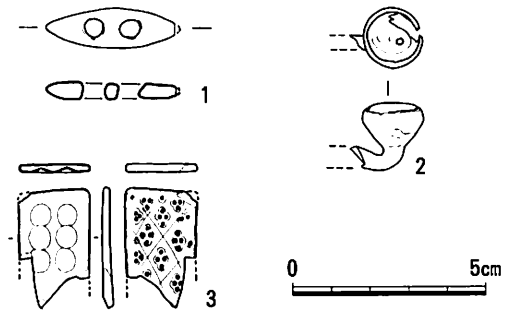
第66図 第18次西調査区出土遺物実測図① (1/3)



第67図 第18次西調査区出土遺物実測図② (1/3)

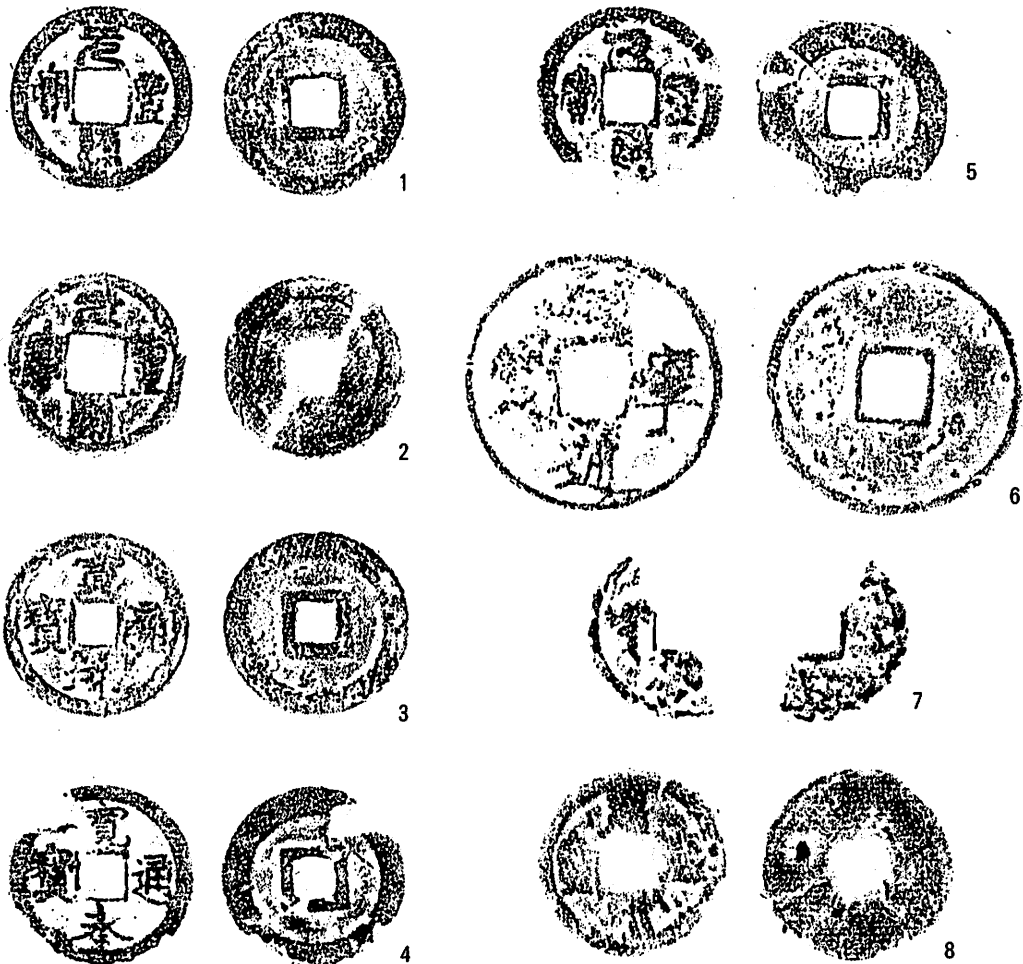
褐釉が施された長胴瓶の底部片である。22は外面に褐釉が施された人形であろうか。20・21・22とも中国南方産か。

第67図1～3は瀬戸美濃産陶器天目碗の底部片であり、円盤状に再加工したものである。4・6は唐津産陶器碗であり、4は底部片を円盤状に再加工したものである。5は瀬戸美濃系陶器折縁皿であり、器高が低平であり、大窯4期末（16世紀末～17世紀初）のものである。内面には印花技法による花文がみられる。7・8は朝鮮王朝産陶器碗であり、8には内面見込みおよび高台畳付けに砂目の重焼き痕がみえる。9は備前系焼締陶器小壺である。10は土師質土器皿であるが、U字形の脚を付け、在地に稀有な類例である。11は備前系焼締陶器插鉢である。口端下角がわずかに突出し、乗岡編年中世3a期（14世紀後半）に属するものであろう。12は土師質土器片を円盤状に加工したものであり、用途は明らかでない。13～16は土師質の土錘である。17は黄釉の陶器壺であり、外面底部付近まで施釉されている。中国南方産であろうか。18・19は備前系焼締陶器平鉢である。20は備前系焼締陶器插



第68図 第18次西調査区出土遺物実測図③ (1/2)

る。7・8は朝鮮王朝産陶器碗であり、8には内面見込みおよび高台畳付けに砂目の重焼き痕がみえる。9は備前系焼締陶器小壺である。10は土師質土器皿であるが、U字形の脚を付け、在地に稀有な類例である。11は備前系焼締陶器插鉢である。口端下角がわずかに突出し、乗岡編年中世3a期（14世紀後半）に属するものであろう。12は土師質土器片を円盤状に加工したものであり、用途は明らかでない。13～16は土師質の土錘である。17は黄釉の陶器壺であり、外面底部付近まで施釉されている。中国南方産であろうか。18・19は備前系焼締陶器平鉢である。20は備前系焼締陶器插



第69図 第18次西調査区出土遺物実測図④ (1/1)



### 第3節 小 結

鉢であり、口縁を上方に突出させており、乗岡編年中世4 a期（15世紀第2四半期）に属するものであろう。21は瓦質土器鍋であり、外面に細かいケズリを横方向に施している。

第68図1は銅製靴である。復元長縦4.5cm、横1cm、厚さ0.4cmを測り、径5mmの円形孔が2カ所に穿たれている。2は銅製キセル雁首の火皿部の破片である。3は骨を加工した骨牌である。片面に細い毛彫りの菱形模様の中に花状の模様を彫刻している。また、もう一面には円形の陰刻を6カ所彫り沈めている。

第69図は18次西調査区出土の銭貨である。1・2・5は「元豊通寶」（1078年初鑄）である。3・4は「寛永通寶」（1636年初鑄）であり、古寛永に属する。6は「崇寧通寶」（1102年初鑄）で、径3.3cmを測る当十銭である。7・8は銭種不明である。

### 第3節 小 結

#### 1. 第18次西調査区における遺構変遷

本調査区は「府内古図」に照らし合わせれば、「大友御屋敷」東隅およびその東側に走る第2南北街路、また、第2南北街路に接する「桜町」に比定されよう。それでは、各時期の遺構群の変遷を追ってみよう。

本調査区では、14世紀代に遺構群が形成され始める。まず、遺構の西肩部が他の溝により切られているためその全貌がつかめないが、幅2m前後と思われる溝（SD001）が南北に連なる。これは、後に第2南北街路（SF019）が敷設される位置の西端にあたるため、何らかの空間を画する機能を有していた可能性が高い。また、調査区東南端にも第28次調査区に延びる溝（SD002）が存在するため、これについても第2南北街路敷設前の空間を限る機能を有していたものかもしれない。本文中でふれたが、第2南北街路（SF019）が保存を検討したため、完掘しておらず、調査区大半の14世紀代の遺構は明らかでない。溝状遺構のほかには不定形の土坑（SK014）が1基確認できているのみである。

14世紀後半～15世紀前半には溝（SD001）が埋没したあとに、溝（SD003）が溝（SD001）のやや西側に営まれている。溝（SD003）は調査区南側に延びるが、北側が溝（SD004）に切られているため、溝（SD004）の位置まで延びるのか、調査区中央で途切れるのか判断しにくい。

溝（SD004）埋没後には、15世紀～16世紀前葉にこの位置に井戸（SE016）が営まれており、井戸（SE016）埋没後に16世紀前葉～中葉に溝（SD004）が掘削されている。この溝（SD004）は井戸（SE016）の位置より北側に延び、第12次調査区に北限が確認されており、総長35m程度であったことがわかる。

溝（SD004）埋没後の16世紀中葉には掘立柱建物跡（SB017・SB018）が営まれる。特に掘立柱建物跡（SB017）は床面を掘り込んだ倉庫であり、大友31次調査区をはじめ竹田市久住町上屋敷遺跡<sup>(1)</sup>・竹田市久住町中原遺跡<sup>(2)</sup>においても確認されている。しかし16世紀中葉の遺構はこの掘立柱建物跡（SB017・SB018）が営まれる時期と重なるか、やや遅れて第2南北街路（SF019）が敷設されている。最下層には京都系土師器皿・土師質土器皿の細片等を使用して整地した状況が確認できた。第2南北街路（SF019）に伴う道路側溝は道路整地を除去していくにしたがい、古い段階のものが検出でき、調査区東端において初期の溝としてSD005-1・2、SD006が確認できた。以後、道路面が整地嵩上げされていくにしたがい、道路側溝は造り直されている。道路東側側溝に限れば、柵列状のピットのならばSD005-1・2、SD006を覆う道路整地面上で確認でき、その他の

註 (1) 大分県久住町教育委員会『小路遺跡・上屋敷遺跡』2000年

(2) 久住町教育委員会・大分県教育委員会『小城原遺跡・中原遺跡』2002年

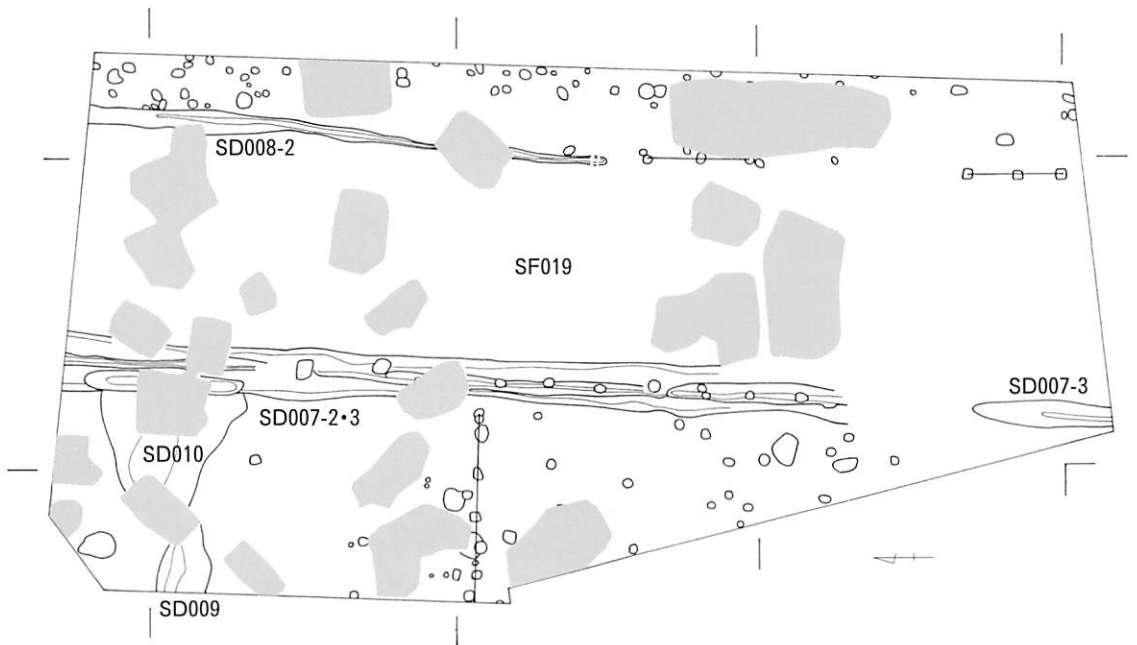


第70図 第18次西調査区遺構分布変遷図① (1/250)



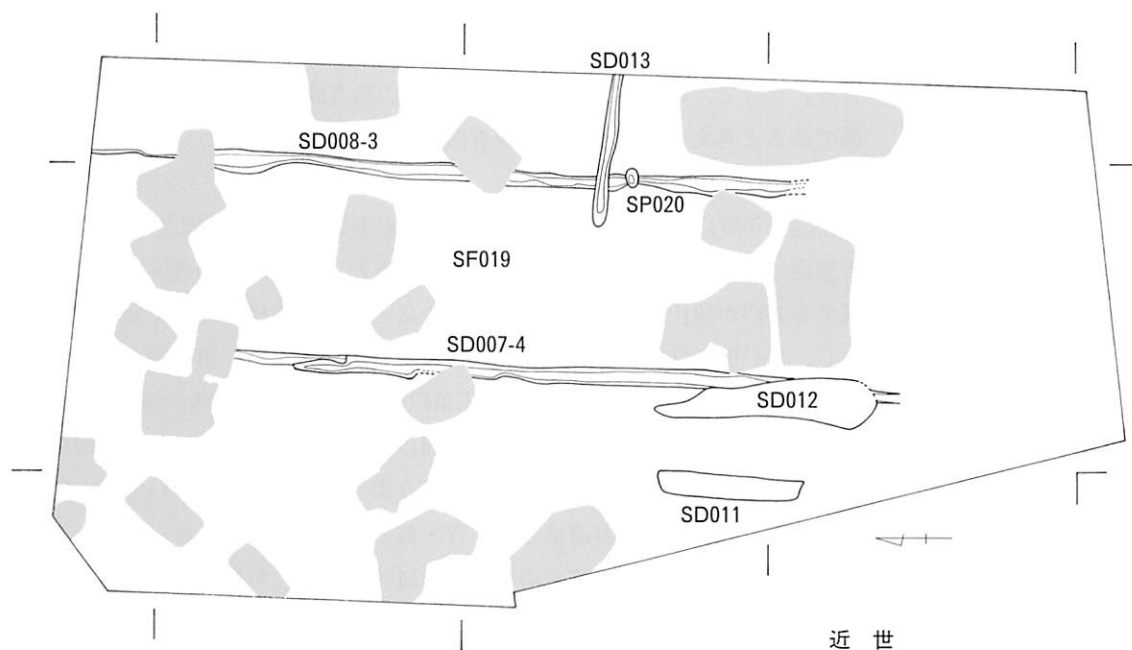


16世紀中葉～後葉



16世紀後葉～末葉

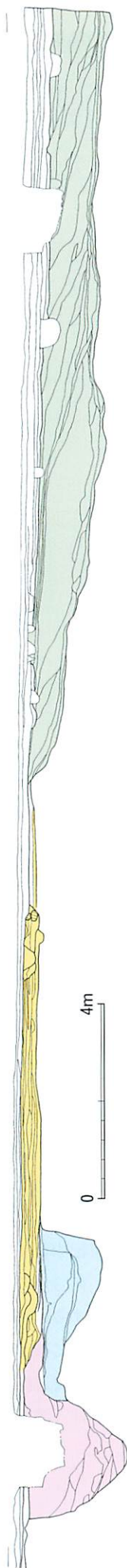
第71図 第18次西調査区遺構分布変遷図② (1/250)



第72図 第18次西調査区遺構分布変遷図③ (1/250)

溝状遺構 (SD008-1・2・3) とともに道路面が嵩上げされるたびに道路中央寄りに近づき、道幅を狭めていることがわかる。これは第2南北街路 (SF019) の西側側溝においても同様であり、SD007は4段階の掘り直しが確認できたが、規模を小さくしながら、道路中央寄りに近づいていく様相が確認できる。側溝を含んだ幅が、16世紀中葉当初、10m程度であったものが、16世紀末葉には8mに満たない道幅に狭められていることがわかる。これらは16世紀後葉～末葉の事象であり、同時代に第2南北街路 (SF019) の両側には数多くのピット群が営まれているため、この時期に一斉に町屋整備が行われたことがわかる。ピット群の中には町屋の何らかの空間を画するものと考えられる柵列状のピットの列が第2南北街路 (SF019) 西側において東西方向に確認できている。この段階の最新遺構である溝状遺構 (SD007-3) やピット群には炭・焼土が大量に含む火災処理土が堆積しているため、1580年代後半に一带が灰燼に帰すほどの大火災が生じたことがうかがえる。さらに、16世紀末葉の1590年代にはこれらの遺構群を覆うように炭・焼土および被熱した遺物を大量に含む焼土 (火災処理土) が堆積している。

近世に至ると、第2南北街路 (SF019) は継続して営まれ、両側側溝には17世紀中葉までの遺物が確認できる。また、寛永通寶 (古寛永) と銅製権が出土したSP020の存在は、何らかの商業活動の場が周辺に存在する可能性があり、興味深い。しかし、このほかには近世に属する遺構はほとんど確認できなくなり、前述した遺構から17世紀中葉までは、何らかの生活空間として機能し続けたことがうかがえる。その後の遺構として、SD011・SD012・SD013のような溝状遺構が確認されているが、これらは周辺の調査地区でも確認されているように、段階の田畑に伴う溝である可能性が高く、近世中葉にはすでに周辺が可耕地化された様子がうかがえよう。



第73図 第18次西・東調査区北壁土層断面図 (1/120)

## 2. 桜町周辺における遺構変遷

前項では、第18次西調査区における大友館前の南北に延びる第2南北街路周辺の遺構変遷について、概観してきた。

この第2南北街路の東側には「府内古図」によると「桜町」の存在が確認できる。そこで、ここでは、第18次西調査区の調査成果をふまえて、「桜町」の一部であると考えられる第18次東調査区の遺構群との関連について、若干ふれておきたい。

平成13年度以降の一般国道10号古国府拡幅事業に伴う発掘調査では、「桜町」と想定できる遺構群全域の調査が行われてきた。第18次東調査区では、古代に属する井戸が検出できた以外には、そのほとんどの遺構が16世紀後葉～末葉に属し、長い間、空闲地であったことがわかる。そのため、第2南北街路を隔てた大友氏館前の空間は16世紀後葉～末葉以前には、生活の痕跡が極めて乏しかったようである。それでは第2南北街路周辺の遺構変遷について、第73図の第18次西・東調査区北壁断面図を通して見てみよう。その変遷について、土層断面図にみえる大まかな主要遺構を赤・青・黄・緑のトーンで表わし、それらの変遷過程を追ってみよう。青色のSD001（14～15世紀）が最も先行する遺構として存在し、その埋没後に、赤色のSD004（16世紀前葉～中葉）が営まれている。これらはいずれも第2南北街路の西側端付近に営まれており、14世紀～16世紀中葉には、大友氏館の東に位置する溝が存在していたことがわかる。第18次西調査区ではSF019（第2南北街路）を保存対象として検討していたため、SF019整地層下の遺構群の実態については把握しきれなかった。しかし、第28次調査区においては第2南北街路下にはほとんど遺構が確認できなかったため、SD001・SD004以东には空闲地が広がっていたことが推測できる。

このSD004埋没後、黄色のSF019が普請されることになるが、最下層整地層から、最新の遺物として塩地編年2期に属する京都系土師器皿や中国漳州窯系青花碗皿類が出土するため、16世紀中葉～後葉に、道路普請がはじまることが確認できる。以後、継続して高上げ整地されながら営まれており、最上層には焼土・炭が混じる整地層が確認でき、また、SF019に伴う西側側溝をみると、天正14年（1586）の島津氏侵攻時の焼土と思われる埋土が入るSD017-3を切って、SD007-4が営まれているため、侵攻後に復興され、再度、道路として機能し続けていたことがわかる。その変遷過程で、道路両端の側溝は、規模を小さくし、あるいは、道路中央に寄り、道幅を狭くしながらも営まれ続けていたようである。

それでは、この第2南北街路と「桜町」部分の遺構との関係はどうであろうか。北壁断面図には緑色の大きな落ち込み遺構の埋没過程がうかがえる土層状態が確認できる。この落ち込み遺構は1mを超える深さを有し、土層観察から絶えず第2南北道路側から埋め戻され続けている様子が見えたと。この落ち込み遺構は第12次・18次東・28次調査区へと続き、南北60m、東西15m以上にも及ぶ大型のものであり、同様な落ち込み遺構は第22次調査区から9次調査区においても確認できており、この両者は同一のものである可能性が高い。さらには、「御所小路」を挟んで南側に位置する「御内町」部分においても同様な遺構が確認でき、これらの空闲地では、周辺の土木工事に伴い、盛んに土採りが

行われる場所であったことがわかる。第18次東調査区ではこの落ち込み遺構が、第2南北街路の初期の整地層を覆う土層を切ることが観察でき、16世紀中葉～後葉にかけてか、あるいはそれ以降に土採りを行った遺構であることが確認できた。しかし、この土採り坑と思われる落ち込み埋没後には、もうすでに16世紀後葉～末葉に町屋遺構と思われる遺構群が営まれているため、掘削後、さほど長い期間を要せず埋められていたことがわかる。別の調査区の落ち込み状遺構と比較すれば、第9次調査区Ⅲ区では、落ち込み状態が長く続き、最も低い位置に存在するSX034は水溜り状を呈し、この中に、塩地編年3期に属する京都系土師器皿や「彫三島」とよばれる朝鮮王朝産陶器碗が出土するため、16世紀後葉～末葉に至っても、落ち込み状態のまま放置されていたことがわかる。これは、第12次・18次東・28次調査区では落ち込み状遺構が比較的第2南北街路に近接した場所であったため、町屋形成のためには、埋め戻す必要性があったことに対し、9次調査区の落ち込みは、町屋裏の廃棄土坑や井戸等の施設より、さらに裏手に位置するため、必ず埋め戻さなければならないという必要性に乏しかったためであろうか。

以上、第18次西・東調査区の北壁断面図により、大友館前の濠・道路・町屋の形成過程について略述してきたが、大溝が営まれた時期（14世紀～16世紀中葉）と第2南北街路が営まれ、町屋が形成された時期（16世紀中葉～近世初頭）に大きく遺構の変遷が区分できよう。

## 第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

### 第1節 調査の概要

中世大友府内町跡第18次東調査区は大分市錦町3丁目に所在し、標高約5.5mの沖積低地上に立地する。現在周辺地域は宅地として開発されているが、昭和30～40年代までは、水田として利用されていた。

1987年に大分市史編さん委員会により作成された「戦国時代の府内復元図」によると、当該調査区は大友氏館跡とは第2南北街路を挟んで隣接し、中世府内を構成する40町余りのひとつである「桜町」の一面に該当する地点である。

本章で報告する第18次東調査区は、1993年発行の『大分県遺跡地図』で「中世大友城下町跡」で登録されていることや、平成12年度以降継続されている一般国道10号古国府拡幅事業に伴う発掘調査で、中世の遺構・遺物の存在が確認されていることから、当地区も平成14年4月中旬から平成15年3月までの間、約700㎡の調査を行った。

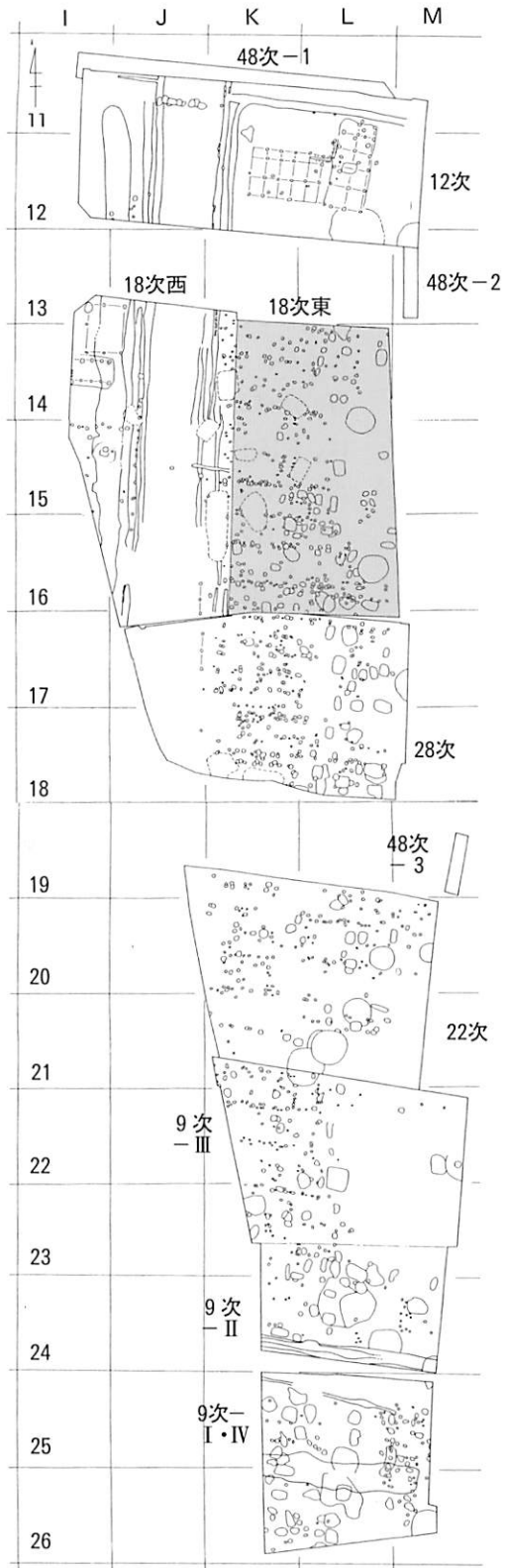
当調査区の東側は第2南北街路の調査を行った第18次西調査区、南側は第28次調査区と接している。

### 第2節 遺構と遺物

#### 1. 遺構の概要と層序

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、事業対象区を国土座標に乗せた10m方眼で区画している。各区画には西から東へA～M、北から南へ1～78の番号を付し、アルファベットと数字の組み合わせで、各々の区画を呼称している。本章で報告する第18次東調査区は、東西K～M、南北14～17区内に位置する。

本調査区は、後世の開発による削平がかなり進行していて、遺構上面の残りはあまりよくない。さらに調査区東側のほぼ全域において、深さ約1.5mに及ぶ土取りによる削平を受け、それ以前の遺構はほぼ消滅していると考えられる。土取りの時期は遺構の切り合いや出土遺物からみて、16世紀後半代と考えられる。この土取りを行った部分には、その後整地が行われていて、整地層内からは8～16世紀後半代の遺物が多量に出土している。



第74図 第18次東調査区の位置 (1/800)

大友氏館跡

桜町

調査期間  
2002年  
4月中旬～  
2003年  
3月

発掘調査  
面積約700㎡

土取り

整地

## 第2節 遺構と遺物

検出された主要な遺構は、溝状遺構9条、土坑40基、集石遺構6基、井戸5基、土器集中区7カ所、道路状遺構1条、柱穴および小穴多数である。

8世紀前半  
の井戸

検出した遺構で一番古い遺構は、8世紀前半代の井戸(SE176)である。この井戸は、土取りによる削平を免れていて、唯一残る古代の遺構である。他の遺構は、そのほとんどが16世紀後半～末葉の時期である。

本調査区は、旧表土上に近世の造成による整地層が1m前後堆積しており、この下位に近世～現代の水田層が認められる。発掘調査は近年の整地層すべてと、近世・近代の水田層の大部分を重機による除去を行い、その後は人力による掘り下げを行った。水田層は中世の遺構面をかなり削平して耕作されており、中世上面からは、唐津系陶器や土人形など、近世前期の遺物が出土している。

水田層を除去すると、溝状遺構SD022やSD023、焼土層、中世末から近世初頭にかけての整地層が現れる。焼土層は、第18次西・第28次調査区では顕著に確認されたが、当調査区では削平によるためか、ごく一部分での検出であった。これらを全て除去すると、多数の柱穴群、廃棄土坑、井戸等の遺構が検出された。本報告では、これらの遺構群を「上層遺構群」としている。上層遺構群では、K15・16区付近で多数の柱穴群、KL15・16付近では廃棄土坑、L15・16付近で井戸などが検出されている。これらは16世紀後葉～末葉前後に比定される町屋関連の遺構と推定される。

上層遺構群  
16世紀後葉  
～末葉

これらの町屋関連の遺構群は、府内古図に記載されている「桜町」の一画に相当する可能性が高いと考える。

下層遺構群  
16世紀  
第3四半期  
以前

本調査区における黄褐色粘質土の基盤層は、K14区の西半分、K15のほぼ全域、K16の全域とL16東側では確認できる。基盤層の残っている範囲はごく僅かで、基盤層の直上で確認できた遺構は柱穴と土取りと思われる大型の掘り込みだけである。この遺構を本報告では「下層遺跡群」と命名している。これらの遺構の時期は、16世紀第3四半期以前頃に比定される。この大型の掘り込みを整地するため、幾重にも埋土を行っており、整地層の上に生活基盤面がみられる。掘り込みは検出面から1.5m以上掘り込まれていて、この面では16世紀中葉前後の遺構は存在しない。

本調査で検出された遺構は、8世紀代の井戸遺構1基と16世紀後半～17世紀初頭に比定されるものである。遺物は整地層内から、8・9世紀代から16世紀後半代のものまで出土する。

以下、遺構と出土遺物の詳細を報告する。



第2表 遺構一覧表①

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SD022	S022	溝状遺構	K15	近世		77
SD023	S023	溝状遺構	K14・15	近世		77
SD248	S248	溝状遺構	L15	16世紀後葉～末葉?		77
SD270	S270	溝状遺構	L15	16世紀後葉～末葉?	井戸施設の一部か?	77
SD306	S306	溝状遺構	K16	16世紀後葉	一部未掘	77
SK046	S046	土坑	K16・17	16世紀末葉		80
SK048	S048	土坑	L16・17	16世紀後葉?	トレンチにより一部不明	80
SK051	S051	土坑	K16・17	16世紀末葉	一部未掘	80
SK065	S065	土坑	L16・17	16世紀末葉		80
SK067	S067	土坑	KL15	16世紀末葉		84
SK068	S068	土坑	L15	16世紀末葉	焼土・礎石等廃棄土坑	85
SK071	S071	土坑	L15・16	16世紀末葉		85
SK074	S074	土坑	L16	16世紀末葉	SK065に切られる	84
SK077	S077	土坑	L16	16世紀末葉		86
SK078	S078	土坑	L14	16世紀末葉	一部未掘	87
SK085	S085	土坑	K16	16世紀末葉	焼土・礎石等廃棄土坑	88
SK097	S097	土坑	L16	16世紀末葉		91
SK137	S137	土坑	K16	16世紀末葉		92
SK138	S138	土坑	K16	16世紀末葉		92
SK191	S191	土坑	L16	16世紀末葉		93
SK203	S203	土坑	L16	16世紀末葉	SK292・293に切られる	93
SK209	S209	土坑	K15	16世紀末葉		94
SK210	S210	土坑	K15	16世紀末葉		94
SK224	S224	土坑	L14	16世紀末葉		95
SK252	S252	土坑	L16	16世紀末葉	焼土・礎石等廃棄土坑	95
SK253A	S253	土坑	L14	16世紀末葉		95
SK253B	S253	土坑	L14	16世紀末葉		97
SK254	S254	土坑	LM16	16世紀末葉		97
SK255	S255	土坑	LM16	16世紀末葉		97
SK256B	S256	土坑	L15	16世紀末葉		98
SK257	S257	土坑	L16	16世紀末葉		98
SK262	S262	土坑	L14	16世紀末葉		98
SK266	S266	土坑	L16	16世紀後葉～末葉		99
SK273	S273	土坑	L14	16世紀後葉～末葉		100
SK274	S274	土坑	L14	16世紀後葉～末葉		100
SK276	S276	土坑	L16	16世紀末葉		100
SK277	S277	土坑	L16	16世紀末葉		100
SK280	S280	土坑	L16	16世紀後葉～末葉		100
SK281	S281	土坑	L14	16世紀後葉～末葉		101
SK292	S292	土坑	L16	16世紀末葉	SK203を切る、焼土・礎石等廃棄土坑	94
SK293	S293	土坑	L16	17世紀末葉	SK203を切る、焼土・礎石等廃棄土坑	94
SK294	S294	土坑	L16	16世紀後葉～末葉	SE075の施設の一部	111
SK298	S298	土坑	M16	16世紀後葉～末葉	SE307の施設の一部	126
SK300	S300	土坑	L15	16世紀末葉		102
SK311	S311	土坑	LM16	16世紀後葉～末葉		102
SX080	S080	集石	L16・17	16世紀末葉		103
SX244	S244	集石	L14	16世紀後葉～末葉		103
SX245A	S245	集石	LM14・15	16世紀後葉～末葉		103
SX302	S302	集石	L14	16世紀後葉～末葉		105
SX303	S303	集石	L16	16世紀末葉		105
SX309	S309	集石	L15	16世紀後葉～末葉		106
SE075	S075	井戸	L16	16世紀後葉	SK294を含む	108
SE079	S079	井戸	L14・15	16世紀後葉		113
SE176	S176	井戸	K14・15	8世紀前半		108
SE261	S261	井戸	L15	16世紀後葉		123
SE307	S307	井戸	M16	16世紀後葉	未掘・SK298を含む	126

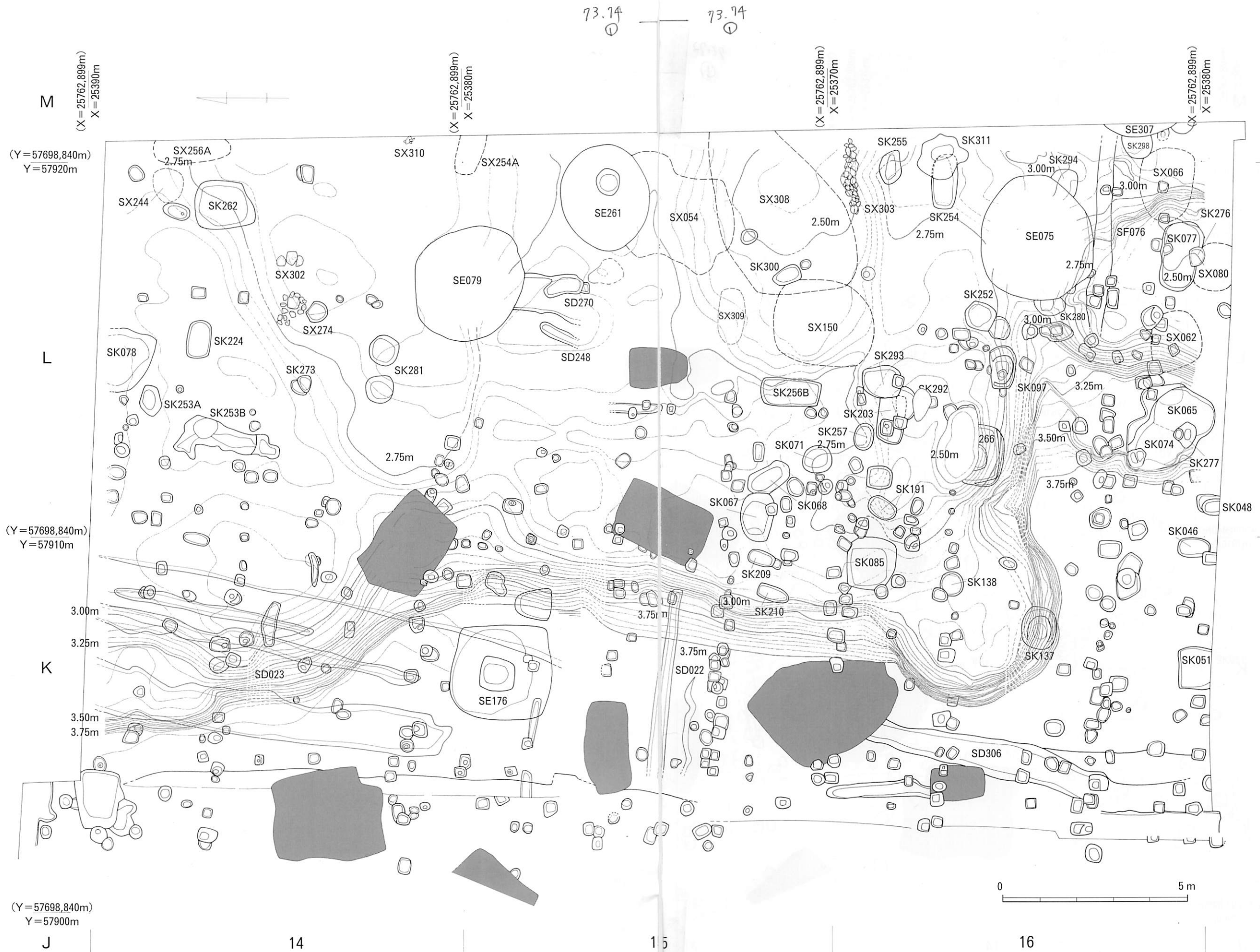
第2節 遺構と遺物

第3表 遺構一覧表②

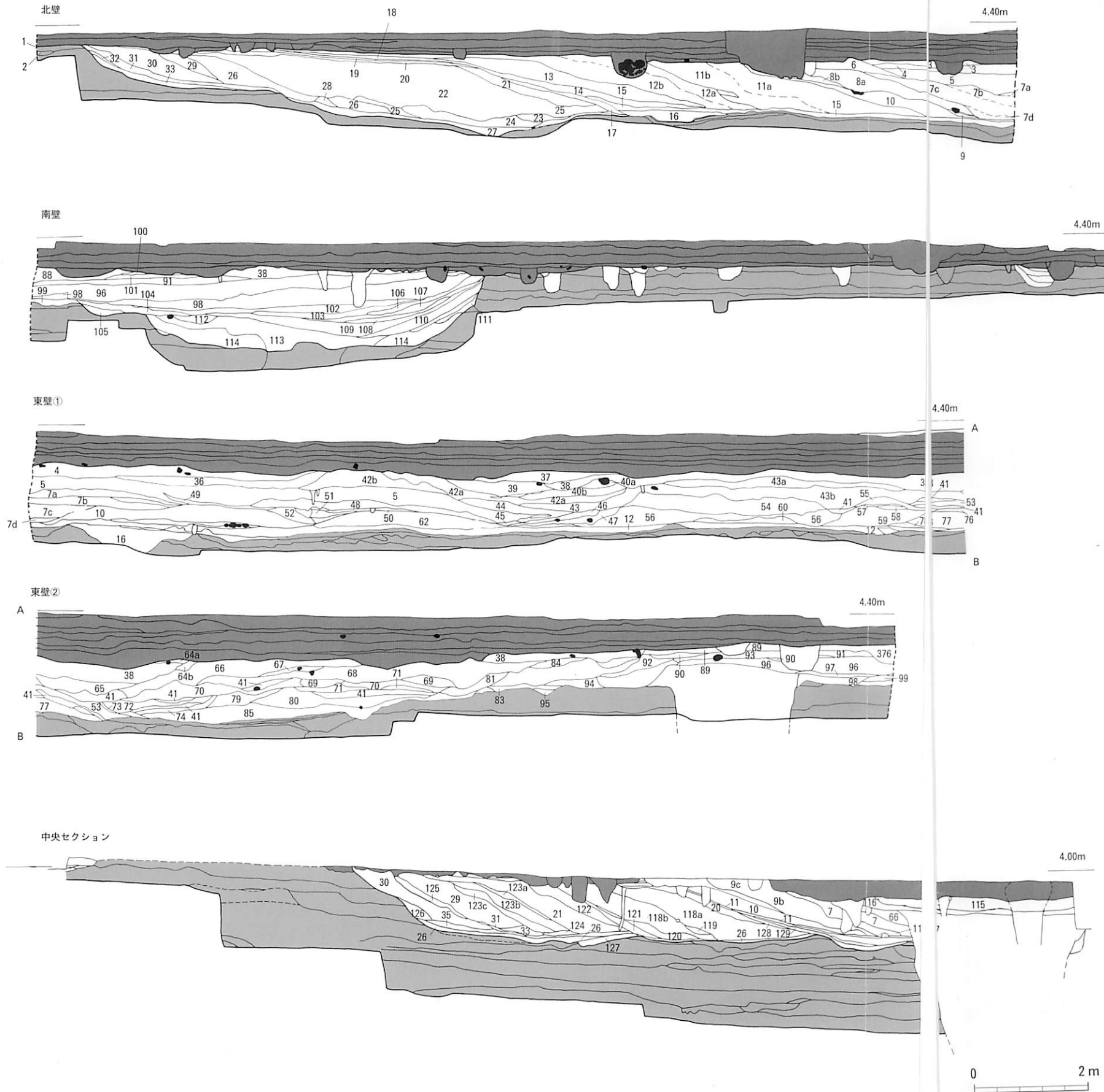
本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SX054	S054	土器集中区	L15	16世紀後葉～末葉		127
SX062	S062	土器集中区	L16	16世紀後葉～末葉		131
SX066	S066	土器集中区	LM16	16世紀後葉～末葉		131
SX150	S150	土器集中区	L15・16	時期不明		134
SX256A	S256	土器集中区	M14	時期不明		135
SX308	S308	土器集中区	LM15・16	時期不明		136
SX310	S310	土器集中区	M14	16世紀後葉		136
SF076	S076	道路状遺構	LM16	16世紀後葉?	SE075の南、井戸施設の一部か?	137
SX301	S301	包含層	LM全域	時期不明	整地層の一部	138
SP031	S031	柱穴	K14	16世紀末葉		138
SP035	S035	柱穴	L14	16世紀末葉		138
SP036	S036	柱穴	L14	16世紀末葉		138
SP064	S064	柱穴	L16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP070	S070	柱穴	L15	16世紀後葉～末葉		138
SP095	S095	柱穴	K16	16世紀後葉～末葉		138
SP106	S106	柱穴	K14	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP123	S123	柱穴	K14	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP156	S156	柱穴	K16	16世紀末葉	焼土・炭堆積	138
SP165	S165	柱穴	L16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP166	S166	柱穴	L16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP169	S169	柱穴	K16	16世紀末葉		138
SP172	S172	柱穴	K15	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP173	S173	柱穴	L14	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP188	S188	柱穴	K15・16	16世紀後葉～末葉		138
SP190	S190	柱穴	K16	16世紀末葉		138
SP208	S208	柱穴	K15	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP211	S211	柱穴	K15	16世紀末葉	銭貨出土、柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP212	S212	柱穴	K15	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP213	S213	柱穴	K15	16世紀後葉～末葉		138
SP221	S221	柱穴	KL14	16世紀末葉		138
SP234	S234	柱穴	L15	16世紀末葉		138
SP239	S239	柱穴	K16	16世紀末葉		138
SP260	S260	柱穴	L16	16世紀後葉～末葉		138
SP263	S263	柱穴	K16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP267	S267	柱穴	L16	16世紀末葉	播鉢	138
SP271	S271	柱穴	L16	16世紀末葉	銭貨出土、柱痕有り、柱痕埋土に焼土・炭堆積	138
SP284	S284	柱穴	K15	16世紀後葉～末葉		138
SP285	S285	柱穴	L15	16世紀末葉		138
SP296	S296	柱穴	L16	16世紀末葉		138







第76図 第18次東調査区地形測量図 (1/100)



- 1 灰黄色粘質土 (10YR6/2)
- 2 におい黄褐色粘質土 (10YR7/2) 初期の第2南北街路
- 3 灰黄褐色粘質土 (10YR6/2)
- 4 灰黄褐色粘質土 (10YR6/2) 焼土・炭含む
- 5 灰黄褐色粘質土 (10YR3/2) 焼土・炭多量を含む
- 6 におい黄褐色粘質土 (10YR5/3) 焼土・炭含む
- 7a 黄灰色泥土 (2.5Y6/1) 炭含む
- 7b 黄灰色泥土 (2.5Y6/2) 砂含むが、炭含まず
- 7c におい黄褐色泥土 (10YR7/3) 焼土・炭・土器片多量を含む
- 8a におい褐色粘質土 (10YR7/2) 焼土・炭・砂粒含む
- 8b におい褐色粘質土 (10YR5/6) 焼土・炭・砂粒含む
- 9 におい褐色粘質土 (10YR7/3) 焼土・炭・砂粒含む
- 10 褐灰色粘質土 (7.5YR6/1) 小礫・灰色ブロックまじり
- 11a 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘質性が強い
- 11b 褐灰色粘土 (10YR5/1) 砂粒混じり
- 12a におい黄褐色礫土 (10YR5/3) 小礫・砂粒多量
- 12b におい黄褐色礫土 (10YR5/3) 9a層より礫大きい
- 13 におい褐色粘質土 (7.5YR7/4) 砂粒混じり
- 14 褐灰色細砂土 (10YR6/3)
- 15a におい黄褐色粘土 (10YR7/2) 土取り後の自然堆積土
- 15b におい黄褐色粘土 (10YR7/3) 自然堆積土・砂わずかに含む
- 16 灰色粘土 (N5/)
- 17 褐灰色粘質土 (10YR5/1) 地山土
- 18 浅黄色粘砂土 (2.5Y7/3) 生活面か?
- 19 淡黄細砂土 (2.5Y8/3) 細かく締まった砂、生活面?
- 20 浅黄色粘砂土 (2.5Y7/3) 粒子細かく締まった砂
- 21 灰黄褐色粘質土 (10YR6/2) 黄褐色ブロック僅かに含む
- 22 黄灰色粘土 (2.5Y6/2)
- 23 明黄褐色粘質土 (10YR6/6) 整地層?
- 24 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 地山土
- 25 明黄褐色粘質土 (10YR6/6) 黄色ブロック含む
- 26 黄褐色粘質土 (10YR5/6) SX301焼土・炭・土器多量
- 27 浅黄色粘質土 (2.5Y7/3) 黄色ブロック含む
- 28 灰白色細砂土 (10YR8/2) 砂層の単一層
- 29 褐灰色細砂土 (10YR6/1) 砂層の単一層
- 30 灰黄褐色砂層 (10YA6/2) 砂層の単一層
- 31 黄褐色細砂土 (7.5YR7/8) 砂層の単一層・地山土
- 32 灰黄色砂層 (2.5Y7/2) 砂層の単一層・地山土
- 33 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2) 砂混じり
- 34 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 焼土・炭わずかに含む
- 35 におい黄褐色土 (10YR5/3) 炭多量含む、ソフト
- 36 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 焼土・炭・砂粒含む、37と同一層
- 37 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 焼土・炭含む、37・39と同一層
- 38 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 焼土・炭含む、40a層よりやや粘質
- 39 黒褐色土 薬灰・焼土混じり
- 40a 褐灰色砂層 (10YR6/1) 褐色ブロック含む
- 40b におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 炭・焼土多く含む
- 41 におい黄褐色粘質土 (10YR6/3) 炭・焼土・砂多く含む
- 42a におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 炭・焼土多く含む
- 42b におい黄褐色粘質土 (10YR6/3) 炭・焼土・砂多く含む
- 43a におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 炭・焼土多く含む
- 43b におい黄褐色粘質土 (10YR5/3) 炭多量含む、ソフト
- 44 灰白色砂層 (2.5Y7/1) 何も含まず、自然堆積土か?
- 45 灰色シルト層 (5Y6/1) ソフトできめ細かい
- 46 黄褐色砂層 (10YR5/8) 炭わずかに含む
- 47 褐灰色粘質土 (10YR6/1) やや砂混じり
- 48 褐灰色粘質土 (10YR6/1)
- 49 灰黄色粘砂土 (2.5Y7/1) 砂混じり
- 50 灰白色粘質土 (10YR7/1) 炭・焼土含む
- 51 におい黄褐色粘質土 (10YR7/2) 黄褐色ブロック含む
- 52 におい黄褐色粘質土 (10YR6/3) 褐色ブロック含む
- 53 におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 炭・焼土多く含む
- 54 におい黄褐色粘質土 (10YR7/2)
- 55 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 炭・焼土わずかに含む
- 56 浅黄色粘質土 (5Y7/3)
- 57 黄灰色シルト質粘土 (2.5Y6/1) きめ細かい
- 58 砂礫層ブロック
- 59 褐灰色粘質土 (10YR6/1) ハーフ
- 60 におい褐色粘砂土 (7.5YR6/4) 小礫全体に混じる
- 61 灰黄褐色砂層 (10YR6/2) 自然堆積土
- 62 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1) 焼土・炭含む
- 63 褐灰色粘質土 (7.5YR6/1) 自然堆積土
- 64a 黄色粘質土 (2.5Y8/8) 64bが攪乱された層
- 64b 黄色粘質土 (2.5Y8/8)
- 65 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2) 薬灰・焼土多く含む
- 66 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 薬灰・焼土多く含む
- 67 におい褐色粘質土 (7.5YR6/4) きめ細かい、わずかに焼土・炭含む
- 68 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 薬灰・焼土多く含む
- 69 におい褐色粘質土 (7.5YR6/3) 小礫と砂の層
- 70 におい黄褐色粘質土 (10YR7/3) 焼土・炭・土器片含む
- 71 におい黄褐色粘質土 (10YR7/2)
- 72 におい黄褐色粘質土 (10YR7/3) 炭・焼土多く含む
- 73 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 薬灰・焼土多く含む
- 74 浅黄色粘質土 (2.5Y7/4) 炭・焼土あまり含まず
- 75 におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 炭・焼土含む
- 76 におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) やや硬く、粘質である
- 77 におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 焼土・炭ほとんど含まず
- 78 灰黄色粘砂土 (2.5YR7/2) 細粒とシルト質粘土の混じった層
- 79 におい褐色粘質土 (7.5YR6/4) 細粒とシルト質粘土の混じった層
- 80 におい褐色粘質土 (7.5YR6/4) 細粒とシルト質粘土の混じった層
- 81 灰黄褐色粘質土 (10YR6/2) 粘質性が強い、焼土・炭含む
- 82 におい黄褐色粘質土 (10YR7/4) わずかに炭含む
- 83 褐灰色シルト質粘土 (10YR6/1)
- 84 褐灰色粘土 (7.5YR6/1) 粘質強い、炭含む
- 85 褐灰色粘土 (7.5YR6/1) 粘質強い、炭わずかに含む
- 86 灰白色シルト質粘土 (10YR7/1)
- 87 砂礫層
- 88 細砂層
- 89 灰黄褐色粘質土 (10YR6/2) 炭・焼土わずかに含む混じる
- 90 砂礫層
- 91 浅黄色粘質土 (5Y7/3) 粘質で締まっている、生活面
- 92 におい黄褐色粘質土 (10YR5/3) 砂・小礫含む
- 93 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)
- 94 灰黄色粘土 (2.5Y6/2) シルト質
- 95 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)
- 96 オリブ褐色粘質土 (2.5Y4/6) 上面が生活面
- 97 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1) 炭・焼土混じる
- 98 灰黄色粘砂土 (2.5Y7/2) くぼ地を埋め立てた際の整地層
- 99 黄色粘土 (2.5Y6/2) ブロック状
- 100 黄褐色粘質土 (2.5Y5/3) 粘土混じり、砂含む
- 101 灰黄色砂層 (2.5Y7/2) くぼ地を埋め立てた際の整地層
- 102 灰黄色砂層 (2.5Y7/2) くぼ地を埋め立てた際の整地層
- 103 灰黄色砂層 (2.5Y6/2) くぼ地を埋め立てた際の整地層
- 104 におい黄色粘砂土 (2.5Y6/4)
- 105 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) ブロック状
- 106 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)
- 107 浅黄粘質土 (2.5Y7/3)
- 108 黄褐色粘質土 (2.5Y5/3)
- 109 色粘土 (2.5Y7/1)
- 110 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)
- 111 褐灰色粘質土 (10YR5/1)
- 112 黄色粘土ブロック (2.5Y8/8)
- 113 黄褐色粘砂土 (10YR8/6)
- 114 灰黄色粘質土 (2.5Y5/1)
- 115 におい黄褐色土 (10YR5/3) 炭多量含む、ソフト
- 116 におい黄褐色粘質土 (10YR6/4) 炭・焼土多く含む
- 117 浅黄褐色粘質土 (10YR8/4)
- 118a 明黄褐色粘質土 (2.5Y7/6) 118b層より締まっている
- 118b 褐色粘質土 (2.5Y7/6)
- 119 灰色粘土 (5Y6/1)
- 120 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 黄褐色ブロック混じり
- 121 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2) 焼土・炭混じり
- 122 におい黄褐色粘質土 (10YR7/3) 焼土・炭混じり
- 123a 明黄褐色粘質土 (10YR7/6) よく締まっている
- 123b におい黄褐色粘質土 (10YR5/3) 焼土・炭・土器片わずかに含む
- 123c におい黄褐色粘質土 (10YR5/4) やや粒子細かい
- 124 黄灰色ブロック (2.5Y5/1)
- 125 明黄褐色粘砂土 (2.5Y6/6) わずかに炭含む砂含む
- 126 灰黄色粘土 (2.5Y7/2)
- 127 褐色粘質土 (7.5Y6/6)

第77図 第18次東調査区土層図 (1/80)



## 2. 溝状遺構

第18次東調査区では9条の溝が確認された。9条とも上層遺構群に属するもので、6条は近世の所産と推定され、いずれも浅い掘り込みの溝である。

### SD022 (第78図)

SD022は近世遺構群に所属する溝で、K15区に位置する。表土層除去後の整地層面で確認された溝で、2条検出されたが、一部消滅している。遺構の規模は長さ4.8m、幅25～35cm、深さ10cm前後で、西から東方向へ走る。主軸方向はN-84°-Wである。埋土は黄褐色粘質土の単一層で、炭・焼土を多量に含んでいる。溝内からは近世の陶磁器片が出土した。第18次西調査区の第2南北街路とは直交しない。

### SD023 (第78図)

SD023もSD022と同様に近世遺構群に所属する溝で、K14・15区に位置する。4条検出されている。西から順にSD022a～SD022dとする。4条とも南北にほぼ並行に走るが、第2南北街路とは並列しない。逆にSD022とはほぼ直交する。埋土は黄褐色粘質土の単一層で、炭・焼土を多量に含んでいる。

表4 SD023計測表

	方 向	方 位	残 存 長	幅	深 さ
SD023a	南→北	N-8°-E	9.42m	0.9～1.25m	0.05～0.14m
SD023b	南→北	N-12°-E	8.62m	0.26～0.5m	0.03～0.06m
SD023c	南→北	N-11°-E	5.48m	0.2～0.3m	0.02～0.05m
SD023d	南→北	N-12°-E	12.28m	—	0.01～0.03m

### SD248 (第79図)

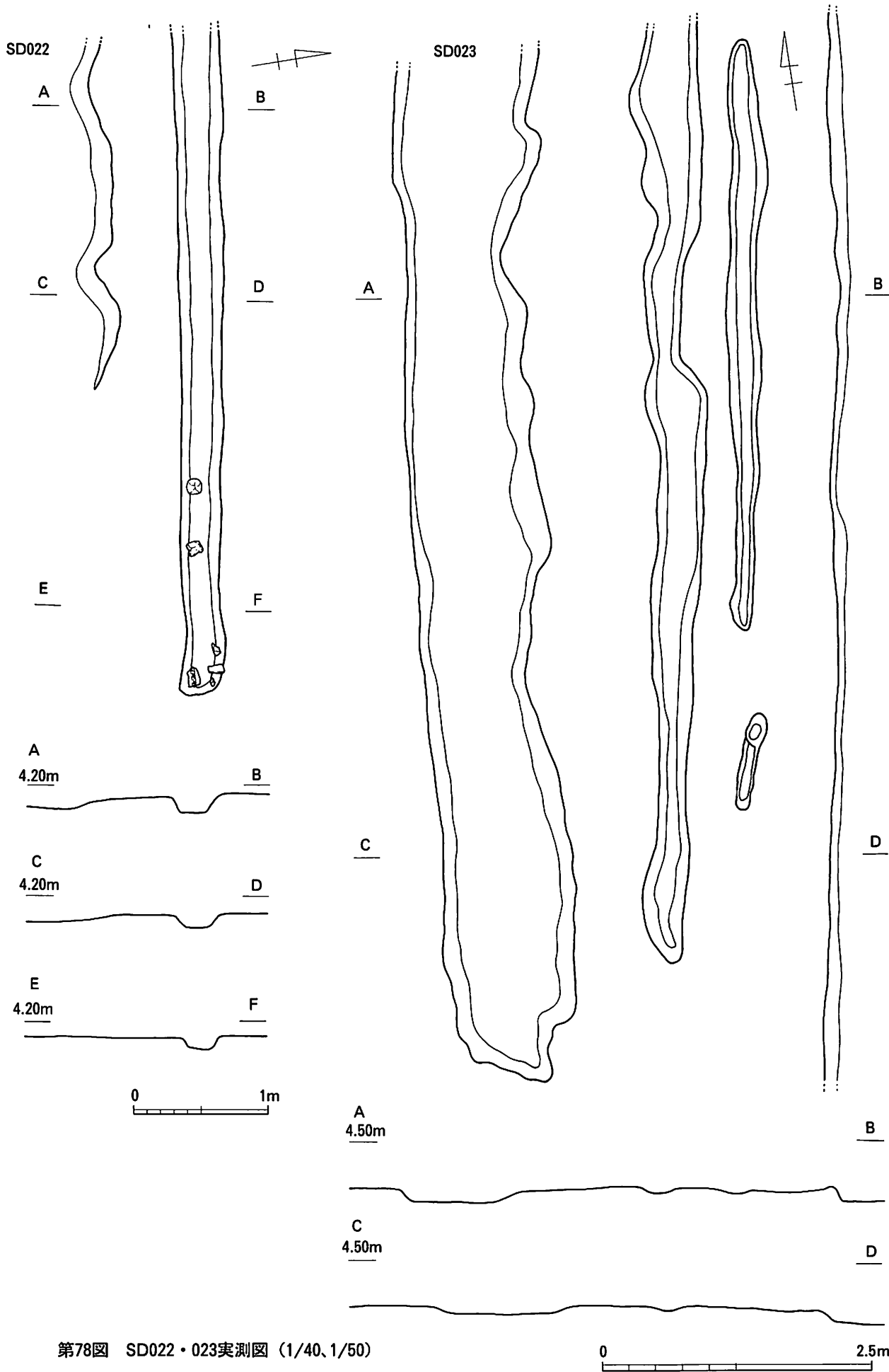
SD248は上層遺構群に属する溝で、L15区に位置する。検出された遺構の規模は長さ1.0m、幅約30cm、深さ10m前後である。北にSE079が位置し、何らかの関連性の施設の可能性を持つものであろう。遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。

### SD270 (第79図)

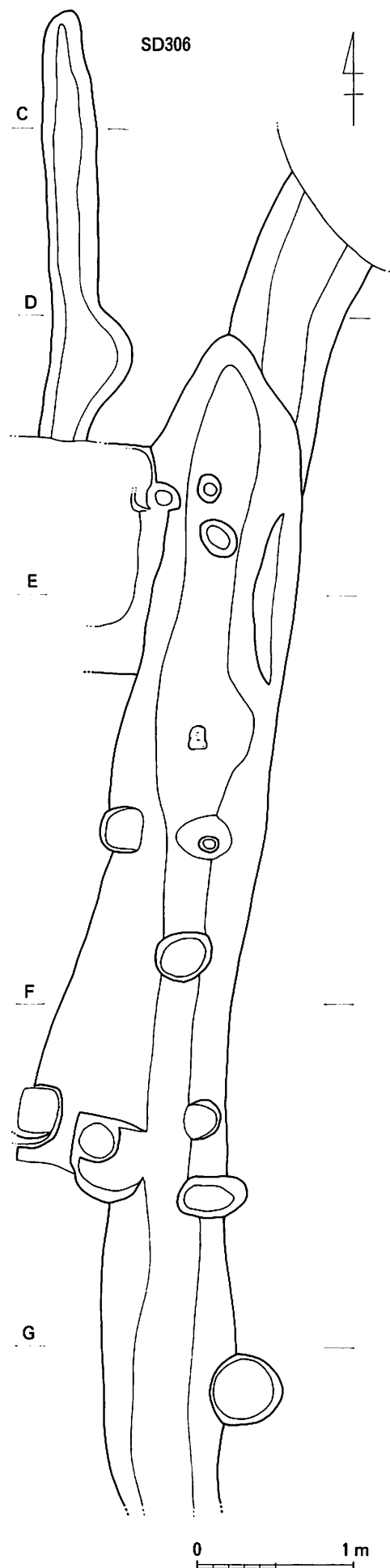
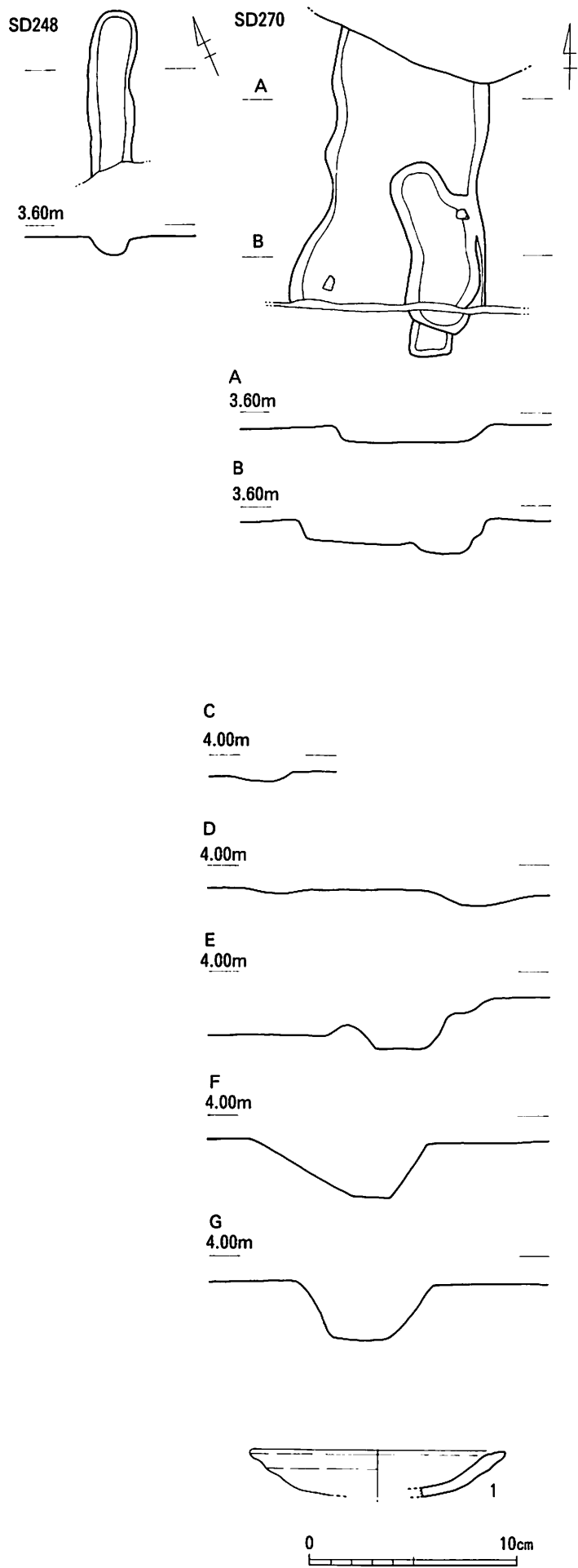
SD270は上層遺構群に属する溝で、L15区に位置する。北側はSE079から派生する。SE079の関連施設である。南はトレンチにより切られているため、全長は不明である。西はSD248が位置する。検出された遺構の規模は現存で1.7m、幅1.0～1.2m、深さ10cm前後である。当遺構は、SE079の排水等の水利施設と考える。遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。

### SD306 (第79図)

SD306は下層遺構群に属すると考えられる溝で、K16区に位置する。基盤層の黄褐色粘質土上で確認されたが、上面は柱穴等の町屋関連遺構に切られている。北側先端は現代の攪乱によって消滅している。南側は第28次調査区へと延びているが、隣接地区では明確なラインが確認されなかったことから、両調査区の境で終了していたと考えられる。遺構の規模は、現存で8.2m、幅0.7～1.0m、深さ40cm前後、堆積埋土は床面に黄褐色の粘質土、中・上層は黄灰色系の砂層で、焼土・炭等は含



第78図 SD022・023実測図 (1/40、1/50)



第79図 SD248・270・306実測図及び出土遺物実測図 (1/40、1/3)

## 第2節 遺構と遺物

まれない。遺構の時期は、図示できたのが1点であるが、出土遺物の年代観からみて、16世紀後葉に比定される。

### SD306出土遺物（第79図）

1は京都系土師器の皿である。全体の1/4程度の残存で、器壁がやや厚く、2～3期の特徴を有する製品である。他にも京都系土師器の小破片が出土したが、図示できる個体ではなかった。

### 3. 土坑

第18次東調査区では40基の土坑が確認された。上層遺構群に属するものである。

#### SK046（第80図）

SK046は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のK16・17区に位置する。平面形態は楕円形状を呈し、規模は長径0.86m、短径0.49m、深さ10cm前後である。埋土は焼土・炭を多量に含む灰茶褐色粘砂土で、鍋と挿鉢の小破片が出土しているが、図示できる個体ではない。

#### SK048（第80図）

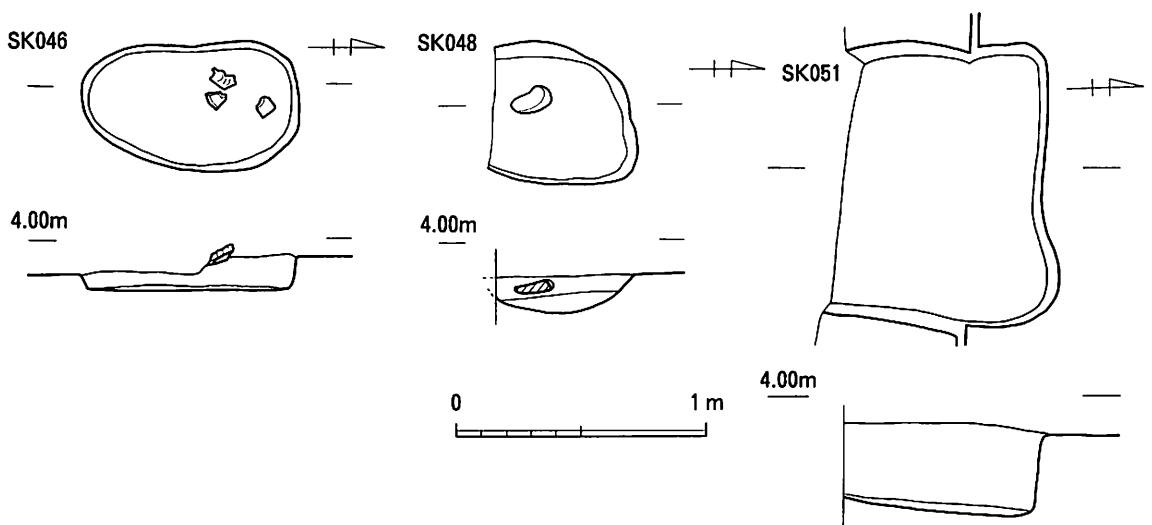
SK048も上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のK16・17区に位置する。平面形態は楕円形状を呈すると思われるが、南側は第28次調査区に延びる。上面は水田によって切られている。規模は残存で長径0.55m、短径0.55m、深さ約13cm前後である。埋土は黄褐色粘質土で焼土・炭等はほとんど含まない。遺物の出土はない。埋土の状況から下層遺跡群の可能性もある。

#### SK051（第80図）

SK051は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のK16・17区に位置する。平面形態は長方形を呈すると思われるが、南側は第28次調査区に延びる。規模は残存で南北0.85+ $\alpha$ m、東西1.2m、深さ35cm前後である。埋土は焼土・炭を多量に含む黄茶褐色粘質土で、京都系土師器の小破片数点が出土しているが、図示できる個体ではない。

#### SK065（第81図）

SK065は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のL16・17区に位置する。SK074を切って構築されている。平面形態は楕円形状を呈する。規模は長径1.6m、短径1.2m、深さ約35cm前後である。



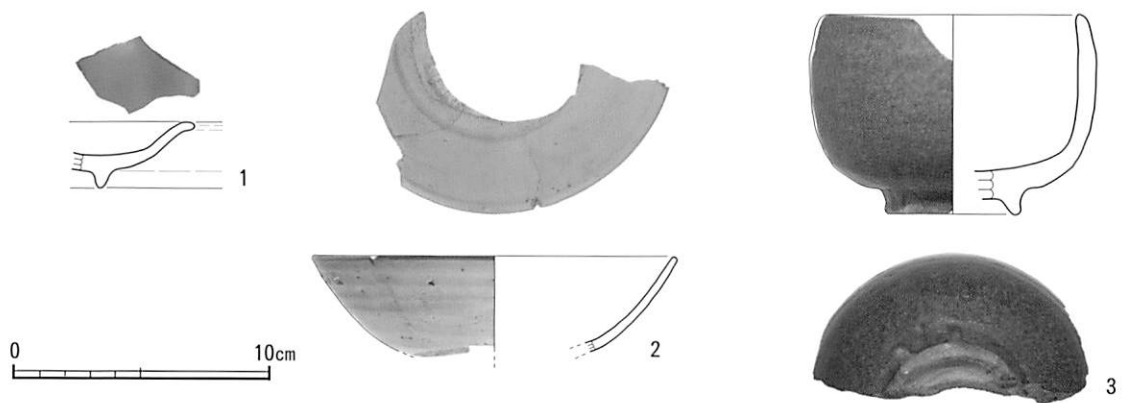
第80図 SD046・048・051実測図（1/30）

埋土は2層確認できた。下層は褐灰色粘質土で炭・焼土をわずかに含む。この層はSK074の埋土の可能性を持つ。上層は褐灰色粘砂土で炭・焼土を多量に含む。この層はSK074層を覆っている。また、この埋土中には径10~30cmの礫が多量に廃棄された状況が確認された。礫は被熱した物もかなり含まれている。礫に混じって中国産青花碗や、国産陶器・京都系土師器・釘等多量の遺物が出土している。層位や出土遺物などから天正14年（1586）12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑と考えられる。遺構の時期は、土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、16世紀末葉に比定される。

廃棄土坑

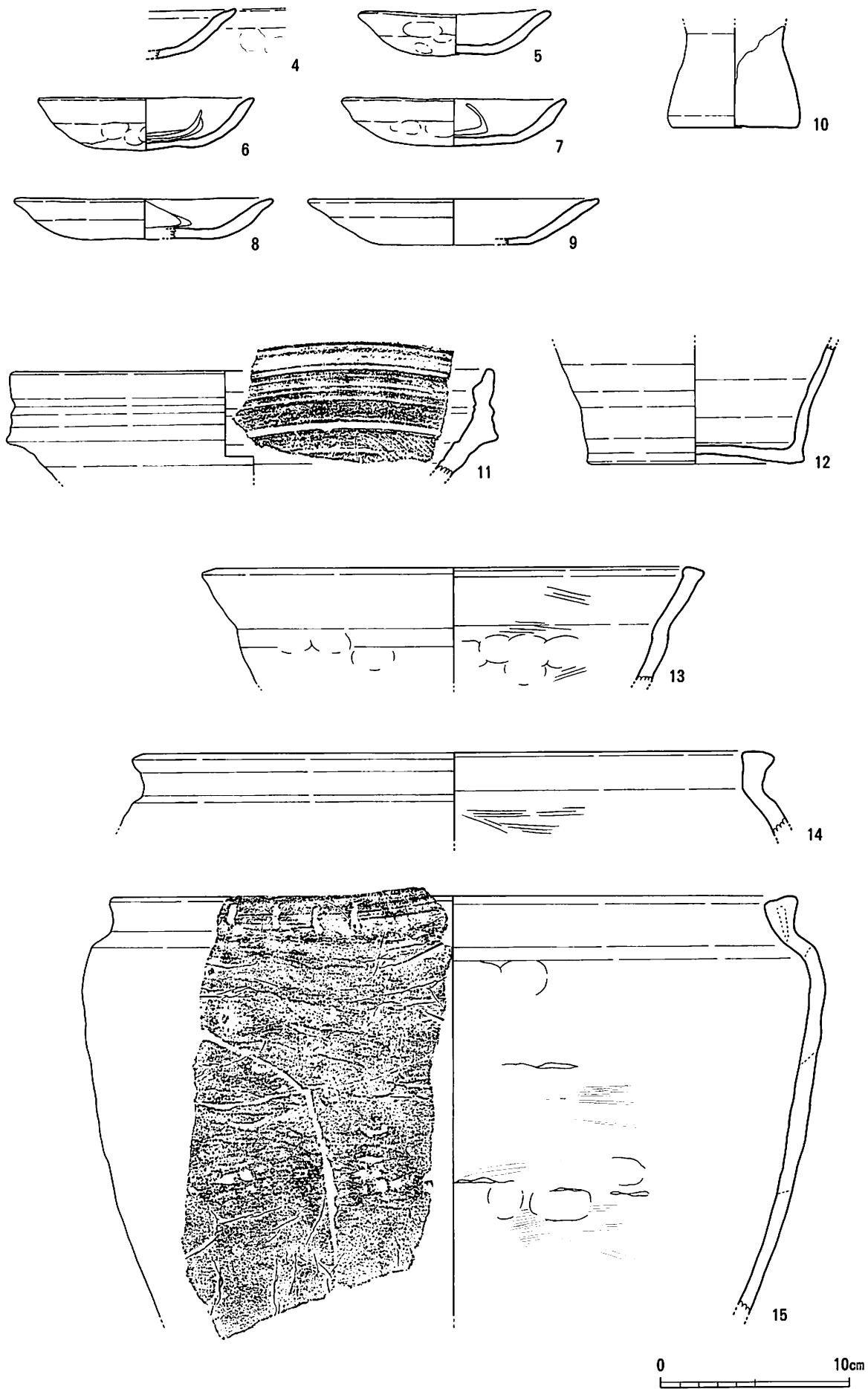


第81図 SK065・074実測図（1/30）

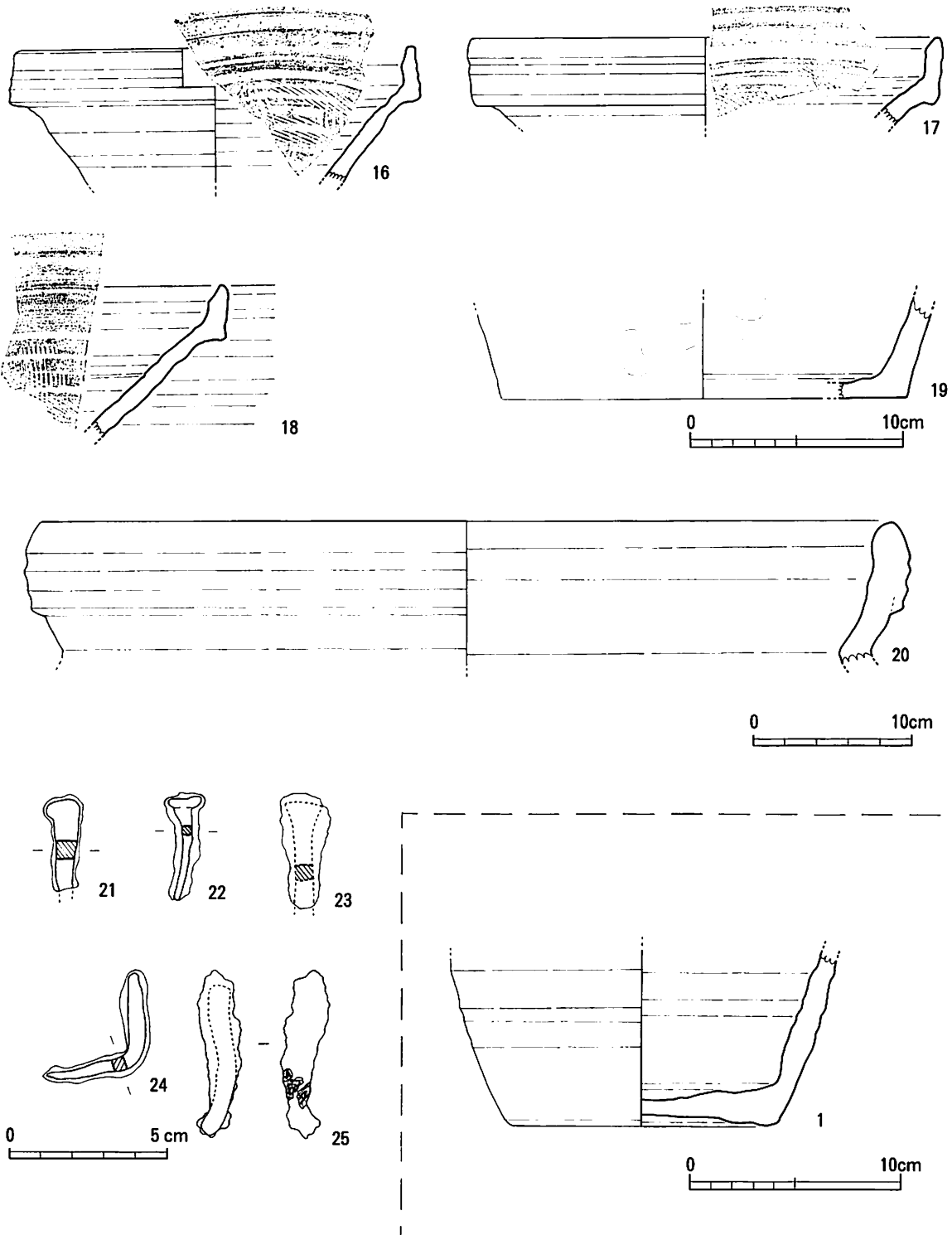


第82図 SK065 出土遺物実測図①（1/3）





第83图 SK065出土遗物实测图② (1/3)



第84図 SK065出土遺物実測図③ (1/3, 1/4, 1/2)

第85図 SK074出土遺物実測図 (1/3)

SD065出土遺物 (第82~84図)

第82図1は中国産白磁皿の小破片である。2は中国漳州窯系の製品で青花碗であるが底部を欠く。3は瀬戸美濃系の碗である。第83図4~9は京都系土師器皿で、内外面に丁寧なナデ調整を施している。2期あるいは3期の特徴を示す資料である。10は土師質土器の燭台で、頂部の一部を欠いているが、ほぼ全面に丁寧なナデ調整を行っている。11・12は須恵質土器で11は播鉢の口縁部、内面に斜め播目が確認できる。12は瓶の底部で内外面とも回転ナデを施している。13~15は瓦質土器で、

13は鉢あるいは甕の口縁から胴部の一部で、内面にハケ目調整がみられる。14・15は甕の一部である。14は口縁部の一部で、内面にハケ目調整がみられる。15は口縁部から胴部の一部で、内面は一部ハケ目の後、横ナデ調整を行っている。第84図16～20は備前陶器である。16～18は播鉢の口縁部で、内面には放射状播目と斜め播目が交差する播目が施されている。19・20は大甕の底部と口縁部である。16～19は近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。21～24は釘で、錆出が著しいが断面形は方形を呈している。25は鉄製品であるが、製品は不明である。一部布と思われる痕跡が付着している。

**SK074 (第81図)**

SK074は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のL16区に位置する。SK064に東側の一部を切られている。平面形態は楕円形状を呈すると思われる。規模は残存で長径1.3m、短径1.3m、深さ50cm前後である。埋土は2層確認できた。下層は褐灰色粘質土で炭・焼土をわずかに含む。上層は褐黄褐色粘質土で炭・焼土を多量に含む。埋土中からは備前甕や漆器碗片等の遺物が出土している。遺構の時期は、SK065より先行するが、埋土中の焼土・炭等の混入具合等から、SK065との時期差はほとんど無いものとする。出土遺物の年代観からみて、16世紀末葉に比定される。

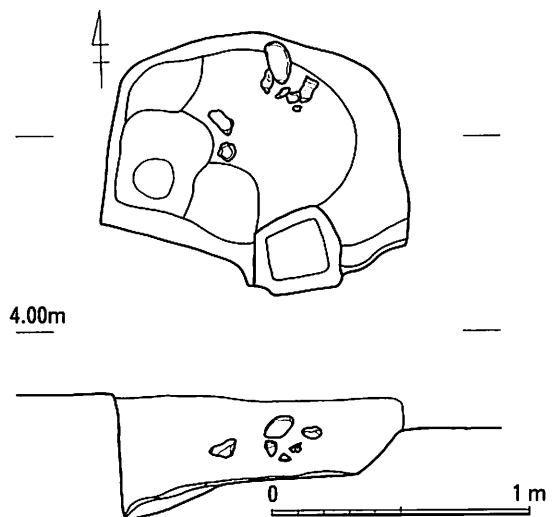
**SK074出土遺物 (第85図)**

漆器碗

土坑内からは、土器等の遺物数点が出土したが、いずれも細片で図示できる遺物は1点であった。土器片以外では、漆器碗の胴部が出土したが木質部は消滅しており漆の皮膜だけの残存であり、取り上げ時には既に原形を保っていなかった。1は備前陶器の甕の底部から胴部にかけての一部である。外面には自然釉がかかっており、底部未調整である。

**SK067 (第86図)**

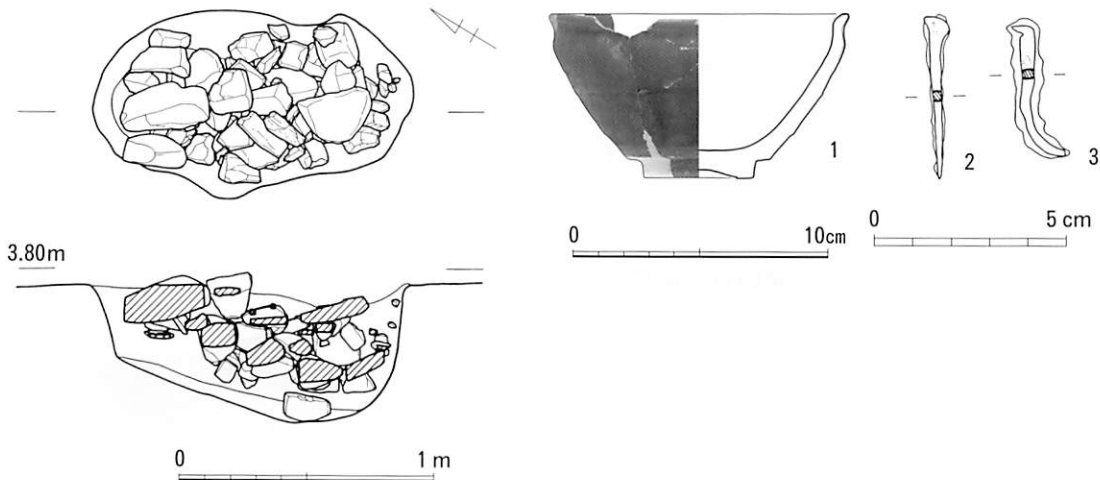
SK067は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。16世紀末葉前後に比定される町屋関連の柱穴やSK068に一部を切られている。平面形態は方形を呈する。規模は長径1.15m、短径0.9m、深さ約30cmである。埋土は暗茶褐色土の単層で、焼土・炭をかなり多く含んでいる。埋土中からは数点の土器片と、5～20cm前後の礫数点が出土した。出土遺物はいずれも小破片のため、図示できない。遺構の時期は、SK068より先行するが、埋土中の焼土・炭等の混入具合等から、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時期の土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。



第86図 SK067実測図 (1/30)

SK068 (第87図)

SK068は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。SK067と接している。平面形態は楕円形に近い隅丸長方形を呈する。規模は長径1.3m、短径0.7m、深さ約40cmである。埋土は黄褐色粘被熱した礎石砂土で、焼土・炭を多量に含んでいる。また土坑内には被熱した人頭大の礫がぎっしりと詰まっている。この礫中には建物の礎石数点が確認された。礫に混じって天目茶碗や、瓦・釘等が出土している。遺構の時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。



第87図 SK068実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

SK068出土遺物 (第87図)

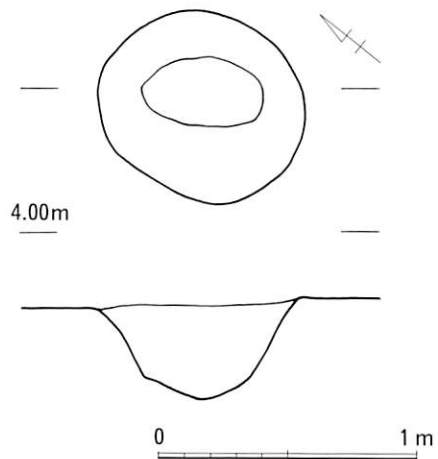
第87図1は瀬戸美濃系の天目茶碗で、体下部まで茶褐色の釉が掛かり外底部は露胎となる。2・3は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。図示以外に、平瓦や須恵質土器鉢の胴部片が出土しているが、全体の遺物出土量は非常に少ない。礎石等の廃棄を目的とした土坑であろう。

SK071 (第88図)

SK071は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態はほぼ円形を呈する。規模は径0.7~0.8m、深さ約40cmである。埋土は黄褐色粘質土で、焼土・炭を多量に含んでいる。埋土中から数点の遺物が出土した。時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、構築年代は16世紀末葉に比定される。

SK071出土遺物 (第89図)

第89図1・2は京都系土師器の製品である。1は器壁が厚く、器高も高く、碗形に近い非ロクロ系土師器杯である。2の皿も器壁が厚くなり、3期の様相を示すものと思われる。3は在地産の土師質土器皿で底部に糸切り痕が見られるが、胴部から口縁部を欠く。4は漳州窯系青

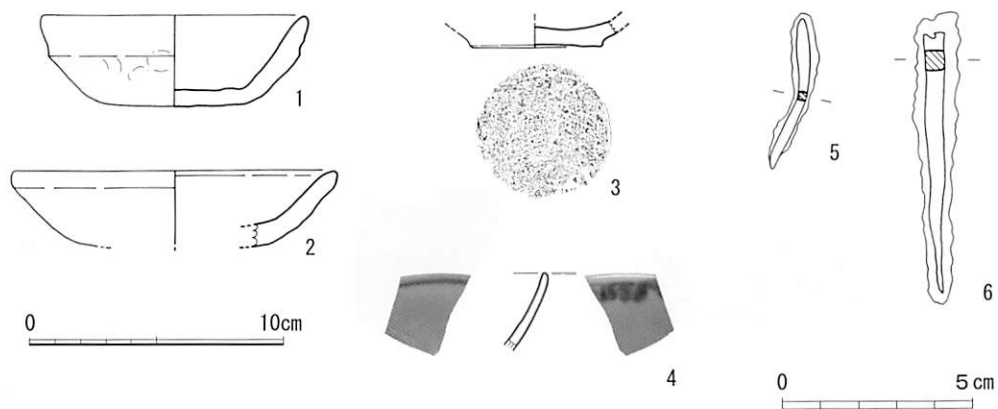


第88図 SK071実測図 (1/30)

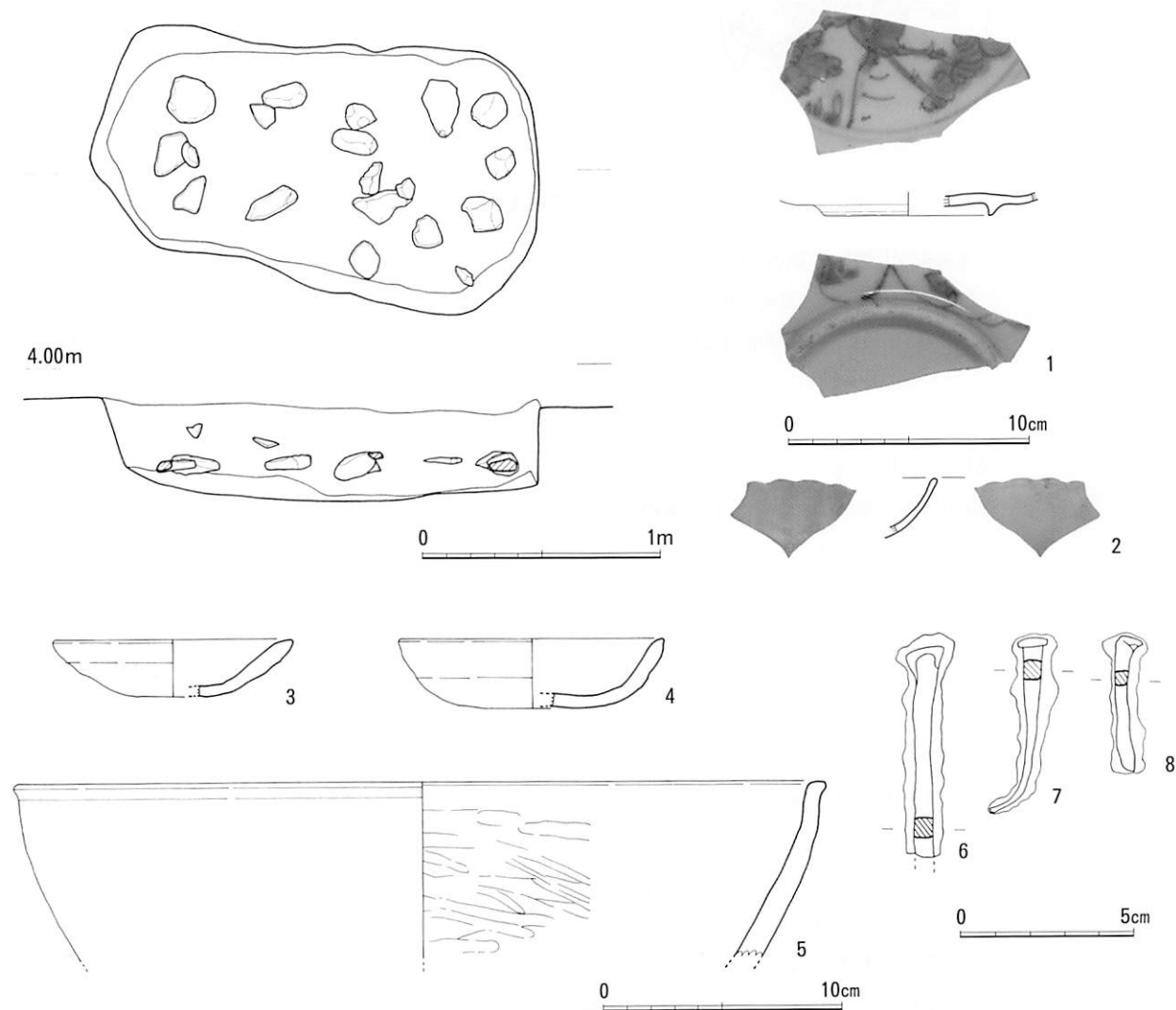
花碗で、口縁部破片である。5・6は釘で銹出が著しいが断面形は方形を呈している。

SK077 (第90図)

SK077は上層遺跡群に属する遺構で、東南端L16区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈する。



第89図 SK071 出土遺物実測図 (1/3、1/2)



第90図 SK077実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

廃棄土坑

規模は長径1.9m、短径1.0m、深さ35cm前後である。埋土は暗茶灰色土で、焼土・炭・砂を多量に含んでいる。土坑の中位からは被熱した人頭大の礫が10数点出土しているが、建物の礎石は見られなかった。また、礫とともに京都系土師器や磁器片・釘などが出土している。時期は土坑埋土の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年（1586）12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SK077出土遺物（第90図）

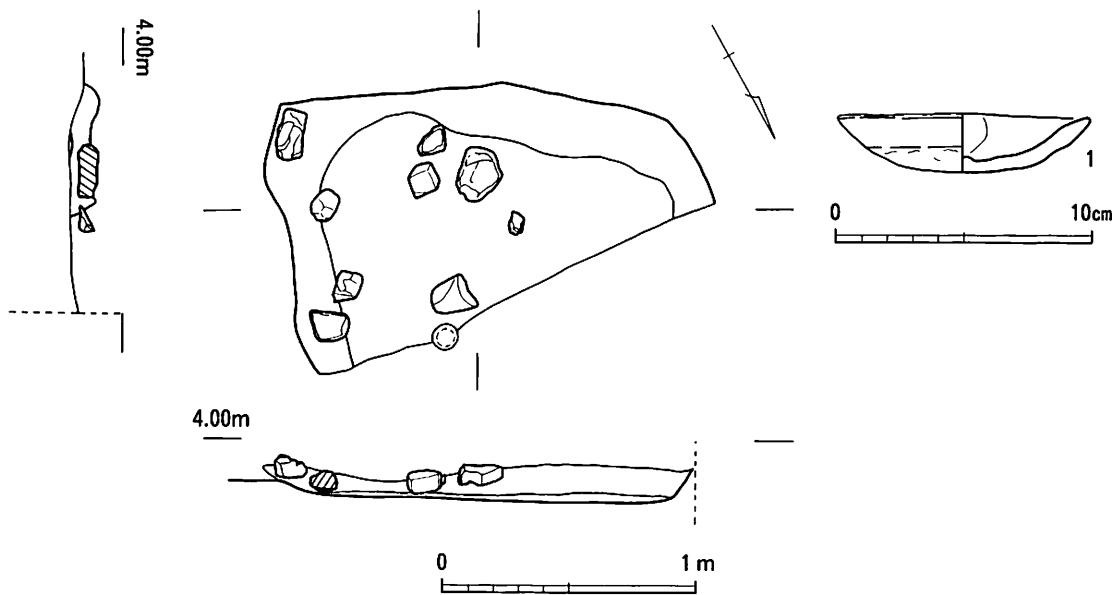
第90図1は中国景德鎮窯系の青花皿の底部破片で、小野正敏分類のE群に属する製品である。16世紀後葉に比定される。2は中国産の白磁皿で、輪花を呈する口縁部の破片である。3・4は京都系土師器の皿で、器壁が厚く、2期から3期の様相を示すものである。5は在地産の土師質土器捏ね鉢で、底部を欠く。6～8は釘で、断面形は方形を呈している。

SK078（第91図）

SK078は上層遺跡群に属する遺構で、L14区の北東端、土取り後の整地層上に構築している。北側は土層確認用のトレンチによって切られている。平面形態は長方形を呈すると思われる。現状での規模は東西1.2m、南北1.0m、深さは最深で約14cmで、レンズ状を呈している。埋土は3層確認できた。上層は焼土・炭混じりの茶褐色土、中層は炭層で全面に厚く堆積している。下層は暗茶褐色土で焼土・炭混じりである。土坑内からは径20cm前後の礫10点程が出土している。遺物の出土はほとんど無く、京都系土師器1点だけである。時期は土坑埋土の様相や出土遺物の年代観からみて、16世紀末葉に比定される。

SK078出土遺物（第91図）

第91図1は京都系土師器の皿である。器壁が厚く、3期の様相を示すものである。



第91図 SK078実測図及び出土遺物実測図（1/30、1/3）

SK085 (第92図)

SK085は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のL16・17区に位置する。SK074を切って構築している。平面形態は一辺1.3m前後の方形状を呈する。深さ約0.9mである。埋土は礫等が非常に多く詳細な観察はできなかったが、ほぼ全域に多量の焼土・炭で構成された茶褐色土が堆積していた。土坑内からは被熱した人頭大から拳大の礫が多量に投げ込まれた状態でぎっしりと詰まっている。この礫中には建物の礎石多数が出土している。礫に混じって陶磁器や釘等も多数出土しているが、京都系土師器等の出土はほとんどない。また陶磁器等に被熱したものが多数存在する。構築時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

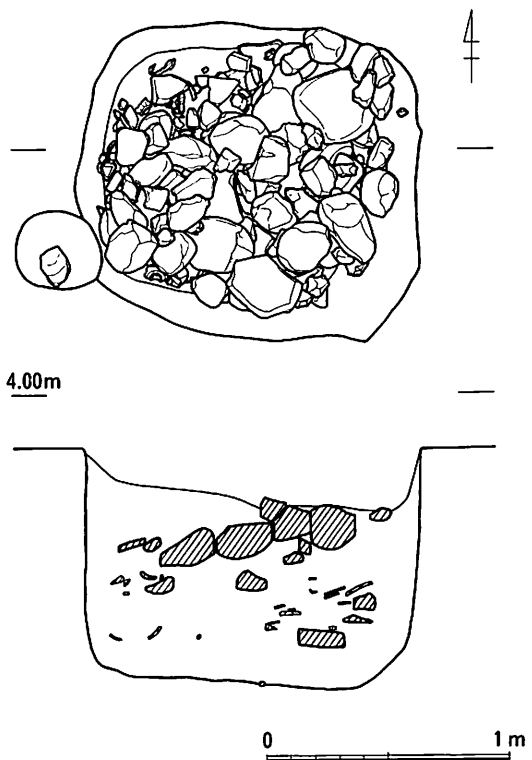
SK085出土遺物 (第93~96図)

第93図1は中国景德鎮窯系の製品で、五彩皿である。小野分類のE群に分類され、16世紀後半に比定される。2・3・5は中国産白磁の製品である。2は菊花皿で完形品であるが被熱を受けている。白磁皿D群で16世紀後半に比定される。3・5はC群に分類される皿で16世紀中葉頃の所産である。4は朝鮮産白磁の瓶の底部付近の一部である。16世紀代の所産である。6は中国産青磁の皿で外底部は露胎となる。7~11は中国景德鎮窯系の青花碗で、小野分類のE群の製品である。16世紀後半に比定される。7は内底部に「□□佳器」銘が、8は「長春佳器」銘が認められる。

第94図12~15は中国景德鎮窯系の皿である。12・14・15は小野分類のB1群で、16世紀前半に比定される。13はB類の皿の破片で15世紀中葉の所産である。16~20は中国漳州窯系の製品で、16~19が青花皿、20が青花碗である。

第95図21は京都系土師器の皿で、被熱している。口縁部は外反し、器壁は厚くなる。2期の特徴を示す資料である。22・23は備前系陶器の壺である。22は肩部に楡描き直線文を施し、自然釉が掛かっている。23は胴部上方に楡描き波状文を施す。内面下部は表面が剥離している。

第96図24は土師質土器の捏ね鉢である。内外面とも丁寧なヘラ磨きを行っている。25は茶臼の上石の破片である。26は漆器碗の底部破片である。外面には黒漆を施している。27~29は土錘。30~36は釘で、錆出が著しいが断面形は方形を呈している。37も鉄製品であるが製品は不明である。38は板状の鉄製品で厚さ2mm、製品は不明である。

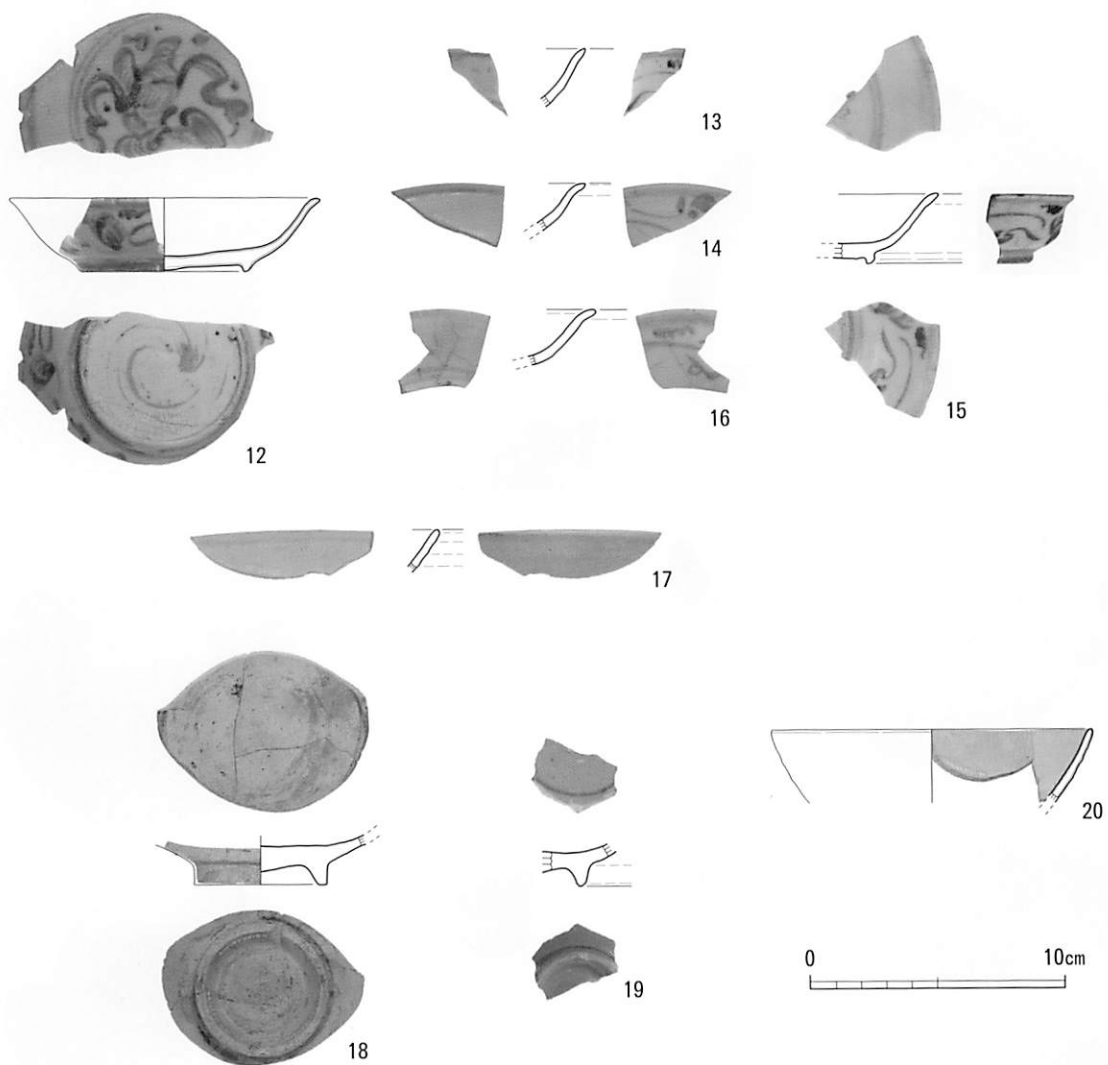


第92図 SK085実測図 (1/30)

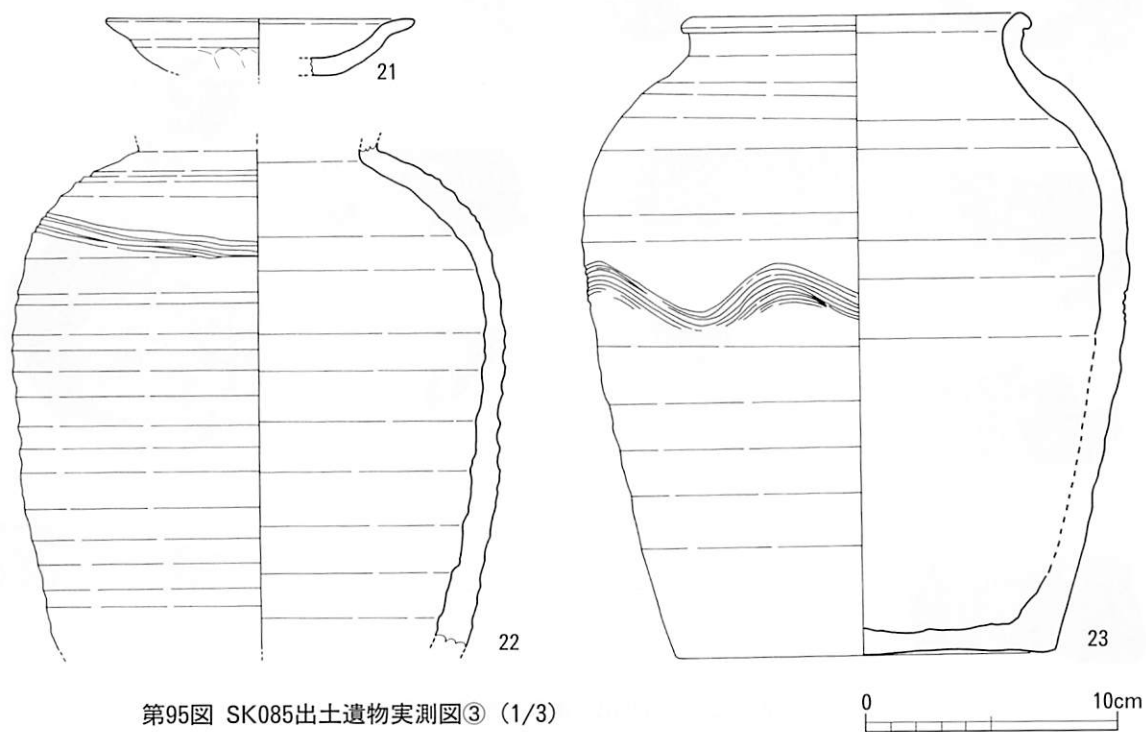


第93図 SK085出土遺物実測図① (1/3)

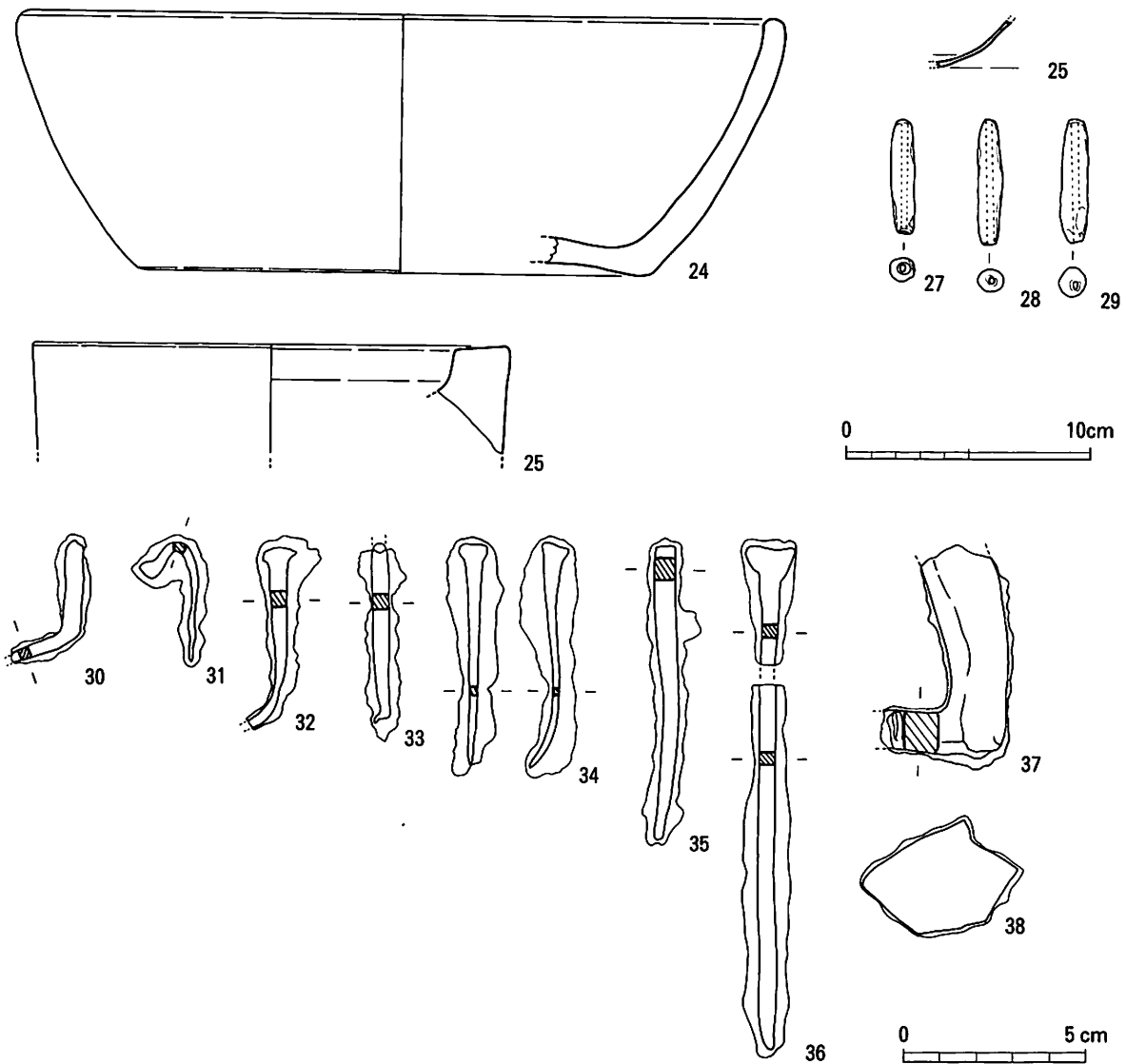




第94図 SK085出土遺物実測図② (1/3)



第95図 SK085出土遺物実測図③ (1/3)



第96図 SK085出土遺物実測図④ (1/3, 1/2)

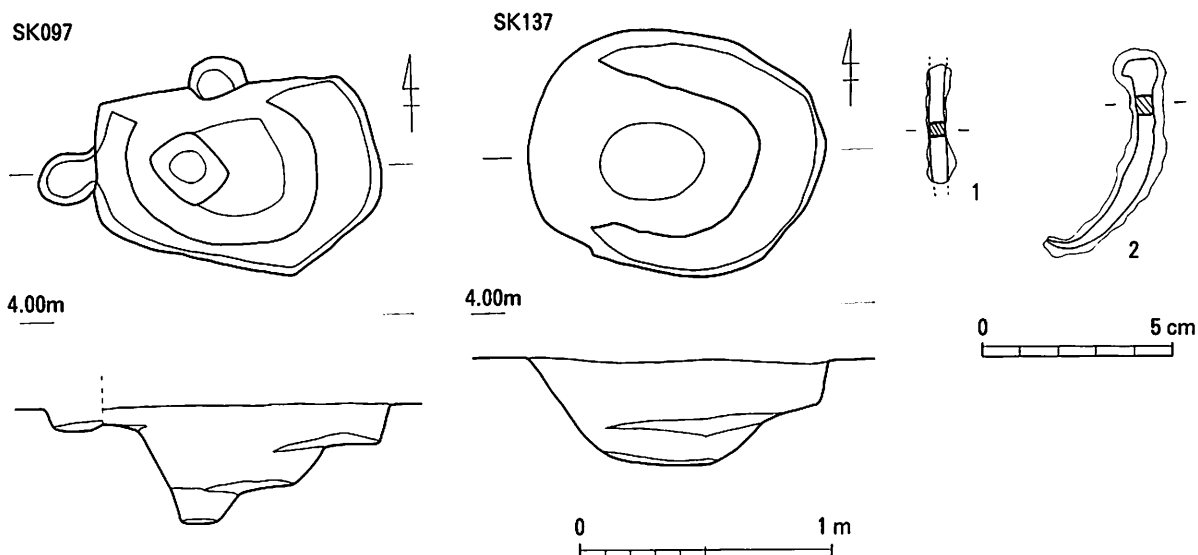
SK097 (第97図)

SK097は上層遺跡群に属する遺構で、L16区中央付近に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、二段に構築されている。規模は長径1.1m、短径0.7m、深さは約35cmである。埋土は灰茶褐色土で、焼土・炭・砂を含んでいる。土坑の北側と中央に柱穴があり、これらを切って構築している。埋土中からは遺物の出土はほとんどない。土坑の時期は埋土の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に構築された土坑で、16世紀末葉に比定される。

SK097出土遺物 (第97図)

第97図1は釘で、頭部と先端部分を失っている。断面形は方形を呈している。

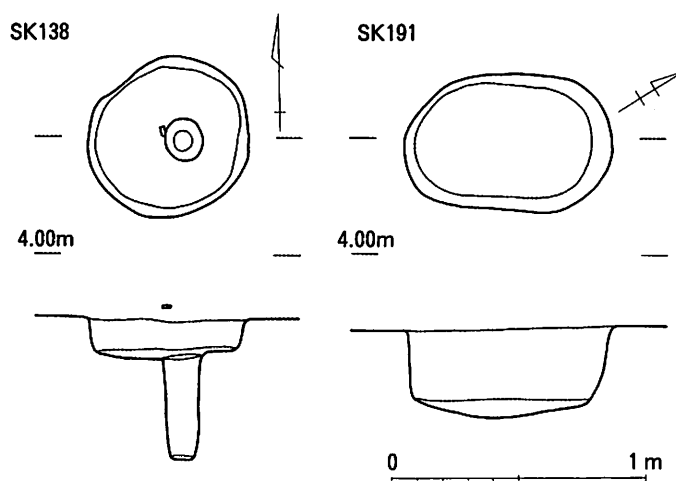
第2節 遺構と遺物



第97図 SK097・137実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/2)

SK137 (第97図)

SK137は上層遺跡群に属する遺構で、K16区に位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は長径1.4m、短径0.95m、深さは約40cmである。埋土は2層確認された。上層は灰黄褐色粘質土で、焼土・炭を含んでいる。下層は灰褐色粘質土で、焼土・炭をほとんど含まない。埋土中からは遺物の出土はほとんどない。時期は土坑埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。



第98図 SK138・191実測図 (1/30)

SK137出土遺物 (第97図)

第97図2は釘で、湾曲しているが全体を残している。断面形は方形を呈している。図示していないが、呉須赤絵の小破片一点が出土した。

SK138 (第98図)

SK138は上層遺跡群に属する遺構で、K16区に位置する。平面形態は円形を呈している。中央に柱穴痕が確認された。柱穴は掘り下げ後の確認で、土坑検出時及び埋土掘り下げ時には確認できなかった。規模は径0.6m前後、深さは約10cmである。埋土は灰黄褐色土で、焼土・炭を含んでいる。埋土中からは中国景德鎮窯系の青花の小破片が出土したが、器種・時期の特定はできなかった。時期は土坑確認面の状況や埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。

SK191 (第98図)

SK191は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径0.85m、短径0.55m、深さは約35cmである。埋土は暗黄褐色土で、焼土・炭を含んでいる。埋土中からの遺物の出土はない。時期は土坑確認面の状況や埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。

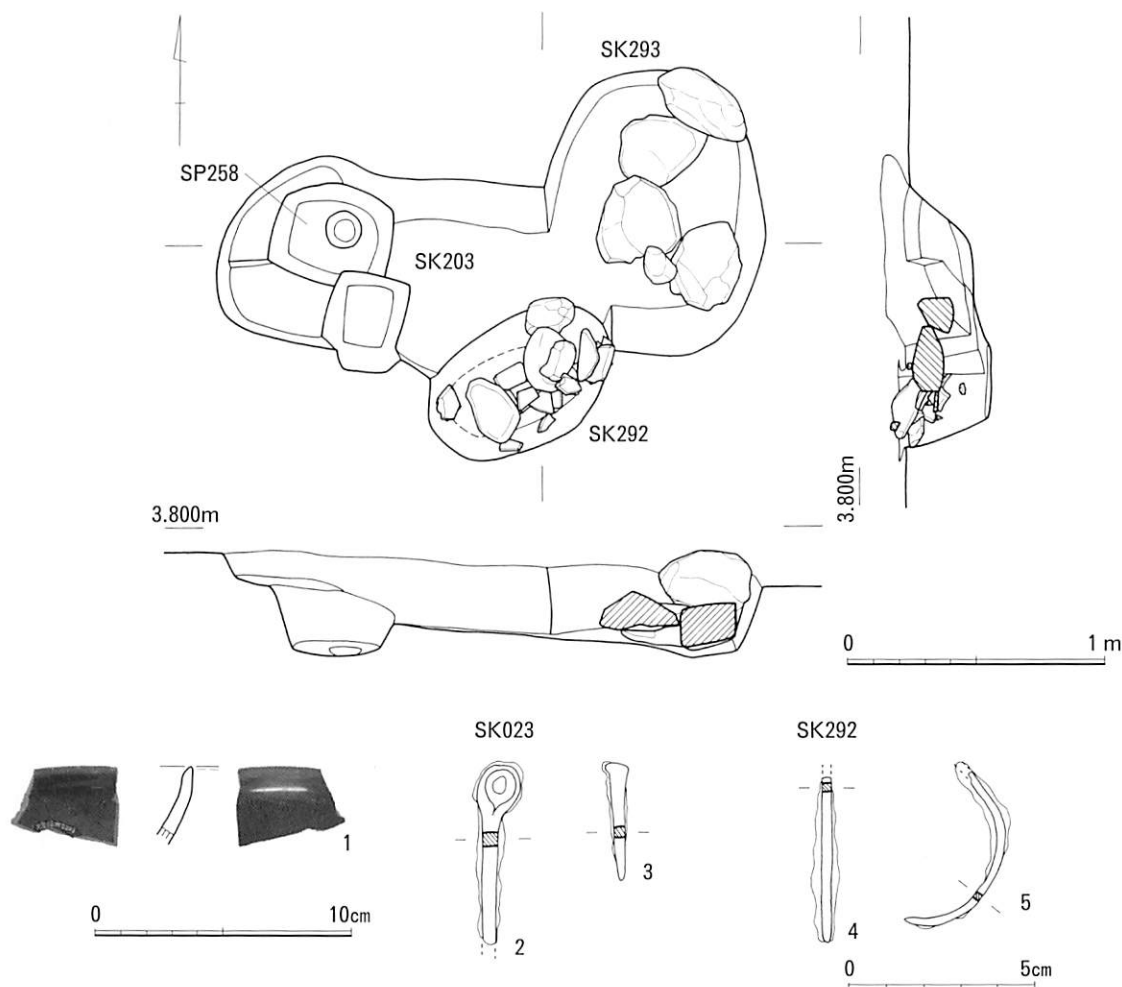
SK203 (第99図)

中国産天目茶碗

SK203は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。SK292に南側の一部を、SK293に東側の一部を切られている。平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.35m、短径0.7m、深さ30cm前後である。埋土は黄褐色土で、焼土・炭を含んでいる。埋土中からは中国景德鎮窯系の青花や中国産天目茶碗の小破片・鉄製品が出土したが、ほとんど器種・時期の特定はできなかった。遺構の時期は土坑確認面の状況や埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。

SK203出土遺物 (第99図)

第99図1は中国産天目茶碗の口縁部の破片である。白色系の胎土である。2は火箸の一部で、捻り手部分である。3は釘で原形を残している。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。



第99図 SK203・292・293実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

## 第2節 遺構と遺物

### SK292 (第99図)

SK292は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。SK203の南側を切って構築されている。平面形態は楕円形状を呈する。規模は長径0.8m、短径0.5m、深さ35cm前後である。埋土は暗茶褐色粘質土で炭・焼土を多量に含む。また土坑内には一部被熱した人頭大の礫10個程が投げ込まれた状況で確認された。礫に混じって平瓦10数点・土師器小破片・鉄製品が出土している。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

### SK292出土遺物 (第99図)

第99図4は釘で頭部を欠く。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。5は湾曲しているが釘の一部と思われる。針金等の可能性もある。

### SK293 (第99図)

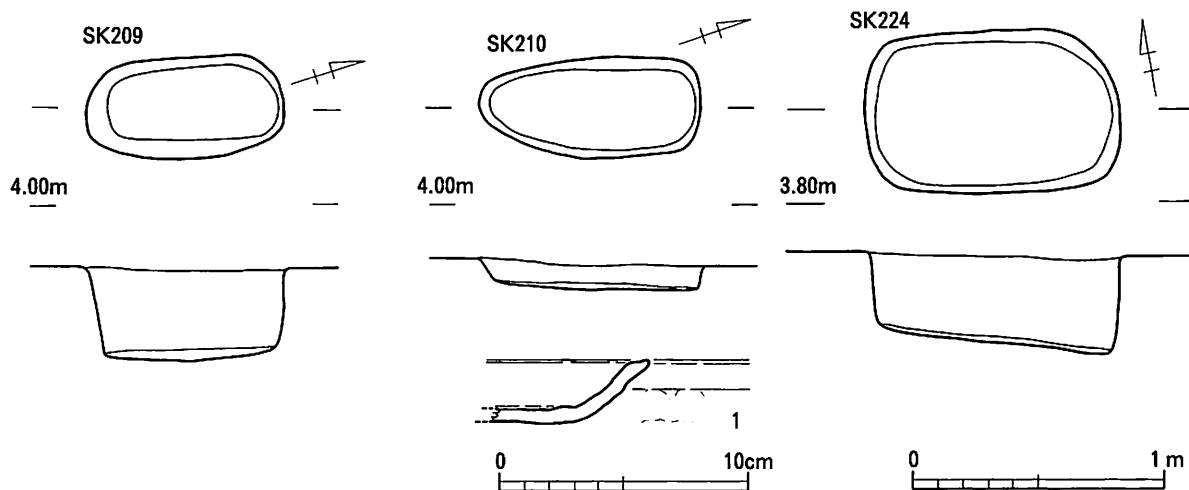
SK293は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。SK203の東側を切って構築されている。平面形態は隅丸長形状を呈する。規模は長径1.1m、短径0.85m、深さ30cm前後である。埋土は暗茶褐色粘質土で炭・焼土を多量に含む。また土坑内には大型の建物礎石5点が確認された。これらの礎石は被熱している。埋土中からは土器の小破片がわずかに出土したが、図示できる個体ではない。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

### SK209 (第100図)

SK209は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径0.75m、短径0.4m、深さは約35cmである。埋土中からの遺物の出土はない。廃棄土坑と思われ、遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

### SK210 (第100図)

SK210は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径0.9m、短径0.4m、深さは約10cmである。埋土中からは京都系土師器破片数点が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や出土遺物の年代観、層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



第100図 SK209・210・224実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

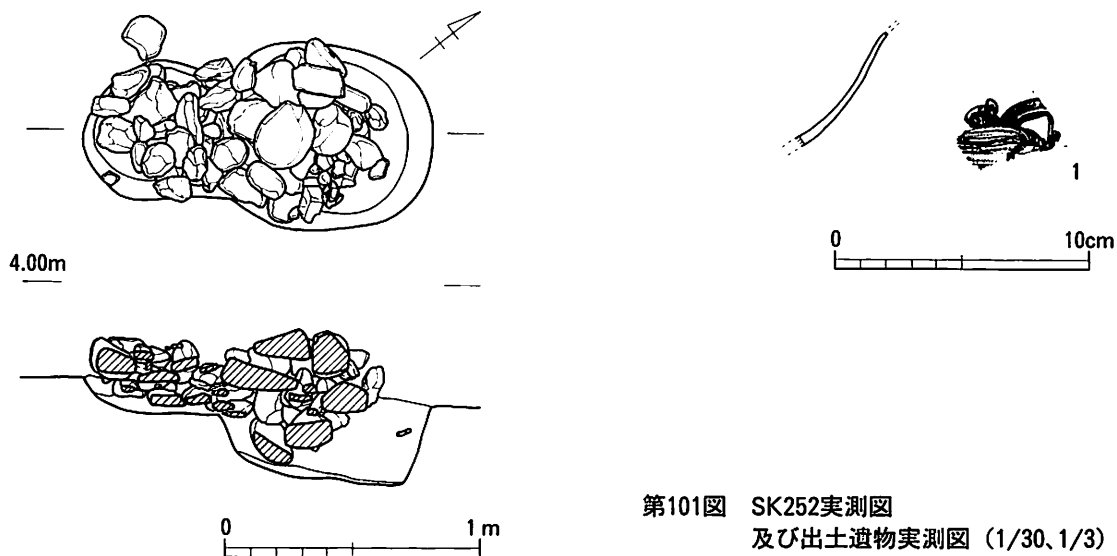
SK210出土遺物（第100図）

第100図1は京都系土師器の皿で、2期あるいは3期の特徴を有する製品である。

SK224（第100図）

廃棄土坑

SK224は上層遺跡群に属する遺構で、L13区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.0m、短径0.65m、深さは約35cmである。埋土中からの遺物の出土はない。廃棄土坑と思われる。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



第101図 SK252実測図  
及び出土遺物実測図（1/30、1/3）

SK252（第101図）

被熱した礎石  
廃棄土坑

SK252は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。当初礎群が検出されたため、遺構の周囲を確認すると不定形の掘り込みラインを検出した。礎群除去後に精査すると、当遺構は南から北にかけて段落ちする土坑であった。平面形態は隅丸長方形が2基連なっている形態である。規模は南側が長径0.55m、短径0.5m、深さ約15cm、北側が長径0.8m、短径0.7m、深さ約35cmである。埋土は黄褐色粘質土で焼土・炭を多量に含んでいる。また土坑内には被熱した人頭大の礎がぎっしりと詰まっている。この礎中には建物の礎石数点が確認された。礎に混じて磁器や土師器の破片が出土している。遺構の時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年（1586）12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SK252出土遺物（第101図）

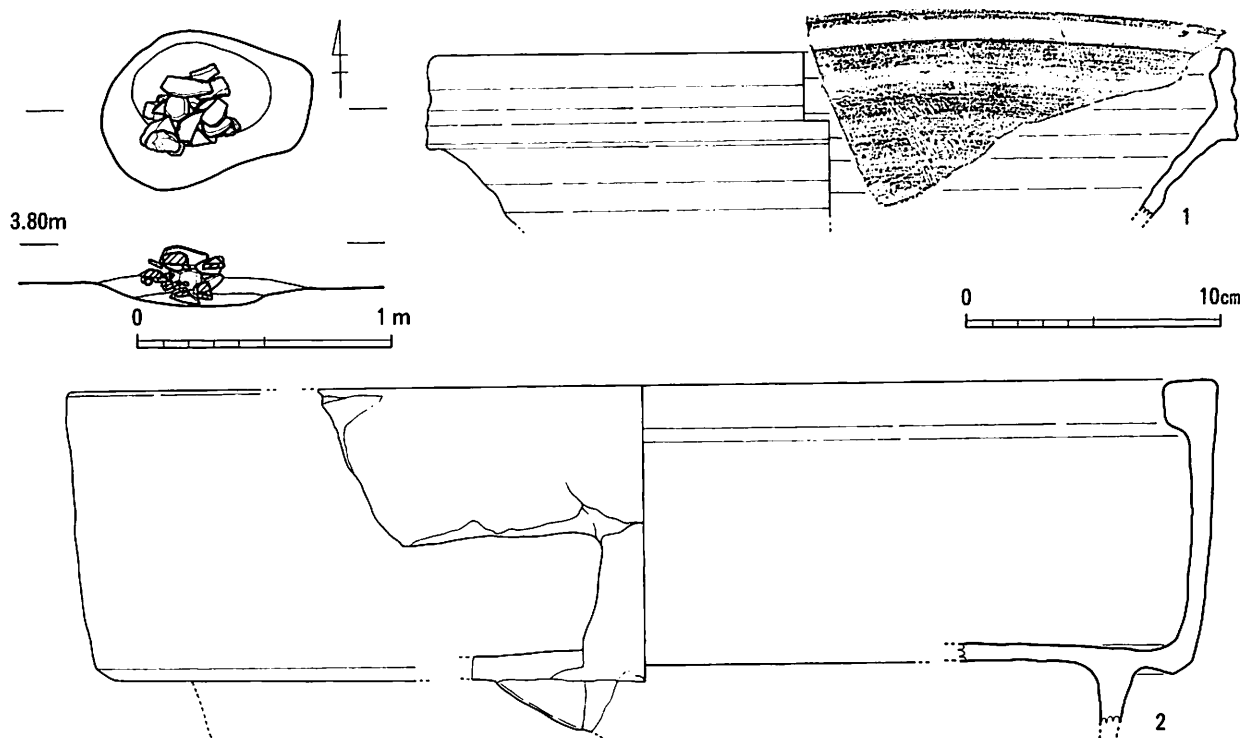
図示した遺物は中国景德鎮窯系の青花碗で、胴部破片である。他は小破片で図示できない。

SK253A（第102図）

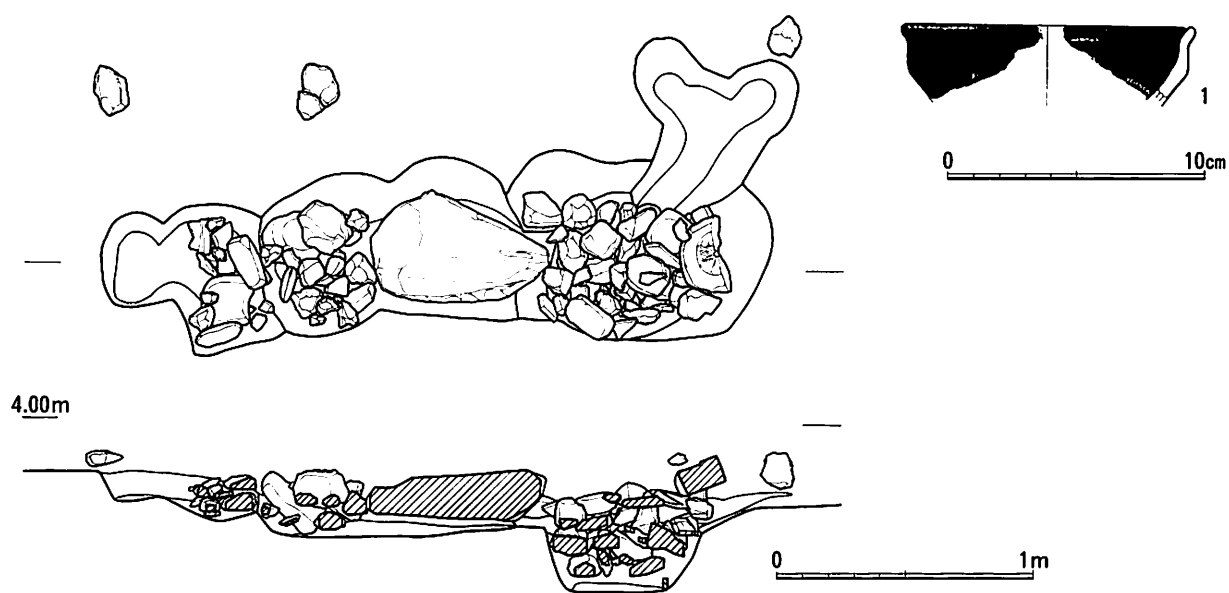
廃棄土坑

SK253Aは上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。当初はSK253Bと連なった溝状の土坑と考えていたが、精査していくと、1基の独立した土坑となった。平面形態は不定楕円形状を呈する。規模は長径0.85m、短径0.55m、深さ10cm前後でレンズ状の土坑である。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。また土坑内には一部被熱した径15cm前後の礎20数個が投げ込まれた状況で確認された。礎に混じて平瓦・備前陶器等が出土している。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年（1586）12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

第2節 遺構と遺物



第102図 SK253A実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)



第103図 SK253B実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)



SK253A出土遺物（第102図）

第102図1は備前播鉢の口縁部で、内面には斜め播目が施されている。近世1期の初期の所産である。2は瓦質土器の火鉢で内外面ともナデ調整を行っている。また、底部脚部分には離れ砂が残っている。

SK253B（第103図）

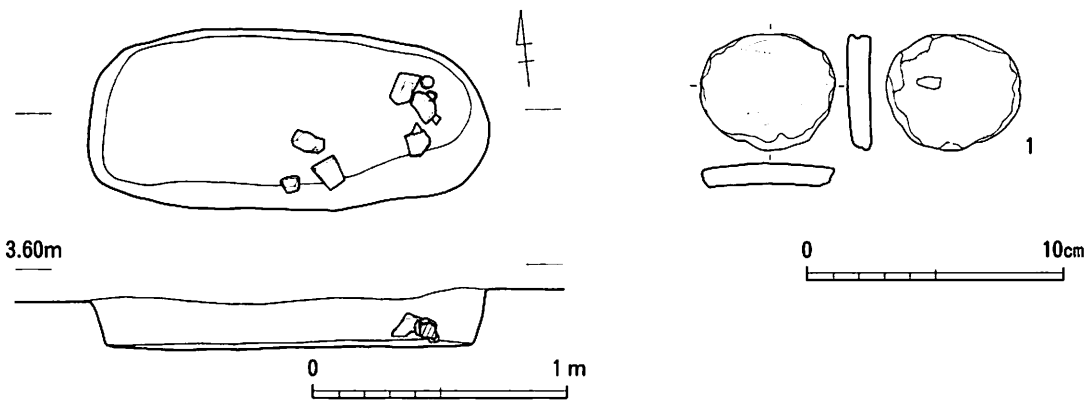
礎石

廃棄土坑

SK253Bは上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。礫群が連なっており、溝状の土坑と考えていたが、精査していくと3～4基の隅丸長方形の土坑の重なりであった。規模は全長で2.65m、短径0.5～0.7m、深さ10～30cm前後である。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。また土坑内には一部被熱した人頭大の礫多数と、長さ70cm、厚さ30cm前後の礎石と考えられる大型の石が投げ込まれた状況で確認された。礫に混じって平瓦や石臼等の破片が出土している。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年（1586）12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SK253B出土遺物（第103図）

図示した遺物は瀬戸美濃系の天目茶碗の口縁部である。



第104図 SK254実測図及び出土遺物実測図（1/30、1/3）

SK254（第104図）

SK254は上層遺跡群に属する遺構で、L・M15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.55m、短径0.7m、深さは約20cmである。埋土は暗灰褐色粘砂土で炭・焼土を多量に含む。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や出土遺物の年代観、層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK254出土遺物（第104図）

図示した遺物は、土師質土器を再加工した製品で、周辺部に研磨を加え、径5cm前後の円形に加工している。遊具として使用された可能性が高いものとする。

SK255（第105図）

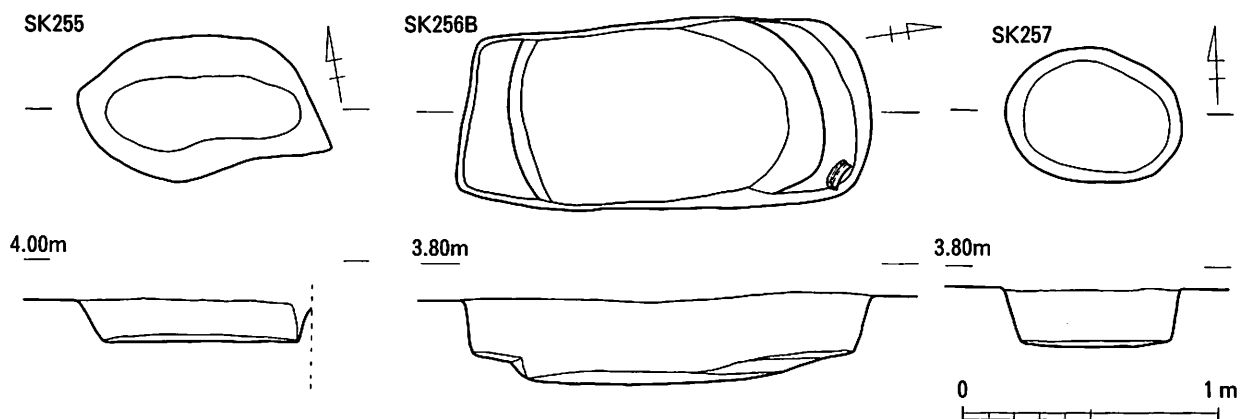
SK255は上層遺跡群に属する遺構で、L・M15区に位置する。平面形態は不定方形を呈している。規模は長径1.0m、短径0.5m、深さは15cm前後である。埋土は暗灰褐色粘砂土で炭・焼土を含む。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK256B (第105図)

SK256Bは上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.6m、短径0.75m、深さは約30cmである。埋土は暗灰褐色粘砂土で炭・焼土を含む。埋土中からは備前插鉢の口縁部片が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK257 (第105図)

SK257は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。平面形態は楕円形を呈している。規模は長径0.7m、短径0.5m、深さは約20cmである。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。埋土中からは遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



第105図 SK255・256B・257実測図 (1/30)

SK262 (第106図)

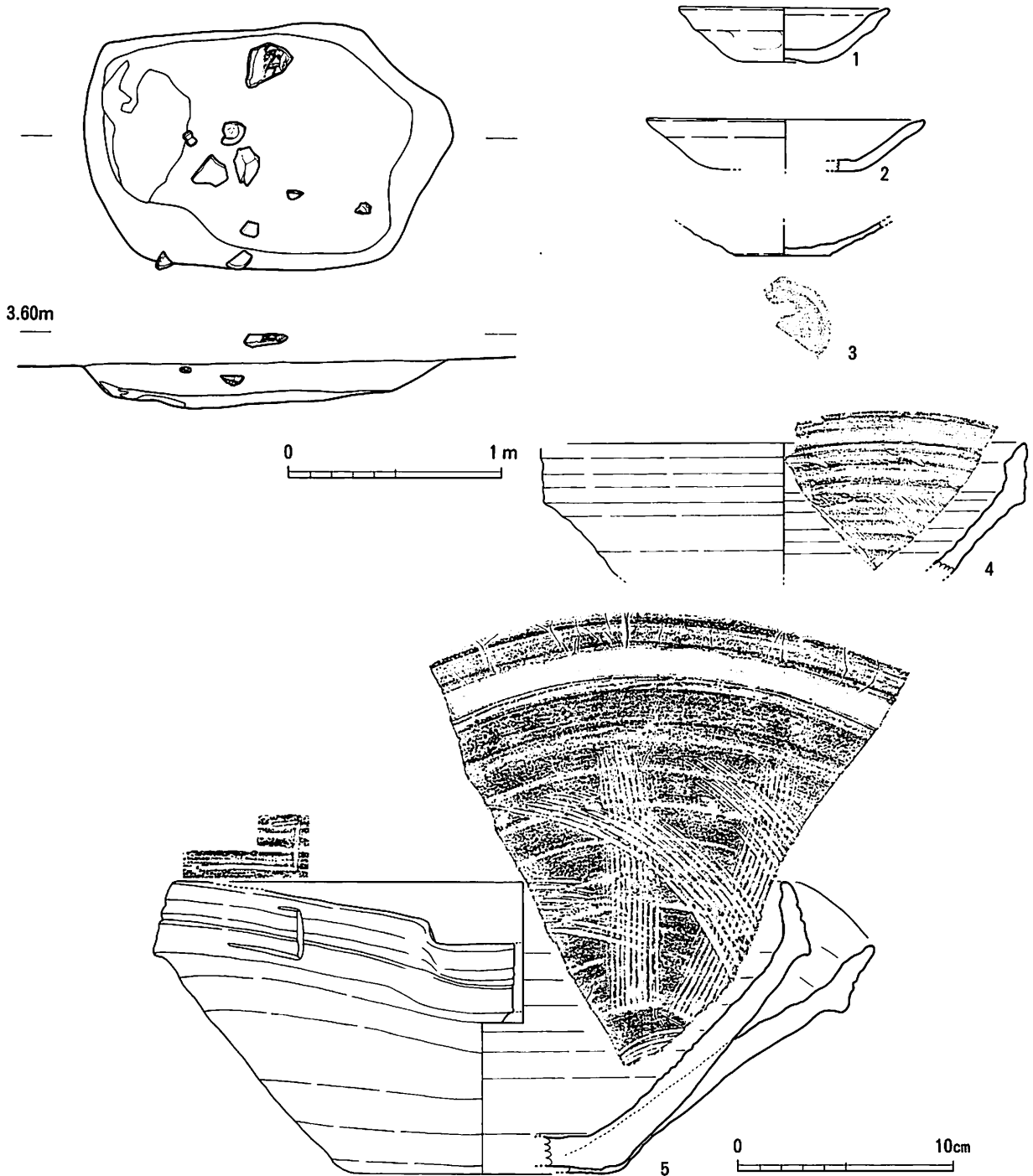
SK262は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.5m、短径1.15m、深さは約20cmである。埋土は2層確認できた。上層は灰黄褐色砂質土で、砂粒が主体で一部黄色粘砂土がブロック状に混入している。下層は暗茶褐色土で、焼土・炭が混入し、ほぼ全面に堆積している。上層埋土からは京都系土師器や備前插鉢が出土している。下層からの遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況や出土遺物の年代観、層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK262出土遺物 (第106・107図)

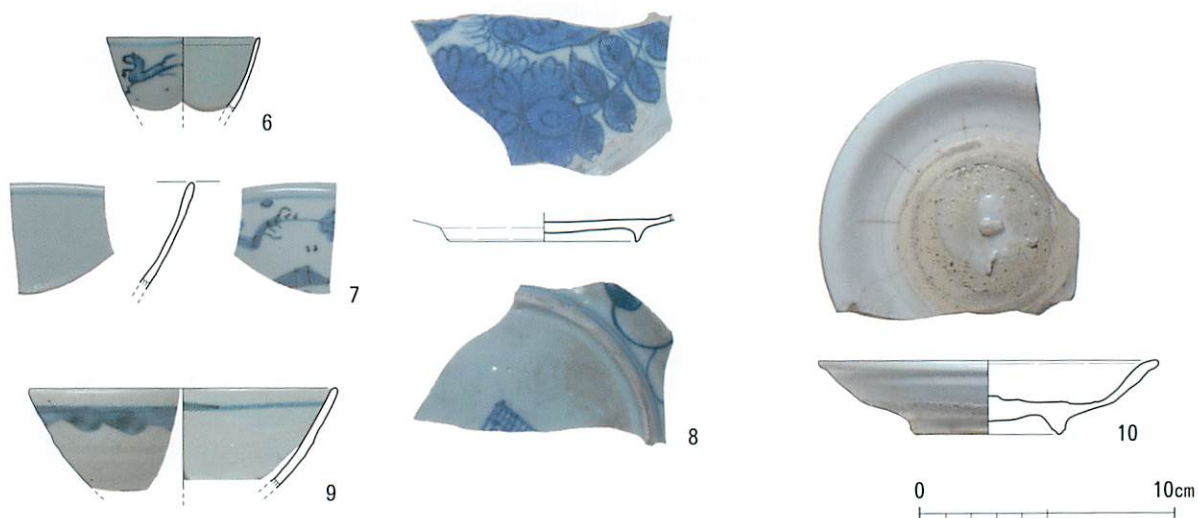
第106図1・2は京都系土師器の皿で、口縁部は外反し、器壁は厚くなる。2期あるいは3期の特徴を示す資料である。3は在地産の土師質土器皿の底部で糸切り痕が見られる。4は備前系陶器の插鉢の口縁部である。内面には斜め挿目が施されている。近世1期の所産であろう。5も備前系陶器の插鉢である。内面には放射状挿目と斜め挿目が交差する挿目が施されている。近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。第107図6～8は中国景德鎮窯系の青花である。6は小坏の口縁部、7はE群碗の口縁部破片、8はE群皿の底部で、内底部に銘款が認められるが、残存部分が少なく判読できない。9は中国漳州窯系青花碗の口縁部破片である。10は中国産白磁の皿である。高台内面と見込みが露胎となる。

SK266 (第108図)

SK266は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。平面形態は方形を呈している。規模は長径1.6m、短径1.1m、深さは15cm前後である。埋土は灰茶褐色粘質土で焼土・炭はほとんど混入していない。床面で径15cm程の礫1点が出土している。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。



第106図 SK262実測図及び出土遺物実測図① (1/30、1/3)



第107図 SK262出土遺物実測図② (1/3)

SK273 (第108図)

SK273は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。平面形態は不定形を呈している。規模は長径0.6m、短径0.5m、深さは15cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、床面全域で厚さ5cm程度の炭層が確認された。その上に白色粘質土がうすく堆積している。さらに炭層がみられる。遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況等からみて、16世紀後半～末葉に比定される。

SK274 (第108図)

SK274は上層遺跡群に属する遺構で、L14区、SK274の東4m付近に位置する。平面形態は隅丸方形を呈している。規模は一辺0.5m程度、深さは20cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、SK273と同様で、遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況等からみて、16世紀後半～末葉に比定される。

SK276 (第108図)

SK276は上層遺跡群に属する遺構で、L16区、SK077を切って構築されている。平面形態は楕円形を呈している。規模は長径0.55m、短径0.4m、深さは10cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、SK273・274と同様で、遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期はSK077との切り合い関係や土坑確認面の状況等からみて、16世紀末葉に比定される。

SK277 (第108図)

SK277は上層遺跡群に属する遺構で、L16区、SK065・074を切って構築されている。平面形態は不定形を呈している。規模は長径0.6m、短径0.5m、深さは20cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、SK273・274・276と同様で、遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期はSK077との切り合い関係や土坑確認面の状況等からみて、16世紀末葉に比定される。

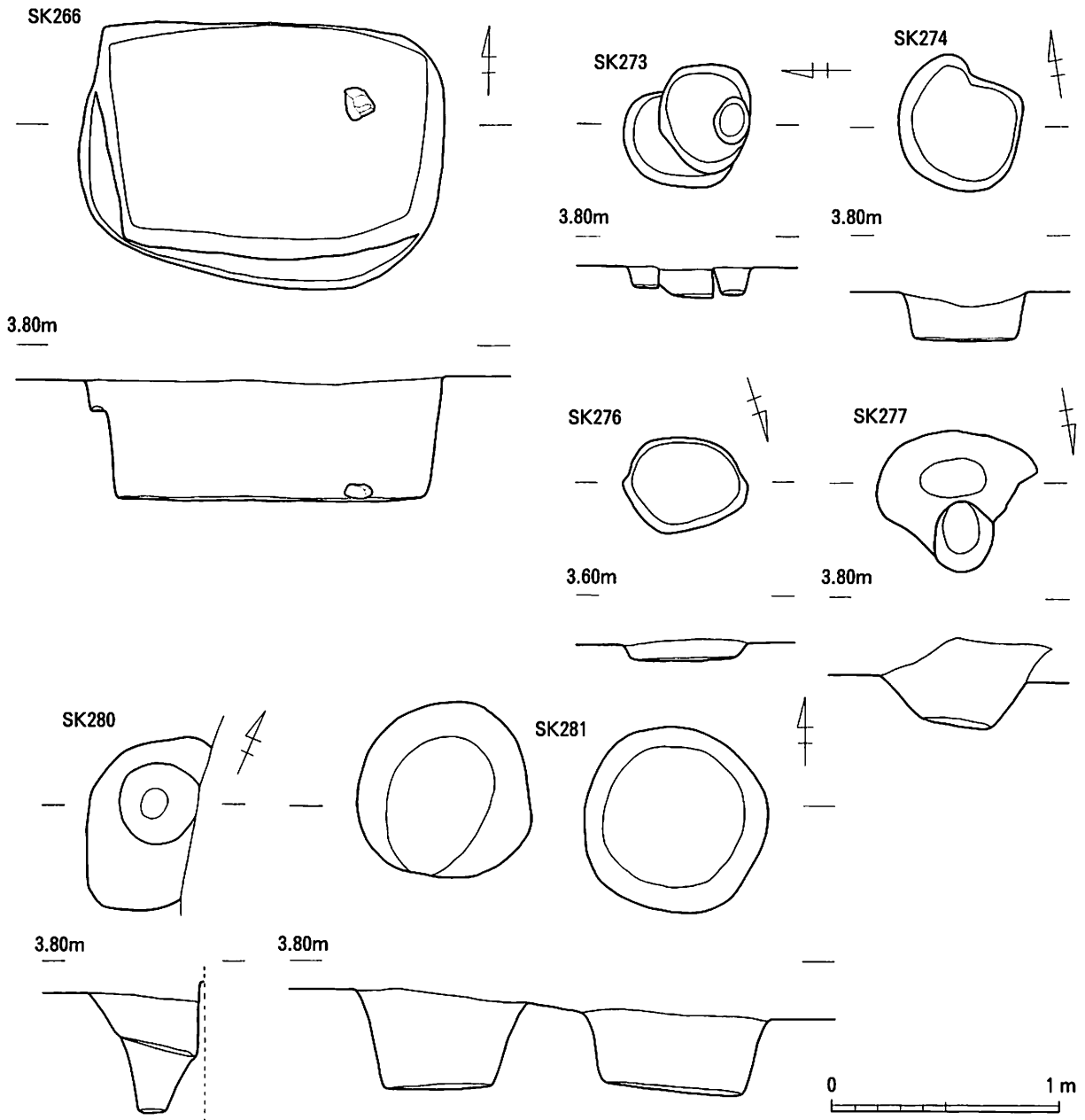
SK280 (第108図)

SK280は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。東側の一部をSE075に切られている。

平面形態は隅丸方形を呈している。中央部に掘り込みがみられ、柱穴の可能性もある。規模は長径0.8m、短径0.5m、深さは50cm前後である。埋土の観察では柱穴の掘り込みは確認できなかった。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。

SK281 (第108図)

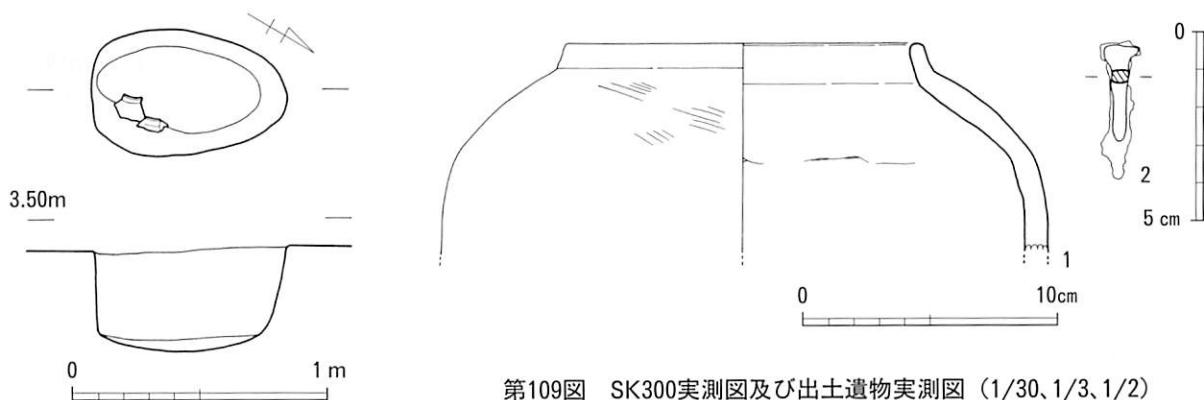
SK281は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。同様の土坑掘形が2基確認されたため、西からそれぞれSK281A・281Bとする。形態はA・Bとも円形を呈している。規模は一辺0.8m前後、深さはAが約40cm、Bが約35cmである。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。



第108図 SK266・273・274・276・277・280・281実測図 (1/30)

SK300 (第109図)

SK300は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は楕円形を呈している。規模は長径0.75m、短径0.5m、深さは40cm前後である。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。埋土中からは数点の遺物が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



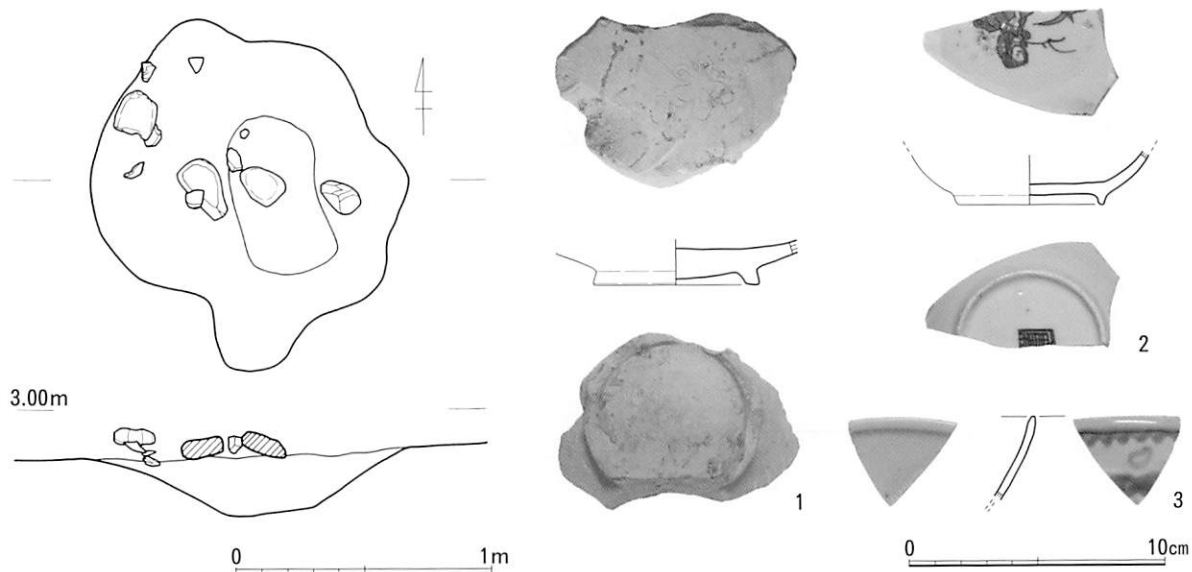
第109図 SK300実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

SK300出土遺物 (第109図)

第109図1は土師質土器の壺の一部分である。外面の一部は黒変している。2は釘で、下部を欠く。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

SK311 (第110図)

SK311は上層遺跡群に属する遺構で、L・M16区に位置する。SK254の下層で確認された。平面形態は不定形を呈している。規模は長径1.3m、短径1.1m、深さは20cm前後である。埋土中からは数点の遺物が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。



第110図 SK311実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

SK311出土遺物 (第110図)

緑釉陶器

第110図1は緑釉陶器の底部で、猿投窯の製品であろう。見込みに毛彫りの花文を施している。時期は特定できないが、7～11世紀代の製品である。2は中国景德鎮窯系の製品で、青花皿の底部である。小野分類のE群に分類され、16世紀後半に比定される。3は中国漳州窯系青花碗の口縁部破片である。

4. 集石遺構

第18次東調査区では6基集石遺構が確認された。上層遺構群に属するものである。土取り後天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄遺構と考えられる遺構がほとんどである。

SX080 (第111図)

廃棄土坑

SX080は上層遺跡群に属する遺構で、L16・17区に位置し、SK077と接している。土層確認用のトレンチ掘り下げ時に多量の礫群が検出されたため精査を行ったが、掘形ラインは確認できなかった。しかし先述したSK077と同様に礎石等の廃棄土坑の可能性を持つ。礫群は拳大から人頭大の礫で東西に長く廃棄されている。ほとんどが被熱している。規模は東西1.5m、南北0.8mの範囲内に約40cmの高さで構築されている。この礫中には建物の礎石数点が確認されたが、土器等の遺物の出土はない。遺構の構築時期は遺構の様相や周辺の状況からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄遺構と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SX244 (第112図)

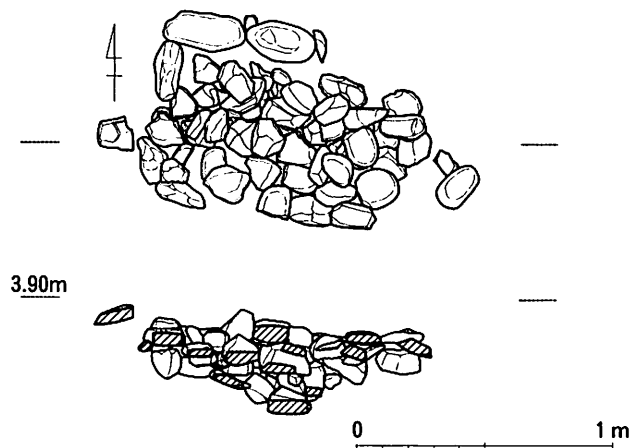
SX244は上層遺跡群に属する遺構で、L14区北東隅に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。東西2m、南北1.5mの範囲にほぼ散発的に礫が確認された。掘形ラインは確認できなかった。礫群は拳大の礫で構成されている。被熱した石は見受けられず、礎石等も確認できなかった。集石掘り下げ中に陶磁器や土師器等の遺物が出土している。時期は確認面の状況や層位的な所見、遺構の様相や出土遺物の年代観から、構築時期は16世紀後葉から末葉に比定される。

SX244出土遺物 (第112図)

第112図1は中国漳州窯系の青花碗の底部である。2も中国漳州窯系の青花盤の底部である。3は中国景德鎮窯系の製品で、青花皿である。小野分類のE群に分類され、16世紀後半に比定される。4は京都系土師器の皿で、口縁部は外反し、器壁は厚くなる。2期の特徴を示す資料である。5は頂部を欠くが釘で、断面形は方形を呈している。

SX245A (第113図)

SX245Aは上層遺跡群に属する遺構で、L・M14・15区に位置する。東側は調査区外に延びる。土取り後の整地層上に構築されている。東西1.1m以上、南北0.7mの範囲にほぼ散発的に礫が確認された。掘形ラインは確認できなかった。礫群は拳大の礫で構成されている。被熱した石は見受

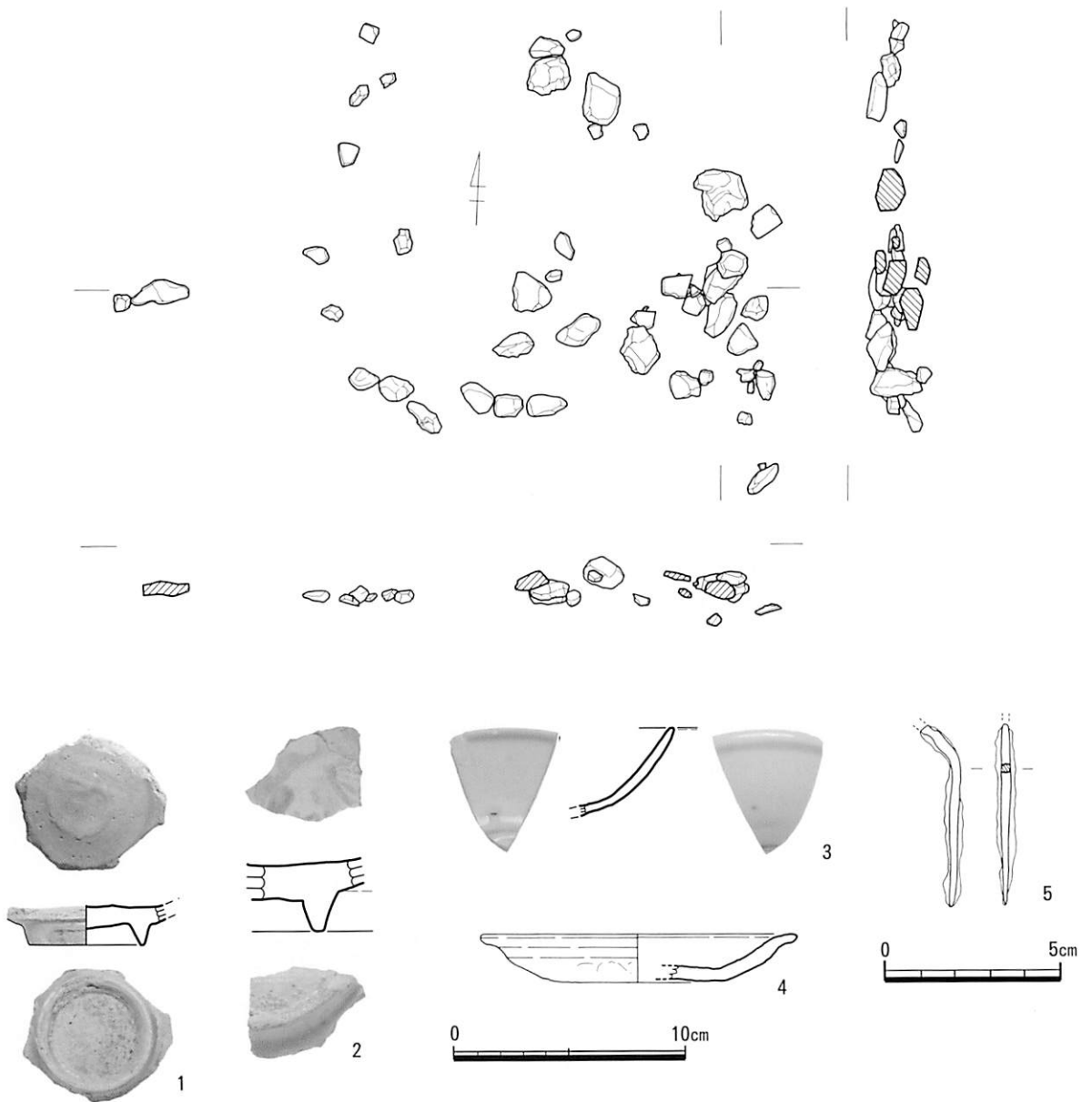


第111図 SX080実測図 (1/30)



第2節 遺構と遺物

けられず、礎石等も確認できなかつた。集石掘り下げ中に土師器等の遺物が出土している。遺構の時期は遺構の様相や出土遺物の年代観からみて、構築時期は16世紀後葉から末葉に比定される。

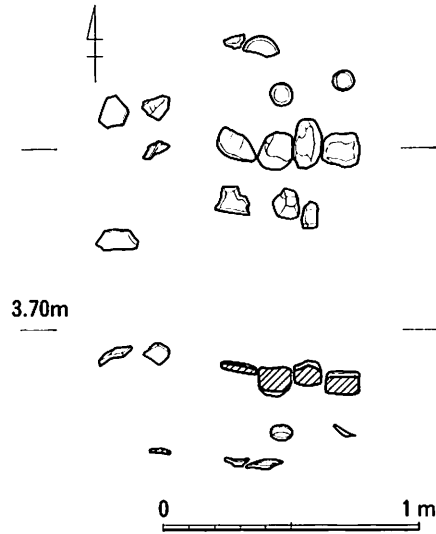


第112図 SX244実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

**SX245A出土遺物 (第113図)**

巴文

第113図1は在地系の瓦質土器火鉢の口縁部である。焼きがやや甘い。外面の突帯間に刻印による巴文を施している。2は京都系土師器の皿で、器壁は厚くなる。3期の特徴を示す資料である。3は土錘である。

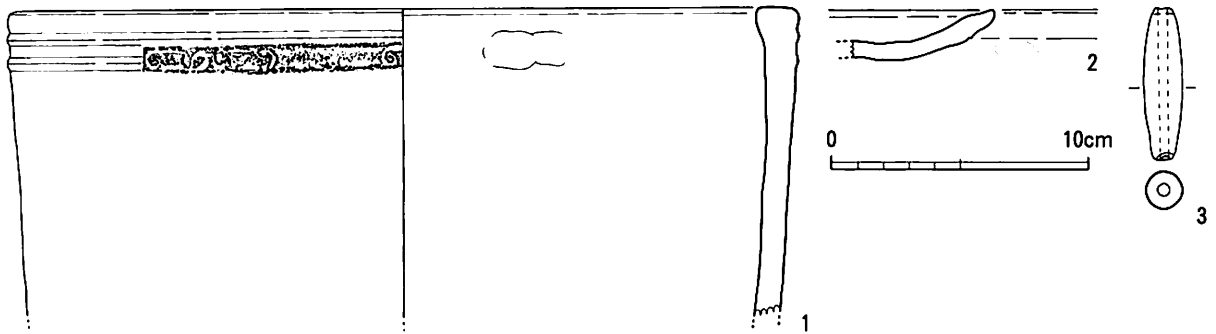


第113図 SX245A実測図 (1/30)

**SX302 (第115図)**

SX302は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。土取り後の整地層の中位に構築されている。整地は期間をおきながら整地を行っていたと思われ、遺構検出面の床面は灰白色の粘土層が薄く堆積している。集石は2カ所に亘ってみられる。西側は拳大から人頭大の礫を意図的に円形に並べている。約1m東側では、

4個の大型礫を南北方向に1列に並べている。掘り込み等もなく、施設の確認はできなかった。円形礫群は、径0.7m前後である。被熱した石は見受けられず、礎石等も確認できなかった。集石掘り下げ中に陶器片1点が出土しているが、当遺構に伴うかは不明である。時期は遺構確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後葉から末葉に比定される。



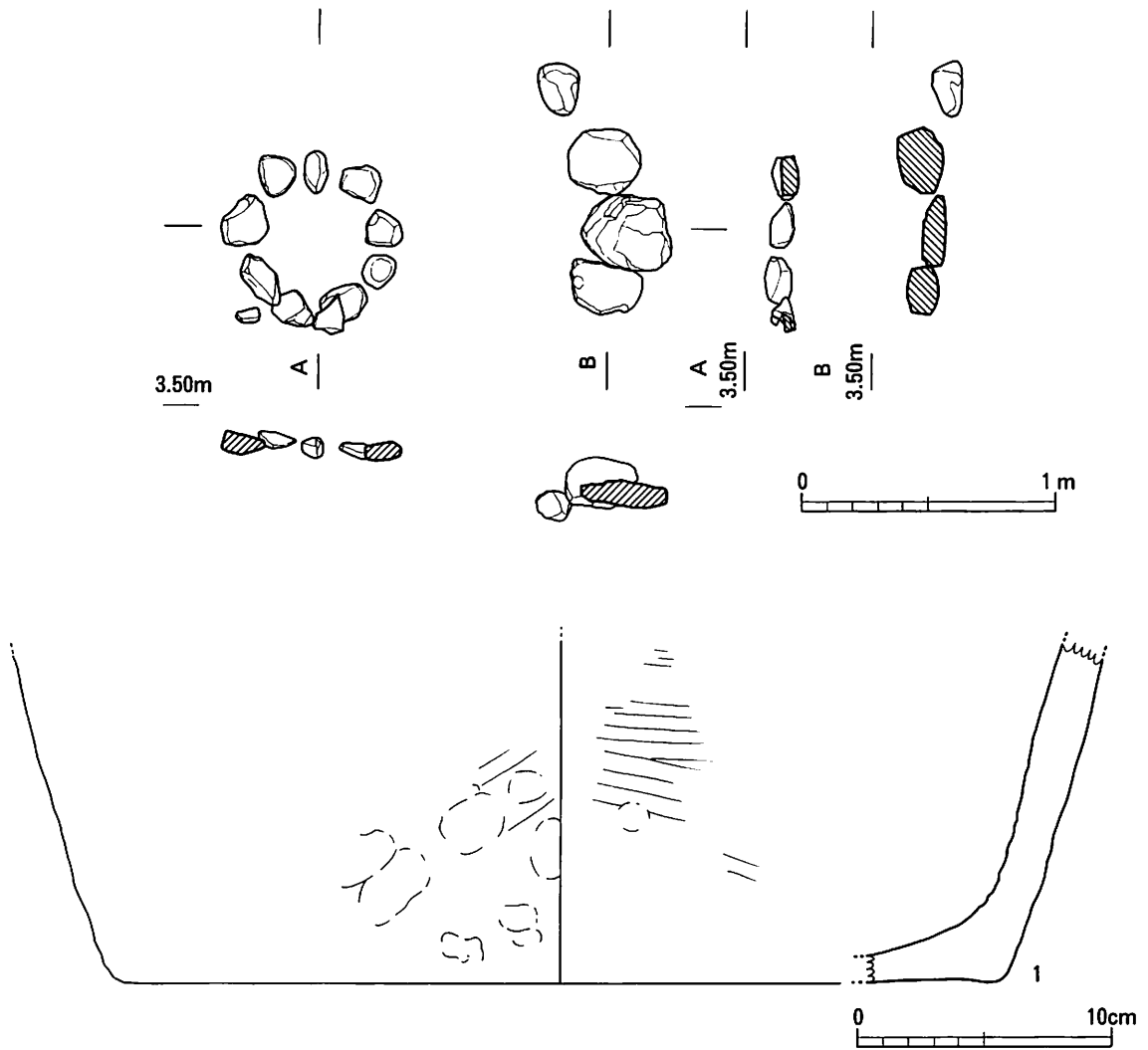
第114図 SX245A出土遺物実測図 (1/3)

**SX302出土遺物 (第115図)**

図示した遺物は備前陶器の大甕の底部である。内部下面には自然釉が掛かっている。底部のため時期は不明である。

**SX303 (第116図)**

SX303は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。掘り込みは確認できなかった。礫群は拳大から人頭大の礫で東西に長く廃棄されている。被熱した石はみられない。規模は東西2.0m、南北0.4mの範囲で、高さは約30cmである。集石掘り下げ中



第115図 SX302実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

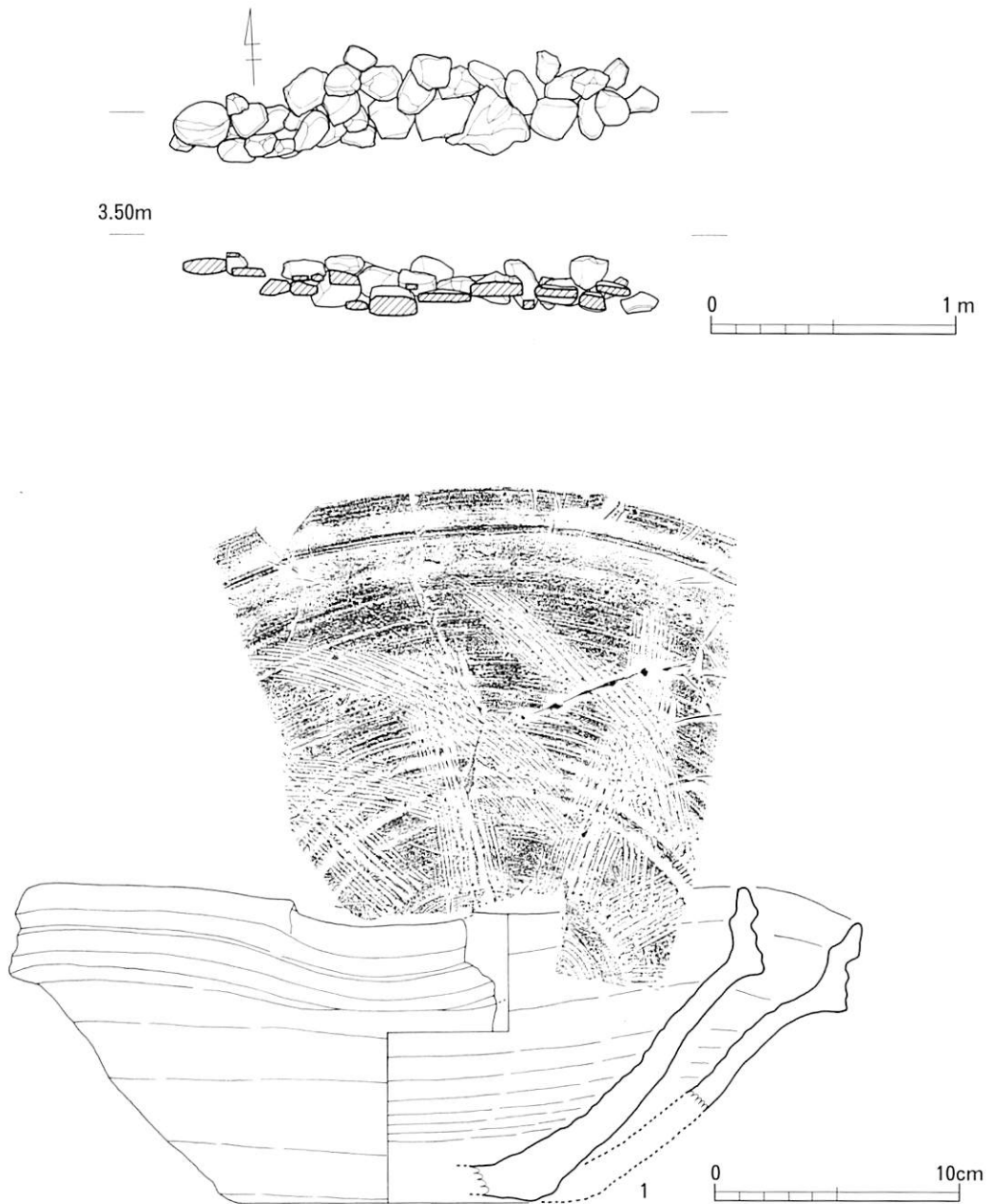
に陶器片1点が出土しているが、当遺構に伴うかは不明である。遺構の様相や出土遺物の年代観から構築時期は16世紀末葉に比定される。

**SX303出土遺物 (第116図)**

図示した遺物は備前陶器である。播鉢で、内面には放射状播目と斜め播目が交差する播目が施されている。近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。

**SX309 (第117図)**

SX309は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。土取り後の整地層中位に構築されている。遺構検出の床面には灰白色の粘土層が薄く堆積している。掘形ラインは確認できなかった。礫群は拳大から人頭大の礫で東西に長く廃棄されている。被熱した石はみられない。規模は東西2.7m、南北0.4mの範囲で、高さは約30cmである。集石掘り下げ中の遺物の出土はない。遺構の時期は遺構の様相や出土遺物の年代観から構築時期は16世紀後葉～末葉に比定される。



第116図 SX303実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

### 5. 井戸

第18次東調査区では5基の井戸跡が確認された。1基(SE176)を除き、全て上層遺構群に属するものである。16世紀後半代に比定される町屋関連の遺構と推定され、検出位置は調査区の東端に集中している。他地区でみられる井戸相互の切り合いや掘り直し等は見られない。全て単体での検出である。

SE176は奈良時代の井戸跡であり、当時期以外の遺物は1点も含まない。

#### SE176(第118図)

奈良時代の  
井戸

SE176は奈良時代の井戸で、L16区に位置する。当遺構は16世紀中葉頃の大規模な土取り作業による削平から免れ、上面削平はあるものの主要施設はそのまま残されていた。平面形態は方形を呈する。規模は一辺1.9~2.0m、検出面からの深さは1.5mである。井筒床面の標高は2.4mで、現在の湧水部までは到達していないが、井戸掘形の底部は、小礫混じりの砂利層である。当時の湧水点はこの位置まできていたと考えられる。井筒掘形の平面プランは楕円形で、長径0.9m、短径0.45mである。井筒本体と埋土間に腐食した木質が残り、空洞が生じている。底部分の井筒は楕円形であるが、全体は回らず、端が互い違いに外れた様相が認められた。この現象は土圧による変形と思われるが、本来の平面形態が楕円形であった可能性も十分考えられる。床面は、礫を敷くこともなく、曲物等の施設も確認できなかった。遺物は土師器皿や坏等が井筒内や、井戸掘形から多数出土している。他の時期の混入は認められない。遺構の時期は出土遺物から8世紀前半代に比定される。

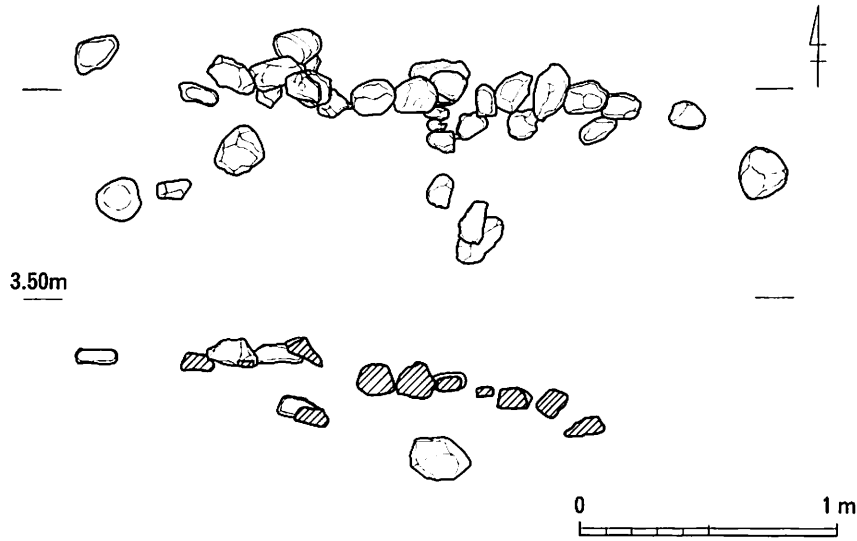
#### SE176出土遺物(第119図)

第119図1~5は土師器皿で、いずれも破片のため一部反転復元を行っている。内外面とも丁寧な磨きを施している。盤の可能性も持つ。6・7・10・11は土師器坏で、いずれも破片のため、一部反転復元を行っている。内外面とも丁寧な磨きを施している。底部は回転ヘラ切りの後に回転ナデ磨きを施している。8・9は土師器碗で口縁部の破片である。いずれも回転磨きを施している。12は土師器壺で、胴部の一部である。内面は回転ナデ、外面は回転磨きを施している。13~15は土師器盤でいずれも破片のため、一部反転復元を行っている。内外面とも丁寧な磨きを施している。17・18は土師器坏蓋である。17は天井部がほぼ平らで、中央部に疑宝珠つまみを有する可能性を持つ。18は天井部が高くほぼ平らである。中央部に疑宝珠つまみを有する。19~21は高台付き坏で、高台を底部外方向に付けている。22は土師器坏身で、底部が丸みをおびる。16・23~35は土師器坏身で内外面とも回転ナデの後、丁寧な磨きを施している。32・33は外面にススが付着している。36は土師器甕の口縁部破片で、内面は横ナデ、外面は格子目タタキを施している。

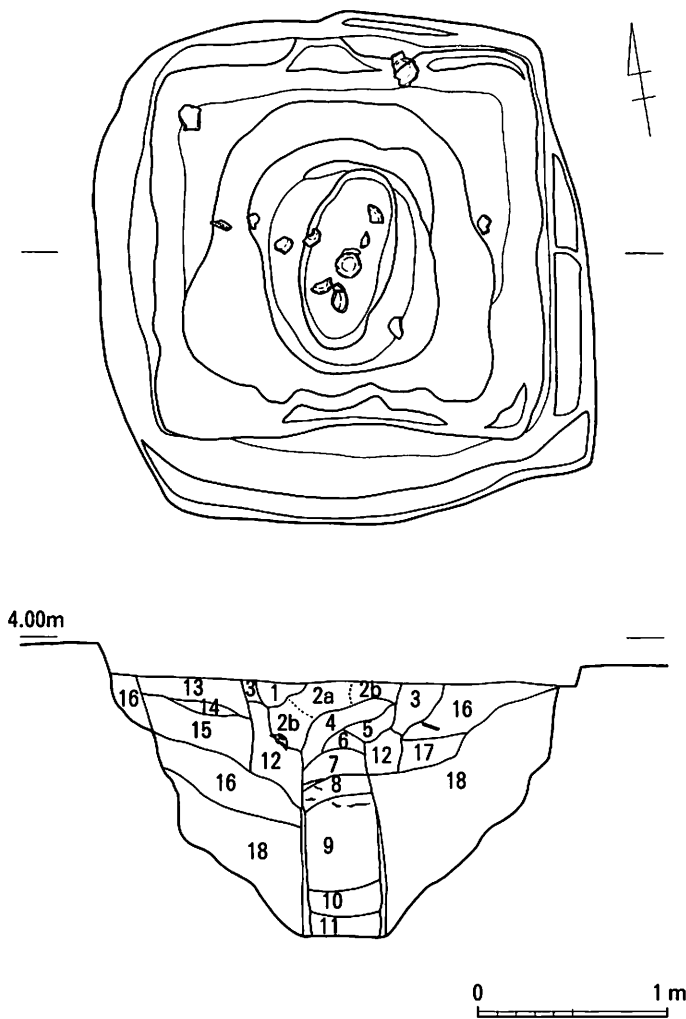
#### SE075(第120図)

SE075は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。井戸の掘形はやや楕円形に近い円形のプランである。規模は長径(東西)3.3m、短径(南北)3.0m、確認面からの深さは3.1mである。土層確認や掘り下げ後においても、井戸枠等の内部施設の様子は確認できなかった。井戸の最下層には厚さ1.2mにおよぶ暗青灰色の粘土層が堆積しており、内部からは井戸枠等の木質片多数が出土している。また、中央部分にパイプ状の鉄製品が、刺さった状態で確認された。空気抜き用の施設であろう。粘土層除去後の床面は黄褐色の砂利層である。この面で湧水が認められるため、井戸最下層であろう。この井戸は廃絶時に井筒等の施設の除去など全体を掘り返し、下層に粘土を充填したと考える。埋土中層からは、拳大から人頭大の礫が約30cmの厚みで、多量に廃棄された状態で確認された。いずれも井戸封じの一つと考えられる。礫中からは瓦や、陶磁器、石臼等が出土している。遺構の時期は出土遺物の年代観から、16世紀後葉に比

礫の廃棄  
井戸封じ

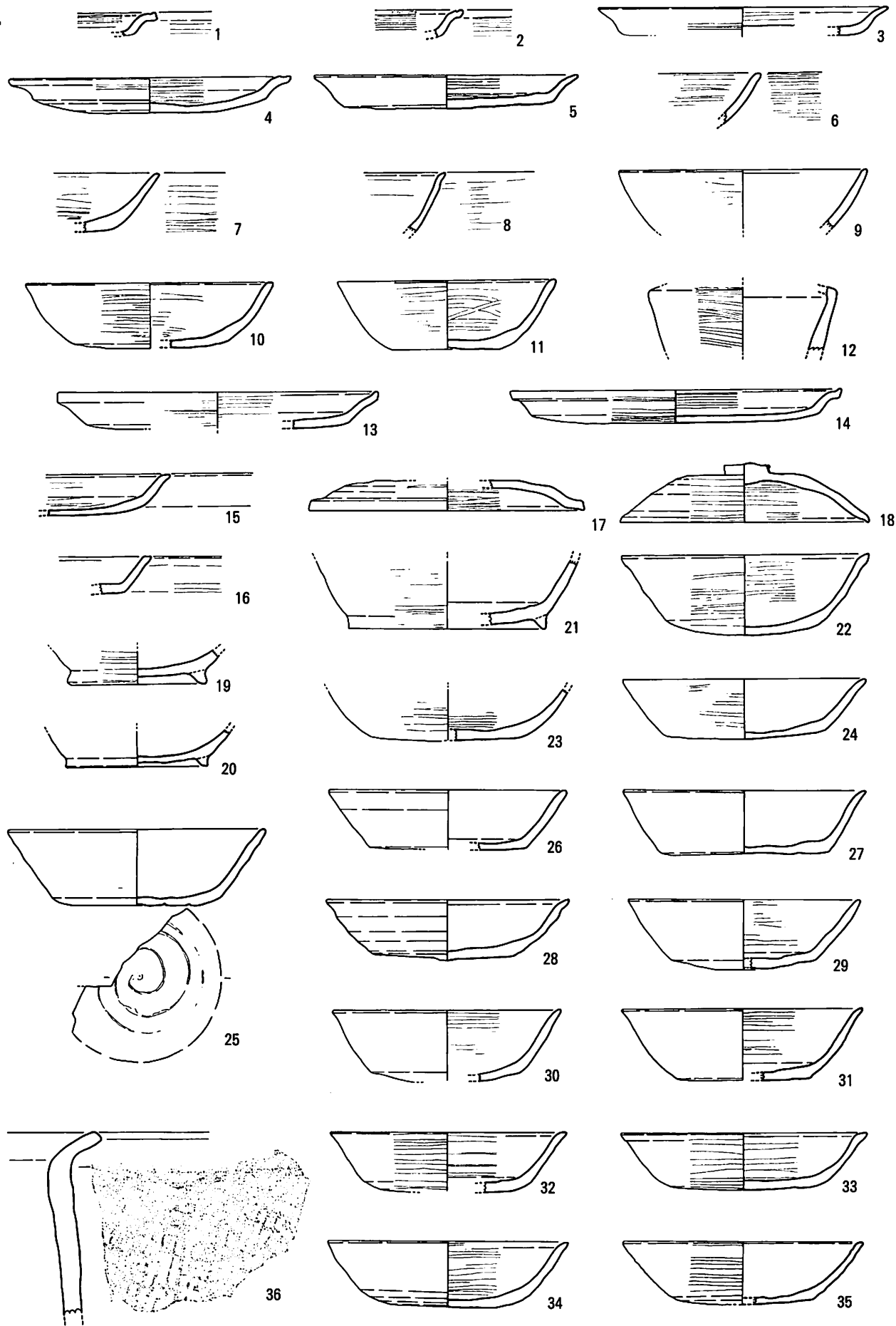


第117図 SX309実測図 (1/30)



- 1 暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)
- 2 a 浅黄色粘質土 (2.5Y7/3)  
焼土・炭わずかに混じる
- 2 b 淡黄色土 (2.5Y8/4)  
鉄分混じり、ソフトである
- 3 黄灰色土 (2.5Y6/1)  
砂混じり、ソフト
- 4 にふい黄色粘砂土 (2.5Y6/4)  
全体に砂混じり
- 5 淡黄色土 (2.5Y8/3)  
バサバサしている
- 6 にふい黄色粘砂土 (2.5Y6/3)  
4層とほぼ同様である
- 7 浅黄色粘質土 (2.5Y7/4)  
やや灰色を帯びる、鉄分含む
- 8 浅黄色粘質土 (2.5Y7/4)  
7層と同様であるが、ややソフト
- 9 灰色粘質土 (5Y7/2)  
粘質が強い
- 10 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)  
粘質であるが、バサバサ感がある
- 11 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1)  
粘質土
- 12 灰白色粘質土 (2.5Y7/1)  
わずかに焼土・炭混じり
- 13 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2)  
やや砂混じり
- 14 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)  
焼土・炭混じり、粘質で硬い
- 15 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2)  
13層と同じであるが、やや硬い
- 16 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)  
焼土・炭混じり、粘質で硬い
- 17 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)  
16層よりややソフト
- 18 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)  
17層よりやや硬い

第118図 SE176実測図 (1/40)



第119图 SE176出土遺物実測図 (1/3)

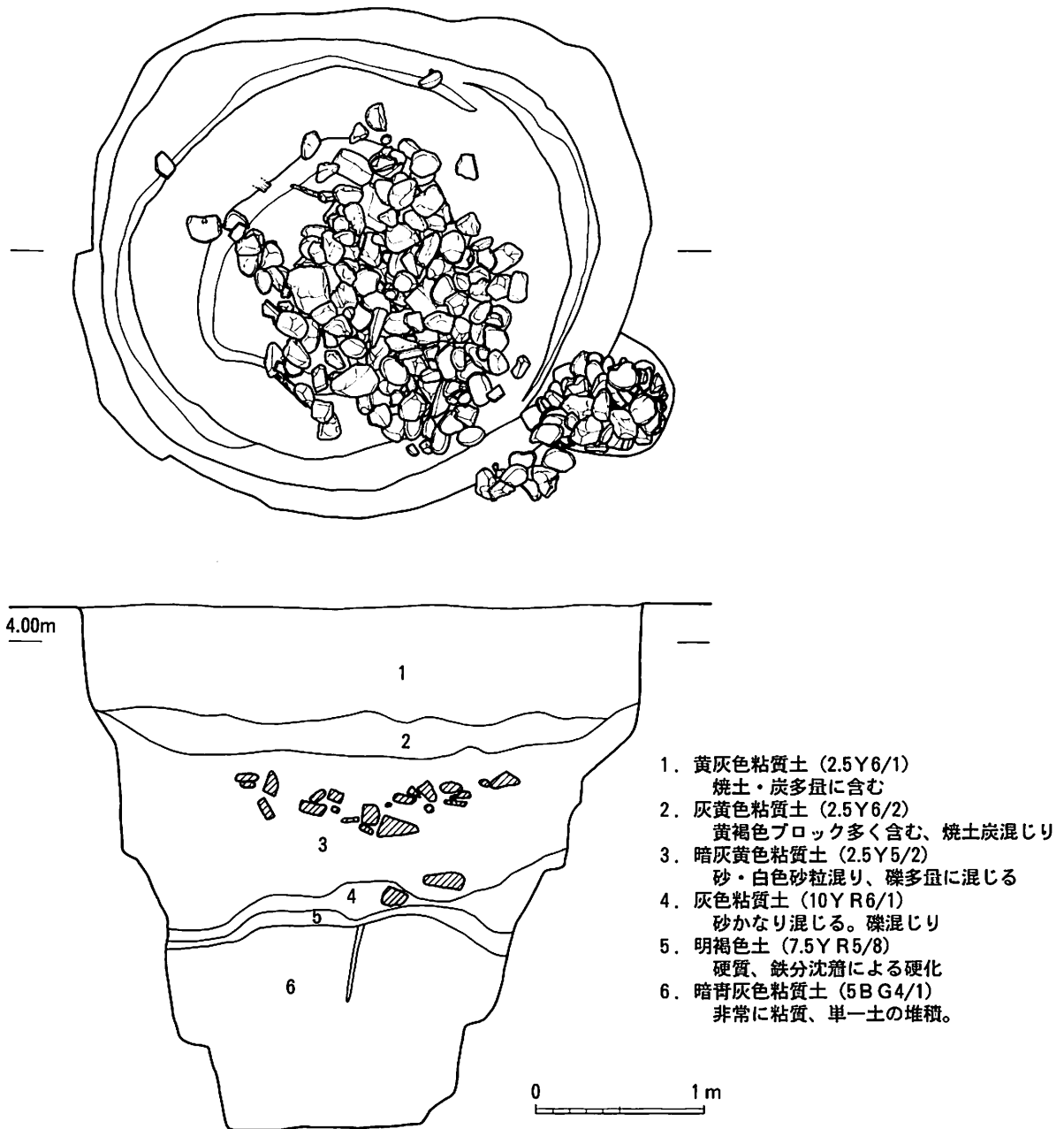


定される。

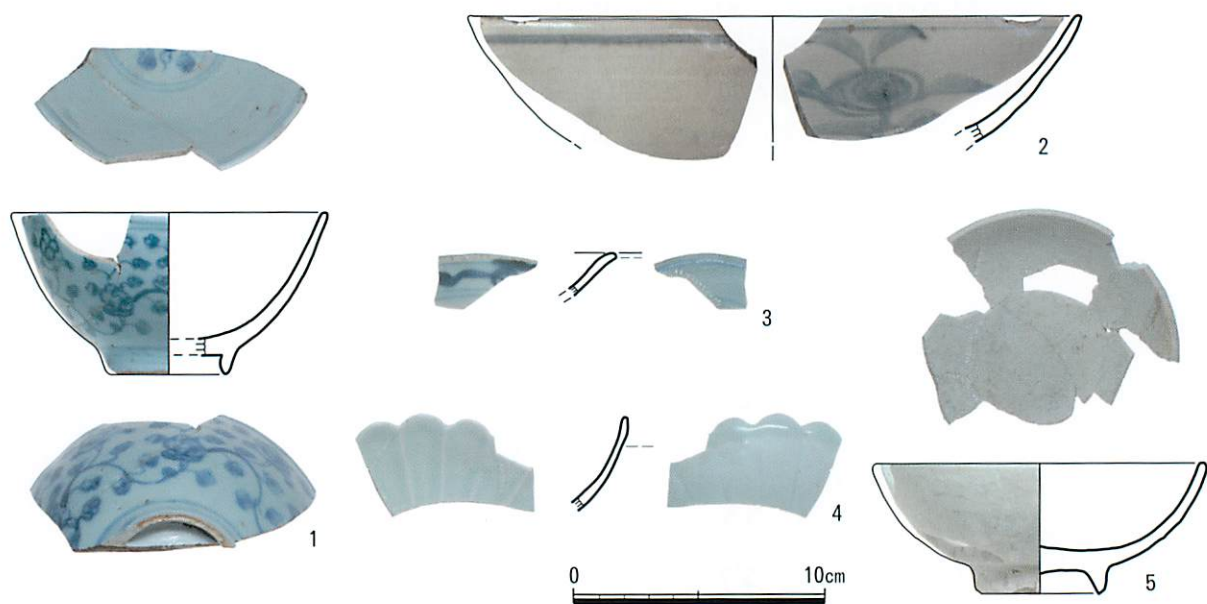
SK294 (第120図)

SK294は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。井戸(SE075)掘形の南東で、井戸に切られるように礫を多量に含んだ土坑状の掘り込みを確認した。このSK294は調査当初、土坑として認識していたが、調査途中で井戸の埋め戻しのための礫の廃棄として使用していたと判明した。

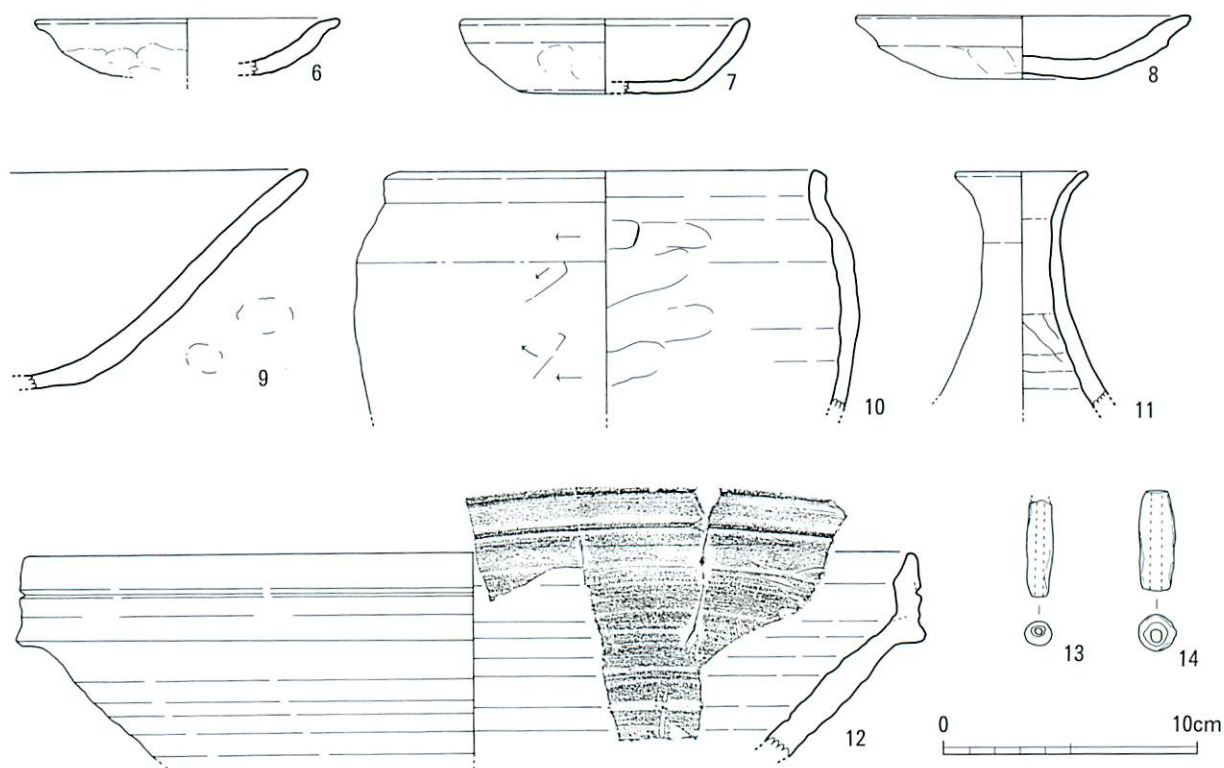
礫廃棄位置 遺構の時期(井戸の廃棄時期)はSE075と同様の時期と考える。



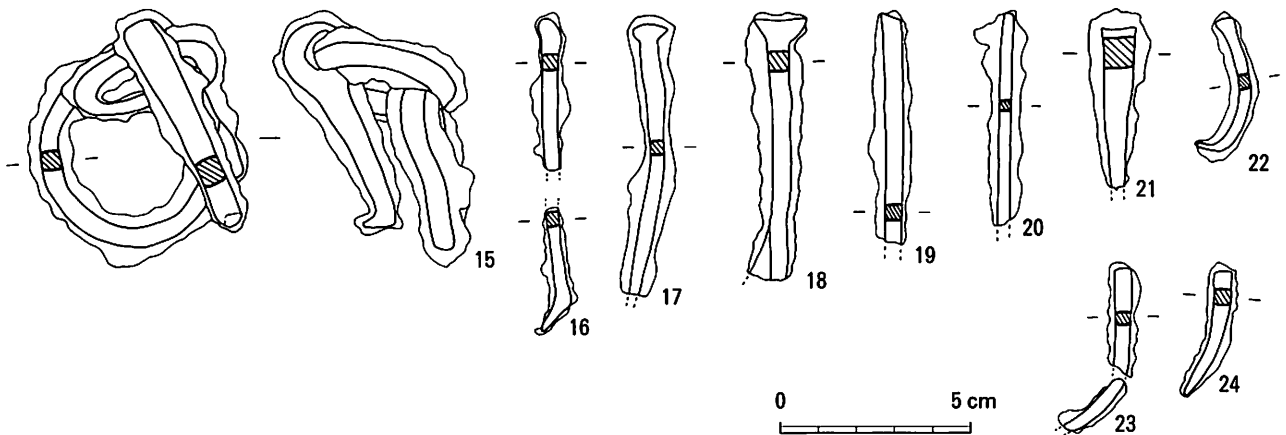
第120図 SE075・SK294実測図(1/40)



第121図 SE075出土遺物実測図① (1/3)



第122図 SE075出土遺物実測図② (1/3)



第123図 SE075出土遺物実測図③ (1/2)

SE075出土遺物 (第121~123図)

第121図1は中国景德鎮窯系の製品で、青花碗である。小野分類のC群に分類され、16世紀前葉に比定される。2は中国漳州窯系の製品で、青花大皿の口縁破片である。3は中国景德鎮窯系の製品で、青花皿の口縁破片である。4は中国産の青磁で、菊花皿の口縁部である。5も中国産の青磁碗で、二次被熱している。

第122図6~8は京都系土師器皿で、いずれも被熱している。2~3期の様相を示す資料である。9は瓦質土器の鍋の破片である。内外面とも不定方向のナデを施し、外面にはススが付着している。10は瓦質土器の壺である。外面はヘラ削りを施している。11はロクロ成形による国産陶器の瓶の口縁から頸部にかけての破片である。暗灰色を呈し、頸部内部には絞り痕がみられる。12は備前陶器である。播鉢で、内面には斜め描目が施されている。近世1期の時期と考える。13・14は土錘である。

馬具

第123図は全て鉄製品である。埋土上層からの出土である。15は馬具の轡の一部である。16~24は釘で、錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

SE079 (第124・125図)

SE079は上層遺跡群に属する遺構で、L14・15区に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。井戸の掘形はやや歪な円形のプランである。規模は長径(東西)3.1m、短径(南北)2.9m、深さ3.0mである。遺構検出段階で、掘形のほぼ中央部分に大型の礫を多量に破棄した状況が確認された。この状況は検出面から中層まではほぼ2mの厚さで堆積している。礫中には陶磁器・木器や土器等多量の遺物を含んでいる。この礫を含む埋土中からは、井戸枠等の内部施設の状況は確認できなかった。礫混じりの埋土を除去すると、井筒は井戸下方の掘形はやや北東で確認された。標高は1.4mで、検出面からの深さは2.3mである。井筒部は井筒の周囲を取り囲むように厚さ10cm前後、一辺を湾曲に削った凝灰岩6枚を使用して(第125図)、配置した施設を検出した。径は0.6mである。水溜部には結桶が使用されている。残りは非常によく、円形で上部径0.58m、下部径0.68m、高さ0.58mである。桶は厚さ1cm前後、幅8cm前後の板材19枚を組み合わせて構築し、目釘穴と一部釘が残っていた。桶の周囲には4段にわたり竹で編んだ箍が確認された。箍の残りも非常に良かったが、空気に触れることで、桶から外れ、箍本来の役目を終えた。桶除去後の床面は砂利層で、湧水が数カ所で確認できた。湧水点の標高は0.7mである。井筒内からは木器を中心に多くの遺物が出土している。井戸廃棄行為は、井筒部分には及んでいない。井筒より上位は施設の除去など全体

凝灰岩を6枚配置

結桶

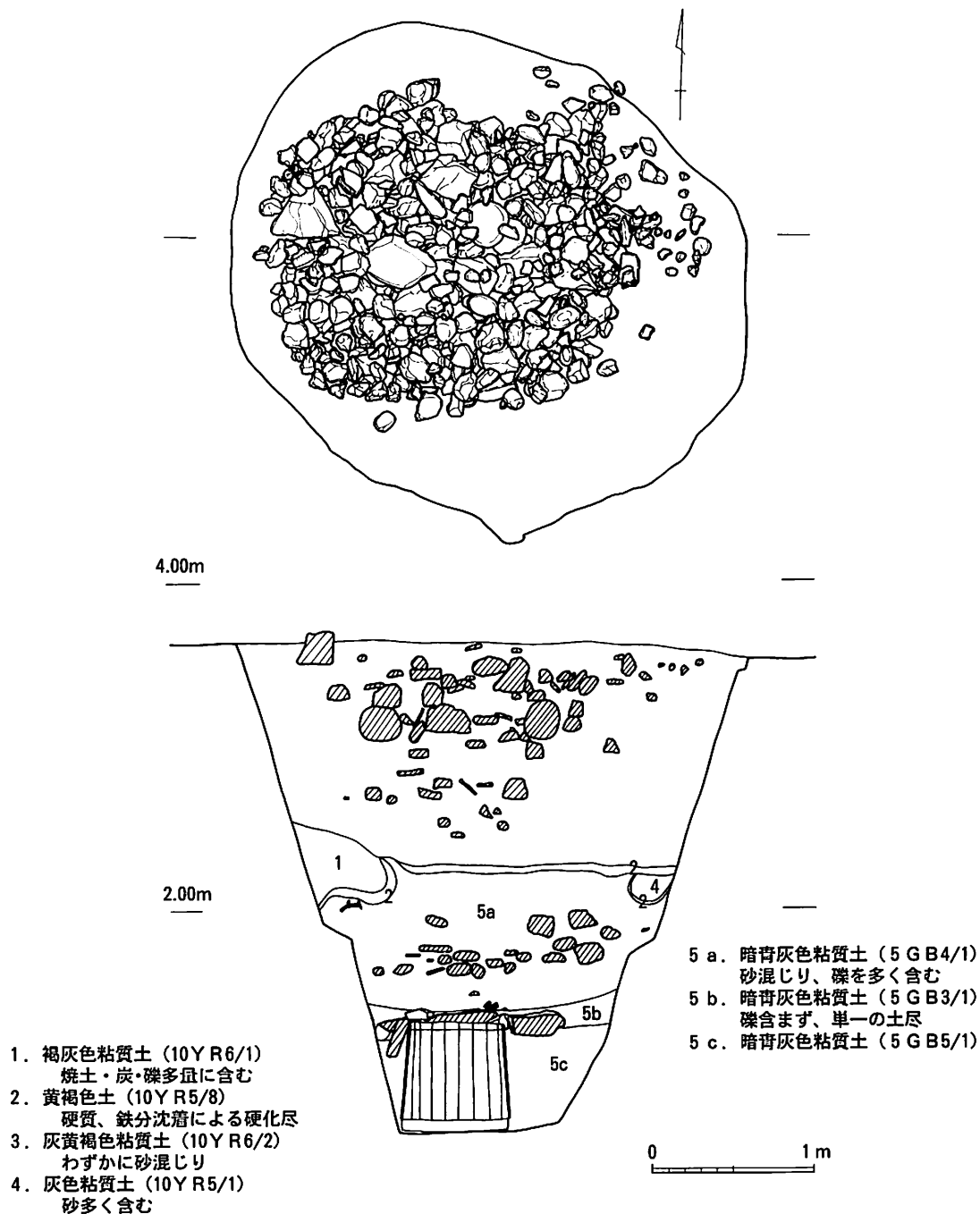
箍

湧水点

## 第2節 遺構と遺物

井戸廃棄行為  
 を掘り返し、最初の行為で、約1mを埋め戻している。その後残り上部をもう一度埋め直しているが、その間に時間の経過が見られる。上部施設の痕跡はないが、廃棄された礫中に凝灰岩が含まれることから、井筒部は石組みの可能性も考えられる。さらに上層の埋土の状況から天正14年（1586）

二次使用  
 12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑として二次使用されたと考える。遺構の実測図（第125図）には結桶の設置状況を模式的に図示している。井戸の構築時期および廃絶時期は出土遺物の年代観から、16世紀後葉に比定される。



第124図 SE079実測図① (1/40)

SE079出土遺物 (第126～133図)

第126図 1～3は銭貨である。

銭貨

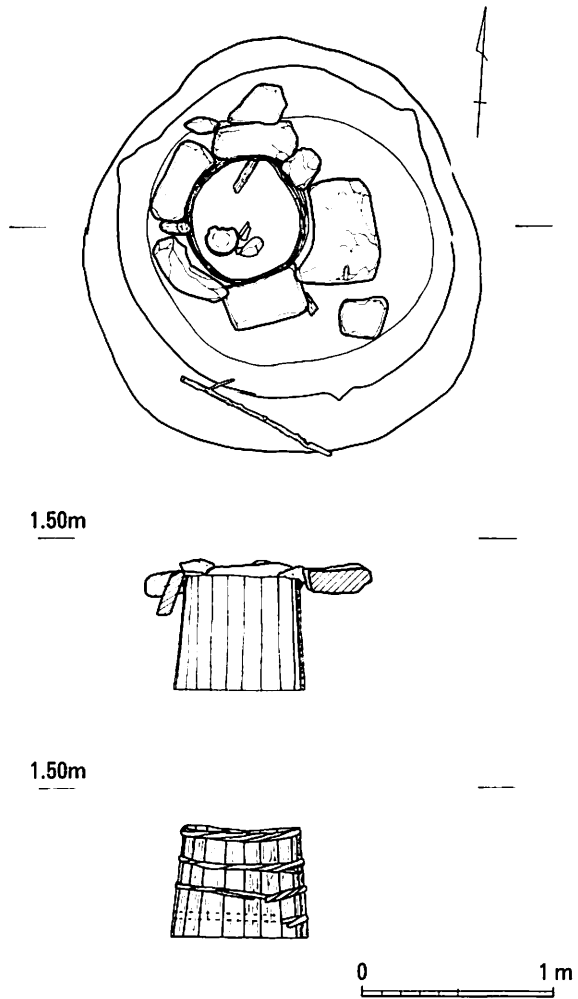
1・2は中国北宋代の「至道元寶」である。書体は1が真書で、2が草書、初鑄年代は995年である。3は無文銭である。

華南三彩壺

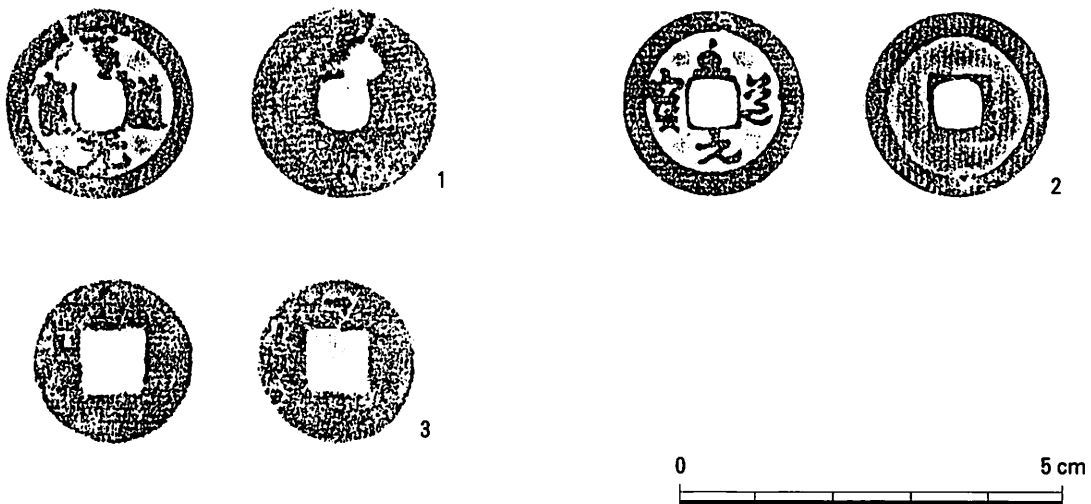
第127図 4は中国産の華南三彩壺の底部である。5は中国景德鎮窯系の製品で青花皿である。小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。高台内定部に「富貴隻全」銘が入る。6は中国景德鎮窯系の製品で青花碗である。E群に分類され、16世紀後葉に比定される。7は中国景德鎮窯系の製品で青花盤である。F群に分類され、16世紀末葉に比定される。

五彩皿

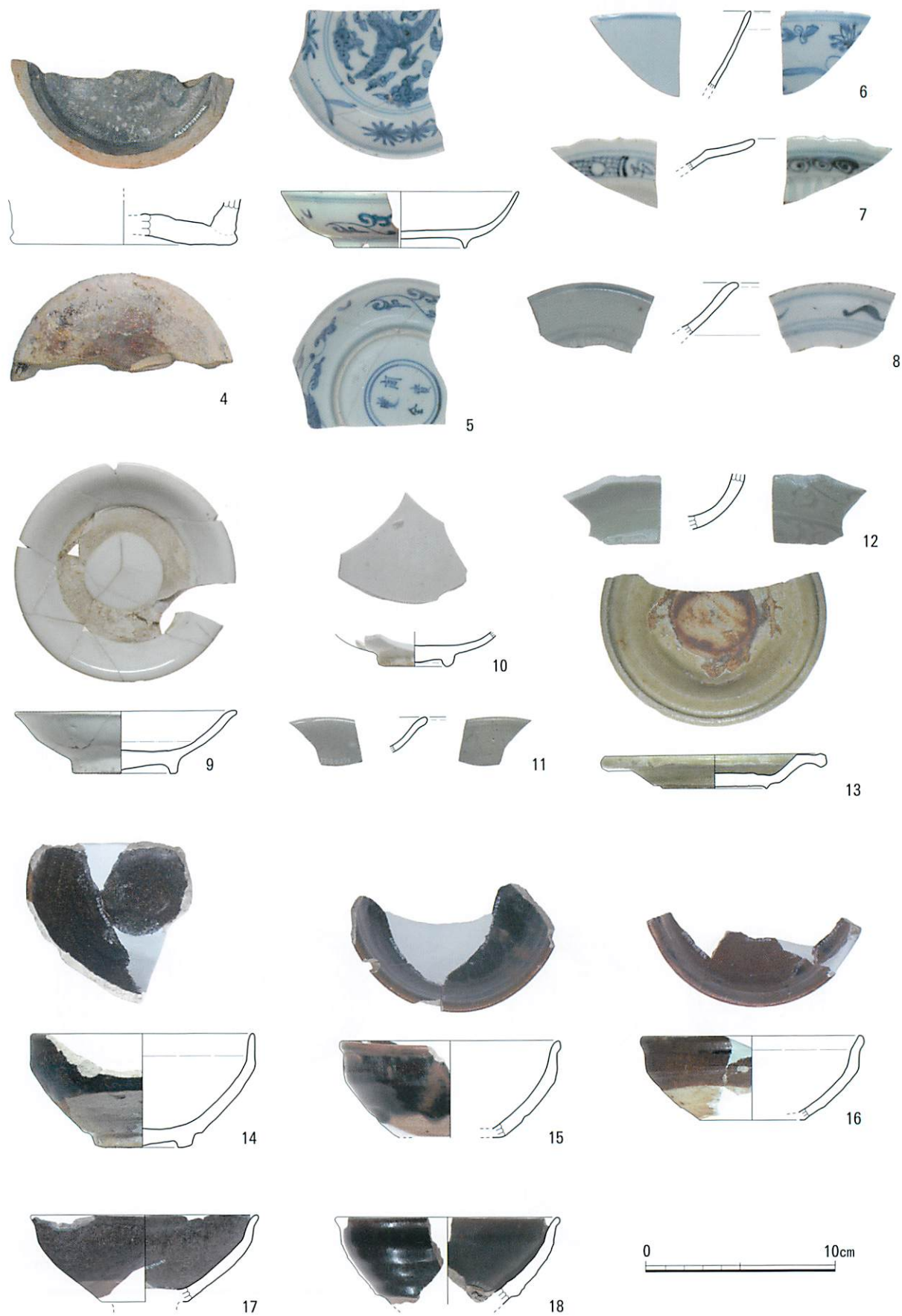
8は中国景德鎮窯系の製品と思われる青花皿である。9・10は中国産の白磁皿である。9は見込みが蛇の目状に釉剥ぎとなる。10は高台が露胎である。いずれも16世紀後半代に比定される。11は中国景德鎮窯系の製品で五彩の皿である。12は中国産青磁の瓶の胴部であり、15～16世紀に比定される。13は瀬戸美濃系の折縁皿で、大窯3期か。



第125図 SE079実測図② (1/40)



第126図 SE079出土銭貨実測図 (1/1)

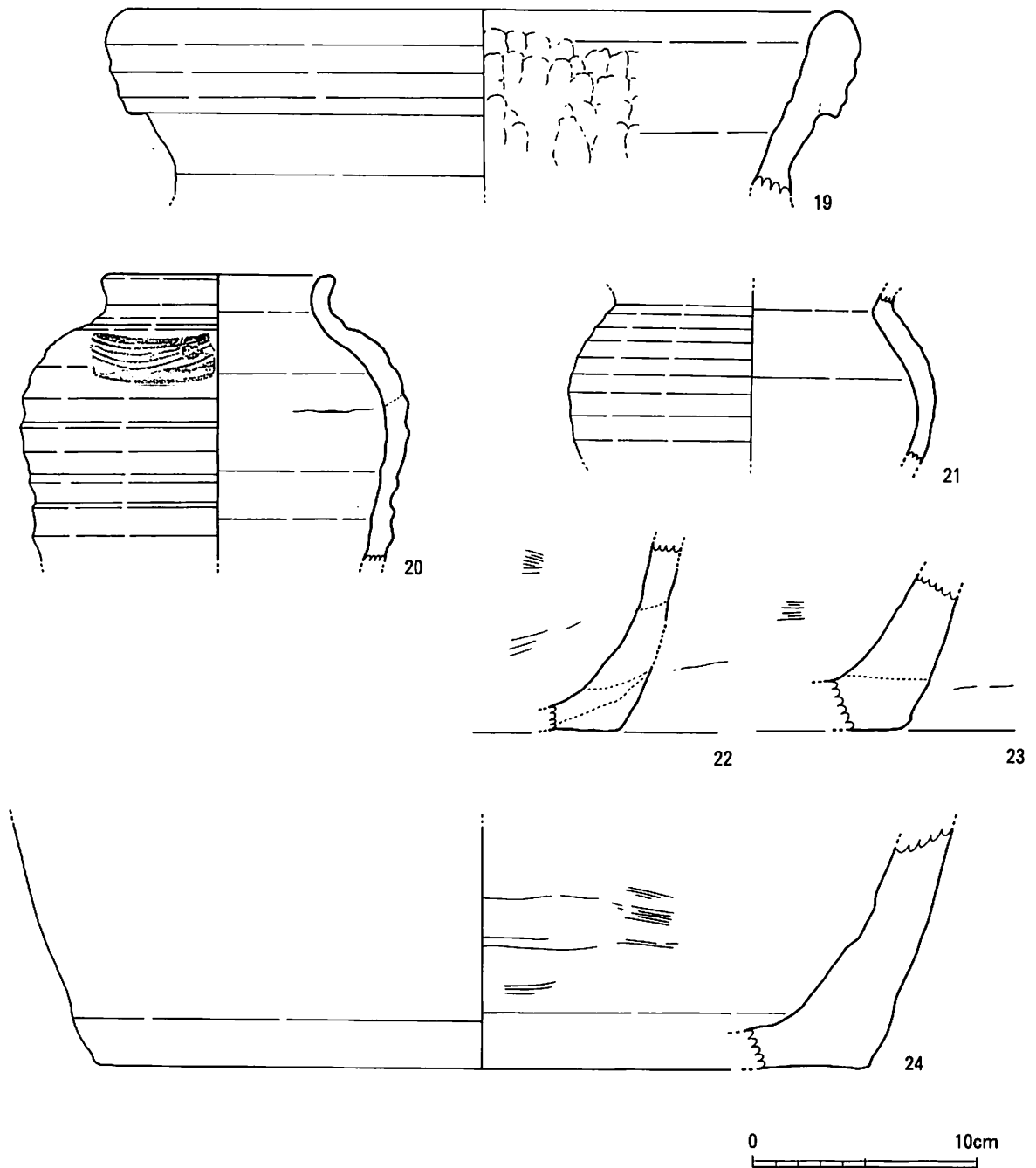


第127図 SE079出土遺物実測図① (1/3)

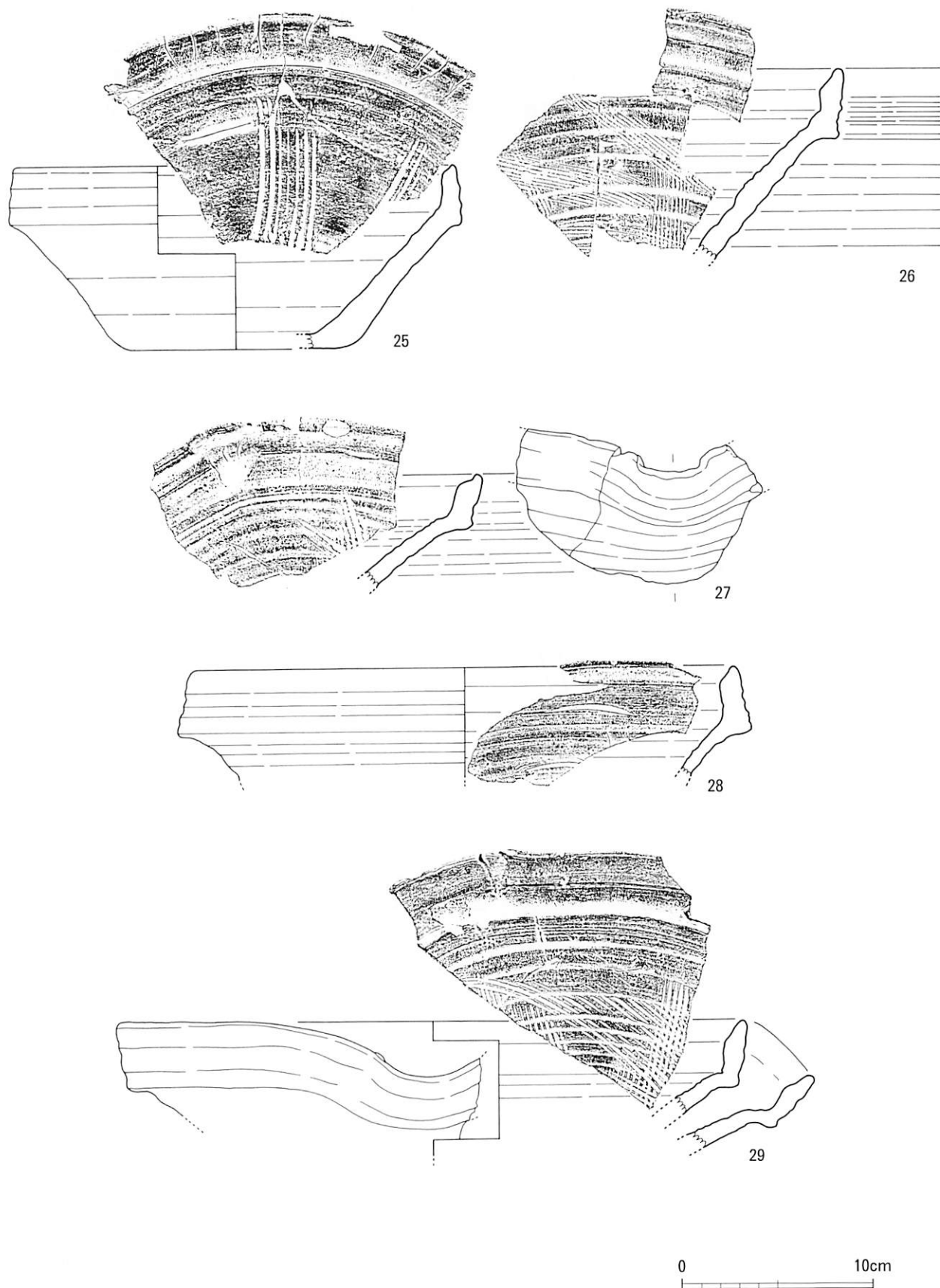
14～18は瀬戸美濃系の天目茶碗である。

第128図は備前陶器である。19は大甕の口縁部破片で、自然釉が掛かる。井戸最下層からの出土である。20～23は瓶の一部である。20は底部を欠くが、外面肩部に櫛描き波状文を施している。21は胴部の一部である。24は大甕の底部で赤褐色を呈している。23の内面には自然釉が掛かっている。外面はナデ調整で、内面はハケ目調整痕が残る。24は井戸最下層からの出土である。20・21は整地層出土遺物と接合する。

第129図も備前陶器の播鉢口縁部の破片である。25は7条の放射状播目が施されている。16世紀後半代に比定されよう。26～29はいずれも内面に放射状播目と斜め播目が施されている。近世1期

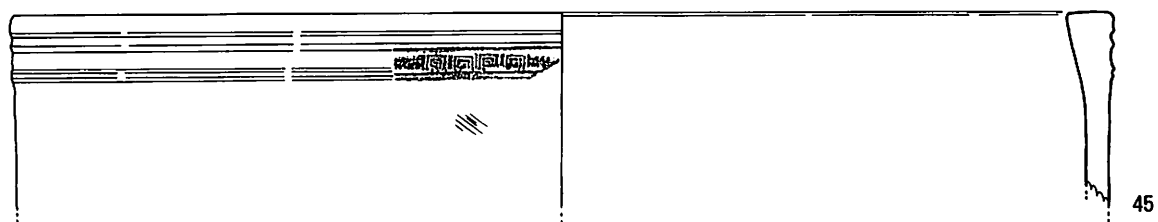
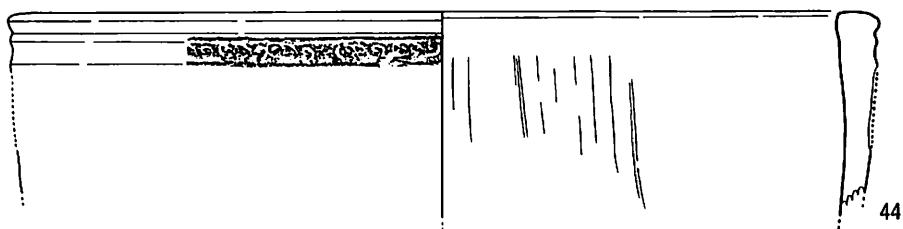
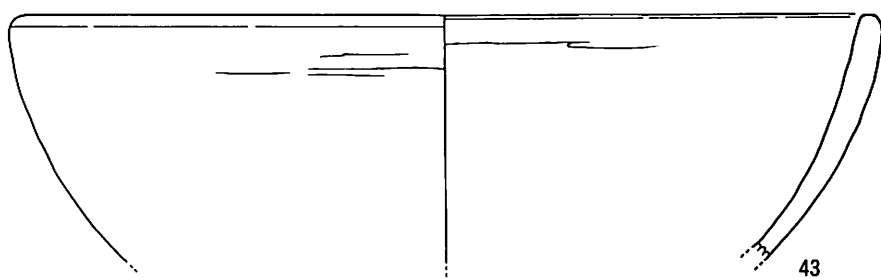
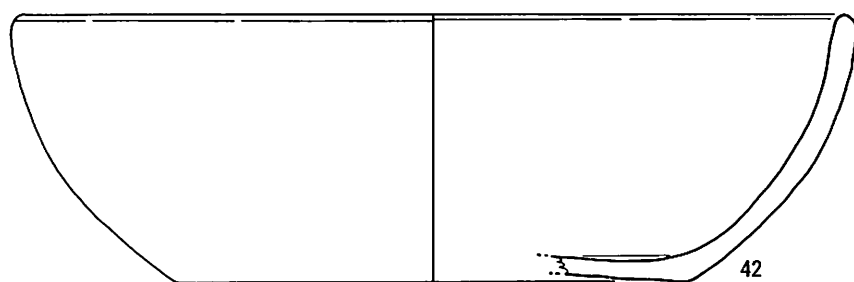
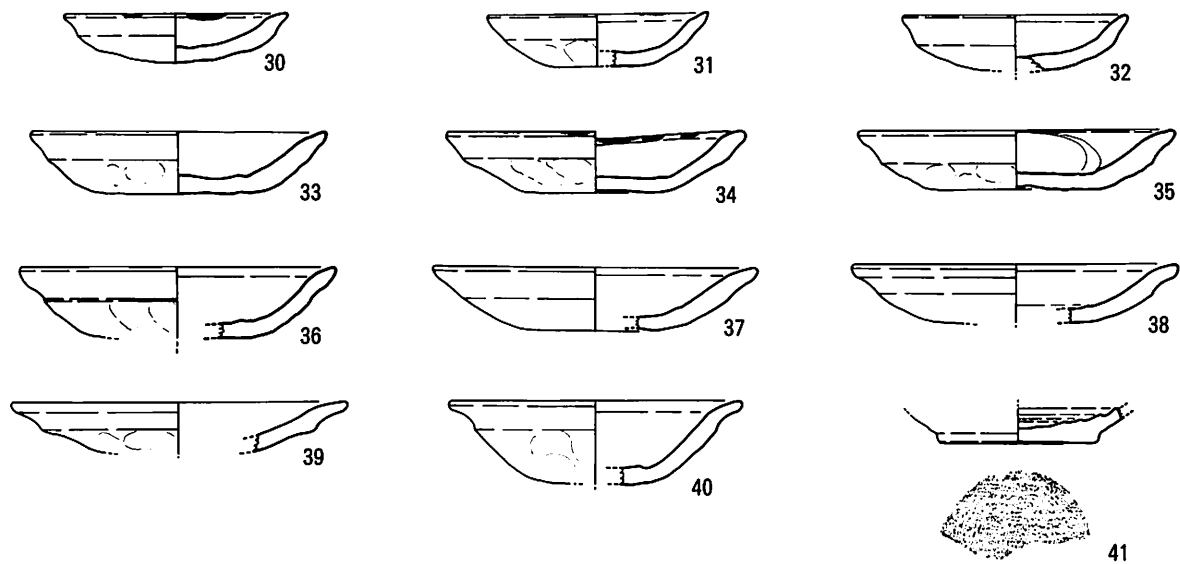


第128図 SE079出土遺物実測図② (1/3)



第129図 SE079出土遺物実測図③ (1/3)





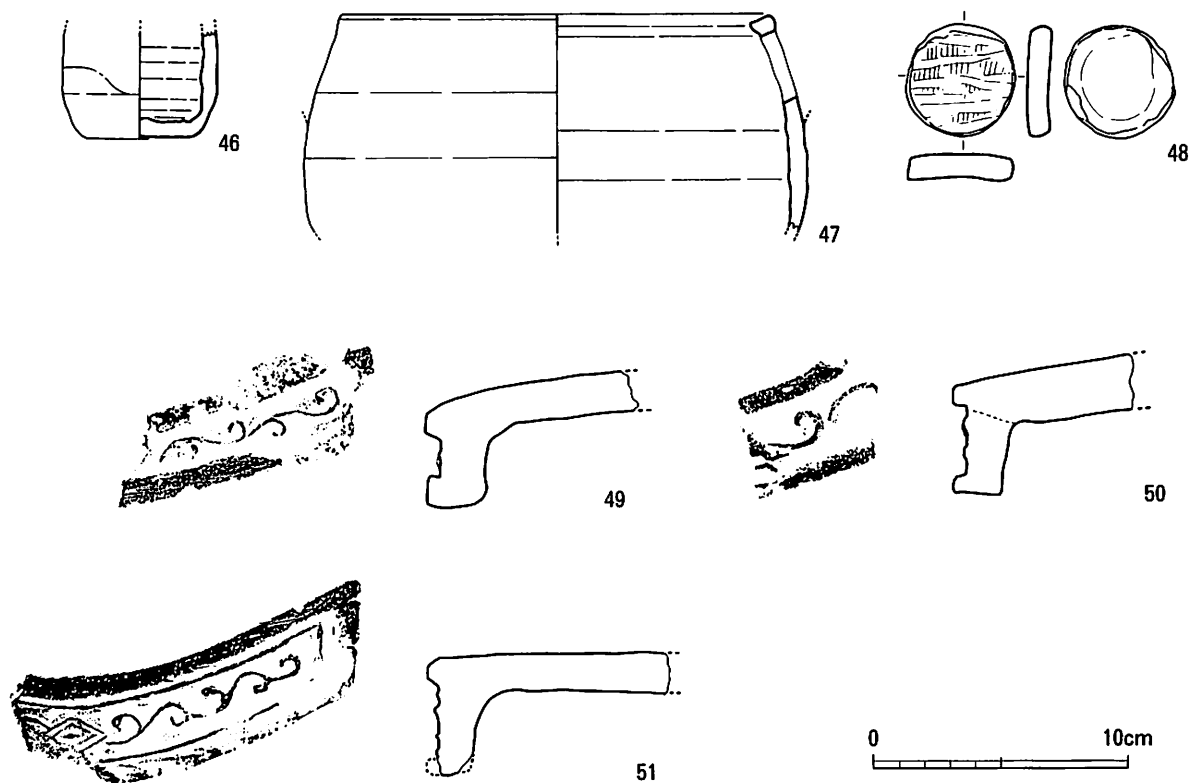
第130图 SE079出土遗物实测图④ (1/3)

0 10cm

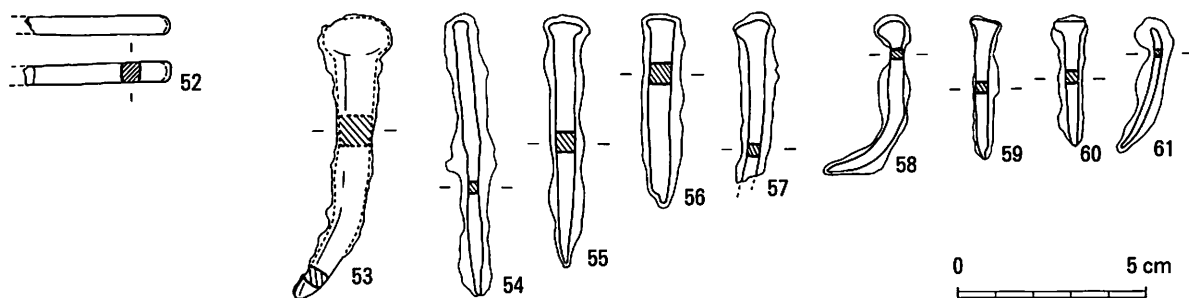
第2節 遺構と遺物

に比定され、16世紀末葉の初産である。

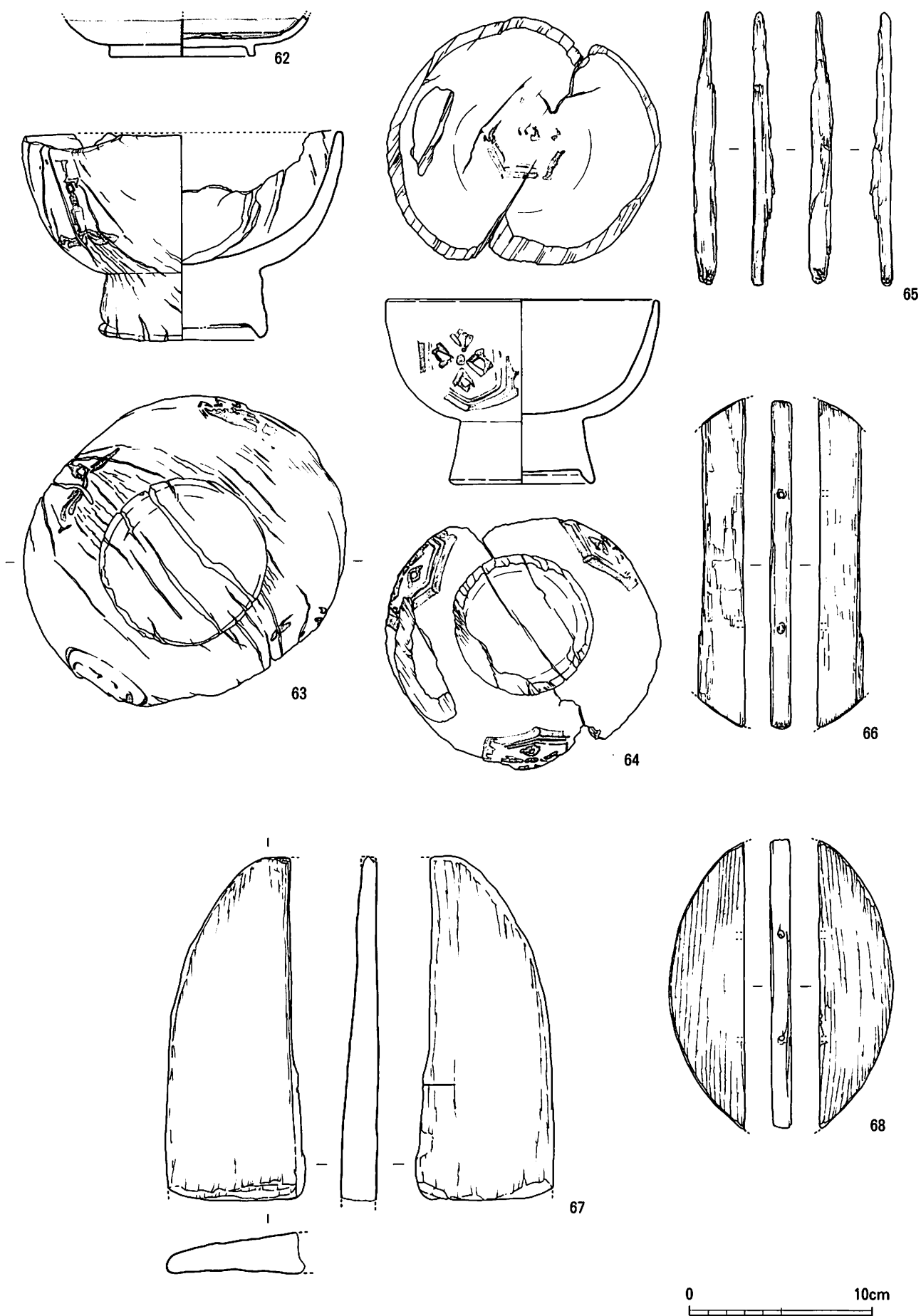
第130図30～39は京都系土師器の皿である。いずれも2～3期の特徴を有する製品である。30・31・34には内面にススが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。35は内面に「ノ」の字状のナデ仕上げ痕が認められる。40は京都系土師器の深手の坏である。2期に比定されるものか。41は底部に糸切り痕を有する在在系土師質土器皿の底部片である。赤褐色の色調を呈するもので、京都系土師器皿と同じ胎土を用いて制作されたものである。42は土師質土器の鉢である。積み上げロクロ成形で、内外面とも丁寧なナデ仕上げを施している。外面の一部と内面は黒変している。43も土師質土器の鉢の口縁部破片である。積み上げロクロ成形で、内外面とも丁寧なナデ仕上げを施している。口縁端部はヘラ磨きによる調整を行っている。内面はススと焦げ目が付着し、外面は一部黒変している。44・45は瓦質土器の火鉢である。いずれも口縁部の破片であり、反転による復元である。44は外面の突帯間に巴文を、45は雷文を刻印によって施している。内外面ともハ



第131図 SE079出土遺物実測図⑤ (1/3)



第132図 SE079出土遺物実測図⑥ (1/2)



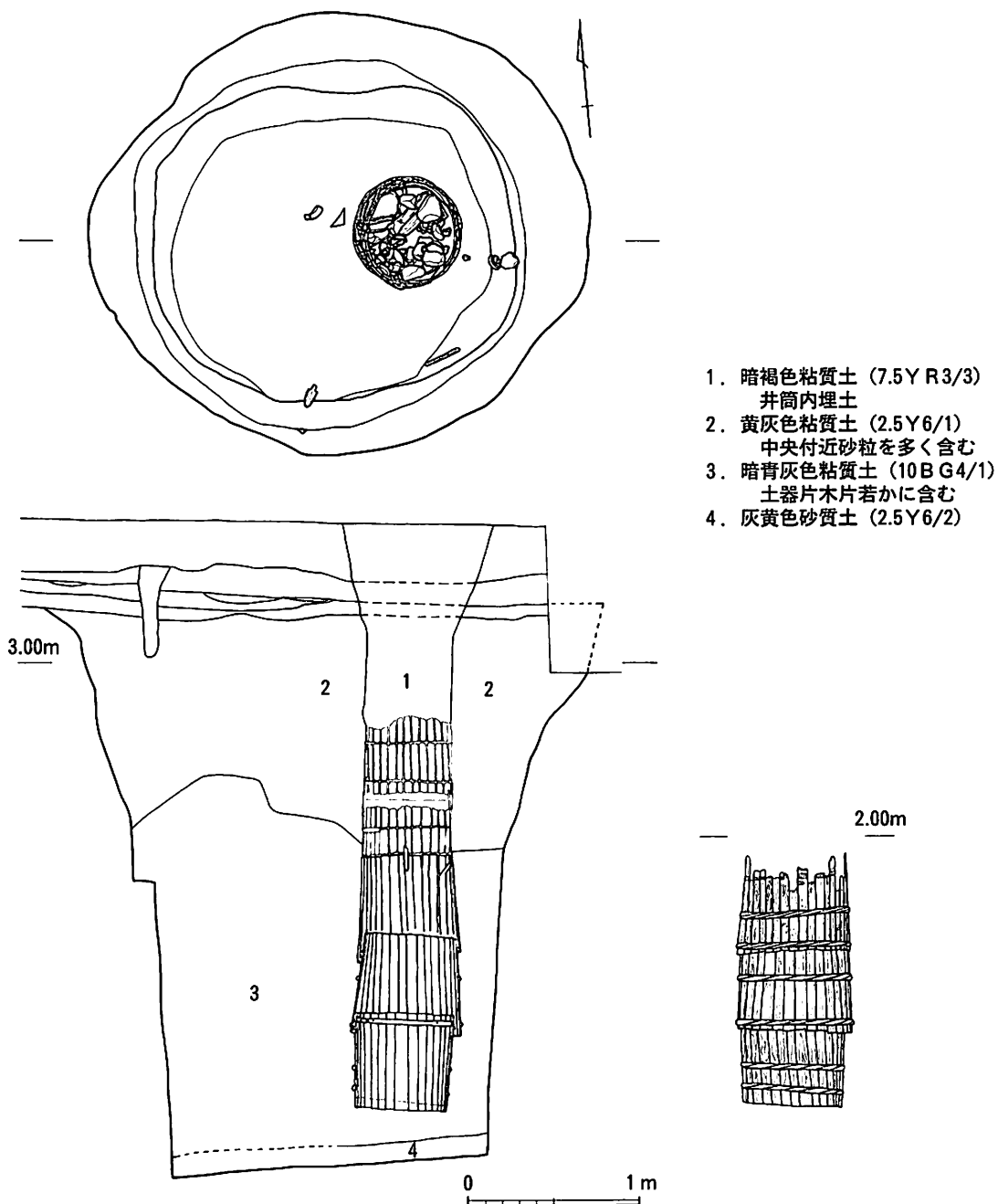
第133图 SE079出土遗物实测图⑦ (1/3)

第2節 遺構と遺物

ケ目調整の後、ナデ仕上げを施している。

第131図46は国産陶器の瓶底部である。暗灰色を呈し、ロクロ成形である。内外面とも回転ナデにより仕上げられていて、底部に刻印がみられる。47は国産陶器の片口鉢である。口径2.7cmの注ぎ口が付くが、注ぎ口は残存しない。この土器片は井戸埋土上層からの出土で整地層内の土器片とも接合する。48は土師質土器を再加工した製品で周辺部に研磨を加え、径4cm前後の円形に加工している。遊具として使用された可能性が高いと考える。49～51は軒平瓦の瓦当部破片である。瓦当文様は素文縁の均正唐草文である。49・50は破片のため中心飾りは確認できない。51の中心飾りは二重の菱形文を配し、内区に細い界線を持つ。瓦当成形は瓦当上面に平瓦凸面を貼り付けている。櫛目痕は確認できなかった。

軒平瓦  
均正唐草文



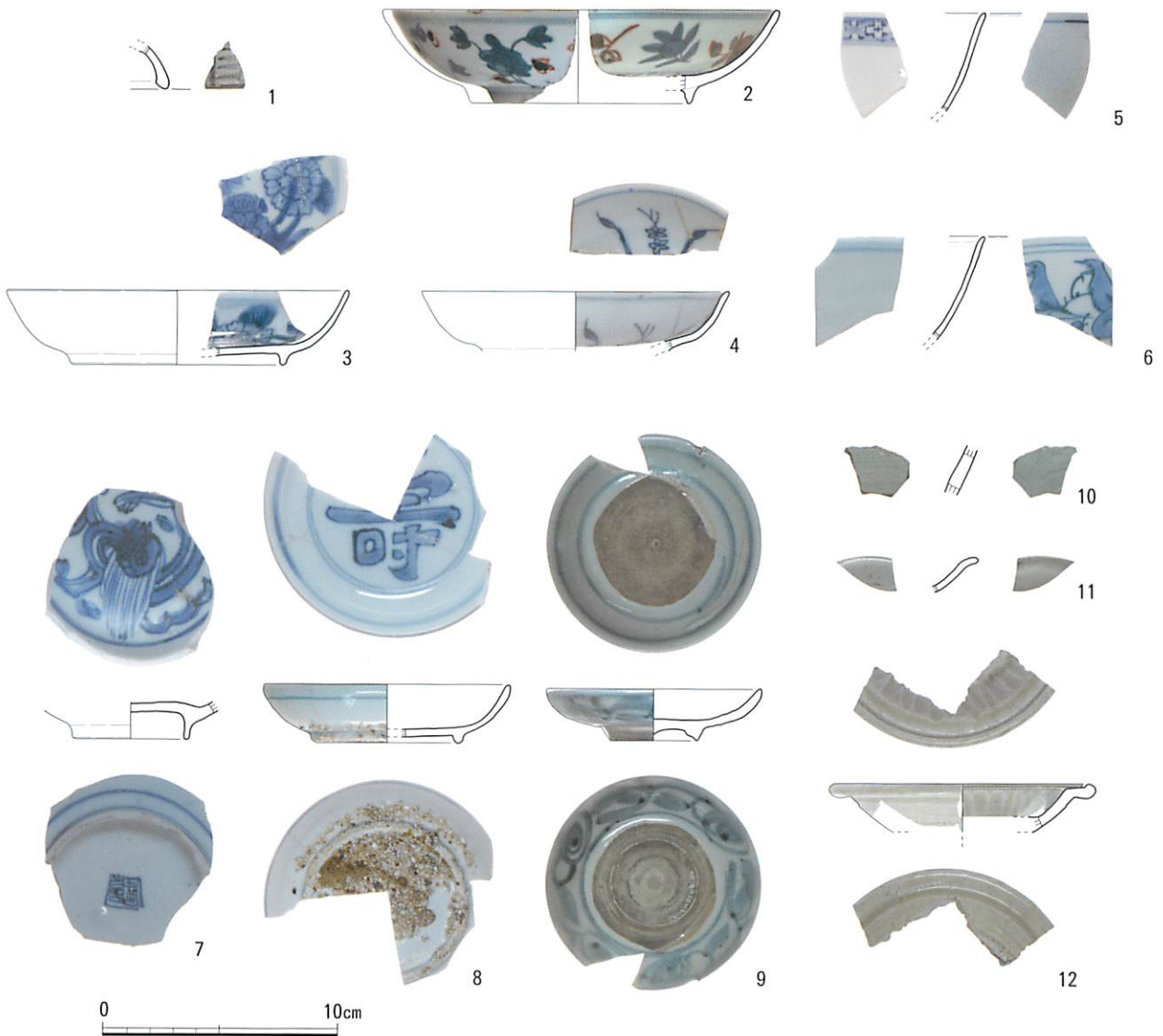
第134図 SE261実測図 (1/40)

錠前 第132図52は銅製品で錠前の一部である。断面形は方形を呈している。53～60は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。61は用途不明の製品である。

漆器皿・椀 第133図62は漆器の皿で、上部を欠く。内外面とも赤漆を施している。63・64は漆器椀である。63は内外面とも黒漆を施し、外面の4カ所に赤漆で紋様を描いているが残存状態が悪く、紋様形態は不明である。64は内外面とも黒漆を施し、外面の4カ所、内面見込みに一カ所、赤漆で紋様を描いている。紋様は「三重亀甲に花菱」と思われる。65は用途不明の木製品である。下方先端部分が焦げている。66・68は曲物底部分の破片である。二カ所に穿孔を施している。67は用途不明の木製品である。

SE261 (第134図)

SE261は上層遺跡群に属する遺構で、L・M15区に位置する。土取り後の整地層上、16世紀末葉前後に比定される町屋関連の遺構の東側に構築されている。井戸の掘形はやや歪な円形のプランである。規模は長径(東西)2.9m、短径(南北)2.5m、確認面からの深さ3.1mである。遺構検出段階

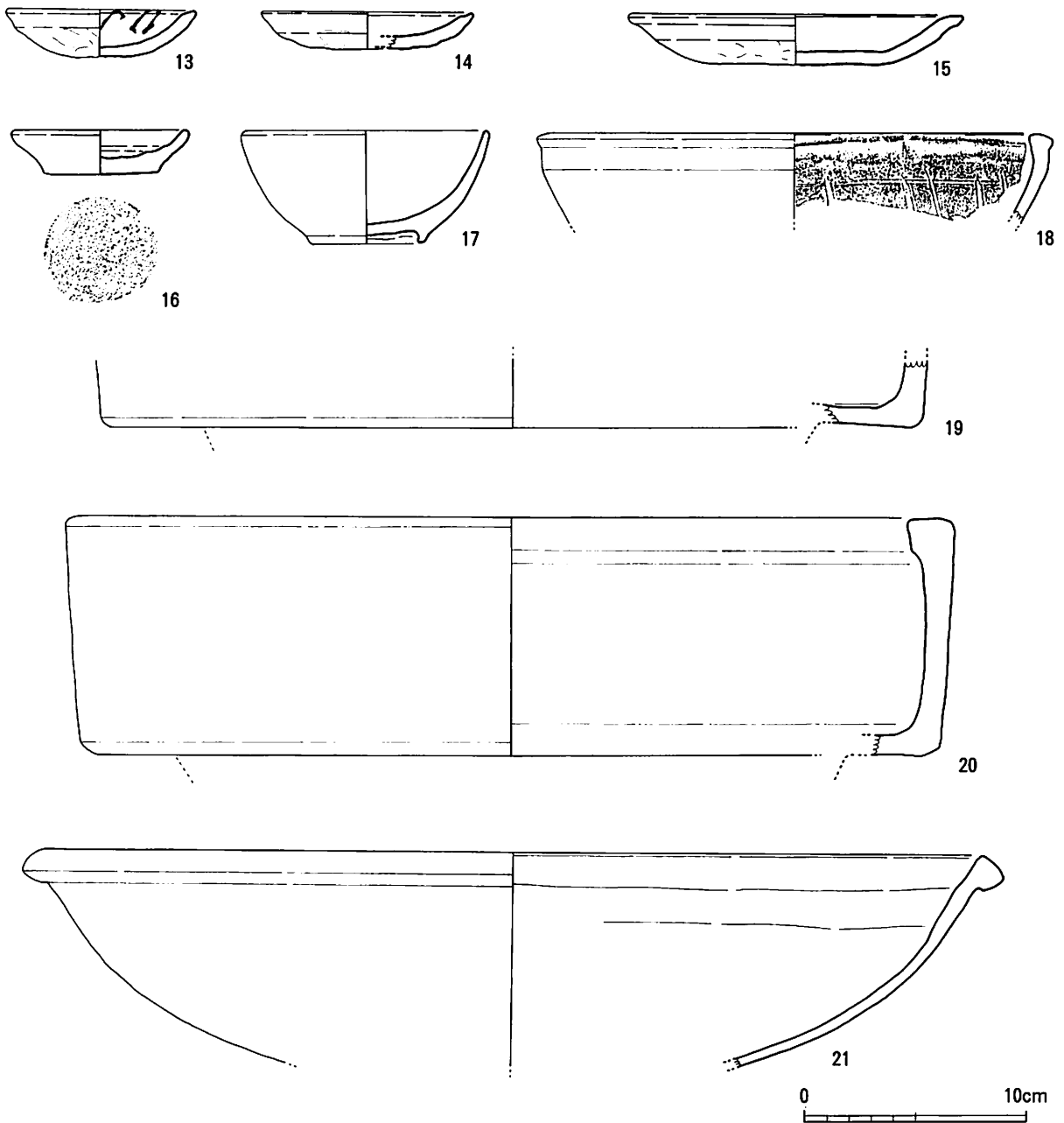


第135図 SE261出土遺物実測図① (1/3)

第2節 遺構と遺物

結桶 3段の桶が残存 1段目 2段目 3段目 目針穴 箍 湧水

で、井筒の陥没が認められたため確認された。井筒は井戸掘形の東側に位置し、井筒掘形は円形で、径0.5mである。水溜部には結桶が使用されている。残りは非常によく、井筒内部の土層観察などから4～5段の桶を組んでいたことが確認されたが、現存では3段の桶が残存している。1段目は標高2.7m～1.9mに位置し、2段の桶を使っていると推測されるが、元位置には木材は残っていないため、壁面に残る範跡から推測した。残存1段目は標高1.9m～1.3mに位置し、上部は腐食しているため、高さは確認できなかった。桶は厚さ1cm前後、幅5cm前後の板材34枚を組み合わせて構築している。2段目は標高1.5m～0.9mに位置し、桶は厚さ1cm前後、幅5cm前後、長さ56cmの板材34枚を組み合わせて構築している。3段目は標高1.0m～0.45mに位置し、桶は厚さ1cm前後、幅5cm前後、長さ56cmの板材33枚を組み合わせて構築している。目釘穴と一部釘が残っていた。桶の周囲には3段にわたり竹で編んだ箍が確認された。箍の残りも非常によかったが、空気に触れることで桶から外れ、本来の役目を終えた。桶除去後の床面は砂利層で、湧水が数カ所で確認され、



第136図 SE261出土遺物実測図② (1/3)

調査中も水が噴出していた。湧水点の標高は0.45mである。3段目の桶内には拳大の礫を多量に廃棄している様相から、井戸の廃棄に関わる呪術的な行為を行ったと考える。井戸の構築時期および廃絶時期は出土遺物の年代観・切り合い等からみて、16世紀後葉頃に比定される。

SE261出土遺物(第135~138図)

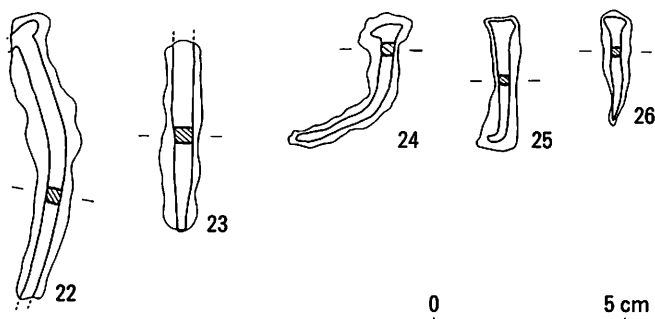
鉄絵合子

五彩皿

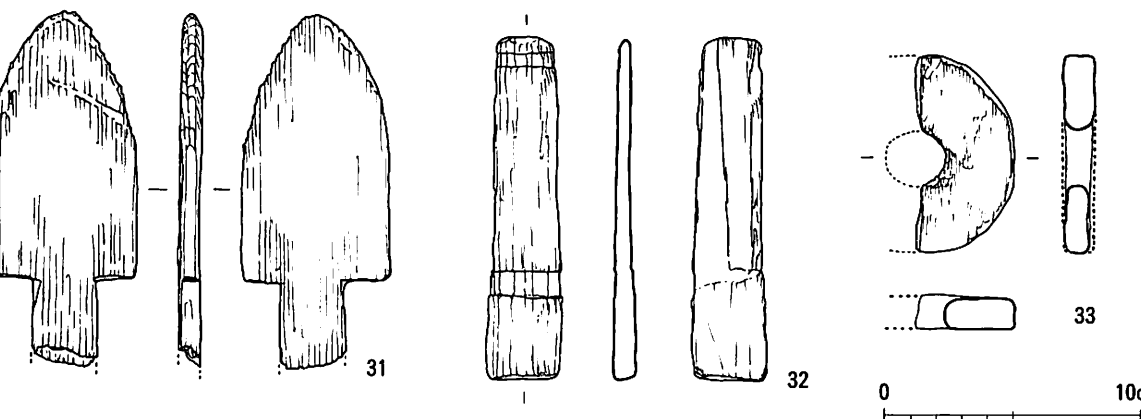
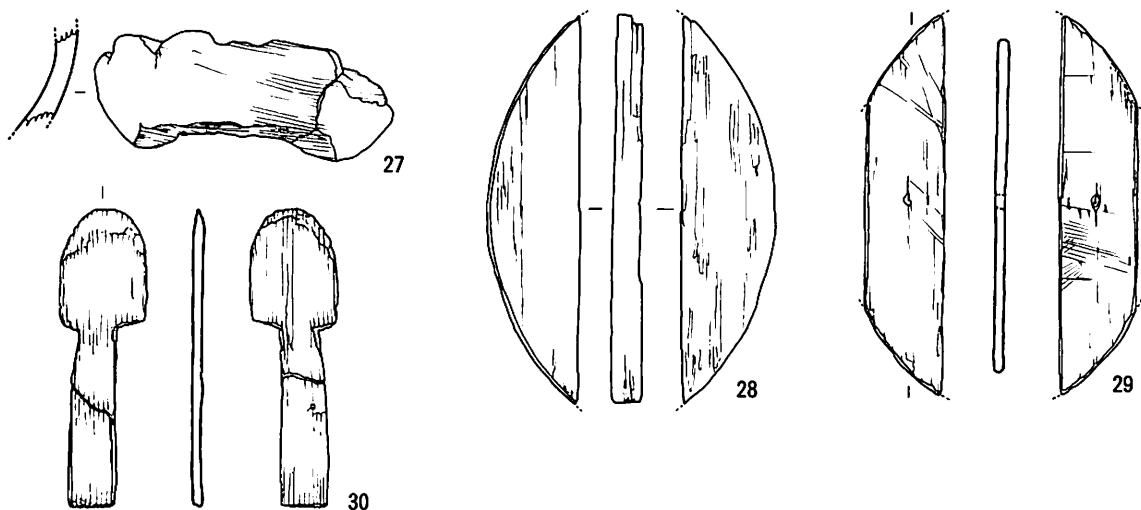
毛彫り花文

梅瓶

第135図1はタイ産陶器の鉄絵合子の蓋である。井戸掘形埋土内の出土である。2~8は中国景德鎮窯系の製品である。いずれも小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。2は五彩皿である。3・4・8は青花皿である。8は高台の内外面に多量の砂が付着している。また見込みに「壽」字の一部が読み取れる。5・6は青花碗の口縁破片である。5は外面に毛彫り花文が施されている。9は中国漳州窯系の青花皿である。見込みが釉剥ぎとなり、高台は露胎である。10は中国産青白磁の梅瓶の胴部破片である。時期は14~16世紀代に比定される。11は中国白磁皿の口縁



第137図 SE261出土遺物実測図③ (1/2)



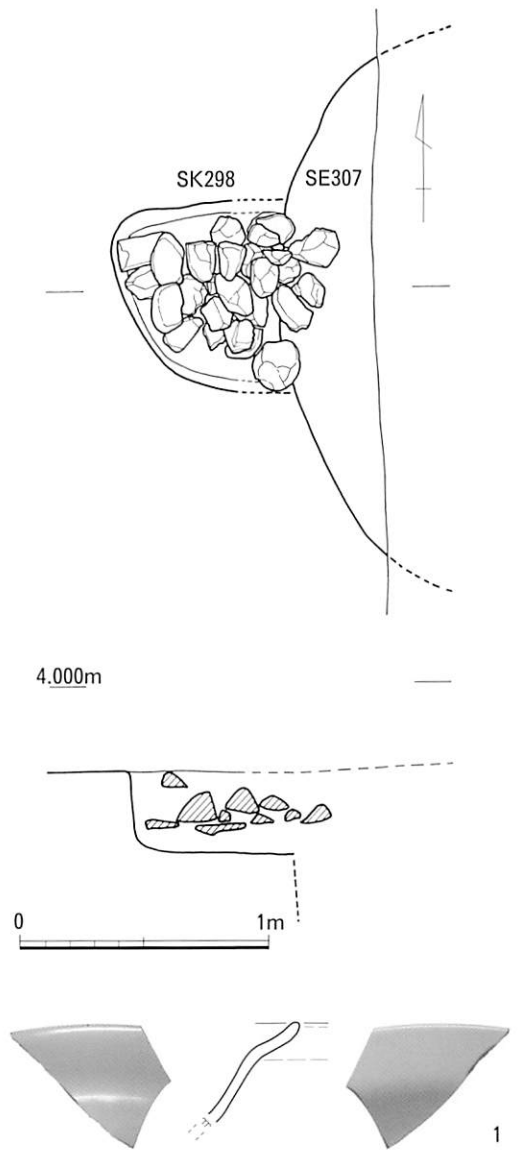
第138図 SE261出土遺物実測図④ (1/3)

部破片である。12は瀬戸美濃系の折口皿で、器高が低く大窯4期に比定される製品である。井筒陥没時に上層からの下落の可能性がある。

第136図13～15は京都系土師器の皿である。いずれも3期の特徴を有する製品である。13は内面にススが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。16は底部に糸切り痕を有する在地系土師質土器皿である。17～20は瓦質土器の製品である。17は碗で井筒内からの出土、内外面とも丁寧なナデ調整で仕上げられている。18は播鉢の口縁部で、放射状播目が施されている。19・20は火鉢の底部破片である。内外面にススが付着している。21は鍋で底部を欠く。井筒陥没時の上層からの下落の可能性がある。第137図22～26は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。第138図27は漆器碗の胴部破片である。外面は赤漆、内面は黒漆を施している。見込みには赤漆で紋様を描いているが、破片のため判別はできない。28・29は曲物底部分の破片である。29は中央に穿孔を施している。

漆器碗  
匙状の木製品  
杓子状  
柄  
紡錘車状

30は匙状の木製品であるが用途不明である。井筒内の封鎖礫とともに出土したことから、呪術的な要素を持つ製品の可能性もある。31も30と同様な製品で、杓子状を呈している。出土状況も同じで井筒内からの出土である。先端部分が焦げている。32は刀等の柄部分である。裏面にえぐりが認められる。33は円形の木製紡錘車状の製品の一部である。用途は不明である。



第139図 SE307・SK298実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

#### SE307 (第139図)

SE307は上層遺跡群に属する遺構で、M16区に位置する。土取り後の整地層上に構築されているが、調査区東端で、井戸掘形の一部分が確認された。そのほとんどが調査区外のため、危険も考慮して未掘である。井戸の掘形は確認段階で円形のプランと考えられる。規模・井筒施設等是不明である。井戸の構築時期は井戸の検出状況等から考えて、16世紀後葉と考える。

未掘

#### SK298 (第139図)

SK298は上層遺跡群に属する遺構で、M16区に位置する。井戸 (SE307) 掘形の西側で、井戸に切られるように土色の違う礫を多量に含んだ土坑状の掘り込みを確認した。このSK298は調査当初、土坑として認識していたが、調査途中で井戸の埋め戻しのための礫の廃棄位置として使用していたと判明した。礫は拳大から人頭大の大きさで、井戸に向かって投げ込まれている状況が伺えた。遺構の構築時期 (井戸の廃棄時期) はSE307と同様の時期である。



SK298出土遺物（第139図）

第139図に図示した遺物は礫群中から出土した中国産白磁の皿である。整地層内からの混入と考えられ、この遺構に伴うものではないであろう。

6. 遺物集中区

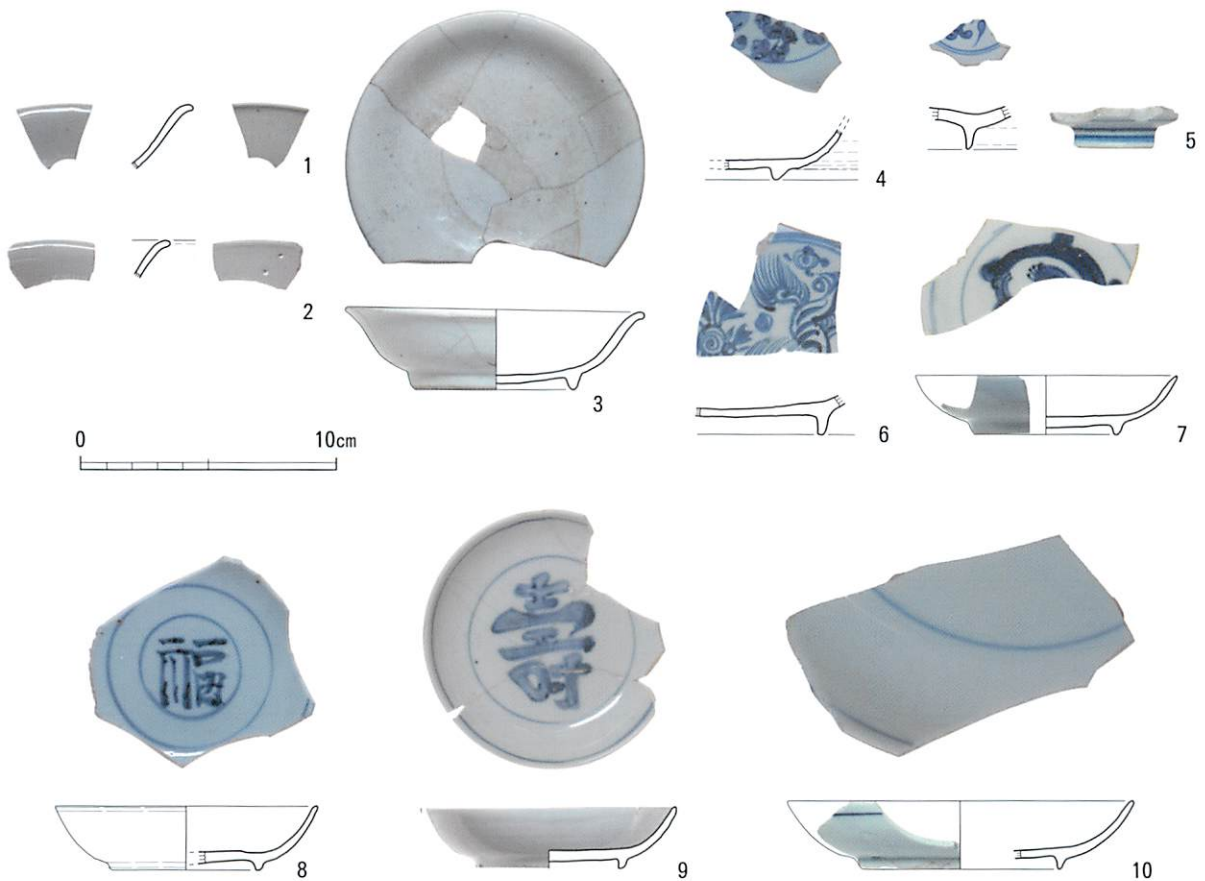
第18次東調査区では7カ所で遺物の集中箇所が確認された。いずれも上層遺構群に属するもので、構築・廃棄された遺構と、土取り後の埋め戻し埋土中に含まれた遺物が集中して検出された遺構、埋め戻し前の遺物廃棄場所の3種類がある。いずれも明確な掘形は検出されなかった。構築された遺構としては、SX054・SX062・SX066・SX310である。埋土中の集中区はSX150・SX256A・SX308があげられる。これらの集中区は遺構とは扱わず、包含層遺物集中区と考えた方がよいであろう。

SX054（第75図）

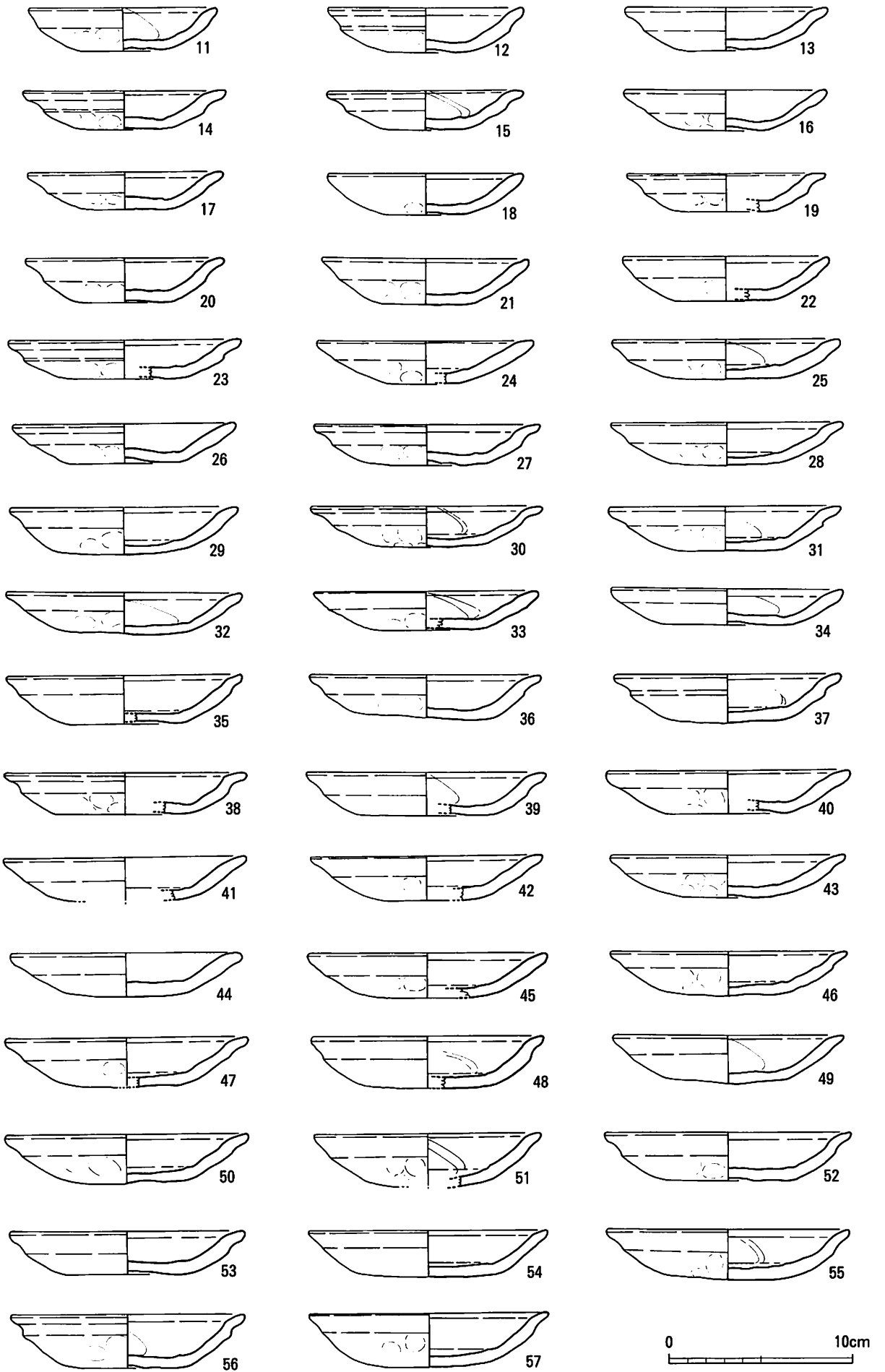
SX054は上層遺跡群に属する遺構で、L15区で検出された遺物集中区である。SE261の埋め戻し後の掘形を切って構築している。東西3m、南北3mの範囲に多量の京都系土師器を中心に、中国産陶磁器や釘等の遺物が集中して出土している。土器等の周辺には掘形などは検出されていない。出土遺物の年代観や層位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半から末葉に比定される遺構である。

SX054出土遺物（第140～144図）

第140図1～3は中国産の白磁の皿である。1・2は口縁部破片で、3は完形に近い製品である。



第140図 SX054出土遺物実測図①（1/3）

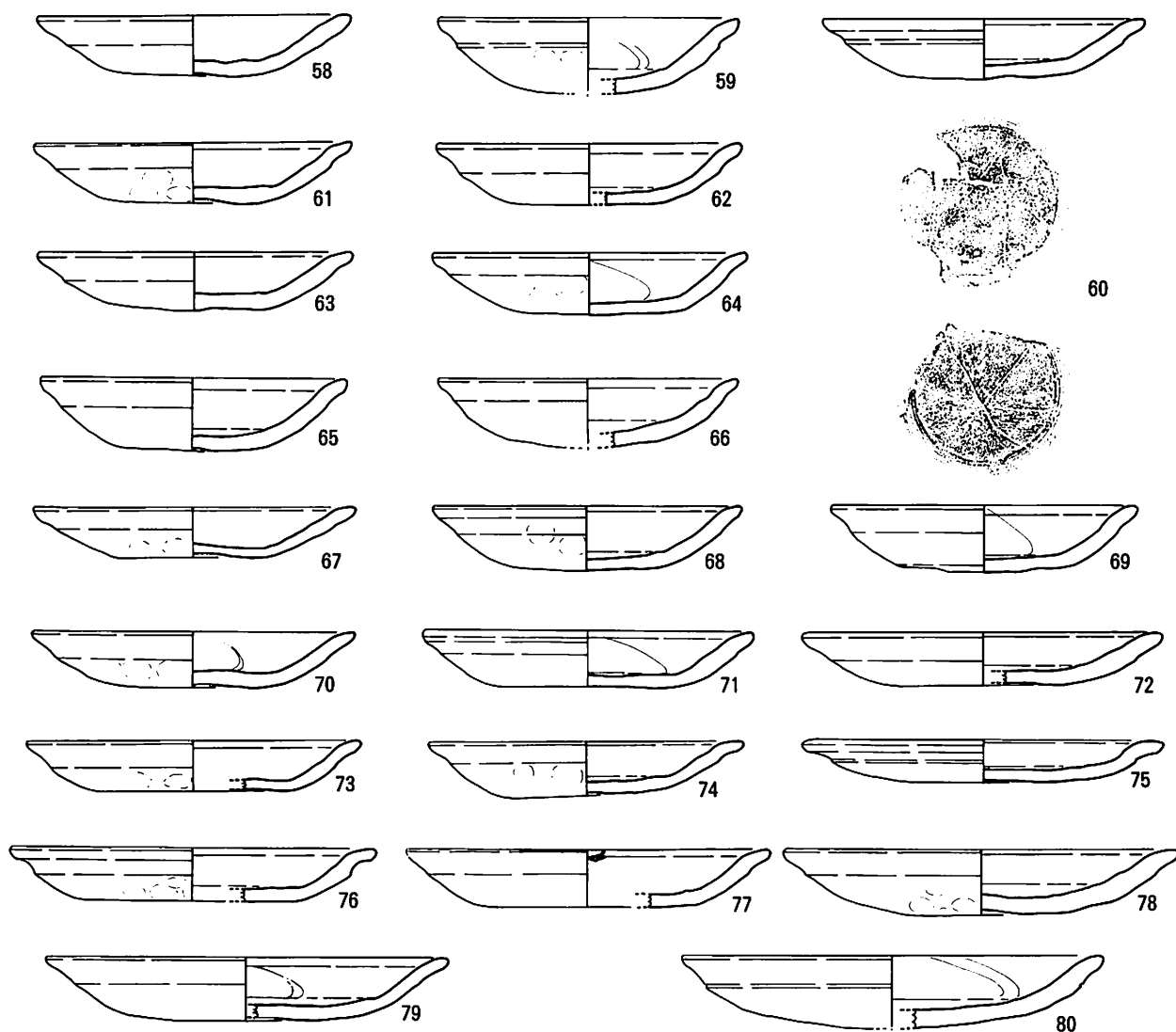


第141图 SX054出土遗物实测图② (1/3)

E群に分類され16世紀中葉以降の製品である。4～10は中国景德鎮窯系の青花の製品である。いずれも小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。4は皿の底部で見込みに花文を描く。5は碗の底部片で見込みには二重圏線内に文様を描いているが、小破片のため不明である。6は皿の底部片で、見込みには二重圏線内に崩れた獅子文あるいは龍文を描く。7の皿は口縁端部内面と見込みに圏線を描き、見込み圏線内に崩れた獅子文あるいは龍文を描く。8の皿は口縁端部内面に一重、見込みに二重の圏線を描き、見込み圏線内には「福」字を描く。高台には砂が付着している。9の皿は口縁端部と見込みに圏線を描き、見込み圏線内に「壽」字を描く。10の皿は口縁端部内外面と見込み、高台削り出し部に圏線を描いている。第141図11～57、第142図58～80までは京都系土師器の皿である。いずれも2～3期の特徴を有する製品である。口径は10.0～17.4cm、器高は1.9～3.1cmの範囲内である。28・77には内面にススが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。内面に「ノ」の字状のナデ仕上げ痕が認められる個体が多く存在する。63は底部外面にヘラ記号が、69は底部内面にヘラ記号が認められる。第143図81～85は赤褐色系の色調を呈する在地系土師質土器皿である。81は口縁部破片であるが、内外面にロクロ目が認められる。82～85の底部には糸切り痕が認められる。第144図86は須恵質土器の播鉢である。注口付きで、内面には7条

灯明皿

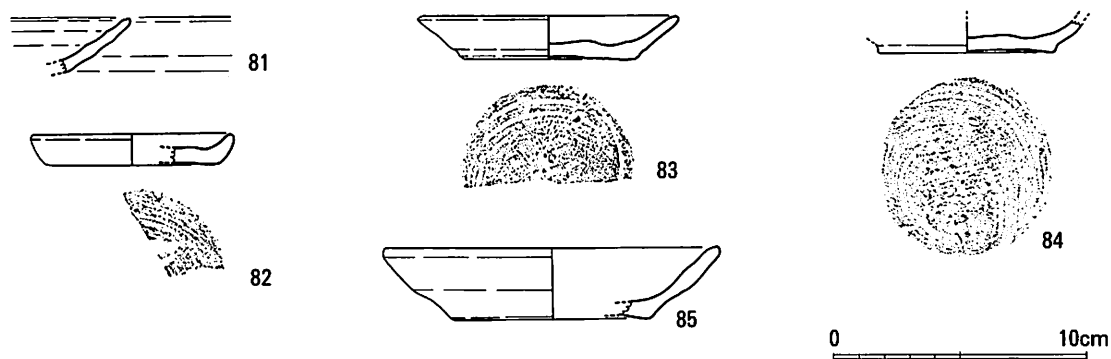
播鉢



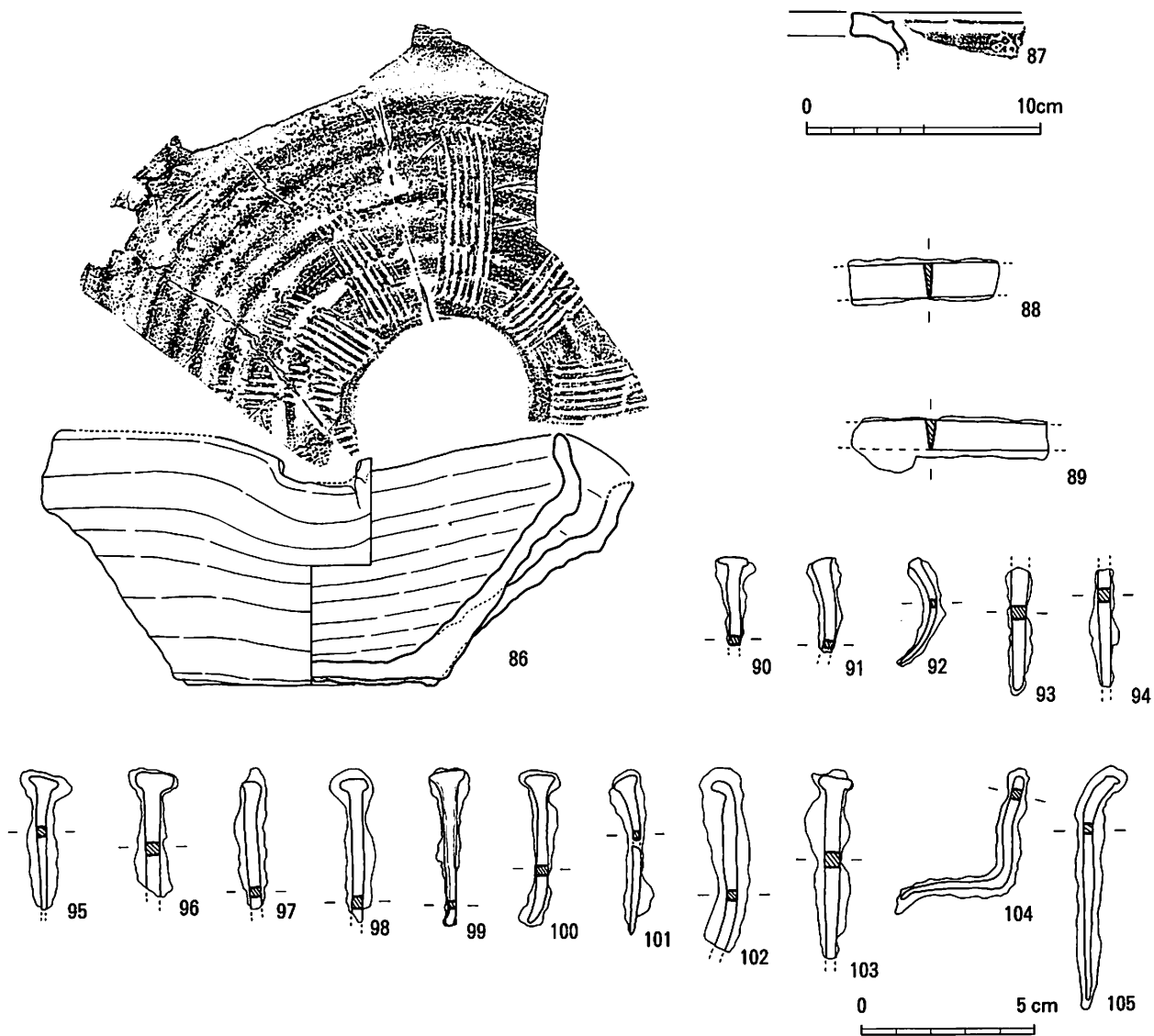
第142図 SX054出土遺物実測図③ (1/3)

0 10cm

第2節 遺構と遺物



第143図 SX054出土遺物実測図④ (1/3)

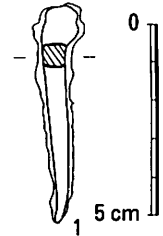


第144図 SX054出土遺物実測図⑤ (1/3、1/2)

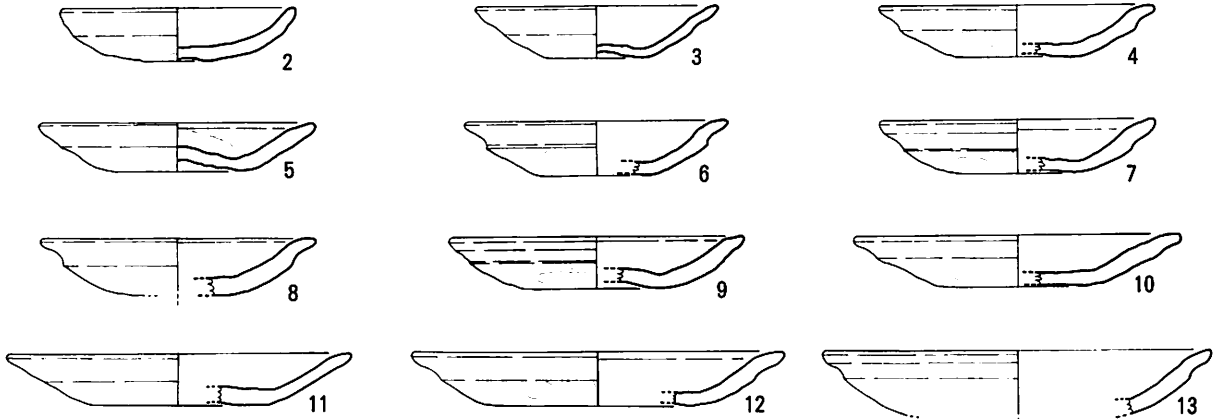
火鉢

の放射状播目を施している。87は瓦質土器火鉢の口縁部破片である。双頭蕨手流雲文を刻印によって施している。88・89は刀子の刃部の一部である。90～105は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

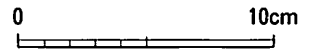
当遺構の検出状況は、京都系土師器の皿が幾重にも重なって出土し、その中に一部陶磁器が混入する状況であった。この陶磁器類はほとんどが上層からの出現であった。また、京都系土師器の皿は、上方から順に取り上げたが、明確な時期差を示す結果はでなかった。



第145図 SX062出土遺物実測図①



第146図 SX062出土遺物実測図② (1/3)



**SX062 (第75図)**

SX062は上層遺跡群に属する遺構で、L16区南端で検出された遺物集中区である。東西1.7m、南北1.3mの範囲に破砕された京都系土師器を中心に遺物が集中して出土している。土器等の周辺には掘形などは検出されていない。遺物除去後には柱穴が確認された。出土遺物の年代観や層位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半から末葉に比定される遺構である。

**SX062出土遺物 (第145・146図)**

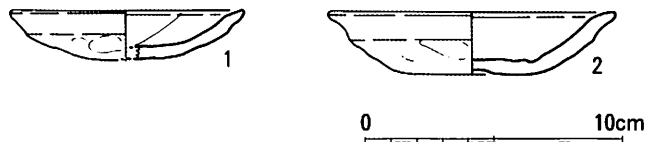
第145図に図示した遺物は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。第146図は京都系土師器の皿である。比較的器壁が厚く、2～3期の特徴を示す製品である。

**SX066 (第75図)**

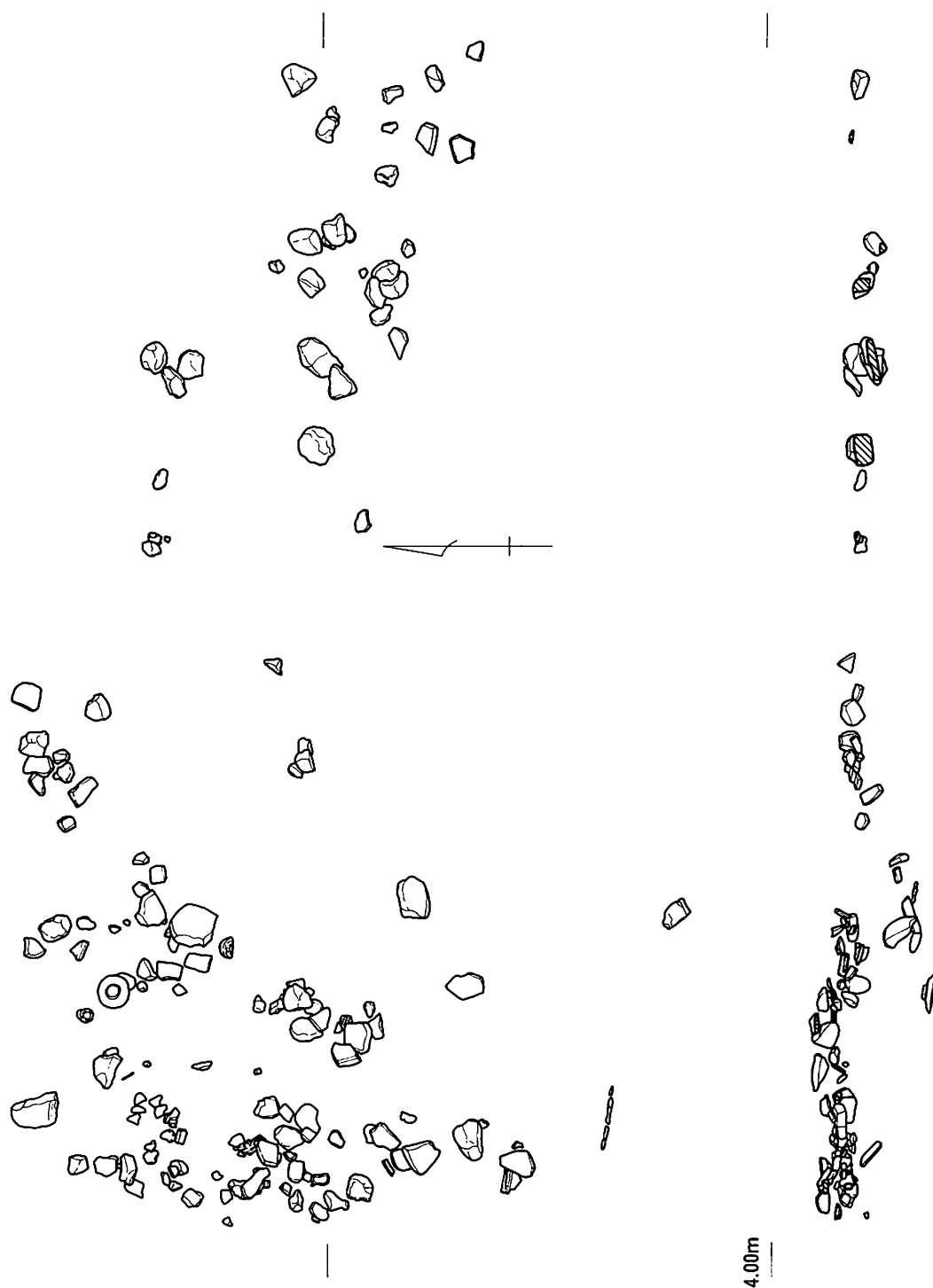
SX066は上層遺跡群に属する遺構で、L16区南東端で検出された遺物集中区である。東西2m、南北1.5mの範囲に破砕された京都系土師器が集中して出土している。土器等の周辺には掘形などは検出されていない。遺物除去後には柱穴が確認された。出土遺物の年代観や層位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半から末葉に比定される遺構である。

**SX066出土遺物 (第147図)**

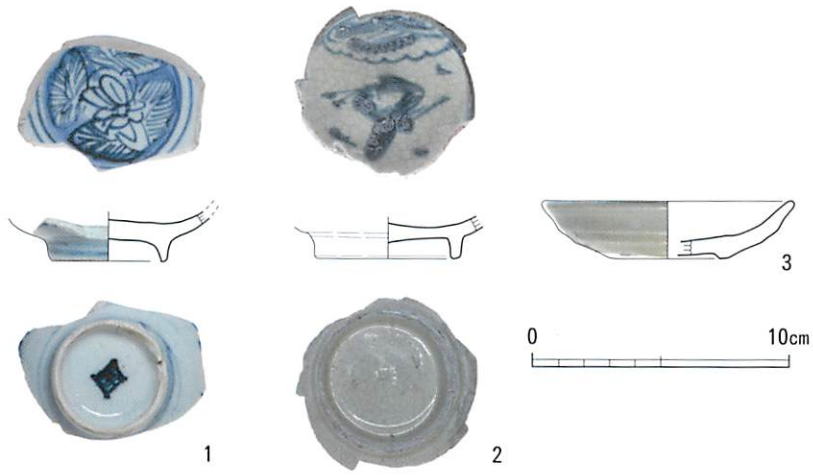
第147図1・2は京都系土師器の皿である。1は口径9.1cm、器高1.9cmで、底部はやや丸みを持つ。内面に「ノ」の字状のナデ仕上げ痕が認められる。2は口径11.0cm、器高2.5cmで器壁が厚くなっている。2～3期の特徴を示す製品である。図示した以外にも多量の京都系土師器の皿が出土している



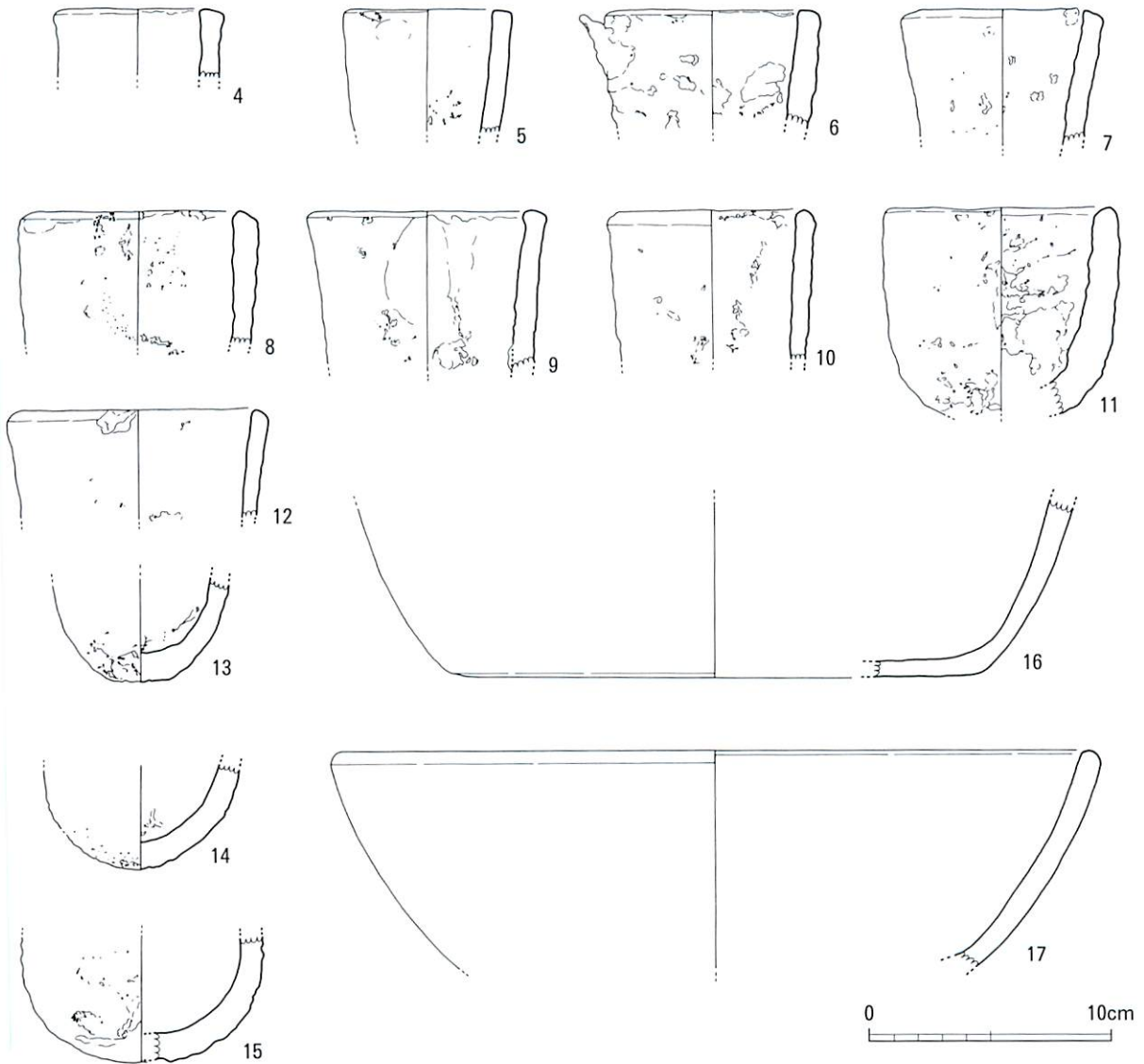
第147図 SX066出土遺物実測図 (1/3)



第148図 SX150実測図 (1/30)



第149図 SX150土遺物実測図① (1/3)



第150図 SX150出土遺物実測図② (1/3)

第2節 遺構と遺物

るが、小破片のため、図示できない。

SX150 (第148図)

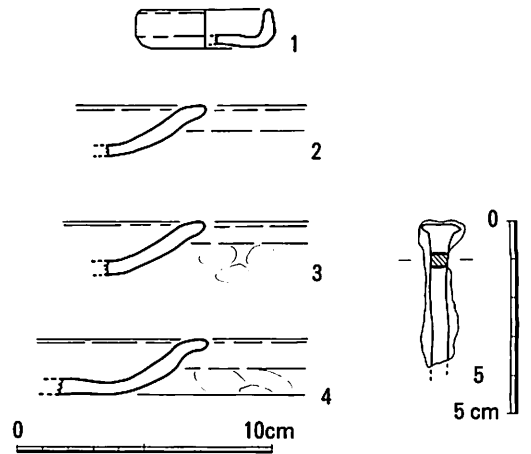
SX150は、L15・16区で検出された遺物集中区である。東西4.5m、南北2.0m前後の範囲に破碎された埴塙（取瓶）を中心に遺物が集中して出土している。明確な掘形は検出されなかった。当遺構は、土取り後の埋め戻し埋土（整地層）に含まれた遺物が集中して検出された状況であると考えられる。このため、遺構として報告するが、包含層と考えた方がよいであろう。

SX150出土遺物 (第149・150図)

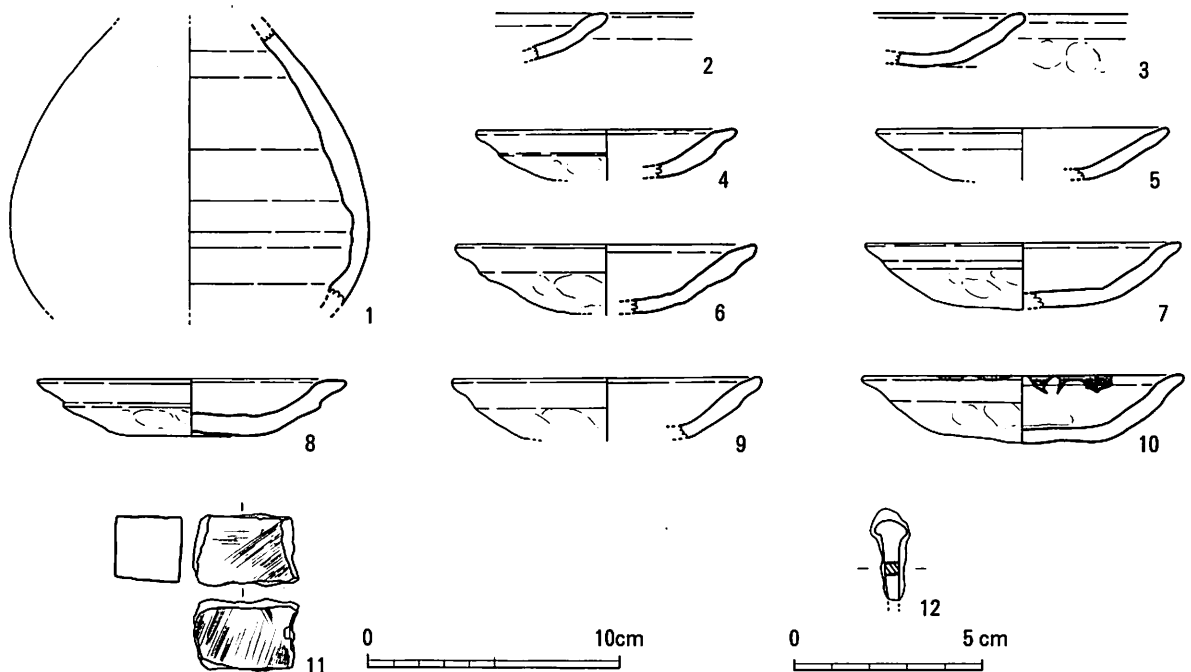
第149図の1は中国景德鎮窯系の青花碗の底部片である。小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。見込みに圏線を描き、圏線内に花文を描く。高台内は四角に縁取りされた字款を描く。2は中国漳州窯系の青花碗の底部片である。見込みに文様を描いている。高台畳付きは露胎となる。3は瀬戸美濃系の陶器皿である。第150図4～15は埴塙（取瓶）の破片である。内面にはガラス状の物質や青灰色の物質、銅など付着物が残存する。集中区周辺には鍛冶工房等の形跡はないが、府内大友の調査では工房跡が確認されている。また、当調査区で出土した三連分銅等の事例もあることから、かなりの数の工房跡があったと考えられる。図示した遺物以外にも多数の破片が出土している。また、調査区整地層内からも散発的に埴塙（取瓶）の破片（第178図）が出土している。16・17は土師質土器の捏ね鉢である。赤褐色を呈し16の底部には離れ砂が認められる。

鍛冶工房

三連分銅



第151図 SX256A出土遺物実測図 (1/3、1/2)



第152図 SX308出土遺物実測図① (1/3、1/2)

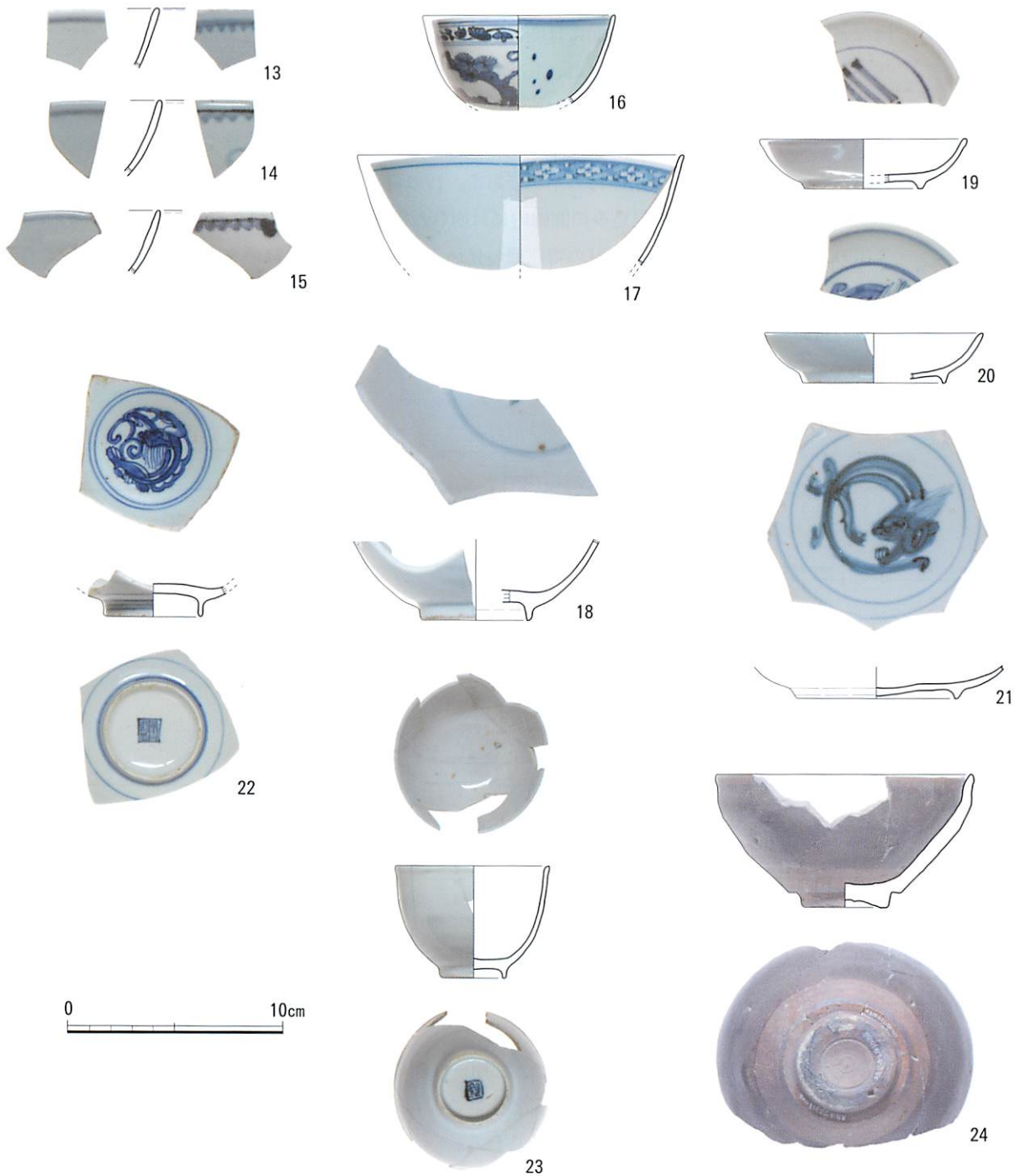


SX256A (第75図)

SX256AはM14区で検出された遺物集中区である。トレンチ掘り下げ時に遺物が集中して確認された。東は調査区外となる。南北2.5m前後の範囲に破砕された京都系土師器の皿を中心に出土したが、掘形は検出されなかった。当遺構は、土取り後の埋め戻しまでの間、土器等の廃棄場所と考える。遺構として報告するが、包含層と考えた方がよいであろう。

SX256A (第151図)

1は土師質土器の小皿あるいは焼塩壺の蓋、2～4は京都系土師器の皿の破片、5は釘である。



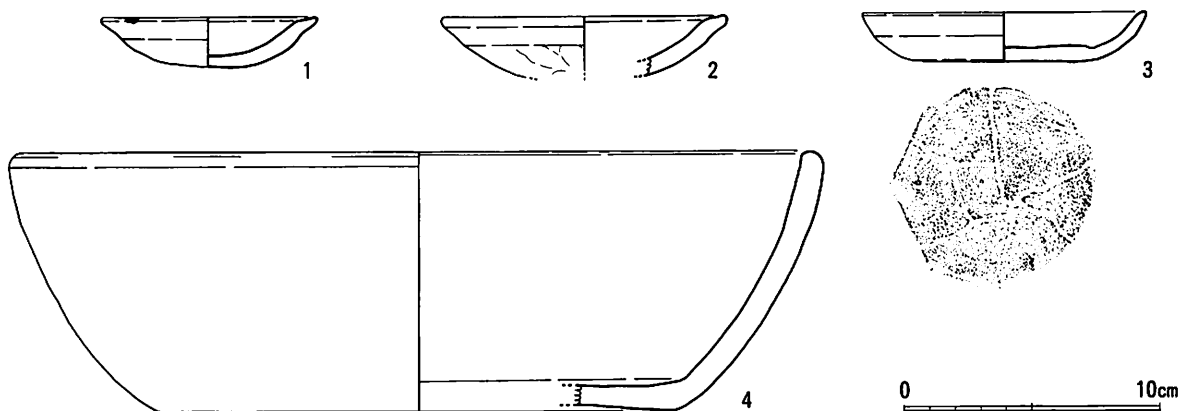
第153図 SX308出土遺物実測図② (1/3)

**SX308 (第75図)**

SX308は、L15・16・M15区で検出された遺物集中区である。広範囲に遺物が出土しており、範囲の特定はできなかった。周囲に明確な掘形は検出されなかった。当遺構は、土取り後の埋め戻すまでの間の土器等の廃棄場所と考える。このため、遺構として報告するが、包含層と考えた方がよいであろう。

**SX308出土遺物 (第152・153図)**

第152図1は備前陶器の瓶胴部である。2～10は京都系土師器の皿である。器壁は比較的厚く2期末から3期の特徴を示す製品である。4・10には内面にススが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。11は砥石、12は釘である。第153図13～15は中国漳州窯系の青花碗の口縁部破片である。口縁端部の内面には圏線をもつ。16～22は中国景德鎮窯系の青花の製品である。16～21は小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。22はF群に分類され、16世紀末葉に比定される。16は青花碗で、外面胴部に松樹と月、口縁部に唐草文風の文様、口縁内面に圏線を描いている。17は外面に毛彫り花文を有する青花碗で、口縁内面に四方禪文を描く。18の青花碗は見込みの圏線内の文様は欠損のため不明である。19の青花皿も見込みの圏線内の文様は欠損のため不明である。20の青花皿の見込みの圏線内には崩れた獅子文あるいは龍文を描いていると考えるが、欠損のため詳細は不明である。21の青花皿の見込みの二重圏線内には龍文を描いている。22の青花皿の見込みの二重圏線内には龍文を描いている。高台内には異体字による銘款がみられる。23は中国産の青磁の小坏である。高台内には異体字による銘款がみられる。24は志登呂系陶器の天目茶碗である。胴部下半から高台にかけては露胎である。



第154図 SX310出土遺物実測図 (1/3)

**SX310 (第75図)**

SX310はM14区の東壁側で整地層掘り下げ時に地山上面で確認された。土師質土器が4点集中して出土しているが、斜面からの流れ込みの可能性が高く、周囲に明確な掘形は検出されなかった。出土遺物の年代観や層位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半頃に比定される遺構である。

**SX310出土遺物 (第154図)**

第154図1・2は京都系土師器の皿で、2期～3期の製品であろう。3は赤褐色系の色調を呈する在系土師質土器皿である。4は土師質土器の捏ね鉢である。赤褐色を呈し内外面とも丁寧なナデを施している。底部には離れ砂が認められる。

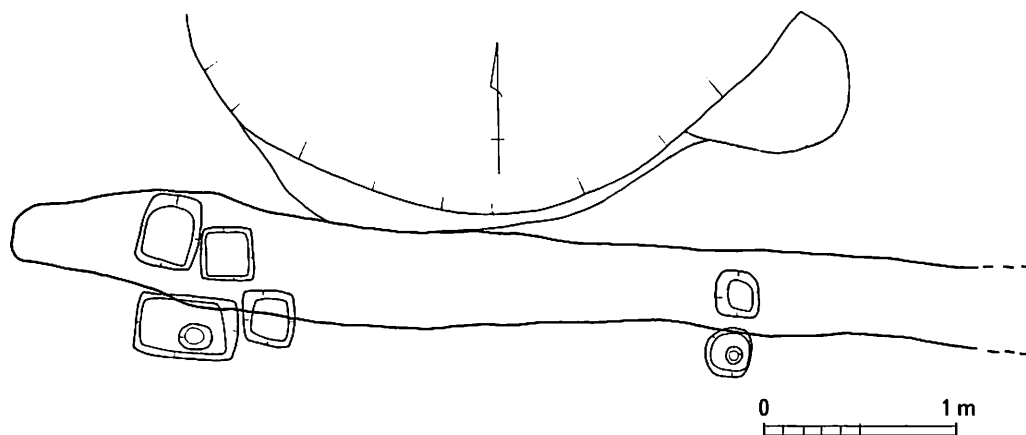
7. その他の遺構

第18次東調査区では1カ所で道路と思われる硬化面の遺構(SF076)が確認された。また、土取り後の整地層内に多量の遺物を含む層が確認されたので、SX301として報告する。

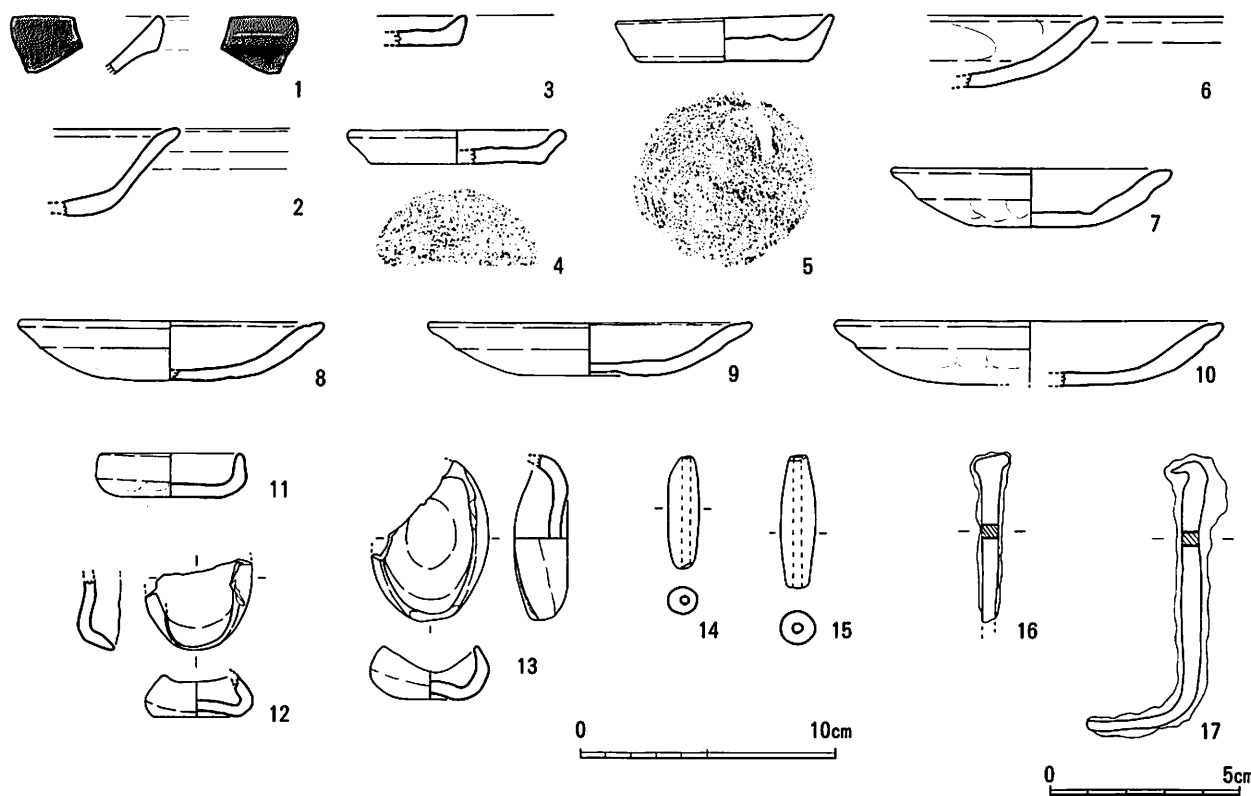
SF076 (第155図)

第2南北  
街路  
町屋関連  
遺構  
硬化面

SF076はL・M16区で整地層掘り下げ時に確認された。当調査区の西側には第2南北街路が位置し、調査区内には16世紀末葉前後に比定される町屋関連の遺構が存在することから、町屋間には路地等の道路状遺構の存在が考えられたが、調査区内では確認できた1条の硬化面だけで井戸の南側からの検出であった。井戸遺構(SE075)の南側に位置し、東西に走る遺構である。規模は長さ(南北)約5m、幅0.5m部分が硬化していた。西端は自然消滅し、東側は調査区外に延びている。硬化し



第155図 SX076実測図 (1/40)



第156図 SX301出土遺物実測図 (1/3, 1/2)

## 第2節 遺構と遺物

た面は厚さ2～3cm程度で、道路として整備した様相ではなく、踏み締めることで自然硬化した面が形成されたと考える。井戸に接しているため、井戸使用時に生じた硬化面の可能性もある。遺物等は出土していない。硬化面除去後は柱穴が検出された。

### SX301

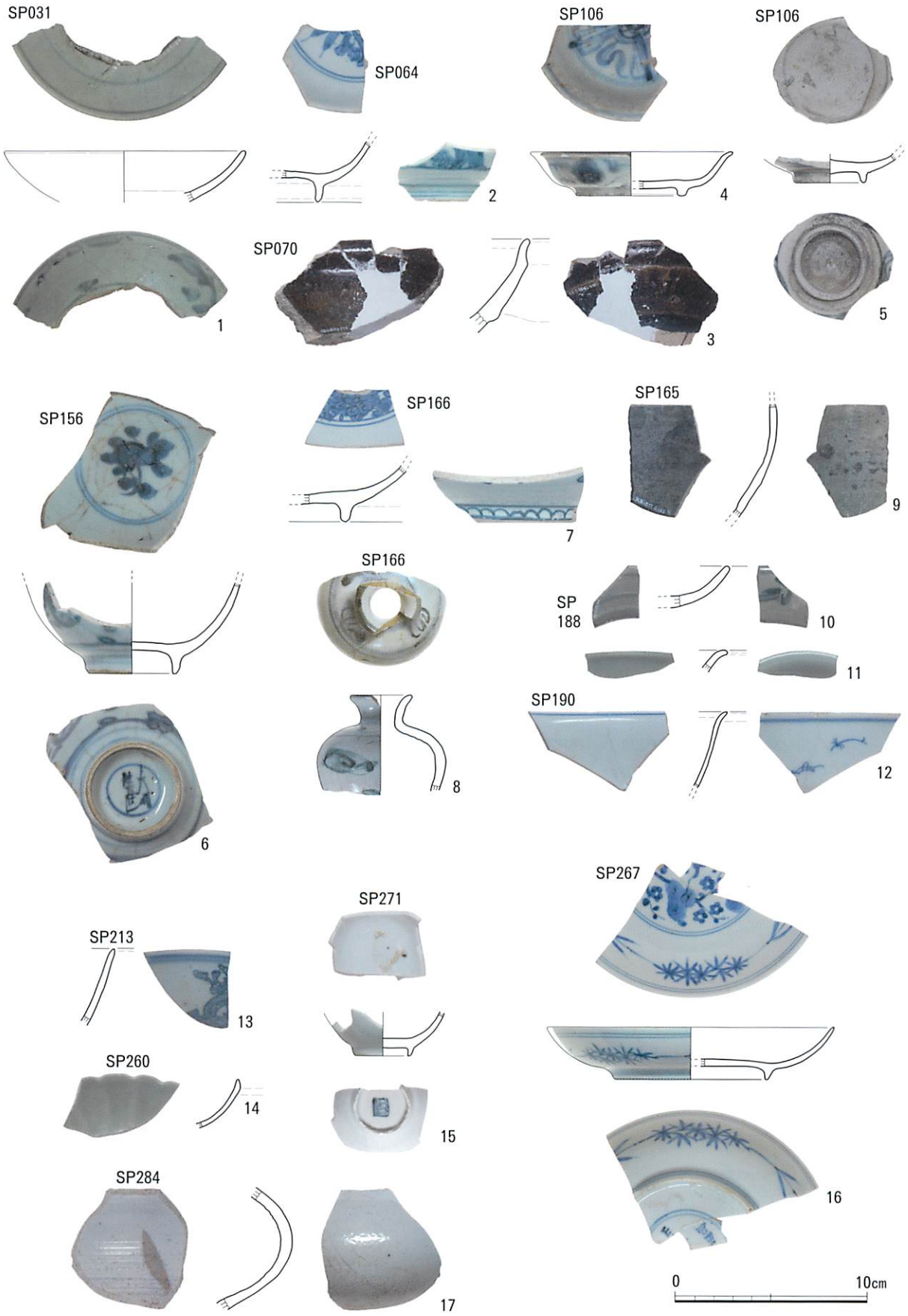
SX301は、土取り後の埋め戻しを行った整地層の中の1層であり、整地層内のほぼ全域に堆積している。堆積した整地層内に多量の遺物を含む層が確認されたので、SX301として報告する。

### SX301出土遺物（第156図）

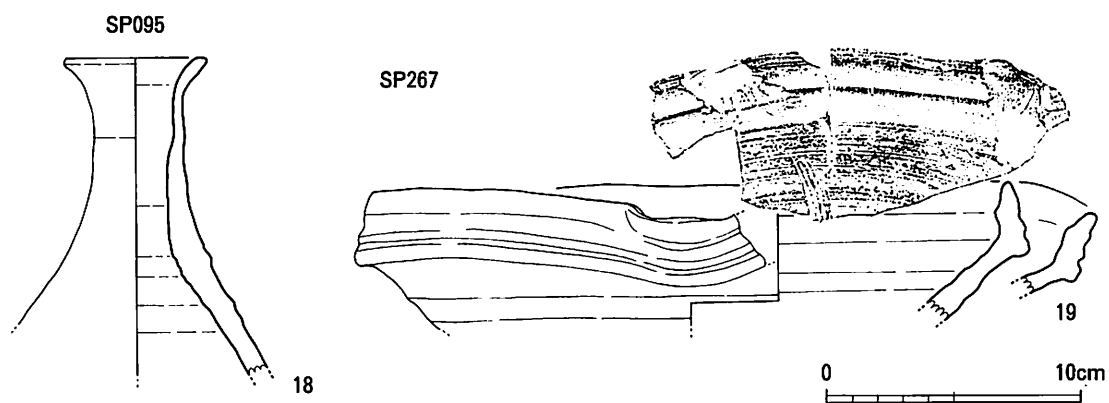
第156図1は中国産白磁皿の口縁部破片である。口縁部は断面三角形を呈し、玉縁状となる。横田・森田編年のIV類に比定される資料で、11～12世紀代の所産である。2は土師質土器小皿の口縁部破片である。3～5は胎土が赤褐色系の色調を呈し、底部に糸切り離し痕が残る在来系土師質土器小皿である。5の内面にはロクロ目が残る。6～10は胎土が浅黄色系の色調を呈する京都系土師器皿である。口縁部はやや面を持つように仕上げられている。器壁がやや薄く2期の様相を呈する。6の内面には「ノ」字状のナデ仕上げ痕が認められる。なお、図示していないがSX301では京都系土師器の破片が相当量出土しているが、いずれも小破片であり、ここでは図示可能なものを提示している。11は京都系土師器と同じ浅黄色の色調を呈する土師質土器で、焼塩壺の蓋を盛塩等の小皿に転用したものと推定される。12・13は耳皿である。胎土は京都系土師器と同じ浅黄色系の色調を呈する。14・15は小型管状土錘である。16・17はいずれも釘で、錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

### 柱穴出土遺物（第157～160図）

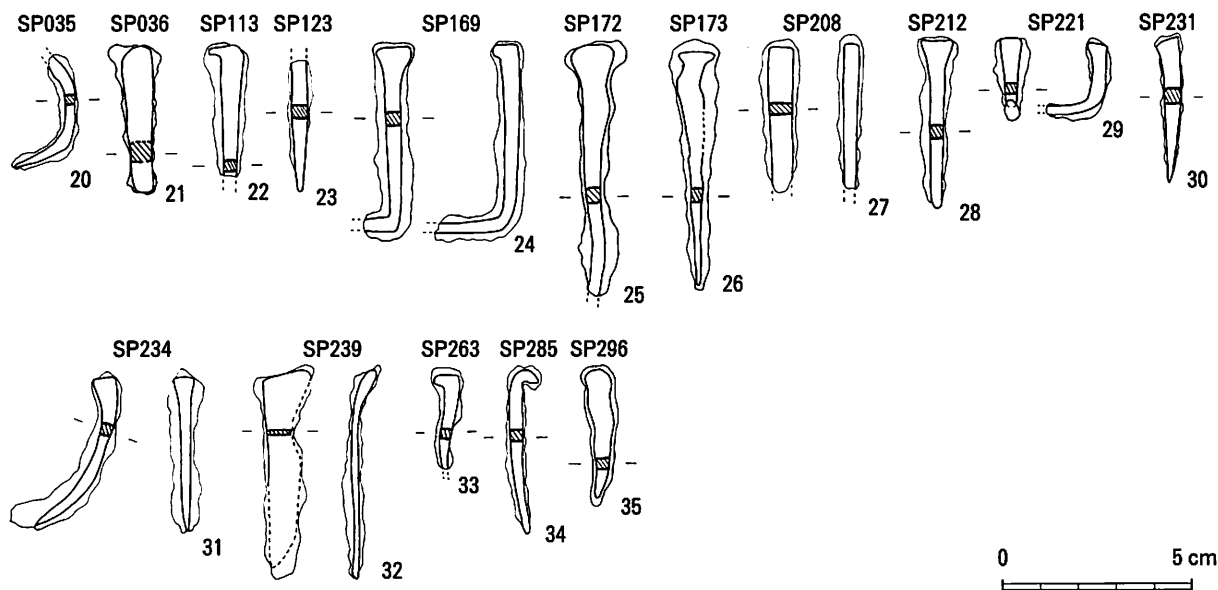
第157図～160図には当調査区の柱穴出土の遺物を提示している。第157図1は中国漳州窯系青花  
碁笥底  
饅頭心碗  
華南三彩  
朝鮮白磁  
皿である。底部はいわゆる「碁笥底」を呈すると推定され、皿C群に比定される。2は中国景德鎮窯系青花碗の底部破片である。見込み部分が盛り上がる、いわゆる「饅頭心碗」で碗E群に比定される。高台畳付きは露胎となる。3は瀬戸美濃系陶器天目碗である。4は中国景德鎮窯系青花皿で口縁部が端反りとなり、皿B1群に比定される資料である。見込みに十字花文が描かれる。高台畳付きは露胎となり、砂が付着する。5は中国漳州窯系皿で底部は内外面ともに露胎となる。6は中国景德鎮窯系青花碗で碗E群に比定される資料である。見込み部分には二重圏線の中に花文を描く。高台内には圏線の中に「大明年造」の字款を置く。7は中国景德鎮窯系青花盤の底部破片である。見込みには花文が描かれ、高台外には省略された蓮弁が施される。8は中国景德鎮窯系青花瓶である。口縁端部内面には青花で縁取りをし、肩部には二本の圏線を巡らし、その間に規則的に文様を描く。胴部外面にも文様が施される。9は華南三彩である。被熱しているが、壺の破片と推定する。10は中国漳州窯系青花皿の口縁部破片である。11は中国産白磁皿の口縁部破片である。12は中国景德鎮窯系青花碗の口縁部破片である。外面には唐草文が描かれる。口縁部は端反りとなる。碗E群に比定される。13は中国景德鎮窯系青花碗の口縁部破片で、碗E群に比定される。14は中国産青磁皿である。口縁部は稜花を呈する。15は中国産白磁小杯の底部破片である。見込みには目跡が認められる。高台内には四角で粹取りした「福」字を青花で描く。16は中国景德鎮窯系青花皿で、E群に比定される。胴部内外面に草花文を描き、見込み部分には花文を施す。高台内には「長」「富」が認められる。「長命富器」か。17は朝鮮王朝産白磁の胴部破片である。内面にはロクロ目が認められる。器種は不明であるが瓶もしくは小壺と推定される。16世紀代の所産である。第158図は備前系焼締陶器を提示した。18は瓶である。口縁端部内面から胴部外面にかけて自然釉が掛かる。19は描鉢である。口縁部は内抱え気味で断面が「く」字状を呈する。口端は上角をナデで強く尖り気



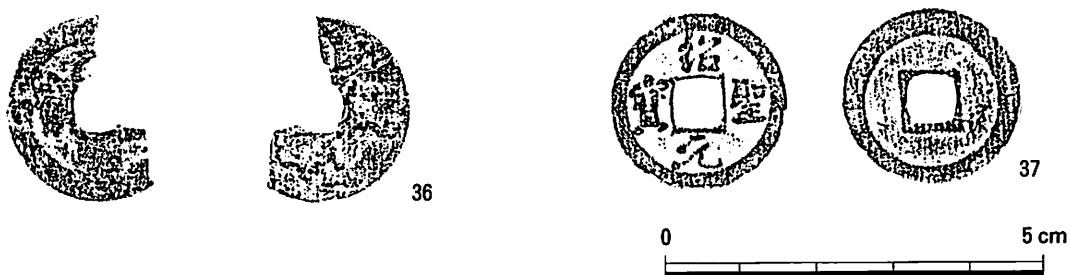
第157図 柱穴出土遺物実測図① (1/3)



第158図 柱穴出土遺物実測図② (1/3)



第159図 柱穴出土遺物実測図③ (1/1)



第160図 柱穴出土銭貨実測図 (1/1)

味とし、口端からやや下がった内面に段を持つ。中世6期の様相を呈する資料である。第159図には釘類を提示しているが、32については厚みが無く、板状の鉄製品の可能性もある。いずれも錆出が著しいが断面形は方形を呈する。第160図には銭貨を提示した。36は錆のため判読が難しいが、篆書による「通」「寶」が判読できる。37は中国北宋代の「紹聖元寶」で、書体は行書である。初鑄年代は1094年である。

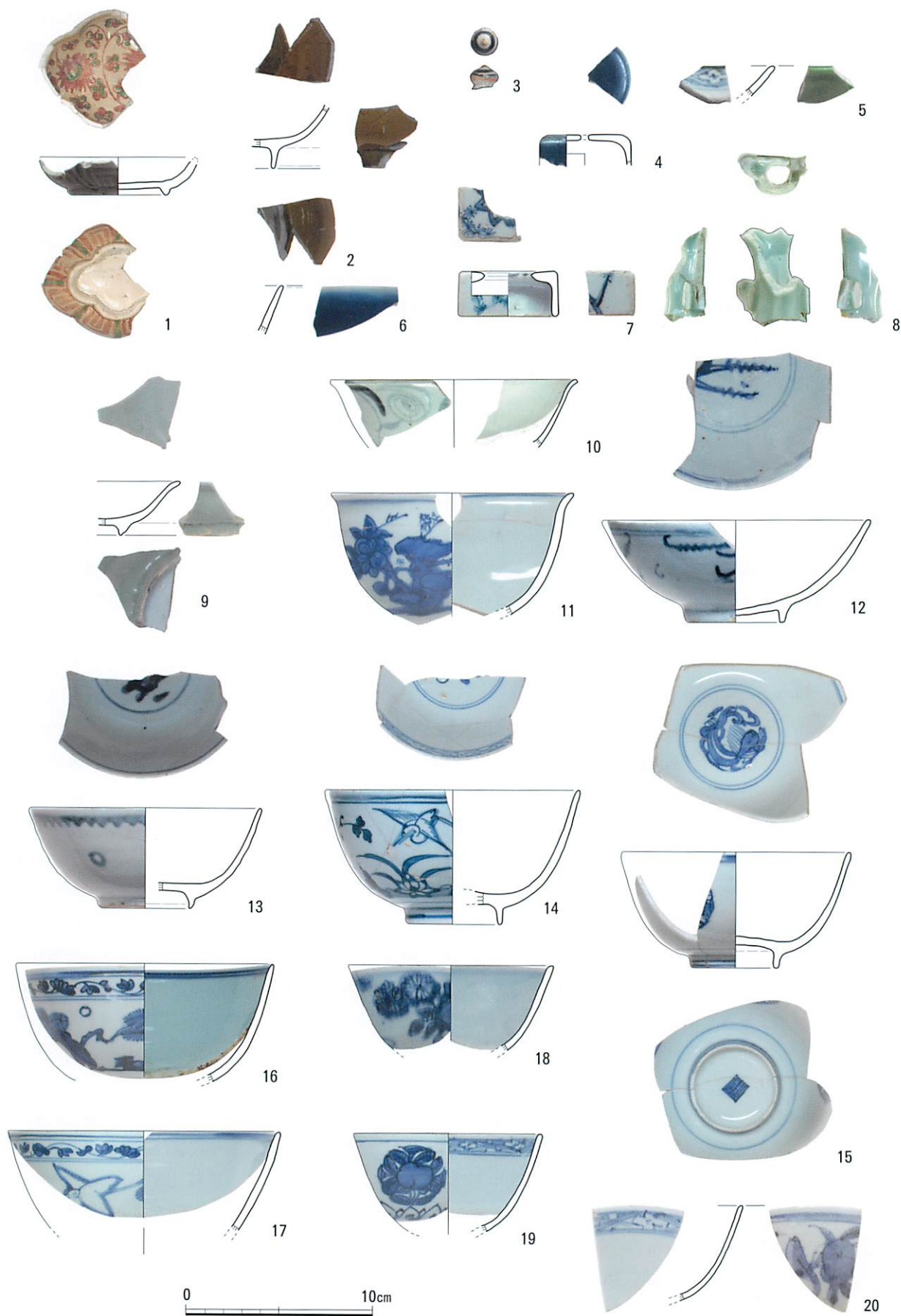
#### 8. 包含層・整地層

概要 本項目では、遺構以外の包含層整地層から出土した遺物のうち、残存度の高いものや注目すべきものを選別して報告する。当調査区では16世紀後葉前後に調査区東側の大半が、他地域の整地のために削平を受けており、その削平部分を再び埋め戻すために多量の土が運び込まれている。この運び込まれた埋土中から多量の遺物が出土している。また、削平後埋め戻す間にも土器等の廃棄場所として活用されていた様相も伺える。このため、報告すべき資料は多数におよぶが、紙幅の関係から図示した遺物は報告者が特に重要と判断した少数の資料に留まる。

#### 陶磁器類 (第161～175図)

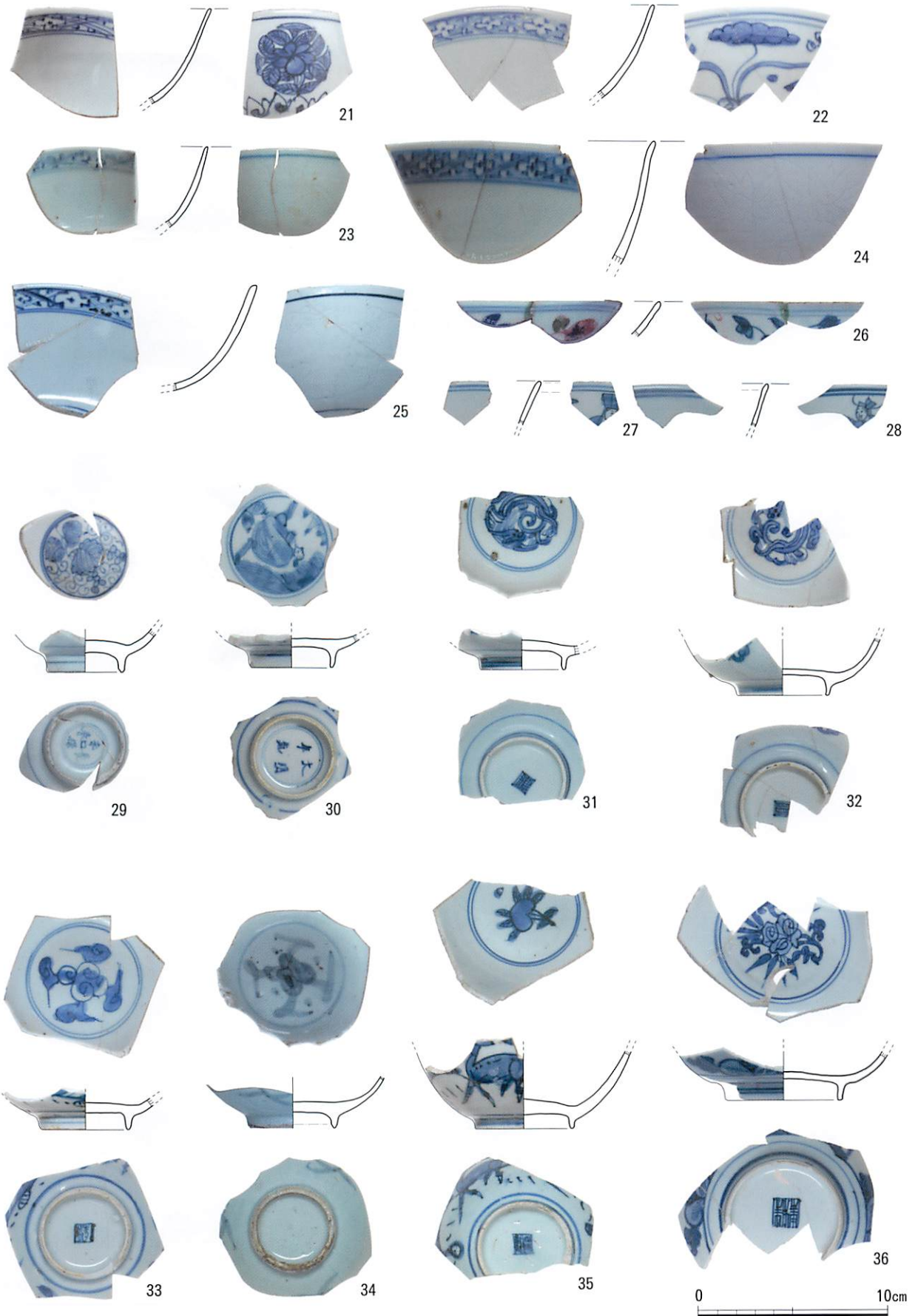
木瓜皿 161図1は中国産五彩の木瓜皿で、内面には唐草文を、外面には蓮弁文を赤と緑の顔料で描いている。高台内は無紋である。2～20・第162～164図は中国景德鎮窯系の青花の製品である。2は碗の底部片であるが、内外面ともに黄釉を施している。3は蓋等のつまみで景德鎮窯系ではない可能性もある。4は外面に瑠璃釉を施しているが、器種・形式とも不明である。5は青花皿の口縁部で、外面は緑彩である。口縁内面には四方禪文が描かれる。16世紀代の製品である。6は碗の口縁部で4と同様に外面に瑠璃釉を施している。7は外面に文様を描いているが、欠損しているため判別できない。時期・器種とも不明であるが、特殊品ではないかと考える。8は青磁の掛花入れの一部である。9は青磁の碗である。高台内部は裏白と呼ばれ、透明釉を施している。16世紀代の製品である。10は青花碗の口縁部で、小野編年の碗B群に属する製品で15世紀中頃の製品である。外面に渦文風唐草文を描いている。11は青花碗でE群に比定される資料で、胴部に花・岩などの文様を描く。16世紀後葉の製品である。12はC群に比定される青花碗で、いわゆる「蓮子碗」の系統に属する資料である。広く開いた胴をもち、見込みが高台内に凹む器形となる。胴部と見込みにはツタ状の文様が描かれる。第161図13～20、第162図21～25、28～36はE群に比定される、いわゆる「饅頭心碗」である。13は胴部には○文が描かれており、月を表現したものであろう。14は胴部外面に鶴が描かれる。15は見込みに団龍文を描き、高台内には四角の枠取りした「福」字を置く。16は口縁部外面に二重の圈線を描き、その中に花文を施す。胴部には松と月を表現している。17は口縁部外面に花文、胴部外面に鶴を描く。18の胴部外面には菊花文を描く。19は口縁部内面に四方禪文を描き、胴部外面には花文を描く。20は口縁部内面に四方禪文、胴部外面には花文を描く。21は口縁部内面に四方禪文、胴部外面に花文を描く。19と文様構成は同じであるが、同一個体ではない。22は口縁部内面に四方禪文、胴部外面に花文を描く。23は発色が悪いが、口縁部内面に四方禪文を施し、胴部外面は毛彫りによる花文が施される。24・25も同様に口縁部内面に四方禪文、胴部外面に毛彫りによる花文が施される。28は胴部外面に人物が描かれる。29～36は底部の資料である。29は見込みに葉文、高台内には中央に方孔を置き、縦横に「永保長春」の文字が描かれている。30は見込みに人物像を描き、高台内には「大明年造」の字款を置く。31は見込みに団龍文を描き、高台内には四角の枠取りした「福」字を置く。32も31同様に見込みに団龍文、高台内に四角の枠取りをした「福」字が描かれる。33は見込みに如意雲を描き、高台内には四角の枠取りの中に「精製」銘が描かれる。34は見込みに如意雲を描く。胴部には文様が認められるが、高台内は無文である。35は見込みの文



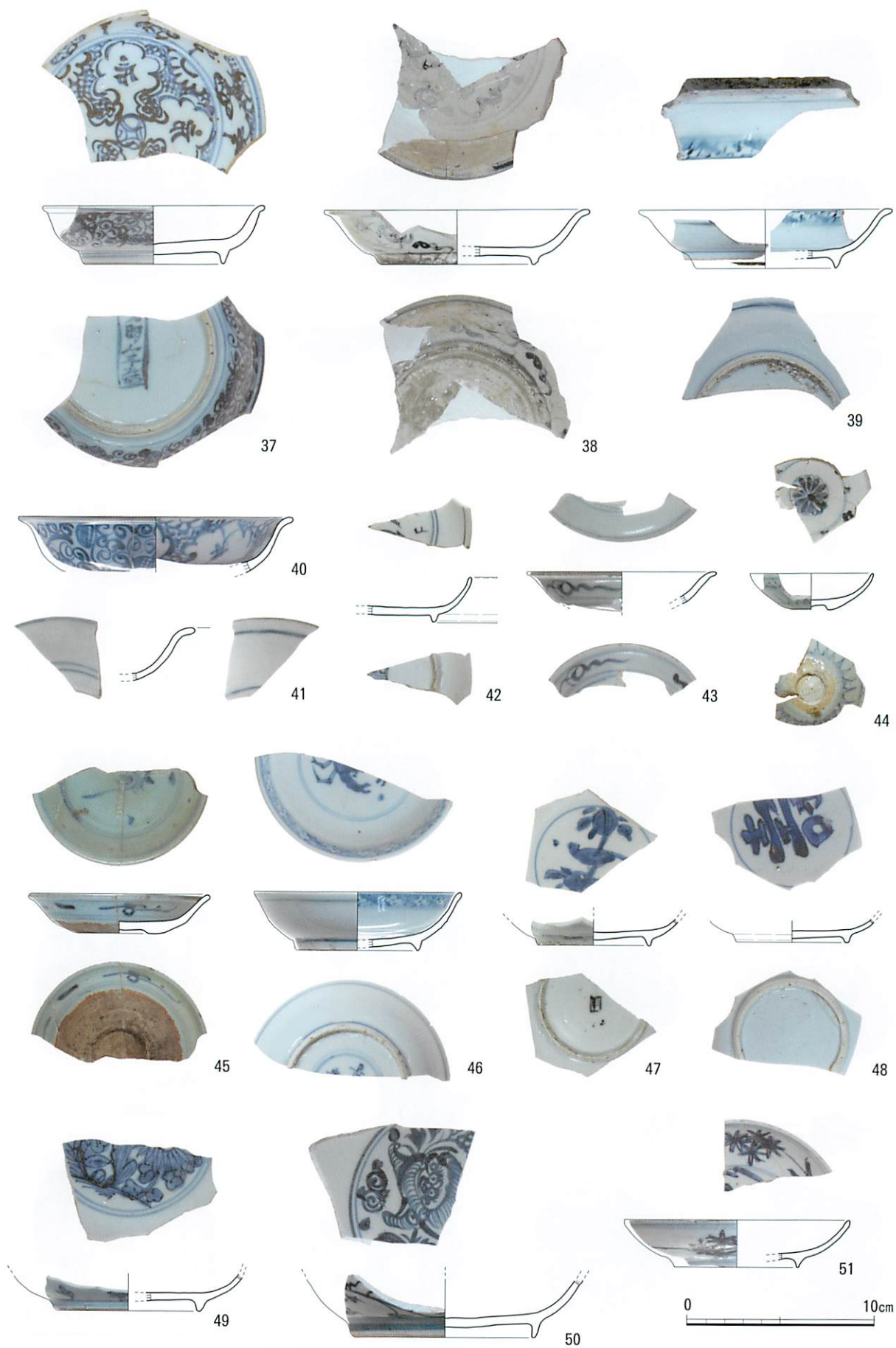


第161図 包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3)





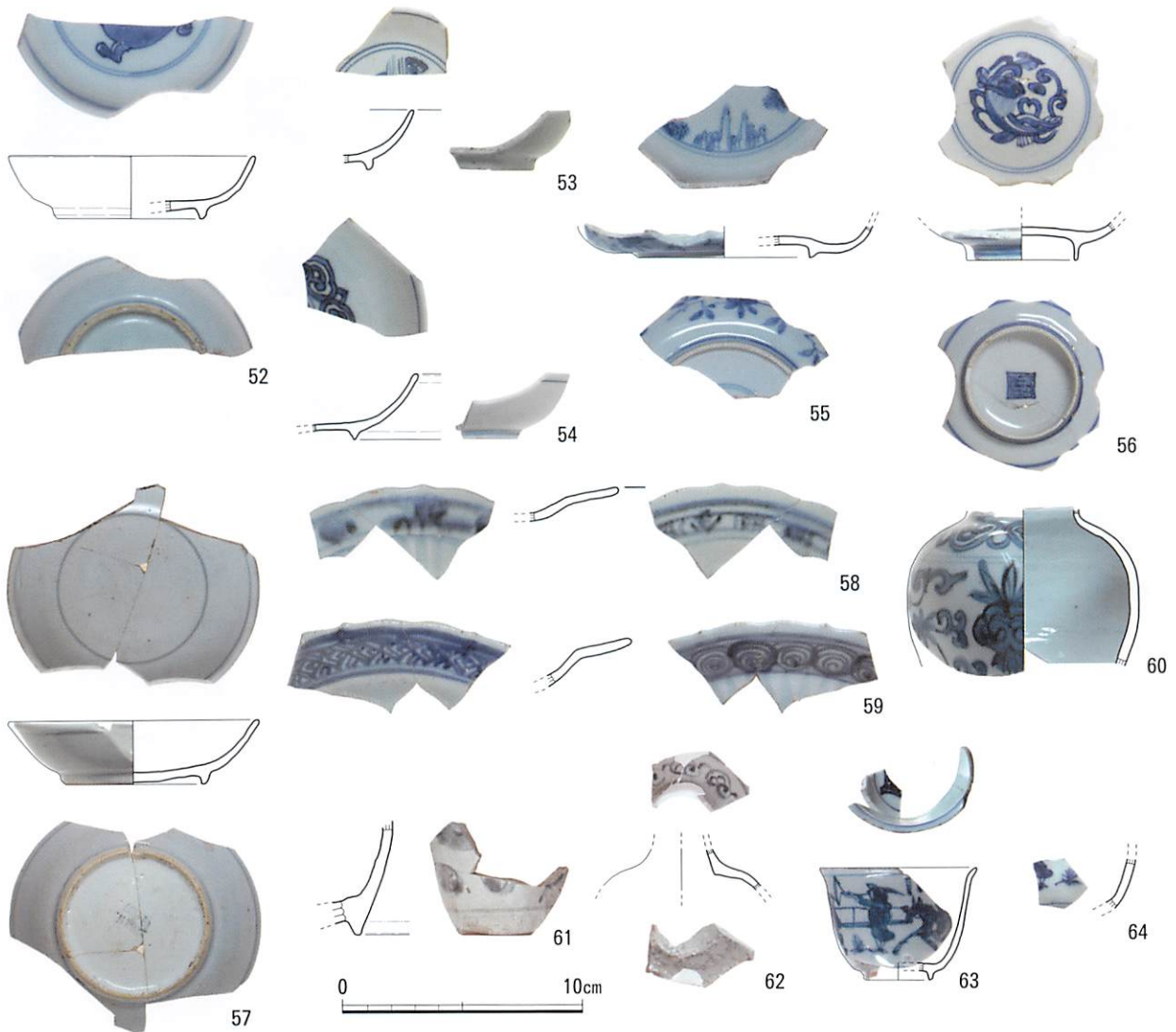
第162図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



第163図 包含層・整地層出土遺物実測図③ (1/3)

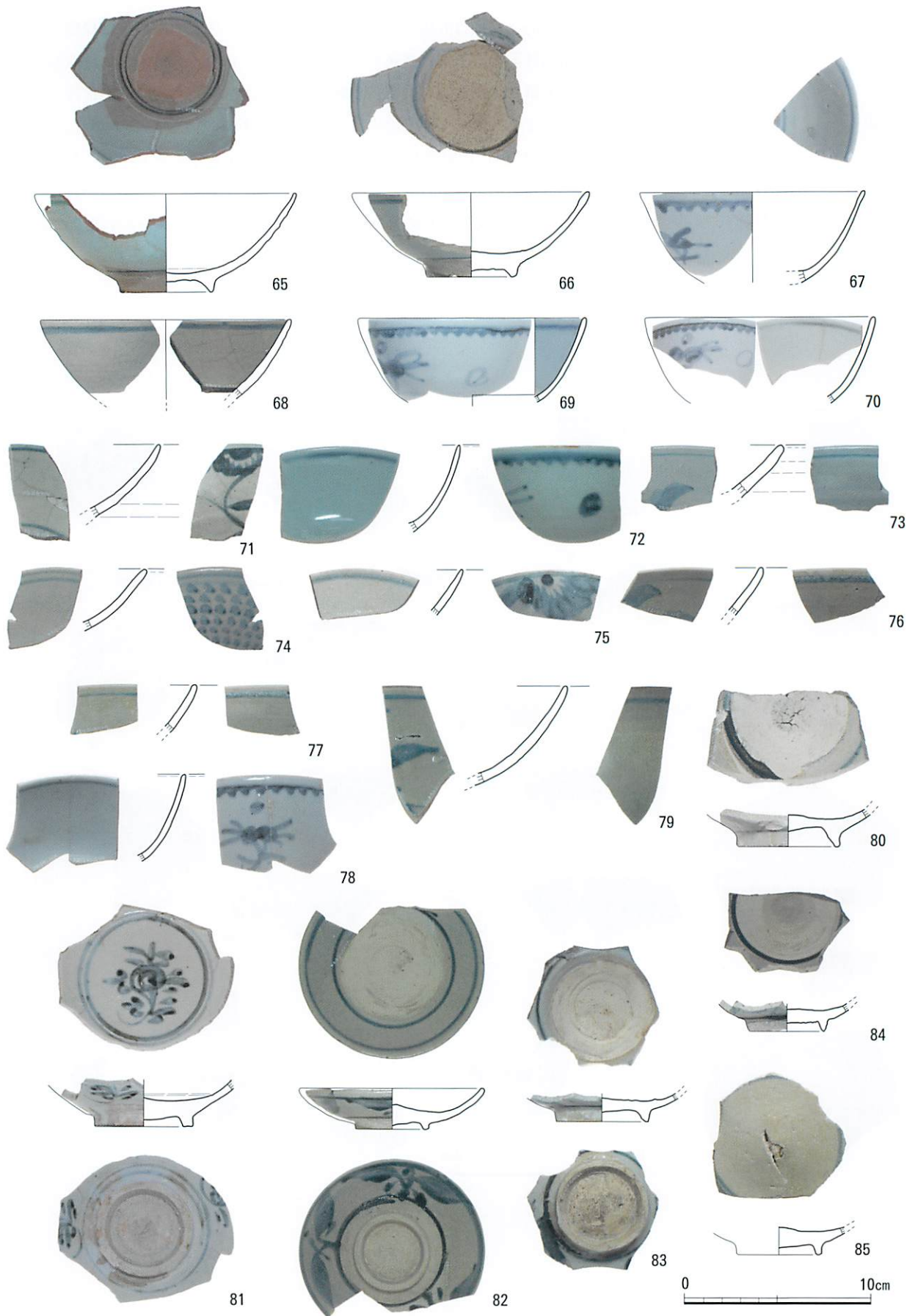
呉須  
梵字

様は詳細不明であるが、胴部外面の文様は鹿等の動物が描かれている。高台内の四角に枠取りされた字款は判読しがたいが「富貴佳器」か。36は見込みに花文を描き、高台内には四角に枠取りされた「精製」銘を描く。26は皿E群に比定される大皿の口縁部破片で、内外面に青花の上に赤と緑の呉須による草花文が施される。27は小坏の口縁部破片である。胴部外面に人物が描かれる。第163図には青花皿を図示した。37はB2群に比定される資料である。見込み部分に梵字が描かれる。胴部外面には唐草文、高台内には長方形に縁取りされた中に1行で「大明年造」の銘が描かれる。38はB1群に比定される資料である。焼成不良で文様がはっきりしないが、花樹が描かれている。39

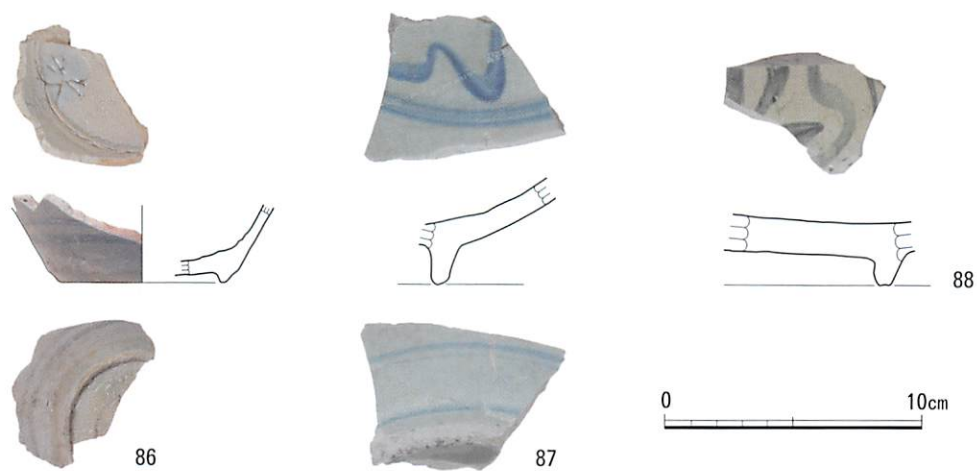


第164図 包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/3)

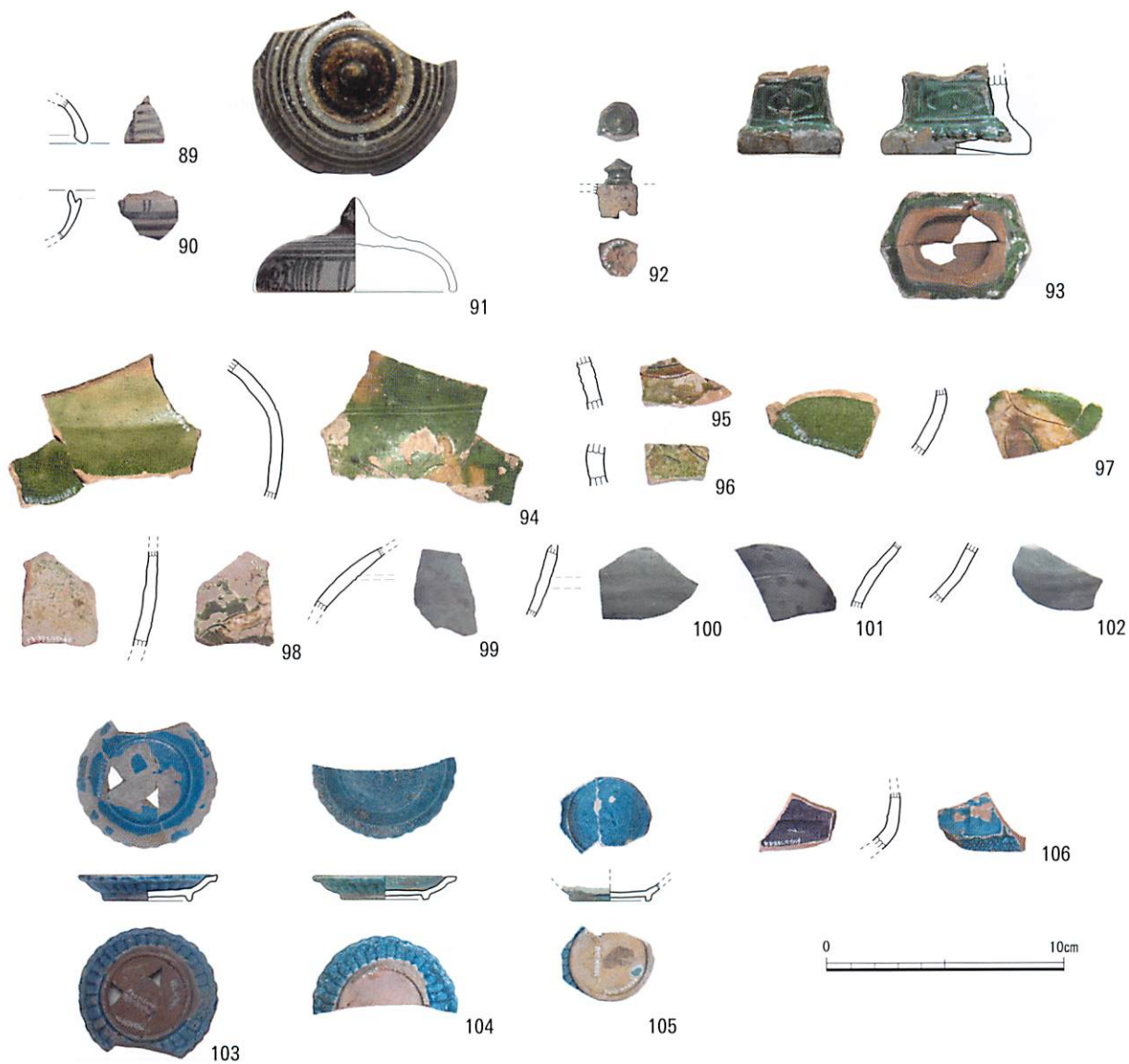




第165図 包含層・整地層出土遺物実測図⑤ (1/3)



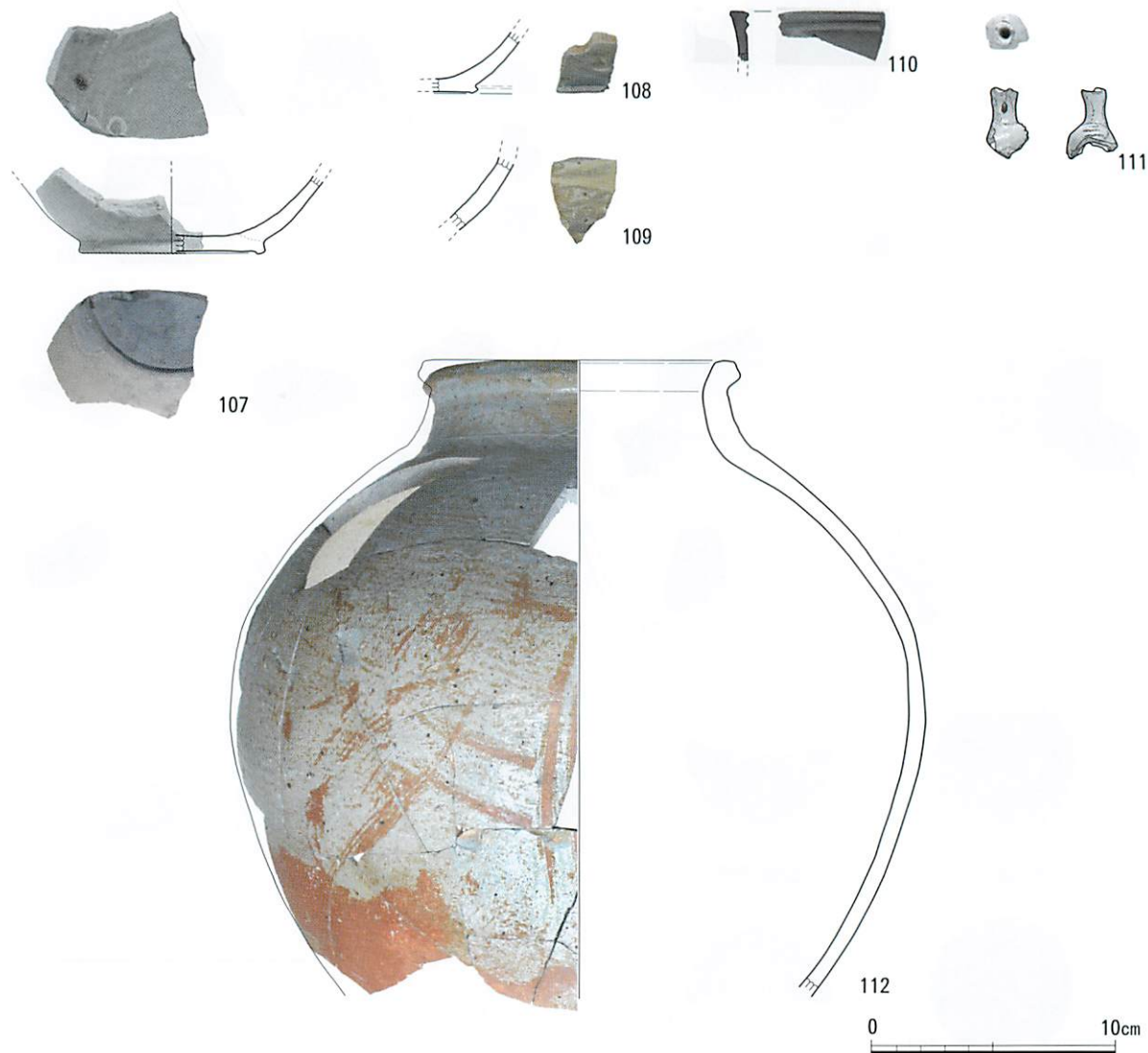
第166図 包含層・整地層出土遺物実測図⑥ (1/3)



第167図 包含層・整地層出土遺物実測図⑦ (1/3)

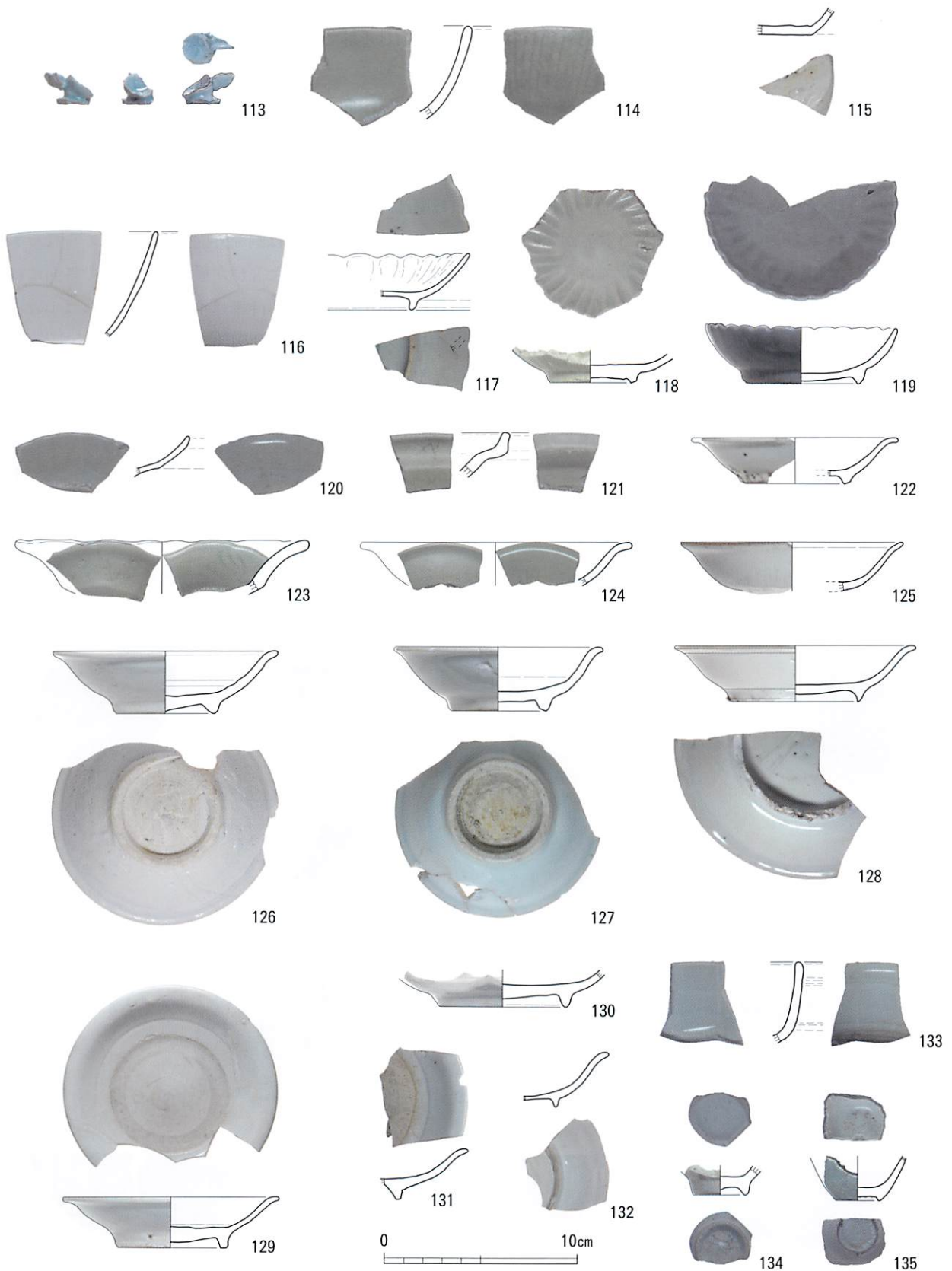
碁笥底

は見込み部分に「貴」字が認められることから、B2群に比定される。40は胴部外面に渦状の密な唐草が描かれ、内面にも文様が認められる。口縁部が端反りとなり、B群に比定される資料である。41もB群に比定される資料である。42はE群に比定される資料で見込みに文様が認められ、高台には枠取りした銘が認められる。欠損のため判読できない。43は底部がいわゆる「碁笥底」となるものでC群に比定される資料である。ともに底部外面は露胎となる。44は見込みに菊花文、胴部には芭蕉葉文が描かれる。45は胴部外面に唐草文を描く。46はB2群に比定される資料で、見込みに蟹文が描かれ、高台には「長」「貴」の銘が認められる。47～51はE群に比定される資料である。47は見込みに花樹文を描き、高台内には四角の枠取りをした銘が認められるが、判読不明である。48は見込みに「壽」の銘を描く。49は見込みに花文が描かれ、高台畳付きは露胎となる。50の見込みの文様は獅子である。51は内外面に文様が認められる。第164図52～55は皿E群に比定される資料である。いずれも破片のため文様は不明である。55は焼成の際に腰部が沈んだものであろう。56はE群に比定される碗の底部破片である。見込みの文様は団龍文、高台内には四角で枠取りした銘が描かれる。字が崩れて判読が難しいが「富器佳器」か。57はE群に比定される青花皿である。内外面には圏線が口縁部と底部に施されるが、胴部は無文である。高台内には「福」字が描かれる。58・



第168図 包含層・整地層出土遺物実測図⑧ (1/3)





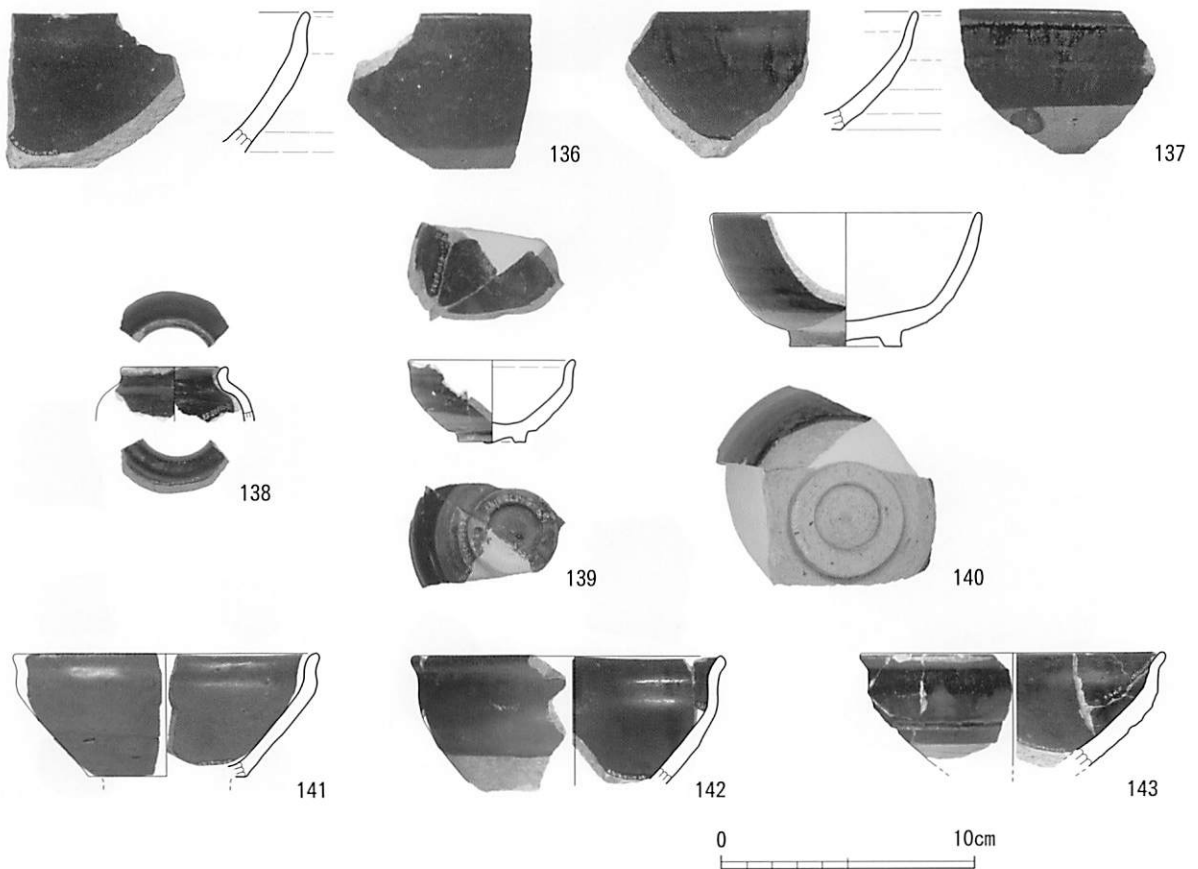
第169図 包含層・整地層出土遺物実測図⑨ (1/3)

第2節 遺構と遺物

小壺・瓶 59はF群に比定される皿の口縁部破片である。いずれも口縁部内外面に文様が認められる。58は内  
小坏 面に蓮弁、59は外面に蓮弁が表現される。60は小壺である。61・62は瓶である。61は被熱している。  
笛を吹く人 62は古相を呈するもので15世紀代の所産か。63・64は小坏である。63の外面には笛を吹く人物が描  
かれている。

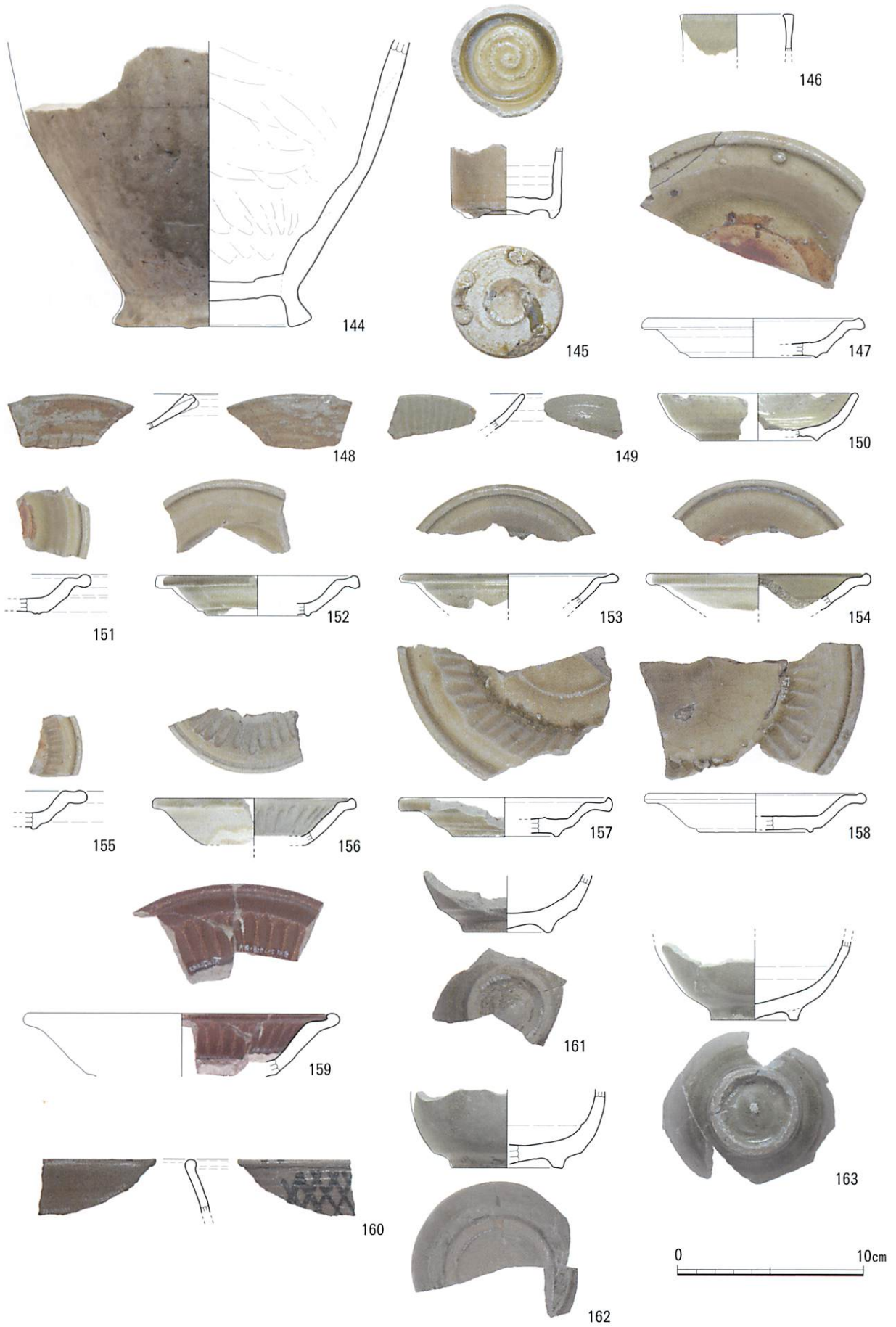
第165～166図には中国漳州窯系青花を提示した。第165図65～81は碗である。65・66は口縁部と  
底部に圈線が施され、胴部は無文である。底部内外面は露胎となる。67は胴部外面に文様が認めら  
れるが詳細は不明である。68は口縁部破片で、圈線が認められる。69は胴部外面に○文と花文が描  
かれる。70の文様構成は69と同様である。71は胴部外面に花文が描かれる。72の文様構成は基本的  
に68・69と同様と推定されるが、○文が塗りつぶされている。73は胴部外面に文様が認められるが  
小破片のため詳細は不明である。74は胴部外面に筆による連続した文様が施される。75の外面には  
花文が認められる。76の内面には文様が認められるが小破片のため詳細は不明である。77は小破片  
のため文様の詳細は不明である。78は胴部外面に花文が描かれる。79の内面には文様が認められる。  
80・81は底部破片である。80の底部内外面は露胎となる。胴部には文様が認められる。81は見込み  
に花文が描かれ、高台部分は露胎となる。82～85は皿である。82は胴部外面の3箇所に二葉の文様  
が描かれ、底部内画面は露胎となる。83・84の胴部外面には文様が認められ、底部内外面は露胎と  
なる。85は高台部分が露胎となる。第166図86は瓶の底部破片である。復元底径は6.4cmで、胴部下  
半には二重の圈線が施される。87・88は盤の底部破片である。いずれも内面に文様が認められ、高  
台畳付きには砂が付着する。

タイ宋胡録 第167図89～91はタイ産陶器合子で、いわゆる「宋胡録」といわれ、シーサッチャナライ窯跡で  
宝珠形 生産された製品である。89・91は蓋、90は身である。91は口径8.5cm、器高4.0cmを測り、宝珠形の



第170図 包含層・整地層出土遺物実測図⑩ (1/3)





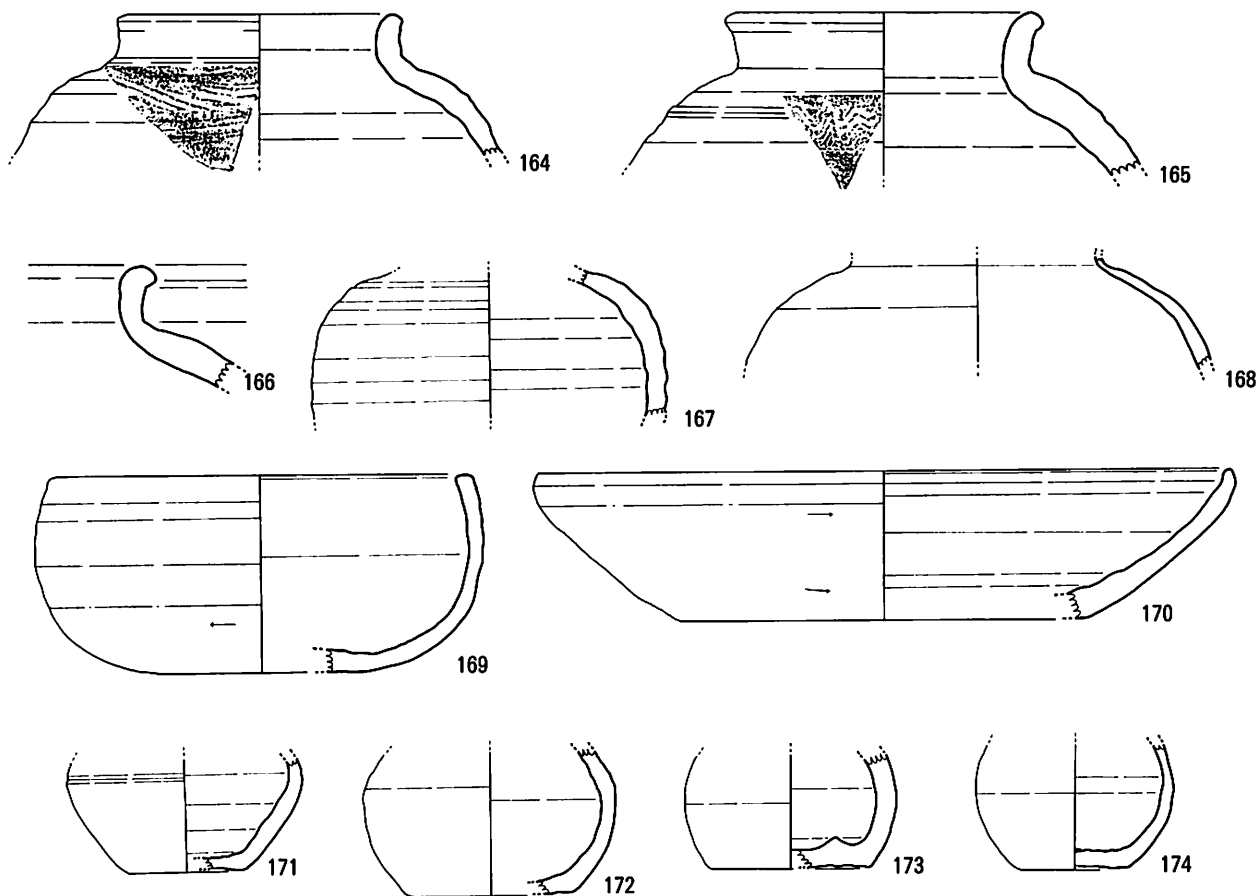
第171図 包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3)

第2節 遺構と遺物

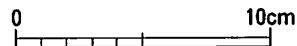
つまみが付く。92～102は華南三彩である。92は蓋のつまみ部分の破片で、鳥形水注などの蓋の可能性が高い。93は水差し等の脚部で、底部は六角形を呈する。94～102は壺の胴部破片である。刻花による花文が施される。103～105は翡翠釉小皿である。いずれも青釉が掛かり、胴部には蓮弁が表現される。底部は露胎となる。106は翡翠釉の合子である。外面は青釉が掛かり、内面には鉄釉が施されている。第168図107～109にはベトナム産白磁碗を図示している。107の見込み部分には目跡が認められ、高台内は露胎となる。ベトナム北部で生産された可能性が高い。110はベトナム産焼締陶器長胴壺の口縁部破片である。口縁部外面には二本の沈線が施され、突帯状を呈する。色調は青灰褐色を呈する。111は水滴の口縁部破片である。時期・産地は不明である。近世の生産か。112は壺である。胴部外面中位には布等で一部釉を拭き取った跡が認められるが、意図的なものかは不明である。産地は不明である。第169図113は青白磁の製品である。梅花を象ったもので装飾品等の一部と推定されるが、器種は不明である。114は青磁碗の口縁部破片である。外面には細線による蓮弁文が施される。115～135は白磁である。115は皿の底部破片である。口縁部が口禿となるものと推定される。横田・森田編年のIV類に比定される資料で13～14世紀の所産である。116は碗の口縁部破片である。117～119は菊花皿である。117の高台畳付きは露胎となり、高台内には青花による文様が認められる。国産の可能性が高い。118は底部外面が露胎となる。119の高台畳付きは露胎となり、高台内には砂が付着する。120は小皿か。121は口縁部が屈曲する盤の破片である。123は稜花皿で、内面に刻花による花文が認められる。

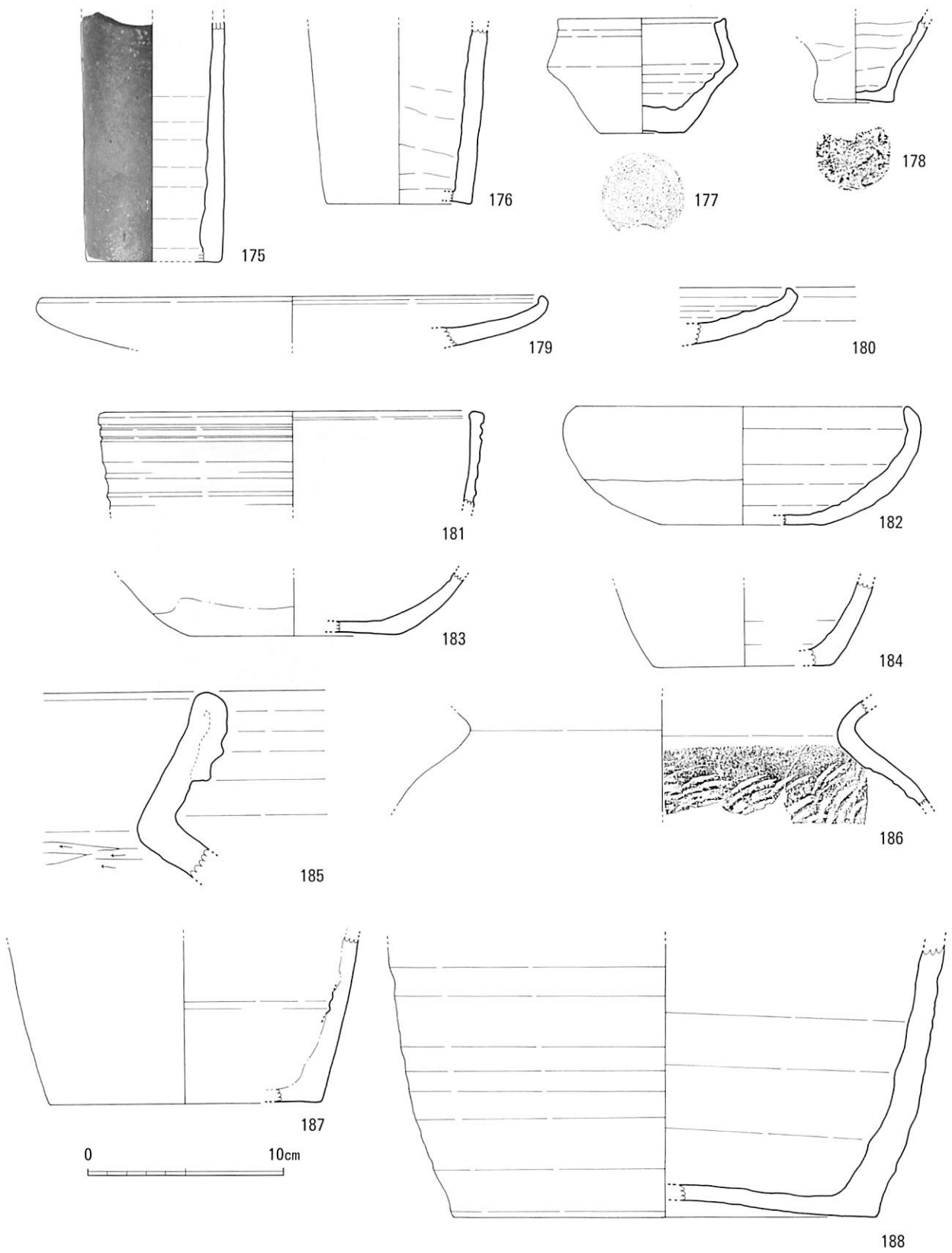
122・124～132は口縁部が端反りとなる皿である。122・130・132の高台畳付きは露胎となる。

126・127の底部外面は露胎となる。128の高台畳付きは露胎となり、砂が付着する。129は見込み部分は蛇の目釉剥ぎとなり、底部外面は露胎となる。131は見込み部分に段をもち、底部内外面は

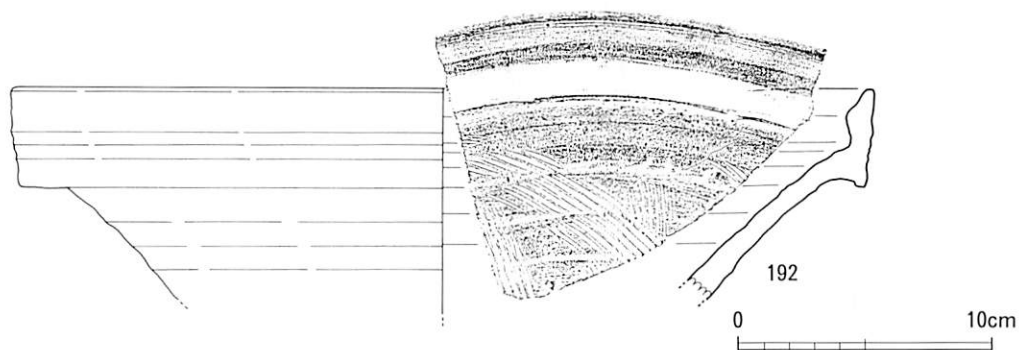
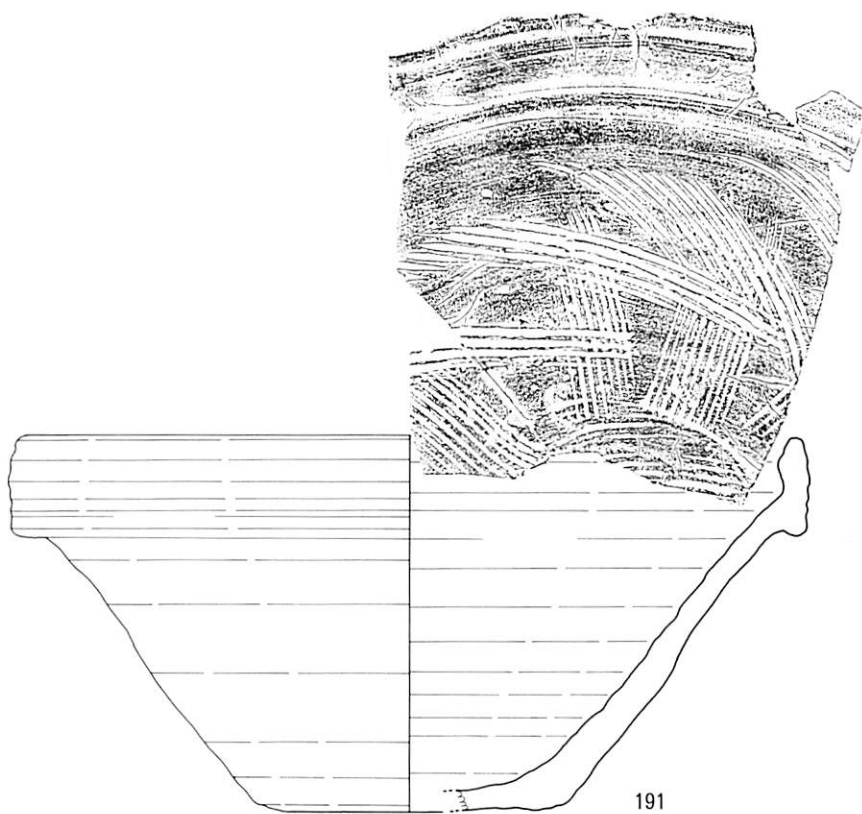
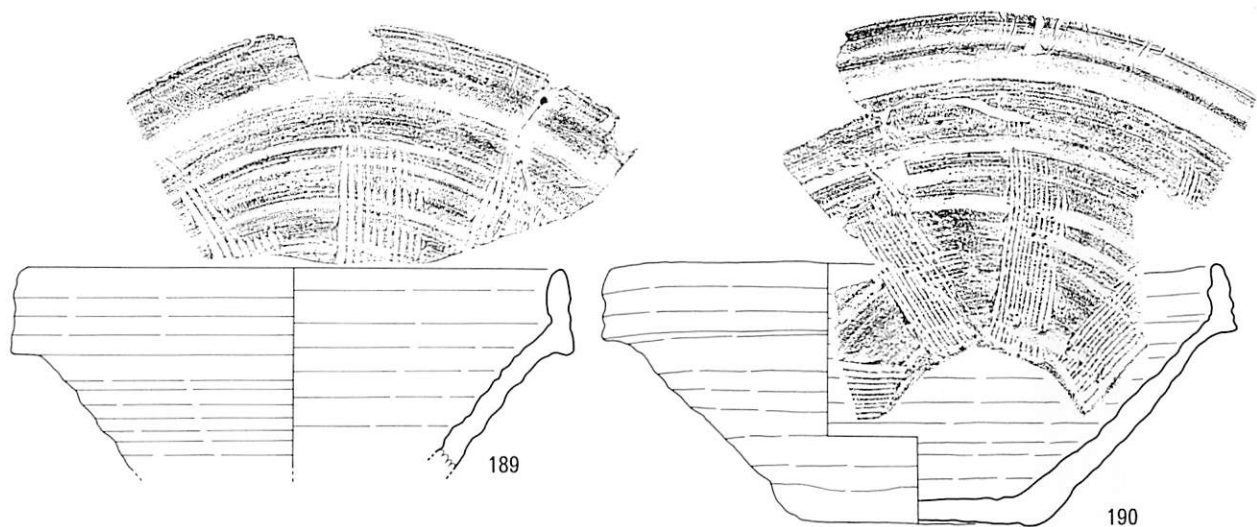


第172図 包含層・整地層出土遺物実測図⑫ (1/3)

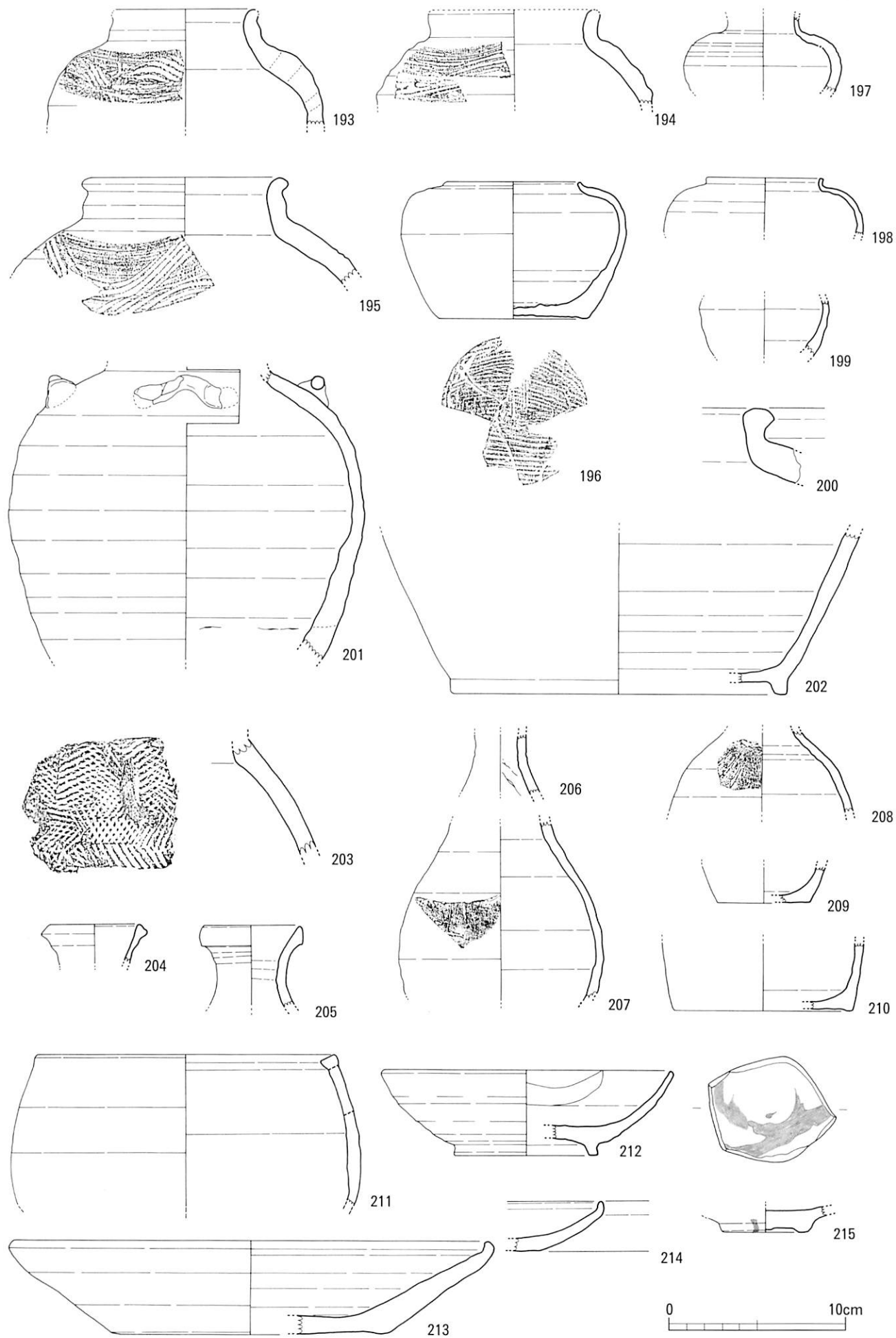




第173図 包含層・整地層出土遺物実測図⑬ (1/3)



第174図 包含層・整地層出土遺物実測図⑭ (1/3)



第175図 包含層・整地層出土遺物実測図⑮ (1/1)

## 第2節 遺構と遺物

露胎となる。133～135は小坏である。第170図136・137・139～143は瀬戸美濃系陶器天目碗である。139は小型のものである。138は瀬戸美濃系陶器茶入れである。瀬戸美濃系茶入れは他に第12次調査区でも出土例がある。第171図144は古瀬戸の瓶子である。外面に灰釉が掛かり、内面と外底部は露胎となる。145～159は瀬戸美濃系陶器である。145は香炉で、内外面に緑色を呈する灰釉が掛かる。3箇所に脚を持つ。146は内外面に灰釉が掛かる。香炉か。147は折縁皿である。内外面に灰釉が掛かり、底部内外面は露胎となる。148は卸皿である。149は丸皿で体部内面に丸ノミ状工具によるソギが入る。150は丸皿である。高台は低く、断面形状が逆三角形を呈する。151～155は折縁皿である。156～159は折縁ソギ皿である。151～158は内外面に緑色を呈する灰釉が掛かる。156は被熱している。159は内外面に鉄釉が掛かり、茶褐色系の色調を呈する。160は肥前(唐津)系陶器鉢で、外面及び口縁端部上面に鉄絵による文様を描く。161～163は土杯釉と呼ばれる深緑色の釉が掛かる肥前(唐津)系陶器碗である。161の外底部は露胎となり高台内部には砂が付着する。162は外底部が露胎となり、163は高台付きが露胎となるものである。第172～174図には備前系焼締陶器を提示した。第172図164～168は壺である。164・165の肩部には櫛描き波状文が施される。169は深鉢である。170は盤である。171～174は小壺もしくは瓶の底部破片である。171は胴部中に沈線が施される。173図175・176は備前系陶器掛花入れである。177は小鉢で胴部が「く」字状に屈曲し、口縁端部上面は斜めに面取りされている。底部には糸切り痕が残り、ヘラ記号が認められる。178は壺の底部か。底部には糸切り痕が残る。179・180は皿もしくは盤の口縁部破片である。上方に屈曲する口縁部を持つ。181は鉢の口縁部破片である。口縁部外面下に二条の沈線が施され、胴部にはロクロ目が認められる。中国南部～東南アジア産の可能性も否定できない。182・183は浅鉢である。184は鉢の底部破片である。185・186は大甕である。185は中世6期に比定される。186は須恵器である。内面には同心円状当具痕が残る。187・188は甕の底部破片である。第174図には備前系陶器播鉢を図示した。189・190は中世6期に比定される資料である。191・192は放射状の播目に加え、ナメ播目が施されており、近世1期に比定される。第175図193～202は備前系陶器壺である。193～195の肩部には櫛描き波状文が施される。196の底部にはカキ目状の調整が施されている。197～199は小型のものである。201の肩部には横方向の耳が貼り付けられている。四耳壺か。202は底部の破片である。203は東播系焼締陶器の胴部破片である。外面に矢羽根状の並行タタキが施される。204～208は備前系陶器瓶である。204・205は口縁部破片である。206・208の肩部にはヘラ記号が認められる。209・210は底部破片である。211は片口鉢の口縁部破片である。212は焼締陶器碗で、外面にミガキ調整、内面にナデ調整が施される。産地は不明であるが備前系陶器の可能性も考えられる。213・214は備前陶器鉢である。215は肥前(唐津)系陶器皿の底部破片である。見込み部分に鉄釉による文様が施される。

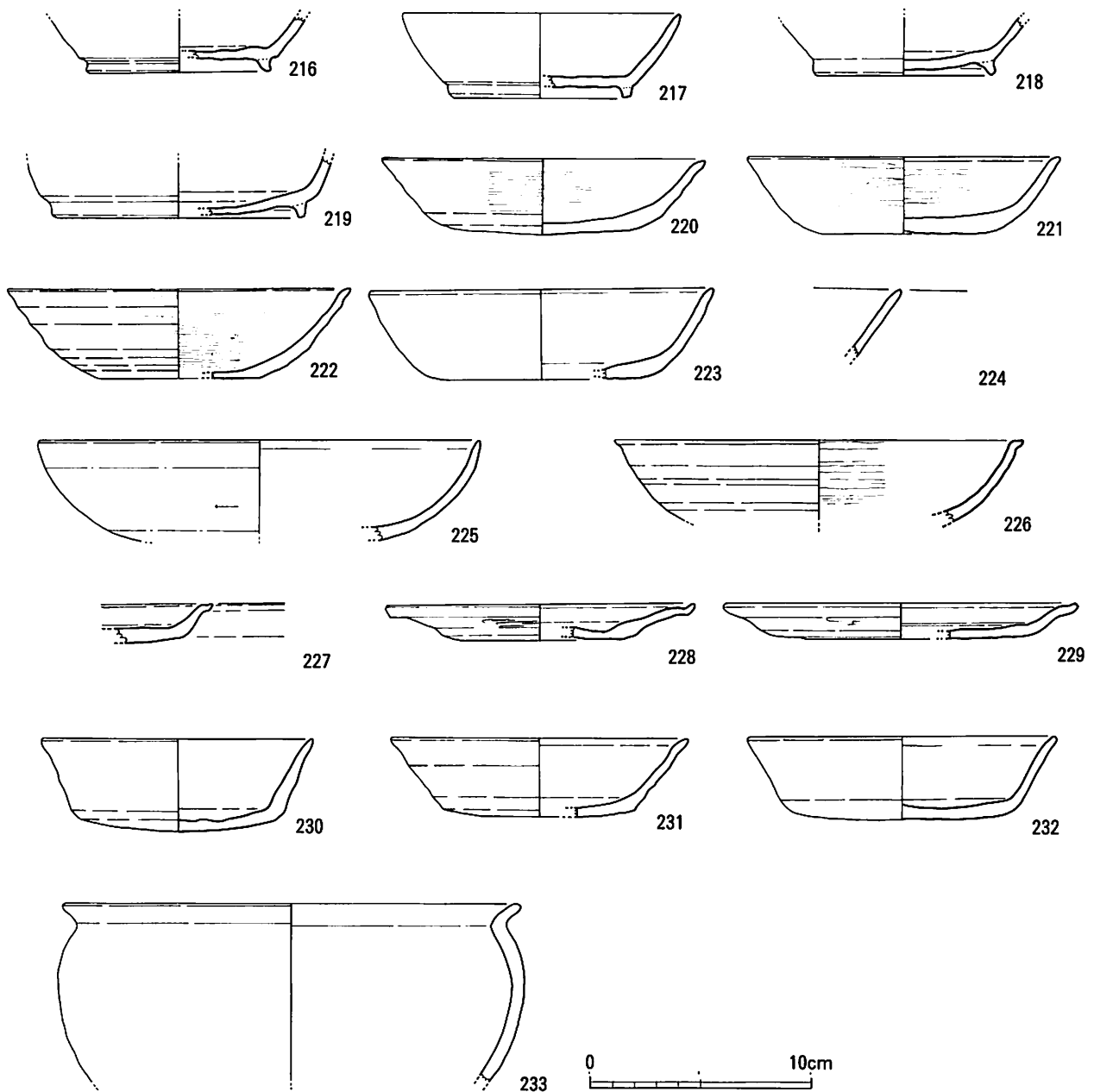
### 土師質土器・瓦質土器(第176～180図)

8世紀代 第176図は土師器・須恵器の坏・皿等で8～9世紀代の遺物である。当調査区では、8世紀前半の井戸(SE176)が確認されたことから、周囲には同時代前後の遺構が存在した可能性が高い。216・217は須恵器、218・219は土師器の高台付きの坏で、高台を底部外方向に付けている。いずれも内外面とも回転ナデを施している。高台は貼り付けである。220～222は土師器坏で内外面とも丁寧な磨きを施している。底部はヘラ切りである。223・224も土師器坏で内外面ともナデ仕上げを行っている。225・226は土師器碗の口縁部破片で、225は復元口径20cm、外面はヘラ削りの後ナデ仕上げを行っている。226は復元口径18.5cm、内面は丁寧な磨き仕上げを行っている。口縁部は外方に屈曲する。外面下部はヘラ削りである。227～229は土師器皿の破片である。大きく開く体部から口縁部は外反し、口縁端部は上方にやや屈曲する。外面はヘラ磨きを行っている。盤の可能性もある。

230～232は土師器坏で、内外面ともナデ仕上げで、底部はヘラ切りである。233は壺の破片である。9世紀代 内外面ともナデ調整を行っている。遺物の時期は、216～229は8世紀前半代に、230～233は9世紀代に比定されるであろう。

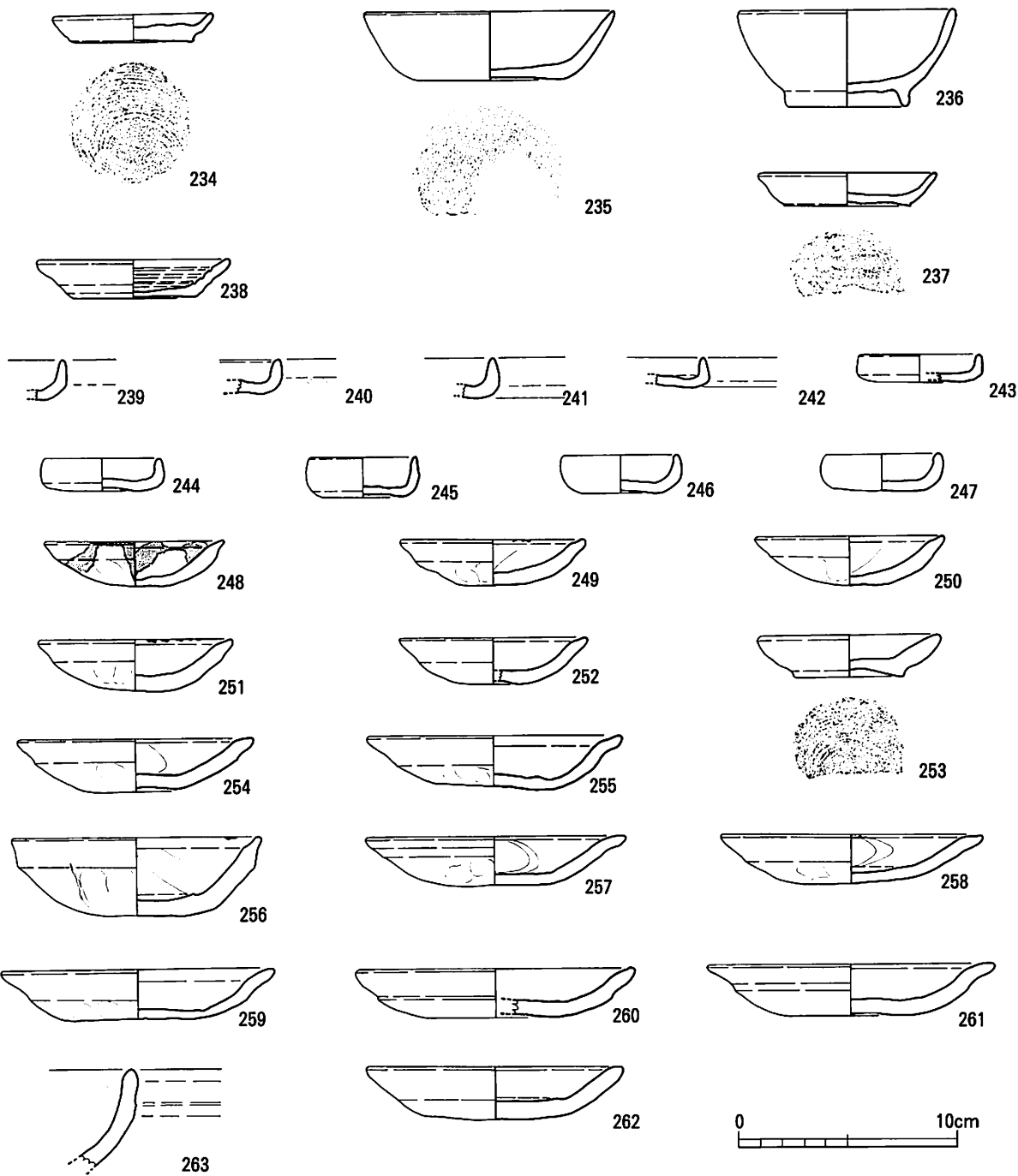
第177図には土師質土器・瓦質土器を図示した。234・235・237・238は在地系土師質土器皿である。234は小皿で、底部は糸切りである。235は坏で、底部から口縁部に向けて直向気味に立ち上がる。底部は糸切りである。236は瓦質土器碗で、内面に布目痕が残る。237の底部は糸切りである。238は内面に強いロクロ目が残る。239～247は径5cm程の小皿で、胎土は京都系土師器と同じ浅黄色系の色調を呈する。焼塩壺の蓋とも考えられるが、盛塩等の小皿に転用したものか。248～252・254～263は京都系土師器である。256・263は坏で、その他は皿である。皿の口径に注目すると、8～9cm、9～13cm、13cm以上の三法量に分類される。248・249・251・256・258の内面口縁端部にはススが付着しており、灯明皿として使用していたと考えられる。特に248は内外面とも多量のス

灯明皿

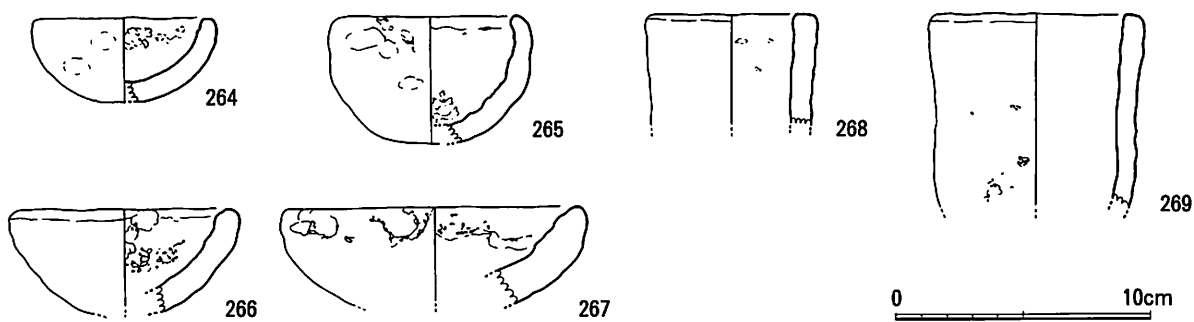


第176図 包含層・整地層出土遺物実測図⑩ (1/3)

第2節 遺構と遺物



第177図 包含層・整地層出土遺物実測図⑩ (1/3)



第178図 包含層・整地層出土遺物実測図⑪ (1/3)



スの付着がみられる。いずれも器壁が厚く、3期の特徴を示すが、257～259は器壁がやや薄くなっており、2期の様相を呈する製品である。

埴埴

第178図は埴埴（取瓶）の破片である。264～267は壘形を呈している。268・269は筒形あるいは砲弾形を呈しており、SX150で出土した埴埴と同形態である。内面にはガラス状の物質や青灰色の洞と思われる物質が付着している。

金箔貼り

第179図は土師質土器である。270は底部破片で、器種は不明である。高台は削り出し高台で、造りは天目茶碗に類似するが、胎土・色調・焼成ともに土師器である。内面に黒漆を塗り、金箔を貼り付けている。271は鳥型土製品の胴部で、頭部を欠く。型合わせの製品で、底部中央に穿孔が認められる。近世の初産である。272は鉢と思われる口縁の破片であり、反転による復元である。口縁部外面にスタンプによる蓮華文を施している。273は火鉢口縁部の破片である。口縁外面の突帯間にスタンプによる梅花文を施している。274は耳皿である。胎土は京都系土師器と同じ浅黄色系の色調を呈する。275は土師質の筒型をした土器の底部片であるが、三足を持つ香炉の可能性もある。276は燭台で、赤褐色系の色調を呈し、底部に糸切り痕が認められる。穿孔は貫通しない。277・278は土師質土器を再加工した製品で周辺部に研磨を加え、円形に加工している。277は直径3.2cm、厚さ1.9cmである。278は直径1.9cm、厚さ0.7cmである。遊具として使用された可能性が高いと思われる。279は風炉の口縁部から胴部にかけての破片で、胴部中位には直径5cm程の透かし孔が認められる。黄燈色系の色調を呈し、口縁内面にはカキ目を施している。

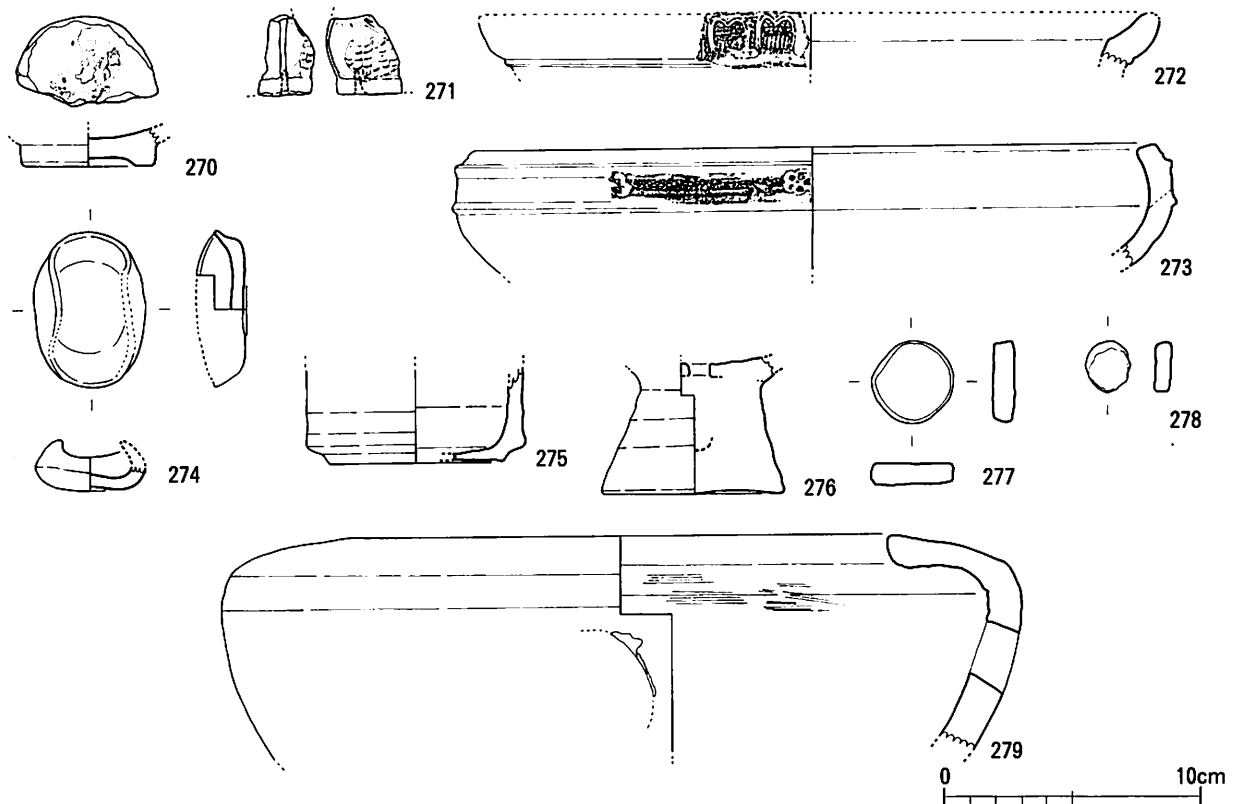
鳥型土製品

香炉

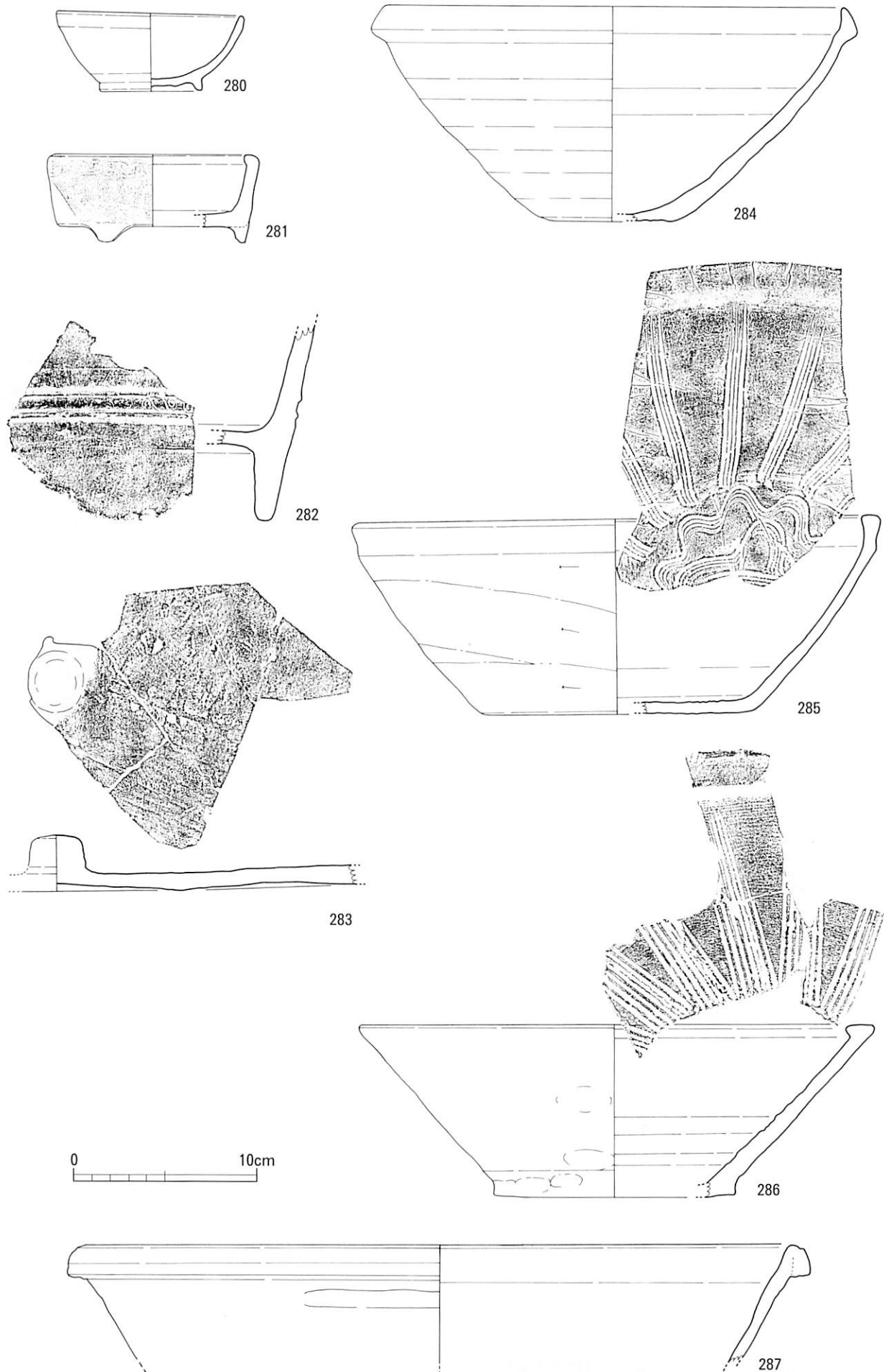
第180図はいずれも瓦質土器である。280は高台付きの壘で口径10.2cm、器高4.4cmである。淡茶灰色の色調を呈し、内面は丁寧なミガキを施し、外面はナデ仕上げを行っている。281は亀山産と思われる三足の香炉で、外面口縁部に双頭蕨手龍雲文の刻印を等間隔に施している。色調は黒褐色を呈している。282は火鉢の底部破片である。胴部下半の突帯の間には2個一単位の双頭蕨手龍雲

亀山産

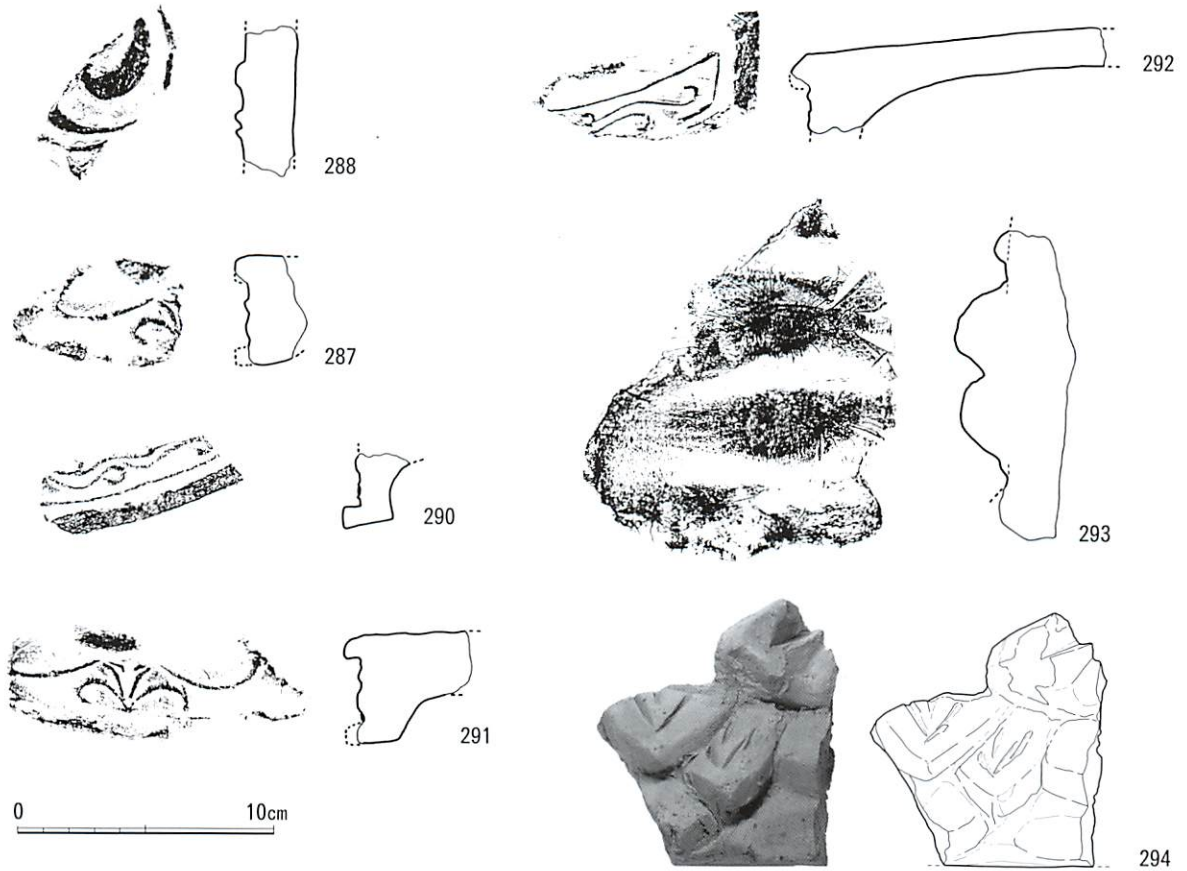
三足の香炉



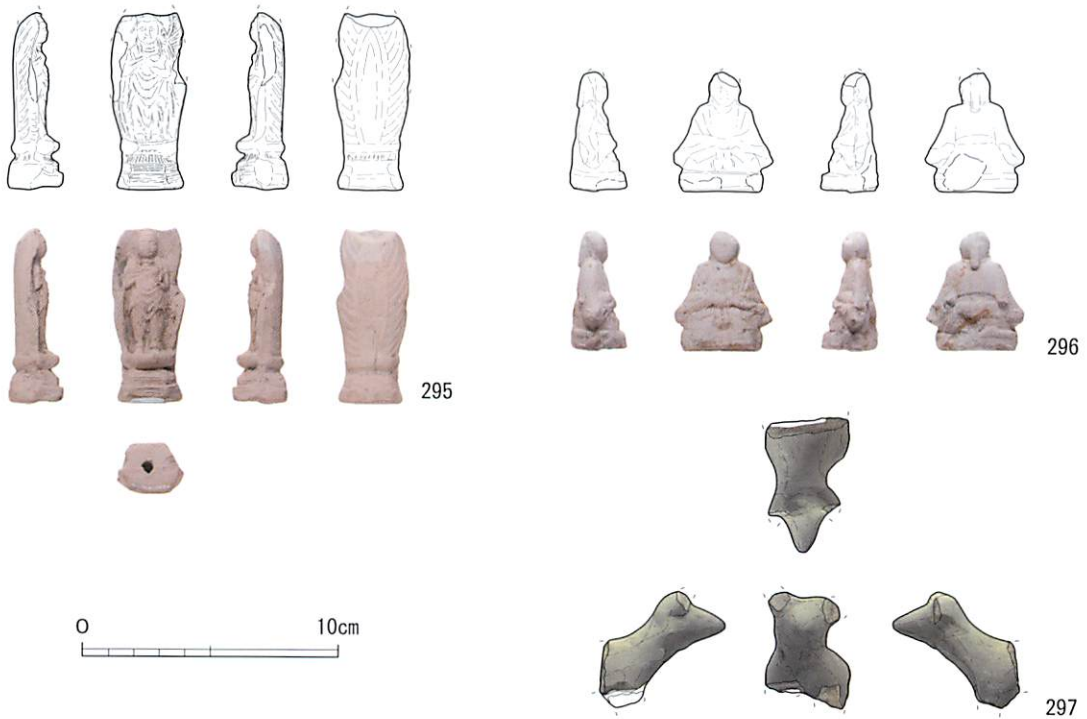
第179図 包含層・整地層出土遺物実測図⑨ (1/3)



第180図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



第181図 包含層・整地層出土遺物実測図㉑ (1/3)



第182図 包含層・整地層出土遺物実測図㉒ (1/3)

文を等間隔に押捺する。底部には逆台形状の脚を貼り付ける。内外面とも丁寧なナデ調整が行われている。整地層内からの出土で16世紀後半代の初産である。283は蓋の破片である。直径3cm、高さ2cm程の円錐形のつまみを貼り付けている。上面は格子目タタキの後、平行タタキを施している。下面はハケ調整を行った後で、ナデ仕上げを行っている。色調は淡灰色を呈している。284は捏ね鉢である。内外面とも丁寧なナデ仕上げを行っている。口縁部には自然釉が掛かっている。285は豊前を中心とする地域で出土する播鉢で、淡灰色を呈する。播目は4本一単位で胴部内面に、見込みには花文状の播目が施されている。口縁は稜をもって上方に立ち上がり、「く」の字形に内反させている。胴部外面は不定方向のヘラ削りが施されている。286も播鉢で、内面には7本一単位の播目を施している。見込みは欠損のため不明である。胴部外面は不定方向のナデが施されている。287は鍋か鉢の口縁の破片であろう。

瓦類 (第181図)

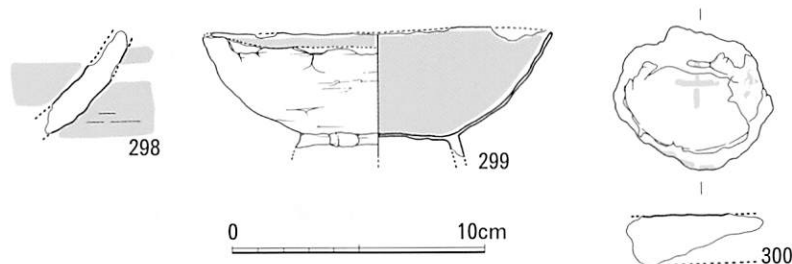
軒丸瓦 第181図288は軒丸瓦の瓦当破片である。左巻きの三ツ巴文で、中央部破片のため、蓮珠文や圏線の有無は不明である。瓦当成形は瓦当上面に丸瓦を貼り付けている。289～292は軒平瓦の瓦当破片  
軒平瓦 である。289と291は同一文様の均正唐草文である。中心飾りに左右対称の二葉の唐草を配置し、そこからさらに左右に唐草文を派生させる。内区には圏線は持たない。瓦当成形は瓦当上面に平瓦を  
均正唐草文 貼り付けている。290・292も同一文様の均正唐草文である。中心飾りは欠損のため不明である。現状では四葉の唐草を派生させる。内区に圏線を持つ。瓦当成形は瓦当上面に平瓦を貼り付けている。  
鬼瓦 瓦当面に離れ砂の痕跡が認められる。293・294は鬼瓦の一部であるが、部位は不明である。

土人形 (第182図)

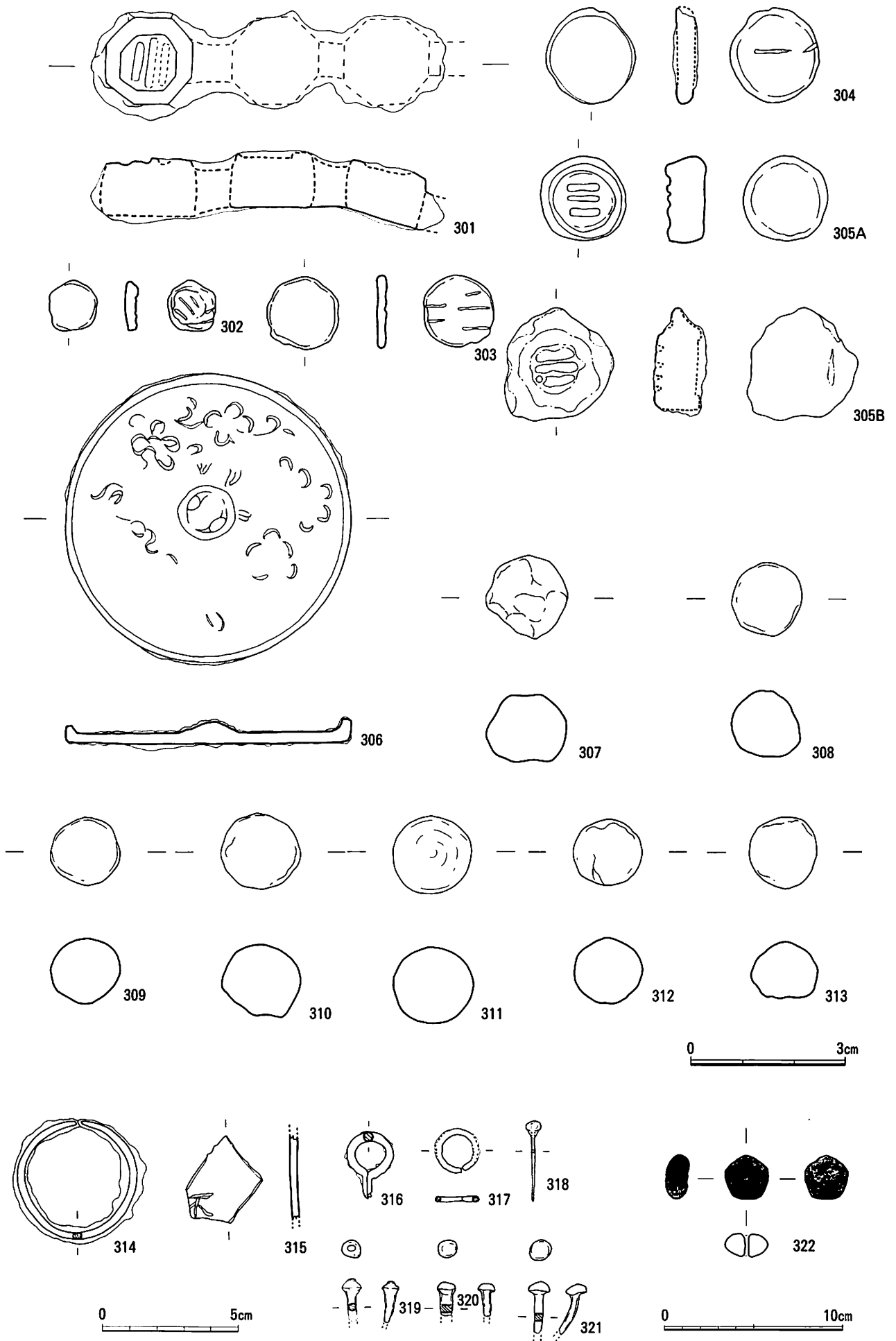
観音菩薩 295は観音菩薩の土製品と思われる。光背の頂部を欠く。型合わせの製品で、底部中央に穿孔が認められる。高さは現存で6.9cmである。調査区上層の攪乱層からの出土であり、近世の初産である  
内裏 296は内裏の土製品と思われる。頭部を欠く。型合わせの製品で、底部中央に穿孔が認められる。高さは現存で4.7cmである。調査区上層の攪乱層からの出土であり、近世の初産である。297は  
犬型土製品 犬型土製品である。手づくねの製品で、耳と胴部を欠く。安産を祈ったものか。

木製品 (第183図)

漆器椀 298は漆器椀の胴部片である。外面は赤漆を施している。内面は黒漆を施し、赤漆で文様を描いているが、残存状態が悪く、文様形態は不明である。299も漆器椀で、口縁部・高台下部を欠く。内外面とも赤漆を施している。木質部がかなり伸縮し、器壁は薄くなっている。300は漆器椀の高台底部である。木質の残りが悪く、漆の皮膜だけの残存である。黒漆の上に赤漆で模様を描いている。「十」字三連  
「十」字三連 文様は「十」の字が確認できる。



第183図 包含層・整地層出土遺物実測図⑳ (1/3)

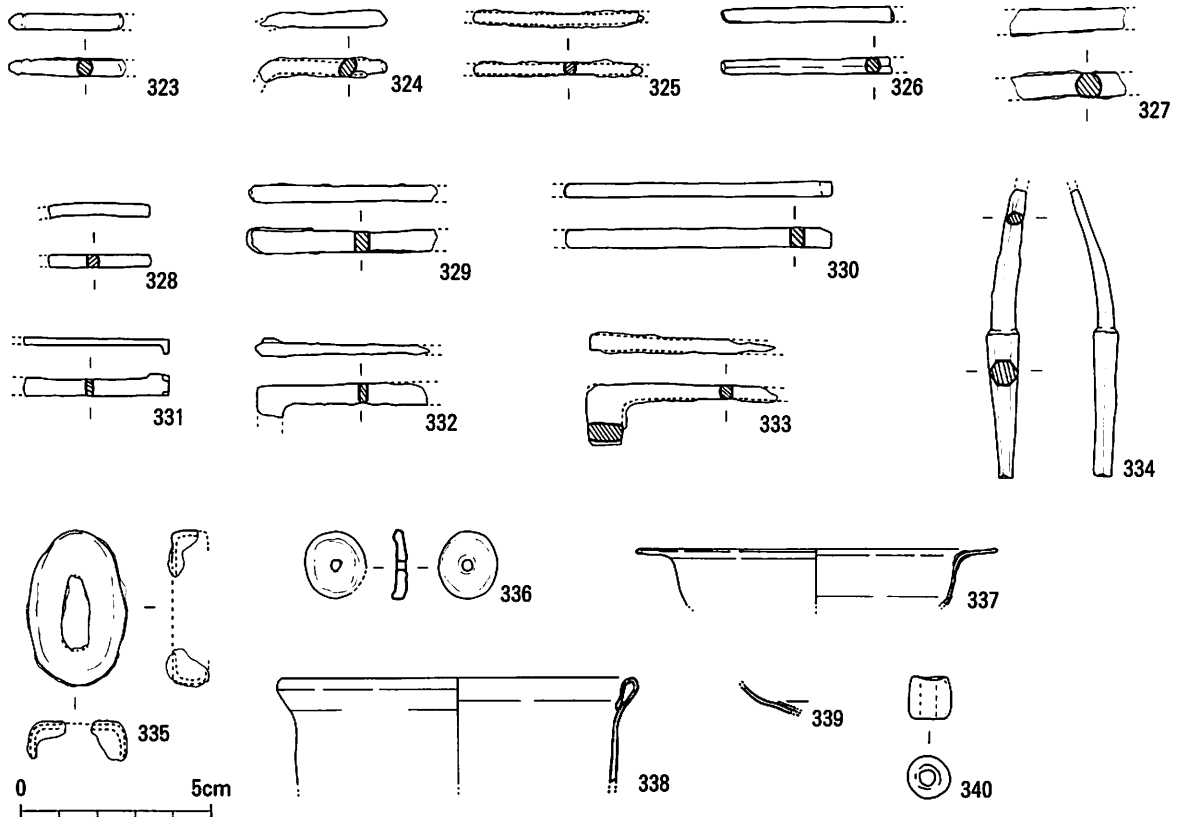


第184图 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/1、1/2、1/3)

第2節 遺構と遺物

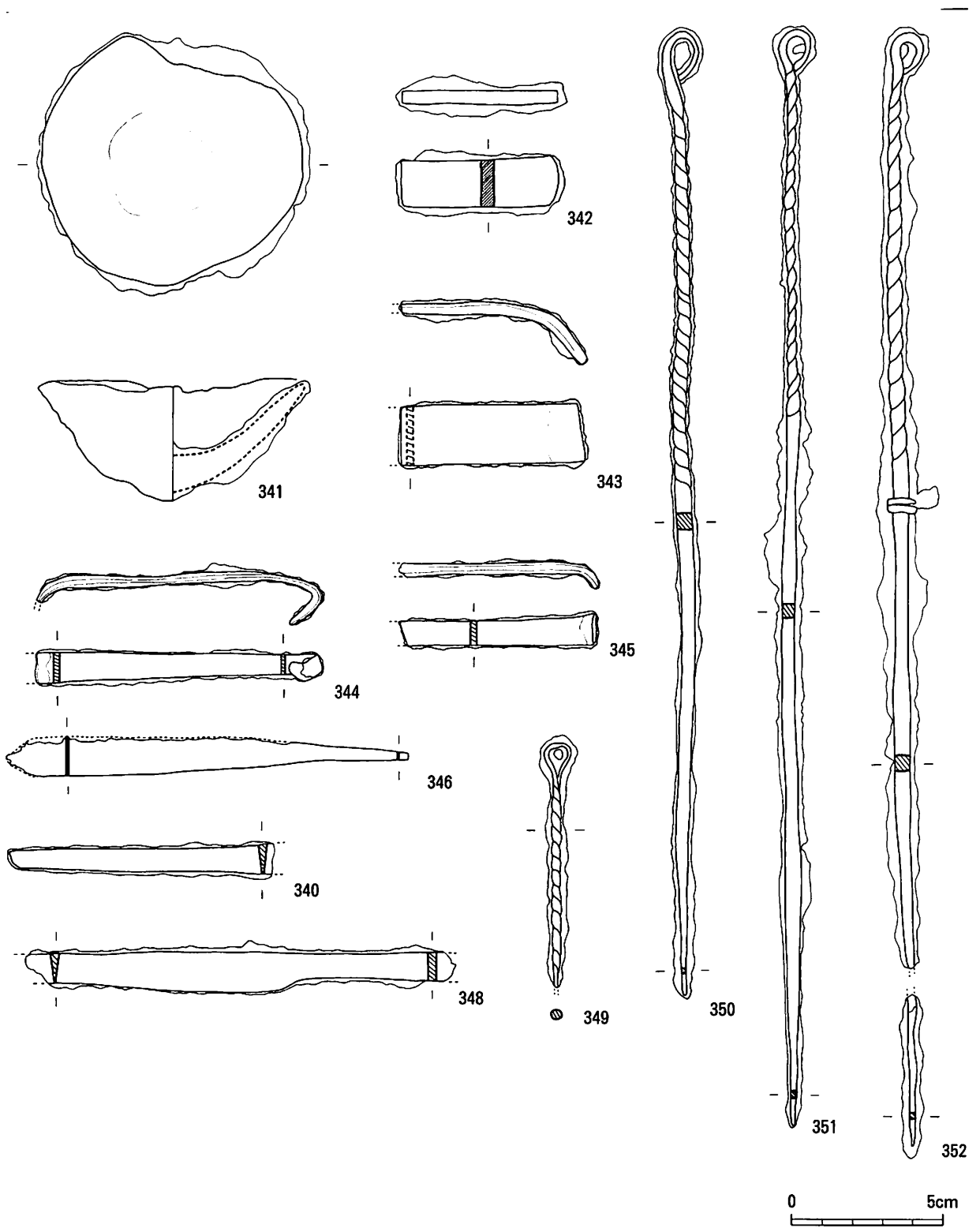
金属製品 (第184~187図)

分銅 第184図は主に銅製品を図示している。301~305は分銅である。301は3連の分銅で八角形をして  
三木文 いる。表面に大友氏の定紋である「三木文(II)」を表現している。まだ未製品で、バリが付いており、  
バリ 鋳型から取り出したままの状態である。さらに片方向が欠損しており、3連以上の可能性もある。  
八角形分銅 出土層は上層の中近世攪乱包含層である。大きさは全長6.7cm、幅1.8~2.0cm、厚さ0.9~1.0cm、重  
量60.1gである。302・303も八角形分銅で、ともに厚さ0.2mmと薄い製品である。302はタガネ彫り  
による5条の記号が認められる。重量は0.2gである。303はタガネ彫りによる5条の記号が認めら  
れる。重量は1.6gである。304・305A・305Bは太鼓型分銅で、304の表面には横「一」紋様が見ら  
れる。重量は5.9g、305A・305Bの表面には「三木文」が認められる。305Aは重量は10.4gである。  
305Bは301と同様に未製品でバリが付いている。重量は16.3gである。当調査区では301の「三木文」  
3連分銅の未製品や坩堝が出土していることや、他の大友関連遺跡調査区では鍛冶工房等の施設も  
確認されていることから、豊後府内では分銅等の製作が行われていたであろう。306は和鏡の完形  
品である。出土位置は上層の中近世攪乱包含層である。縁と鈕の間に花文状の模様を施している。  
鉛玉 大きさは口径5.4cm、厚さ0.2~0.45cm、重量33.3gである。307~313は鉛玉(鉄砲玉)で一部中央に  
型合わせの痕跡が認められる。314は鉄製のリング状で用途不明製品であるが、門や箆筈等の把手  
の可能性もある。断面四角形で径4.8cmである。315は銅製品の破片で板状を呈し、厚さ3mmである。  
「不」の刻印 表面に「不」の刻印が見られる。316は先端リング状の銅製品である。リング部の径は1.7cmで断面  
針 は円形である。317はやはりリング状の銅製品で径1.7mmである。318は針と思われる銅製品である。



第185図 包含層・整地層出土遺物実測図㉔ (1/2)

註 (1) 秦政博「守護大名から戦国大名へ(『大分市史』中 1987年) 228頁



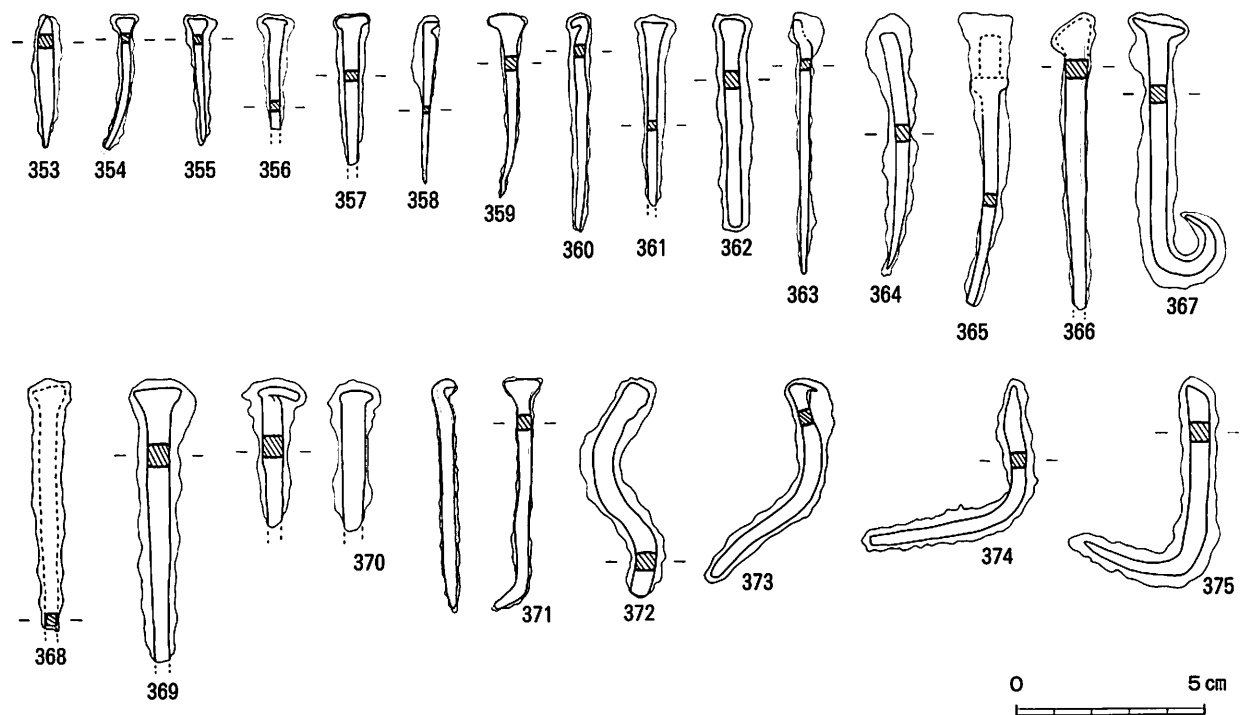
第186図 包含層・整地層出土遺物実測図㉔ (1/2)

第2節 遺構と遺物

梅花状 頭部が丸く径6mm、先端は尖っている。全長は3.05cm、重量0.8gである。319～321は釘状の銅製品で先端部を欠く。頭部は円形を呈する。断面は319が丸く、320・321は方形である。322は梅花状の装飾品である。石製品と思われ、中央を穿孔している。

錠前 第185図323～334は錠前の一部でいずれも銅製品である。断面が丸と方形の2種類がある。334は他の錠前と形態が違い、先端部が細くなる。断面は六角形である。335は銅製品で刀の鐔と思われる。長径4.1cm、短径2.5cmで保存状態は良くない。336はボタン状の銅製品で、中央に孔を持つ。長径1.8cm、短径1.6cm、厚さ0.3cm、重量1.4g、中央の孔径0.2～0.25cmである。337は銅製碗の口縁部破片と思われる。口径9.5cmで重量は5.7gである。338はガラス製品の口縁部破片である。口径9.6cmで、色調は透化性の濃緑色である。口縁部は折り返している。339もガラスの破片で碗の胴部であろう。色調は透化性の淡紫色である。外面に白色の釉薬で紋様を描いている。340はガラス玉で、高さ1.0cm、幅1.0cm、中央に0.4cmの穿孔を施している。

鉄製の碗 第186図は鉄製品である。341は碗あるいは碗の蓋と思われる。口径8.1～9.0cmで変形している。器高は3.8～4.0cm、重量180.4gである。錆出が著しい。342・343は用途不明の鉄製板状製品である。342は長さ5.3cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm、重量22.0gである。343は長さ6.5cm、幅2.2cm、厚さ0.5cm、重量13.1gである。344・345も用途不明の鉄製品であるが、筭の可能性もある。346は筭で、ほぼ完形である。全長13.4cm、幅0.3～1.3cm、厚さ0.1cm、重量7.4gである。整地層から出土している。347・348は刀子である。347は刃部で、348は刃部先端を欠く。349～352は火箸である。349は先端部の捻り部分である。先端は折り曲げている。断面は円形となる。350は全長32.0cm、幅0.5cmの完形品である。断面は方形となり、先端部は彎曲に折り曲げ、下方を12cm程度23回捻っている。351は全長36.2cm、幅0.5cmの完形品である。断面は方形となり、先端部は彎曲に折り曲げ、下方を12cm程度18回捻っている。352は全長36.2cm、幅0.5cmで、下方が折れ2点となっているが、同一箇所からの出土のため、同一製品と思われる。断面は方形となり、先端部は彎曲に折り曲げ、下方を12cm程度16回捻っている。



第187図 包含層・整地層出土遺物実測図㉗ (1/2)

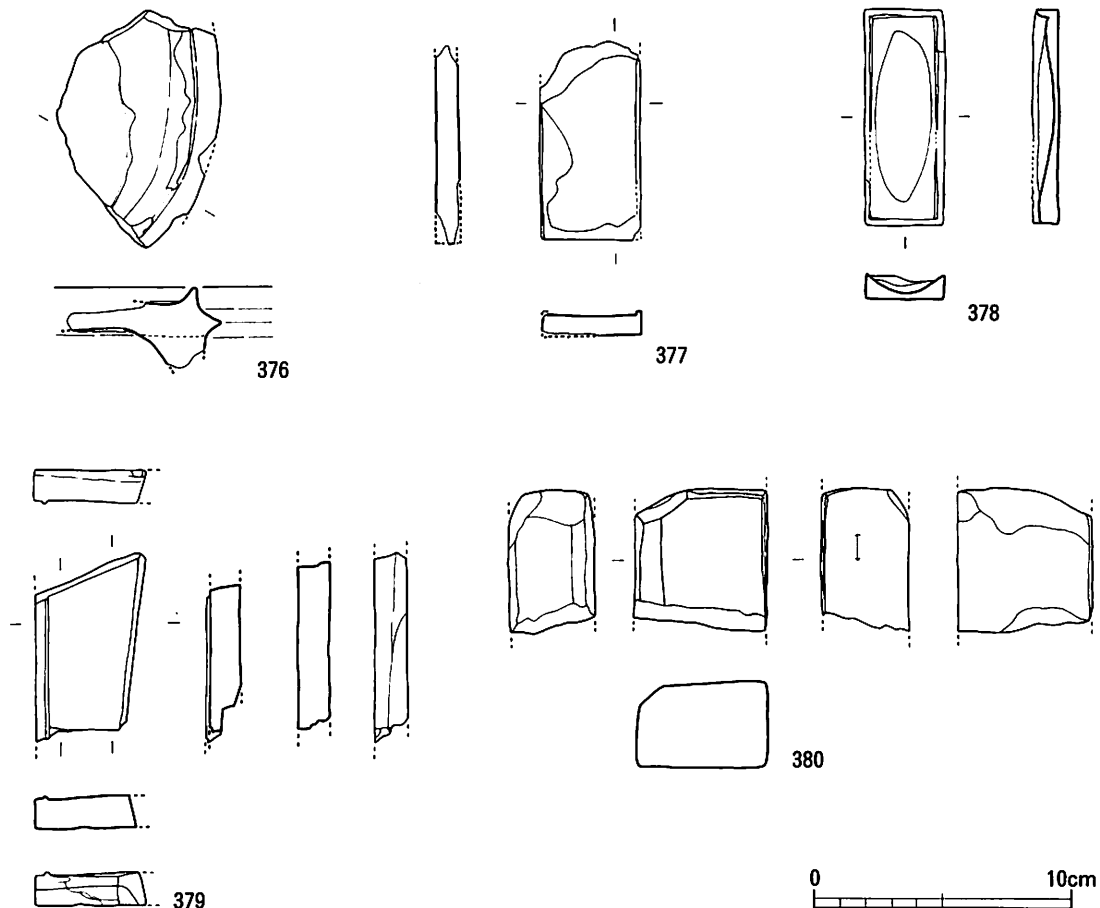


第187図は釘である。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。完形品で長さ3.3~9.0cmである。大部分が、包含層出土の遺物である。

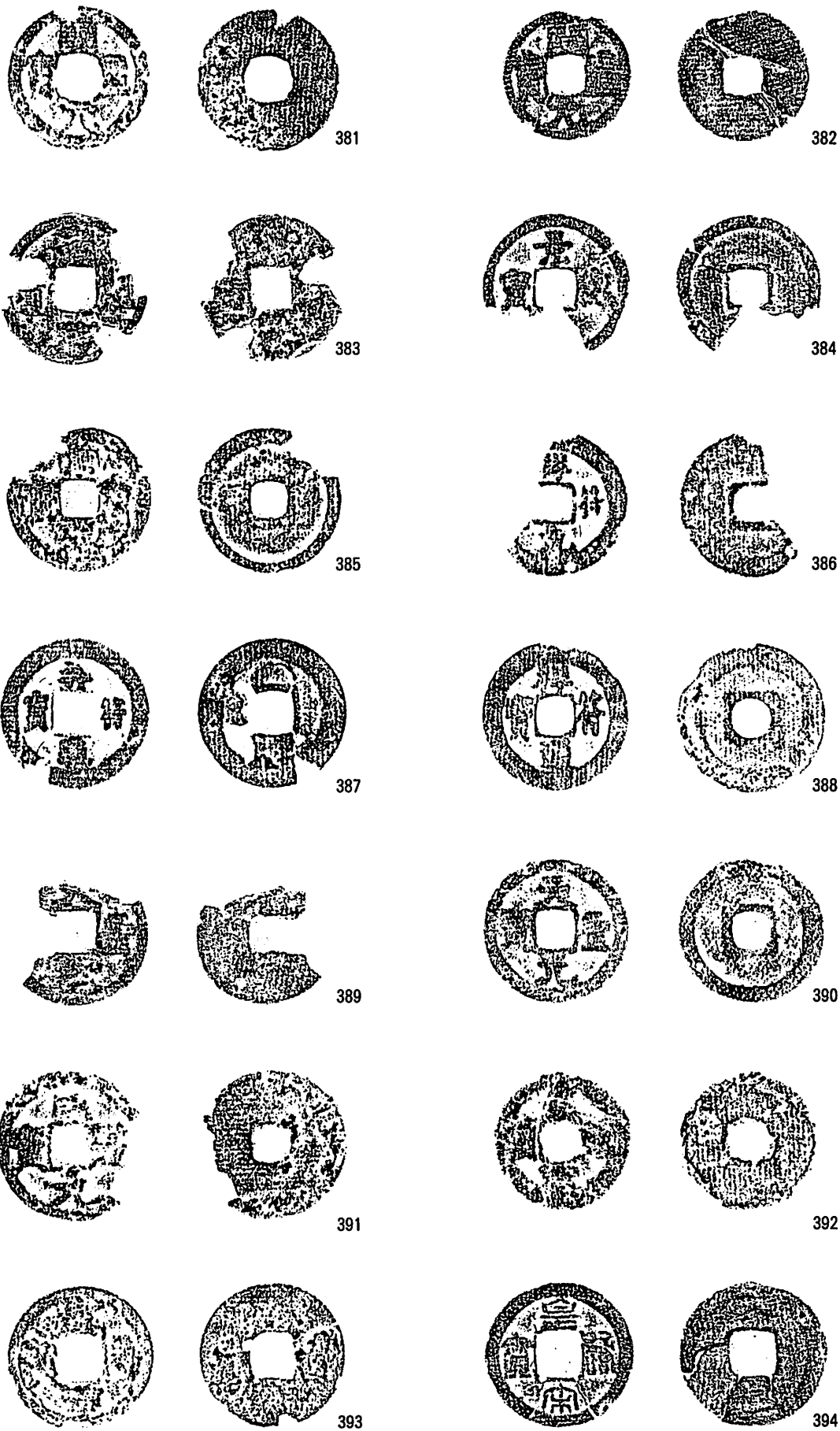
円面硯  
無堤式  
188図376~379は硯である。376は須恵器製品の円面硯の破片で、陸と海を区画する堤を設けない無堤式である。陸部の中央は欠損のため確認しにくいだが、心もち盛り上がり気味で、使用による研磨痕が見られる。脚部はすべて欠損しているが圈台残存部から判断して、短軸が丸みを持つ透し孔を持つ圈足硯に相当する。透し孔の数は不明である。377は輝緑凝灰岩製、別名赤間石の長方硯で被熱しており、硯頭は欠損している。陸の中央部は墨の研磨により、僅かに窪んでいる。規模は残存で長軸7.7cm、短軸4.0cm、厚さ1.9cmである。携帯用の硯であろう。378は片岩の長方硯で、全容を残している。陸の中央部は墨の研磨により、著しく窪んでいる。規模は長軸8.4cm、短軸3.1cm、厚さ2.3cmである。携帯用の硯であろう。379は砥石で、輝緑凝灰岩製、別名赤間石の被熱した長方硯の転用で、硯頭・硯尻と除かれている。規模は長軸7.5cm、短軸3.3~4.3cm、厚み2.3cmである。380は輝緑凝灰岩製の砥石で、上下とも欠損しているが、側面は全て砥石として使用されている。規模は残存長軸5.4cm、最大幅5.2cm、厚さ3.4cmである。

銭貨

第189~192図には銭貨を提示した。381~383は中国唐代の「開元通寶」で、書体はいずれも真書である。初鋳年代は621年である。384~410までは中国北宋代の銅銭である。384・385は「景德元寶」で、書体は真書。初鋳年代は1004年。386~388は「祥符通寶」で、書体は真書。初鋳年代は1008年。

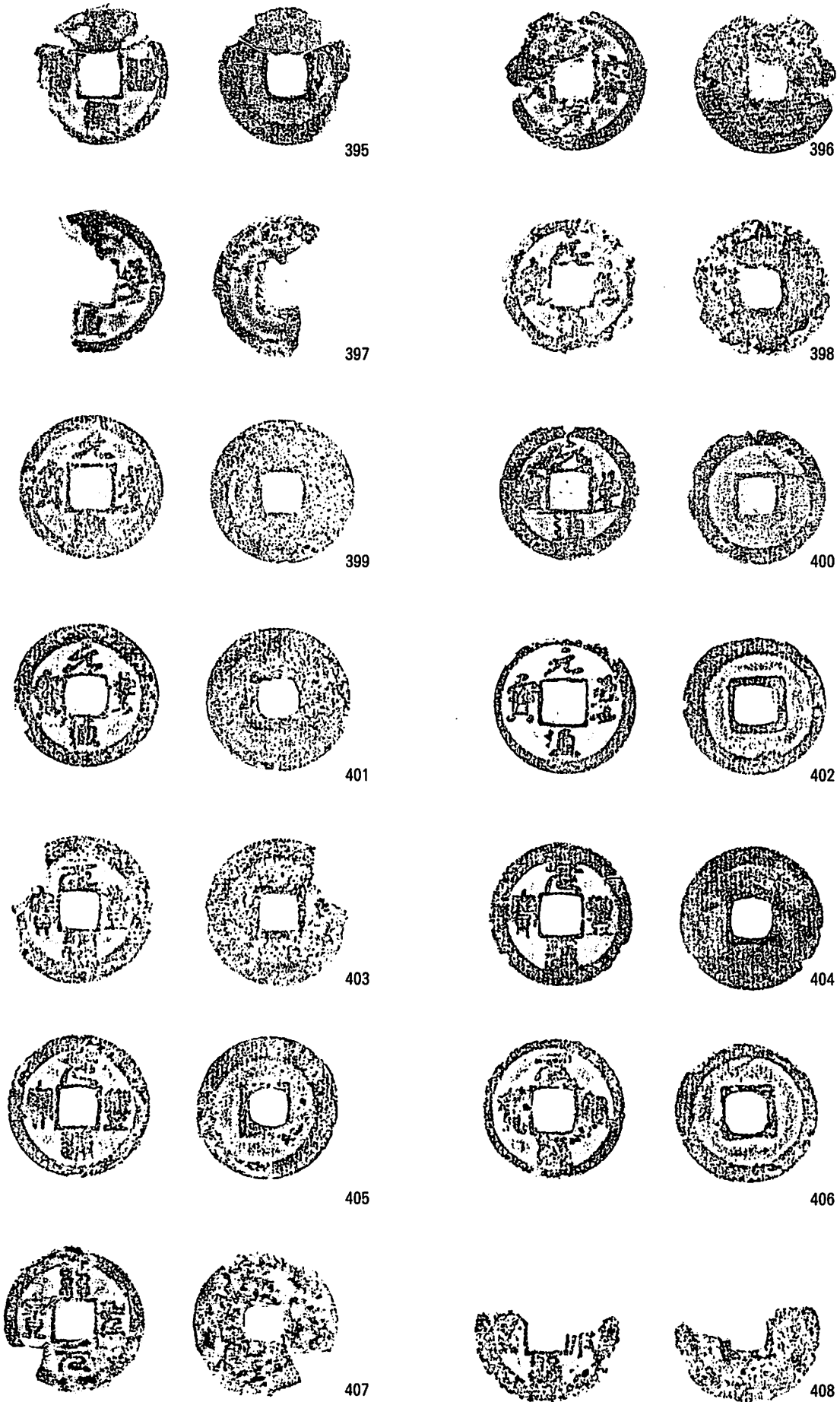


第188図 包含層・整地層出土遺物実測図㉔ (1/3)



第189図 包含層・整地層出土銭貨① (1/1)

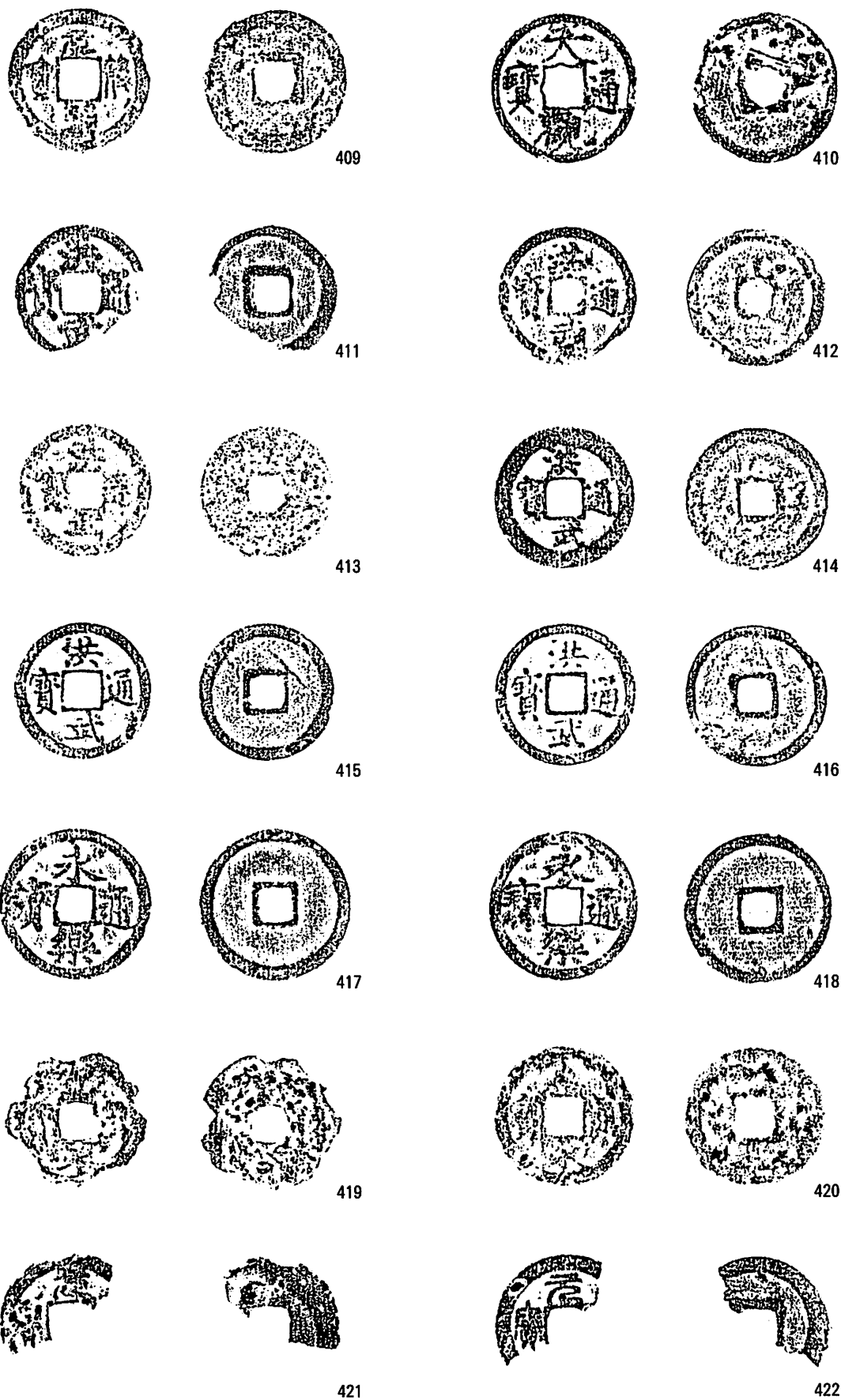




第190図 包含層・整地層出土銭貨② (1/1)

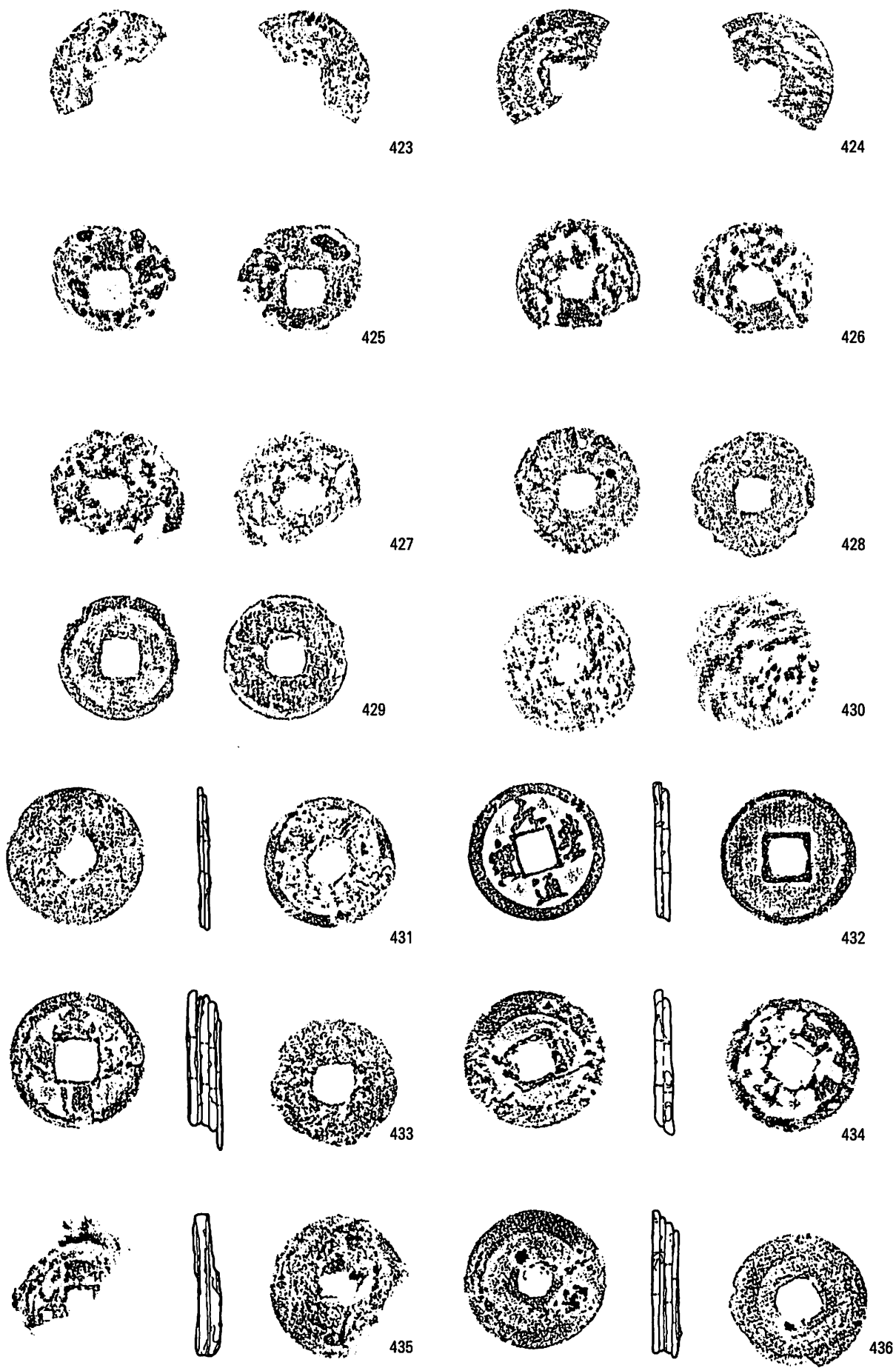
0 5 cm

第2節 遺構と遺物



第191図 包含層・整地層出土銭貨③ (1/1)

0 5 cm



第192図 包含層・整地層出土銭貨④ (1/1)

### 第3節 小 結

389・390は「天聖元寶」で、書体は真書。初鑄年代は1023年。391は「明道元寶」で、書体は真書。初鑄年代は1032年。392～394は「皇宋通寶」で、書体は391・392が真書で393が篆書。初鑄年代は1038年。395は「嘉祐通寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1056年。396は「熙寧元寶」で、書体は真書。初鑄年代は1068年。397～405は「元豐通寶」で、397～402の書体は行書で、403～405は篆書。初鑄年代は1078年。406は「元祐通寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1086年。407は「紹聖元寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1094年。408・409は「元符通寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1098年。410は「大欽通寶」で、書体は真書。初鑄年代は1107年。411～418までは中国明代の銅錢である。411～416は「洪武通寶」で、書体は真書。初鑄年代は1368年。417・418は「永樂通寶」で、書体は真書。初鑄年代は1408年。419・420は日本の銅錢で、「寛永通寶」、書体は真書。初鑄年代は1638年。表土層除去後の精査中の出土品である。421～430は錆のため判読が難しいが、421・422は篆書による「元」「寶」が判読できる。431～436は数枚が付着した状態での出土である。431～434の判読面は中国北宋代の銅錢である。431は「治平元寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1064年、2枚付着。432は「元豐通寶」で、書体は行書、2枚付着。433は「元祐通寶」で、書体は行書、5枚付着。434は「聖宋元寶」で、書体は行書。初鑄年代は1101年、2枚付着。435は不明で3枚付着。436も不明で4枚付着している。以上が大友18次東地区から出土した銅錢である。整地層としているが、調査当初は島津侵攻復興後の面を整地層としていたため、土取りをした後の埋土整地層と混同した部分が一部考えられる。よって、整地層として取り上げている遺物中には近世に攪乱を受けて上面に浮上した遺物を含んでいる可能性を持つ。

### 第3節 小 結

#### 1. 遺構の変遷

下層遺構群 中世大友府内跡第18次東調査区で検出された遺構群は、16世紀後葉以前の「下層遺構群」と16世紀後葉以降の「上層遺構群」に大別される。これらはさらに切り合い関係や出土遺物によって、8世紀前半、16世紀中葉、16世紀後葉、16世紀後葉～末葉、16世紀末葉～17世紀初頭の5時期に細別される。

#### 8世紀代の遺構

SK176 8世紀代に比定されるものは、井戸（SK176）がある。当該時期の遺構はこれが唯一のものであるが、同時期から9世紀代の遺物が土取り後の埋め戻し整地層内から出土している。本来は当地区を含む周辺には古代の遺構が展開していたであろうが、中世～近世段階の整地や土取り、遺構の構築によって他の遺構は消滅したと推定される。

#### 16世紀中葉の遺構

土取り 16世紀中葉の遺構は、当調査区では触れていないが、16世紀中葉と断定できる遺構は確認できない。しかし、16世紀後葉以降の遺構埋土とは違うと思われる柱穴が僅かながら検出されている。土坑は未確認である。当地区は、周辺の調査区より遺構検出面の削平が激しく、また、16世紀第3四半期前後の土取りによる削平で、調査区の当時の遺構の大半が削平を受けて消滅したと推定している。

#### 16世紀後葉の遺構

第2南北街路 町屋 16世紀後葉の遺構で確認できる遺構は、溝状遺構（SD306）、井戸（SE075・079・261）、柱穴群等である。後葉前後から当地区では第2南北街路の整備とともに、町屋に関連する遺構群の形成が始まり、東西方向に確認された柱穴等が柵列として機能し始める頃と考える。この柵列が町屋の区画となり、井戸は比較的等間隔で検出されている。この井戸は町屋の附帯施設と考えられ、この時期に掘られたものと考えられる。また、土層の堆積状況から、1986年の島津侵攻時には破棄され廃棄土坑として二次使用されていた井戸も確認されている。

## 16世紀後葉～末葉の遺構

礎石 16世紀後葉～末葉になると、町屋に関連する遺構群の形成がほぼ完成をみたものと推定する。土坑（SK266・273・274）や、集石（SX244・245・302）、土器集中区（SX054・062・066）等である。検出された遺構は削平により比較的少ないが、末葉以降（島津侵攻後）に構築された遺構の内容から、礎石を使用した整った町並みが推測できる。

## 16世紀末葉～17世紀初頭の遺構

廃棄土坑 16世紀末葉～17世紀初頭になると、構築される遺構は最盛期を迎えるが、そのほとんどが廃棄土坑である。SK065・068・085・252・292・293等はその典型であり、天正14年（1586）12月の島津侵攻後に構築された遺構である。土坑内には多量の焼土・炭とともに、被熱した礎石や土器等が廃棄されていた。整地を行った時の廃棄土坑である。また、使用を停止している井戸等も、廃棄土坑としての二次使用が認められた。

## 2. まとめ

桜町 中世大友府内町跡第18次東調査区を含む周辺の調査では、「戦国時代の府内復元想定図」による府内古図「桜町」の一面に相当するが、この想定図の元となった「府内古図」の内容とほぼ一致する結果（第2南北街路や名々小路の確認と周辺に展開する町屋等）となっている。

奈良時代 当調査区では、16世紀以前の遺構は奈良時代の井戸1基を確認しただけで、他は16世紀中葉以降の遺構である。奈良時代の井戸は検出面からは1.5m前後であり、かなりの削平を受けている。井戸が検出されたことから、周辺は当時の生活空間であったと推測され、集落等の存在がほぼ確実であろう。これ以降については、9～15世紀の遺物が少量出土しているが、包含・整地層内からの出土であるため、他地域からの流入も十分考えられ、遺構の存在は確認できない。周辺の様相からも考えて、当地区を含む周辺はほとんどが空地であった可能性が高い。この地域が町として機能を持ち始めたのは16世紀中葉から後葉前後の大友宗麟治世から大友義統治世の時代になってからであろう。特に16世紀後葉頃になると第2南北街路の整備に始まり、街路周辺の町屋整備に発展している。街路の整備にやや遅れるように、大友氏館内の整備と推測される、街路周辺の大規模な土取り作業が行われている。この土取り作業は、当調査区のほぼ2/3が対象となっている。第2南北街路整備と土取りの関係は、当調査区北壁の土層観察の結果から、土取り作業は街路の整備後（初期）に行われていることが確認されている。土取り後、ほとんど間を置かず埋め戻しの整備を行い、町屋を形成していると推測される。当調査区でも4基の井戸と、東西に走る柱穴群を9条確認したが、礎石・根石を持つ柱穴はほとんどなく、掘立柱建物跡というより、柵列（間仕切り）と考える方が妥当であろう。また、柵列間にも多数の柱穴と土坑が確認されている。その後、天正14年（1586）12月の島津侵攻で焼き討ちに遭い、焼失したと思われる。復興の兆しとして、多くの土坑が確認されている。そのほとんどが火災処理土坑で、焼土・炭とともに被熱した大型の礎石や土器が多量に廃棄されている。確認された柱穴等は埋土に焼土・炭等を含んでおり、家屋等の復興をしたと考える。当地区では17世紀初頭までは町屋としての機能があったと思われ、唐津系や瀬戸美濃系の土器が少量ながら出土している。遺構の検出はみられなかった。その後は府内城下に移動し、再び空地となり水田として使用され、現在に至ったと考える。

空地 以上のように、当地区は水田等による削平もあり、16世紀中葉以前の生活基盤面は現存していないため、詳細は不明であるが、周囲の状況や出土遺物の年代観からみて、生活空間として活用されていたのはごく短期間であったと考えられる。奈良時代の一時期と16世紀中葉も遅い時期から17世紀初頭までの時期であろう。

## 第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

### 第1節 調査の概要

中世大友府内町跡第28次調査区は大分県大分市錦町3丁目に所在し、標高約5.5mの沖積低地上に立地する。1987年に大分市史編さん委員会が作成した「戦国時代の府内復元図」によると、当該調査区は大友氏館跡と第2南北街路を挟んで隣接し、中世府内を構成する40余りの町のひとつである「桜町」の一画に相当する地点である。

本章で報告する第28次調査区については、1993年発行の『大分県遺跡地図』において、「中世大友城下町跡」の名称で登録されていたことや平成12年（2000年）度以降継続されている一般国道10号古国府拡幅事業に伴う周辺地域の発掘調査で、戦国時代の遺構・遺物の存在が確認されていたことから、平成15年（2003年）度に発掘調査（本調査）を行った。本調査区は北に位置する第18次調査区と隣接し、南側の第22次調査区とは道路を挟んで隣接する（第193図）。調査期間は2003年5月中旬から12月下旬までの約9ヶ月間であり、発掘調査面積は約480㎡におよぶこととなった。

調査期間  
2003年  
5月中旬～  
12月下旬

発掘調査  
面積約480㎡

### 第2節 遺構と遺物

#### 1. 遺構の概要と基本層序

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う発掘調査では、事業対象地区を国土座標に乗せた10m方眼で区画している。それぞれの区画には西から東へJ～M、北から南へ1～78の番号を付し、アルファベットと数字の組み合わせで、各々の区画を呼称することになっている（例えばJ17区、L18区など）。本章で報告する第28次調査区は、東西J～M区、南北17・18区の位置に相当する（第193図）。

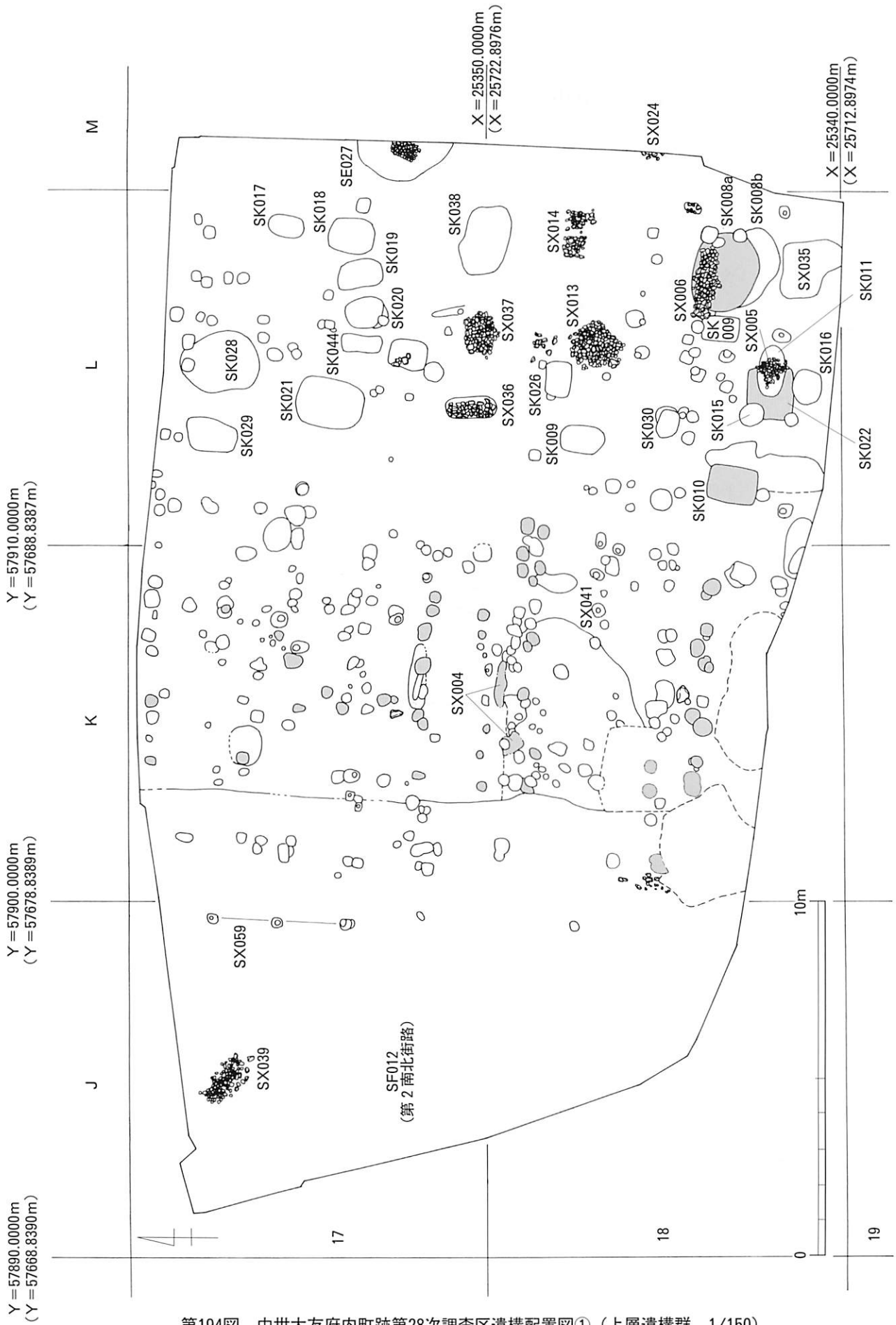
中世大友府内町跡第28次調査区で検出された主要遺構は、道路遺構（第2南北街路）1、溝4、土坑34、集石遺構8、井戸1、掘立柱建物1、礎石2、その他の遺構3、柱穴および小穴多数があり、その大半が15世紀後半から16世紀代の戦国時代に比定されるものである。

本調査区では、旧表土上に近年の造成による置土が0.8～1.2mほど堆積しており、この造成土の下位に近世から近現代の所産と思われる水田形成

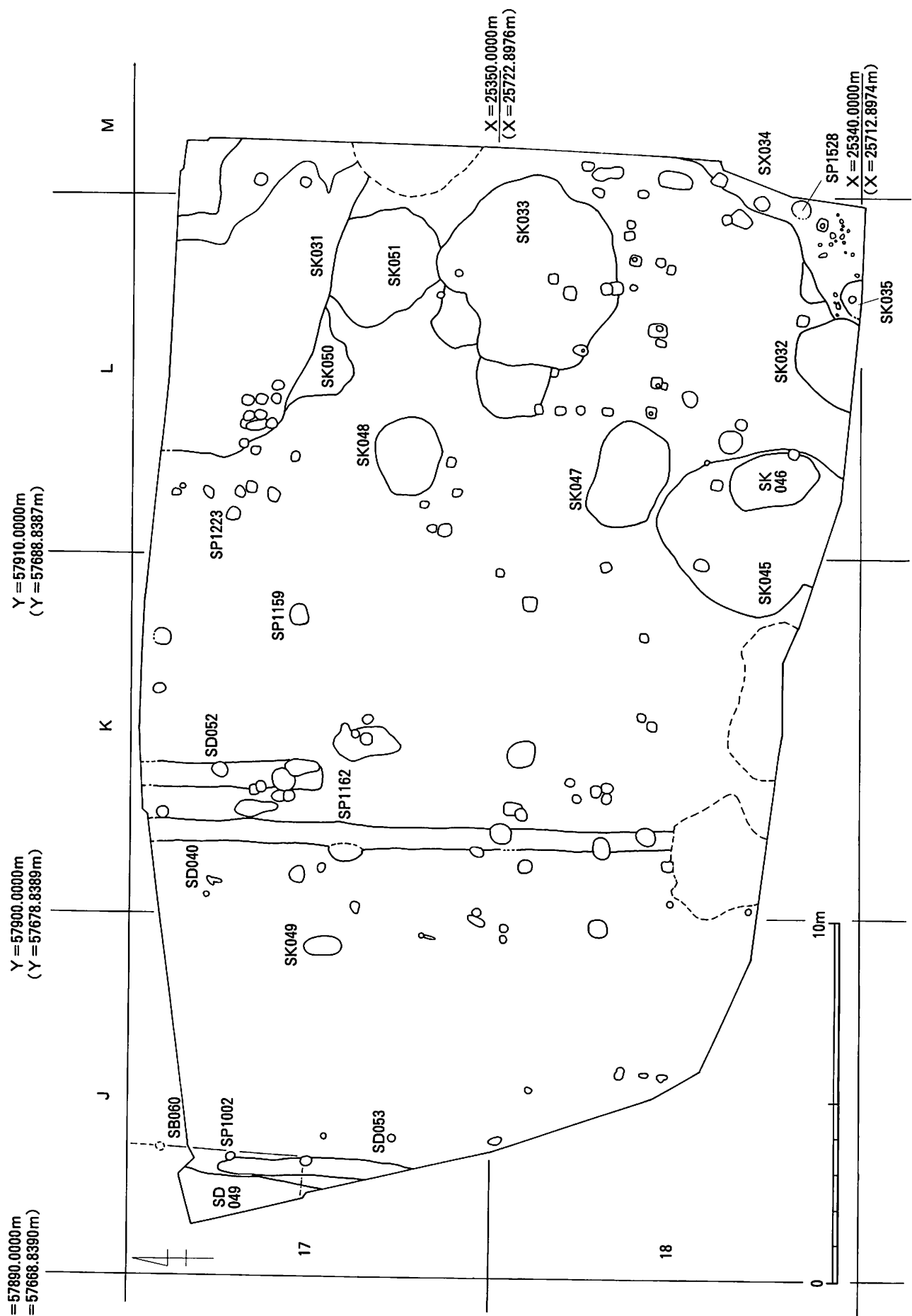


第193図 第28次調査区の位置（1/800）





第194図 中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図① (上層遺構群、1/150)  
 ※アミ掛けは焼土を含む遺構



第195図 中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図② (下層遺構群、1/150)

第2節 遺構と遺物

第5表 遺構一覧表①

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SD001	S001	溝	L18	近世	水田耕作に伴う溝?未掲載(割愛)	-
SK002	S002	土坑	K17	16世紀後葉～末葉		191
SX003	S003	礎石・焼土層	K18	16世紀末葉	天正14年(1586)焼土層	229
SX004	S004	焼土層	K18	16世紀末葉	天正14年(1586)焼土層	237
SX005	S005	集石遺構	L18	16世紀末葉～17世紀初頭		218
SX006	S006	集石遺構	L18	16世紀末葉		219
SK007	S007	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		191
SK008	S008a	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		191
SK008	S008b	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		191
SK009	S009	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		194
SK010	S010	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		195
SK011	S011	土坑	L18	16世紀末葉		195
SF012	S012	道路	J17～K18	16世紀後葉	第2南北街路	185
SX013	S013	集石遺構	L18	16世紀末葉		222
SX014	S014	集石遺構	L18	16世紀後葉～末葉		225
SK015	S015	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		196
SK016	S016	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		196
SK017	S017	土坑	L17	16世紀後葉～末葉		197
SK018	S018	土坑	L17	16世紀後葉～末葉		197
SK019	S019	土坑	L17	16世紀後葉～末葉		197
SK020	S020	土坑	L17	16世紀後葉～末葉		197
SK021	S021	土坑	L17	16世紀末葉		199
SK022	S022	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		197
SX023	S023	礎石	K18	16世紀後葉		229
SX024	S024	集石遺構	K18	16世紀後葉～末葉		226
SK025	S025	土坑	L18	16世紀末葉		200
SK026	S026	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		201
SE027	S027	井戸	L17	16世紀後葉～末葉		236
SK028	S028	土坑	L17	16世紀末葉		202
SK029	S029	土坑	L17	16世紀末葉		203
SK030	S030	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		204
SK031	S031	土取り遺構	L17	16世紀		204
SK032	S032	土坑	L18	不明		206
SK033	S033	土取り遺構	L18	16世紀後葉		208
SX034	S034	落ち込み状遺構	L18	16世紀後葉		237
SK035	S035	土坑	L18	16世紀後葉～末葉		208
SX036	S036	集石遺構	L17・L18	16世紀後葉～末葉		226
SX037	S037	集石遺構	L17・L18	16世紀末葉		226
SK038	S038	土坑	L17・L18	16世紀末葉		209
SX039	S039	集石遺構	J17	16世紀後葉～末葉	第2南北街路整地層中の集石	228
SD040	S040	溝	K17・L18	14世紀後半～15世紀		189
SX041	S041	整地層	K18	16世紀後葉		237
SK042	S042	土坑	K18	不明		211
SK043	S043	土坑	K17	16世紀末葉		211
SK044	S044	土坑	K18	16世紀末葉		211
SK045	S045	土取り遺構	K18・L18	15世紀後葉		212
SK046	S046	土坑	L18	14世紀末葉～15世紀初頭		213
SK047	S047	土坑	L18	15世紀後葉		214
SK048	S048	土坑	L18	不明		214
SD049	S049	溝	J17	14世紀後半～15世紀		187
SK050	S050	土取り遺構	L17	不明		215
SK051	S051	土坑	L17	14世紀後半～15世紀		215
SD052	S052	溝	K17	14世紀後半～15世紀		190
SD053	S053	溝	J17	14世紀後半～15世紀		188
SX059	-	柱穴列	J18	16世紀後葉～末葉	報告書作成時に遺構番号を設定	230
SB060	-	掘立柱建物	J17	15世紀	報告書作成時に遺構番号を設定	230

第6表 遺構一覧表②

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP1002	S1002	ピット	J17	15世紀	SB060を構成	230
SP1102	S1102	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1107	S1107	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1109	S1109	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1110	S1110	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1114	S1114	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1117	S1117	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1119	S1119	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1120	S1120	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1121	S1121	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1130	S1130	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1135	S1135	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1137	S1137	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1138	S1138	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1141	S1141	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1142	S1142	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1144	S1144	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1146	S1146	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1147	S1147	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1148	S1148	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1150	S1150	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1159	S1159	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1162	S1162	ピット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1201	S1201	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1209	S1209	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1210	S1210	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1211	S1211	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1214	S1214	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1216	S1216	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1221	S1221	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1227	S1227	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1230	S1230	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1233	S1233	ピット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1404	S1404	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1408	S1408	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1413	S1413	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1415	S1415	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1419	S1419	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1425	S1425	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1431	S1431	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1432	S1432	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1442	S1442	ピット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1501	S1501	ピット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1505	S1505	ピット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1512	S1512	ピット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1514	S1514	ピット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1517	S1517	ピット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1526	S1526	ピット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1527	S1527	ピット	L18	16世紀後葉～末葉		231

## 第2節 遺構と遺物

層が認められる。発掘調査では近年の造成土のすべてと水田層の大部分を大型重機によって除去し、水田層の下部付近から人力による掘り下げを開始した。水田層は部分的に中世の遺構を削平している地点があり、水田層の下部には肥前（唐津）系陶器や寛永通寶などの江戸時代前期の遺物が包含されていた。

天正14年  
(1586)の  
焼土層

水田層をすべて除去すると、道路遺構SF012や焼土層、ならびに中世末から近世初頭にかけての整地層が現れる。焼土層の堆積はK18区付近で特に顕著であり、調査区南壁土層（第196図土層③）では約50cm程度の層厚が認められるほか、ブロック状に堆積する焼土層SX004なども確認された。これらの焼土は、層位的な所見や出土遺物などから天正14年（1586）12月の島津侵攻時に形成されたものと推定している。

上層遺構群  
16世紀  
末葉前後

近世の水田層や島津侵攻時の焼土層を除去すると、SF012とした道路遺構や多数の柱穴群、廃棄土坑、集石遺構、井戸などの遺構が密集して検出された。本報告では、これらの遺構群を「上層遺構群」と命名している（第194図）。上層遺構群では、J17・J18区付近で道路遺構、K17・K18区付近で多数の柱穴群、L17・L18区付近で廃棄土坑、M17区で井戸などが検出され、これらは16世紀末葉前後に比定される町屋関連の遺構と推定される。大友氏館跡との位置関係や府内古図との対比から、これらの町屋関連の遺構群は、府内古図に記載されている「桜町」の一画に相当する可能性が極めて高いと考えている。

下層遺構群  
16世紀  
後葉  
14～15世紀

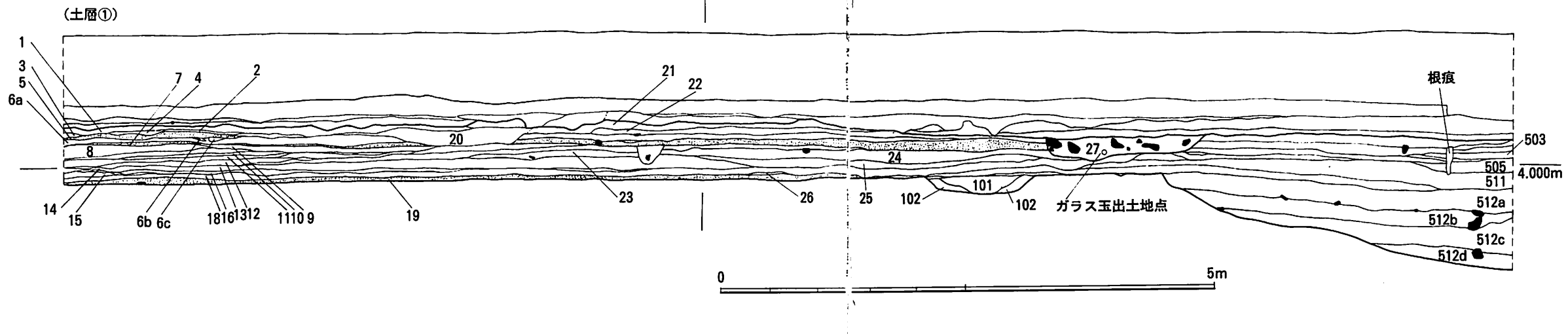
本調査区における基盤層である黄褐色粘質土は、K17・K18区付近で最も標高が高く、東側に向かって緩やかに傾斜している。また、道路遺構SF012を形成する整地層をすべて撤去した後の面からも柱穴、溝などの遺構が検出されている。この黄褐色粘質土の直上で確認した遺構群を、本報告では「下層遺構群」と命名している（第195図）。下層遺構群に所属するものには、溝や柱穴・土坑などのほか、土取りと思われる大型の掘り込みが認められる。これらの遺構の所属時期は、16世紀後葉に比定されるものから、14～15世紀代に遡るものも確認されている。

本調査で検出された遺構は、14世紀から17世紀初頭に比定されるものに限られており、中世前期以前に遡るものは確認されていない。

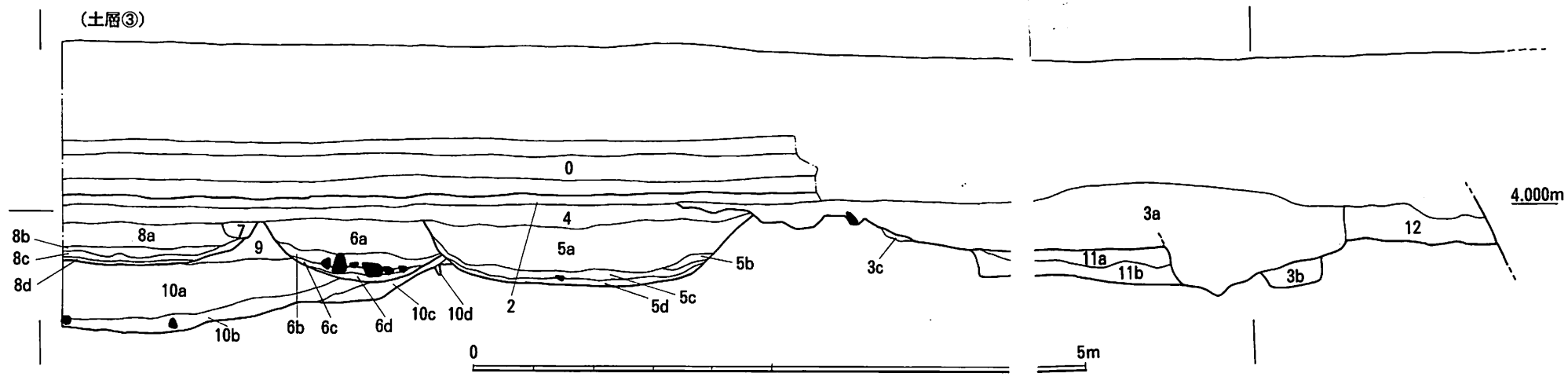
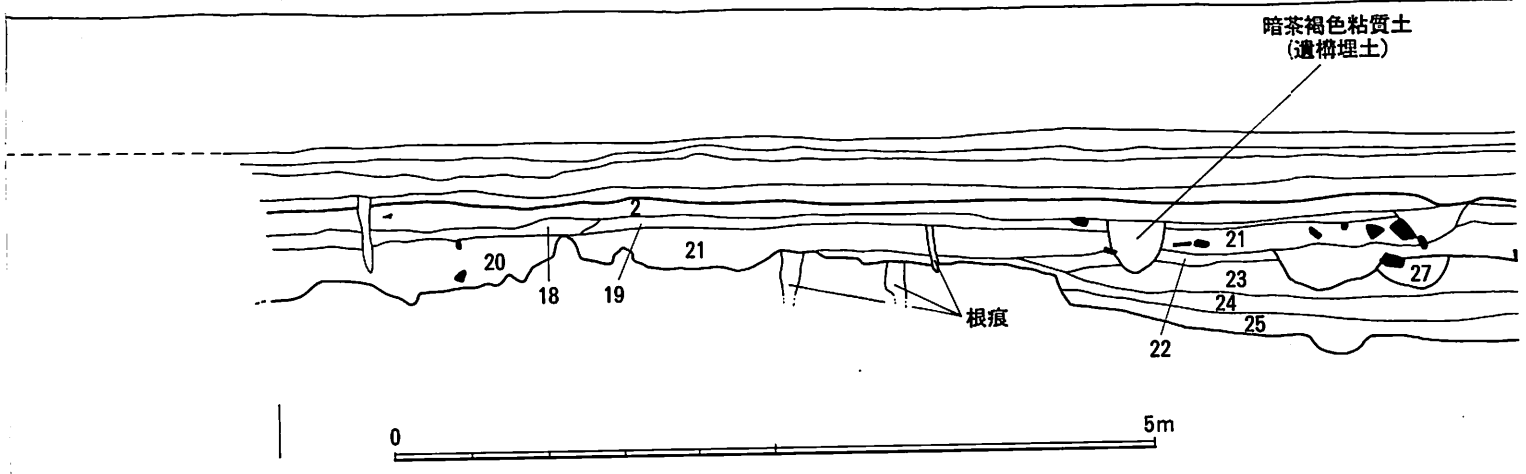
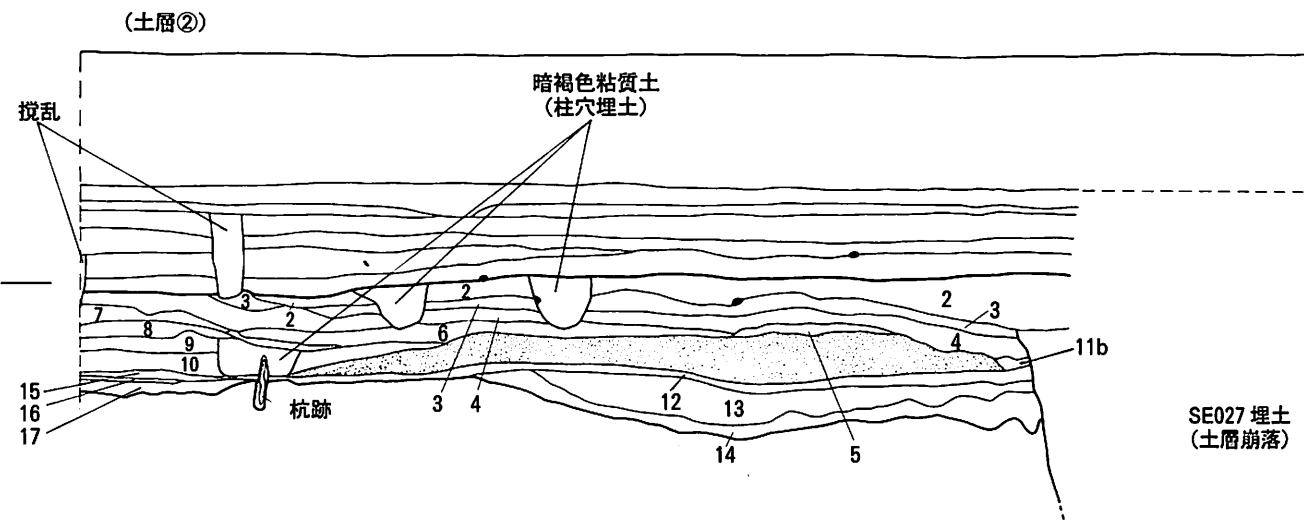
以下、遺構と出土遺物の詳細を報告する。

181.182  
①

181.182  
②



- 0. 近世の水田造成土層群
- 1. 灰黄褐色粘質土
- 2. 暗茶褐色粘質土 (焼土層を含む。上面が硬化する。)
- 3. 暗褐色粘質土
- 4. 暗茶褐色粘質土 (2層に類似。焼土をほとんど含まない。上面が硬化する。)
- 5. 黄灰褐色砂質土
- 6 a. 暗褐色砂質土
- 6 b. 暗褐色粘質土 (焼土層をわずかに含む。上面が硬化する)
- 6 c. 茶褐色粘質土
- 7. 黄灰褐色砂質土
- 8. 暗褐色粘質土
- 9. 暗灰褐色粘質土 (焼土層をわずかに含む。)
- 10. 暗褐色粘質土
- 11. 暗灰褐色粘質土
- 12. 暗褐色粘質土
- 13. 暗灰褐色粘質土
- 14. 暗黄茶褐色粘質土



- 0. 近世の水田造成土層群
- 2. 暗赤褐色粘質土
- 3 a. 暗茶褐色粘質土 (焼土を多量に含む。天正14年(1586)焼土層か?)
- 3 b. 暗褐色粘質土 (焼土を含む)
- 3 c. 暗褐色粘質土 (焼土を含まない)
- 4. 暗茶褐色粘質土
- 5 a. 暗褐色粘質土 (焼土粒・炭を含む)
- 5 b. 濁黄灰褐色粘質土
- 5 c. 灰褐色粘質土
- 5 d. 暗灰色粘質土 \* 5a~5d...SK032埋土
- 6 a. 濁黄褐色粘質土
- 6 b. 暗褐色粘質土
- 6 c. 暗茶褐色粘質土
- 6 d. 灰褐色粘質土 \* 6a~6d...SK035埋土
- 7. 暗褐色粘質土 (柱穴埋土。焼土粒を多く含む)
- 8 a. 暗褐色粘質土 (焼土粒を少量含む)
- 8 b. 黄褐色粘質土
- 8 c. 暗灰褐色粘質土 (炭を多量に含む)
- 8 d. 暗灰褐色粘質土 (炭をほとんど含まない) \* 8a~8d...SK025埋土
- 9. 暗褐色粘質土 (少量の焼土粒・炭を含む)

181.182  
③

181.182  
④

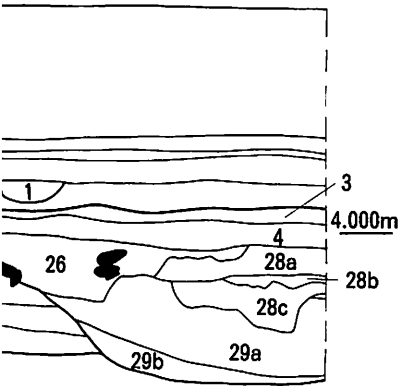
187. 182  
②

- 15. 灰茶褐色粘質土
- 16. 暗褐色粘質土
- 17. 暗褐色粘質土
- 18. 暗灰褐色粘質土
- 19. 灰黄褐色砂質土  
(京都系土師器・瀬戸美濃系  
陶器天目を含む。)

- 101. 濁茶褐色粘質土
- 102. 茶褐色粘質土  
\* 101・102・・・SD053埋土

- 503. 暗黄褐色暗黄褐色粘質土
- 506. 暗褐色粘質土
- 511a. 暗褐色粘質土
- 511b. 暗褐色粘質土

- 512a. 灰青褐色粘質土
- 512b. 灰黄褐色粘質土
- 512c. 暗灰黄褐色粘質土
- 512d. 暗茶褐色粘質土  
\* 512a～512d・・・SD049埋土



- 0. 近世の水田造成土層群
- 1. 暗灰褐色粘質土  
(焼土粒を含む。  
近世の溝SD001の埋土)
- 2. 暗赤褐色粘質土  
(焼土粒を含む)
- 3. 暗茶褐色粘質土
- 4. 暗灰褐色粘質土
- 5. 灰茶褐色砂質土
- 6. 暗灰茶褐色粘質土
- 7. 暗濁茶褐色粘質土
- 8. 濁茶褐色粘質土
- 9. 茶褐色粘質土
- 10. 暗茶褐色粘質土

- 11a. 暗黄灰褐色砂質土
- 11b. 黄灰褐色砂質土
- 12. 暗黄褐色粘質土  
(極めて均質な粘質土)  
\* 11・12・・・SK031aの埋土

- 13. 暗褐色粘質土

- 14. 暗灰茶褐色粘質土  
\* 13・14・・・SK031bの埋土

- 15. 暗灰褐色粘質土  
(炭を多量に含む)
- 16. 黄灰褐色砂質土
- 17. 明灰黄褐色粘質土
- 18. 暗赤褐色粘質土
- 19. 暗赤茶褐色粘質土
- 20. 暗灰褐色粘質土
- 21. 暗灰褐色粘質土  
(炭・焼土粒を含む)

- 22. 暗灰褐色粘質土
- 23. 灰黄褐色粘質土
- 24. 灰茶褐色粘質土
- 25. 暗灰茶褐色粘質土
- 26. 暗褐色粘質土
- 27. 暗茶褐色粘質土

- 28a. 暗褐色粘質土  
(焼土粒を少量含む)

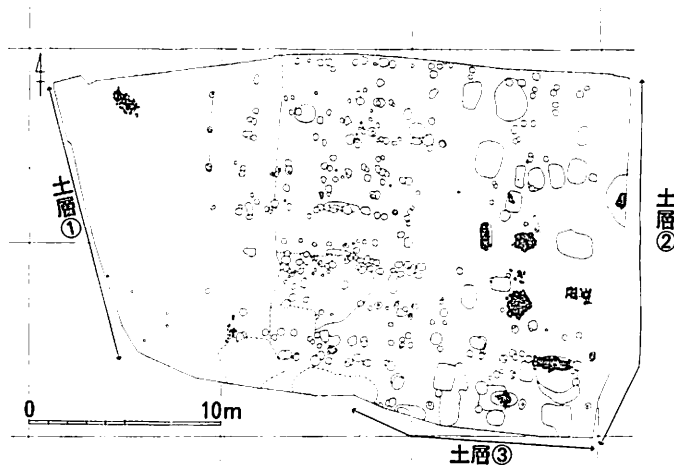
- 28b. 黄褐色粘質土
- 28c. 暗灰褐色粘質土  
(炭を多量に含む)  
\* 28a～28c・・・SK025の埋土

- 29a. 暗灰褐色粘質土
- 29b. 灰青褐色粘質土  
(粘質味が強い。遺構  
底面に堆積する。)  
\* 29a～29b・・・SX034の埋土

- 10a. 暗灰褐色粘質土
- 10b. 灰青褐色粘質土  
(粘質味が強い。  
遺構底面に堆積する。)
- 10c. 黄灰褐色粘質土
- 10d. 暗褐色粘質土  
(底面に認められる杭跡?)  
\* 10a～10d・・・SK034埋土

- 11a. 暗褐色粘質土
- 11b. 濁黄褐色粘質土  
\* 11a～11d・・・SK045埋土

- 12. 黄褐色粘質土

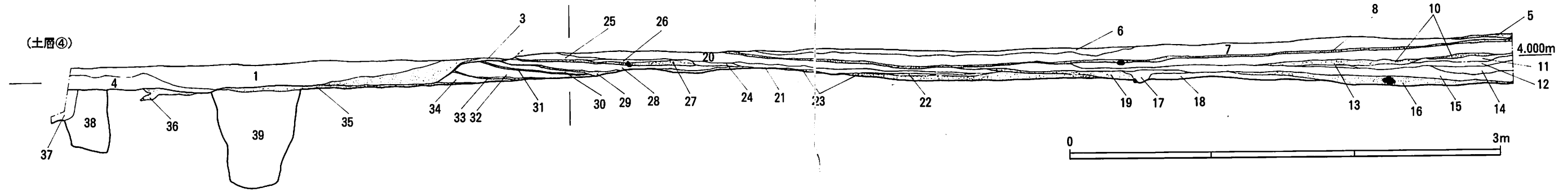


第196図 調査区土層断面図 (1/50)

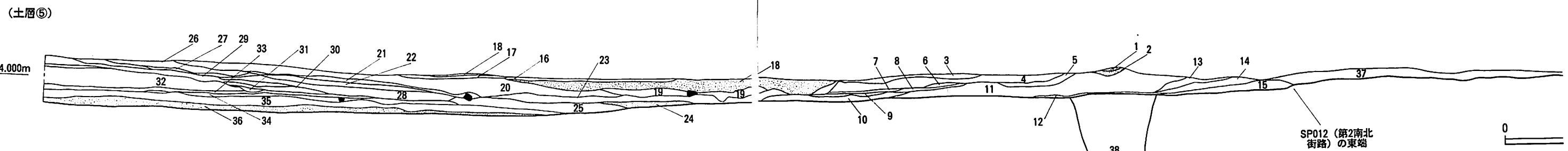
187. 182  
④

183. 187 ①

183. 187 ②



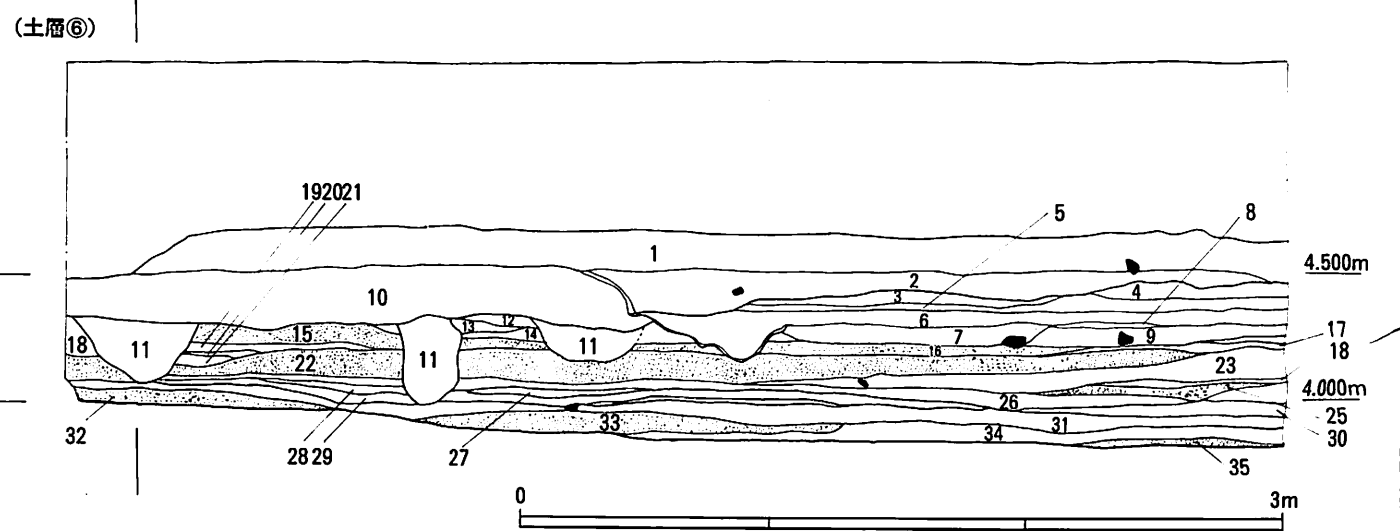
- 1. 灰褐色粘質土 (下層に炭化物?)
- 2. 灰褐色粘質土
- 3. 明茶褐色粘質土
- 4. 茶褐色粘質土 (焼土粒)
- \* 1~4... 陶器など江戸時代)
- 5. 黄灰白色砂質土
- 6. 灰黄褐色粘質土
- 7. 茶褐色粘質土 (上面が硬)
- 8. 黄灰白色砂質土
- 9. 茶褐色粘質土



- 1. 茶褐色粘質土
- 2. 灰褐色砂質土
- 3. 灰褐色砂質シルト
- 4. 灰茶褐色砂質シルト
- 5. 茶褐色砂質土
- 6. 茶褐色粘質土
- 7. 灰褐色粘質土
- 8. 茶褐色粘質土 (砂質土が混じる)
- 9. 茶褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 10. 黄灰白色砂質土
- 11. 暗茶褐色粘質土
- 12. 灰茶褐色粘質土
- 13. 黄灰白色砂質土
- 14. 黄灰白色砂質土
- 15. 黄灰白色砂質土 (14層と類似するが、焼土粒・炭化粒・土器小片を含む)
- 16. 灰褐色砂質土
- 17. 茶褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 18. 灰褐色砂質土 (上面が硬化する)
- 19. 灰茶褐色粘質土
- 20. 茶褐色粘質土 (土器小片を多量に含む)
- 21. 茶褐色粘質土 (一部が硬化する。下面に薄い砂層を挟む)
- 22. 暗褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 23. 灰青色粘質土
- 24. 灰茶褐色砂質シルト
- 25. 暗茶褐色粘質土
- 26. 灰青色砂質シルト
- 27. 茶褐色粘質土
- 28. 灰青色粘質土
- 29. 茶褐色粘質土 (キメの細かい砂)
- 30. 灰青色粘質土
- 31. 茶褐色粘質土
- 32. 暗茶褐色粘質土
- 33. 暗灰色粘質シルト
- 34. 暗茶褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 35. 灰褐色粘質土
- 36. 灰褐色砂質土 (上面が硬化する。京都系土師器・瀬戸美濃系天目を含む)
- 37. 黄灰白色砂質土 (均質で、精良な土。整地層SX041を形成)
- 38. 暗褐色粘質土 (SD040の埋土)

\* 1~36...第2南北街路 (SF012) の形成土

SP012 (第2南北街路) の東端



- 1. 青灰色粘質土 (旧表土)
- 2. 暗灰褐色粘質土
- 3. 灰褐色粘質土
- 4. 暗灰褐色粘質土
- 5. 赤灰褐色粘質土
- 6. 茶灰褐色粘質土
- 7. 青灰色砂質土
- 8. 濁茶褐色粘質土 (焼土を含む)
- 9. 青灰色粘質土
- 10. 暗赤茶褐色粘質土
- 11. 暗灰褐色砂質土 (遺構埋土)
- 12. 赤褐色粘質土 (鉄分を多く含む)
- 13. 青灰色粘質土
- 14. 青灰白色砂質土
- 15. 灰白褐色砂質土
- 16. 灰白褐色砂質土
- 17. 灰褐色砂質土
- 18. 灰褐色砂質土
- 19. 茶灰褐色砂質土 (一部硬化部を含む)
- 20. 灰褐色砂質土 (土器小片を多量に含む)
- 21. 暗褐色粘質土 (一部、砂層土ブロックを含む)
- 22. 暗赤褐色砂質土 (焼土粒・炭化粒を含む)
- 23. 暗褐色粘質土 (焼土粒・炭化粒を含む)
- 24. 灰褐色砂質土
- 25. 暗灰褐色砂質土
- 26. 灰褐色砂質土
- 27. 暗灰褐色粘質土
- 28. 暗褐色粘質土
- 29. 暗灰褐色粘質土
- 30. 暗青灰色粘質土 (焼土粒を含む)
- 31. 茶褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 32. 灰褐色砂質土
- 33. 暗灰白褐色砂質土
- 34. 暗青灰色粘質土
- 35. 灰茶褐色砂質土 (上面が硬化する。京都系土師器・瀬戸美濃系天目を含む)

183. 187 ③

183. 187 ④



183, 189

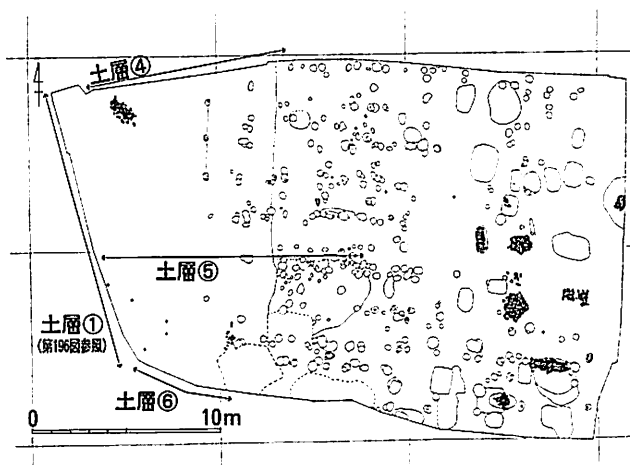
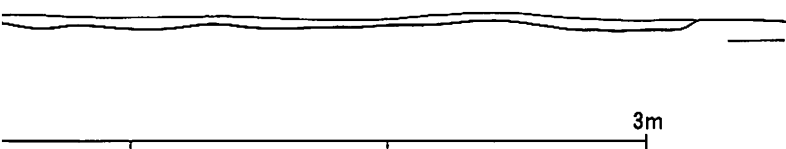
②

粘質土  
 粘土粒、全体に  
 (含む)  
 砂質土  
 粘質土  
 粘質土  
 (炭化物を含む)  
 ・寛永通寶・唐津系  
 を含む。  
 前期の削平  
 粘質土  
 砂質土  
 粘質土  
 (硬化する)  
 砂質土  
 粘質土

10. 暗黄灰白色砂質土
11. 灰褐色粘質土
12. 黄褐色粘質土
13. 暗黄褐色粘質土
14. 茶褐色粘質土  
(砂質土・青灰褐色土・  
黄褐色土のブロックを  
含む)
15. 茶褐色粘質土  
(黄褐色土のブロックを  
含む)
16. 灰黄褐色砂質土  
(大粒の砂利を含む)
17. 灰褐色砂質土
18. 暗黄灰褐色砂質土  
(キメの細かい砂)
19. 黄灰褐色砂質土

20. 暗黄褐色粘質土
21. 灰茶褐色粘質土
22. 暗褐色粘質土  
(上面が硬化する)
23. 灰黄褐色砂質土
24. 茶褐色粘質土  
(上面が硬化する)
25. 灰茶褐色粘質土
26. 茶褐色粘質土  
(上面が硬化する)
27. 灰褐色砂質土
28. 灰褐色粘質土
29. 黄灰白色砂質土  
(キメの細かい砂)
30. 暗褐色粘質土
31. 黄灰白色砂質土  
(キメの細かい砂)

32. 暗褐色粘質土  
(焼土粒・炭化粒を含む)
33. 黄灰白色砂質土
34. 茶褐色粘質土
35. 暗茶灰色砂質土  
(小粒の砂利を含む)
36. 灰褐色砂質土  
\* 6~36...第2南北街路  
(SF012)の形成土
37. 黄白色砂質土
38. 暗褐色粘質土  
(焼土粒・炭化粒を含む)
39. 暗褐色粘質土  
(SD040の埋土)



197図 SF012土層断面図 (1/30)

183, 189

④

2. 道路・溝

SF012 (第196~198図)

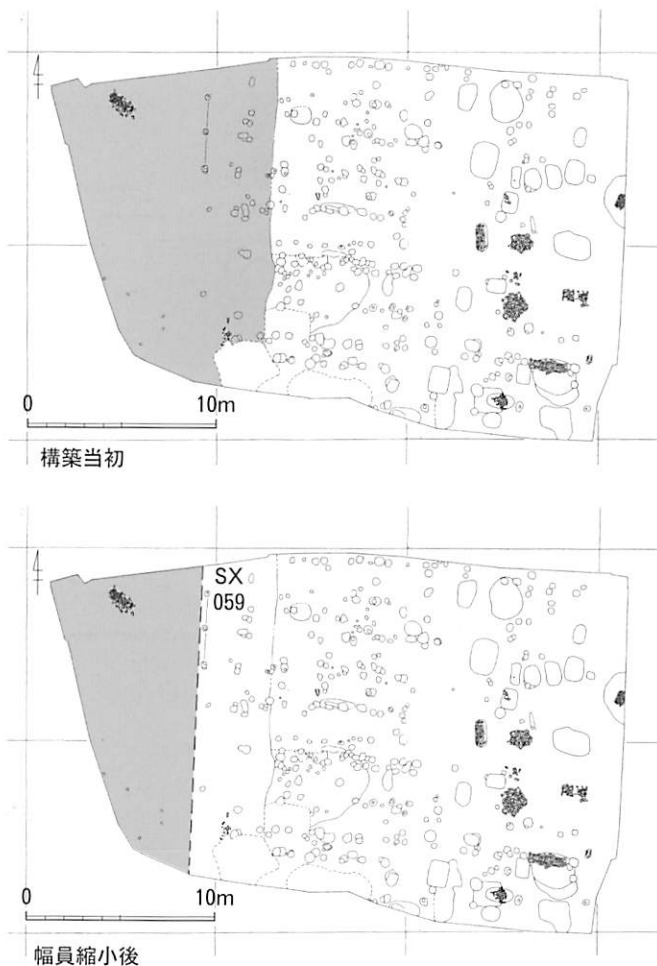
SF012は「第2南北街路」とした道路遺構である。本調査区では調査区西側に相当するJ17~K18区を南北方向に縦走する形で検出された。本調査区においては、SF012に伴う明確な道路側溝が確認されていない。これについては、本来側溝は存在していたものの、近世初頭以降の整地によって削平されてしまった可能性がひとつ考えられる。ただし、本調査区では第12次調査区や第18次調査区で検出されたような石組み施設を有するものや埋土に焼土が混入する溝の延長部は全く確認されておらず、本調査区周辺には明瞭な道路側溝が当初から構築されていなかったと考えることも可能である。この場合、街路東側に存在する町屋関連の遺構群と道路との境界が不明瞭であったことが指摘される。第197図土層⑤の観察所見によると、SF012の構築に当たっては地山を緩やかに掘り窪め、当該部位に砂質土と粘質土を交互に積み上げることによって路面を形成する手法が採用されている。また、土層⑤の一部に街路東端部と推定される土層の堆積が認められ、当該土層の平面的な広がりを確認することにも成功した。このことから、本調査区におけるSF012構築当初の幅員は最大で約12mを測ることが判明した。その後、街路は改修時にかさ上げを繰り返したらしく、堆積が確認される複数の砂質土上面はいずれも硬化面を形成しており、道路の改修ないしかさ上げは6~7回を数えることができる。

町屋側からの施設の進出

土層で確認した街路東端ラインより西側には、幅約4mにわたって柱穴群が散在する地点がみられる。これらは本来街路であった地点に町屋側からの施設が進出してきたことを示唆しており、後述するSX059 (230頁参照) のように規格的な建物施設も存在するようである。これらの施設の進出により、約12mあった街路の幅員は8m前後まで縮小した可能性が高い (第198図)。

J17区で検出された集石遺構SX039 (詳細は228頁参照) は、第2南北街路を構成する整地層内に形成された遺構で、街路の改修時に路面の窪みなどをならず目的で投げ込まれた礫群であると推定している。また、平面プランを明確に検出できなかったが、調査区東壁 (第196図土層①) の土層観察時に、街路上位の整地層から掘り込まれた浅い掘り込みを確認しており、当該部分の埋土から、色調が明青色を呈するガラス玉 (第199図) が出土した。このガラス玉はキリシタン関連遺物である「コンタ」の可能性が高いと考えられているものである。

ガラス玉 (コンタ) の出土



第198図 第28次調査区におけるSF012変遷模式図 (1/400)

第2節 遺構と遺物

京都系土師器と瀬戸美濃系陶器天目碗の出土

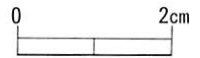
第2南北街路は、16世紀後葉を遡らない

ガラス玉 (コンタ?)

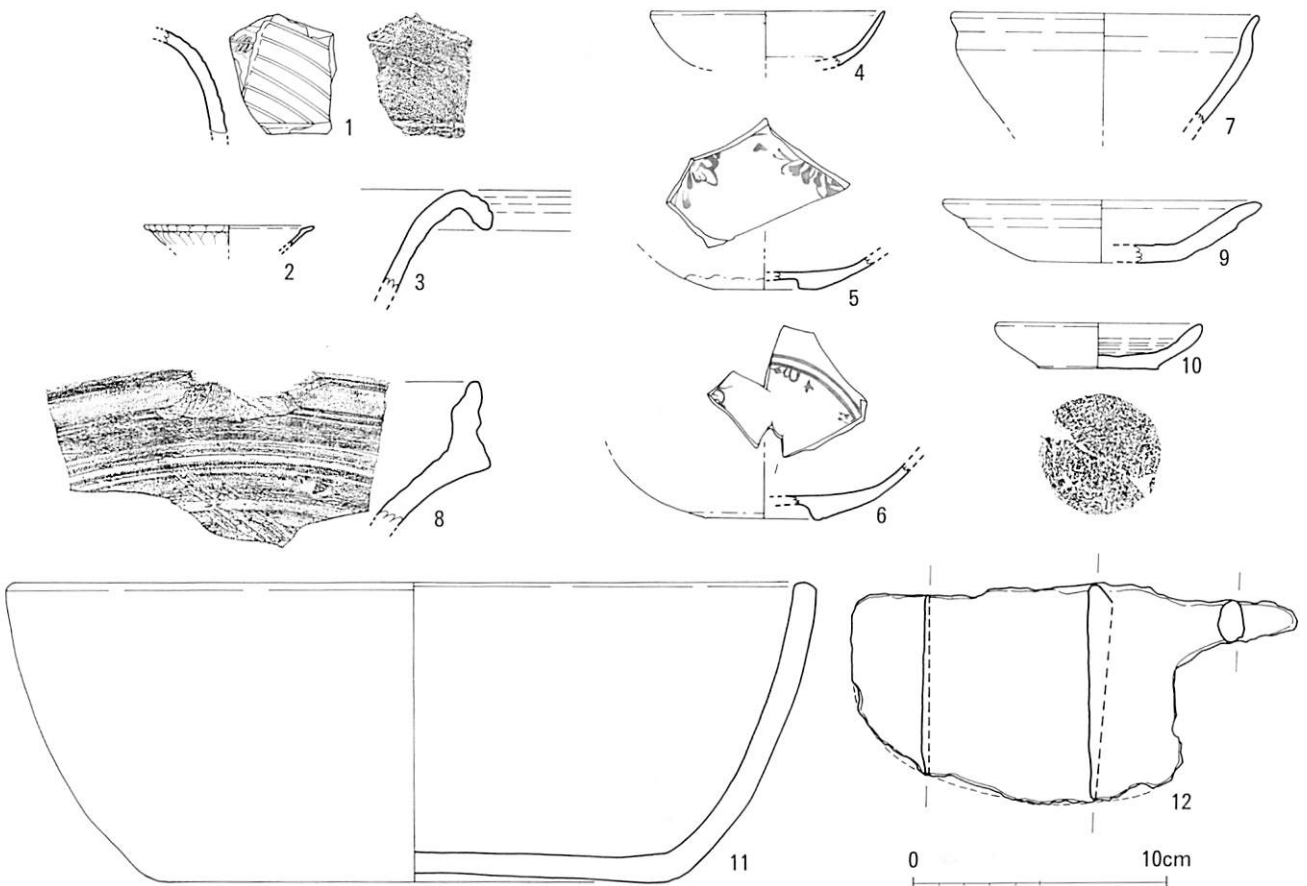
第2南北街路を構成する土層群の中で最も下位に位置し、地山の直上に堆積する土層はきめの細かい砂質土である。この土層は第2南北街路を構成する土層群の中で最も古い時期に構築されたものであるが、当該土層中より京都系土師器皿と瀬戸美濃系陶器天目碗が出土した(第200図7・9)。京都系土師器皿は器壁が厚く、2期に比定される製品でもやや新しい様相を呈し、瀬戸美濃系天目碗は大窯3期に編年される製品である。これらの遺物は第2南北街路構築の初源期を示唆するものとして注目しておきたい。以上の事象より、「府内古図」にみられるようなメインストリートとして第2南北街路が整備される時期は、16世紀後葉を遡らない可能性が高いと考える。なお、第2南北街路を構成する整地層をすべて除去した面には、若干の柱穴群や溝・土坑などが少数検出できたが、遺構密度は極めて疎散的なものであったことを付記しておきたい。

SF012出土遺物(第199・200図)

第199図はガラス玉である。欠損により、全体の2分の1弱程度の破片となっている。現状で最大長1.0cm、最大幅1.2cm、重さ1.1gを測り、色調は明青色(コバルトブルー)を呈する。断面形態は花卉状で、5弁を有する形態に復元されるものと推定する。キリシタン遺物である「コンタ」の可能性が強く考えられる遺物である。SF012中に掘り込まれた浅い掘り込み(調査区東壁断面で確認)の埋土から出土している。出土地点は第196図土層①を参照されたい。第200図1は華南三彩鳥形水注の胴部破片で、外面には型成形による羽毛が表現されている。外



第199図 SF012出土遺物実測図①(1/1)



第200図 SF012出土遺物実測図(1/3)

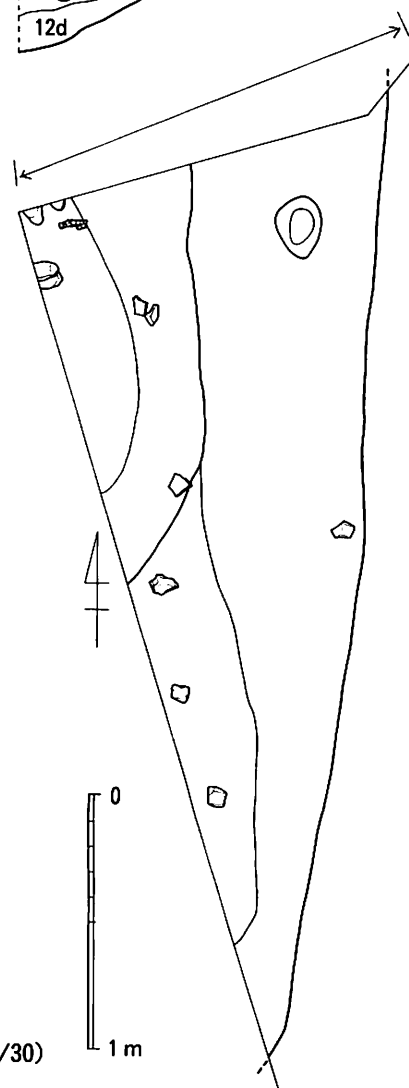
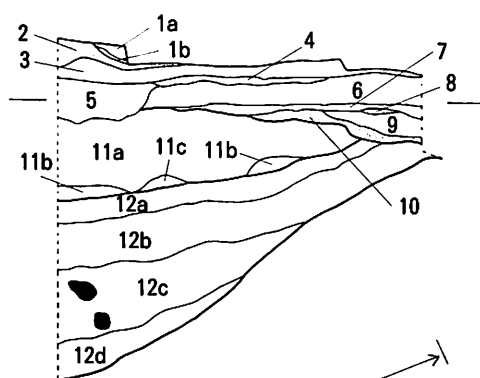
面には緑釉および黄釉の施釉が認められ、内面は露胎となる。2は青釉小皿の破片で、内外面には鮮やかなコバルトブルーの翡翠釉が施されている。3は焼締陶器壺の口縁部で、中国産と推定される製品である。口縁部外面には浅い凹線が認められる。4～6は中国景德鎮窯系青花である、4はE群青花皿で、内外面に圈線文のみが描かれる製品である。5・6は、いずれもC群青花皿の底部破片である。7は瀬戸美濃系陶器天目碗の口縁部から胴部にかけての破片で、底部を欠損する。大窯3期に比定される製品である。8は備前系陶器播鉢で、内面に放射状播目と斜め播目の一部が認められる。近世1期bに編年される資料である。9は京都系土師器の破片で、器壁がやや厚く、2期でもやや新しい様相を示す資料である。10は赤褐色系の胎土を使用した在地系の土師質土器皿で、内面にロクロ目を有し、底部は回転糸切りとなる。11は瓦質土器の鉢で、これも在地系の製品と推定される。内外面にナデあるいはミガキが施されている。12は鉄庖丁で、刃部が短く、先端が半月形を呈する製品である。その形態から、掛軸などの表装や裏打ちを行う際に、紙を切断する時に使用する「丸庖丁」と呼ばれるものであろう。

瀬戸美濃系  
陶器天目碗

京都系土師器

丸庖丁

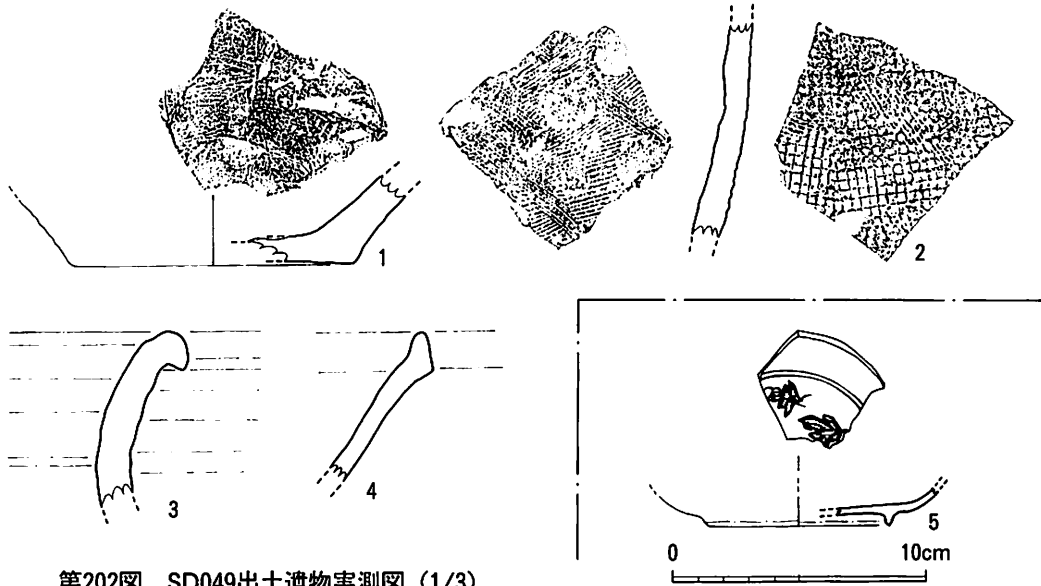
- |  |   |
|--|---|
| 1 a. 焼土を多量に含む明褐色粘質土                        | 8. 灰褐色砂質土                                       |
| 1 b. 炭を多量に含む砂質土                            | 9. 暗赤褐色粘質土                                      |
| 2. 灰黄褐色粘質土                                 | 10. 灰褐色砂質土                                      |
| 3. 暗黄褐色粘質土                                 | 11a. 暗褐色粘質土<br>(焼土粒を含む)                         |
| 4. 暗赤褐色粘質土<br>(鉄分、砂質土を多く含む。硬化する。)          | 11b. 暗褐色粘質土ブロック                                 |
| 5. 灰青色砂質シルト                                | 11c. 黄灰褐色粘質土ブロック<br>* 1～11…SF012(第2南北<br>街路)形成土 |
| 6. 暗褐色粘質土                                  | 12a. 灰青褐色粘質土<br>(焼土粒を含む)                        |
| 7. 灰褐色粘質土<br>(砂質土が水平に縞状に堆積する。上面に硬化面を形成する。) | 12b. 灰黄褐色粘質土                                    |
|  | 12c. 暗灰黄褐色粘質土                                   |
|  | 12d. 暗茶褐色粘質土                                    |



SD049 (第201図)

下層遺構群に所属する溝で、J17区に位置する。本調査区で検出された遺構の規模は、長さ3.4m、幅約1.4m、深さ約85cmを測る。溝の北側の延長部は第18次調査区側に伸び、第18次調査区のSD001と同一遺構である可能性が高い。この場合、第18次調査区と28次調査区で検出された当該遺構の総延長は、30m以上におよぶことになる。第2南北街路SF012によって完全にパックされており、SD049の埋土の上層には、溝の廃絶後に窪みとなった部位を意図的に埋めた土層や第2南北街路構築に伴う道路の構築土層が堆積する。底面付近の土層の堆積状況からは、明確な流水の痕跡は認められなかった。溝埋土からの出土遺物や第18次調査区における遺構の切り合い関係より、遺構の構築時期は14世紀代に遡る可能性が考えられる。

第201図 SD049実測図 (1/30)



第202図 SD049出土遺物実測図 (1/3)

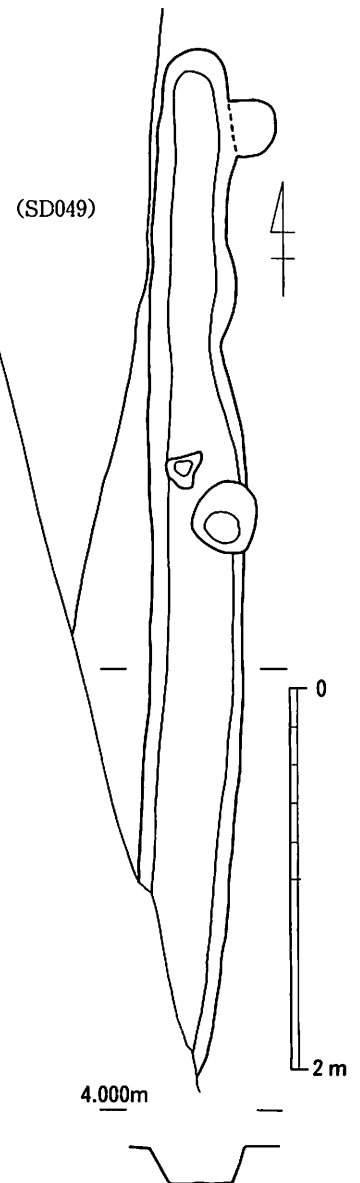
SD049出土遺物 (第202図)

1～4は須恵質土器の製品で、1は壺甕類の底部、2は大甕の胴部、3は口縁部、4は捏鉢の口縁部である。2については外面に格子目叩き、内面にハケ状工具による調整が認められる。いずれも14世紀以降の製品である可能性が高い。5は中国景德鎮窯系青花で16世紀後葉に比定されるE群青花皿である。5については、SD049出土遺物として取り上げられていたが、1～4と製作年代が大きくかけ離れている遺物であるため、取り上げミスのか、上位に堆積する第2南北街路SF012の包含遺物が混入したものであろう。

青花は混入

SD053 (第203図)

下層遺構群に所属する溝で、J17区に位置する。その規模は、長さ5.4m、幅約0.4m、深さ約20cmを測る。本調査区では溝の北端部を確認し、南側はさらに調査区外に伸びる。掘立柱建物SB060の構築によって切られており、第2南北街路SF012によって完全にバックされている。遺構の構築順序をまとめると、SD053→SB060→SF012となる。なお、西側に位置する溝SD049と接近した位置に構築されていることから、両者は同時に併存したとは考えられないが、これらのふたつの遺構の切り合い関係は確認できていない。SD053からの出土遺物は認められず、詳細な構築時期は不明であるが、層位的な所見や切り合い関係から、14世紀から15世紀前葉以前に遡る遺構と認識している。



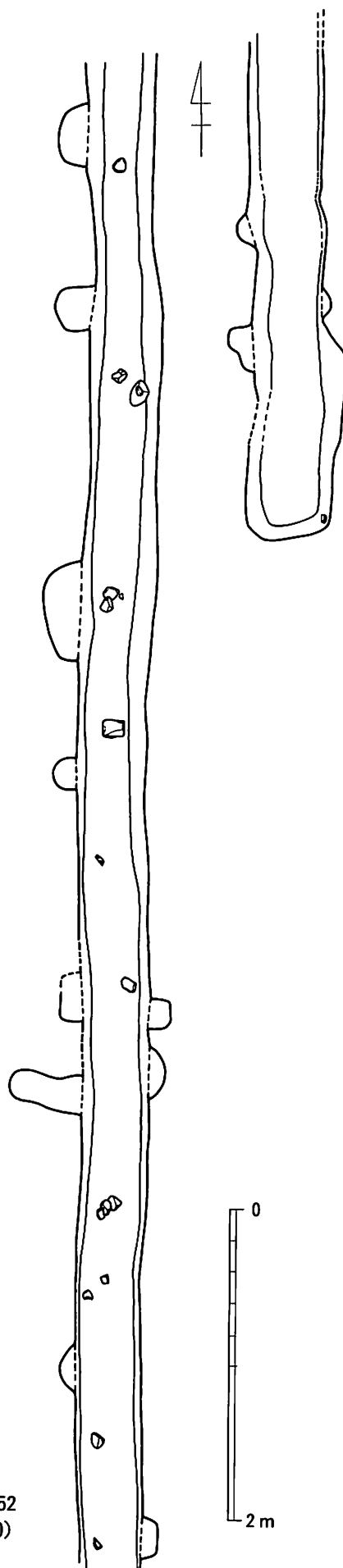
第203図 SD053出土遺物 (1/40)

SD040・SD052 (第204図)

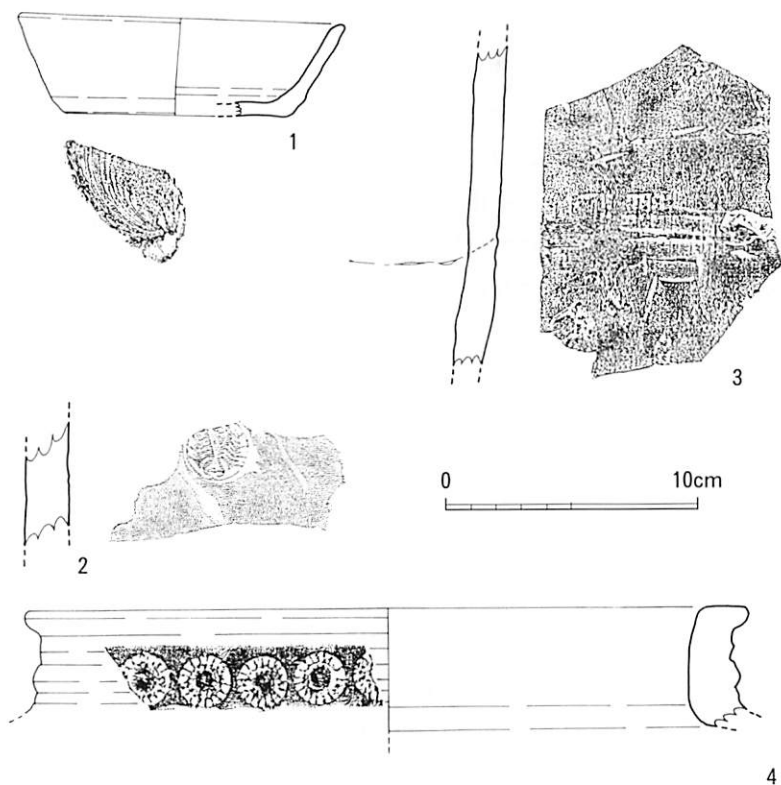
いずれも下層遺構群に所属する溝で、K17・K18区に位置する。SD040は調査区を縦断するような形で検出され、その規模は長さ14.2m、幅約0.6m、深さ約70cmを測る。延長部の北側は第18次調査区に続き、南側は近年の攪乱によって破壊されている。第18次西調査区では溝北端の終息部が確認されており、18次調査区と28次調査区で検出された当該遺構の総延長は、約17mとなる。南側の終息部は攪乱により不明であるが、第22次調査区では当該溝の延長部は確認されていない。溝の断面形態は逆台形状を呈し、第2南北街路SF012に完全にバックされている。埋土は単一の暗褐色粘質土で、一気に埋められたような土層の状況を呈している(第197図土層④参照)。出土遺物は僅少であるが、土師質土器などの特徴から、遺構の所産時期は14世紀後葉から15世紀前葉に比定しておきたい。SD052は長さ4.8m、幅約0.3m、深さ45cmを測る。延長部の北側は第18次調査区に連続する。第28次調査区では溝南端の終息部を確認している。断面形態や埋土の状況はSD040と類似しており、第2南北街路SF012の構築によって、完全にバックされている。出土遺物が極めて少なく、遺構の詳細な構築時期を確定できないものの、14世紀後葉から15世紀前葉に比定される可能性が高い。

SD040出土遺物 (第205図)

1は赤褐色系の胎土で製作された在地系の土師質土器片である。4分の1程度の破片で、底部外面は糸切りとなる。14世紀後葉から15世紀前葉に比定される製品である。2は土師質土器の製品であるが、破片のため、器種不明である。土師質土器にしては硬質に焼き締められている印象を受け、内面に二枚葉をモチーフとした刻印が認められる。3は焼締陶器大甕の胴部で、外面に特徴的な叩き目が認められることから、常滑系陶器であろう。4



第204図 SD040・SD052  
実測図 (1/80)

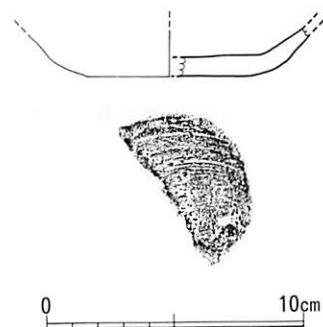


第205図 SD040出土遺物実測図 (1/3)

は瓦質土器の風炉または火鉢である。所産時期やその形態から、在地系というよりも、搬入品である可能性を考慮したい遺物である。

SD052出土遺物 (第206図)

図示した遺物は、土師質土器杯の底部である。赤褐色系の胎土が使用されており、外底部には糸切り痕が認められる。14～15世紀前葉に比定される在地系の製品であるが、破片であるため、詳細な年代を確定できない。

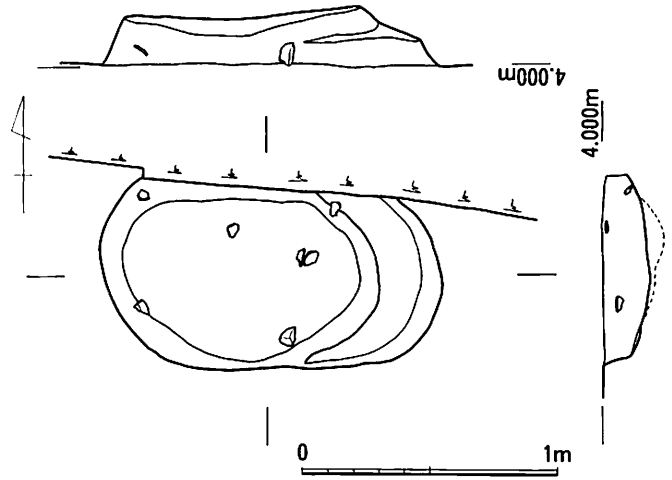


第206図 SD052出土遺物実測図 (1/3)

3. 土坑

SK002 (第207図)

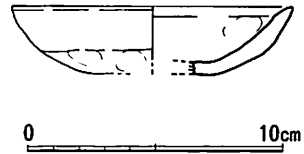
上層遺構群に所属する土坑で、K17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、南側は近年の掘削で破壊されている。規模は長径1.35m、短径0.7m、深さ20cmを測る。埋土は焼土を多く含む暗褐色土である。出土遺物には京都系土師器や白磁などがあるが、少量でしかも小破片である。廃棄土坑と思われる、遺構の時期は埋土中から出土した遺物より、16世紀後葉から末葉に比定される。



第207図 SK002実測図 (1/30)

SK002出土遺物 (第208図)

図示した遺物は京都系土師器皿で、16世紀後葉から末葉に比定される遺物である。



第208図 SK002出土遺物実測図 (1/3)

SK007 (第209図)

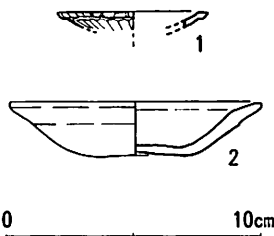
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径1.25m、短径0.8m、深さ40cmを測る。遺構上面より、青釉小皿・京都系土師器等の小片が少量出土した。埋土中位より以下からは、遺物が出土していない。廃棄土坑と思われる、遺構の時期は出土遺物の年代観や層位的な所見より、16世紀後葉から末葉に比定される。

SK007出土遺物 (第210図)

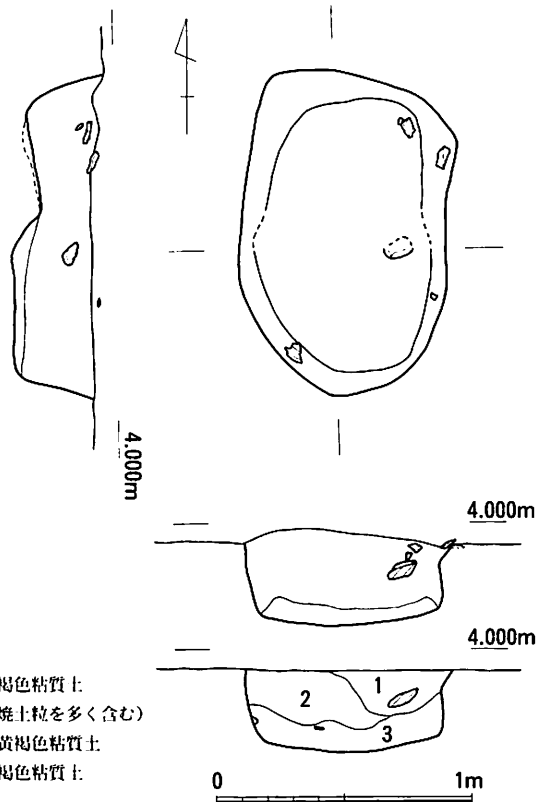
1は中国産の青釉小皿の破片である。2は京都系土師器で、2期の特徴を有するものである。1は16世紀代、2は16世紀後葉以降に比定される遺物である。

SK008a・SK008b (第211図)

上層遺構群に属する土坑で、K17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、SK008aの規模は長径2.2m、短径1.8m、深さ95cmを測る。SK008bは北西側をSK



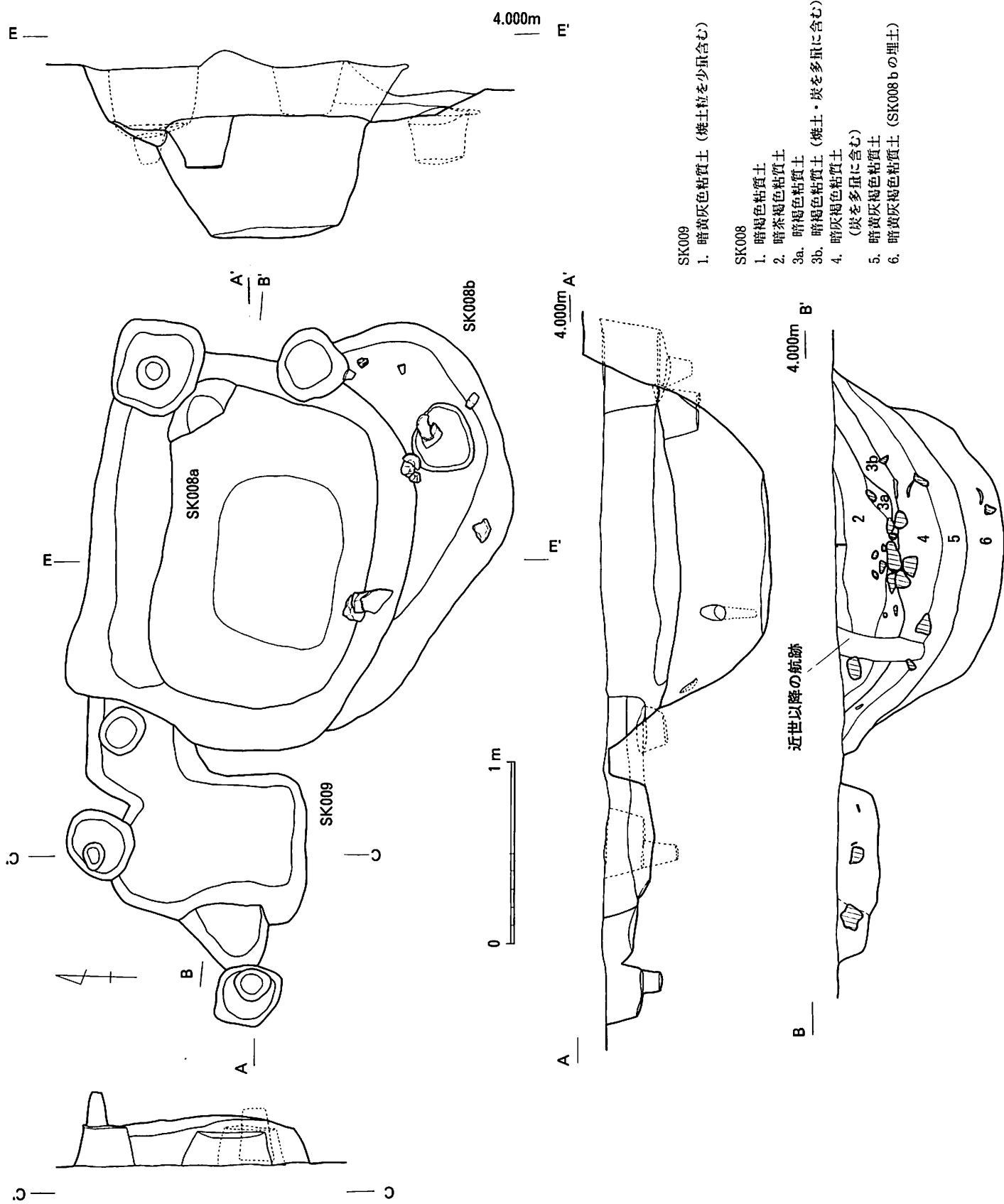
第210図 SK007出土遺物実測図 (1/3)



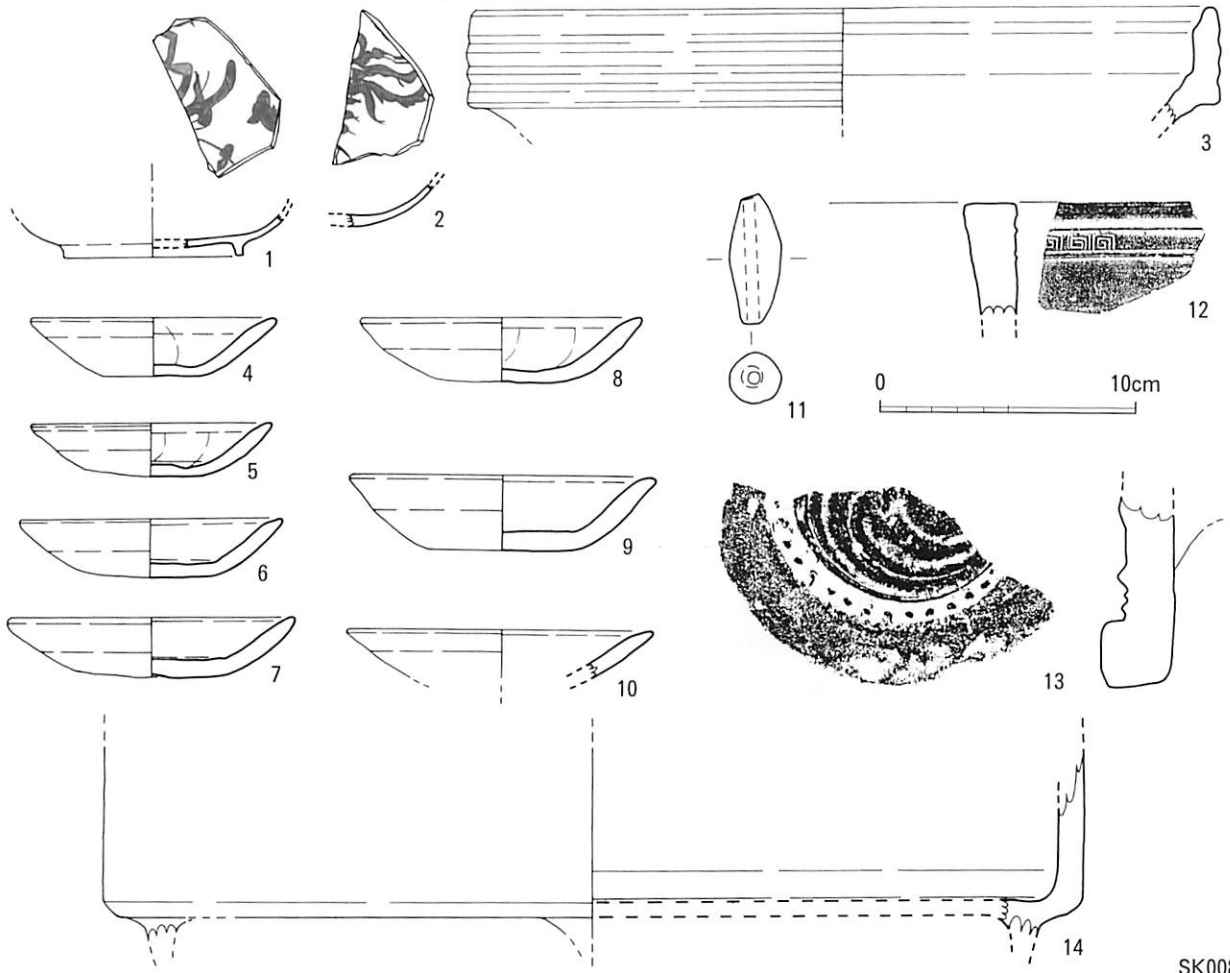
第209図 SK007実測図 (1/30)



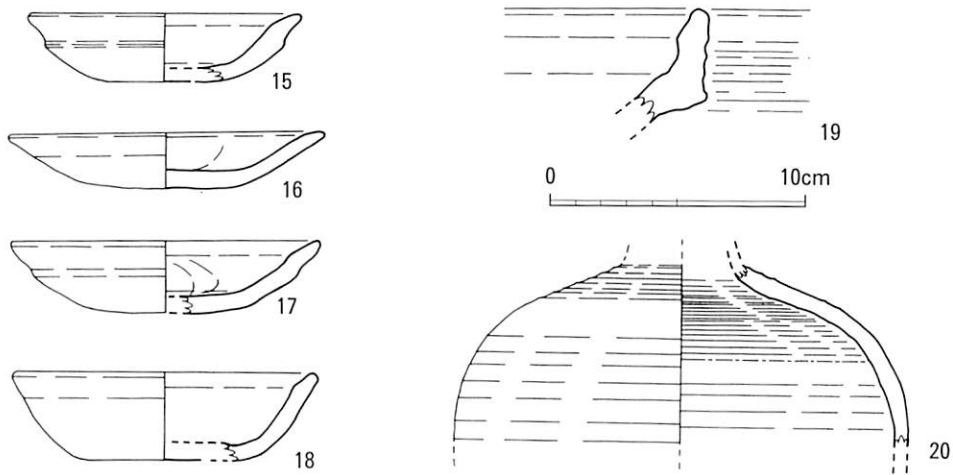
第2節 遺構と遺物



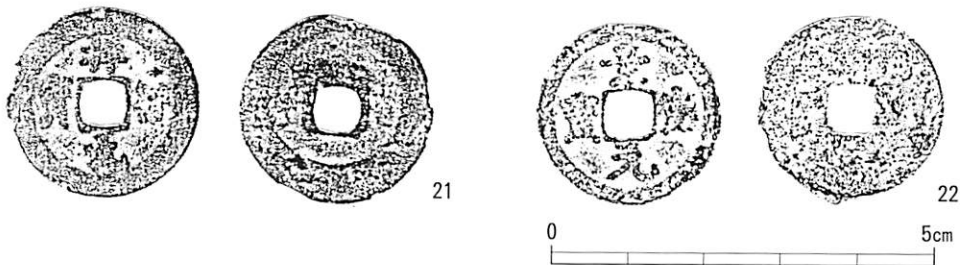
第211図 SK008a・008b・009実測図 (S=1/30)



SK008a



SK008b



第212図 SK008a・008b出土遺物実測図（1～20は1/3、21・22は1/1）

008aによって破壊されているが、長径2 m以上、短径1.5m、深さ20cmを測る。SK008aとSK008bは互いに切り合い関係にあり、さらにSK008aの上面には集石遺構SX006が構築されている。以上の切り合い関係から、SX006→SK008b→SK008aの順で構築されていることが判明するが、出土遺物の様相にほとんど差異が認められない。SK008aの埋土中には焼土層が認められるものがあり、当該焼土が天正14年（1586）に形成されたものと仮定すると、SK008aとSK008bは16世紀後葉から末葉に、SX006は16世紀末葉以降に比定される可能性が高い。出土遺物も上記の想定と矛盾しないものと考えている。いずれも廃棄土坑であろう。

天正14年の  
焼土

**SK008a出土遺物（第212図1～14・21）**

1・2は中国景德鎮窯系の青花皿で、小野正敏分類のE群に属する製品である。いずれも16世紀後葉に比定される。2の内面文様は鳳凰文の一部と推定される。3は備前系陶器播鉢の口縁で、中世6期（16世紀前葉）以降に比定される。4～10は京都系土師器皿で、2期あるいは3期の特徴を示す。11は土錘である。12は在地産の瓦質土器火鉢の口縁部で、口縁外面の2条突帯間に刻印による二連雷文を施す。13は右回転の巴文を有する軒丸瓦である。14は瓦質土器の火鉢で、胴部下位の破片と思われる、板状の脚部を有する器形に復元される製品である。21は中国北宋代の銅銭で、「祥符元寶」である。書体は真書体で、初鑄年代は1008年である。

**SK008b出土遺物（第212図15～20）**

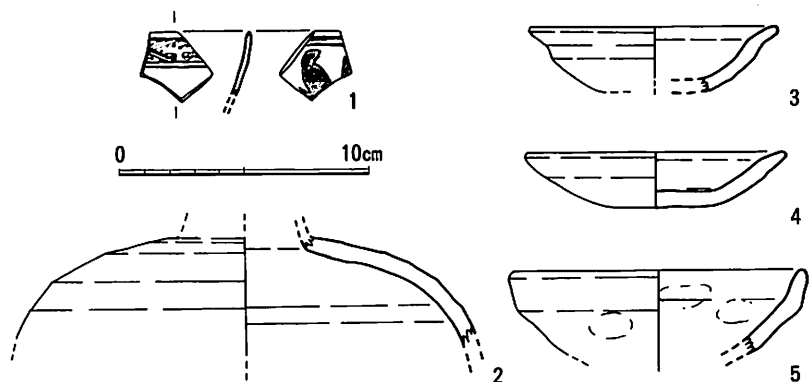
15～18は京都系土師器で、15～17は皿、18は坏である。いずれも2期または3期に比定されるが、器壁が厚い3期の特徴を有するものが主体を占める。19は備前系陶器播鉢の口縁で、中世6期（16世紀前葉）以降に比定される製品である。20は中国産の白磁瓶で、肩部付近の破片である。外面に白磁釉を施し、内面は露胎となる。22は中国北宋代の銅銭で、「景德元寶」である。書体は真書体で、初鑄年代は1004年である。

**SK009（第211図）**

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略長方形を呈し、その規模は長辺1 m、短辺0.8m、深さ20cmを測る。周辺の柱穴や土坑と切り合い関係を有するが、すべての遺構に切られている。埋土は焼土粒を少量含む暗黄灰褐色土で、遺構中位より完形品の京都系土師器皿や磁器片が出土している。廃棄土坑と思われる、遺構の時期は出土遺物の年代観より、16世紀後葉から末葉に比定される。

**SK009出土遺物（第213図）**

1は中国景德鎮窯系青花で、E群青花碗に分類される製品である。外面に鳥文、内面に四方禪文が描かれている。16世紀後葉に比定されるものである。2は中国産の白磁瓶で、肩部付近の破片である。外面に白磁釉を施し、内面は露胎となる。3～5は京都系土師器で、3・4は皿、5は坏である。このうち、4は埋土中位から出土した完形品である。いずれも2期から3期の特徴を有する製品である。



第213図 SK009出土遺物実測図（1/3）

SK010 (第214図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略長方形を呈し、その規模は長辺1.4m、短辺1.0m、深さ20cmを測る。南側に位置する柱穴を切って構築されている。埋土は上位に多量の焼土を少量含む層で構成され、遺構上位より京都系土師器、下位より銅製品などが出土している。焼土を多量に含むことから、天正14年(1586)の火災処理土坑である可能性が考えられる。

埋土は焼土

SK010出土遺物 (第215図)

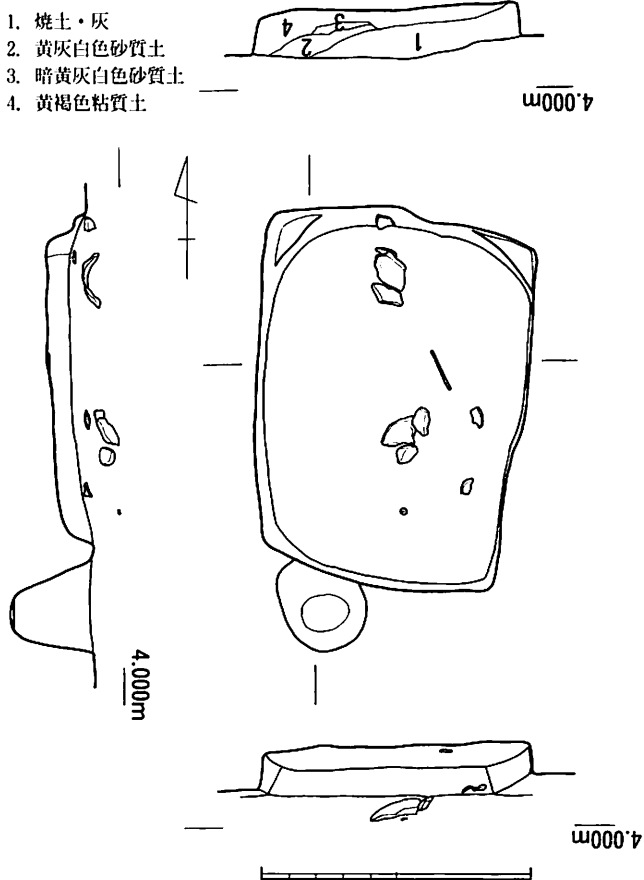
1は京都系土師器Ⅲで、2期から3期の特徴を示す製品である。2は銅製品であるが、用途不明である。

SK011 (第216図)

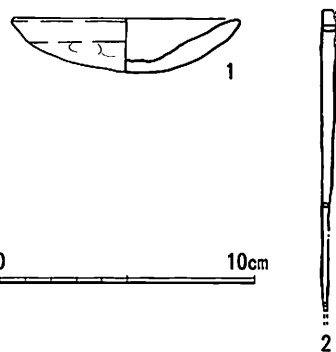
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径1.4m、短径0.9m、深さ15cmを測る。土坑SK022、集石遺構SX005と切り合い関係を有し、遺構の構築順序はSK022→SK011→SX005となる。遺構上面から京都系土師器等の遺物が、埋土上位から中位にかけて礫が出土している。出土遺物や層位的な所見より、遺構の年代は16世紀末葉頃に比定される。

SK011出土遺物 (第217図)

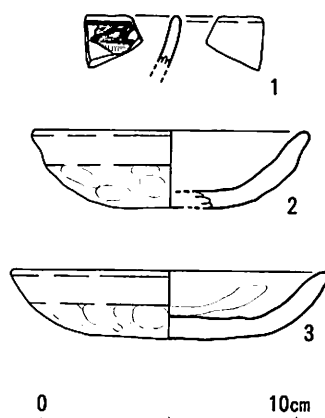
1は中国景德鎮窯系青花で、E群青花碗の口縁部である。



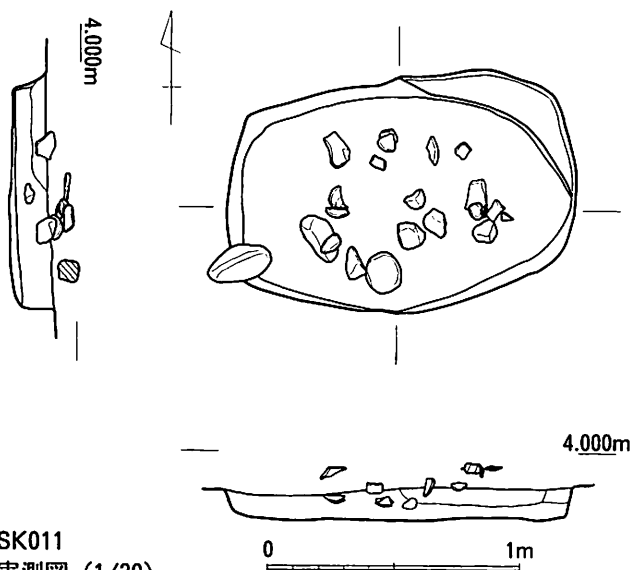
第214図 SK010実測図 (S=1/30)



第215図 SK010出土遺物実測図 (S=1/3)



第217図 SK011出土遺物実測図 (1/3)



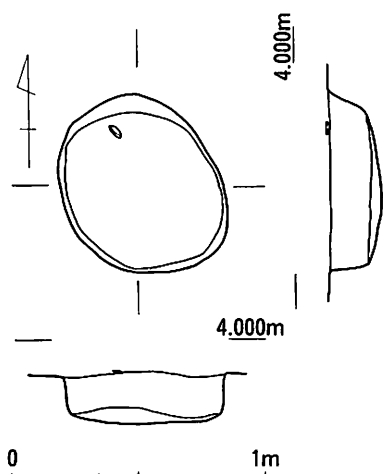
第216図 SK011  
実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物

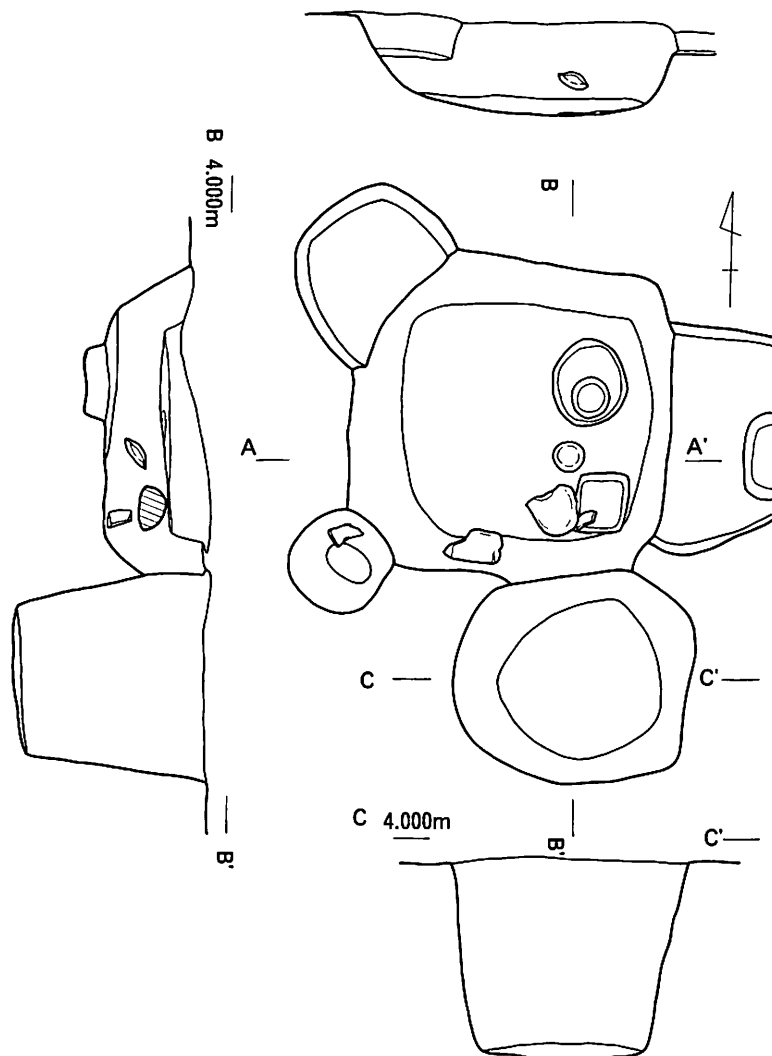
16世紀後葉の所産である。  
2・3は京都系土師器で、器壁が厚いことや器高が高いことから3期に比定される製品である。

SK015 (第218図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略円形を呈し、その規模は径0.65m、深さ20cmを測る。土坑SK022を



第218図 SK015実測図 (1/30)

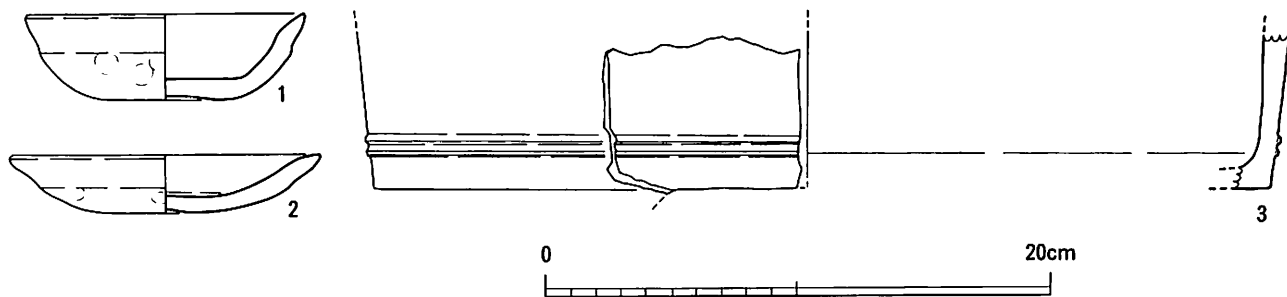


第219図 SK016・022実測図 (1/30)

切って構築されており、構築順序はSK022→SK015となる。遺構上面から、二次的に被熱した京都系土師器が出土しているが、当該遺物は本来切り合い関係にあるSK022の帰属遺物であった可能性が高い。廃棄土坑と推定され、遺構の年代は16世紀後葉から末葉に比定される。

SK016 (第219図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略円形を呈し、その規模は径0.9m、深さ80cmを測る。土坑SK022を切って構築されており、構築順序はSK022→SK016となる。出土遺物は小片で、図示可能なものは認められない。通常の廃棄土坑より深さが深く、遺構の性格は不明



第220図 SK022出土遺物実測図 (1/3)

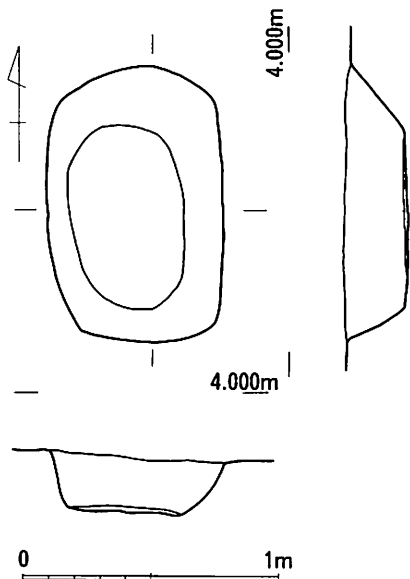
である。切り合い関係等から、遺構の年代は16世紀後葉から末葉に比定される。

**SK022 (第219図)**

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略方形を呈し、その規模は一辺1.25m、深さ35cmを測る。土坑SK011・015・016や集石遺構SX005と切り合い関係を有し、すべての遺構に切られている。埋土に焼土を多量に含むことから、天正14年(1586)の火災処理土坑である可能性が考えられる。出土遺物には埋土下位より京都系土師器の完形品が出土したほか、埋土中から瓦質土器の破片などが認められた。

**SK022出土遺物 (第220図)**

1・2は京都系土師器で、1は坏、2は皿である。このうち、2は埋土下位から完形の状態で出土した。いずれも器壁が厚く、3期の特徴を有する製品である。3は瓦質土器火鉢で、胴部下位には2条の突帯を有する。



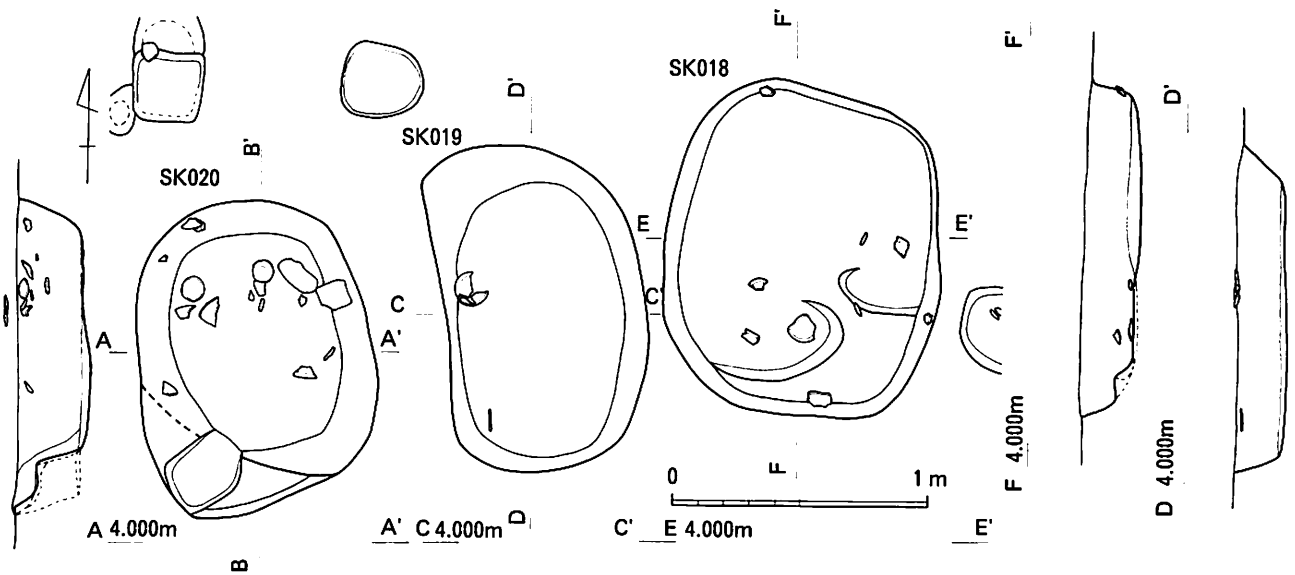
第221図 SK017実測図 (S=1/30)

**SK017 (第221図)**

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ20cmを測る。埋土は単一の暗褐色土で、出土遺物は認められない。廃棄土坑と推定され、層位的な所見から、遺構の年代は16世紀後葉から末葉である。

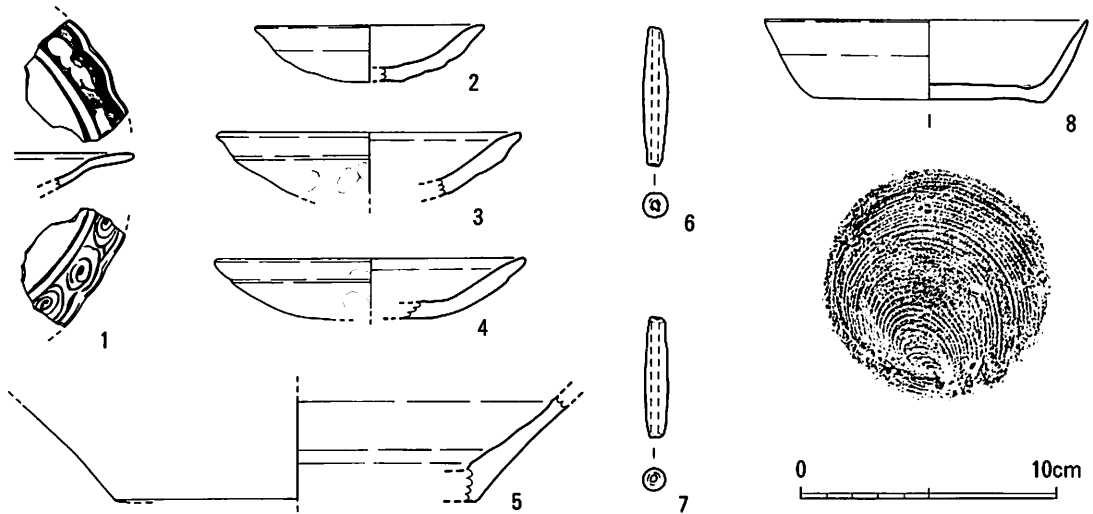
**SK018~SK020 (第222図)**

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。いずれも平面形態は略楕円形状を呈し、SK018の規模は長径1.1m、短径1.3m、深さ10cm、SK019の規模は長径1.3m、短径0.8m、深さ10cm、SK020の規模は長径1.2m、短径0.9m、深さ10cmを測る。いずれも廃棄土坑と推定され、出土遺物



第222図 SK018~020実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物



第223図 SK018出土遺物実測図 (1/3)

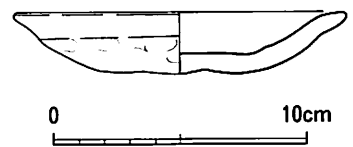
から16世紀後葉から末葉の所産と思われる。

SK018出土遺物 (第223図)

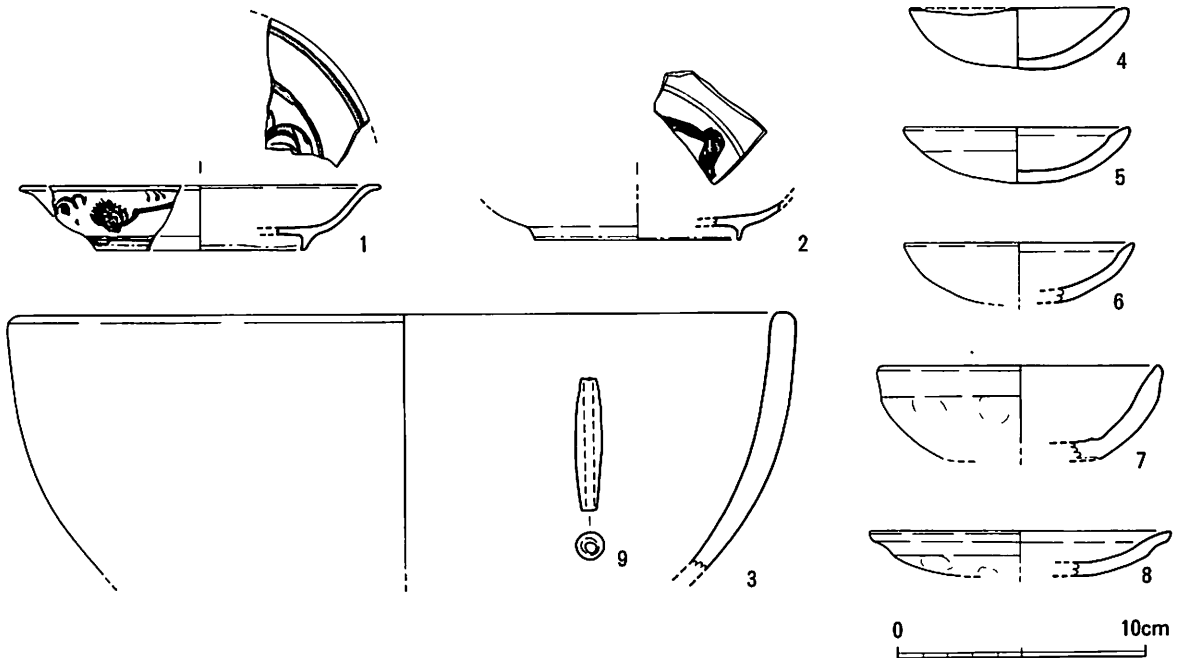
1は中国景德鎮窯系青花で、16世紀後葉に比定されるF群青花皿である。2～4は京都系土師器皿で、2期ないし3期の特徴を有するものである。5は中国産の黒釉陶器壺の底部で、外底部のみ露胎となる。6・7は土錘である。8は箱形を呈する在地産の土師質土器坏で、15世紀後葉以降に比定されるものである。8のみ、他の遺物と時代が合わないのので、混入品と推定する。

SK019出土遺物 (第224図)

図示した遺物は、京都系土師器皿である。2期あるいは3期の特徴を示す資料である。



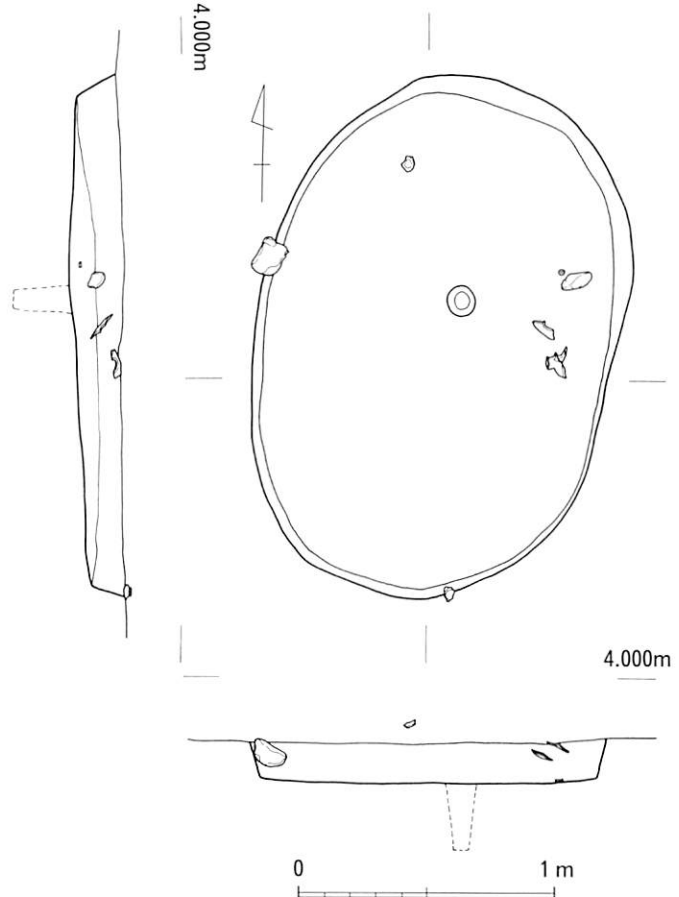
第224図 SK019出土遺物実測図 (1/3)



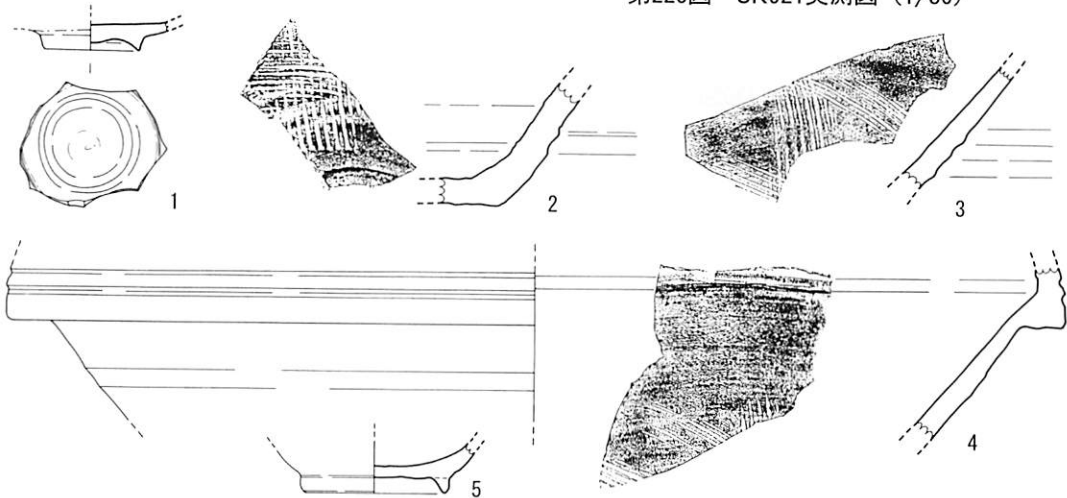
第225図 SK020出土遺物実測図 (1/3)

SK020出土遺物 (第225図)

1・2は中国景德鎮窯系青花で、1はB1群青花皿、2はE群青花皿である。3は瓦質土器の鉢で、在地系の製品と推定される。4～8は京都系土師器で、4～6・8は皿、7は坏である。いずれも2期あるいは3期の特徴を示す資料である。9は土錘である。



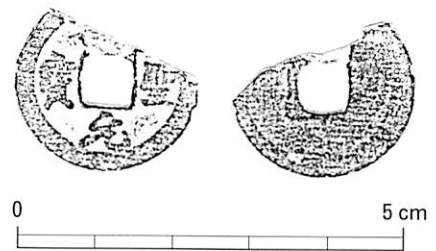
第226図 SK021実測図 (1/30)



第227図 SK021出土遺物① (1/3)

SK021出土遺物 (第227・228図)

第227図1は中国漳州窯系青花碗で、見込みと内底部が露胎となる。16世紀末葉の製品である。2～4は備前系陶器播鉢で、いずれも内面の播目は放射状播目と斜め播目を交差させる特徴をもつ。近世1期に分類され、16世紀末葉に比定される。5は瓦質土器碗の底部で、在地系の製品である。第228図に図示したものは中



第228図 SK021出土遺物② (1/3)

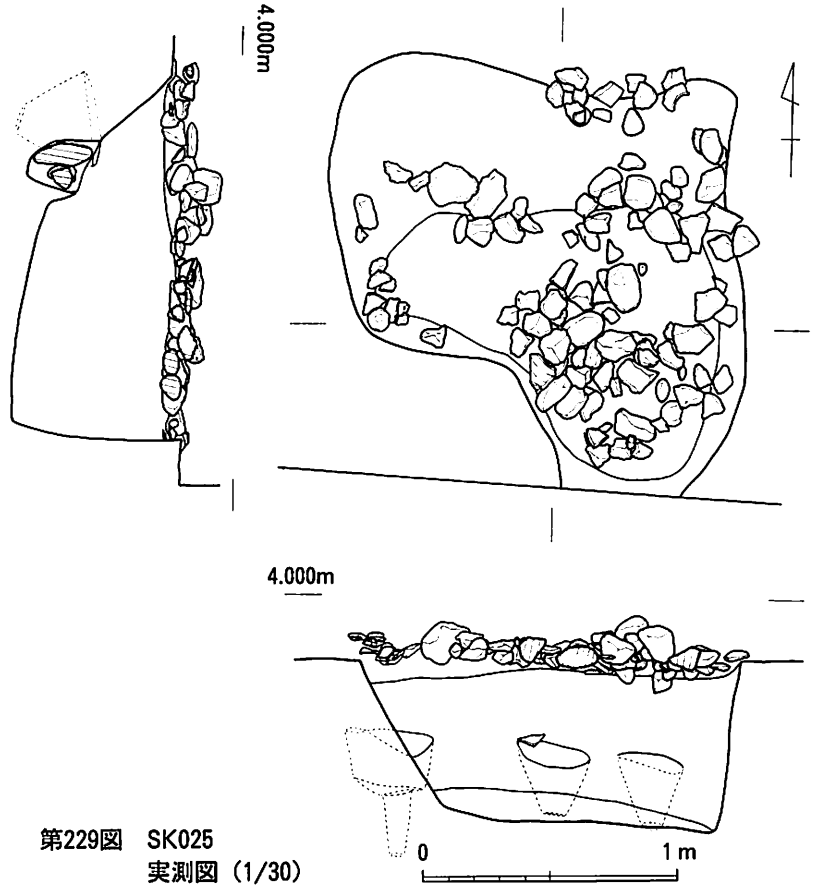


第2節 遺構と遺物

国産の銅銭で、行書による「口聖元資」の文字が判読できる。

SK025 (第229図)

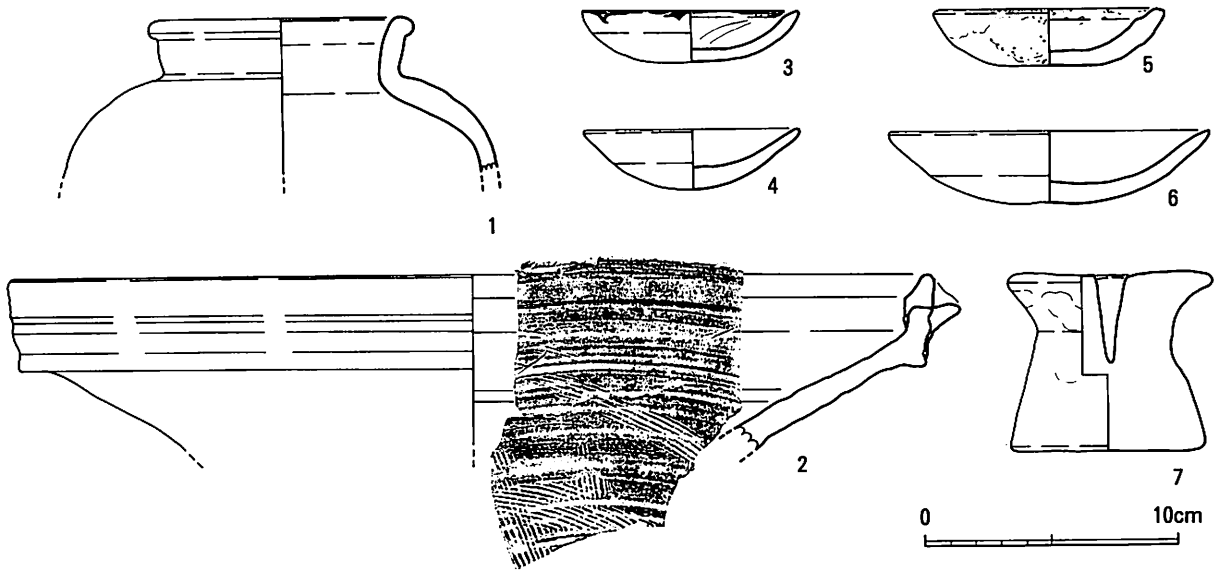
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は不整で、南北1.5m以上、東西1.6m、深さ60cmを測る。南側はさらに調査区外に伸びる。土坑SK035と切り合い関係を有する可能性があるが、互いの埋土の性状が類似しており、明確な前後関係を確定することができなかった。遺構上面から拳大の礫群を検出し、礫中から京都系土師器、備前系陶器、土師質土器燭台などが出土した。遺構の性格は不明である。出土遺物の年代観から、16世紀末葉の所産と推定される。



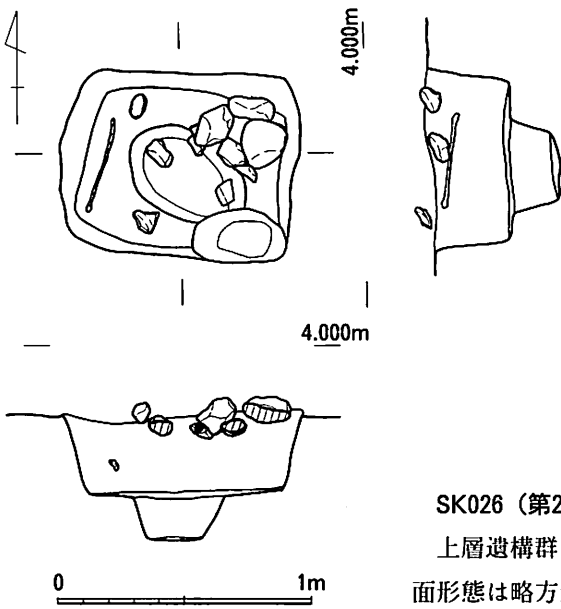
第229図 SK025  
実測図 (1/30)

SK025出土遺物 (第230図)

1・2は備前系陶器で、前者は壺、後者は挿鉢である。挿鉢については、内面の挿目の特徴から、近世1期(16世紀末葉)に比定される。3～6は京都系土師器皿で、2期あるいは3期の特徴を示す資料である。7は土師質土器の燭台で、底部はナデによって仕上げられている。



第230図 SK025出土遺物実測図 (1/3)

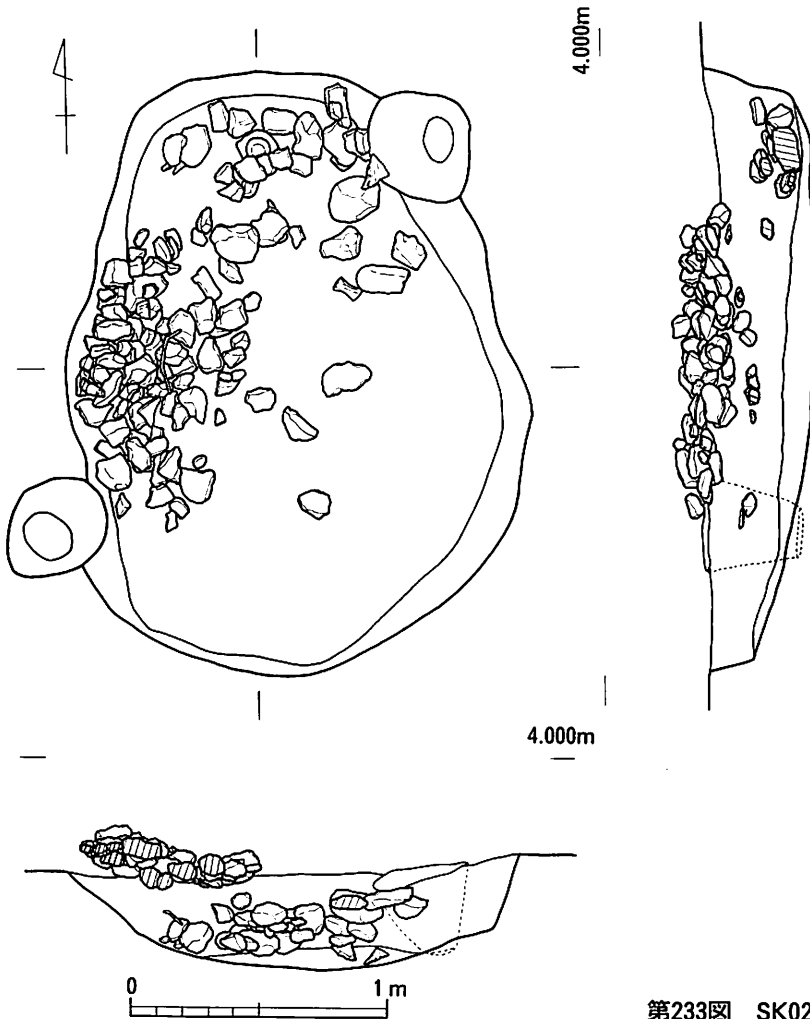
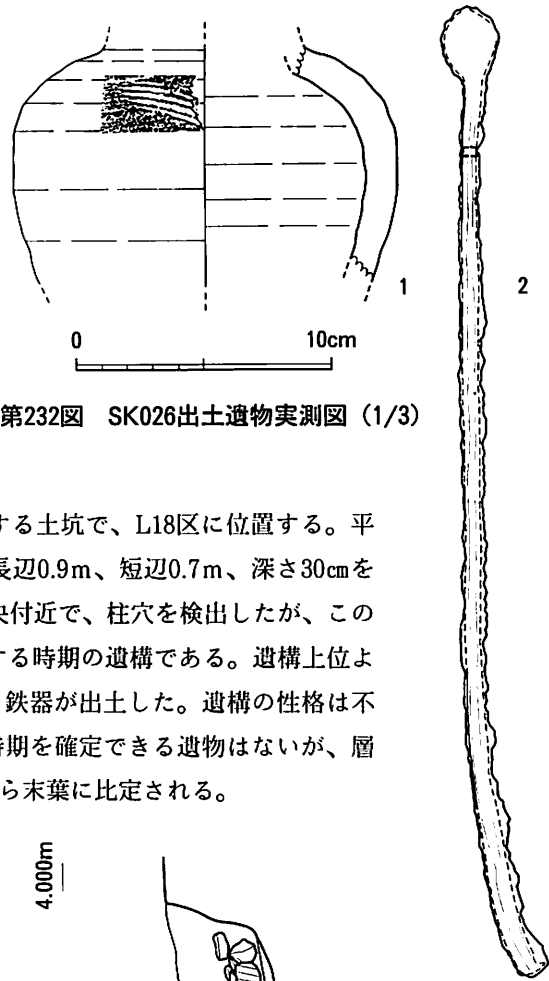


第231図 SK026実測図 (1/30)

SK026 (第231図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略方形で、長辺0.9m、短辺0.7m、深さ30cmを測る。なお、底面中央付近で、柱穴を検出したが、この柱穴はSK026に先行する時期の遺構である。遺構上位より備前系陶器壺の破片や拳大の礫、下位より鉄器が出土した。遺構の性格は不明であるが、廃棄土坑であろうか。詳細な時期を確定できる遺物はないが、層位的な所見より、土坑の年代は16世紀後葉から末葉に比定される。

第232図 SK026出土遺物実測図 (1/3)



第233図 SK028実測図 (1/1)

SK026出土遺物 (第232図)

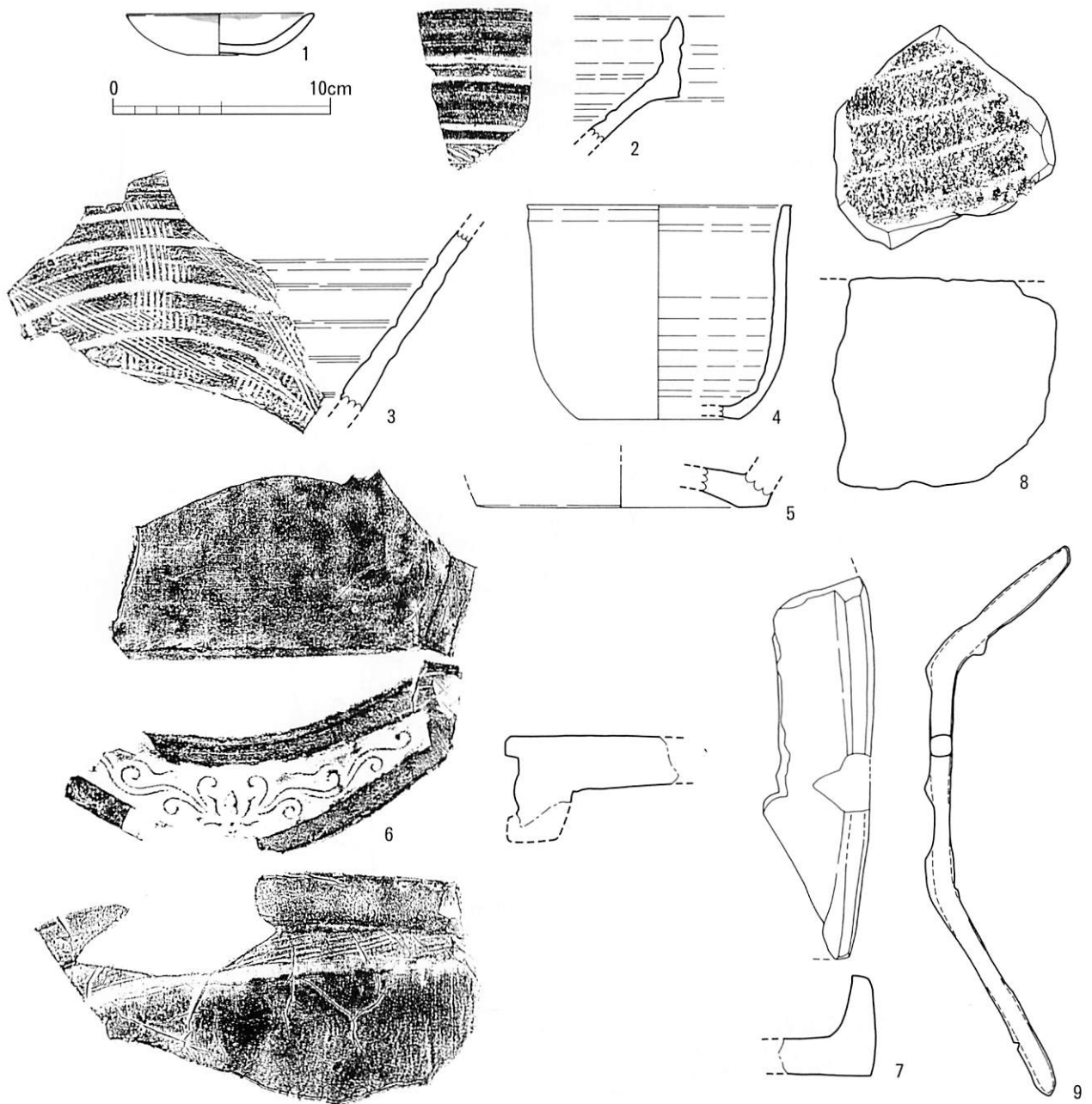
1は備前系陶器壺の破片で、肩部には櫛描波状文の一部が施されている。2は鉄器で、錆出が著しく、器種不明であるが、火箸等の製品である可能性が考えられる。

SK028 (第233図)

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。土坑は下層遺構群に属するSX031を切って構築されている。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径2.4m、短径1.7m、深さ40cmを測る。検出面上位の中央東寄りと埋土下位北側に拳大の礫が集積されている状況が認められた。出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀末葉に比定される。

SK028出土遺物 (第234図)

1は京都系土師器皿で、口縁端部には煤の付着が認められる。2期の特徴を有する資料である。



第234図 SK028出土遺物実測図 (1/3)

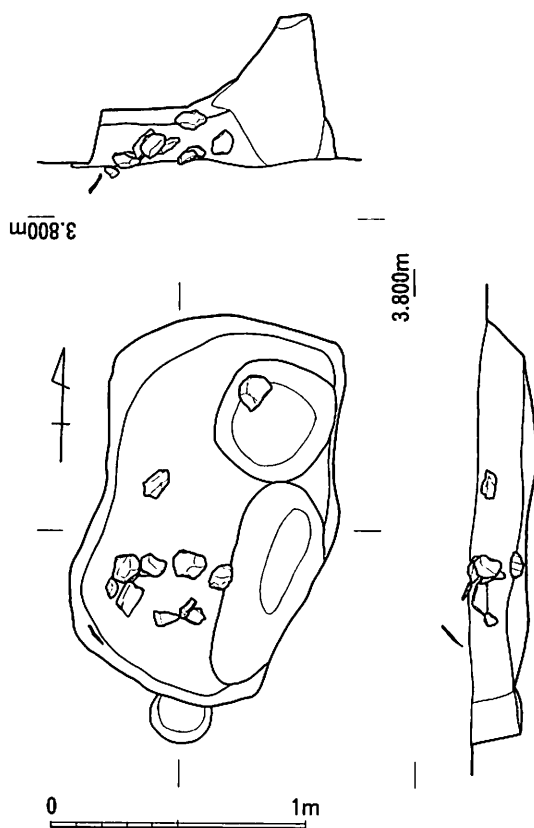
2・3は備前系陶器の播鉢で、内面には放射状播目と斜め播目が交差する播目が施されている。近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。4は備前系陶器の鉢で、やや特殊な器形を呈する製品である。5は中国産褐釉陶器壺の底部破片で、内外面に施釉され、外底部のみが露胎となる。6は瓦当面に均整唐草文を有する道具瓦である。7は瓦質の製品であるが、器形・用途ともに不明である。8は石臼の破片で、凝灰岩を素材としている。9は用途不明の鉄器である。なお、ここではタイ産四耳壺(SX013と接合) 図示していないが、備前系陶器四耳壺とタイ産メナムノイ窯系焼締陶器四耳壺の破片が出土しており、集石遺構SX013出土の破片の遺構間接合している。

SK029 (第235図)

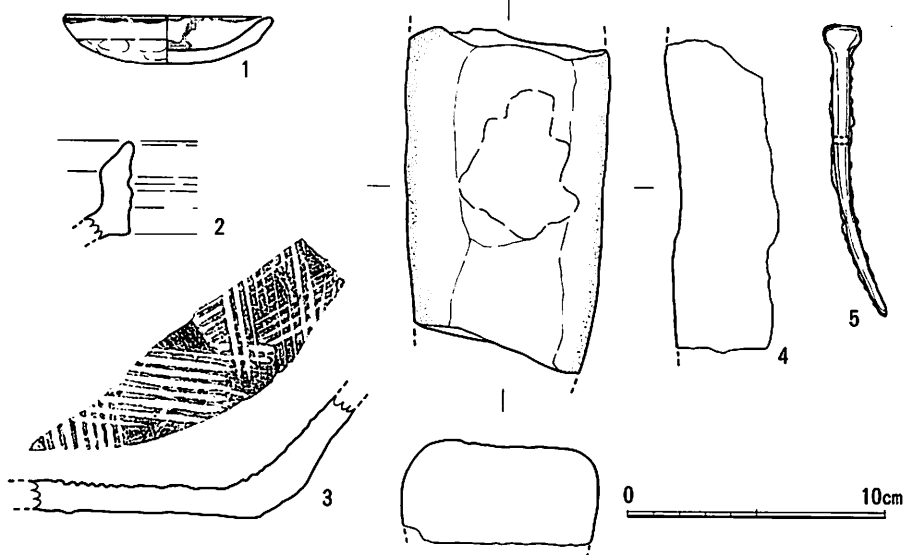
上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は不整形で、南北1.55m、東西0.9m、深さ20cmを測る。廃棄土坑と推定される遺構である。埋土中より、拳大の礫と遺物が少量出土した。周辺に分布する柱穴群と切り合い関係を有するが、すべての柱穴に切られている。出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀末葉に比定される。

SK029出土遺物 (第236図)

1は京都系土師質土器皿で、2期から3期の特徴を示す資料である。口縁端部に煤の付着が認められ、灯明皿として使用された状況を示している。2・3は備前系陶器播鉢で、2は口縁部、3は底部から胴部下位の破片である。口縁形態や播目の特徴などから、いずれも近世1期(16世紀末葉)に比定される資料である。4は叩石で、安山岩を素材とする。中央部に敲打痕が認められる。5は鉄釘で、錆出が著しいが、断面形態は方形を呈するものと思われる。



第235図 SK029実測図 (1/30)



第236図 SK029出土遺物実測図 (1/3)

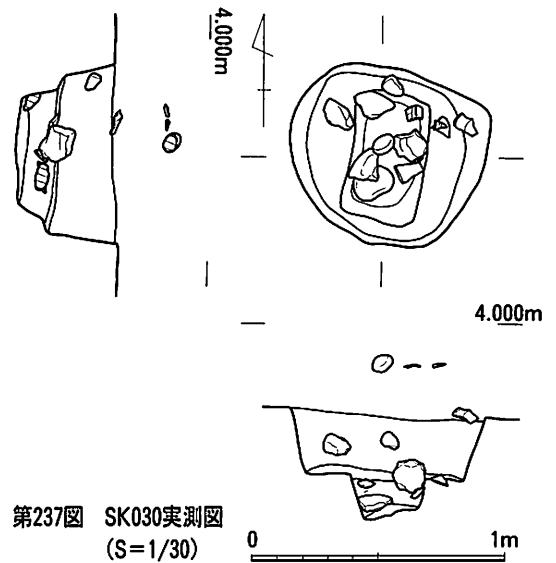
## 第2節 遺構と遺物

### SK030 (第237図)

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は不整形円で、断面は2段掘りとなり、その規模は径約0.8m、深さ40cmを測る。遺構上面や埋土中より、礫や遺物が少量出土している。通常の廃棄土坑と比較して、遺構の様相がやや異なるが、その性格は不明である。出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀後葉から末葉に比定される。

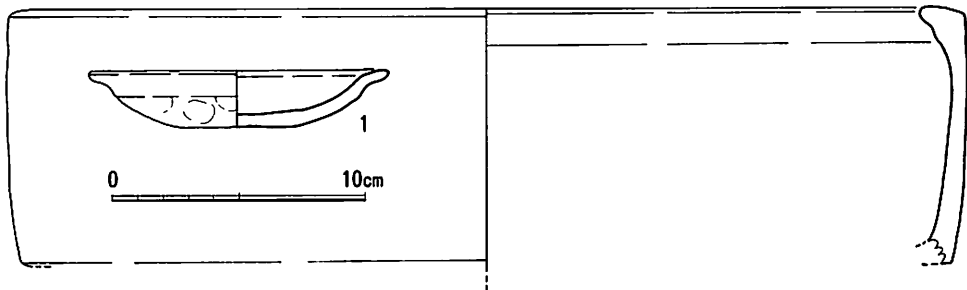
### SK030出土遺物 (第238図)

1は京都系土師器皿で、2期の特徴を示す製品である。2は瓦質土器の火鉢である。



### SK031 (第239図)

下層遺構群に所属する大型の遺構で、L17区に位置する。調査区の制限で遺構の一部を検出したに留まり、北側は18次調査区側に、東側は調査区外に伸びる。本調査区での規模は東西8.6m、南



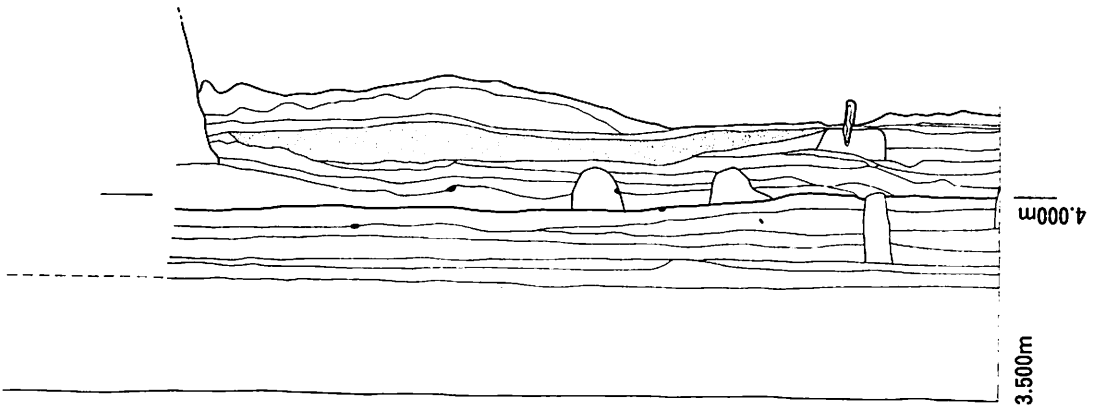
第238図 SK030出土遺物実測図 (S=1/3)

北5.5m、深さ1.1mを測る。埋土の状況は上層に灰黄褐色砂質土、下層に黄白色粘質土が堆積し、さらにその下位(最下層)に滞水状態と推定される粘質土層群が存在する。上層・下層と最下層は整合するため、前者をSK031a、後者をSK031bと呼称することにした。SK031aは土坑SK017・018・028、井戸SE027と切り合い関係を有し、すべての遺構に切られている。SK031aからは良好な出土遺物がないが、埋土上位から鉛玉(鉄砲玉)が出土していたことを確認している。(この鉛玉については、掘り下げ時のミスから調査途中で紛失した。)SK031bの埋土からは漆器製品や銅銭などが出土したが、遺構の構築時期を明確にする良好な遺物は出土していない。鉛玉の出土から、SK031aの時期は16世紀中葉以降に比定される。また、SK031bもSK031aと大きな時期差を有するものとは考えがたく、当該遺構の構築時期を16世紀代の時間幅の中で考えておきたい。遺構の性格は不明であるが、平面形態が不整形で大型であることから、現状では土取り遺構の可能性を考えている。

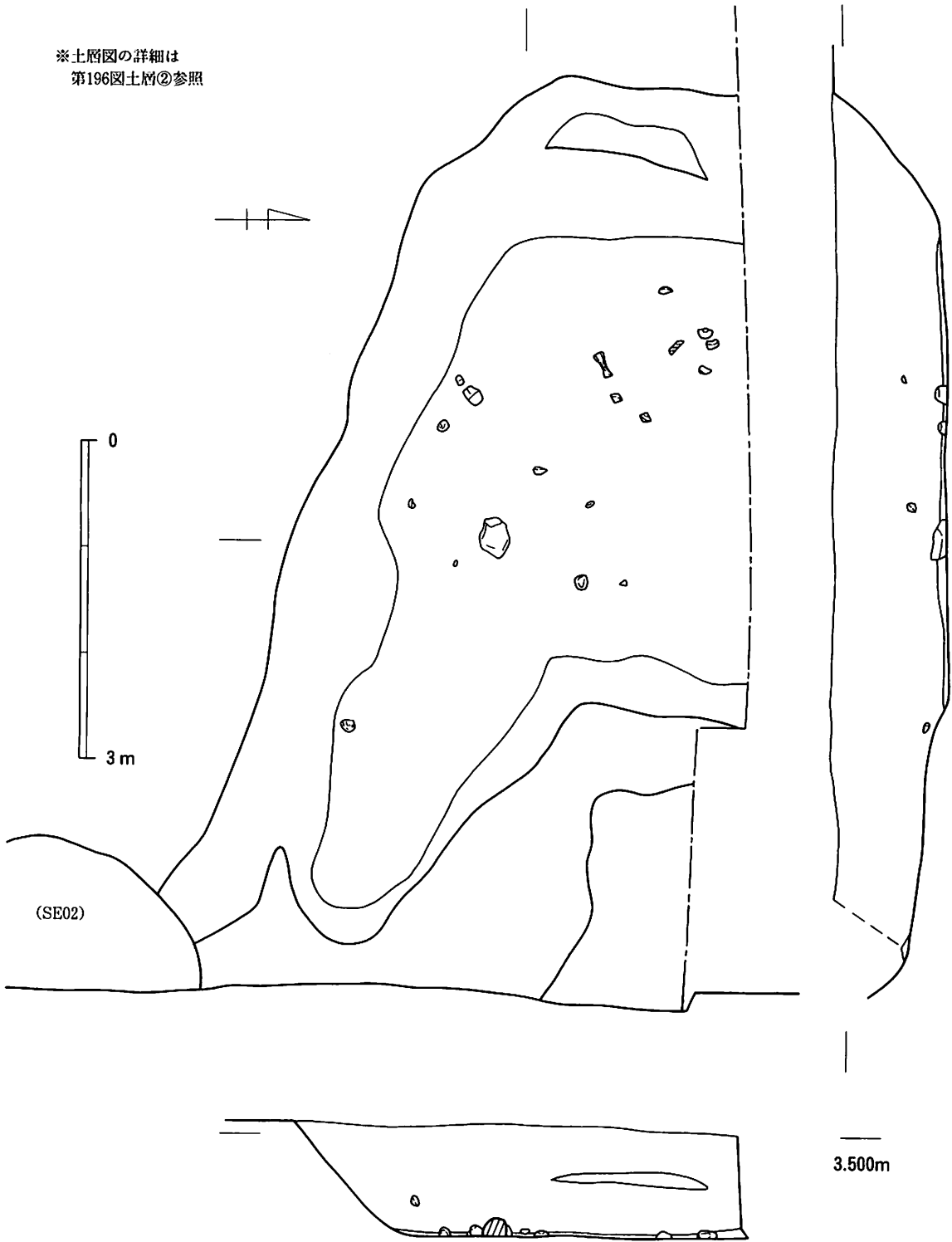
### SK031b出土遺物 (第240図)

漆器製品

1・2は中国龍泉窯系雷文帯青磁碗の口縁部で、15世紀代の製品である。2も中国産の青磁で、鉢等に復元される器形の口縁部に相当する。4は黒色土器碗、5は土師質土器の坏である。いずれも9世紀代の製品で、混入品である。6は用途不明の漆器製品で、表面には赤漆が施されており、中央部には黒漆によるワンポイントの文様が認められる。なお、この他に図化不能の漆器碗が出土している(写真図版25)。7・8は銅銭で、7は「元豊通寶」(北宋・1078年・篆書体)、8は「元祐通寶」(北宋・1086年・篆書体)である。



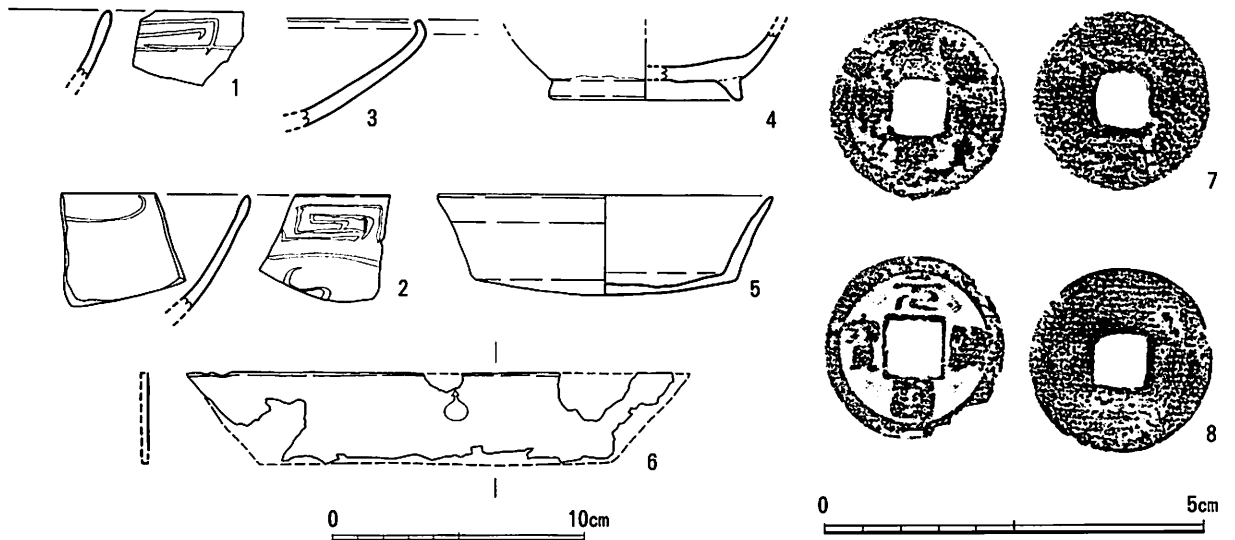
※土層図の詳細は  
第196図土層②参照



(SE02)

第239図 SK031実測図 (1/60)

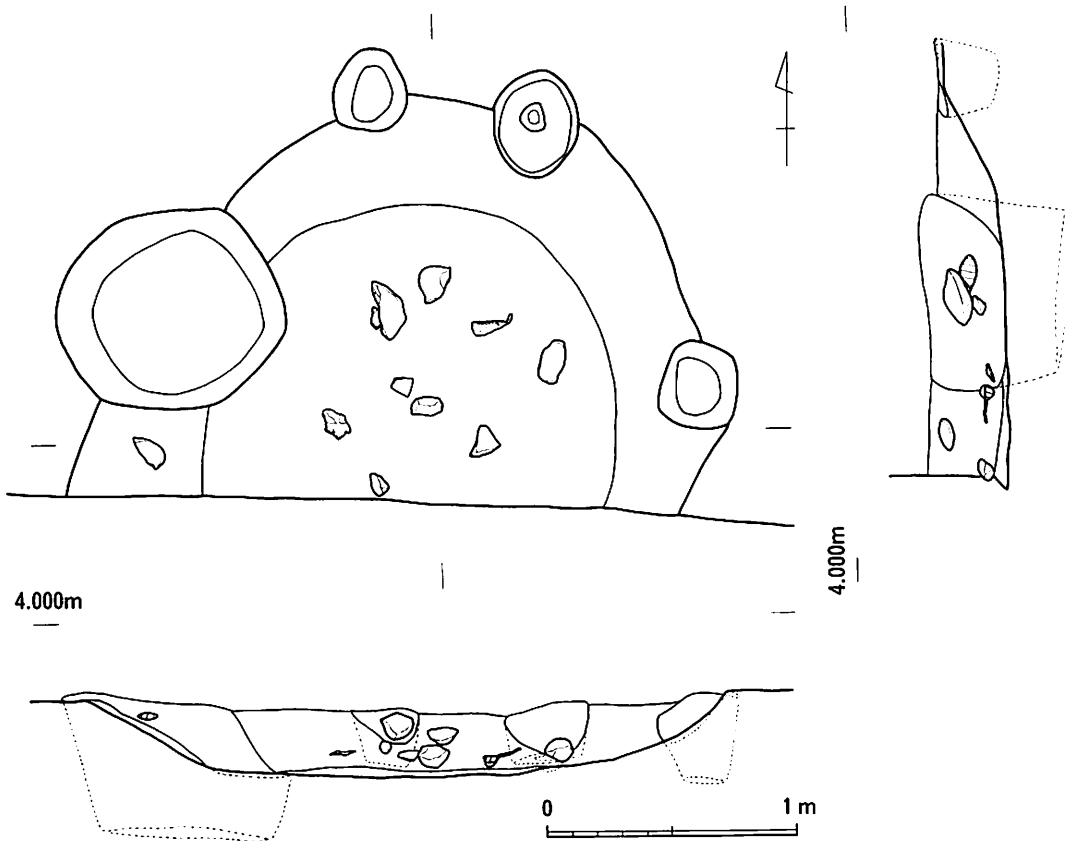
第2節 遺構と遺物



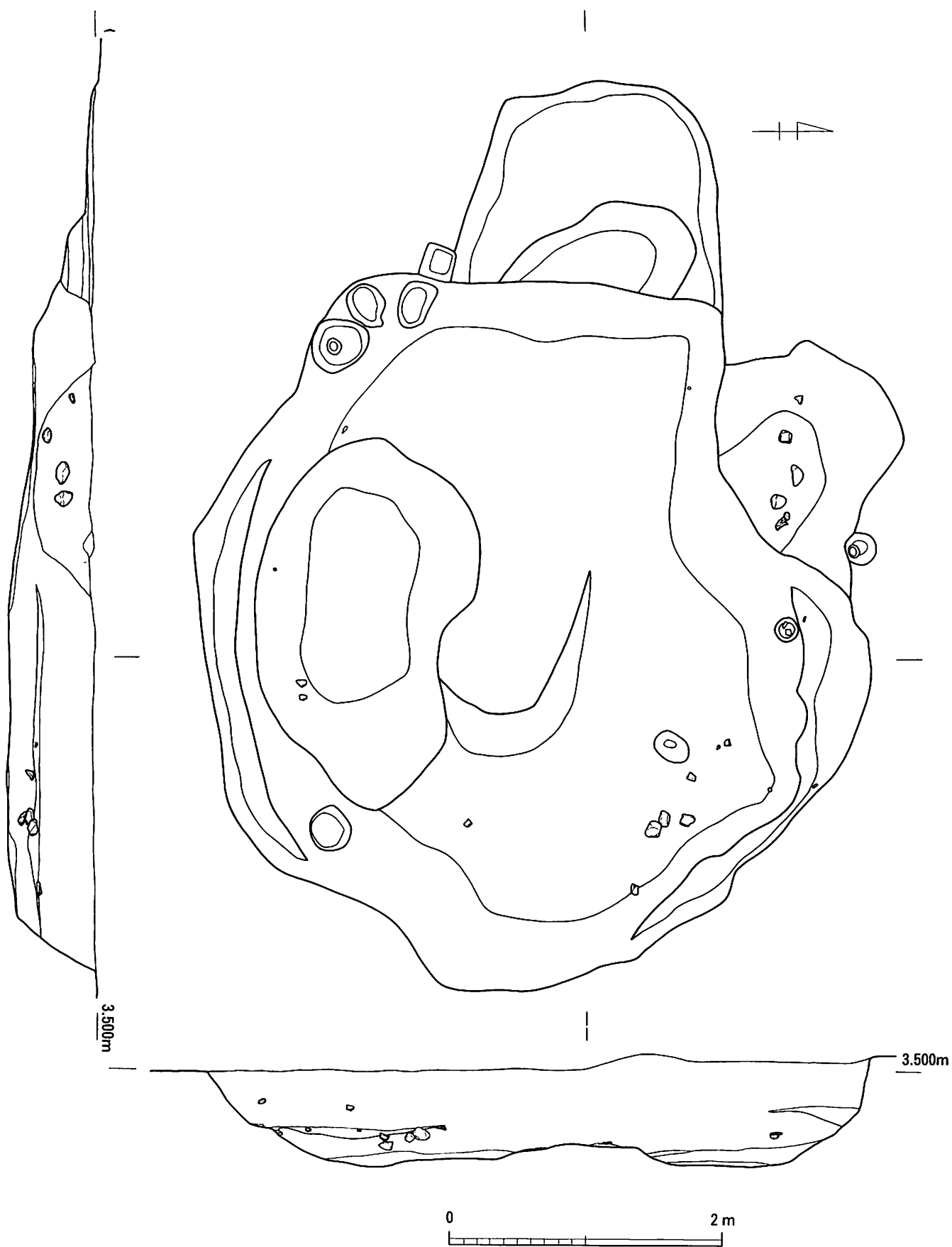
第240図 SK31b出土遺物実測図（1～6は1/3、7・8は1/1）

SK032（第242図）

下層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。調査区の制限で、遺構のほぼ北半分を検出したに留まり、南側はさらに調査区外に伸びる。その規模は南北1.6m以上、東西2.5m、深さ30cmを測る。埋土中位から下位にかけて、少量の礫と下顎骨と推定される獣骨などが出土した。遺構の性格は不明であるが、廃棄土坑である可能性が考えられる。出土遺物に良好な資料は認められず、遺構の詳細な時期は不明である。



第241図 SK032実測図（1/30）

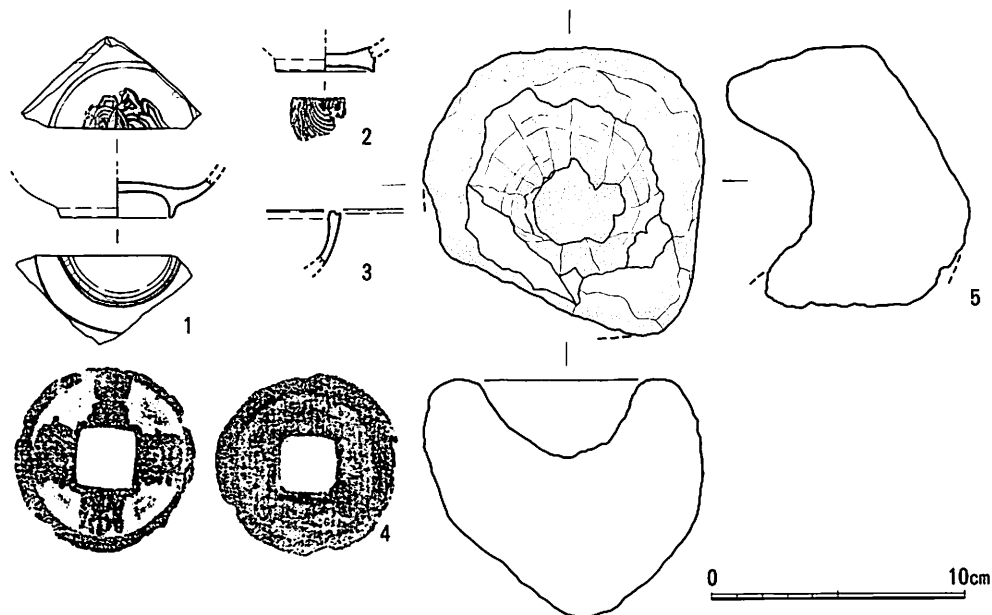


第242図 SK033実測図 (1/40)



SK033 (第242図)

下層遺構群に所属する大型の遺構で、L17～M18区に位置する。その規模は南北4.9m、東西5.2m、深さ0.6mを測る。遺構のプランや底面の状況を観察すると、数度の掘り返しが認められるようである。遺構の詳細な性格は不明であるが、平面形態が不整形で大型であることから、土取り遺構の可能性を考えている。出土遺物は僅少で、遺構の時期を正確に反映するものかどうかの判断が難しい部分があるが、現状では、その構築時期を16世紀後葉に比定しておきたい。



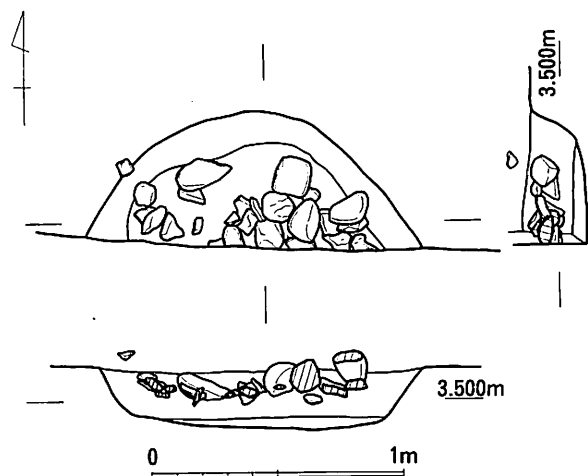
第243図 SK033出土遺物実測図 (1～3・5は1/3、4は1/1)

SK033出土遺物 (第243図)

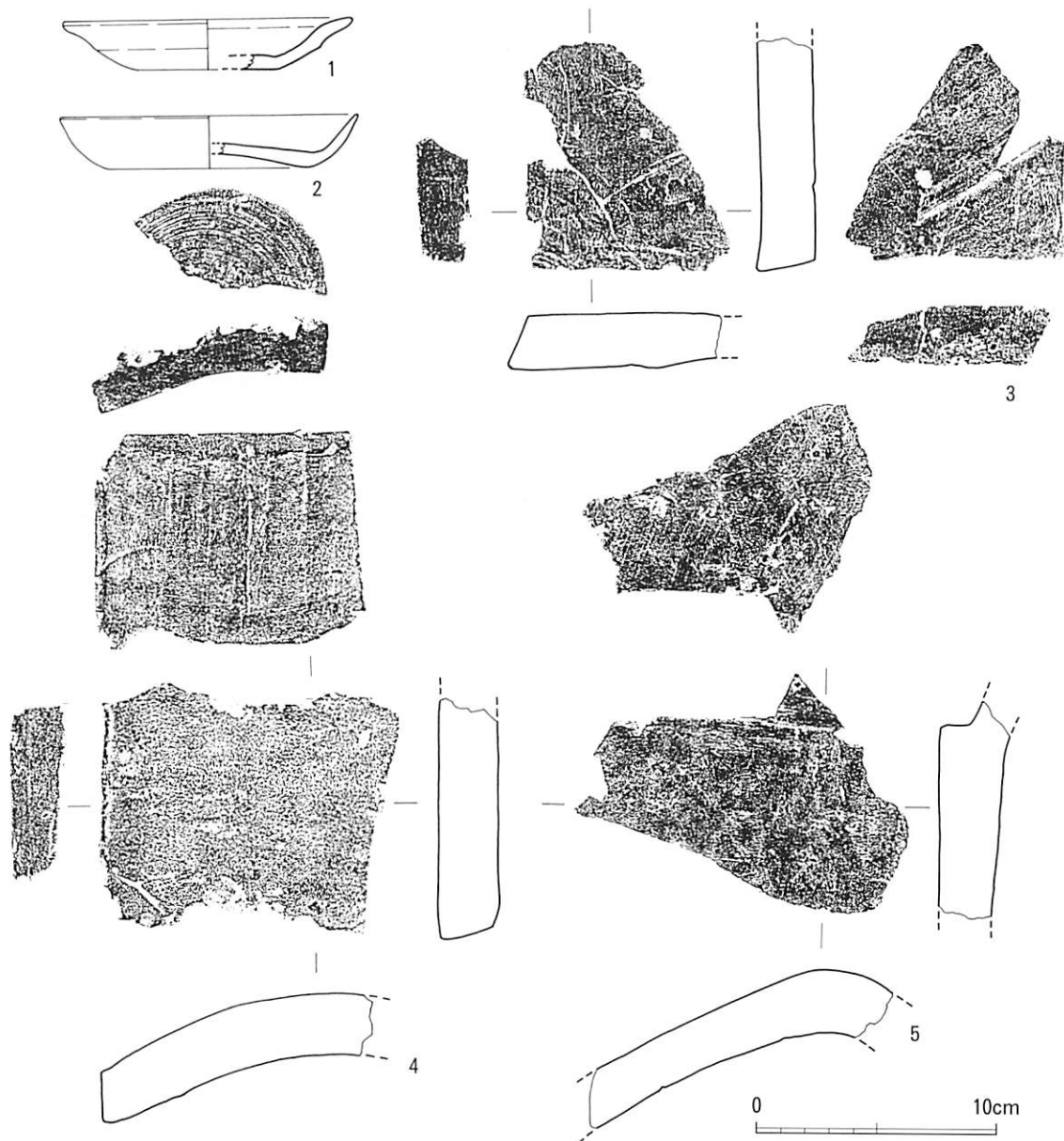
1は中国景德鎮窯系青花で、E群青花碗である。内底部に銘款が認められるが、残存部分が少なく、判読できない。16世紀後葉の製品である。2は中国産の白磁の底部で、小片のため、器種不明である。外底部に糸切り痕が認められる。3は産地不明の陶器で、合子の身の口縁部と推定される。外面に青灰色、内面に緑灰色の釉が施されている。4は中国北宋代の銅銭で、「皇宋通寶」である。初鑄年代は1038年、書体は篆書体である。5は凝灰岩製の加工品であるが、用途不明の製品である。

SK035 (第244図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。調査区の制限により、北側の一部を検出したに留まる。現状での規模は南北0.55m、東西1.3m、深さ20cmを測る。土坑SK025と切り合い関係を有するがあるが、互いの埋土の性状が類似しており、明確な前後関係を確定できていない。埋土中から拳大の礫と礫の中に混在して、土師質土器や瓦などの遺物が出土した。廃棄坑と推定され、出土遺物の年代観から、16世紀後葉から末葉の所産である。



第244図 SK035実測図 (1/30)



第245図 SK035出土遺物実測図 (1/3)

SK035出土遺物 (第245図)

1は京都系土師器皿で、2期あるいは3期の特徴を示す資料である。2は土師質土器の坏であるが、製作年代が15世紀代のものと思われることから、混入品である可能性が高い。3は平瓦、4・5は伏間瓦の破片である。

SK038 (第246図)

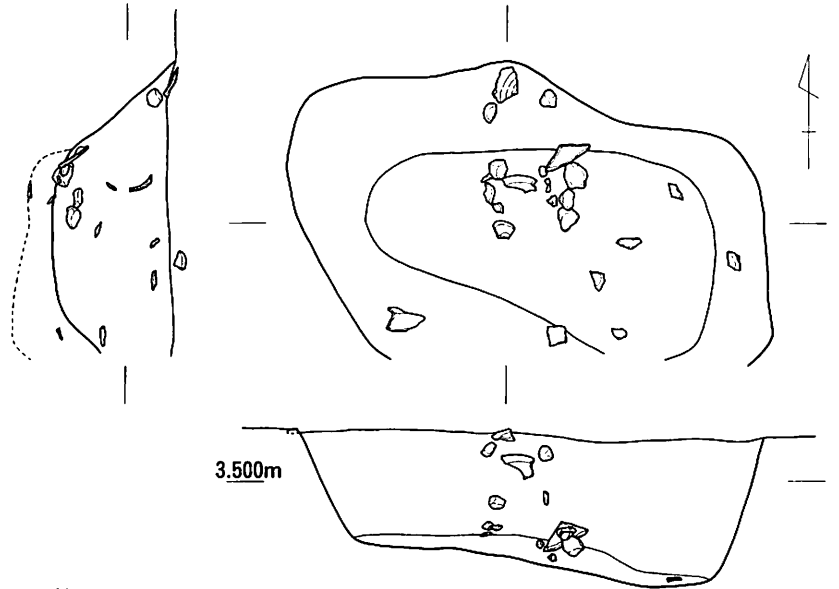
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は不整形であり、東西1.85m、南北1.2m、深さ50cmを測る。底面は東側に向かってやや傾斜し、深くなっている。埋土下位には炭化物を多く含む層が堆積していた。土取り遺構SK033の上面に構築されており、切り合い関係はSK033→SK038となる。廃棄土坑と推定され、出土遺物の年代観から、16世紀末葉の所産である。

SK038出土遺物 (第247図)

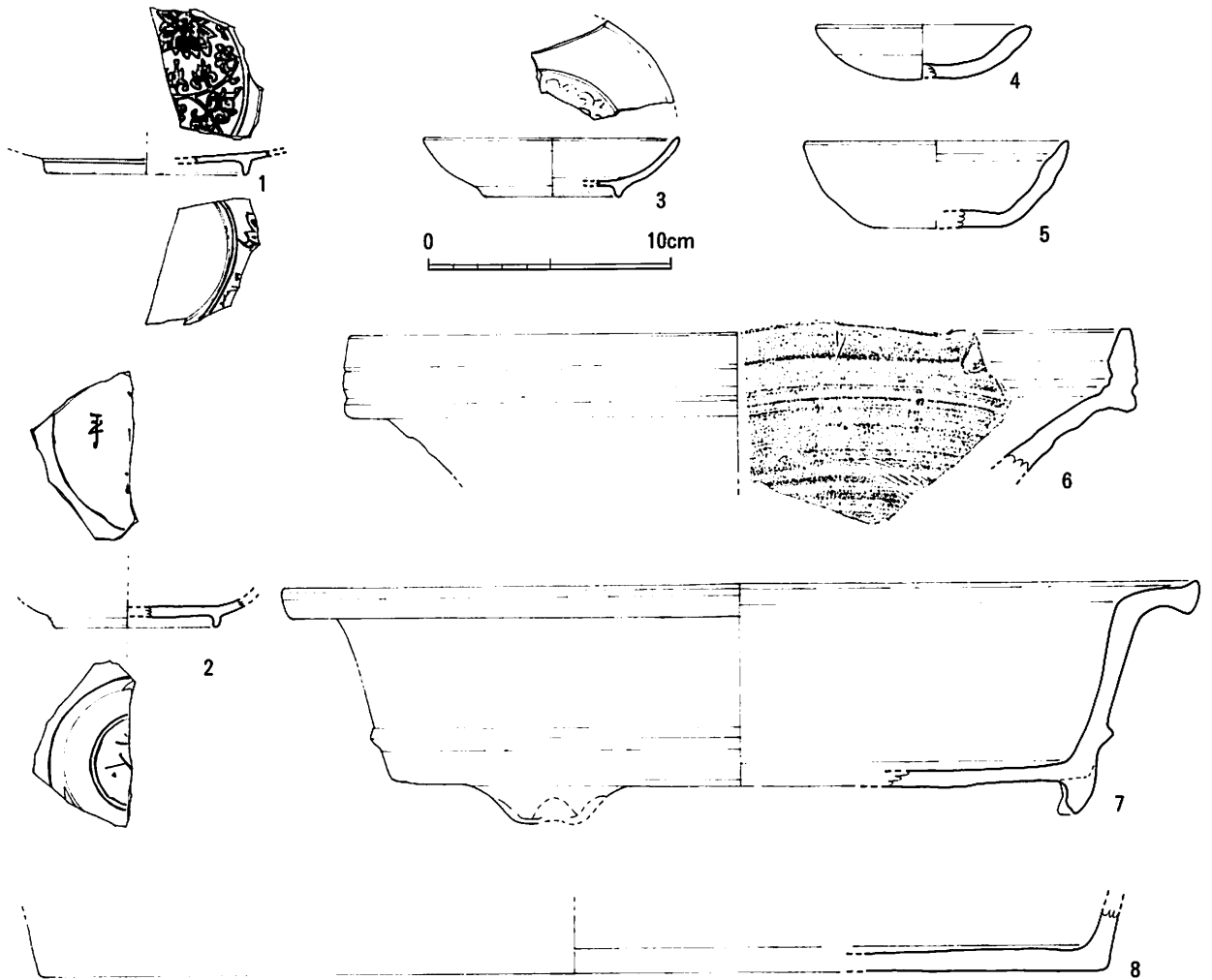
1・2は中国景德鎮窯系青花で、いずれも16世紀後葉に比定されるE群青花皿である。2の見込みと内底部には「天下太平」銘が描かれている。3は中国産の白磁皿で、見込みには毛彫りによる

第2節 遺構と遺物

花文が見られる。  
 4・5は京都系土師器で、4は皿、5は坏である。いずれも2期から3期の特徴を示す。  
 6は備前系陶器播鉢で、内面の播目の状況から、近世1期(16世紀末葉)に分類される。7は瓦質土器の火鉢で、浅鉢形の器形に屈曲する口縁部と板状の脚部を有する。8も瓦質土器火鉢の底部付近の破片で、こちらは長胴形の丸火鉢の形態になると推定される。7・8とも在地系の製品であろう。



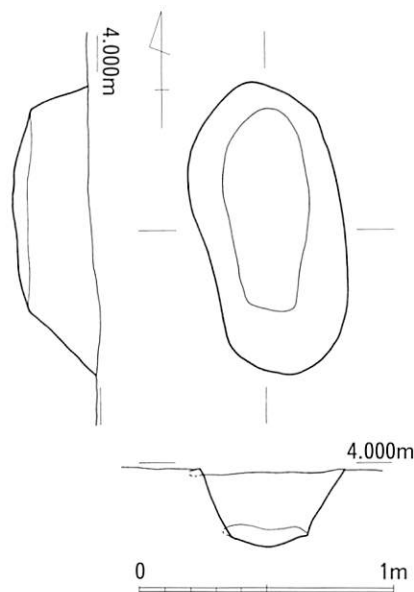
第246図 SK038  
 実測図 (1/30)



第247図 SK038出土遺物実測図 (1/3)

SK042 (第248図)

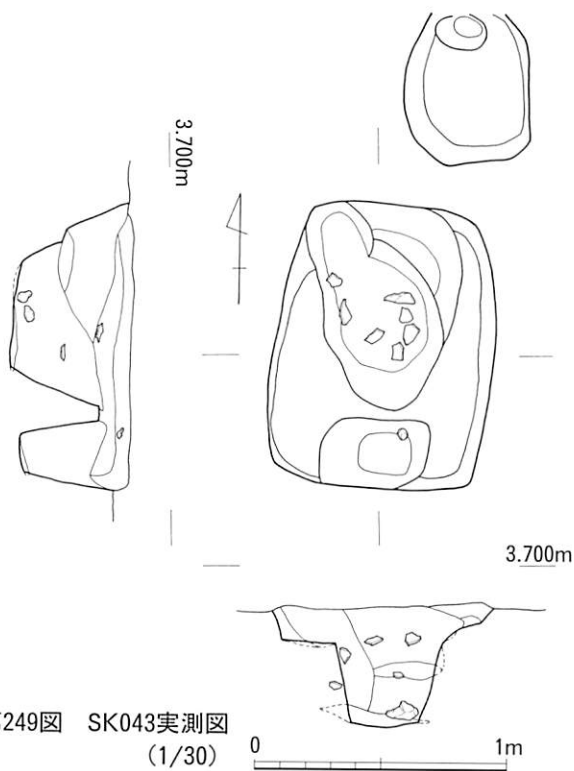
下層遺構群に所属する土坑で、J17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、長径1.1m、南北0.6m、深さ30cmを測る。第2南北街路SF012の直下に位置し、街路を構成する整地層をすべて撤去した後で検出された。出土遺物が無く、詳細な構築時期は不明である。



第248図 SK042実測図 (1/30)

SK043 (第249図)

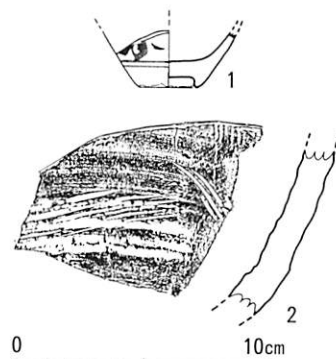
上層遺構群に属する土坑で、K17区に位置する。遺構の平面形態は隅丸方形形状を呈し、その内部に不整円形の小穴2基を有する。規模は長辺1.1m、短辺0.9m、深さ50cmで、遺構の性格は不明である。出土遺物の年代観から、構築時期は16世紀末葉である。



第249図 SK043実測図 (1/30)

SK043出土遺物 (第250図)

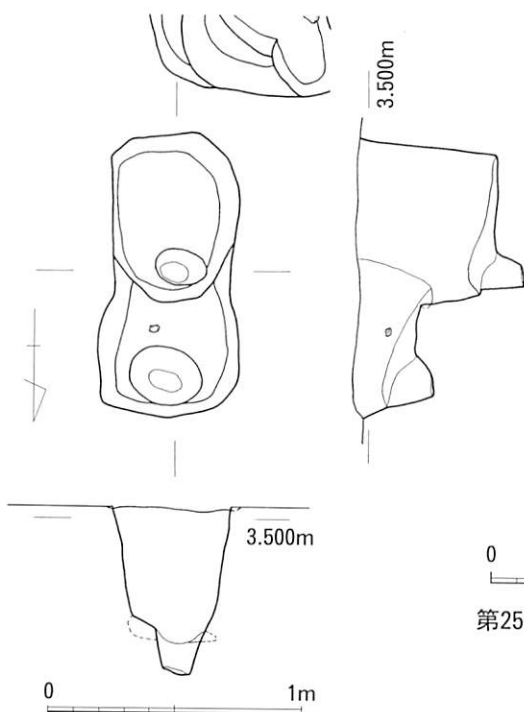
1は中国景德鎮窯系青花の小坏、2は備前系陶器播鉢の胴部破片である。1は16世紀代、2は16世紀末葉に比定される。



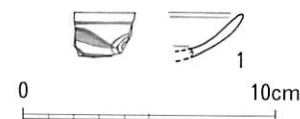
第250図 SK043出土遺物実測図 (1/3)

SK044 (第251図)

上層遺構群に属する土坑で、L17区に位置する。規模は長辺1.0m、短辺0.5m、深さ50cmを測る。遺構の性格は不明で、その構築時期は16世紀末葉に比定される。

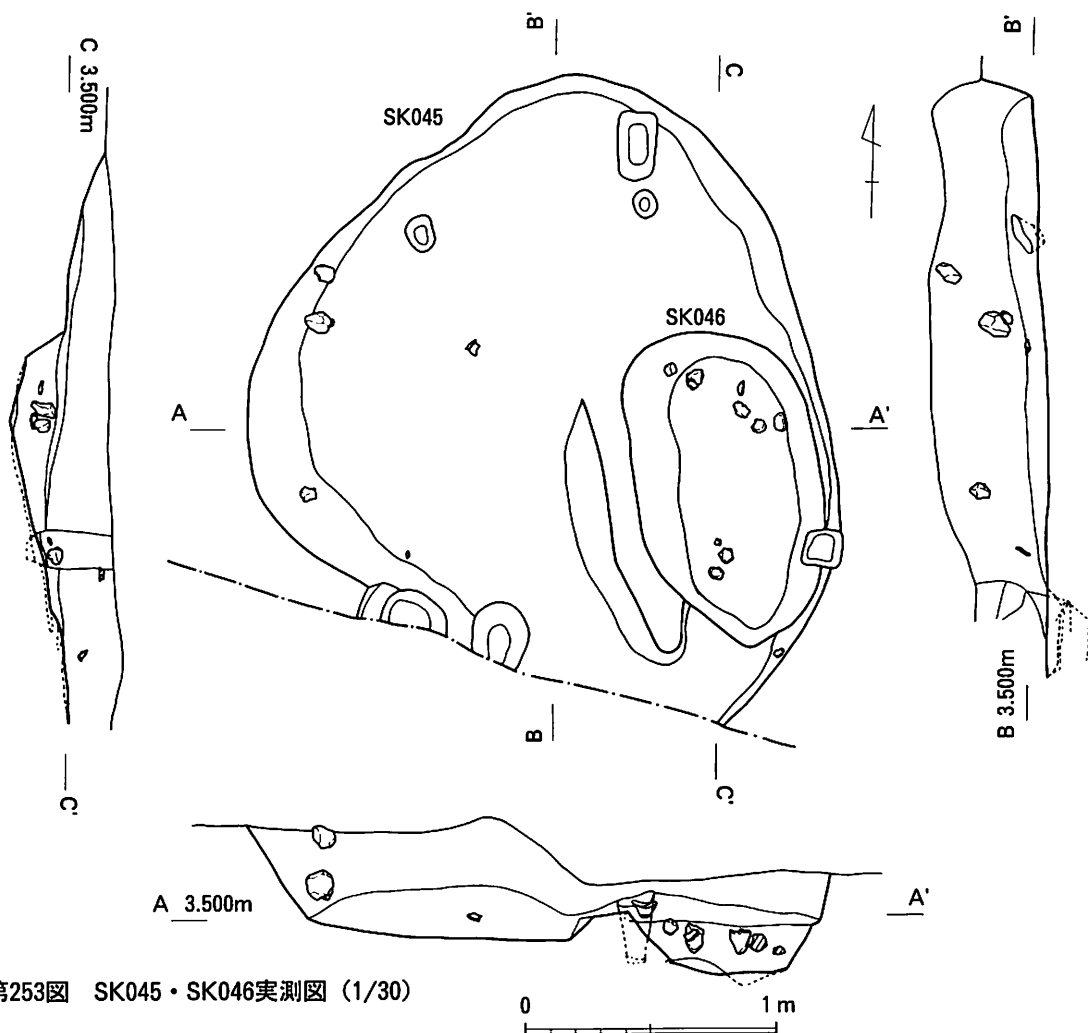


第251図 SK044実測図 (1/30)

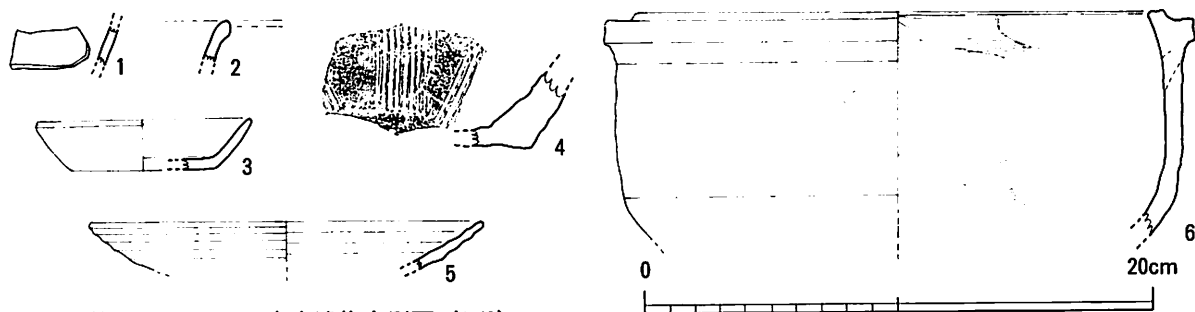


第252図 SK044出土遺物実測図 (1/3)

第2節 遺構と遺物



第253図 SK045・SK046実測図 (1/30)



第254図 SK045出土遺物実測図 (1/3)

SK044出土遺物 (第251図)

1は中国漳州窯系青花碗の口縁部で、16世紀末葉の所産である。

SK045 (第253図)

下層遺構群に属する大型の遺構で、K18・L18区に位置する。遺構の平面形態は不整形で、南側はさらに調査区外に伸びる。その規模は南北2.4m、東西2.3m、深さ20cmを測る。遺構の形態から、土取り遺構である可能性が高い。東側で土坑SK046と切り合い関係を有し、構築順序はSK046→SK045となる。埋土中の出土遺物より、遺構の時期は15世紀後葉に比定される。

SK045出土遺物 (第254図)

1は中国景德镇窯系青花で、小片であるが、B類青花碗に分類される製品である。15世紀後葉以

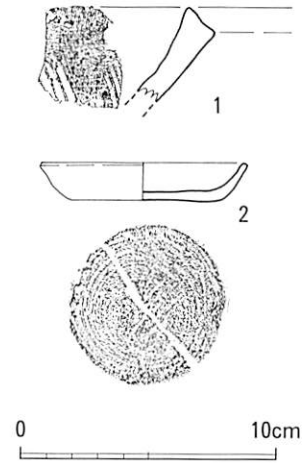
降の所産である。2は中国龍泉窯系青磁碗の口縁部で、これも15世紀代のものに比定される。4は備前系陶器播鉢で、小破片のため、詳細な生産年代を特定できない資料である。5は土師質土器皿で、胎土が白色系の色調を呈し、器壁が薄い特徴をもつものである。6は土師質土器の土鍋で、外面に指頭痕が認められ、内面には刷毛状工具による調整が見られる。

SK046 (第255図)

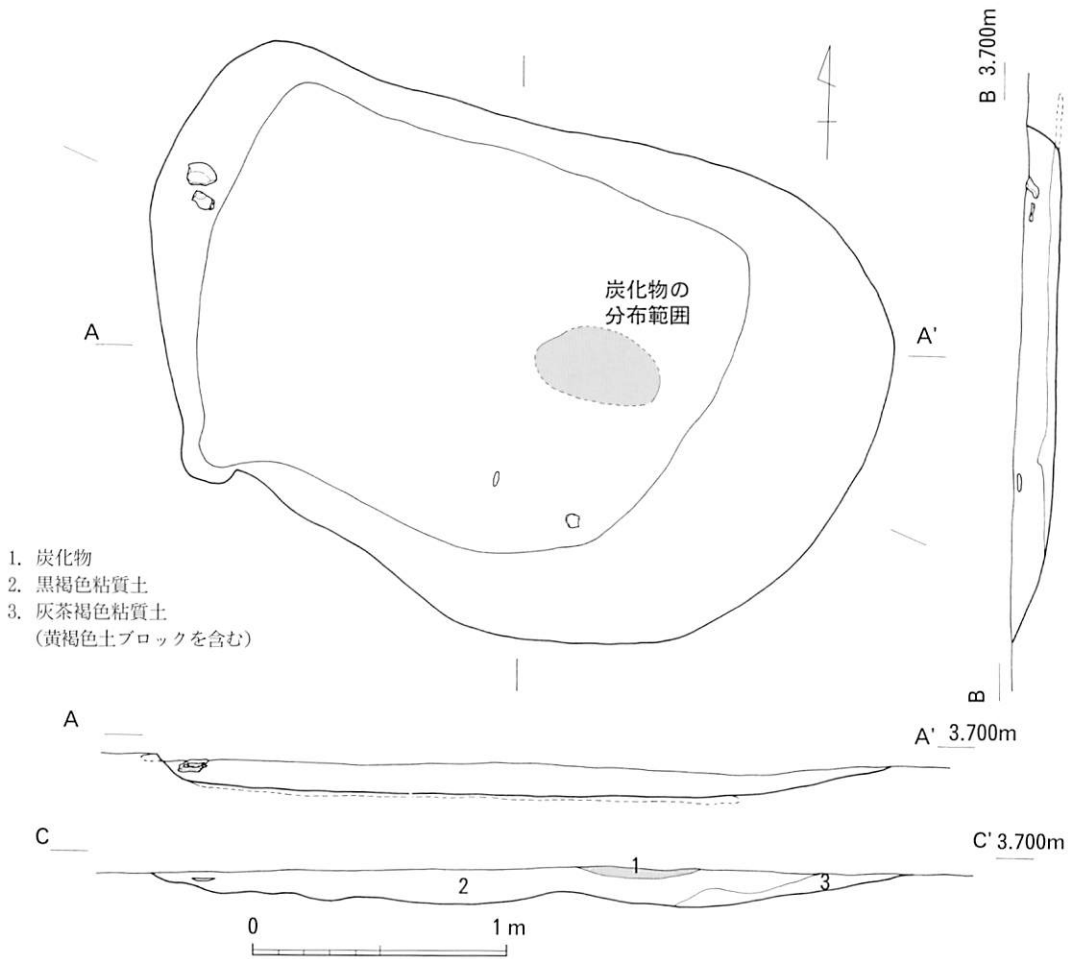
下層遺構群に属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、長径1.2m、短径0.7m、深さ20cmを測る。土取り遺構SK045の底面で検出されており、切り合い関係はSK046→SK045となる。廃棄土坑と思われる、遺構の時期は、切り合い関係や出土遺物の年代観から14世紀末葉～15世紀初頭以降に比定される。

SK046出土遺物 (第255図)

1は備前系陶器播鉢で、口縁部の形態から、乗岡編年中世3期(14世紀末葉～15世紀前葉)に比定される。2は土師質土器坏で、底部外面に回転糸切り痕がみられる在地系の製品である。



第255図 SK046出土遺物実測図 (1/3)



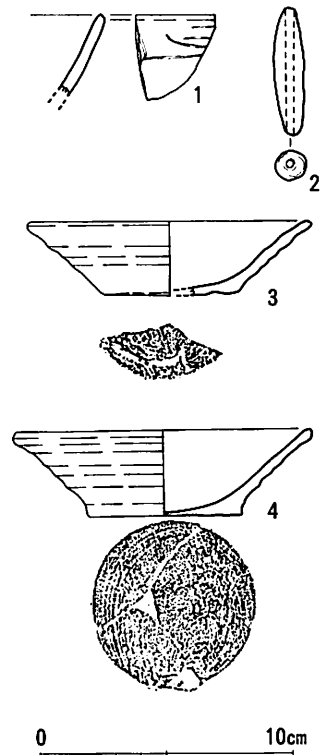
第256図 SK047実測図 (1/30)

SK047 (第256図)

下層遺構群に属する遺構で、L18区に位置する。平面形態は不整形で、南北2.0m、東西2.9m、深さ15cmを測る。遺構上位に炭化物が集中する部位が認められたが、その性格は不明である。その他、埋土上位から土師質土器等の遺物が出土した。遺構の平面形態が不整形であるため、当該遺構は土取り遺構である可能性が考えられる。出土遺物の年代観から、遺構の時期は15世紀後葉に比定される。

SK047出土遺物 (第257図)

1は中国龍泉窯系青磁で、雷文帯青磁碗の口縁部である。15世紀代に比定される。2は土錘、3・4は土師質土器皿である。3・4は口縁部がラッパ状に大きく開く形態を呈し、底部外面に回転糸切り痕がみられる。15世紀後葉に比定される在地系の製品であろう。



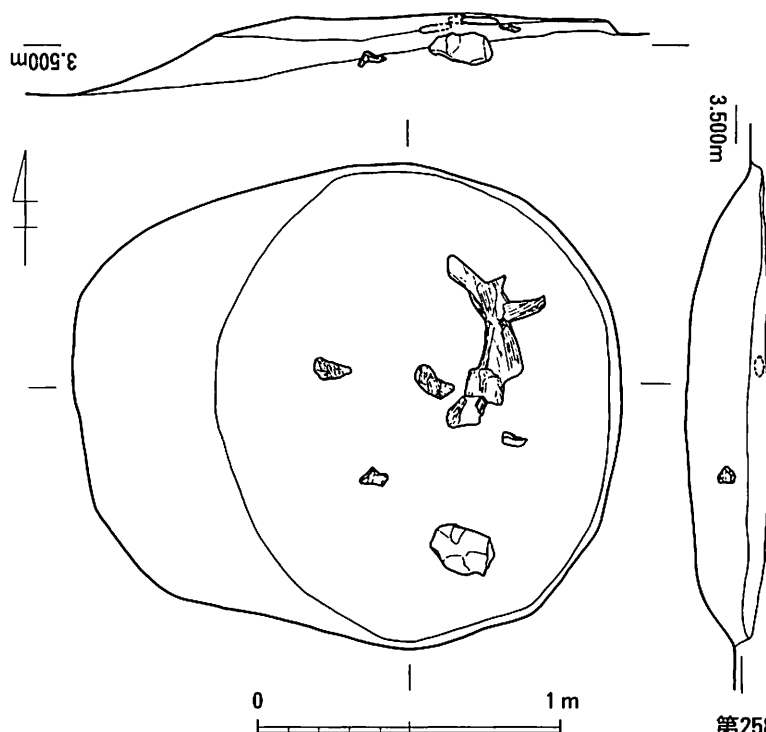
第257図 SK047出土遺物実測図 (1/3)

SK048 (第258図)

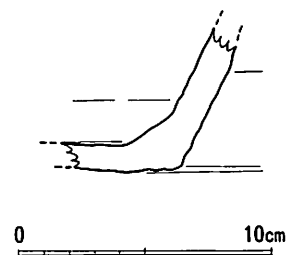
下層遺構群に属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は不整楕円形で、長径2.15m、短径1.85m、深さ35cmを測る。底面付近から、備前系陶器の破片と劣化して取り上げ不能となった獣骨が出土した。調査当初は、出土獣骨がかなり大型のものであったことから、当該遺構が獣禽類を埋葬した墓である可能性も考えた。しかし、獣骨の出土以外に当該遺構を積極的に墓と断定する材料はなく、現状では墓というよりも廃棄土坑の可能性が高いと考えている。出土遺物からは、遺構の詳細な構築時期を特定できなかった。

SK048出土遺物 (第258図)

図示したものは、備前系陶器壺の底部破片である。小片のため、詳細な製作年代を確定できない。



第258図 SK048実測図 (1/30)



第259図 SK048出土遺物実測図 (1/3)

SK050 (第260図)

下層遺構群に属する遺構で、L17区に位置する。平面形態は不整形で、南北0.9m、東西1.5m、深さ80cmを測る。土取り遺構SK031と切り合い関係をもち、遺構の構築順序はSK050→SK031である。遺構の状態から、当該遺構も土取りを目的とする掘り込みであった可能性が考えられるが、その大部分をSK031の構築によって破壊されている。出土遺物が僅少であるため、遺構の詳細な構築時期は不明であるが、切り合い関係から、16世紀以前の所産と推定される。

SK050出土遺物 (第261図)

1は在地系の土師質土器皿で、15世紀代に比定される製品である。底部外面には回転糸切り痕が認められる。2は中国龍泉窯系青磁碗で、内底部は露胎となり、見込みには片彫り文様の一部が残存する。14～15世紀代の製品と思われるが、詳細な製作年代を確定できない。

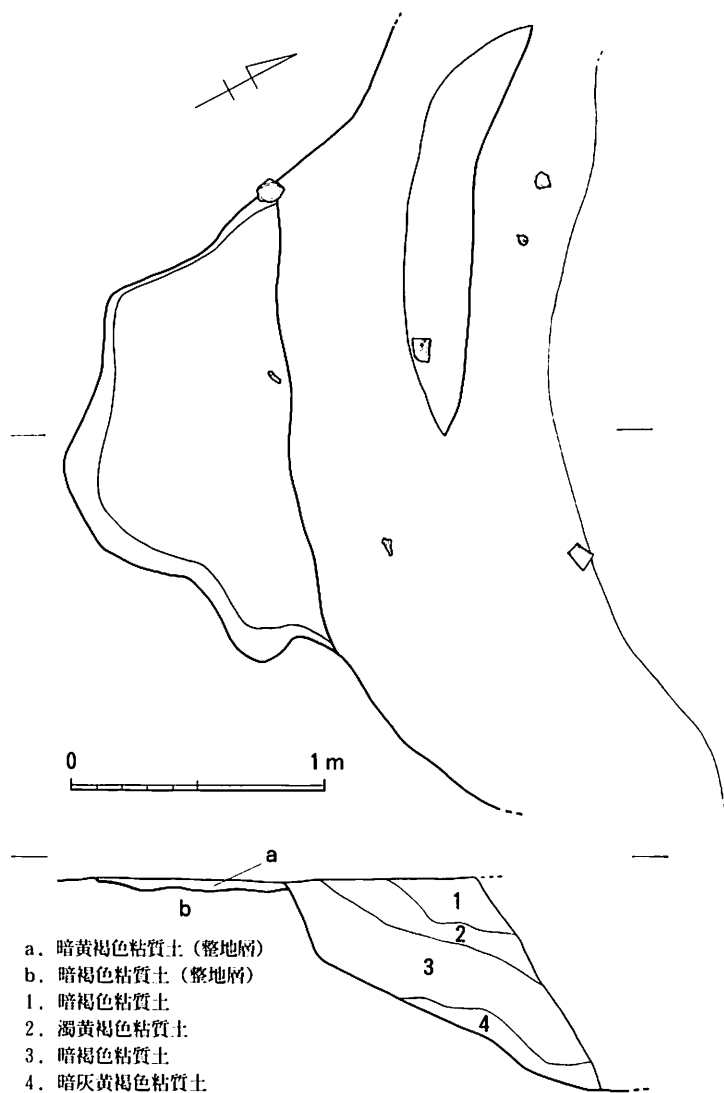
SK051 (第262図)

下層遺構群に属する大型の遺構で、L17区に位置する。遺構の平面形態は不整形で、南北3.4m、東西3.2m、深さ

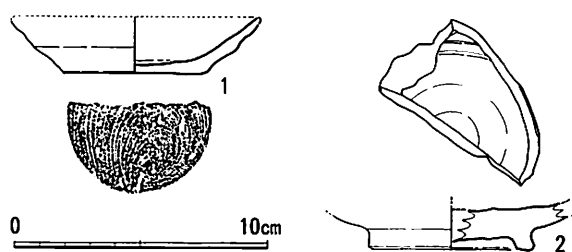
50cmを測る。北側をSK031、南側をSK033の構築によって切られている (SK051→SK031、SK051→SK033)。当該遺構も、遺構の平面形態が不整形であることから、土取りを目的とする掘り込み遺構であった可能性が高い。埋土中位から下位にかけて、頭大の礫や石臼・土錘・銅銭等の遺物が出土した。出土遺物の年代観より、遺構の時期は14世紀代に比定される可能性が高い。

SK051出土遺物 (第263図)

1は中国龍泉窯系青磁碗で、外面に蓮弁文を施すものである。外面文様の蓮弁が、細弁化する以前の形態を呈していることから、14世紀代以前に比定できる資料である。2は中国同安窯系青磁碗で、内外面に楡描きによる文様が施されている。13世紀代の製品である。3・4は中国産の白磁で、



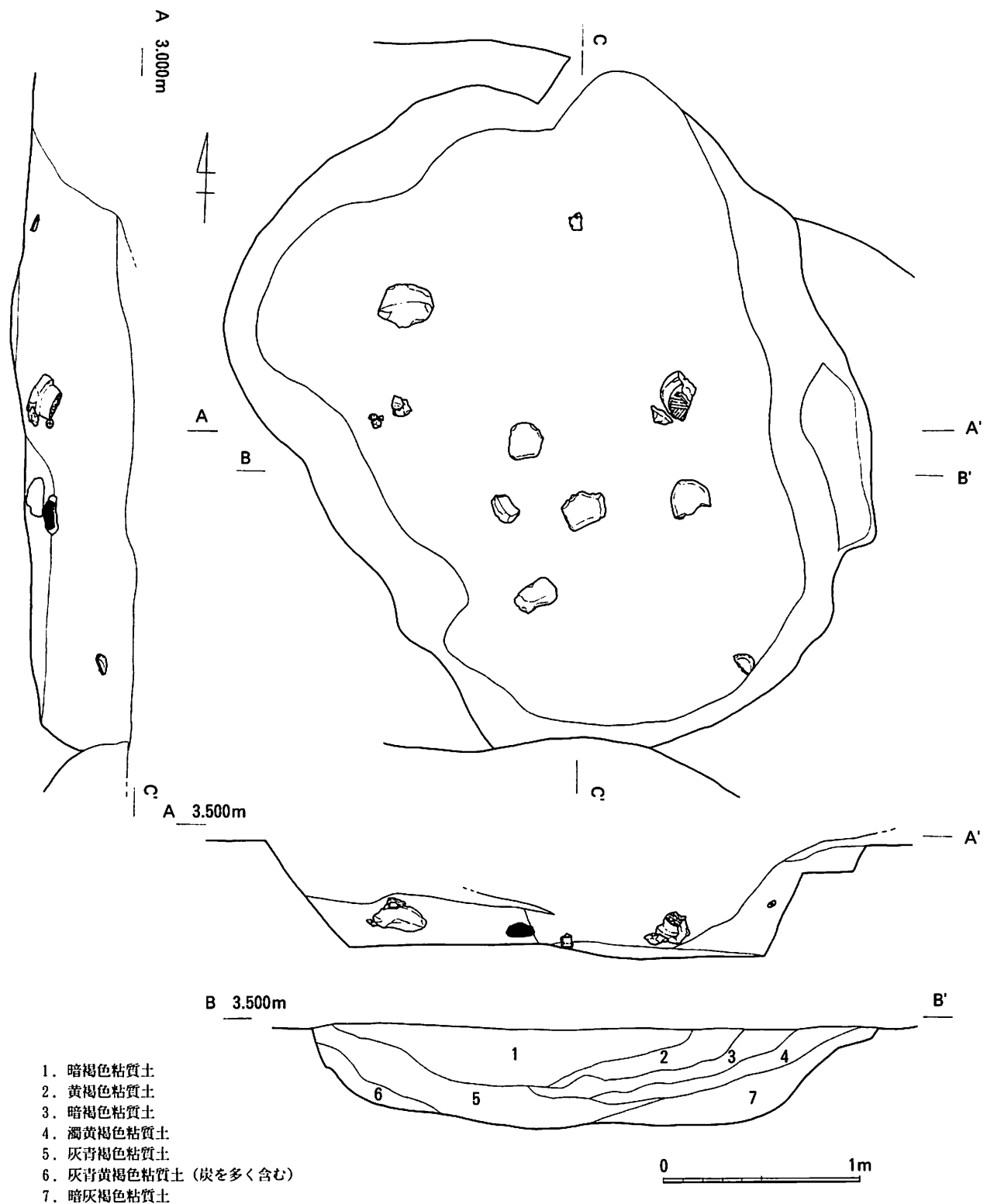
第260図 SK050実測図 (1/30)



第261図 SK050出土遺物実測図 (1/3)

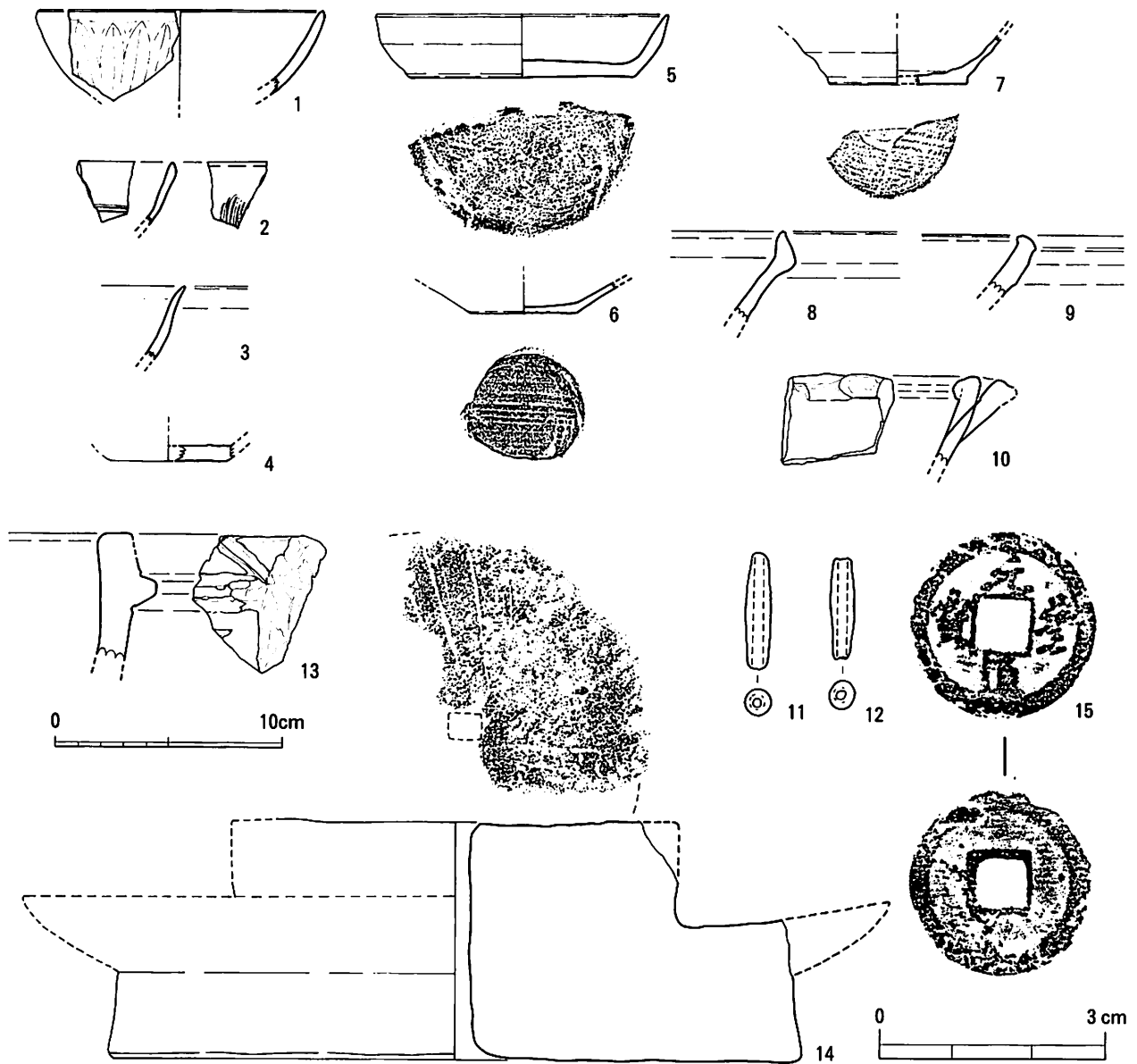


第2節 遺構と遺物



第262図 SK051実測図 (1/30)

3は端部が口禿げとなる碗の口縁部、4は皿の底部である。いずれも13世紀後葉以降の製品である。5は断面が箱形を呈する在地系の土師質土器坏で、器高が低く、口縁端部が尖る特徴を有するものである。14世紀代に比定される。6・7も土師質土器坏であるが、底部破片のため、詳しい年代は不詳である。いずれも底部外面に回転糸切り痕とともに板状圧痕が認められる。8は須恵質土器鉢、



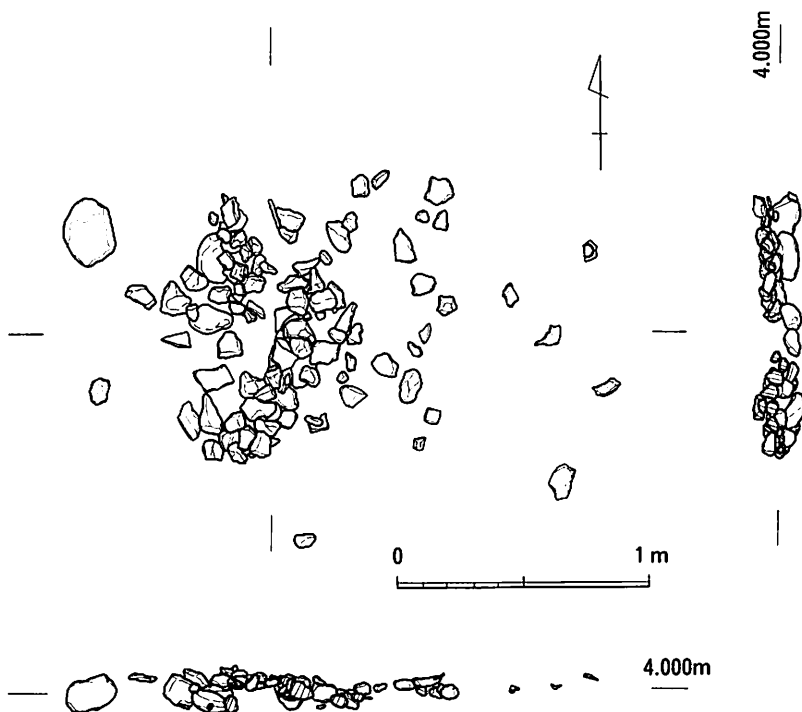
第263図 SK051出土遺物実測図 (1~14は1/3、15は1/1)

9・10は瓦質土器鉢の口縁部である。10は内面に突帯をもち、口縁部の一部をひねり出すことによって、注口部を作出している。11・12は土錘、13は滑石製石鍋の破片である。突帯部上部の口縁外面に沈線状の加工痕が施されている。14は茶臼の下臼で、安山岩系の石材を素材とする。全体の4分の1程度の破片となっており、鐳の部分は完全に除去されている。15は中国北宋代の銅銭で、「元豊通寶」である。書体は行書体で、初鑄造年は1078年である。

4. 集石遺構

SX005 (第264図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は拳大から頭大の礫で構成されており、南北1m、東西1.2m、厚さ20cmの範囲に形成されている。礫群の周囲に掘形等は確認できなかった。土坑SK011、火災処理土坑SK022と切り合い関係を有し、構築順序はSK022→SK011→SX005となる。切り合

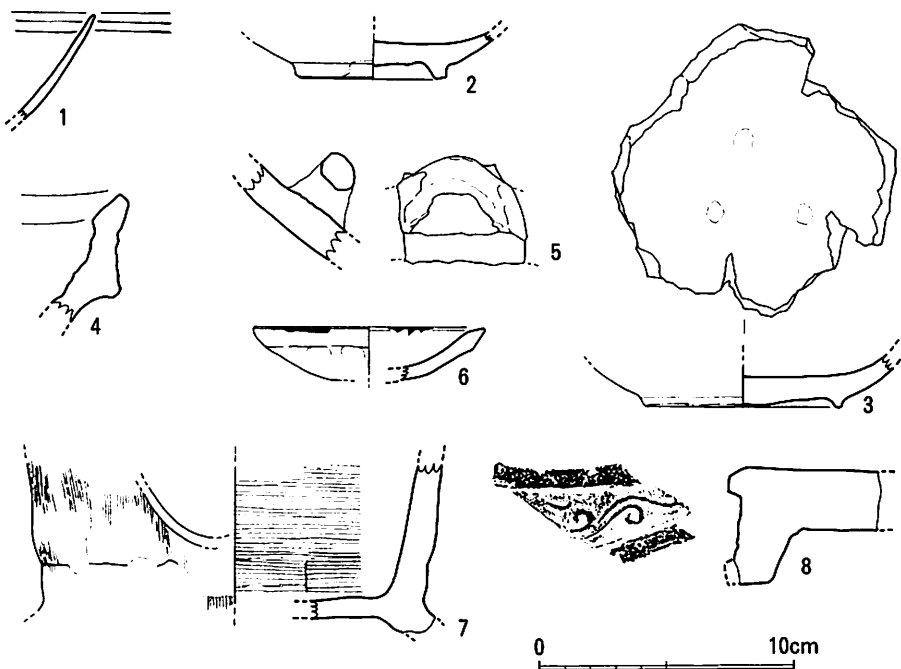


第264図 SX005実測図 (1/30)

い関係や出土遺物から、最も新しい時期に構築された遺構であることがわかる。集石内およびその周辺からの出土遺物の中に志野系陶器があり、遺構の構築年代は16世紀末から17世紀初頭に比定される。

SX005 出土遺物 (第265図)

1 は中国景徳鎮窯系青花



第265図 SX005出土遺物実測図 (1/3)

で、E群青花碗の口縁部破片である。16世紀後葉に比定される。2は中国産の白磁皿で、高台内が露胎となる。詳細な年代は不明であるが、16世紀代の所産である。3は志野系陶器皿で、見込みに3箇所が目跡を有する。文様の無い、無地志野と呼ばれるタイプの皿であろう。16世紀末葉から17世紀初頭に比定される。4は備前系陶器播鉢で、近世1期(16世紀末葉)以降の資料である。5は

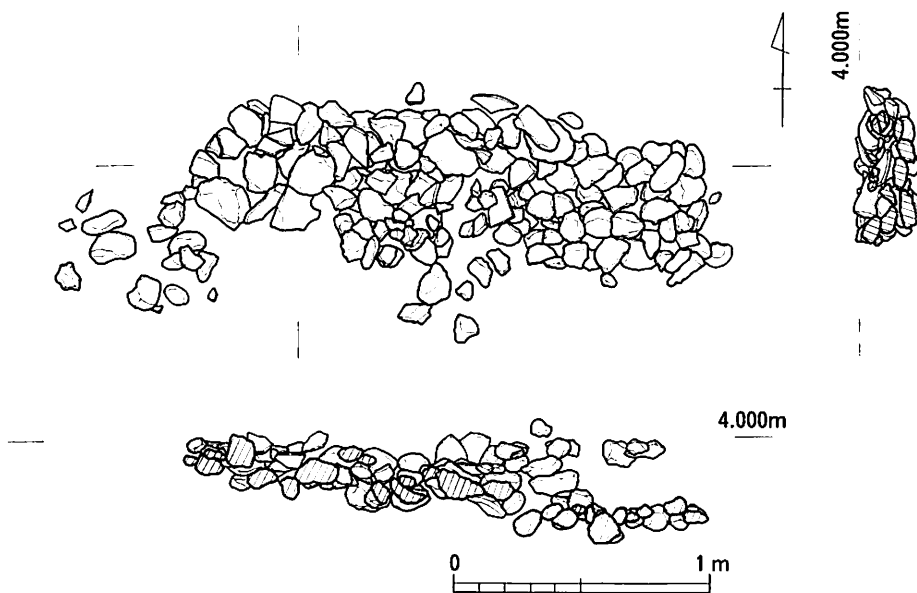
中国産の褐釉陶器壺で、把手部分の破片である。福建省もしくは広東省あたりの中国南部産のものであろうか。これも詳細な年代は不明であるが、16世紀代の製品である可能性が高い。6は京都系土師器皿で、口縁端部に煤の付着が見られる。2期以降の特徴を有する資料である。7は土師質土器の火鉢または風炉で、胴部に窓を設けている。外面には縦方向、内面には横方向のハケ状工具による調整痕が認められる。8は軒平瓦で、瓦当文様は均整唐草文と推定される。瓦当上縁部に面取りが認められる。

#### SX006 (第266図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は拳大から頭大の礫で構成されており、南北0.7m、東西2.3m、厚さ40cmの範囲に形成されている。礫群の周囲に掘形等は確認できなかった。土坑SK008a、SK009と切り合い関係を有し、SK008aの上面に構築されている。遺構の構築順序は、SK008a・SK009→SX006となる。出土遺物や切り合い関係から、遺構の構築年代は16世紀末葉以降に比定される。

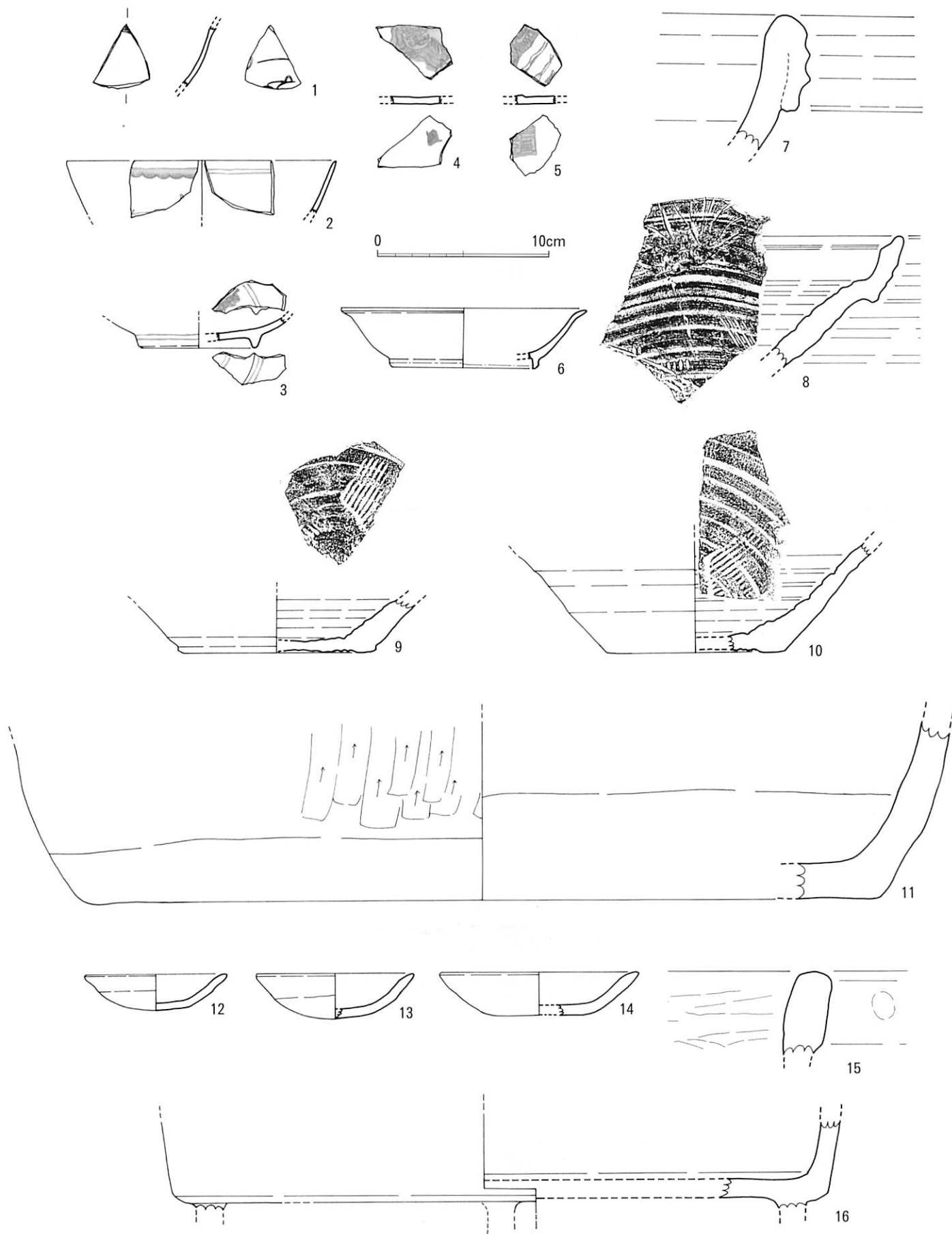
#### SX006出土遺物 (第267～269図)

1～5は中国景德鎮窯系青花である。1は口縁端部が端反りとなる器形を呈し、外面に毛彫り文様、内面に圏線文を有する。2は小野分類のC群青花碗の口縁部で、16世紀前葉に比定される。3は青花皿で、内底部に二重圏線の一部が認められることから、B2群あるいはE群青花皿であろう。16世紀後葉に比定される。4・5はE群青花皿で、いずれも内底部に異体字の銘款が描かれている。これらも16世紀後葉の所産である。6は中国産の白磁皿で、森田分類のE群に比定される。16世紀代の製品である。7～11は備前系陶器で、7は口縁外面に凹線を施す大甕の口縁部、11は大甕の底部で、外面には縦方向の削りが認められる。8～10は播鉢で、8の内面には放射状播目と斜め播目を交差させる播目をもち、9・10の内面は放射状播目のみが認められる。前者は近世1期(16世紀末葉以降)、後者は中世6期(16世紀前葉～後葉)に比定される。12～14は京都系土師器皿で、いずれも2期に比定される製品である。13の口縁端部には煤の付着が見られる。15は土師質土器で、残存率の関係で口径の復元は不可能であるが、大型の口径を有する甕等の口縁部と推定される。16・17は火鉢で、16は瓦質、17は土師質の製品である。17の底部には脚部が剥落した痕跡が認められ、

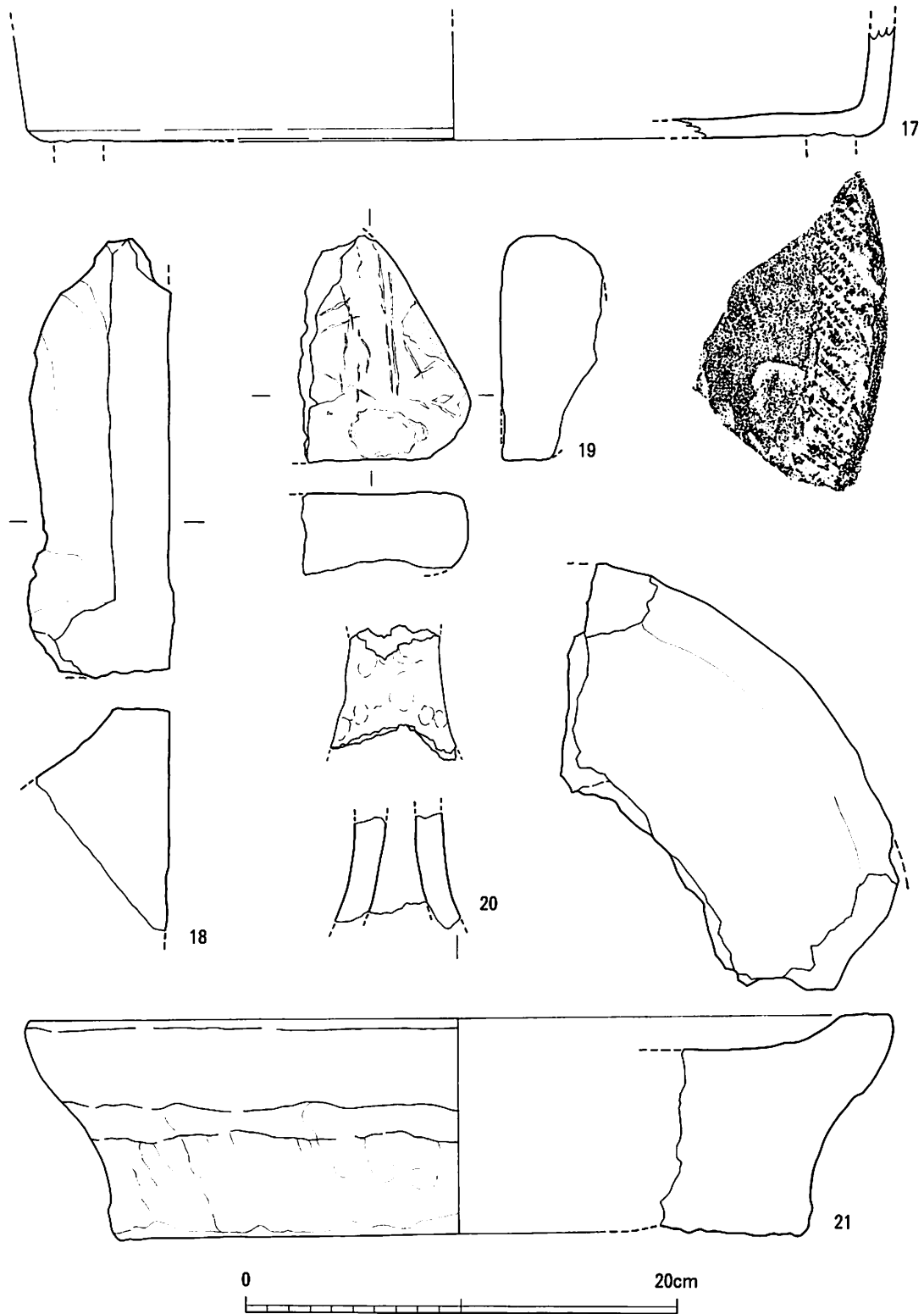


第266図 SX006実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物



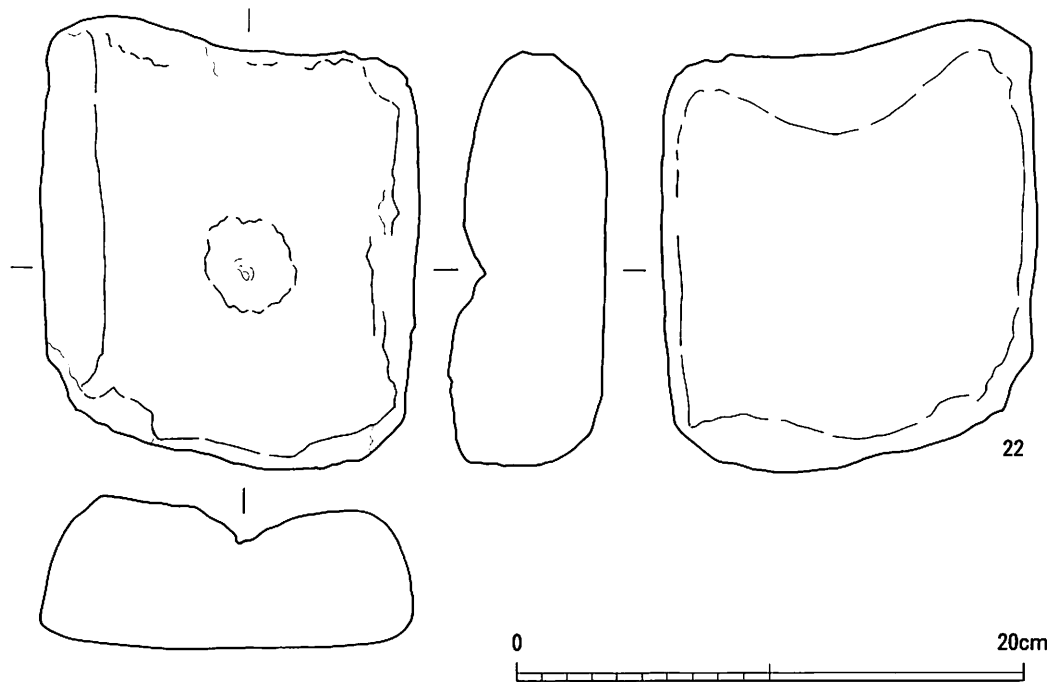
第267図 SX006出土遺物実測図① (1/3)



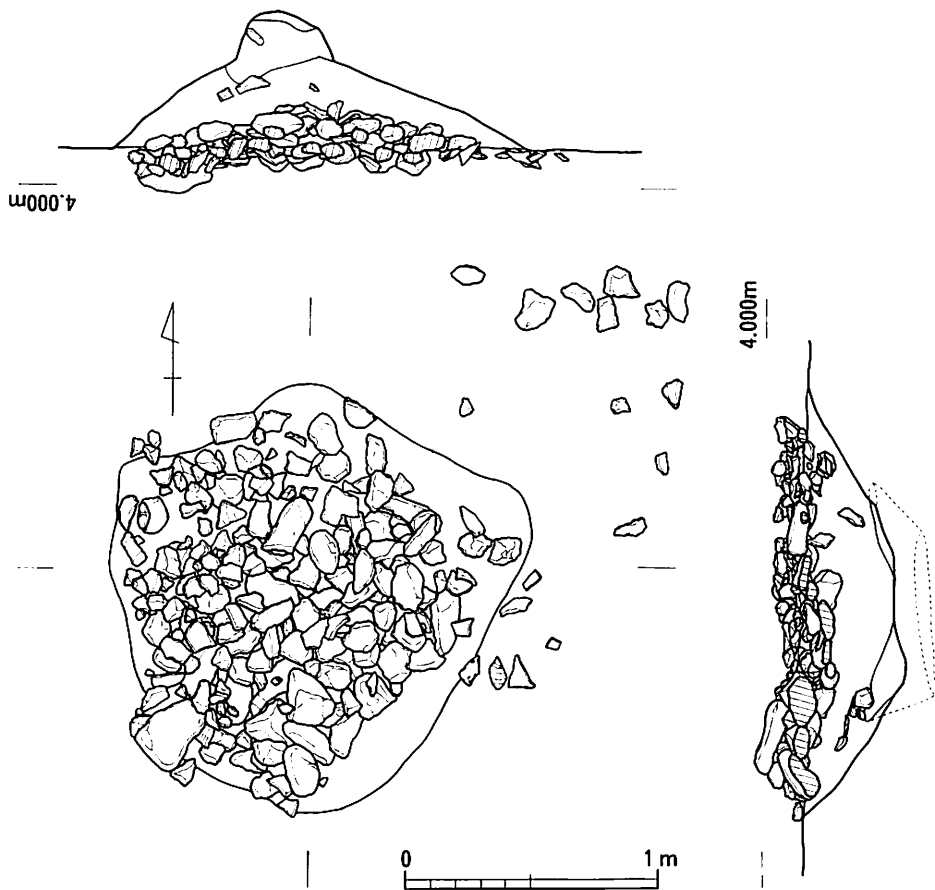
第268図 SX006出土遺物実測図② (1/3)

当該部位に刻線を施すことによって、脚部と底部の接着を強固にする工夫がなされている。18は加工が認められる石製品であるが、用途不明である。手水鉢のような機能をもつ製品である可能性が考えられるものかもしれない。19は砥石で、上面と側面を砥面として使用している。20は土師質による鞆の羽口で、上・下端面を欠損している。21は茶臼、22は凹石と思われる遺物である。

第2節 遺構と遺物



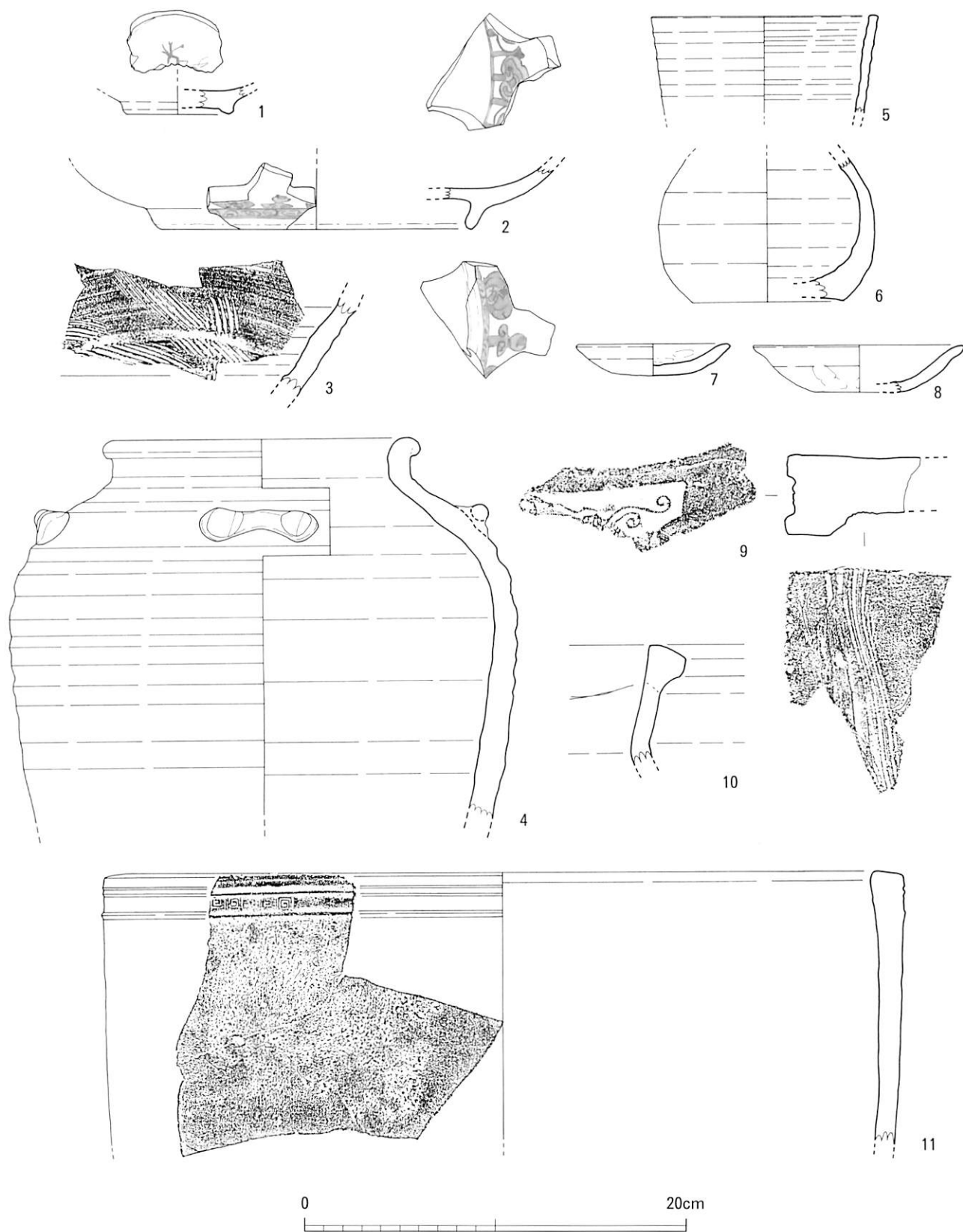
第269図 SX006出土遺物実測図③ (1/3)



第270図 SX013実測図 (1/30)

SX013 (第270図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は拳大から頭大の礫で構成されており、南北1.6m、東西1.4m、厚さ25cmの範囲に形成されている。礫群の周囲に不整形の掘形を有し、掘

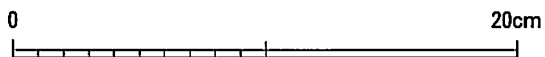
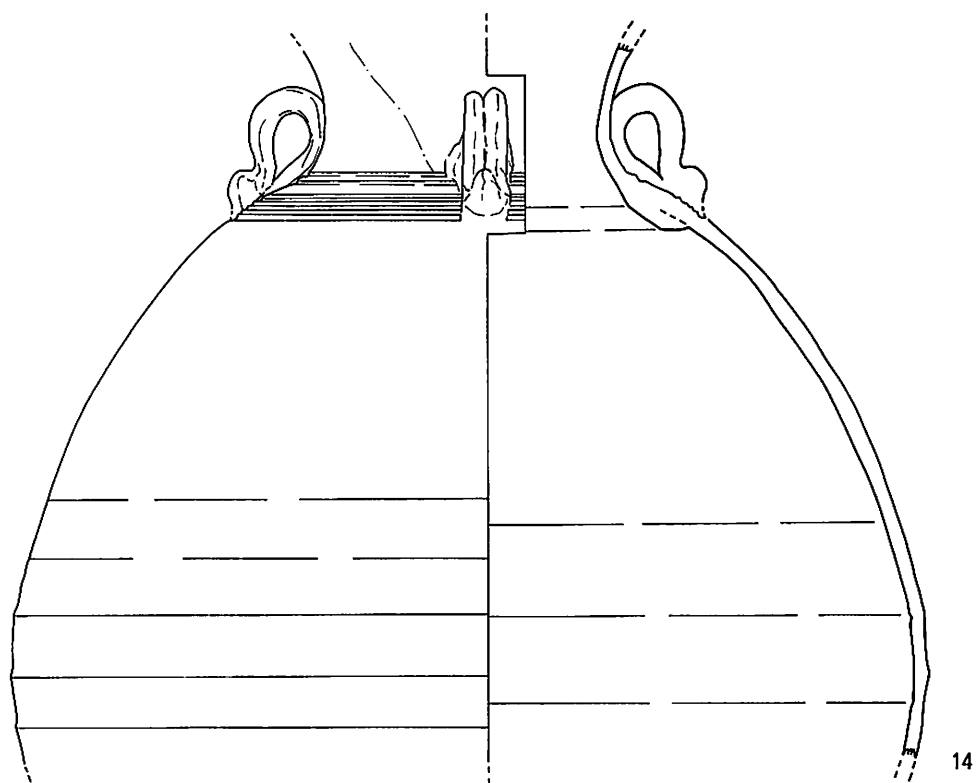
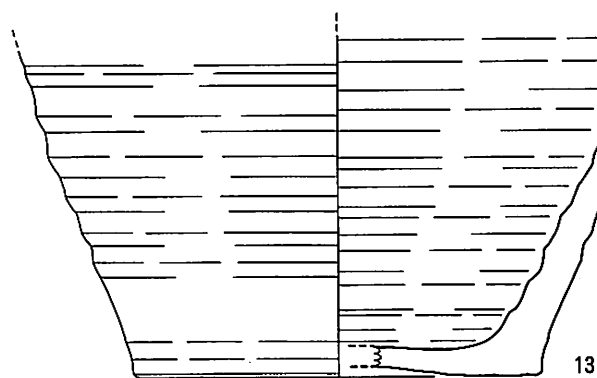
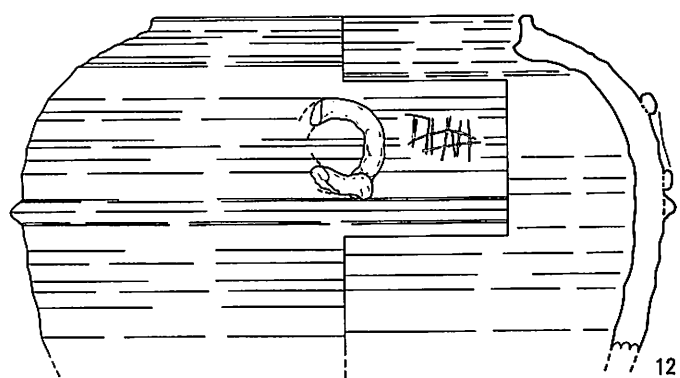


第271図 SX013出土遺物実測図① (1/3)

遺構間接合  
する遺物の  
存在

形の断面は2段掘りとなる。掘形の規模は南北1.7m、東西1.6m、深さ55cmを測る。集石中や掘形埋土内からの出土遺物には、他の遺構と遺構間接合する遺物が存在する。出土遺物の年代観から、遺構の構築年代は16世紀末葉以降に比定される。





第272図 SX013出土遺物実測図② (1/3)

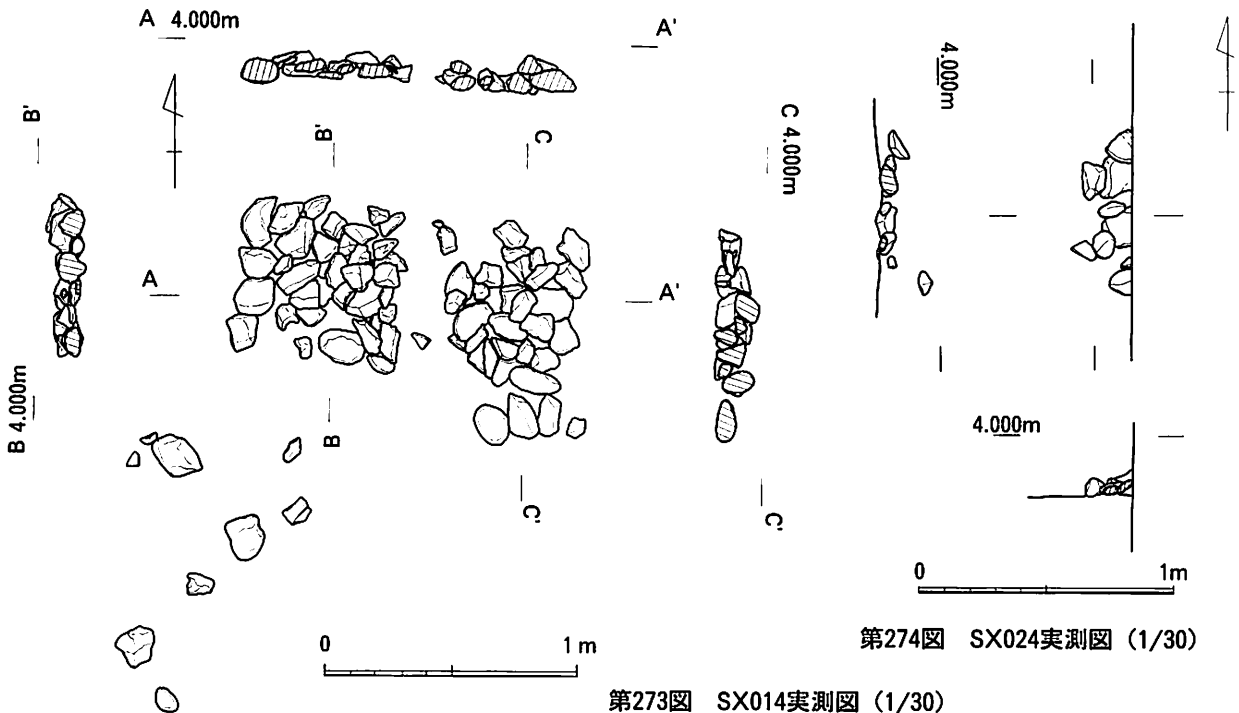
SX013出土遺物 (第271・272図)

1は中国産の青磁碗で、内面に印花文様が見られるが、文様の詳細は不明である。内底部は露胎となる。2は中国景德鎮窯系青花盤(大皿)の底部破片で、16世紀代の製品である。3は備前系陶器播鉢で、内面に放射状播目と斜め播目を交差させる播目を有する。近世1期(16世紀末葉)の所産である。なお、この播鉢はSX013と土坑SK011からの破片が接合する遺構間接合資料である。4は備前系陶器の壺で、四耳壺と思われる大型の破片である。5・6も備前系陶器で、5は口縁部がわずかに外反し、平底の底部を有する鉢、6は瓶あるいは徳利の底部から胴部にかけての破片である。7・8は京都系土師器皿で、2期あるいは3期に比定される資料である。9は軒平瓦で、顎部裏面の接合部付近に強いナデの痕跡が認められる。10は瓦質土器の口縁部であるが、器種不明の製品である。壺または火鉢の口縁部であろうか。11は在地系と推定される火鉢で、口縁外面に低い突帯を2条有し、突帯間に刻印による二連雷文をスタンプする。12・13は備前系陶器の水屋甕で、胴部にヘラ記号が認められる。SX013の他、集石遺構SX006、土坑SK008からの出土破片が遺構間接合している。14はタイ産メナムノイ窯系陶器壺である。器壁が薄く、胴部中位から頸部にかけての外面に黄白色の白泥を施す。肩部には多条沈線が施されている。把手は1個が残存しているが、残存率の関係で、本来の個数は不明である。通常、メナムノイ窯系四耳壺の把手は横方向が通常であるが、当該製品は縦耳となっている。メナムノイ窯系の製品としては、中型壺の部類に属する資料で、器壁の薄さも本製品の特徴のひとつである。これも遺構間接合資料で、SX013の他、井戸SE027・土坑SK028からの出土破片、および第18次調査区L16区からの出土破片が接合するか、または同一個体の資料と推定される。

タイ産  
メナムノイ  
窯系陶器壺

SX014 (第273図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は頭大から拳大の礫で構成されており、一辺0.6m前後の方形のものと南北0.85m、東西0.5mの長方形のものが2基並んだような出土状況を呈している。遺構の性格は不明である。出土遺物は認められず、遺構の詳細な構築年代は不明であるが、層位的な所見から16世紀後葉から末葉以降に比定される。



第274図 SX024実測図 (1/30)

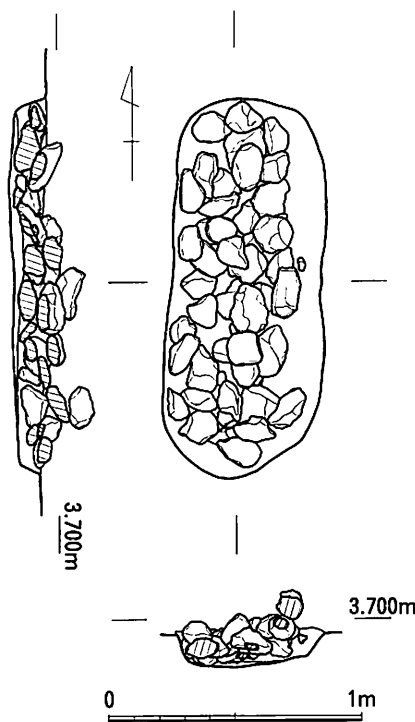
第273図 SX014実測図 (1/30)

**SX024 (第274図)**

上層遺構群に属する集石遺構で、M19区に位置する。調査区の制約によって、遺構の一部を検出したに留まるが、集石は頭大から拳大の礫9個で構成されており、現状で南北0.6m、東西0.2mを測る。遺構の性格は不明である。当該遺構からも出土遺物は認められず、遺構の詳細な構築年代は不明であるが、層位的な所見から16世紀後葉から末葉以降に比定される。

**SX036 (第275図)**

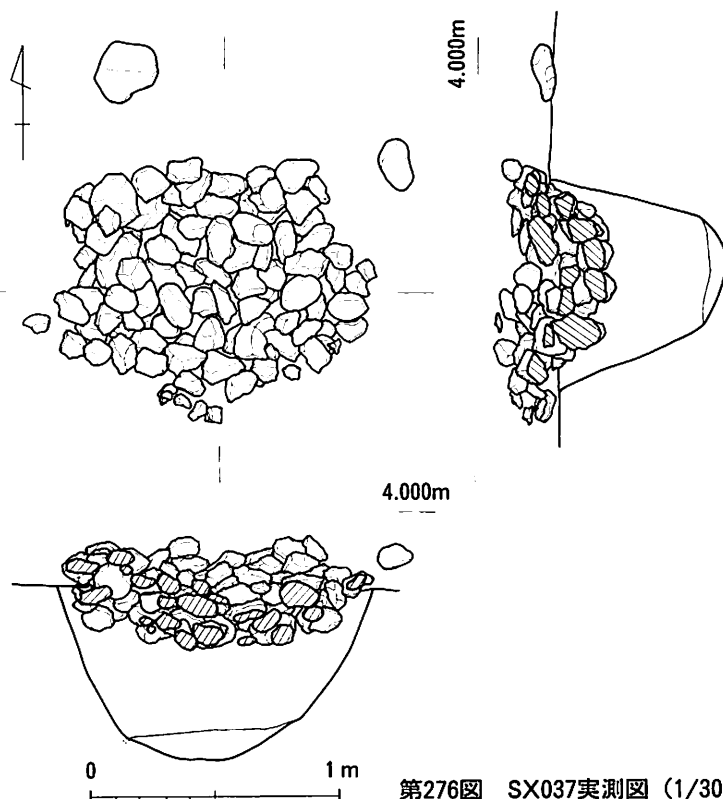
上層遺構群に属する集石遺構で、L17・L18区に位置する。集石は拳大の礫で構成されており、南北1.4m、東西0.5mを測る。礫群の周囲に略楕円形の掘形を有し、掘形の規模は、礫群よりひとまわり大きめの南北1.5m、東西0.6m、深さ15cmである。出土遺物は認められず、遺構の詳細な構築年代は不明であるが、層位的な所見から16世紀後葉から末葉以降に比定される。



第275図 SX036実測図 (1/30)

**SX037 (第276図)**

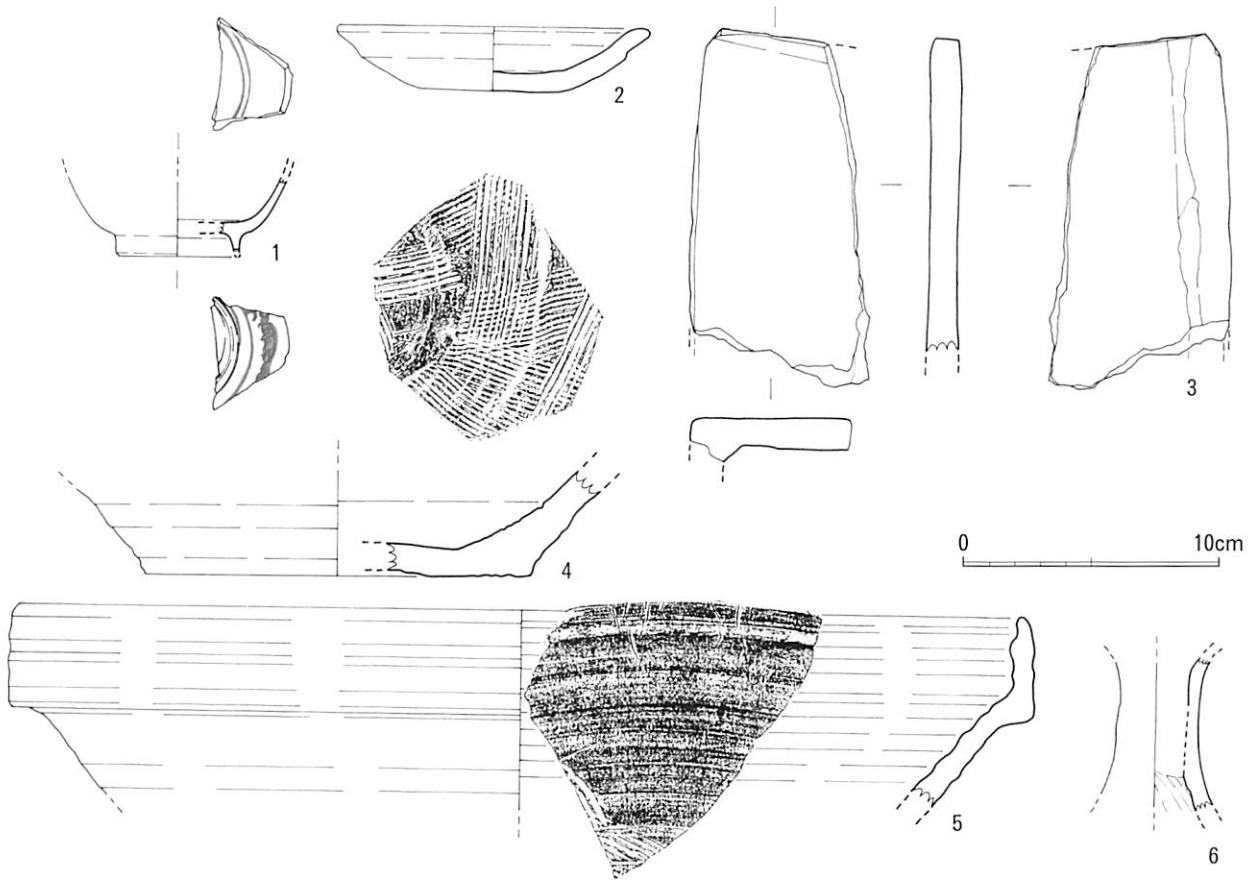
上層遺構群に属する集石遺構で、L17・L18区に位置する。集石は拳大の礫で構成されており、南北1.0m、東西1.2m、厚さ40cmを測る。礫群の下位に不整楕円形の掘形を有し、掘形の規模は南北1.3m、東西0.8m、深さ70cmである。掘形底面と礫群との間には40cm程度のレベル差があり、土坑埋土上位から土坑上面を礫群が覆うような状況で検出された遺構であるが、その性格は不明である。集石内および掘形内部から遺物が検出されており、出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀末葉に比定される。



第276図 SX037実測図 (1/30)

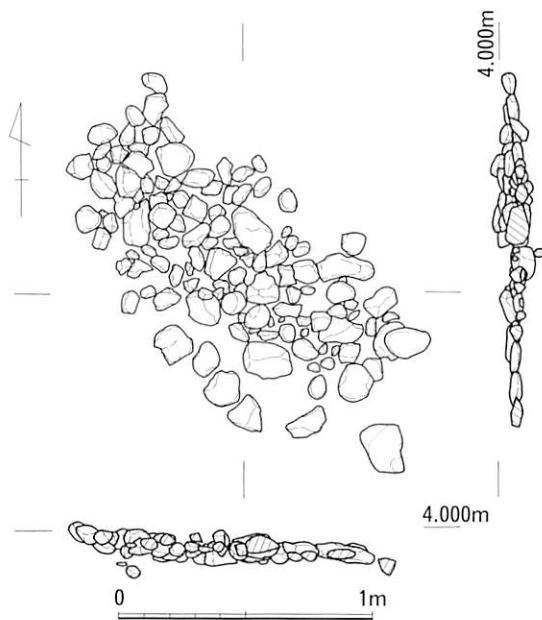
**SX037出土遺物 (第277図)**

1は中国景德鎮窯系青花の碗で、見込みを欠損するE群もしくはD群青花碗であろう。16世紀後葉から末葉に比定される。2は京都系土師器皿で、器壁が厚く、2期ないし3期

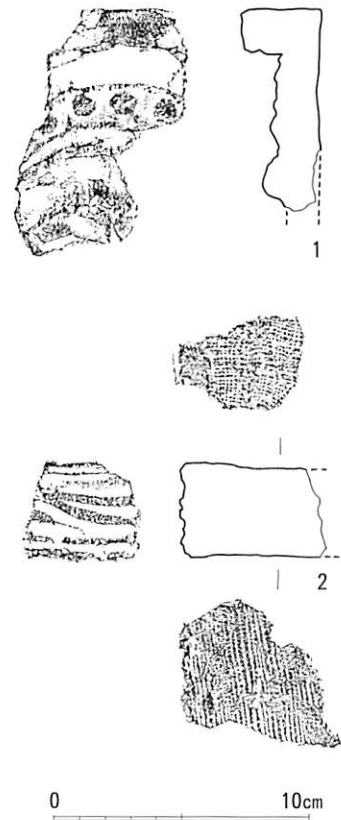


第277図 SX037出土遺物実測図 (1/3)

の製品である。3は瓦質土器の製品であるが、器形・用途ともに不明である。4・5は備前系陶器擂鉢で、いずれも内面に放射状擂目と斜め擂目を交差させる特徴をもつ。近世1期（16世紀末葉）に比定される。6



第278図 SX039実測図 (1/30)



第279図 SX039出土遺物実測図 (1/3)

## 第2節 遺構と遺物

は備前系陶器の瓶あるいは徳利の頸部である。

### SX039 (第278図)

上層遺構群に属する集石遺構で、J17区に位置する。集石は拳大の礫で構成されており、長辺1.9m、短辺0.8m、厚さ15cmの範囲に形成されている。第2南北街路を構成する整地層内に形成されたもので、礫の周囲に明瞭な掘形等を確認することはできなかった。遺構の状況から、第2南北街路の補修時に路面の窪みに投げ込まれた礫群である可能性を考えている。出土遺物には瓦片などがあるが、遺構の時期を示唆するものではない。遺構の構築時期は、層位的な所見から、16世紀後葉から末葉に比定されよう。

### SX039出土遺物 (第279図)

1は軒平瓦で、瓦当文様は巴文である。現状では詳細な製作年代を明確にはできないが、中世の所産となる遺物である。2は均整唐草文軒平瓦で、顎部裏面にカキ目調整を施し、凹面には布目痕が認められる。色調は灰青色を呈する。当該資料は7世紀後葉から8世紀代に比定される古代瓦で、上野廃寺と同範の類似の資料が大分市上野廃寺出土<sup>(1)</sup>の軒平瓦にあり、瓦当文様や瓦当部の断面形態、顎部裏面のカキ目調整などの特徴から、同範と断定しうる資料である。この遺物は混入品であるが、小破片であるとはいえ、上野廃寺と同範の軒平瓦が本調査区で出土する現象は興味深いものがある。今後、注意を払っておきたい遺物である<sup>(2)</sup>。

---

註(1) 讚岐和夫「上野遺跡群(上野廃寺)」(『大分市埋蔵文化財年報』vol.10 1998年度大分市教育委員 1999年)

大分市教育委員会『上野遺跡—金剛宝戒寺東側における発掘調査報告書—』(1990年)

小田富士雄「大分市上野廃寺の古瓦について」(『古文化談叢』第46集 九州古文化研究会 1990年)

上野廃寺と中世大友府内町跡第28次調査区は、直線距離にして約1.3km離れており、前者は台地上、後者は沖積低地上に立地するという違いもある。小破片であるとはいえ、当該軒平瓦が大友28次調査区から出土した事実に注目しておきたい。

なお、上野廃寺出土の軒平瓦については、正式報告が未刊行であるため、その詳細な年代や製作技法に関する問題については、今後の課題としておきたい。

(2) 上野廃寺出土軒平瓦と同範の軒平瓦の破片が、本資料の他にも、中世大友府内町跡第8次調査区で出土している。しかしながら、報告時には当該資料が上野廃寺と同範の古代瓦であるという認識が無く、天地逆で実測図の提示を行っている。

大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内1 中世大友府内町跡第5・8次調査区』

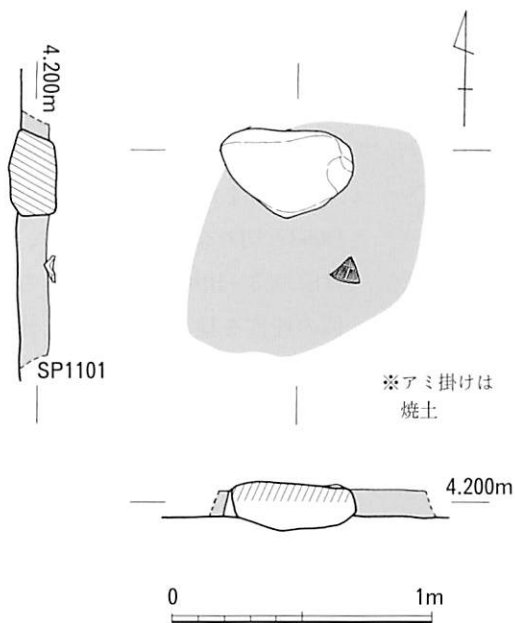
(2005年 419頁 第528図76参照)

5. 礎石・掘立柱建物・柱穴

SX003 (第280図)

上層遺構群に所属する礎石で、K18区に位置する。礎石には長辺50cm、短辺30cm、厚さ20cmの川原礫が使用されており、その上面がほぼ水平になるように据えられている。礎石上面には中央部がわずかに窪むように加工がなされている。礎石の下位や周辺に掘形や根締め石などは認められず、整地層上に直置されている。礎石の周囲には、南北0.9m、東西0.8mの範囲に焼土層の広がりが見られ、礎石自体も被熱した形跡が見られる。この焼土層は天正14年(1586)のものである可能性が高く、礎石上に建てられていた建物は、島津侵攻時に焼失した可能性が高いと考える。この礎石と組み合うものは検出されておらず、他の礎石は近世初頭以降の遺構面の削平によって消失したものと考えられる。礎石周辺の焼土層から備前系陶器播鉢が出土しており、遺構の年代は16世紀末葉に比定される。

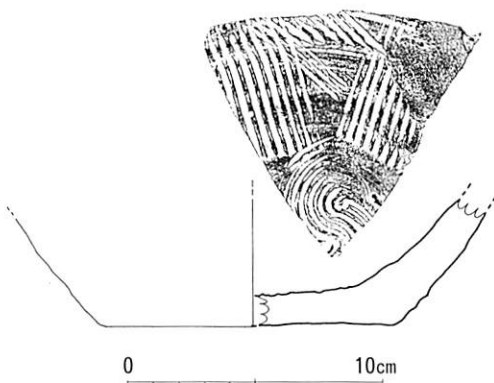
天正14年  
(1586)  
焼土層



第280図 SX003実測図 (1/30)

SX003出土遺物 (第281図)

図示した遺物は、礎石周辺の焼土層中から出土した備前系陶器播鉢である。近世1期(16世紀末葉)の所産である。



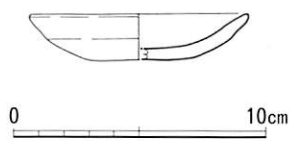
第281図 SX003出土遺物 (1/3)

SX023 (第282図)

上層遺構群に所属する礎石で、K17区に位置する。礎石には長辺30cm、短辺20cm、厚さ10cm程度の小型の凝灰岩が使用されている。礎石の下位には多量の砂利を敷いて根締め石としており、礎石上面を水平に保つような工夫がなされている。この礎石と組み合うものは検出されておらず、他の礎石は近世初頭以降の遺構面の削平によって消失したものと考えられる。礎石および根締め石内からの出土遺物はないが、その周辺から京都系土師器皿の小片が出土している。層位的な所見と出土遺物から、遺構の年代は16世紀末葉に比定される。

SX023出土遺物 (第283図)

図示した遺物は、京都系土師器皿である。2期以降の特徴を有する資料である。



第283図 SX023周辺出土遺物実測図 (1/3)

SB060 (第285図)

下層遺構群に所属する柱穴のうち、掘立柱建物としてまとめようなものをSB060として報告する。SB060はJ17



第282図 SX023実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物

区に位置し、第28次調査区北西隅付近で検出した。この建物跡は第2南北街路SF012を構成する整地層で完全にバックされており、第2南北街路が構築される以前に比定される遺構である。また、同じく下層遺構群に属する溝SD053と切り合い関係を有し、遺構の構築順序はSD053→SB060→SF012となる。現状では3個の柱穴を検出しており、北側は第18次調査区に、西側は第28次調査区の調査区外に伸びることが推定される。未調査の部分が多いため、遺構の大きさは不明であるが、1間×2間以上の規模を有する建物と推定される。検

出できた柱穴の柱間は約2mを測る。SB060を構成する柱穴のひとつであるSP

天正14年  
(1586)  
焼土層

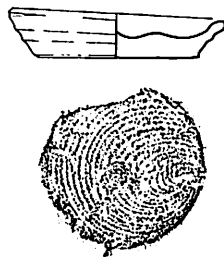
1002から完形の土師質土器小皿が出土しており、その年代観から、遺構の構築年代は15世紀代に比定される可能性が高い。

SB060出土遺物 (第285図)

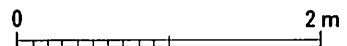
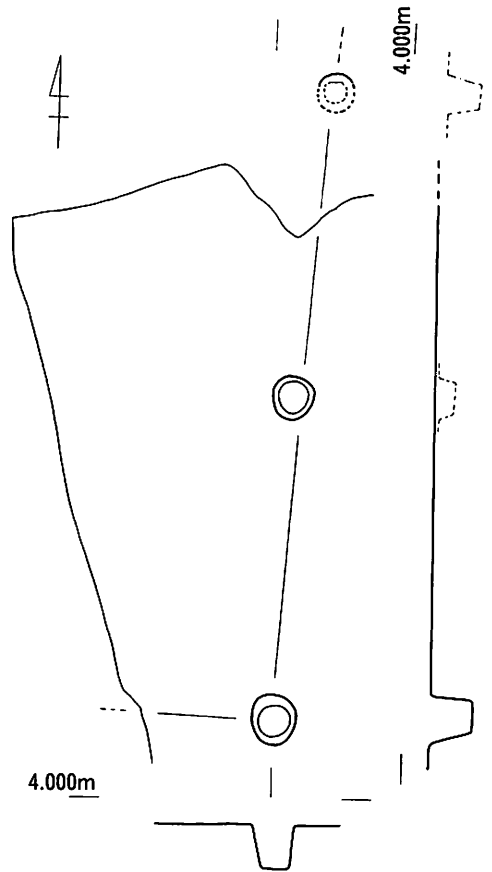
図示した遺物は、SB060を構成する柱穴のひとつであるSP1002からの出土遺物で、土師質土器の小皿である。口縁部がやや開く器形を呈し、底部は回転糸切りとなる。15世紀代の所産と推定される資料である。

SX059 (第268図)

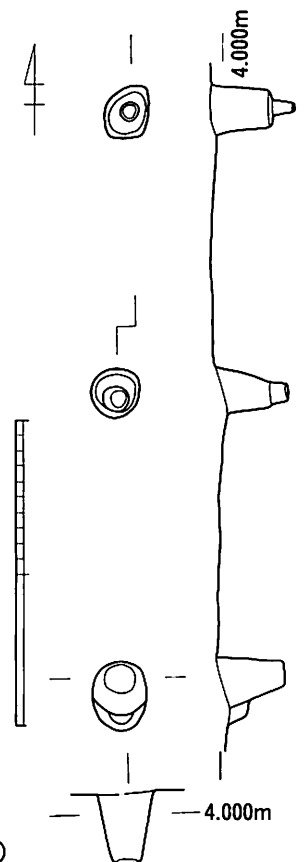
上層遺構群に所属する3基の柱穴で構成される遺構で、J17区に位置する。3つの柱穴は径約30~40cm、深さ約50cm、柱間は1.9m前後を測る。最も南側の柱穴には、2つの柱穴が切り合っている状況が確認できており、少なくとも1回以上の建て替えや改修が行われていることが窺われる。これらは第2南北街路上に掘り込まれたもので、町屋の一部が道路側へ張り出し、進出してきたことを示唆する遺構である。同様な遺構が第18次調査区でも検出されている。各柱穴からは遺構の時期を示す出土遺物は認められないが、層位的な所見などから、遺構の構築時期は16世紀後葉から末葉である。



第285図 SB060出土遺物  
実測図 (1/3)



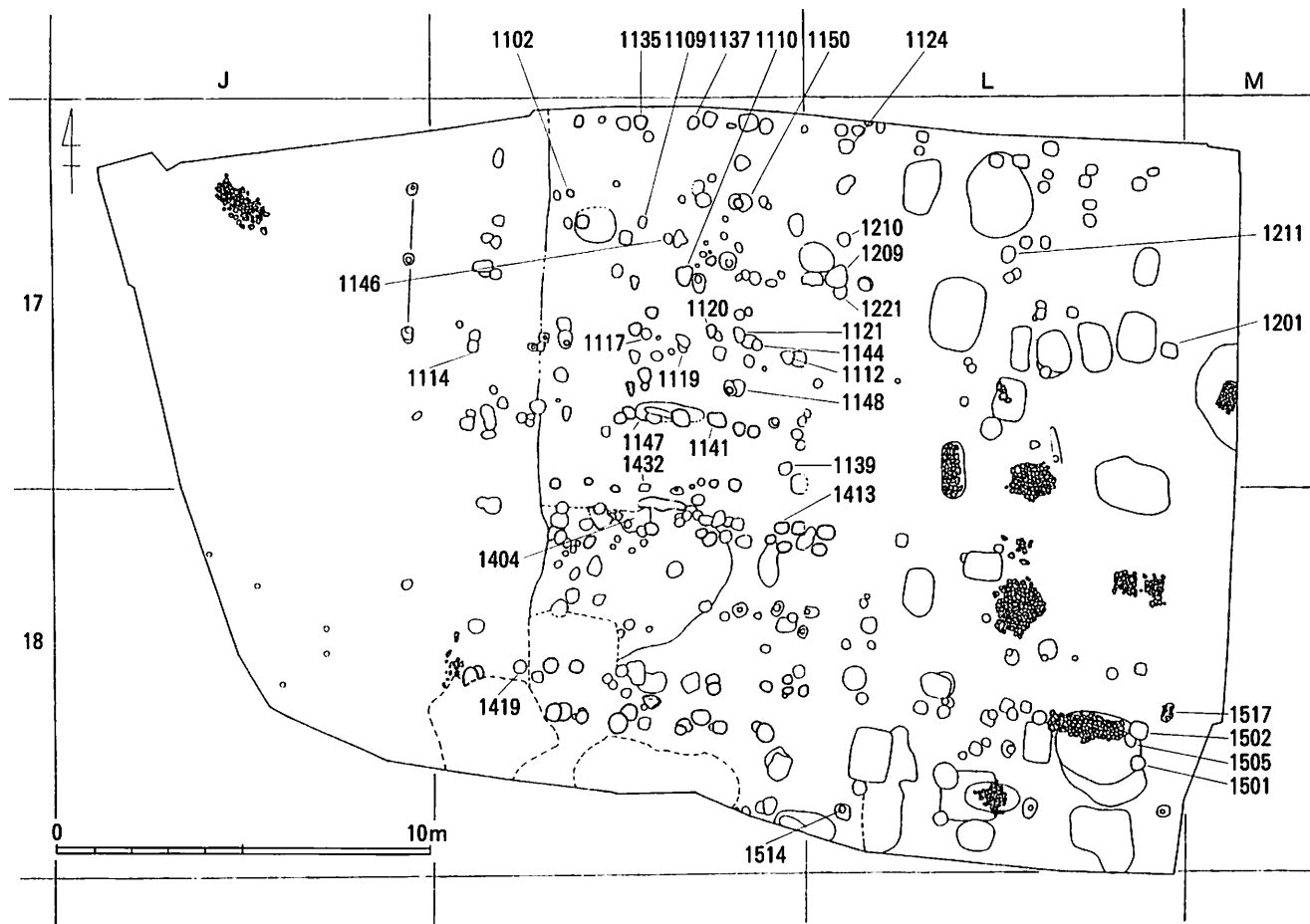
第284図 SB060実測図 (1/50)



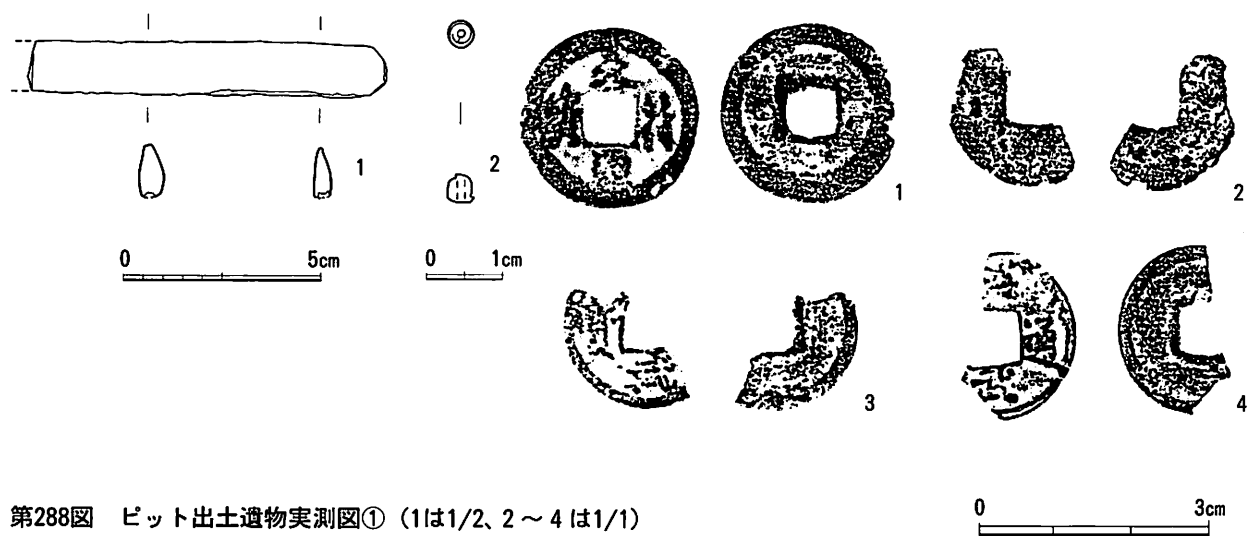
第286図 SX059実測図 (1/50)

その他のピット

第28次調査区では多数のピットを検出しており、この中には確実に下層遺構群に属するものが少数認められるが、その大多数は上層遺構群に所属する。柱穴の中には天正14年(1586)の焼土層・焼土ブロックSX004を切って構築されているものが少数確認できるほか、埋土に焼土を多量に含むもの、礎盤と思われる礫をもつもの(写真図版29参照)、柵列あるいは掘立柱建物を構成すると思

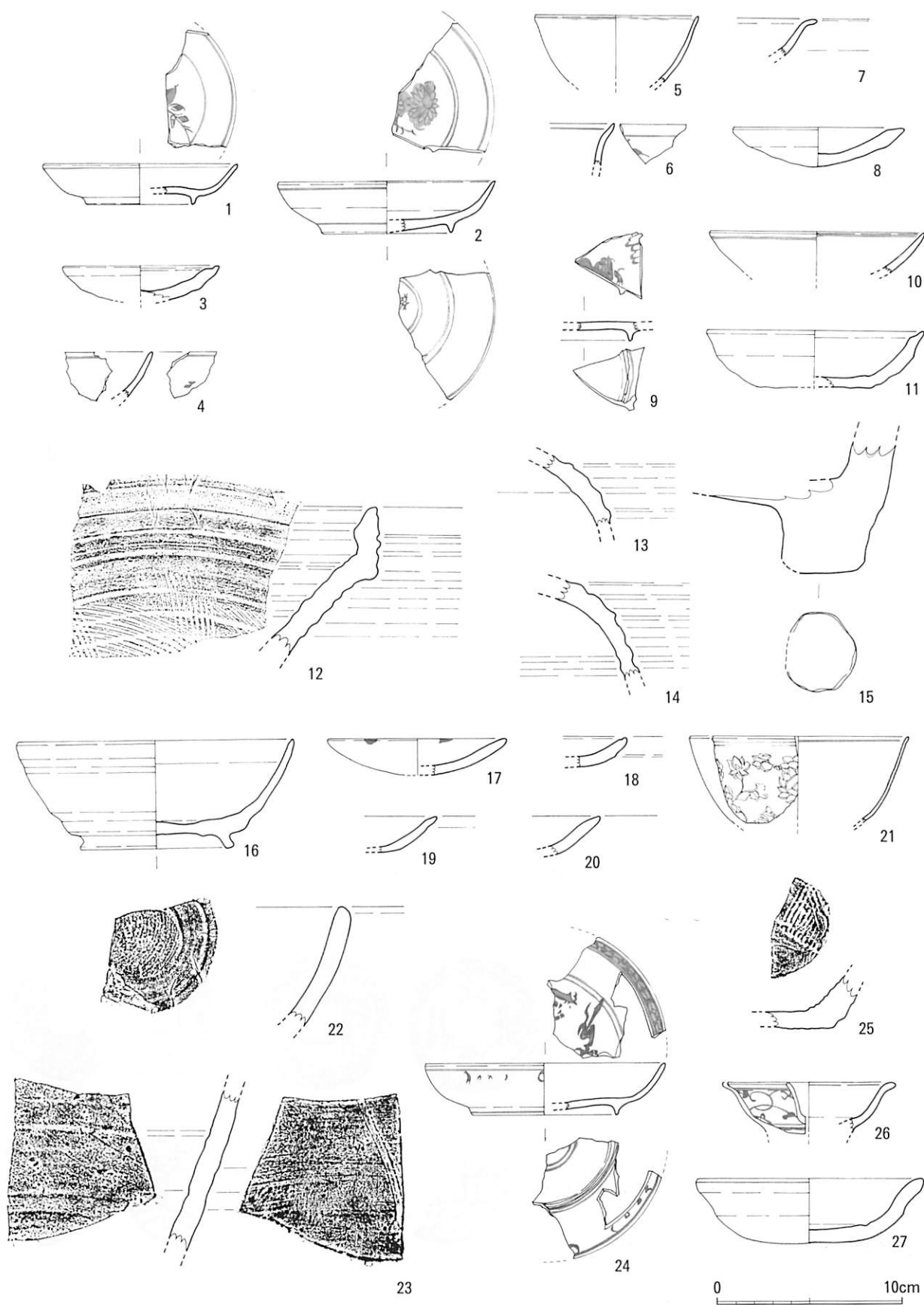


第287図 ピット配置図(上層遺構群のみ。下層遺構群は第195図参照 1/200)

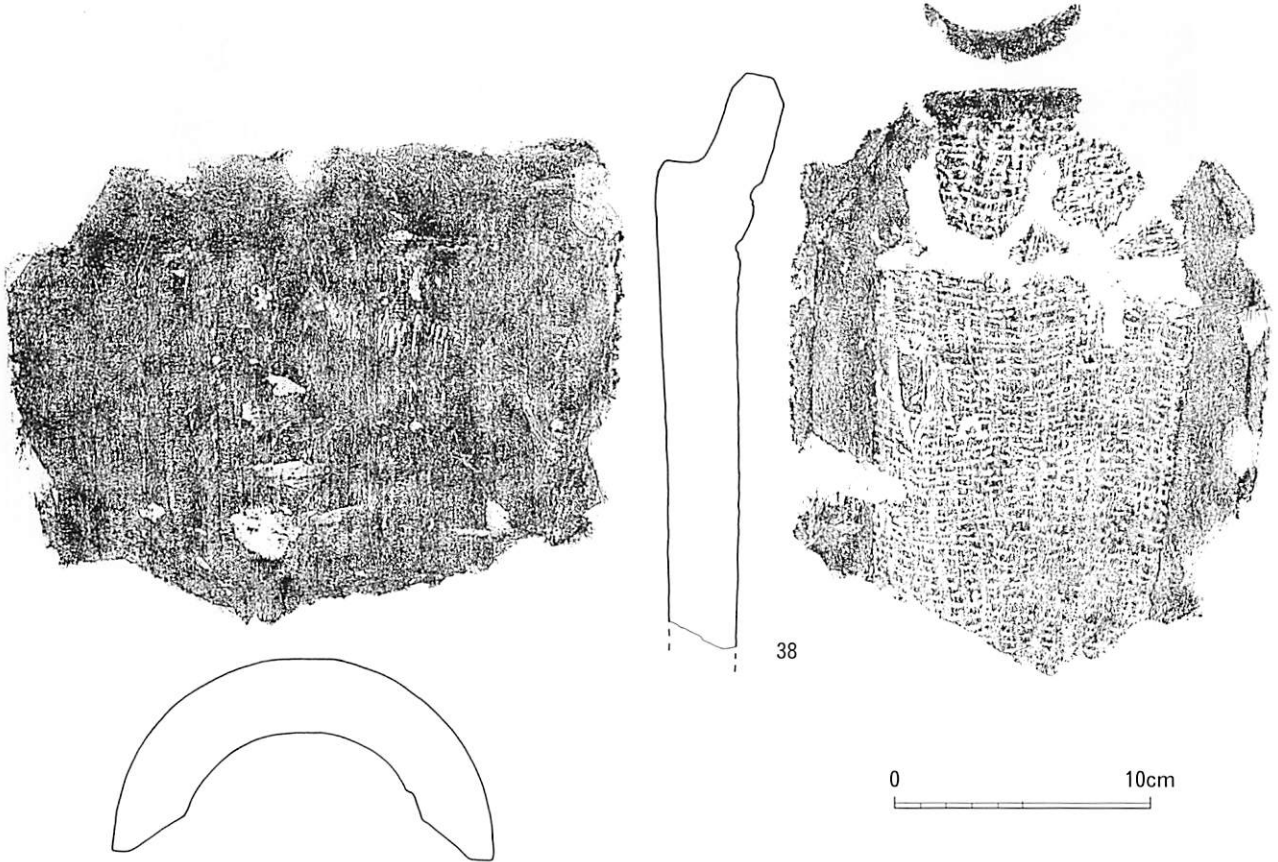
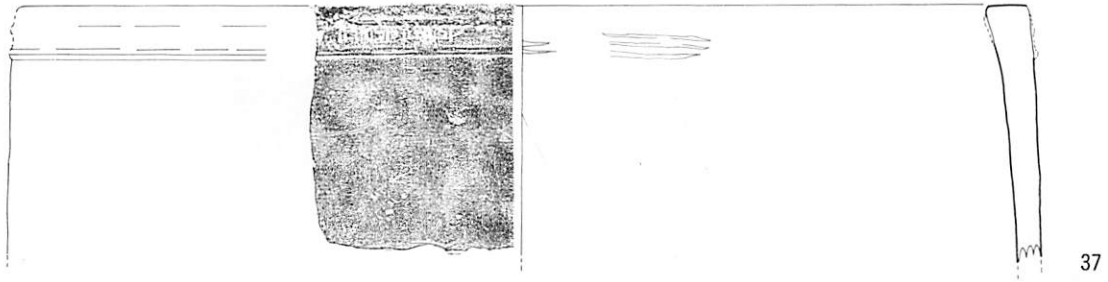
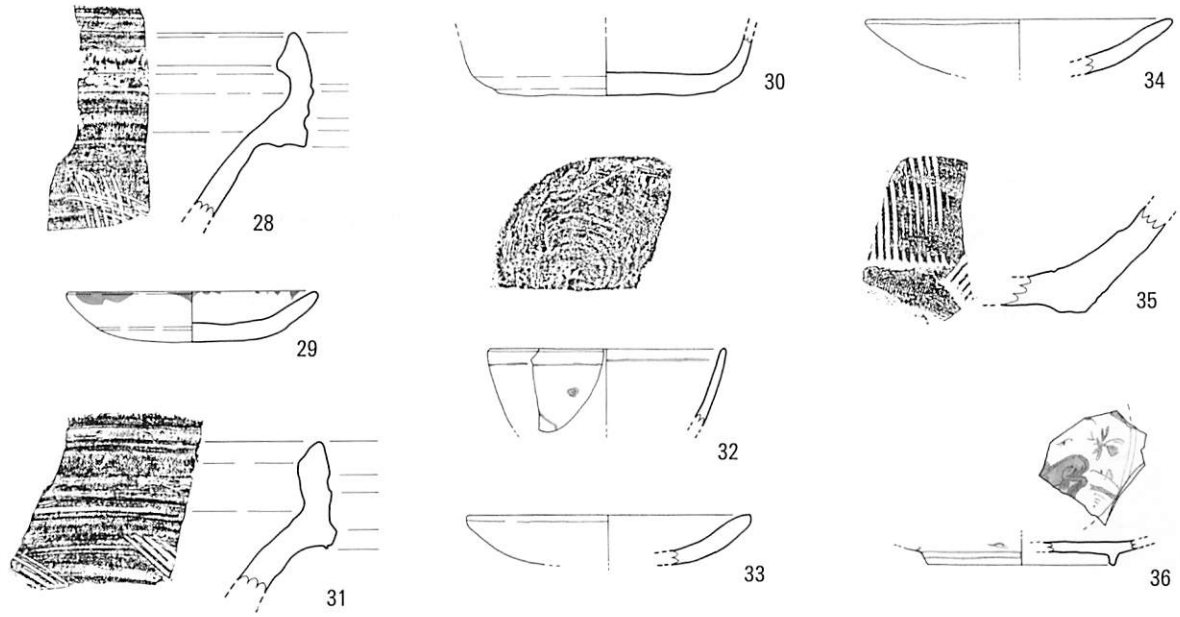


第288図 ピット出土遺物実測図①(1は1/2、2~4は1/1)

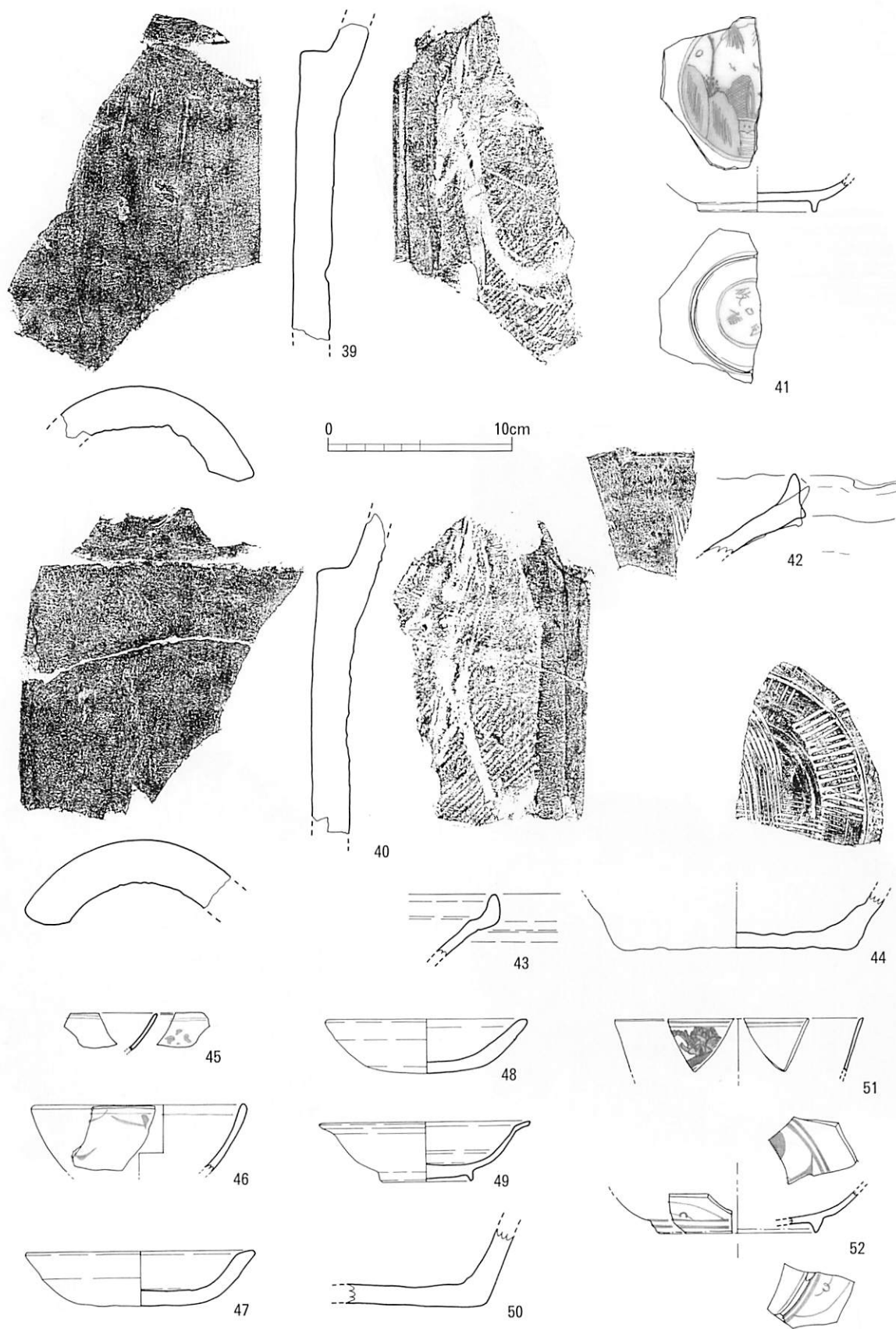




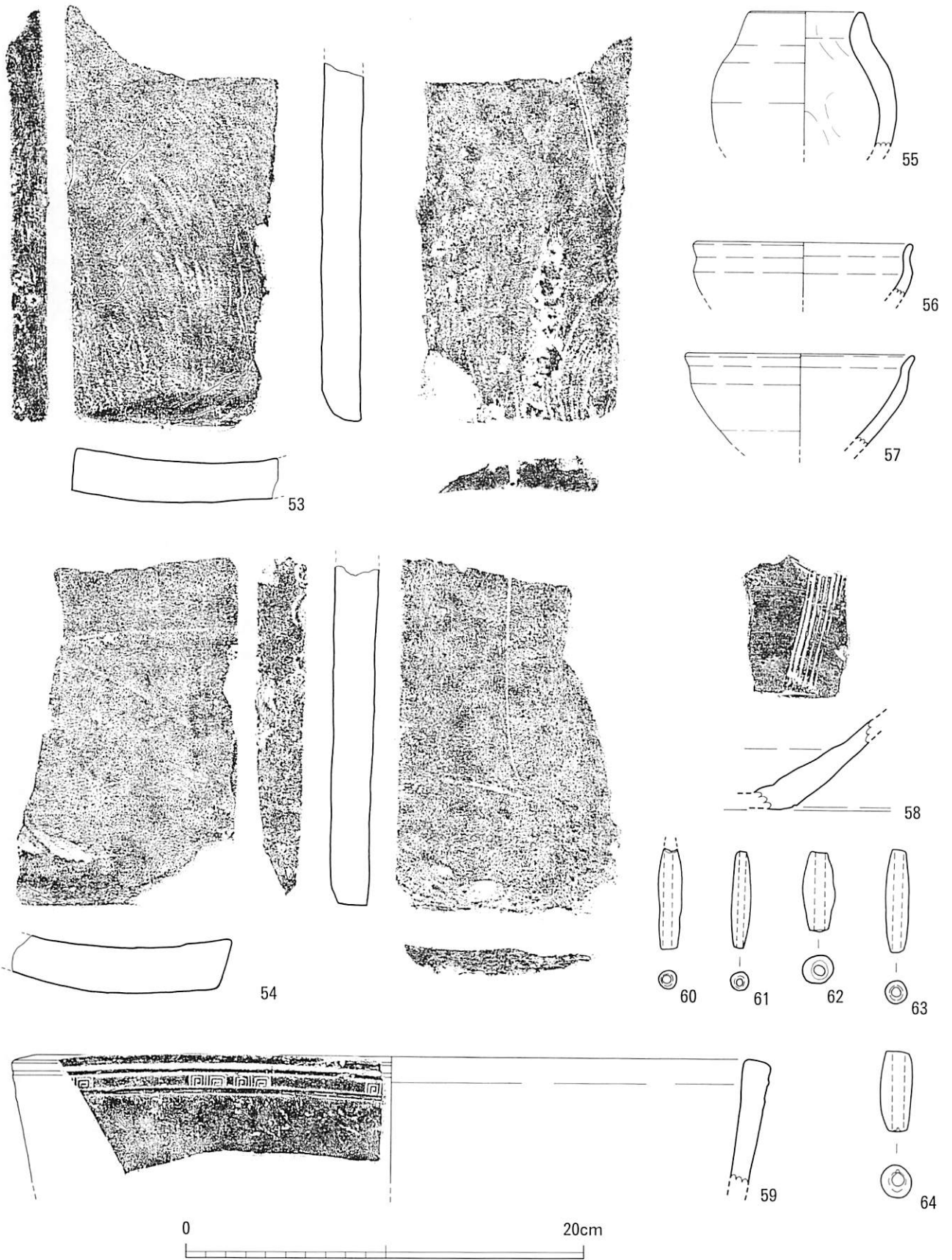
第289図 ピット出土遺物実測図② (1/3)



第290図 ピット出土遺物実測図③ (1/3)



第291図 ビット出土遺物実測図④ (1/3)



第292図 ビット出土遺物実測図⑤ (1/3)

われるものなどが認められる。ピット群の性格については、「小結」や「総括」の項目でさらに検討を加えたい。ピット群出土遺物の中で、図示に耐えるものを第288～292図に掲げた。紙幅の関係で個々の遺物についての説明は省略しているため、詳細については巻末の遺物観察表を参照されたい。

6. 井戸・その他の遺構

SE027 (第293図)

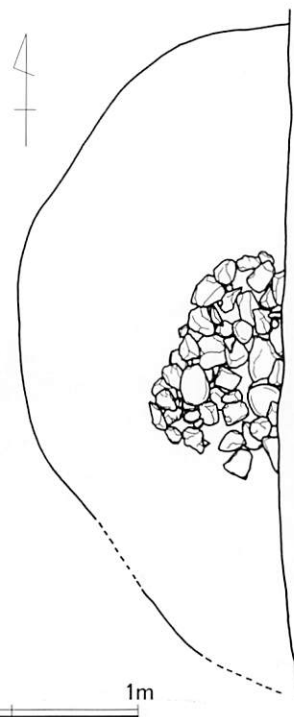
井戸

上層遺構群に所属する井戸で、M17区に位置する。調査区の制限により、全体の3分の1程度を検出したのみで、東側はさらに調査区外に伸びる。井戸の掘形は円形で、現状での最大径は4.4mを測る。検出面から60cm程度掘り下げた時点で、拳大の礫が多数廃棄されている部位が現れ、さらにその下位に結桶で作られた井筒を検出した。礫を撤去し、最上段の結桶を検出した後、湧水が激しくなり、礫と結桶の状況を写真撮影した直後に調査区の東壁が崩落した。この時点でこれ以上の掘り下げは危険と判断し、結桶の取り

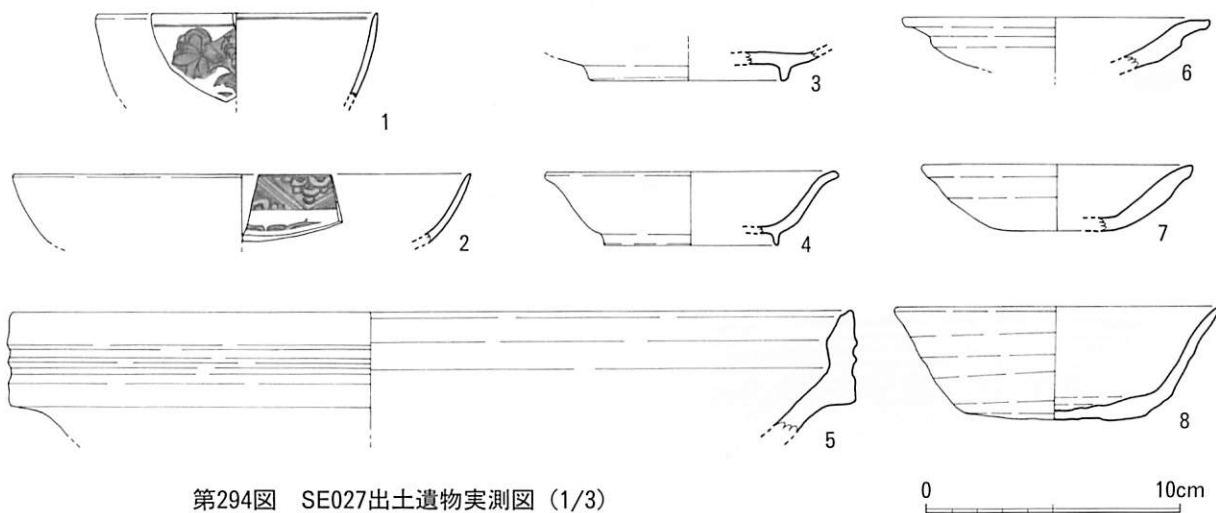
上げや土層図の作成を断念した。遺構平面図の作成は、井筒の上部に集積されていた礫群のみに留まっている。遺構の掘り下げや土層の検討が不十分であるが、他の調査事例を参照にすると、当該遺構は結桶を数段重ねることによって井筒とする素掘りの井戸で、井戸廃棄の際に井筒上面に土坑状の掘り込みを形成し、その掘り込み内に礫を廃棄したものと推定する<sup>(3)</sup>。井戸の掘形埋土からの出土遺物より、当該井戸の構築年代は16世紀後葉から末葉に比定される。

SE027出土遺物 (第294図)

1・2は中国景德鎮窯系青花で、1はE群青花碗、2はE群青花皿である。いずれも16世紀後葉



第293図 SE027実測図 (1/30)



第294図 SE027出土遺物実測図 (1/3)

註 (3) 久世康博「井戸はどうしてうめられたのか (石をいれる)」(『考古学論集』第5集 2001年)

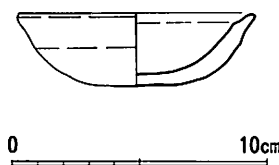
久世康博「井戸」検出に伴う「土坑」の検討(『研究紀要』第8号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年) 参照)

の所産である。3・4は中国産の白磁皿で、E群に分類される製品である。16世紀代の所産である。5は備前系陶器播鉢で、口縁部の断面形態から中世6期bから近世1期（16世紀後葉～末葉）に比定される。6・7は京都系土師器皿で、器壁が厚いことから、2期ないし3期に比定される資料である。8は混入品と思われる古代（9世紀）の土師器坏で、底部はへら切り後ナデ調整が行われている。

#### SX004

焼土層

上層遺構の精査中に、K18区でブロック状に残存した焼土層を検出した。残存する焼土層の範囲は東西約4.0m、南北約0.9mであるが、北側は近年の攪乱により大きく削平されていた。焼土層中から僅かであるが、出土遺物を認めたことから、当該焼土層にSX004の遺構番号を付し、遺物の取り上げを行った。層位的な所見や遺跡周辺の状況から、当該焼土層は天正14年（1586）の島津侵攻時に形成されたものである可能性が高いと考える。出土遺物の年代観もそれと矛盾しないものである。



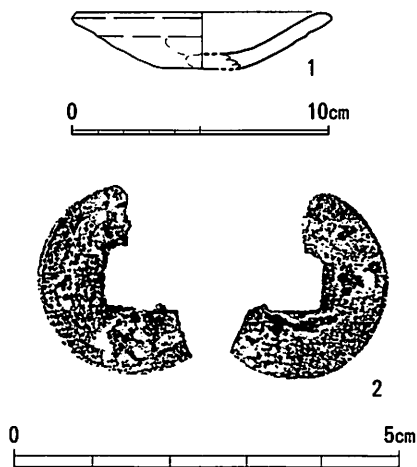
第295図 SX004出土遺物実測図（1/3）

#### SX004出土遺物（第295図）

図示した遺物は、京都系土師器皿である。器高が高く、坏に近い形態を呈している。器壁が厚いことから、3期以降の特徴を示す製品である。

#### SX034（第195図参照）

調査区南東隅で検出した遺構で、L18・M18区に位置する。土坑SK032・SK035・柱穴SP1526等と切り合い関係を有し、すべての遺構に切られている。遺構の切り合い関係などから、下層遺構群に属する遺構と判断している。南東側に向かって緩やかに低くなり、底面には10基程度の小穴が検出された。遺構の性格は不明であり、土取り遺構である可能性も考えられるが、断定できない。埋土中から京都系土師器や銅銭などが出土した。遺構の時期は16世紀後葉以降に比定される。



第296図 SX034出土遺物実測図（1は1/3、2は1/1）

#### SX034出土遺物（第296図）

1は京都系土師器皿で、2期の特徴を有する資料である。2は銅銭で、錆出が著しく、銭文を判読できない資料である。

#### SX041（第194図参照）

上層遺構群に所属する整地層で、K18区に位置する。整地層は地山の直上に堆積する厚みが10cm以下の精良な黄白色粘質土で構成され、南北約5m、東西約4mの範囲に広がっている。整地層上には多数の柱穴が構築されているが、この整地層自体の性格は不明である。出土遺物に図示可能なものはないが、京都系土師器の小片が出土している。当該整地層の構築時期は、16世紀後葉に比定される。

7. 包含層・整地層出土遺物（第297～304図）

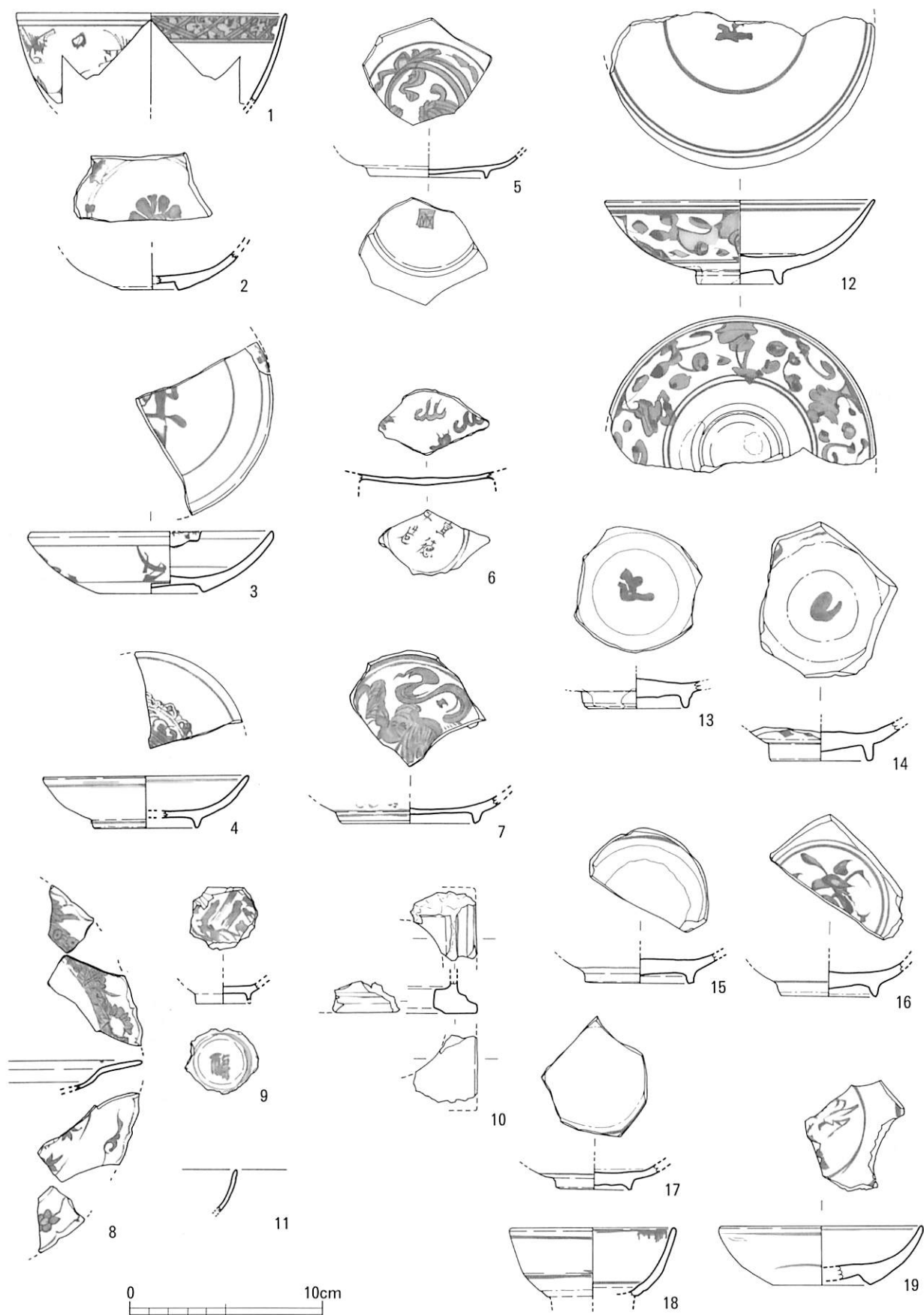
遺構に帰属しない包含層・整地層出土として取り上げた遺物を、本項目で報告する。第297図1～11は中国景德鎮窯系の製品である。1はE群青花碗、2・3はC群青花皿、4～7はE群青花皿、8はF群青花皿、9は小杯、10は器種不明の特殊品、11は内外面に褐彩を施す碗である。3は口縁端部を故意に打ち欠いており、当該部位に煤が付着している。この青花皿を灯明皿として使用（転用？）するために、行われたものである可能性が考えられる。12～19は中国漳州窯系の製品で、12～17は青花碗、18は小型の青花碗、19は青花皿である。第298図20～22は中国産の青磁で、20は香炉、21は皿、22は小型の瓶類である。23～26は中国産の白磁である。23は皿で、は内底部に「天下太平」銘が認められる。24は小杯の可能性が考えられる底部破片である。26は型打ち成形による製品で、外面に連弁文を有し、内面は露胎となる。合子の身であろうか。極めて類似した製品が第18次調査区でも出土しており（本書第2分冊第4章参照）、接合はしていないが、同一個体である可能性がある。27～31は中国産陶器壺で、27・29・30は焼締、28・31は外面に黒褐色の釉を施す。なお、29・30は同一個体と思われる。32は中国産褐釉陶器小型壺で、「茶入」<sup>(4)</sup>として使用されたものである。内面は露胎となる。33も内面が露胎となる中国産褐釉陶器の製品で、器壁が非常に薄いのが特徴である。当該製品も茶入である可能性が考えられる。34は中国産の磁器で、外面に細い連弁文が認められ、外面と外底部には緑彩が施されている。内面にはロクロ目が残存し、露胎となる。35は華南三彩の製品であるが、小破片のため、器種不明である。36～38は青釉小皿で、39の外底部には「福」字の一部が読み取れる。39・40は北部ベトナム産の印花文白磁皿である。それぞれ、別個体の製品と推定する。41～44は朝鮮王朝産の陶器製品で、41は碗、42は鉢、43・44は瓶類（舟徳利）である。45～48は瀬戸美濃系陶器の製品で、45は小型の天目碗、46は天目碗、47は皿、48は外面に鉄釉を施す碗である。いずれも大窯3期（16世紀後葉）の製品であろう。49・50は備前系陶器播鉢で、内面に放射状播目と斜め播目を交差させる近世1期（16世紀末葉）の製品である。第299図51～64は京都系土師器で、51～62は皿、63・64は坏である。65は土師質土器の碗で、底部に高台を有する在地色の強い製品である。66は焼塩壺の蓋または小型の皿である。67は焼塩壺の身である。68は取瓶で、内面に金属滓の付着がみられる。69は土師質土器の円盤状加工品である。70は瓦質土器の鉢で、これも在地系の製品であろう。71は瓦質土器の火鉢または風炉で、肩部付近に楕円形の透かし孔を有する。72は瓦質土器火鉢の脚部である。73は瓦質土器火鉢の口縁部で、口縁端部外面

註(4) 中世大友府内町跡における中国産の「茶入」の出土例は、非常に僅少ではあるが、確実に増加している。既報告の事例としては、中世大友府内町跡第5次調査A区で1例、第5次調査区B区で1例、第8次調査区で1例、第13次調査区で1例、第28次調査区で2例の計6例がある。このうち、第8次調査区の資料のみが15世紀代に遡るが、他はいずれも16世紀以降の遺構や包含層・整地層より出土している。

第7表 中国産茶入出土地点一覧

調査地点	遺構	遺構の時期	文献
第5次調査A区	包含層・整地層	16世紀後葉～末葉?	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』1 (2005年)、第220図27 (179頁)
第5次調査B区	溝SD123	16世紀前葉	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』1 (2005年)、第288図1 (248頁)
第8次調査区	溝SD101	15世紀前葉?	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』1 (2005年)、第524図12 (415頁)
第13次調査区	包含層	6世紀後葉～末葉?	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』2 (2005年)、第365図8 (226頁)
第28次調査区	包含層・整地層	16世紀後葉～末葉?	本書参照

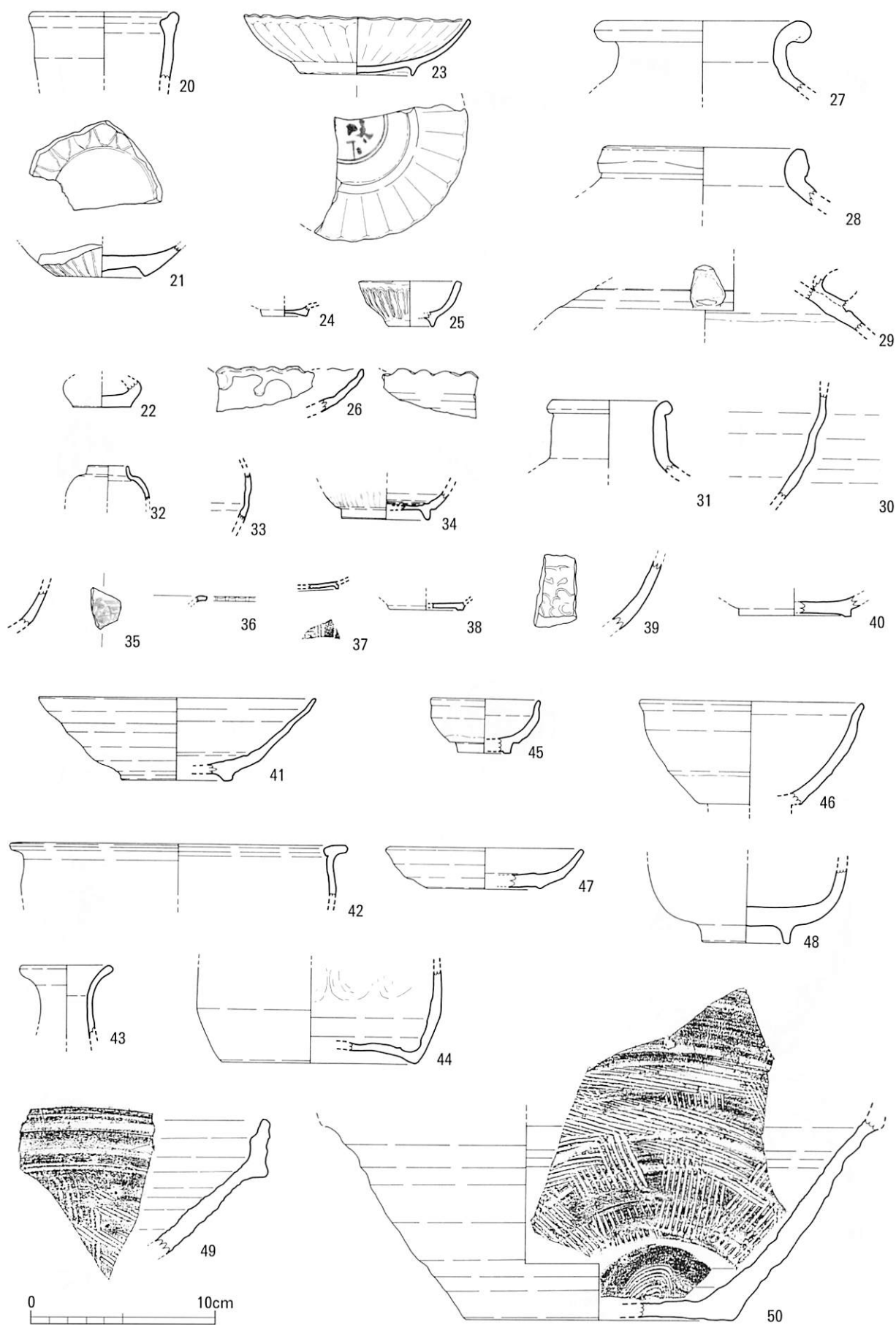




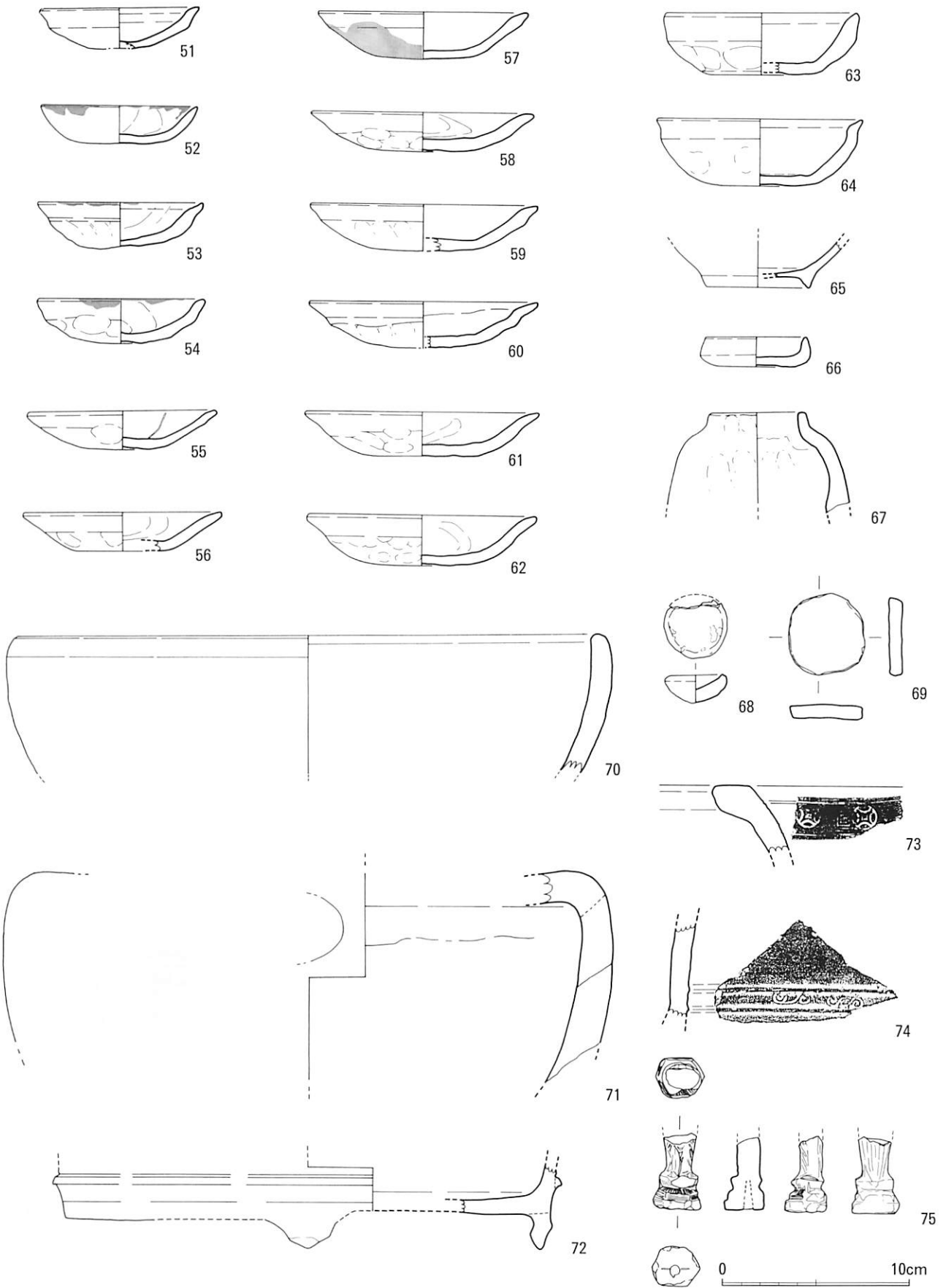
第297図 包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3)



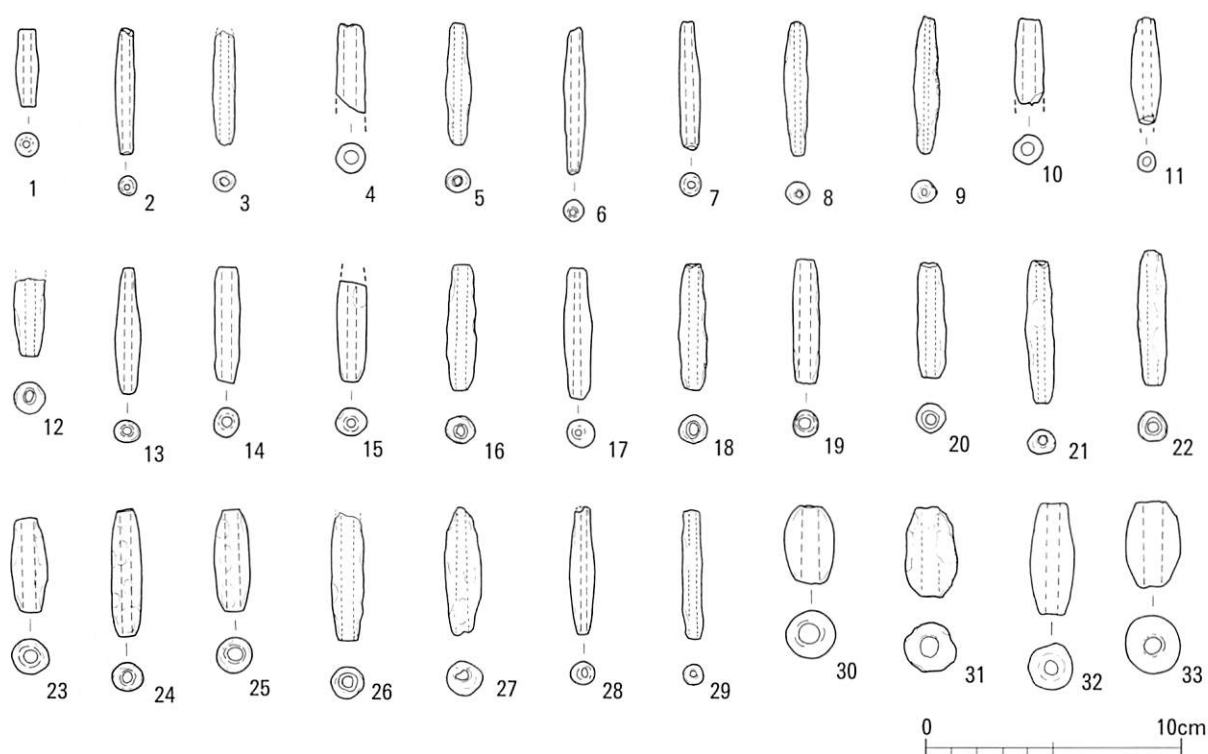
第2節 遺構と遺物



第298図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



第299図 包含層・整地層出土遺物実測図③ (1/3)



第300図 包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/3)

に七宝文の刻印を有する。74も瓦質土器火鉢の底部付近の破片で、2条の突帯間に双頭蕨手流雲文の刻印をスタンプする。在地系の製品で、16世紀後葉から末葉に比定される資料である。75は土人形で、仏像を象ったものである。底部に未完通の小孔を有する。土層観察用ベルトの上面から出土したもので、近世以降に比定される資料である。

第300図1～33は管状土錘で、いずれも中世の所産と思われるものである。法量等のデータは、観察表を参照されたい。

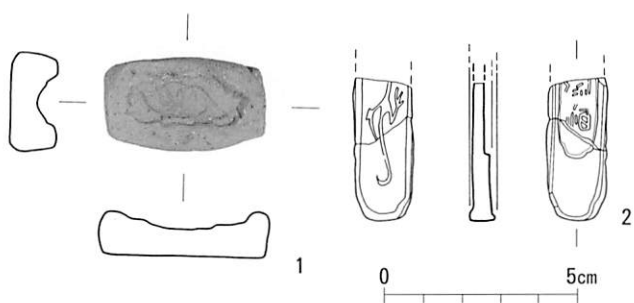
目貫金具の  
鋳型

第301図1は刀装具の目貫金

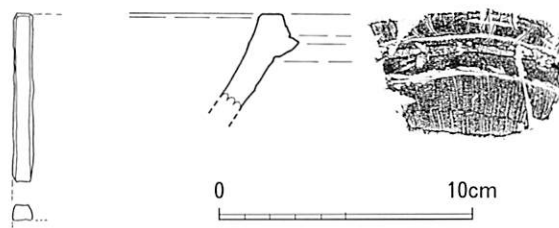
具を製作する鋳型である。表面を詳細に観察すると、僅かではあるが、熱変の痕跡が認められ、鋳型として確実に使用された資料であることが確認できる。近世の水田層からの出土であるが、中世段階に本調査地点付近に居住していた職人が使用していたものと解釈できる。本調査区付近が、中世段階に町屋であったことを物語る重要な出土遺物として着目しておきたい。

油煙墨

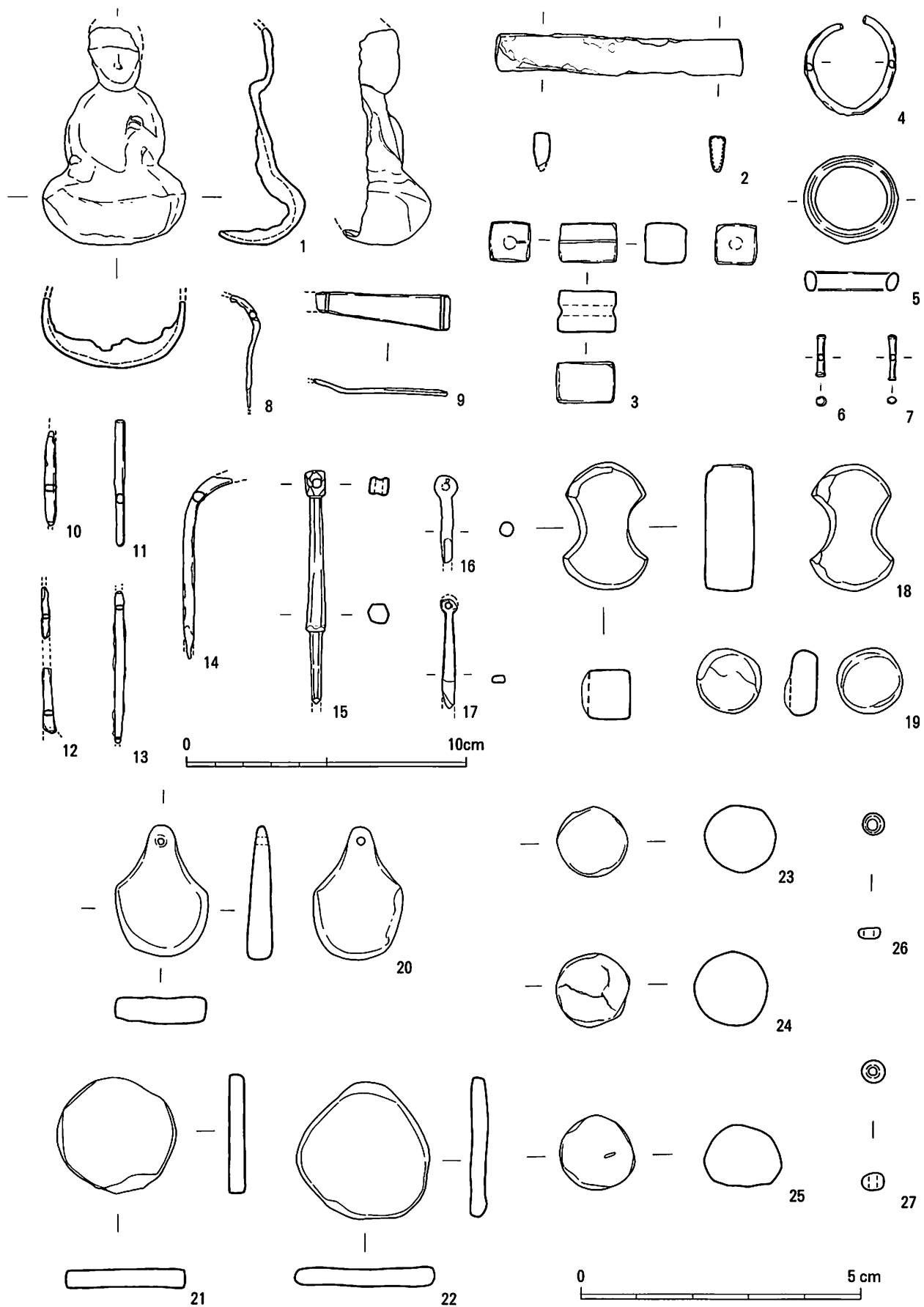
2は油煙墨である。表面に蛟龍文、裏面に「李家烟」の文字があり、奈良興福寺二諦坊で作られた製品である。K18区



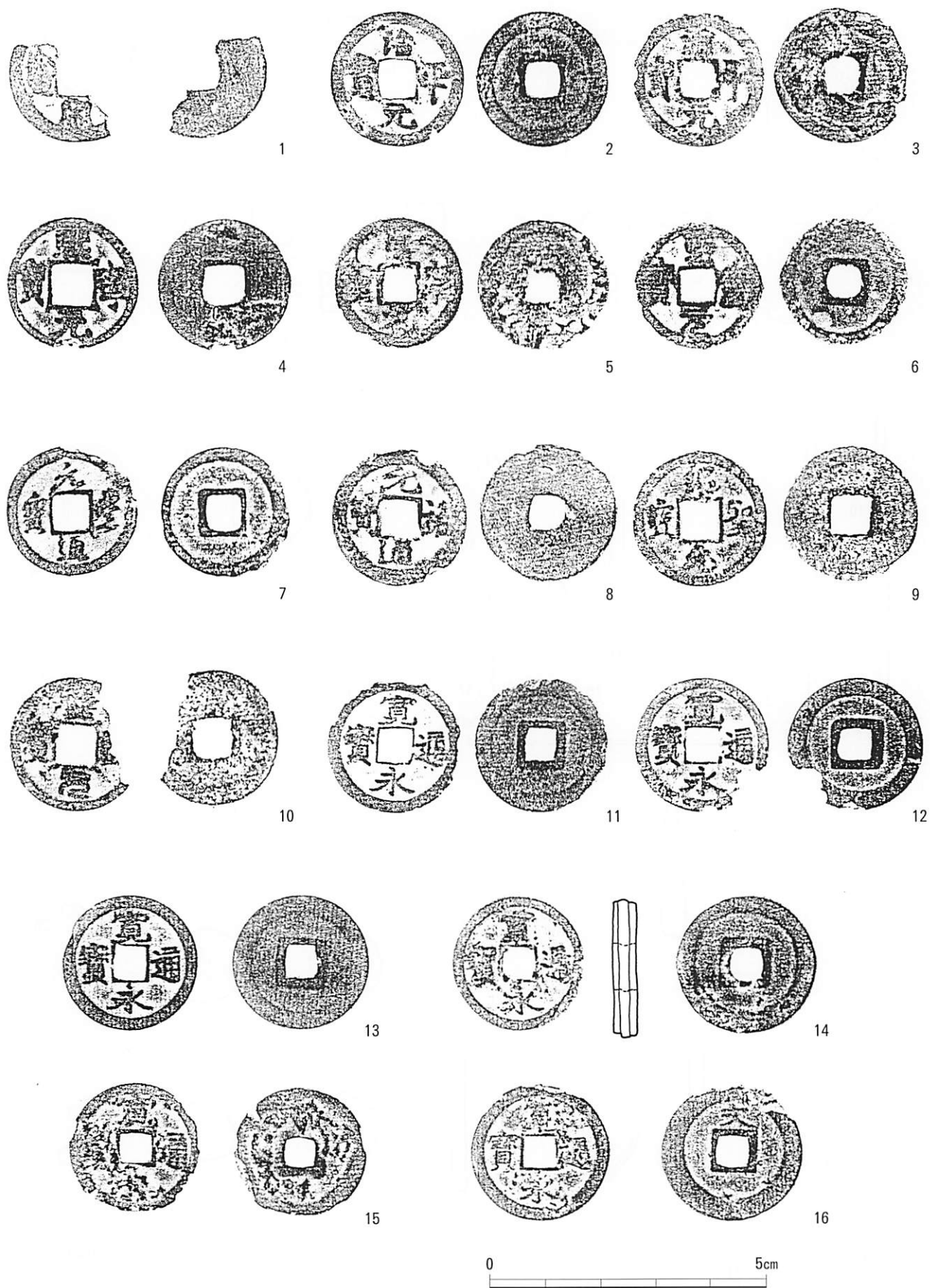
第301図 包含層・整地層出土遺物実測図⑤ (1/2)



第302図 包含層・整地層出土遺物実測図⑥ (1/2)



第303図 包含層・整地層出土遺物実測図⑦ (1~17は1/2、18~27は1/1)



第304図 包含層・整地層出土遺物実測図⑧ (1/1)

の攪乱部分から出土しているが、16世紀代の所産と推定される。本資料の他には、中世大友府内町では第22次調査区SX006<sup>(6)</sup>で類品が出土しており、他に福井県一乗谷朝倉氏遺跡第40次・44次調査区<sup>(6)</sup>で出土事例がある。

第302図には石製品を図示した。1は硯の周縁部の一部で、当該部分のみが剥離した資料である。2は滑石製の石鍋である。第303図には金属製品・ガラス製品を図示している。1～19は主に青銅を素材とした製品である。1は懸仏の仏像部で、頭部と台座の裏にフック状の突起を設けていたと思われるが、頭部裏の突起は欠損している。これの突起は鏡板部との結合を強固にするための機能を有していたものと思われる。これも近世の水田層中からの出土であるが、中世段階に遡る資料であろう。2は小柄である。3は直方体の形状を呈する青銅製品で、用途は不明である。小口の部位の中心には、小孔が長軸方向に穿たれているようであるが、付着物により、現状では貫通していない。また、表面の一面のみに極めて浅い溝状の条線が認められる。類例は中世大友府内町跡第9次調査区包含層<sup>(7)</sup>・第19次調査区<sup>(8)</sup>および第29次調査区（萬寿寺寺域内の西側地点、未報告）で出土している。第19次調査区の報告では当該製品を「青銅製分銅」としているが、その形態から分銅であるとは考え難く、分銅以外の用途を有するものであろう。4・5は甲冑の環付金具と推定される製品である。6～14も用途不明の青銅製品で、このうち6・7についてはリベット状の形状を呈するもので、近世の水田層中から出土している。15～17は青銅製の鍵、18・19は分銅である。分銅については18が繭形、19が太鼓形を呈するもので、重量は前者が13.4g、後者が2.6gを測る。20～25は鉛製品である。20は上面に貫通孔のある突起を有する装飾品で、「メダイ様金属製品」と呼称されるものである。21・22は鉛の素材を平たく伸ばしたような円盤状を呈するものであるが、用途は不明である<sup>(9)</sup>。23～25は鉛玉（鉄砲玉）で、特に25については断面が正円形でなく、若干つぶれたような印象を受けるもので、使用済み（発射済み）の製品である可能性が考えられる。26・27はガラス小玉である。第304図には、銅銭を図示している。銭貨の種類や法量などのデータは観察表に譲りたい。このうち、11～16の「寛永通寶」については、いずれも近世の水田層中からの出土である。

註 (5) 本書第3分冊第7章参照。

(6) 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅷ 第44次 第17次調査』（2000年 28頁および第20図818参照）

(7) 本書第3分冊第8章参照。

(8) 大分市教育委員会「中世大友府内町跡第19次調査」

（『国指定史跡大友氏館跡－発掘調査概報Ⅲ－』『大分市市内遺跡確認調査概報－2001年度－』所収 21頁 2002年）

(9) 類例が大分県上門手遺跡・長崎県原城跡で出土している。

大分県教育委員会『上門手遺跡』（大分県文化財調査報告書第172輯 2004年 38頁第43図1）

長崎県南有馬町教育委員会『原城跡』（南有馬町文化財調査報告書第2集 1996年 84頁 第54図2～5

同『原城跡』（同上第3集 2004年 150頁第134図2）

### 第3節 小 結

#### 第3節 小 結

中世大友府内町跡第28次調査区で検出された遺構は、16世紀後葉～末葉以降の上層遺構群と16世紀後葉以前の下層遺構群に大別される。これらはさらに切り合い関係や出土遺物によって、14・15世紀・16世紀後葉・16世紀後葉～末葉・16世紀末葉～17世紀初頭の4段階に細別される（第305・306図）。以下、各段階ごとの遺構群の様相を概観して、小結としたい。

#### 14・15世紀

##### 14・15世紀

全体的に遺構は少ないが、溝SD049・SD053・SD040・SD052、掘立柱建物SB060、土取り跡や整地層、土坑などと推定されるSK045・SK047・SK048・SK050・SK051などが、この段階に相当する。このうち、SD040はほぼ真南北方向に伸びる小規模な箱堀状の溝で、単一埋土で一気に埋め戻されている状況が観察できる。何らかの区画遺構と推定されるが、現状では詳細な性格は不明である。また、調査区西北隅で検出されたSD049は、出土遺物から15世紀前葉以前に遡るもので、かなり大規模な溝である可能性が高い。当該遺構は第18次西調査区の第2南北街路下層で確認された溝（SD001、本書第4章参照）と同一遺構であり、今後これらの溝の性格を検討する必要がある。SB060は掘立柱建物となる可能性が考えられるものであるが、周辺に同時期の遺構が希薄であり、これについても現状では、詳細な性格が不明である。

#### 16世紀後葉

##### 16世紀後葉

土取り跡や大型の掘り込みと推定されるSK031・033・034が、この段階に相当する。本調査区の基盤層は東側に向かって緩やかに傾斜する様相が伺われ、これらの遺構群は傾斜変換点の周辺から東側に集中して構築されている。埋土中に含まれる遺物や層位的な所見から、上記の遺構の所産時期は16世紀後葉以降に比定される。これらの遺構は、16世紀後葉～末葉の段階にこの地点を町屋にする際に埋め立てられたものと推定される。SK031やSK034は、それぞれ第18次東調査区や第22次調査区でも延長部が確認されており、当該地点の周辺がかなり広範囲に土取りなどの行為が行われていることが確認できる。なお、当該段階ではピットや土坑などの町屋関連遺構が、本調査区付近に構築されていないことを確認しておきたい。

なお、これらの土取り跡や大型の掘り込みと推定される遺構の性格や評価、位置づけ等に関しては、本書第3分冊第10章「総括」の項目も、あわせて参照されたい。

#### 16世紀後葉

##### 16世紀後葉～末葉

#### ～末葉

第2南北街路、ピット群、礎石、土坑、井戸、集石遺構などが次々と構築され、本調査区において最も遺構が集中する段階である。

第2南北街路SF012は、地面を緩やかに掘り窪め、砂質土と粘質土を交互に積み重ねる工法で構築されている。街路を構成する土層群のうち、最下面の砂質土中から、E群青花皿や大窯3期の瀬戸美濃系陶器天目碗、器壁がやや厚めとなる京都系土師器2期の皿などが出土している（第200図参照）ことから、第2南北街路の最初の整備が16世紀後葉を遡らないと推定している。ただし、このことは道路遺構自体が16世紀後葉以前に存在しなかったということを直接的に示すものではなく、第2南北街路を除去した後の面に遺構が希薄であることから、当該地点に16世紀後葉を遡る道路遺構が存在した可能性や道路と認識されていた空間が16世紀後葉以前に存在した可能性を否定できるものではない。道路側溝については、本調査地点では検出されておらず、後世の削平によって消失した可能性とこの調査区周辺には明確な道路側溝が当初から造られていなかった可能性の両方を考慮しておきたい。後者の場合、街路東側に位置する町屋関連の遺構と街路との境界が不明瞭であったことが指摘される。

ピット群については、K17・K18区付近に集中して構築されている。ピット群の一部には埋土に多量の焼土を含むものが確認できることから、これらについての所産時期は島津侵攻時の天正14年

(1586)前後と推定される。ピット群には東西方向で並ぶものが数列確認できており、これらのピット列の性格が問題となる。当該遺構を掘立柱建物の一部とみなすことも可能ではあるが、柱穴配置の平面プランが建物として組み合わないことや複数の建て替えの痕跡が認められることから、これらは掘立柱建物の一部ではなく、柵列状の区画遺構であると解釈してみた。この想定が妥当なものと仮定して、焼土を含むピット群や柵列状に並ぶピット列の配置を遺構平面図から抽出した。すると本調査区におけるピット列は5列程度が認識可能で、それぞれを北からG～K列と仮称しておくこととする(第306図上段)。ピット列のうち、3群と4群については2～3回程度の建て替えや改修が想定できる。また、ピット群のうち、東側に分布するものは一部が第2南北街路に張り出して構築されており、規格的な建物遺構の一部と想定できる柱穴(SX059)も存在する。これらは町屋施設の拡張を示唆する事象であろう。

礎石については、2基が検出されている。このうち、SX003については周辺を焼土が取り巻いており、この礎石を使用した建物は、天正14年(1586)の火災によって焼失した可能性が高い。ピット列と礎石の関係は明確にできないが、いずれも焼土層によって被覆されている状況から、同時期に併存したものと解釈しておきたい。SX023については凝灰岩を使用し、根締め石として、小型の玉砂利を使用している。H列としたピット列の北側に位置しており、G列-H列間の区画に建造された建物に使用された礎石であった可能性を考えておきたい。

ピット群の裏手に当たるL・M区には土坑・集石遺構・井戸などが構築されている。土坑については、その大半が廃棄土坑(ゴミ捨て穴)である。また、SK010・SK008a・SK022については、埋土中に焼土が多量に含まれており、火災処理土坑と解釈される遺構である。井戸については、1基のみの検出であることから、ピット列で区切られた個別の区画に対応するものではなく、複数区画に対応する共同井戸と推定される。集石遺構については、その性格が不明瞭であるが、集石を構成する礫群の一部は、屋根の上に重しとして乗せられていたものである可能性を考えておきたい。

当該時期の遺構のあり方、すなわちI17・I18区付近に道路遺構である第2南北街路、街路の東側に面するK17・K18区付近にピット群や礎石、ピット群の裏手に相当するL・M区に廃棄土坑や井戸が存在するという配列は、中世都市における「町屋」としての普遍的な状況を呈している。従って、これらの遺構群を、『府内古図』にみられる「桜町」の一画と解釈することが可能であると考えられる。また、本調査区周辺の第18次調査区や第22次調査区から埴塙や取瓶の出土が一定量認められることや本来の包含層から遊離した状態での出土ではあるが、本調査区の包含層から、目貫金具の鋳型(第301図1)などが出土していることなどは、町屋の遺構群の性格を想定する上で、示唆的な遺物と考えられる。

#### 16世紀末葉～17世紀初頭

16世紀末葉  
～17世紀  
初頭

天正14年(1586)の島津侵攻以降に、復興した段階の遺構群である。

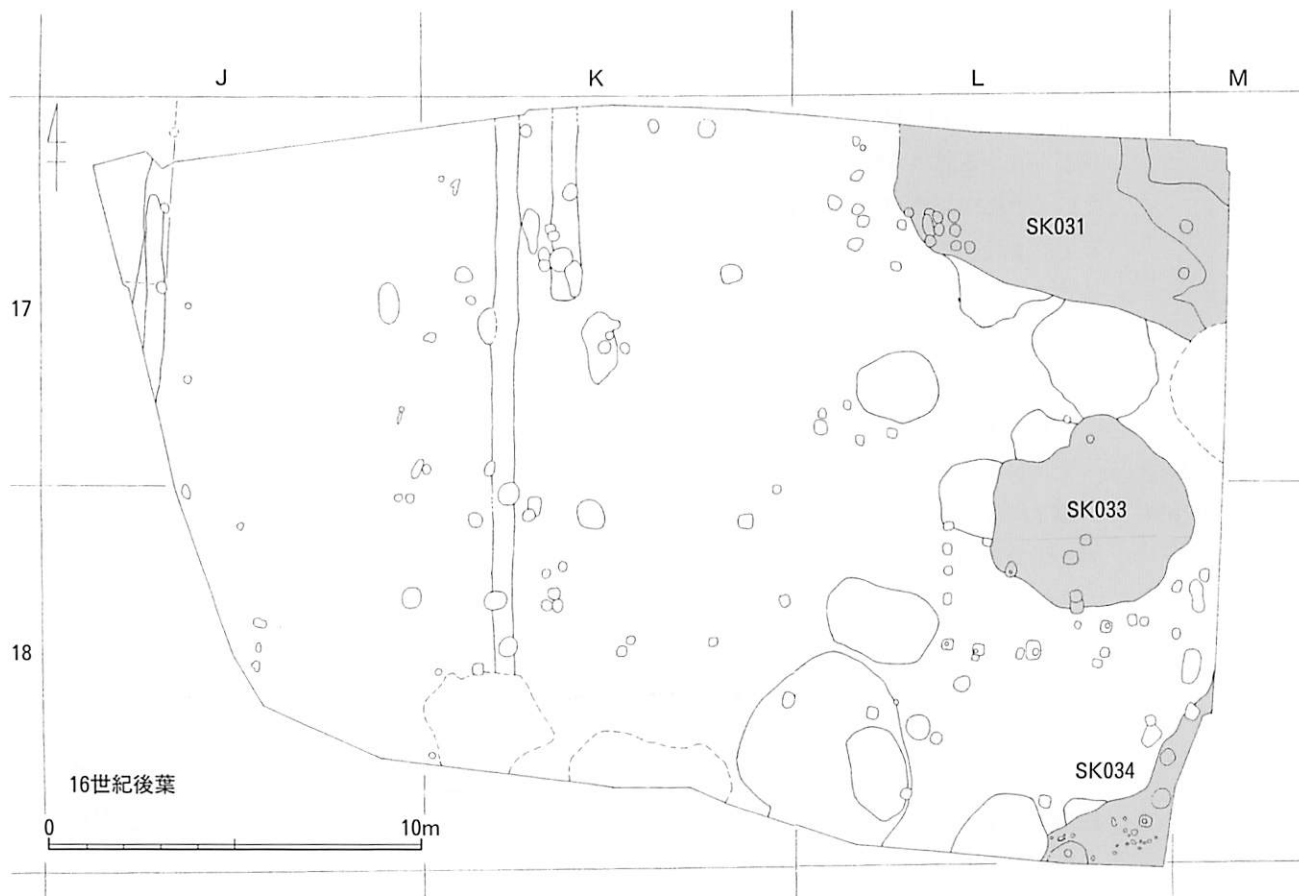
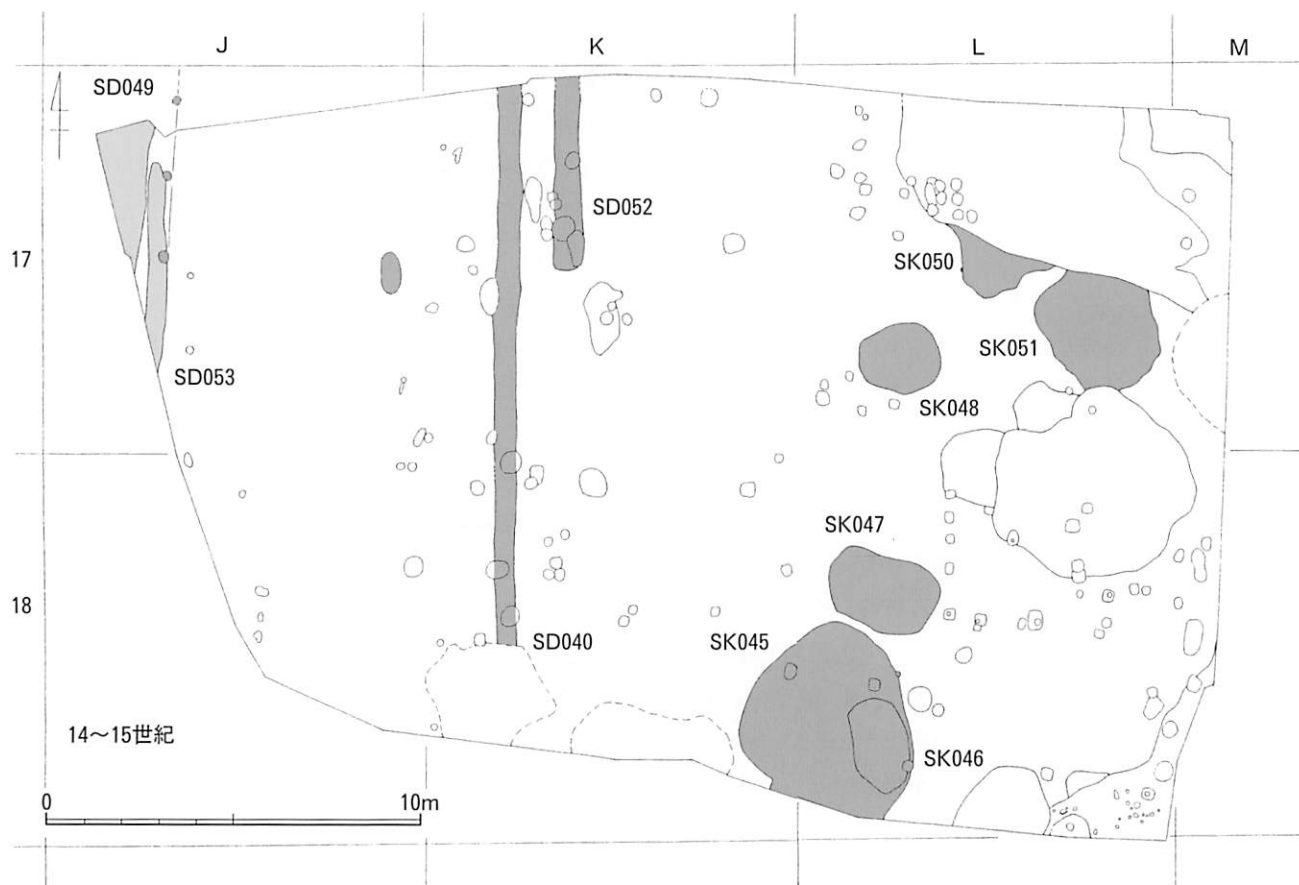
第2南北街路については、道路幅員が縮小した状況で存続したものと想定しているが、層位や遺物の上では明確に確認できていない。

土坑や集石遺構については、切り合い関係の上で、最も新しい段階に位置づけられるSK015・SK011・SK016・SX005・SX006が当該段階に位置づけられる。SX005からは、志野系陶器皿(第265図3)なども出土しているので、遺物的にも矛盾はない。

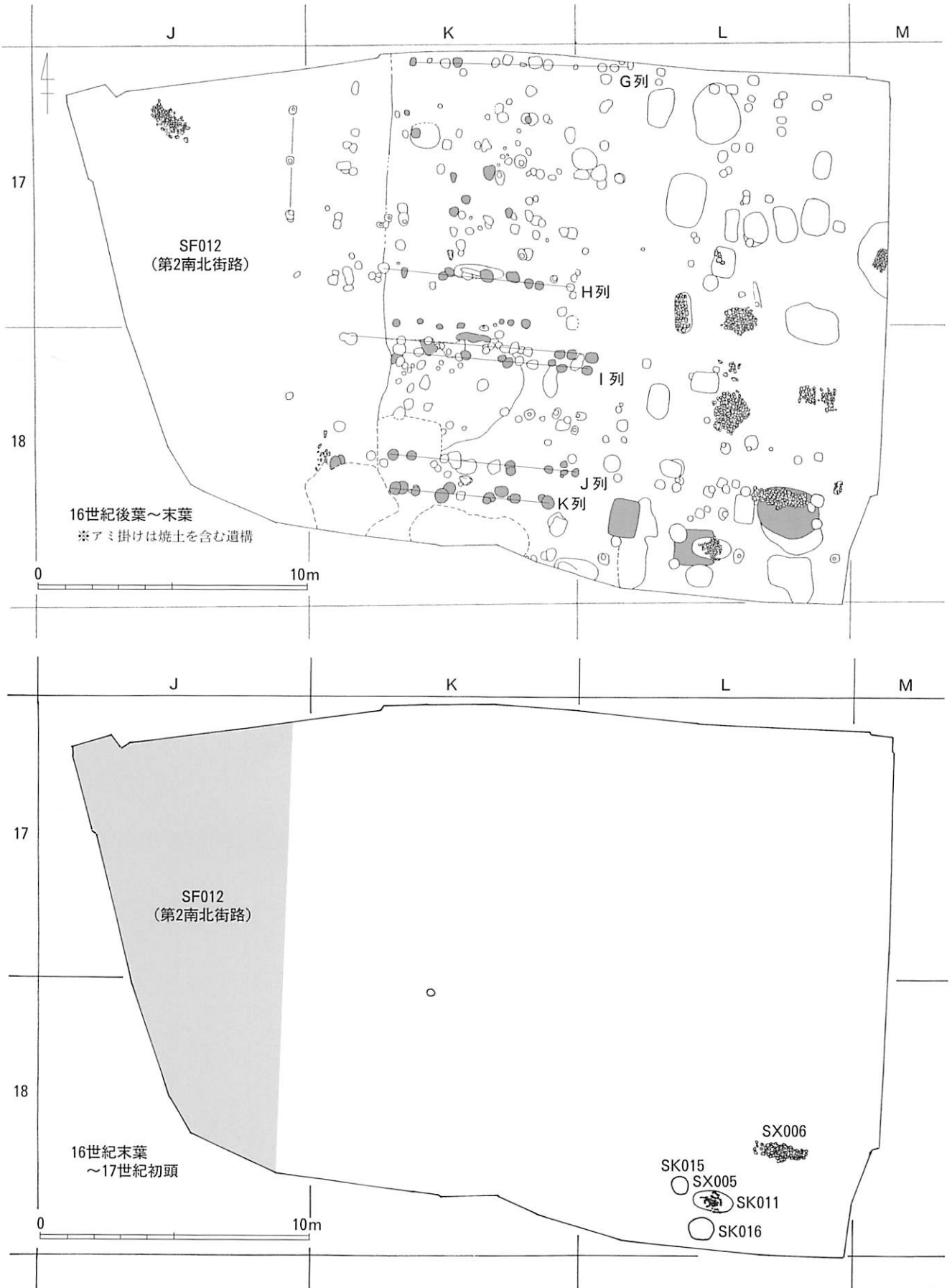
また、当該段階のピットについては、明瞭ではないものの、K18区において焼土層・焼土ブロックSX004を切って構築された柱穴が存在することが確認できている。従って、16世紀後葉～末葉の段階に比定したピット群の中に、16世紀末葉から17世紀初頭まで下るピットがかなりの数、混在していることが想定できる。



第3節 小結



第305図 第28次調査区遺構変遷図① (1/200)



第306図 第28次調査区遺構変遷図② (1/200)

### 第3節 小 結

『天正十六年参宮帳』<sup>(1)</sup>を参照すると、天正16年（1598）以降、桜町から伊勢参りに参加している武士・僧侶・町屋の住民などが確認できており、島津侵攻以降、桜町が一定程度復興していることが想定されている。16世紀末葉から17世紀初頭に比定できる遺構群は、まさにこの段階に相当するが、今回の調査では検出された遺構群の数が僅少であり、当該段階の町屋の構造などを明確にすることはできなかった。

本調査区においては、寛永通寶を含む遺構は検出されていない。さらに、慶長7年（1602）には近世城下町の整備によって、桜町の住人が町組単位で近世府内城下町に移住させられていること<sup>(2)</sup>などを参照すると、本調査区の遺構群は、17世紀初頭から前葉には遺跡としての終焉を迎えたことが推定される。

以上のように、本調査区の調査結果は、当該地点が『府内古図』にみられる「桜町」の一画に相当し、16世紀後葉から末葉段階の町屋構造を一定程度明らかにできたと考えられる。しかし、町屋関連遺構に先行する14・15世紀段階の遺構群の解釈や町屋が復興し、存続していると考えられる16世紀末葉から17世紀初頭の状況については、遺構群の内容を明らかにすることができなかった。残された課題については、周辺地域の発掘調査の進展により、将来的に解決されることを望みたい。

---

註 (1) 「天正十六年参宮帳」(『大分県史料』25所収)

(2) 木村幾多郎「豊後府内城下町移転と旧府内町」(『大分・大友土器研究会論集』2001年)

# 遺物觀察表

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類①)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位:cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第12図	土師質土器	甕	在地	33.0	-	-	SD002		
第13図1	土師質土器	坏	在地	-	9.0	-	SD003下層		
第13図2	土師質土器	坏	在地	12.6	9.0	3.1	SD003下層		
第13図3	土師質土器	坏	在地	12.6	8.0	3.5	SD003下層		
第13図4	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD003下層		
第13図5	土師質土器	坏	在地	12.2	8.5	3.6	SD003下層		
第13図6	土師質土器	坏	在地	11.5	8.4	3.1	SD003下層		
第13図7	土師質土器	坏	在地	-	8.0	-	SD003下層		
第13図8	土師質土器	皿	在地	-	6.8	-	SD003下層		
第13図9	土師質土器	坏	在地	-	6.0	-	SD003下層		
第13図10	須恵器	坏	不明	-	9.4	-	SD003下層		
第13図12	瓦質土器	甕	不明	24.0	-	-	SD003下層		
第14図1	土師質土器	皿	在地	8.8	7.2	1.5	SD003中層		
第14図2	土師質土器	皿	在地	7.6	5.5	2.1	SD003中層		
第14図3	土師質土器	坏	在地	12.6	9.0	2.7	SD003中層		
第14図4	土師質土器	坏	在地	-	9.0	-	SD003中層		
第14図5	土師質土器	坏	在地	13.5	9.4	2.9	SD003中層		
第14図6	須恵器	こね鉢	東播系	28.5	-	-	SD003中層		
第15図1	白磁	碗	中国	-	-	-	SD003上層		
第15図2	土師質土器	小皿	在地	8.0	7.0	1.3	SD003上層		
第15図3	土師質土器	小皿	在地	8.8	7.2	1.3	SD003上層		
第15図4	土師質土器	小皿	在地	7.8	4.8	1.8	SD003上層		
第15図5	土師質土器	小皿	在地	8.2	4.6	1.6	SD003上層	灯明皿	
第15図6	土師質土器	坏	在地	-	5.5	-	SD003上層		
第15図7	土師質土器	皿	在地	11.6	6.7	2.6	SD003上層		
第15図8	土師質土器	皿	在地	16.8	8.0	3.6	SD003上層		
第15図9	土師質土器	坏	在地	13.0	8.0	3.8	SD003上層		
第15図10	京都系土師器	皿	在地	11.3	-	2.2	SD003上層		
第15図11	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD003上層		
第15図12	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	2.1	SD003上層		
第15図13	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.0	SD003上層		
第15図14	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	2.4	SD003上層		
第15図15	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	1.8	SD003上層		
第15図16	京都系土師器	皿	在地	15.0	-	-	SD003上層		
第15図17	京都系土師器	皿	在地	15.6	-	1.9	SD003上層		
第15図18	瓦質土器	甕	不明	19.0	-	-	SD003上層		
第15図19	須恵器	こね鉢	東播系	26.0	-	-	SD003上層		
第16図1	土師質土器	碗	在地	16.0	-	-	SD004上層	古代	
第16図2	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD004上層		
第16図3	土師質土器	皿	在地	-	6.6	-	SD004上層		
第16図4	土師質土器	坏	在地	12.0	8.2	3.3	SD004上層		
第16図5	土師質土器	碗	在地	-	6.0	-	SD004上層		
第16図6	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	1.9	SD004上層		
第16図7	京都系土師器	皿	在地	10.5	-	2.0	SD004上層		
第16図8	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.0	SD004上層		
第16図9	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	1.9	SD004上層		
第16図10	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SD004上層		
第16図11	京都系土師器	皿	在地	13.3	-	-	SD004上層		
第16図12	京都系土師器	皿	在地	15.8	-	1.8	SD004上層		
第16図13	京都系土師器	皿	在地	16.6	-	2.1	SD004上層		
第16図15	土師質土器	皿	在地	-	5.6	-	SD004中層		
第16図16	土師質土器	皿	在地	-	5.8	-	SD004中層		
第16図17	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD004中層		
第16図18	土師質土器	皿	在地	-	5.8	-	SD004中層		
第16図19	土師質土器	皿	在地	-	6.4	-	SD004中層		
第16図20	土師質土器	皿	在地	12.4	-	-	SD004中層		
第16図21	土師質土器	皿	在地	11.0	5.6	2.4	SD004中層		
第16図22	土師質土器	坏	在地	-	7.0	-	SD004中層		
第16図23	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	1.9	SD004中層		
第16図24	京都系土師器	皿	在地	14.2	-	-	SD004中層		
第16図25	京都系土師器	皿	在地	14.3	-	-	SD004中層		
第16図26	京都系土師器	皿	在地	15.4	-	-	SD004中層		
第16図27	土師質土器	碗	在地	-	8.4	-	SD004最下層		
第16図28	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SD004最下層		
第16図29	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD004下層		
第16図30	土師質土器	皿	在地	-	4.6	-	SD004下層		
第16図31	土師質土器	皿	在地	-	-	-	SD004下層		
第16図32	土師質土器	坏	在地	8.6	-	-	SD004下層		
第16図33	土師質土器	坏	在地	-	5.0	-	SD004下層		
第16図34	土師質土器	碗	在地	-	5.8	-	SD004下層		
第18図1	青磁	碗	中国	11.6	-	-	SD005-2		
第18図2	青磁	碗	中国(越州窯)	-	7.0	-	SD005-2		

遺物観察表 2 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類②)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第18図3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.4	-	-	SD005-2		
第18図4	土師質土器	皿	在地	-	-	-	SD005-2		
第18図5	京都系土師器	皿	在地	14.2	-	2.6	SD005-2		
第18図6	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SD005-2		
第19図	土師質土器	燗台	在地	-	6.9	-	SD006		
第21図1	陶器	碗	瀬戸美濃	11.6	-	-	SD007-1	筒形碗	
第21図2	土師質土器	皿	在地	-	6.4	-	SD007-1		
第21図3	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	-	SD007-1		
第23図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD007-2		
第23図2	陶器	碗	朝鮮王朝	-	6.0	-	SD007-2		
第23図3	陶器	碗	朝鮮王朝	-	4.8	-	SD007-2		
第23図4	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.0	SD007-2		
第23図5	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	2.0	SD007-2		
第23図6	京都系土師器	皿	在地	10.2	-	2.2	SD007-2		
第23図7	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD007-2		
第23図8	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.1	SD007-2		
第23図9	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.4	SD007-2		
第23図10	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	3.0	SD007-2		
第23図11	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	-	SD007-2		
第23図12	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD007-2		
第23図13	陶器	掃鉢	備前	31.0	-	-	SD007-2		
第23図14	陶器	水屋甕	備前	18.0	-	-	SD007-2		
第23図15	陶器	水屋甕	備前	-	18.8	-	SD007-2		
第24図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	8.0	-	SD007-3		
第24図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	12.0	6.4	2.6	SD007-3		
第24図3	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SD007-3		
第24図4	白磁	碗	中国	-	3.2	-	SD007-3		
第24図5	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SD007-3		
第24図6	土師質土器	坏	在地	12.8	10.0	3.2	SD007-3		
第24図7	土師質土器	皿	在地	-	7.5	-	SD007-3		
第24図8	京都系土師器	皿	在地	9.9	-	2.4	SD007-3		
第24図9	京都系土師器	坏	在地	11.6	-	3.1	SD007-3		
第24図10	京都系土師器	皿	在地	11.4	-	2.0	SD007-3		
第24図11	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.3	SD007-3		
第24図12	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SD007-3		
第24図13	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.0	SD007-3		
第24図14	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	SD007-3		
第24図15	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.3	SD007-3		
第24図16	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD007-3		
第24図17	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	2.4	SD007-3		
第24図18	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	SD007-3		
第24図19	京都系土師器	皿	在地	13.2	-	2.3	SD007-3		
第24図20	京都系土師器	皿	在地	16.5	-	-	SD007-3		
第24図21	陶器	壺	備前	11.8	-	-	SD007-3		
第24図22	陶器	壺	備前	14.0	-	-	SD007-3		
第24図23	陶器	壺	備前	-	20.0	-	SD007-3		
第24図24	陶器	甕	備前	26.0	-	-	SD007-3		
第24図25	瓦質土器	鍋	在地	38.0	-	-	SD007-3		
第25図1	瓦質土器	鉢	在地	-	18.3	-	SD007-3		
第27図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.4	-	-	SD007-4		
第27図2	陶器	天目	瀬戸美濃	-	-	-	SD007-4		
第27図3	陶器	壺	備前	-	-	-	SD007-4		
第27図4	京都系土師器	皿	在地	9.2	-	-	SD007-4	灯明皿	
第27図5	京都系土師器	皿	在地	10.2	-	1.9	SD007-4		
第27図6	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	-	SD007-4		
第27図7	京都系土師器	皿	在地	11.5	-	-	SD007-4		
第27図8	京都系土師器	皿	在地	11.2	-	-	SD007-4		
第27図9	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	-	SD007-4		
第27図10	京都系土師器	皿	在地	14.1	-	-	SD007-4		
第29図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD008-1		
第29図2	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SD008-1		
第29図3	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.9	SD008-1		
第29図4	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	3.0	SD008-1		
第29図5	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD008-1		
第29図6	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.1	SD008-1		
第29図7	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.1	SD008-1		
第29図8	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	-	SD008-1		
第29図9	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	2.1	SD008-1		
第31図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.2	-	SD008-2		
第31図2	陶器	平鉢	備前	22.0	12.8	3.3	SD008-2		
第31図3	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	-	SD008-2		
第31図4	土師質土器	坏	在地	-	8.0	-	SD008-2		
第31図5	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD008-2		

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類③)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第31図6	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD008-2		
第33図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.9	-	SD008-3		
第33図2	青花	碗	中国(漳州窯)	-	4.8	-	SD008-3		
第33図3	青磁	碗	中国(龍泉窯)	16.8	-	-	SD008-3		
第33図4	青磁	香炉	中国(龍泉窯)	-	5.5	-	SD008-3		
第33図5	青磁	碗	中国(龍泉窯)	11.0	-	-	SD008-3		
第33図6	陶器	皿	瀬戸美濃	11.4	5.6	1.9	SD008-3		
第33図7	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.8	-	SD008-3		
第33図8	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.6	-	SD008-3		
第33図9	陶器	鉢	備前	19.0	-	6.0	SD008-3		
第33図10	陶器	壺	備前	-	18.0	-	SD008-3		
第33図11	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	1.6	SD008-3		
第33図12	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.0	SD008-3		
第33図13	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	-	SD008-3		
第33図14	土師質土器	-	在地	-	-	-	SD008-3	円盤状に再加工	
第33図15	土師質土器	-	在地	-	-	-	SD008-3	円盤状に再加工	
第33図16	陶器	播鉢	備前	35.0	-	-	SD008-3		
第33図17	瓦質土器	風炉	在地	32.6	-	-	SD008-3		
第37図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.6	5.0	6.4	SD009		
第37図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	7.8	-	SD009		
第37図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	13.2	-	-	SD009		
第37図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD009		
第37図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	14.4	7.6	2.7	SD009		
第37図6	陶器	壺	瀬戸	-	-	-	SD009	古瀬戸	
第37図7	陶器	碗	朝鮮王朝	13.5	5.0	6.5	SD009		
第37図8	陶器	德利	朝鮮王朝	-	-	-	SD009		
第37図9	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SD009		
第37図10	京都系土師器	皿	在地	9.6	-	2.4	SD009		
第37図11	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	1.9	SD009		
第37図12	京都系土師器	皿	在地	5.0	-	-	SD009		
第37図13	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	5.2	6.1	SD009		
第38図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.8	-	SD010		
第38図2	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SD010		
第38図3	土師質土器	皿	在地	7.2	4.6	1.6	SD010		
第38図4	土師質土器	皿	在地	11.6	6.4	2.6	SD010		
第38図5	土師質土器	皿	在地	12.8	8.6	2.7	SD010		
第38図6	土師質土器	皿	在地	13.0	8.4	2.5	SD010		
第38図7	京都系土師器	小皿	在地	5.0	-	1.9	SD010		
第38図8	京都系土師器	小皿	在地	5.4	-	1.9	SD010		
第38図9	京都系土師器	小皿	在地	6.0	-	1.8	SD010		
第38図10	京都系土師器	皿	在地	10.5	-	2.2	SD010	灯明皿	
第38図11	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.6	SD010		
第38図12	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.3	SD010		
第38図13	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.3	SD010	灯明皿	
第38図14	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.0	SD010		
第38図15	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.4	SD010	灯明皿	
第38図16	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.4	SD010		
第38図17	京都系土師器	皿	在地	11.6	-	2.2	SD010		
第38図18	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	SD010		
第38図19	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SD010		
第38図20	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	2.4	SD010		
第38図21	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.2	SD010		
第38図22	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD010	灯明皿	
第38図23	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD010		
第38図24	京都系土師器	皿	在地	12.3	-	1.9	SD010		
第38図25	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.4	SD010		
第38図26	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.4	SD010		
第38図27	京都系土師器	皿	在地	13.5	-	2.4	SD010		
第38図28	京都系土師器	皿	在地	13.2	-	2.5	SD010	灯明皿	
第38図29	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD010		
第38図30	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.5	SD010		
第38図31	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD010		
第38図32	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD010		
第38図33	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD010		
第38図34	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.1	SD010		
第38図35	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	2.3	SD010		
第38図36	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD010		
第38図37	京都系土師器	皿	在地	13.8	-	2.2	SD010		
第38図38	京都系土師器	皿	在地	14.6	-	2.8	SD010		
第38図39	陶器	播鉢	備前	-	-	-	SD010		
第38図40	陶器	播鉢	備前	29.0	-	-	SD010		
第39図1	瓦質土器	不明	不明	9.8	-	-	SD011		
第39図2	陶器	碗	朝鮮王朝	-	6.0	-	SD011		



遺物観察表 4 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類④)

挿図No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
			口径	底径	器高			
第39図3	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	-	SD011	
第39図4	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	-	SD011	
第40図	陶器	壺	瀬戸美濃	-	10.6	-	SD013	
第43図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.0	-	SK015	
第43図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	13.4	-	-	SK015	
第43図3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	8.1	-	SK015	
第43図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	13.6	8.4	2.8	SK015	
第43図5	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.4	-	SK015	
第43図6	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SK015	
第43図7	陶器	碗	朝鮮王朝	15.0	-	-	SK015	
第43図8	陶器	德利	朝鮮王朝	-	10.6	-	SK015	
第43図9	陶器	碗	朝鮮王朝	16.0	-	-	SK015	
第43図10	陶器	碗	朝鮮王朝	12.6	5.0	6.5	SK015	
第43図11	陶器	甕	備前	-	-	-	SK015	
第43図12	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.0	SK015	
第43図13	京都系土師器	坏	在地	11.6	-	3.7	SK015	
第43図14	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.5	SK015	
第43図15	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SK015	
第43図16	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	2.0	SK015	
第43図17	陶器	播鉢	備前	24.6	14.0	5.6	SK015	
第43図18	陶器	鉢	朝鮮王朝	21.6	-	-	SK015	
第43図19	瓦質土器	火鉢	在地	29.0	-	-	SK015	
第47図1	白磁	碗	中国	12.8	7.5	5.4	SB017	下層
第47図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SB017	下層
第47図3	土師質土器	皿	在地	-	6.8	-	SB017	下層
第47図4	土師質土器	皿	在地	-	8.8	-	SB017	下層
第47図5	京都系土師器	皿	在地	8.6	-	1.7	SB017	下層
第47図6	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	-	SB017	下層
第47図7	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SB017	下層
第47図8	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	-	SB017	下層
第47図9	土師質土器	皿	在地	-	6.5	-	SB017-P1	
第47図10	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	1.7	SB017-P5	
第47図11	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.2	SB017-P15	
第47図12	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SB017-P14	
第47図13	京都系土師器	皿	在地	14.6	-	-	SB017-P13	
第48図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	13.0	-	-	SB017	
第48図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.8	-	-	SB017	
第48図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	15.6	-	-	SB017	
第48図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.6	-	-	SB017	
第48図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.8	-	SB017	
第48図6	白磁	碗	中国	-	5.2	-	SB017	
第48図7	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SB017	
第48図8	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	5.8	-	SB017	
第48図9	青磁	壺	中国(龍泉窯)	-	6.2	-	SB017	
第48図10	磁器	瓶	中国	-	-	-	SB017	黒釉
第48図11	陶器	碗	朝鮮王朝	13.0	5.0	6.2	SB017	
第48図12	陶器	碗	朝鮮王朝	13.0	5.0	6.2	SB017	
第48図13	土師質土器	皿	在地	-	5.6	-	SB017	
第48図14	土師質土器	皿	在地	-	6.2	-	SB017	
第48図15	土師質土器	皿	在地	-	7.8	-	SB017	
第48図16	京都系土師器	皿	在地	8.0	-	-	SB017	
第48図17	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	-	SB017	
第48図18	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	2.4	SB017	
第48図19	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.2	SB017	
第48図20	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SB017	
第48図21	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	-	SB017	
第48図22	京都系土師器	皿	在地	13.2	-	-	SB017	
第48図23	京都系土師器	皿	在地	16.0	-	2.5	SB017	
第49図1	陶器	播鉢	備前	-	-	-	SB017	
第49図2	陶器	播鉢	備前	28.0	-	-	SB017	
第49図3	陶器	播鉢	備前	27.0	13.4	8.5	SB017	
第49図4	瓦質土器	鉢	在地	25.0	16.0	10.7	SB017	
第51図1	白磁	壺	中国	8.9	-	-	SB018-P1	
第51図2	陶器	碗	朝鮮王朝	13.0	-	-	SB018-P1	
第51図3	土師質土器	皿	在地	-	5.0	-	SB018-P2	
第51図4	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	-	SB018-P1	
第51図5	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	-	SB018-P1	
第51図6	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	-	SB018-P2	
第51図7	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	-	SB018-P2	
第51図8	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	-	SB018-P1	
第51図9	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	1.8	SB018-P2	
第51図10	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SB018-P2	
第51図11	京都系土師器	皿	在地	13.5	-	1.9	SB018-P4	



第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑤)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第51図12	土師質土器	皿	在地	18.0	14.0	2.4	SB018-P5		
第51図13	陶器	甃	備前	-	23.0	-	SB018-P2		
第52図1	青花	瓶	中国(景德镇窯)	6.6	-	-	SF019	44層	
第52図2	青花	皿	中国(漳州窯)	9.2	4.0	2.2	SF019	44層	
第52図3	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	4.4	-	SF019	44層	
第52図4	青磁	皿	中国(龍泉窯)	12.4	5.4	2.6	SF019	44層	
第52図5	青磁	皿	中国(同安窯)	-	-	4.6	SF019	44層	
第52図6	土師質土器	皿	在地	-	6.4	-	SF019	44層	
第52図7	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SF019	44層	
第52図8	土師質土器	皿	在地	-	6.4	-	SF019	44層	
第52図9	土師質土器	皿	在地	-	7.0	-	SF019	44層	
第52図10	土師質土器	皿	在地	-	7.2	-	SF019	44層	
第52図11	土師質土器	皿	在地	-	6.9	-	SF019	44層	
第52図12	土師質土器	皿	在地	-	8.2	-	SF019	44層	
第52図13	土師質土器	皿	在地	-	4.6	-	SF019	44層	
第52図14	土師質土器	皿	在地	-	6.3	-	SF019	44層	
第52図15	土師質土器	香炉	在地	-	6.7	-	SF019	44層	
第52図16	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SF019	44層	
第52図17	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SF019	44層	
第52図18	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SF019	44層	
第52図19	京都系土師器	皿	在地	12.5	-	2.1	SF019	44層	
第52図20	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	2.1	SF019	44層	
第52図21	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.2	SF019	44層	
第52図22	京都系土師器	皿	在地	12.7	-	2.1	SF019	44層	
第52図23	京都系土師器	皿	在地	13.1	-	2.1	SF019	44層	
第52図24	京都系土師器	皿	在地	13.9	-	3.0	SF019	44層	
第52図25	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.0	SF019	44層	
第52図26	京都系土師器	皿	在地	14.2	-	2.1	SF019	44層	
第52図27	京都系土師器	皿	在地	13.9	-	2.8	SF019	44層	
第52図28	京都系土師器	皿	在地	16.4	-	2.2	SF019	44層	
第52図29	京都系土師器	皿	在地	16.4	-	1.6	SF019	44層	
第52図30	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	2.5	SF019	44層	
第52図31	京都系土師器	皿	在地	11.6	-	2.2	SF019	44層	
第52図32	京都系土師器	皿	在地	11.7	-	2.0	SF019	44層	
第52図33	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	2.2	SF019	44層	
第52図34	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	-	SF019	44層	
第52図35	青磁	盤	中国(龍泉窯)	-	-	-	SF019	44層	
第52図36	青花	碗	中国(漳州窯)	13.8	5.8	2.5	SF019	44層	
第53図1	白磁	盤	中国	-	8.4	-	SF019	33層	
第53図2	青花	碗	中国(漳州窯)	-	4.8	-	SF019	33層	
第53図3	白磁	皿	中国	15.8	-	-	SF019	33層	
第53図4	青白磁	香炉	中国	11.0	-	-	SF019	33層	
第53図5	陶器	壺	備前	10.0	-	-	SF019	33層	
第53図6	陶器	掃鉢	備前	12.5	-	-	SF019	33層	
第53図7	土師質土器	坏	在地	-	8.0	-	SF019	33層	
第53図8	土師質土器	皿	在地	12.0	6.0	2.3	SF019	33層	
第53図9	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.2	SF019	33層	
第53図10	京都系土師器	皿	在地	11.6	-	-	SF019	33層	
第53図11	京都系土師器	皿	在地	11.6	-	1.9	SF019	33層	
第53図13	白磁	皿	中国	10.0	5.5	2.3	SF019	33層	
第53図14	青花	皿	中国(景德镇窯)	15.0	-	-	SF019	33層	
第53図15	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SF019	33層	
第53図16	京都系土師器	皿	在地	9.6	-	-	SF019	33層	
第53図17	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	-	SF019	33層	
第53図18	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	1.9	SF019	33層	
第53図19	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	-	SF019	33層	
第53図20	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SF019	33層	
第53図21	土師質土器	皿	在地	-	7.9	-	SF019	33層	
第53図23	瓦質土器	鉢	在地	29.0	20.0	10.9	SF019	33層	
第53図24	陶器	掃鉢	備前	35.0	-	-	SF019	33層	
第53図25	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.0	-	SF019	37-39層	
第53図26	青磁	皿	中国(龍泉窯)	14.4	-	-	SF019	37-39層	
第53図27	京都系土師器	皿	在地	10.2	-	2.2	SF019	37-39層	
第53図28	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SF019	37-39層	
第53図29	京都系土師器	皿	在地	11.6	-	-	SF019	37-39層	
第53図30	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.1	SF019	37-39層	
第53図31	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	-	SF019	37-39層	
第54図1	青花	碗	中国(景德镇窯)	10.8	4.6	6.2	SF019		
第54図2	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	3.7	-	SF019		
第54図3	青花	碗	中国(漳州窯)	19.1	-	-	SF019		
第54図6	青花	碗	中国(漳州窯)	-	4.8	-	SF019		
第54図7	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	4.8	-	SF019		
第54図8	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	12.7	-	SF019		

遺物観察表 6 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑥)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第54図9	白磁	小杯	中国(龍泉窯)	5.8	-	-	SF019		
第54図10	青花	皿	中国	19.0	-	-	SF019		
第54図11	青花	碗	中国(漳州窯)	-	10.1	-	SF019		
第54図12	磁器	火入	不明	15.8	-	-	SF019	褐釉	
第54図13	陶器	小壺	備前	-	-	-	SF019		
第54図14	陶器	平鉢	備前	23.0	13.5	3.3	SF019		
第59図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	13.0	-	-	SP024		
第59図2	青花	碗	中国(漳州窯)	-	4.6	-	SP022		
第59図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.2	-	SP023		
第59図4	青花	小杯	中国(景德鎮窯)	-	3.2	-	SP031		
第59図5	白磁	碗	中国	-	-	-	SP022		
第59図6	白磁	碗	中国	13.0	-	-	SP021		
第59図7	白磁	皿	中国	16.4	-	-	SP029		
第59図8	陶器	碗	朝鮮王朝	13.8	-	-	SP028		
第59図9	土師質土器	坏	在地	13.0	8.6	3.0	SP030		
第59図10	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP032		
第59図11	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP026		
第59図12	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	1.9	SP023		
第59図13	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	1.8	SP024		
第59図14	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	-	SP027		
第59図15	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SP023		
第59図16	陶器	搦鉢	備前	31.0	-	-	SP025		
第60図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	15層		
第60図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.4	-	15層		
第60図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.4	-	15層		
第60図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	15層		
第60図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.4	-	15層		
第60図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.6	-	15層		
第60図7	青花	碗	中国(景德鎮窯)	15.4	-	-	15層		
第60図8	青花	碗	中国(景德鎮窯)	14.6	-	-	15層		
第60図9	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.7	-	15層		
第60図10	青花	碗	中国(景德鎮窯)	11.8	-	-	15層		
第60図11	青花	碗	中国(景德鎮窯)	15.0	-	-	15層		
第60図12	青花	碗	中国(景德鎮窯)	14.6	-	-	15層		
第60図13	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.8	-	15層		
第61図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.9	-	15層		
第61図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.0	-	15層		
第61図3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	15層		
第61図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.0	-	15層		
第61図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.2	-	15層		
第61図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.0	-	-	15層		
第61図7	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.2	-	15層		
第61図8	青花	皿	中国(景德鎮窯)	9.6	5.4	2.2	15層		
第61図9	青花	皿	中国(景德鎮窯)	11.0	6.6	2.3	15層		
第61図10	青花	皿	中国(景德鎮窯)	14.8	9.4	2.8	15層		
第61図11	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	8.2	-	15層		
第61図12	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	8.2	-	15層		
第61図13	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	9.5	-	15層		
第61図14	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.8	-	15層		
第61図15	磁器	皿	中国	-	-	-	15層	五彩	
第61図16	青花	皿	中国(漳州窯)	-	4.6	-	15層		
第62図1	白磁	碗	中国	13.2	-	-	15層		
第62図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	12.4	-	-	15層		
第62図3	青磁	香炉	中国(龍泉窯)	8.0	-	-	15層		
第62図4	青磁	盤	中国(龍泉窯)	-	-	-	15層		
第62図5	青磁	注口部	中国(龍泉窯)	-	-	-	15層		
第62図6	白磁	壺	中国	-	-	-	15層		
第62図7	白磁	壺	中国	9.6	-	-	15層		
第62図8	陶器	鉢	朝鮮王朝	-	-	-	15層		
第62図9	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.8	-	15層		
第62図10	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.7	-	15層		
第62図11	陶器	碗	朝鮮王朝	-	6.0	-	15層		
第62図12	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.1	-	15層		
第62図13	陶器	皿	唐津	-	5.2	-	15層		
第62図14	陶器	碗	唐津	-	3.7	-	15層		
第62図15	陶器	皿	唐津	-	4.0	-	15層		
第62図16	陶器	碗	唐津	11.2	-	-	15層		
第62図17	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.4	-	15層		
第62図18	陶器	德利	朝鮮王朝	7.8	-	-	15層		
第62図19	陶器	德利	朝鮮王朝	6.0	-	-	15層		
第63図1	陶器	皿	瀬戸美濃	11.0	5.7	2.0	15層		
第63図2	土師質土器	皿	在地	-	6.3	-	15層		
第63図3	陶器	茶入	備前	-	3.7	-	15層		

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑦)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第63図4	陶器	皿	唐津	10.4	-	-	15層		
第63図5	京都系土師器	皿	在地	10.9	-	1.9	15層		
第63図6	京都系土師器	皿	在地	11.5	-	-	15層		
第63図7	京都系土師器	皿	在地	13.1	-	-	15層		
第63図8	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.4	15層		
第63図9	京都系土師器	皿	在地	12.7	-	2.2	15層		
第63図10	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.2	15層		
第63図11	京都系土師器	小皿	在地	5.2	-	1.7	15層		
第63図12	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	1.5	15層		
第63図13	土師質土器	皿	在地	8.4	-	2.2	15層		
第63図14	陶器	不明	備前	-	9.0	-	15層	建水あるいは水差か	
第63図15	京都系土師器	耳皿	在地	-	-	-	15層		
第63図16	土師質土器	耳皿	在地	-	2.8	-	15層		
第63図17	瓦質土器	風炉	在地	21.6	-	-	15層		
第63図18	須恵器	壺	不明	32.1	-	-	15層		
第63図22	土師質土器	不明	在地	-	-	-	15層	円盤状に再加工	
第66図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.8	-	西調査区		
第66図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.8	-	西調査区		
第66図3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.4	-	西調査区		
第66図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.9	-	西調査区		
第66図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	10.2	-	西調査区		
第66図6	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.6	-	西調査区		
第66図7	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.3	-	西調査区		
第66図8	青花	皿	中国(漳州窯)	12.6	-	-	西調査区		
第66図9	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.3	-	西調査区		
第66図10	青磁	皿	中国	-	5.2	-	西調査区		
第66図11	青花	小杯	中国(景德鎮窯)	-	2.6	-	西調査区		
第66図12	白磁	紅皿	中国	4.6	1.4	1.4	西調査区		
第66図13	青花	皿	中国(漳州窯)	-	4.6	-	西調査区		
第66図14	白磁	皿	中国	7.2	-	-	西調査区		
第66図15	青磁	碗	中国(龍泉窯)	13.4	-	-	西調査区		
第66図16	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	西調査区		
第66図17	白磁	皿	中国	11.8	3.1	6.4	西調査区		
第66図18	青花	皿	中国	9.6	-	-	西調査区		
第66図19	青花	皿	中国(漳州窯)	13.6	-	-	西調査区		
第66図20	磁器	瓶	中国	-	-	-	西調査区	褐釉	
第66図21	磁器	瓶	中国	-	8.6	-	西調査区	黒釉	
第67図1	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.5	-	西調査区		
第67図2	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.0	-	西調査区		
第67図3	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.2	-	西調査区		
第67図4	陶器	碗	肥前(唐津)	-	4.1	-	西調査区		
第67図5	陶器	皿	瀬戸美濃	11.0	-	-	西調査区		
第67図6	陶器	碗	肥前(唐津)	-	4.0	-	西調査区		
第67図7	陶器	碗	朝鮮王朝	13.8	-	-	西調査区		
第67図8	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.2	-	西調査区		
第67図9	陶器	小壺	備前	-	5.4	-	西調査区		
第67図10	土師質土器	皿	在地	-	-	3.6	西調査区		
第67図11	陶器	播鉢	備前	-	-	-	西調査区		
第67図12	土師質土器	不明	在地	-	-	-	西調査区	円盤状に再加工	
第67図17	陶器	壺	中国南部	-	16.0	-	西調査区	黄釉	
第67図18	陶器	平鉢	備前	24.7	16.0	3.9	西調査区		
第67図19	陶器	平鉢	備前	25.0	-	-	西調査区		
第67図20	陶器	播鉢	備前	28.0	-	-	西調査区		
第67図21	瓦質土器	鍋	在地	33.0	-	-	西調査区		

遺物観察表 8 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (金属製品・土製品・石製品・骨製品)

挿図No.	品 種	材 質	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.	
			部 位	幅	長さ	長さ	長さ	厚さ					
第13図11	土鍾	土製品	全体	幅	1.3	長さ	4.4				SD003下層		
第15図21	土鍾	土製品	全体	幅	1.1	長さ	3.6				SD003上層		
第15図22	土鍾	土製品	全体	幅	1.4	長さ	4.7				SD003上層		
第16図14	土鍾	土製品	破片	幅	2.9	長さ	4.2				SD004		
第25図4	砥石	石製品	破片	幅	5.2	長さ	1.0				SD007-3		
第25図5	斧	銅	全体	長さ	16.8	幅	1.5	厚さ	0.8		SD007-3		4
第26図	茶臼	石製品	破片	径	19.6						SD007-3		4
第32図1	分銅	銅	全体	径	1.2	厚さ	0.3			1.99	SD008-3	ボタン形	
第32図2	分銅	銅	全体	全長	1.1	幅	0.8	厚さ	0.5	1.4	SD008-3	繭形	
第51図14	土鍾	土製品	全体	幅	1.0	長さ	4.0				SB018-P4		
第53図12	不明	銅	全体	長径	4.6	短径	3.4	高さ	1.0		SF019	33層	4
第53図22	不明	銅	全体	径	0.5	長さ	12.2				SF019	33層	4
第54図14	不明	石製	破片	長さ	5.2	幅	4.0	厚さ	1.8		SF019		5
第55図	不明	ガラス	全体	径	2.2	高さ	0.7			4.8	SF019	巻頭カラー	5
第57図	権	銅	全体	高さ	2.6	径	2.7			50.9	SP020	巻頭カラー	5
第63図20	硯	石製品	破片	幅	6.3	厚さ	1.2				15層		
第63図21	硯	石製品	破片	厚さ	1.2						15層		
第63図23	土鍾	土製品	破片	径	1.0						15層		
第63図24	キセル	銅製	破片								15層		
第63図25	不明	ガラス	破片	厚さ	0.4						15層		
第64図1	分銅	銅	全体	径	0.8	厚さ	0.3			0.97	15層	ボタン形 巻頭カラー	5
第64図2	分銅	銅	全体	径	1.0	厚さ	0.3			1.2	15層	ボタン形 巻頭カラー	5
第66図12	人形?	磁器?	破片								西調査区	褐釉	
第67図13	土鍾	土製品	全体	幅	1.8	長さ	3.8				西調査区		
第67図14	土鍾	土製品	全体	幅	1.5	長さ	5.3				西調査区		
第67図15	土鍾	土製品	全体	幅	1.2	長さ	5.0				西調査区		
第67図16	土鍾	土製品	全体	幅	1.3	長さ	4.5				西調査区		
第68図1	鞆	銅製	全体	縦	3.4	横	1.0	厚さ	0.4		西調査区		5
第68図2	キセル	銅製	破片								西調査区	吸口	
第68図3	骨牌	骨製	破片	厚さ	0.2	幅	1.9				西調査区	巻頭カラー	5

第18次西調査区遺物観察表 (瓦)

挿図No.	品 種	部 位	寸法 (単位cm)						遺構名	備 考	図版No.	
			厚さ	長さ	長さ	長さ	長さ	厚さ				
第7図1	軒平瓦	破片	厚さ	2.0						SD001		
第7図2	軒丸瓦	破片	厚さ	1.9						SD001		
第7図3	軒平瓦	破片	厚さ	1.8						SD001		
第8図1	丸瓦	破片	厚さ	2.0						SD001		
第8図2	丸瓦	破片	厚さ	2.0						SD001		
第8図3	丸瓦	破片	厚さ	2.0						SD001		
第9図1	丸瓦	破片	厚さ	2.0						SD001		
第9図2	丸瓦	破片	厚さ	2.0						SD001		
第9図3	丸瓦	破片	厚さ	2.2						SD001		
第9図4	丸瓦	破片	厚さ	1.8						SD001		
第9図5	丸瓦	破片	厚さ	1.5						SD001		
第9図6	丸瓦	破片	厚さ	1.7						SD001		
第15図20	丸瓦	破片	厚さ	2.1						SD003上層		
第25図2	軒平瓦	破片	厚さ	2.0						SD007-3		
第25図3	丸瓦	破片	厚さ	2.0						SD007-3		
第44図1	平瓦	破片	厚さ	1.8						SK015		
第44図2	平瓦	破片	厚さ	2.0						SK015		
第44図3	軒丸瓦	破片								SK015		
第44図4	丸瓦	破片	厚さ	1.8						SK015		
第45図1	丸瓦	破片	厚さ	1.8						SK015		
第45図2	丸瓦	破片	厚さ	2.4						SK015		
第45図3	丸瓦	破片	厚さ	2.3						SK015		
第49図5	軒平瓦	破片								SB017		
第49図6	軒平瓦	破片								SB017		
第49図7	軒平瓦	破片								SB017		
第49図8	丸瓦	破片	厚さ	1.9						SB017		
第49図9	平瓦	破片	厚さ	2.1						SB017		
第54図5	軒平瓦	破片	厚さ	2.0						SF019		
第63図19	丸瓦	破片	厚さ	1.9						15層		

第18次西調査区遺物観察表 (錢貨)

挿図№	錢貨名	初鑄造年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	書体	遺構名	備考	図版№
第10図	不明	不明	不明	2.3	2.5	不明	SD001		
第22図	不明	不明	不明	1.8	2.4	不明	SD007-2		
第30図	皇宋通寶	1038	北宋	1.8	2.4	真書	SD008-1		
第34図1	洪武通寶	1368	明	2.2	2.2	真書	SD008-3		
第34図2	崇寧通寶	1102	北宋	2.3	3.0	真書	SD008-3	当十錢	
第34図3	寬永通寶	1636	日本	2.4	2.3	真書	SD008-3	古寬永	
第34図4	不明	不明	不明	2.3	2.4	不明	SD008-3		
第34図5	不明	不明	不明	2.1	2.3	不明	SD008-3		
第36図	景德元寶	1004	北宋	1.9	2.4	真書	SD009		
第56図1	不明	不明	不明	2.4	2.4	不明	SF019	44層	
第56図2	不明	不明	不明	1.1		不明	SF019	33層	
第58図	寬永通寶	1636	北宋	1.9	2.5	真書	SP020	古寬永	
第65図1	天禧通寶	1017	北宋	2.7	2.4	真書	15層		
第65図2	治平元寶	1064	北宋	2.4	2.4	真書	15層		
第65図3	不明	不明	不明	1.1	2.0	不明	15層		
第65図4	不明	不明	不明	1.6	2.4	不明	15層		
第69図1	元豐通寶	1078	北宋	2.3	2.4	篆書	J-14		
第69図2	元豐通寶	1078	北宋	2.1	2.3	篆書	K-14・15	1~4層	
第69図3	寬永通寶	1636	日本	1.9	2.4	真書	J・K-14・15	1~4層 古寬永	
第69図4	寬永通寶	1636	日本	2.2	2.4	真書	I・J-15・16	2~4層 古寬永	
第69図5	元豐通寶	1078	北宋	1.7	2.4	篆書	西調査区		
第69図6	崇寧通寶	1102	北宋	9.2	3.3	行書	J・K-15	当十錢	
第69図7	不明	不明	不明			不明	I・J-15・16	2~4層	
第69図8	不明	不明	不明	1.7	2.5	不明	J-14	1~4層	



遺物観察表10 (第18次東調査区)

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器①)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第79図1	京都系土師器	皿	在地	(12.1)	-	2.2	SD306		
第82図1	白磁	皿	中国	-	-	2.6	SK065		
第82図2	青花	碗	中国(漳州窯)	(14.1)	-	-	SK065		
第82図3	陶器	碗	瀬戸美濃	(9.8)	(5.0)	7.8	SK065		
第83図4	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.5	SK065		
第83図5	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	2.4	SK065		
第83図6	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	-	2.7	SK065		
第83図7	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.5	SK065		
第83図8	京都系土師器	皿	在地	(13.6)	-	2.1	SK065		
第83図9	京都系土師器	皿	在地	(15.4)	(8.2)	2.4	SK065		
第83図10	土師質土器	燗合	在地	-	(7.0)	-	SK065		
第83図11	須恵質土器	掃鉢	在地	(25.6)	-	-	SK065		
第83図12	須恵質土器	瓶	在地	-	(11.4)	-	SK065		
第83図13	瓦質土器	甕or鉢	在地	(26.6)	-	-	SK065		
第83図14	瓦質土器	甕	在地	(34.0)	-	-	SK065		
第83図15	瓦質土器	甕	在地	(36.0)	-	-	SK065		
第84図16	陶器	掃鉢	備前	(25.4)	-	-	SK065		
第84図17	陶器	掃鉢	備前	(30.0)	-	-	SK065		
第84図18	陶器	掃鉢	備前	-	-	-	SK065		
第84図19	陶器	大甕	備前	(25.6)	-	-	SK065		
第84図20	陶器	大甕	備前	(53.6)	-	-	SK065		
第85図1	陶器	甕	備前	-	(12.8)	-	SK074		
第87図1	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.7)	(4.3)	6.4	SK068		
第89図1	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	-	3.5	SK071		
第89図2	京都系土師器	皿	在地	(12.7)	-	2.9	SK071		
第89図3	土師質土器	皿	在地	-	(5.2)	-	SK071	底部系切り	
第89図4	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK071		
第90図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(6.8)	-	SK077	E群・五彩	
第90図2	白磁	皿	中国	-	-	-	SK077		
第90図3	京都系土師器	皿	在地	(9.8)	-	2.3	SK077		
第90図4	京都系土師器	皿	在地	(11.1)	-	3.0	SK077		
第90図5	土師質土器	捏ね鉢	在地	(34.0)	-	-	SK077		
第91図1	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	2.3	SK078		
第93図1	五彩	皿	中国(景德鎮窯)	19.1	11.4	4.0	SK085	E群	
第93図2	白磁	皿	中国	11.9	6.0	3.0	SK085	菊花皿・D群	
第93図3	白磁	皿	中国	(11.4)	(6.1)	2.4	SK085	C群	
第93図4	白磁	瓶	朝鮮	-	-	-	SK085		
第93図5	白磁	皿	中国	-	-	-	SK085	C群	
第93図6	青磁	皿	中国	-	-	-	SK085		
第93図7	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.1)	4.8	5.9	SK085	E群 高台内「□□佳器」	
第93図8	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.7)	-	SK085	E群 高台内「長春佳器」	
第93図9	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.6)	-	-	SK085	E群	
第93図10	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK085	E群	
第93図11	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.2)	-	2.7	SK085	E群	
第94図12	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(12.0)	(6.4)	2.4	SK085	B1群	
第94図13	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK085	B群	
第94図14	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK085	B1群	
第94図15	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	2.5	SK085	B1群	
第94図16	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK085		
第94図17	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK085		
第94図18	青花	皿	中国(漳州窯)	-	5.2	-	SK085		
第94図19	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK085		
第94図20	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.5)	-	-	SK085		
第95図21	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	2.2	SK085	被熱?	
第95図22	陶器	壺	備前	-	-	-	SK085	櫛描文	
第95図23	陶器	壺	備前	13.0	(15.0)	25.0	SK085	櫛描文	
第96図24	土師質土器	鉢	在地	30.5	(21.6)	10.5	SK085		
第99図1	陶器	天目碗	中国	-	-	-	SK203		
第100図1	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.6	SK210		
第101図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK252		
第102図1	陶器	掃鉢	備前	(31.0)	-	-	SK253A		
第102図2	瓦質土器	火鉢	在地	(45.4)	-	-	SK253A		
第103図1	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.2)	-	-	SK253B		
第106図1	京都系土師器	皿	在地	(9.7)	-	2.5	SK262		
第106図2	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	-	2.4	SK262	底部系切り	
第106図3	土師質土器	皿	在地	-	(4.4)	-	SK262		
第106図4	陶器	掃鉢	備前	(22.4)	-	-	SK262		
第106図5	陶器	掃鉢	備前	(29.0)	(13.0)	13.5	SK262		
第107図6	青花	小坏	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK262	E群	
第107図7	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK262	E群	
第107図8	青花	皿	中国(漳州窯)	-	(7.4)	-	SK262		
第107図9	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.0)	-	-	SK262		
第107図10	白磁	皿	中国	(13.3)	(5.7)	2.9	SK262		
第109図1	土師質土器	壺	在地	(14.0)	-	-	SK300		
第110図1	緑釉	皿	猿投	-	(6.4)	(1.8)	SK311	古代	

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器②)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第110図2	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	5.6	-	SK311	E群	
第110図3	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	SK311		
第112図1	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(4.8)	-	SX244		
第112図2	青花	盤	中国(漳州窯)	-	-	-	SX244	砂多量に付着	
第112図3	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	-	-	SX244	E群	
第112図4	京都系土師器	皿	在地	(13.5)	-	2.1	SX244		
第114図1	瓦質土器	火鉢	在地	(31.0)	-	-	SX245A		
第114図2	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.0	SX245A	スス付着	
第115図1	陶器	甕	備前	-	(35.0)	-	SX302		
第116図1	陶器	播鉢	備前	(30.0)	12.1	13.1	SX303		
第119図1	土師器	皿	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半	
第119図2	土師器	皿	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半	
第119図3	土師器	皿	在地	(16.0)	(13.2)	1.6	SE176	8世紀前半	
第119図4	土師器	皿	在地	(15.6)	(12.8)	2.0	SE176	8世紀前半	
第119図5	土師器	皿	在地	(14.8)	11.6	1.8	SE176	8世紀前半	
第119図6	土師器	坏	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半	
第119図7	土師器	坏	在地	-	-	3.2	SE176	8世紀前半	
第119図8	土師器	塊	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半	
第119図9	土師器	塊	在地	(13.6)	-	-	SE176	8世紀前半	
第119図10	土師器	坏	在地	(13.6)	(8.7)	3.7	SE176	8世紀前半	
第119図11	土師器	坏身	在地	(12.2)	(6.0)	3.7	SE176	8世紀前半	
第119図12	土師器	壺	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半	
第119図13	土師器	盤	在地	(17.6)	(14.5)	2.0	SE176	8世紀前半	
第119図14	土師器	盤	在地	(18.2)	(16.0)	1.8	SE176	8世紀前半	
第119図15	土師器	盤	在地	-	-	2.2	SE176	8世紀前半	
第119図16	土師器	坏	在地	-	-	2.1	SE176	8世紀前半	
第119図17	土師器	坏蓋	在地	(15.4)	-	-	SE176	8世紀前半	
第119図18	土師器	坏蓋	在地	(13.8)	-	3.2	SE176	8世紀前半	擬宝珠
第119図19	土師器	坏身	在地	-	7.3	-	SE176	8世紀前半	高台付
第119図20	土師器	坏身	在地	-	(7.8)	-	SE176	8世紀前半	高台付
第119図21	土師器	坏身	在地	-	(11.0)	-	SE176	8世紀前半	高台付
第119図22	土師器	坏身	在地	13.7	8.5	4.3	SE176	8世紀前半	
第119図23	土師器	坏身	在地	-	(8.8)	-	SE176	8世紀前半	
第119図24	土師器	坏身	在地	13.4	9.0	3.2	SE176	8世紀前半	
第119図25	土師器	坏身	在地	(14.2)	(7.2)	4.1	SE176	8世紀前半	
第119図26	土師器	坏身	在地	(13.2)	(8.8)	3.3	SE176	8世紀前半	
第119図27	土師器	坏身	在地	13.4	9.2	3.6	SE176	8世紀前半	黒班
第119図28	土師器	坏身	在地	(13.6)	8.4	3.3	SE176	8世紀前半	
第119図29	土師器	坏身	在地	(12.8)	(8.0)	3.8	SE176	8世紀前半	
第119図30	土師器	坏身	在地	(12.8)	(8.2)	3.9	SE176	8世紀前半	
第119図31	土師器	坏身	在地	(13.2)	(7.2)	3.9	SE176	8世紀前半	
第119図32	土師器	坏身	在地	(13.2)	(9.4)	3.2	SE176	8世紀前半	スス付着
第119図33	土師器	坏身	在地	(13.5)	7.8	3.1	SE176	9世紀前半	スス付着
第119図34	土師器	坏身	在地	13.4	-	3.6	SE176	8世紀前半	
第119図35	土師器	坏身	在地	13.2	8.0	3.5	SE176	8世紀前半	
第119図36	土師器	甕	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半	
第121図1	青花	碗	中国(景德镇窯)	(12.4)	(4.4)	6.3	SE075	C群	
第121図2	青花	大皿	中国(漳州窯)	(24.2)	-	-	SE075		
第121図3	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	-	-	SE075		
第121図4	青磁	皿	中国	-	-	-	SE075		
第121図5	青磁	碗	中国	(12.9)	(4.6)	5.1	SE075		
第122図6	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	2.2	SE075	被熱?	
第122図7	京都系土師器	皿	在地	(11.3)	-	3.0	SE075		
第122図8	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	-	2.6	SE075	被熱?	
第122図9	瓦質土器	鍋	在地	-	-	8.4	SE075		
第122図10	瓦質土器	壺	在地	(17.5)	-	-	SE075		
第122図11	陶器	瓶	在地	(5.2)	-	-	SE075		
第122図12	瓦質土器	播鉢	備前	(35.2)	-	-	SE079		
第127図4	華南三彩	壺	中国	-	12.0	-	SE079		
第127図5	青花	皿	中国(景德镇窯)	(12.6)	(6.8)	2.9	SE079	E群 高台内「富貴□全」	
第127図6	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	-	-	SE079	E群	
第127図7	青花	盤	中国(景德镇窯)	-	-	-	SE079	F群	
第127図8	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	-	-	SE079		
第127図9	白磁	皿	中国	11.5	5.3	3.2	SE079		
第127図10	白磁	皿	中国	-	3.8	-	SE079		
第127図11	五彩	皿	中国(景德镇窯)	-	-	-	SE079		
第127図12	青磁	瓶	中国	-	-	-	SE079		
第127図13	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	11.3	5.5	1.8	SE079	大窯3期	
第127図14	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.6)	4.0	6.0	SE079		
第127図15	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.7)	-	-	SE079		
第127図16	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.5)	-	-	SE079		
第127図17	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.8)	-	-	SE079		
第127図18	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(12.0)	-	-	SE079		
第128図19	陶器	大甕	備前	(34.0)	-	-	SE079		
第128図20	陶器	壺	備前	(10.4)	-	-	SE079		

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器③)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第128図21	陶器	瓶	備前	-	-	-	SE079		
第128図22	陶器	瓶	備前	-	-	-	SE079		
第128図23	陶器	瓶	備前	-	-	-	SE079		
第128図24	陶器	大甕	備前	-	(34.5)	-	SE079		
第129図25	陶器	播鉢	備前	(25.6)	-	9.4	SE079		
第129図26	陶器	播鉢	備前	-	-	-	SE079		
第129図27	陶器	播鉢	備前	-	-	-	SE079		
第129図28	陶器	播鉢	備前	(28.0)	-	-	SE079		
第129図29	陶器	播鉢	備前	(33.0)	-	-	SE079		
第130図30	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	-	1.9	SE079	スス付着	
第130図31	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	-	2.0	SE079	スス付着	
第130図32	京都系土師器	小皿	在地	(8.7)	-	2.1	SE079		
第130図33	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	-	2.4	SE079		
第130図34	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	-	2.4	SE079	スス付着	
第130図35	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.3	SE079		
第130図36	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.8	SE079		
第130図37	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	-	2.5	SE079		
第130図38	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	-	2.3	SE079		
第130図39	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	-	-	SE079		
第130図40	京都系土師器	坏	在地	(11.4)	-	3.2	SE079		
第130図41	土師質土器	皿	在地	-	(6.2)	-	SE079	底部糸切り	
第130図42	土師質土器	鉢	在地	(33.0)	(20.0)	10.3	SE079		
第130図43	土師質土器	鉢	在地	(34.0)	-	-	SE079		
第130図44	瓦質土器	火鉢	在地	(34.0)	-	-	SE079		
第130図45	瓦質土器	火鉢	在地	(43.0)	-	-	SE079		
第131図46	陶器	瓶	在地	(4.3)	-	-	SE079		
第131図47	陶器	片口鉢	在地	(16.8)	-	-	SE079		
第135図1	陶器	合子	タイ	-	-	-	SE261	蓋	
第135図2	五彩	大皿	中国(景德鎮窯)	(17.2)	(9.4)	4.0	SE261	E群	
第135図3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.5)	(9.0)	3.2	SE261	E群	
第135図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.2)	-	-	SE261	E群	
第135図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE261	E群 外面に毛彫り文様	
第135図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE261	E群	
第135図7	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(5.0)	-	SE261	E群	
第135図8	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.0)	(6.0)	2.5	SE261	E群	
第135図9	青花	皿	中国(漳州窯)	9.2	3.8	2.2	SE261		
第135図10	青白磁	梅瓶	中国	-	-	-	SE261		
第135図11	白磁	皿	中国	-	-	-	SE261		
第135図12	陶器	折縁ソギ皿	瀬戸美濃	(11.3)	-	-	SE261	大窯4期	
第136図13	京都系土師器	皿	在地	4.3	-	2.1	SE261	灯明皿	
第136図14	京都系土師器	皿	在地	(9.4)	-	1.6	SE261		
第136図15	京都系土師器	皿	在地	14.8	-	2.2	SE261	スス付着	
第136図16	土師質土器	皿	在地	(7.6)	5.0	2.0	SE261	底部糸切り	
第136図17	瓦質土器	塊	在地	(11.2)	5.1	5.1	SE261		
第136図18	瓦質土器	播鉢	在地	(23.2)	-	-	SE261		
第136図19	瓦質土器	火鉢	在地	-	(37.0)	-	SE261		
第136図20	瓦質土器	火鉢	在地	(40.0)	(38.8)	-	SE261		
第136図21	瓦質土器	鍋	在地	(44.0)	-	-	SE261		
第139図1	白磁	皿	中国	(11.4)	-	-	SK298		
第140図1	白磁	皿	中国	-	-	-	SX054		
第140図2	白磁	皿	中国	-	-	-	SX054		
第140図3	白磁	皿	中国	11.6	6.2	3.2	SX054		
第140図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX054	E群	
第140図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX054	E群	
第140図6	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX054	E群	
第140図7	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.2)	-	2.3	SX054	E群	
第140図8	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(12.0)	5.8	2.5	SX054	E群	
第140図9	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.0	5.8	2.9	SX054	E群	
第140図10	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.2)	(7.6)	2.7	SX054	E群	
第141図11	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	-	2.3	SX054		
第141図12	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.4	SX054		
第141図13	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.3	SX054		
第141図14	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	-	2.1	SX054		
第141図15	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.3	SX054		
第141図16	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	-	2.2	SX054		
第141図17	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.0	SX054		
第141図18	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.2	SX054		
第141図19	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.1	SX054		
第141図20	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.4	SX054		
第141図21	京都系土師器	皿	在地	11.2	-	2.5	SX054		
第141図22	京都系土師器	皿	在地	(11.0)	-	2.4	SX054		
第141図23	京都系土師器	皿	在地	(12.5)	-	2.1	SX054		
第141図24	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	2.3	SX054		
第141図25	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.1	SX054		
第141図26	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.1	SX054		



第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器④)

挿図No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
			口径	底径	器高			
第141図27	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.2)	-	2.2	SX054	
第141図28	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.4)	-	2.3	SX054	スス付着
第141図29	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.2	-	2.5	SX054	黒斑
第141図30	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.5)	-	2.2	SX054	
第141図31	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.4	-	2.4	SX054	黒斑
第141図32	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.6	-	2.2	SX054	
第141図33	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.2)	-	2.1	SX054	
第141図34	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.4)	-	1.9	SX054	
第141図35	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.6	SX054	
第141図36	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.5	-	2.5	SX054	
第141図37	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.2	-	2.6	SX054	
第141図38	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.2	SX054	
第141図39	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.3	SX054	
第141図40	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.3	SX054	
第141図41	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.4	SX054	
第141図42	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.4	SX054	
第141図43	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.6	-	2.3	SX054	
第141図44	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.4)	-	2.3	SX054	
第141図45	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.4	SX054	
第141図46	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.7	-	2.4	SX054	
第141図47	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.7	SX054	
第141図48	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.8	SX054	
第141図49	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.4	-	2.6	SX054	
第141図50	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.6	SX054	
第141図51	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.4)	-	2.8	SX054	
第141図52	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.2)	-	2.6	SX054	
第141図53	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.3	SX054	
第141図54	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.1)	-	2.5	SX054	
第141図55	京都系土師器	Ⅲ	在地	13.0	-	2.7	SX054	
第141図56	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.9	SX054	
第141図57	京都系土師器	Ⅲ	在地	13.0	-	3.0	SX054	
第142図58	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.9	-	2.6	SX054	黒斑
第142図59	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.4)	-	3.1	SX054	
第142図60	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.2)	-	2.6	SX054	外面ヘラ記号
第142図61	京都系土師器	Ⅲ	在地	13.0	-	2.5	SX054	
第142図62	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.5	SX054	
第142図63	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.8	-	2.4	SX054	
第142図64	京都系土師器	Ⅲ	在地	12.9	-	2.6	SX054	
第142図65	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.5)	-	3.0	SX054	
第142図66	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.3)	-	2.8	SX054	
第142図67	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.2)	-	2.1	SX054	
第142図68	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.9)	-	2.7	SX054	
第142図69	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.8	SX054	底部内面ヘラ記号
第142図70	京都系土師器	Ⅲ	在地	13.3	-	2.3	SX054	内外面に黒斑
第142図71	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.6)	-	2.3	SX054	
第142図72	京都系土師器	Ⅲ	在地	(15.0)	-	2.2	SX054	
第142図73	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.8)	-	2.1	SX054	
第142図74	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.0)	-	2.4	SX054	
第142図75	京都系土師器	Ⅲ	在地	(14.9)	-	1.8	SX054	
第142図76	京都系土師器	Ⅲ	在地	(15.0)	-	2.2	SX054	
第142図77	京都系土師器	Ⅲ	在地	(15.0)	-	2.4	SX054	スス付着
第142図78	京都系土師器	Ⅲ	在地	(16.2)	-	2.7	SX054	黒斑
第142図79	京都系土師器	Ⅲ	在地	(16.6)	-	2.6	SX054	
第142図80	京都系土師器	Ⅲ	在地	(17.4)	-	3.0	SX054	
第143図81	土師質土器	Ⅲ	在地	-	-	2.1	SX054	
第143図82	土師質土器	Ⅲ	在地	7.8	(6.8)	1.2	SX054	底部回転系切り
第143図83	土師質土器	Ⅲ	在地	(10.2)	6.8	1.7	SX054	底部回転系切り
第143図84	土師質土器	Ⅲ	在地	-	6.8	-	SX054	底部回転系切り後板痕
第143図85	土師質土器	Ⅲ	在地	(13.2)	(8.0)	2.8	SX054	底部回転系切り
第144図86	須恵質土器	掃鉢	在地	24.6	11.6	9.5	SX054	
第144図87	瓦質土器	火鉢	在地	-	-	-	SX054	
第146図2	京都系土師器	Ⅲ	在地	(9.1)	-	2.1	SX062	
第146図3	京都系土師器	Ⅲ	在地	(9.5)	-	2.1	SX062	
第146図4	京都系土師器	Ⅲ	在地	(10.6)	-	2.0	SX062	
第146図5	京都系土師器	Ⅲ	在地	(10.6)	-	1.9	SX062	
第146図6	京都系土師器	Ⅲ	在地	(10.2)	-	2.1	SX062	
第146図7	京都系土師器	Ⅲ	在地	(10.6)	-	2.1	SX062	
第146図8	京都系土師器	Ⅲ	在地	(10.6)	-	2.2	SX062	
第146図9	京都系土師器	Ⅲ	在地	(11.5)	-	2.0	SX062	
第146図10	京都系土師器	Ⅲ	在地	(12.6)	-	2.0	SX062	
第146図11	京都系土師器	Ⅲ	在地	(13.4)	-	2.0	SX062	
第146図12	京都系土師器	Ⅲ	在地	(14.6)	-	2.1	SX062	
第146図13	京都系土師器	Ⅲ	在地	(15.0)	-	-	SX062	
第147図1	京都系土師器	Ⅲ	在地	(9.1)	-	1.9	SX066	
第147図2	京都系土師器	Ⅲ	在地	(11.0)	-	2.5	SX066	

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑤)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位:cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第149図1	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	4.4	-	SX150	E群	
第149図2	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.6	-	SX150		
第149図3	陶器	皿	瀬戸美濃	(9.6)	(4.6)	2.3	SX150		
第150図4	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(7.0)	-	-	SX150		
第150図5	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(7.0)	-	-	SX150		
第150図6	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(9.0)	-	-	SX150		
第150図7	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(8.4)	-	-	SX150		
第150図8	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(10.0)	-	-	SX150		
第150図9	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(10.8)	-	-	SX150		
第150図10	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(10.0)	-	-	SX150		
第150図11	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(8.7)	-	-	SX150		
第150図12	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	(9.7)	-	-	SX150		
第150図13	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	-	-	-	SX150		
第150図14	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	-	-	-	SX150		
第150図15	土師質土器	取瓶(埴塙)	在地	-	-	-	SX150		
第150図16	土師質土器	捏(ね)鉢	在地	-	(22.0)	-	SX150		
第150図17	土師質土器	捏(ね)鉢	在地	(32.0)	-	-	SX150		
第151図1	土師質土器	小皿?	在地	(5.0)	(2.6)	1.5	SX256A	小皿または焼塩壺の蓋	
第151図2	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SX256A		
第151図3	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SX256A		
第151図4	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.2	SX256A		
第152図1	陶器	瓶	備前	-	-	-	SX308		
第152図2	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SX308		
第152図3	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.1	SX308		
第152図4	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	-	1.9	SX308	スス付着	
第152図5	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	-	2.0	SX308		
第152図6	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	2.2	SX308		
第152図7	京都系土師器	皿	在地	(12.4)	-	2.6	SX308		
第152図8	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.2	SX308		
第152図9	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	-	SX308		
第152図10	京都系土師器	皿	在地	12.5	-	2.7	SX308	スス付着 灯明皿	
第153図13	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	SX308		
第153図14	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	SX308		
第153図15	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	SX308		
第153図16	青花	碗	中国(景德镇窯)	(13.4)	-	-	SX308	E群	
第153図17	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	-	-	SX308	E群	
第153図18	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	(5.0)	-	SX308	E群	
第153図19	青花	皿	中国(景德镇窯)	(9.6)	(5.5)	2.3	SX308	E群	
第153図20	青花	皿	中国(景德镇窯)	(10.0)	-	2.3	SX308	E群	
第153図21	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	(7.5)	-	SX308	E群	
第153図22	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	4.4	1.4	SX308	F群	
第153図23	青磁	小坏	中国	(7.2)	(3.0)	5.2	SX308	高台内に「福」字	
第153図24	陶器	天目碗	志登呂	(11.8)	(3.8)	6.2	SX308		
第154図1	京都系土師器	小皿	在地	8.5	-	1.9	SX310	スス付着 灯明皿	
第154図2	京都系土師器	皿	在地	(11.2)	-	-	SX310		
第154図3	土師質土器	皿	在地	(11.2)	(7.2)	1.9	SX310	底部系切り	
第154図4	土師質土器	捏(ね)鉢	在地	(32.0)	(20.3)	10.0	SX310		
第156図1	白磁	皿	中国	-	-	-	SX301		
第156図2	土師質土器	小皿	在地	-	-	3.4	SX301		
第156図3	土師質土器	皿	在地	-	-	1.2	SX301		
第156図4	土師質土器	皿	在地	(8.2)	(6.7)	1.3	SX301	底部系切り	
第156図5	土師質土器	皿	在地	8.4	6.6	1.7	SX301	底部に穴 底部系切り	
第156図6	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SX301		
第156図7	京都系土師器	皿	在地	(11.0)	-	2.3	SX301		
第156図8	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.3	SX301		
第156図9	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	-	2.1	SX301		
第156図10	京都系土師器	皿	在地	(15.2)	-	2.5	SX301		
第156図11	土師質土器	小皿	在地	(15.2)	-	-	SX301	他跡を蓋の蓋を転用 京都系土師器と同じ粘土	
第156図12	土師質土器	耳皿	在地	5.5	-	1.7	SX301		
第156図13	土師質土器	耳皿	在地	-	-	1.7	SX301		
第157図1	青花	皿	中国(漳州窯)	(12.4)	-	-	柱穴	C群	
第157図2	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	-	3.2	柱穴	E群	
第157図3	陶器	天目碗	瀬戸美濃	-	-	-	柱穴		
第157図4	青花	皿	中国(景德镇窯)	(10.4)	-	2.3	柱穴	B1群	
第157図5	青花	皿	中国(漳州窯)	-	(3.6)	-	柱穴		
第157図6	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	(4.6)	-	柱穴	E群 高台内「大明年造」	
第157図7	青花	盤	中国(景德镇窯)	-	-	-	柱穴	E群	
第157図8	青花	瓶	中国(景德镇窯)	(3.0)	-	-	柱穴		
第157図9	華南三彩	壺	中国	-	-	-	柱穴		
第157図10	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	柱穴		
第157図11	白磁	皿	中国	-	-	-	柱穴		
第157図12	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	-	-	柱穴		
第157図13	青花	碗	中国(景德镇窯)	-	-	-	柱穴	E群	
第157図14	青磁	皿	中国	-	-	-	柱穴		
第157図15	白磁	小坏	中国	-	2.8	-	柱穴	「福」字	

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑥)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第157図16	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.9)	(7.9)	2.7	柱穴	E群	
第157図17	白磁	瓶or小壺	朝鮮	-	-	-	柱穴	16世紀代	
第158図18	陶器	瓶	備前	(5.6)	-	-	柱穴		
第158図19	陶器	播鉢	備前	(25.0)	-	-	柱穴		
第161図1	五彩	木瓜皿	中国(景德鎮窯)	(5.0)	(8.3)	2.0	整地層		
第161図2	磁器	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	黄釉	
第161図3	磁器	つまみ	中国?	-	-	-	整地層		
第161図4	磁器	不明	中国(景德鎮窯)	(4.6)	-	-	整地層	瑠璃釉	
第161図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	外面緑彩	
第161図6	磁器	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	瑠璃釉	
第161図7	磁器	不明	中国(景德鎮窯)	-	-	2.5	整地層		
第161図8	青磁	掛花入	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層		
第161図9	青磁	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	2.9	整地層		
第161図10	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(13.2)	-	-	整地層	B群	
第161図11	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(13.2)	-	6.5	整地層	E群	
第161図12	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(14.4)	(5.2)	5.5	整地層	C群	
第161図13	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.2)	(4.8)	5.4	整地層	C群	
第161図14	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(13.7)	(5.1)	7.2	整地層	E群	
第161図15	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.2)	(4.6)	6.2	整地層	E群	
第161図16	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(13.8)	-	-	整地層	E群	
第161図17	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.1)	-	-	整地層	E群	
第161図18	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(10.1)	-	-	整地層	E群	
第161図19	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群	
第161図20	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群	
第162図21	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群	
第162図22	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群	
第162図23	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群 毛彫り	
第162図24	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群 毛彫り	
第162図25	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群 毛彫り	
第162図26	青花	大皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群 五彩	
第162図27	青花	小环	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層		
第162図28	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	E群	
第162図29	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(4.0)	-	-	整地層	E群 高台内「永保長春」	
第162図30	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.4)	-	整地層	E群 高台内「大明年造」	
第162図31	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.5)	-	整地層	E群	
第162図32	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.4)	-	整地層	E群	
第162図33	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.5	-	整地層	E群	
第162図34	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.4)	-	整地層	E群	
第162図35	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(5.2)	-	整地層	E群	
第162図36	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.0)	-	整地層	E群	
第163図37	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.6)	(7.4)	3.1	整地層	B2群	
第163図38	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.3)	(8.4)	2.9	整地層	B1群	
第163図39	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.4)	(3.5)	3.1	整地層	B2群	
第163図40	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.6)	-	-	整地層	B群	
第163図41	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	B群	
第163図42	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	2.4	整地層	E群	
第163図43	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.1)	-	-	整地層	C群	
第163図44	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.7)	-	2.8	整地層		
第163図45	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.4)	(4.2)	2.1	整地層		
第163図46	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.5)	(6.5)	3.1	整地層	B2群	
第163図47	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(6.0)	-	整地層	E群	
第163図48	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(6.0)	-	整地層	E群	
第163図49	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(7.6)	-	整地層	E群	
第163図50	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(9.7)	-	整地層	E群	
第163図51	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(12.0)	(6.7)	2.5	整地層	E群	
第164図52	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.2)	(6.1)	2.6	整地層	E群	
第164図53	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	3.5	整地層	E群	
第164図54	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	2.7	整地層	E群	
第164図55	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(7.2)	-	整地層	E群	
第164図56	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.1)	-	整地層	E群	
第164図57	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.4)	-	2.7	整地層	E群	
第164図58	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	F群	
第164図59	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層	F群	
第164図60	青花	壺	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層		
第164図61	青花	瓶	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層		
第164図62	青花	瓶	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層		
第164図63	青花	小环	中国(景德鎮窯)	(6.4)	(2.6)	4.7	整地層		
第164図64	青花	小环	中国(景德鎮窯)	-	-	-	整地層		
第165図65	青花	碗	中国(漳州窯)	(13.9)	(5.0)	5.2	整地層		
第165図66	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.8)	5.0	4.5	整地層		
第165図67	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.0)	-	-	整地層		
第165図68	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.0)	-	-	整地層		
第165図69	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(6.4)	-	整地層		
第165図70	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.2)	-	-	整地層		
第165図71	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑦)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第165図72	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図73	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図74	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図75	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図76	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図77	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図78	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図79	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第165図80	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(5.4)	-	整地層		
第165図81	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.2	-	整地層		
第165図82	青花	皿	中国(漳州窯)	(10.1)	(4.0)	2.2	整地層		
第165図83	青花	皿	中国(漳州窯)	-	(4.9)	-	整地層		
第165図84	青花	皿	中国(漳州窯)	-	(4.0)	-	整地層		
第165図85	青花	皿	中国(漳州窯)	-	(4.4)	-	整地層		
第166図86	青花	瓶	中国(漳州窯)	-	(6.4)	-	整地層		
第166図87	青花	盤	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第166図88	青花	盤	中国(漳州窯)	-	-	-	整地層		
第167図89	陶器	合子	タイ	-	-	-	整地層	蓋	
第167図90	陶器	合子	タイ	-	-	-	整地層	身	
第167図91	陶器	合子	タイ	-	8.5	4.0	整地層	蓋	
第167図92	陶器	つまみ	中国	-	-	-	整地層		
第167図93	華南三彩	水差し	中国	-	-	-	整地層	脚部	
第167図94	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図95	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図96	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図97	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図98	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図99	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図100	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図101	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図102	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層		
第167図103	陶器	皿	中国	5.8	-	1.1	整地層	翡翠釉	
第167図104	陶器	皿	中国	(6.0)	-	1.0	整地層	翡翠釉	
第167図105	陶器	皿	中国	-	-	-	整地層	翡翠釉	
第167図106	陶器	合子	中国	-	-	-	整地層	翡翠釉	
第168図107	白磁	碗	ベトナム	-	(8.4)	-	整地層		
第168図108	白磁	碗	ベトナム	-	-	-	整地層		
第168図109	白磁	碗	ベトナム	-	-	-	整地層		
第168図110	陶器	長胴壺	ベトナム	-	-	-	整地層		
第168図111	陶器	不明	不明	-	-	-	整地層		
第168図112	白磁	壺	不明	(12.8)	-	-	整地層		
第169図113	青磁	把手	中国	-	-	-	整地層		
第169図114	青磁	碗	中国	-	-	-	整地層		
第169図115	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層	13~14世紀代・類口ハゲ	
第169図116	白磁	碗	中国	-	-	-	整地層		
第169図117	白磁	皿	国産	-	-	2.9	整地層		
第169図118	白磁	皿	中国	-	(4.1)	-	整地層	菊花皿	
第169図119	白磁	皿	中国	9.7	5.7	2.9	整地層	菊花皿	
第169図120	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層		
第169図121	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層		
第169図122	白磁	皿	中国	(10.4)	(5.1)	2.4	整地層		
第169図123	白磁	皿	中国	(14.8)	-	-	整地層		
第169図124	白磁	皿	中国	(13.8)	-	-	整地層		
第169図125	白磁	皿	中国	(11.4)	-	-	整地層		
第169図126	白磁	皿	中国	(11.3)	(5.1)	3.2	整地層		
第169図127	白磁	皿	中国	(10.6)	(5.4)	3.3	整地層		
第169図128	白磁	皿	中国	(12.3)	(6.5)	2.9	整地層		
第169図129	白磁	皿	中国	(11.0)	(5.6)	2.6	整地層		
第169図130	白磁	皿	中国	-	6.5	1.9	整地層		
第169図131	白磁	皿	中国	-	-	2.6	整地層		
第169図132	白磁	皿	中国	-	-	2.8	整地層		
第169図133	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層		
第169図134	白磁	小環	中国	-	2.6	-	整地層		
第169図135	白磁	小環	中国	-	2.2	-	整地層		
第170図136	陶器	天目碗	瀬戸美濃	-	-	-	整地層		
第170図137	陶器	天目碗	瀬戸美濃	-	-	-	整地層		
第170図138	陶器	小壺	瀬戸美濃	(4.0)	-	-	整地層	茶入	
第170図139	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(6.4)	(2.6)	3.3	整地層		
第170図140	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(10.7)	(4.4)	5.3	整地層		
第170図141	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.8)	-	-	整地層		
第170図142	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.6)	-	-	整地層		
第170図143	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(12.0)	-	-	整地層		
第171図144	陶器	瓶子	瀬戸	-	(10.7)	-	整地層		
第171図145	陶器	香炉	瀬戸美濃	-	-	-	整地層		
第171図146	陶器	香炉?	瀬戸美濃	(6.0)	-	-	整地層		



第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑧)

挿図No	器種	生産地	法量 (単位cm)			遺構名	備考	図版No	
			口径	底径	器高				
第171図147	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(11.4)	(6.8)	2.1	整地層	大窯3期	
第171図148	陶器	卸皿	瀬戸美濃	-	-	-	整地層		
第171図149	陶器	丸皿	瀬戸美濃	-	-	-	整地層		
第171図150	陶器	丸皿	瀬戸美濃	(6.3)	-	2.7	整地層		
第171図151	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	-	-	2.1	整地層	大窯3期	
第171図152	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(10.3)	(5.4)	2.2	整地層	大窯3期	
第171図153	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(11.9)	-	-	整地層	大窯3期	
第171図154	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(12.1)	-	-	整地層	大窯3期	
第171図155	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	-	-	2.1	整地層	大窯3期	
第171図156	陶器	折縁ソギ皿	瀬戸美濃	(11.0)	-	-	整地層	大窯4期	
第171図157	陶器	折縁ソギ皿	瀬戸美濃	(11.2)	(5.6)	2.1	整地層	大窯4期	
第171図158	陶器	折縁ソギ皿	瀬戸美濃	(11.4)	(6.0)	2.1	整地層	大窯4期	
第171図159	陶器	折縁ソギ皿	瀬戸美濃	(11.0)	-	-	整地層	大窯4期 鉄釉	
第171図160	陶器	鉢	肥前(唐津)	-	-	-	整地層		
第171図161	磁器	碗	肥前(唐津)	-	(4.6)	-	整地層		
第171図162	磁器	碗	肥前(唐津)	-	(6.0)	-	整地層		
第171図163	磁器	碗	肥前(唐津)	-	(4.7)	-	整地層	土灰釉	
第172図164	陶器	壺	備前	(11.2)	-	-	整地層		
第172図165	陶器	壺	備前	(12.4)	-	-	整地層		
第172図166	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層		
第172図167	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層		
第172図168	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層		
第172図169	陶器	鉢?	備前	(16.3)	(8.0)	7.6	整地層	鉢or建水	
第172図170	陶器	盤	備前	(27.6)	(16.0)	5.8	整地層		
第172図171	陶器	小壺or瓶	備前	-	(4.5)	-	整地層		
第172図172	陶器	小壺or瓶	備前	-	(6.7)	-	整地層		
第172図173	陶器	小壺or瓶	備前	-	(6.2)	-	整地層		
第172図174	陶器	小壺or瓶	備前	-	(4.2)	-	整地層		
第173図175	陶器	掛花入	備前	-	6.8	-	整地層		
第173図176	陶器	掛花入	備前	-	(7.6)	-	整地層		
第173図177	陶器	小鉢	備前	(8.5)	4.3	5.9	整地層		15
第173図178	陶器	壺	備前	-	(4.1)	-	整地層	底部糸切り	
第173図179	陶器	皿or盤	備前	26.2	-	-	整地層		
第173図180	陶器	皿or盤	備前	-	-	-	整地層		
第173図181	陶器	鉢	備前	-	-	-	整地層		
第173図182	陶器	浅鉢	備前	(17.1)	(8.2)	6.0	整地層		
第173図183	陶器	浅鉢	備前	-	(10.8)	-	整地層		
第173図184	陶器	鉢	備前	-	-	-	整地層		
第173図185	陶器	大甕	備前	-	-	-	整地層		
第173図186	須恵器	大甕	備前	-	-	-	整地層		
第173図187	陶器	甕	備前	-	(14.0)	-	整地層		
第173図188	陶器	甕	備前	-	(21.8)	-	整地層		
第174図189	陶器	搦鉢	備前	(21.0)	-	-	整地層		
第174図190	陶器	搦鉢	備前	24.0	9.3	9.9	整地層		
第174図191	陶器	搦鉢	備前	(31.0)	(12.2)	14.5	整地層		
第174図192	陶器	搦鉢	備前	(34.0)	-	-	整地層		
第175図193	陶器	壺	備前	(8.4)	-	-	整地層		
第175図194	陶器	壺	備前	(9.8)	-	-	整地層		
第175図195	陶器	壺	備前	(11.6)	-	-	整地層		
第175図196	陶器	壺	備前	(7.6)	8.5	7.6	整地層		
第175図197	陶器	小壺	備前	-	-	-	整地層		
第175図198	陶器	小壺	備前	(6.6)	-	-	整地層		
第175図199	陶器	小壺	備前	-	-	-	整地層		
第175図200	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層		
第175図201	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層	四耳壺?	
第175図202	陶器	壺	備前	-	(19.0)	-	整地層		
第175図203	陶器	壺	東播系	-	-	-	整地層		
第175図204	陶器	瓶	備前	(6.0)	-	-	整地層		
第175図205	陶器	瓶	備前	5.8	-	-	整地層		
第175図206	陶器	瓶	備前	-	-	-	整地層		
第175図207	陶器	瓶	備前	-	-	-	整地層		
第175図208	陶器	瓶	備前	-	-	-	整地層		
第175図209	陶器	壺?	備前	-	(5.3)	-	整地層		
第175図210	陶器	不明	備前	-	(10.0)	-	整地層		
第175図211	陶器	片口鉢	備前	(16.8)	-	-	整地層		
第175図212	陶器	碗	備前?	(16.6)	(8.2)	4.8	整地層		
第175図213	陶器	鉢	備前	(27.6)	(15.8)	5.3	整地層		
第175図214	陶器	盤	備前	-	-	2.9	整地層		
第175図215	陶器	皿	肥前(唐津)	-	5.0	-	整地層	鉄絵(絵唐津)	
第176図216	須恵器	高台付坏	在地	-	(8.4)	-	整地層	8世紀代	
第176図217	須恵器	高台付皿	在地	(12.6)	(8.0)	3.8	整地層	8世紀代	
第176図218	土師器	高台付坏	在地	-	(8.0)	-	整地層	8世紀代	
第176図219	土師器	高台付坏	在地	-	(11.4)	-	整地層	8世紀代	
第176図220	土師器	坏	在地	(14.7)	-	3.4	整地層	8世紀代	
第176図221	土師器	坏	在地	(14.0)	(7.3)	3.5	整地層	8世紀代	

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑨)

挿図No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.	
			口径	底径	器高				
第176図222	土師器	坏	在地	(15.6)	-	4.0	整地層	8世紀代	
第176図223	土師器	坏	在地	(15.6)	(10.0)	4.0	整地層	8世紀代	
第176図224	土師器	碗	在地	-	-	-	整地層	8世紀代	
第176図225	土師器	碗	在地	(20.0)	-	-	整地層	8世紀代	
第176図226	土師器	碗	在地	(18.5)	-	-	整地層	8世紀代	
第176図227	土師器	皿	在地	-	-	1.7	整地層	8世紀代	
第176図228	土師器	皿	在地	(14.0)	(7.3)	1.6	整地層	8世紀代	
第176図229	土師器	皿	在地	(16.0)	(11.0)	2.2	整地層	8世紀代	
第176図230	土師器	坏	在地	(12.2)	-	4.1	整地層	9世紀代	
第176図231	土師器	坏	在地	(13.5)	-	3.5	整地層	9世紀代	
第176図232	土師器	坏	在地	(14.0)	(9.7)	3.7	整地層	9世紀代	
第176図233	土師器	壺	在地	(20.5)	-	-	整地層	9世紀代	
第177図234	土師質土器	小皿	在地	7.1	5.7	1.2	整地層	底部系切り	
第177図235	土師質土器	坏	在地	(11.5)	-	3.1	整地層		
第177図236	瓦質土器	碗	在地	(9.8)	(5.4)	4.4	整地層	内面に赤彩 布目痕	
第177図237	土師質土器	皿	在地	(8.0)	-	1.5	整地層	底部系切り	
第177図238	土師質土器	皿	在地	(8.6)	(5.6)	2.4	整地層	底部系切り?	
第177図239	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.8	整地層		
第177図240	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.6	整地層		
第177図241	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.9	整地層		
第177図242	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.4	整地層		
第177図243	土師質土器	小皿	在地	(5.5)	-	2.3	整地層		
第177図244	土師質土器	小皿	在地	(5.2)	-	1.5	整地層		
第177図245	土師質土器	小皿	在地	(4.8)	-	2.2	整地層		
第177図246	土師質土器	小皿	在地	5.2	-	1.7	整地層		
第177図247	土師質土器	小皿	在地	5.1	-	1.7	整地層		
第177図248	京都系土師器	皿	在地	4.2	-	2.1	整地層	灯明皿	
第177図249	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	2.1	整地層	スス付着	
第177図250	京都系土師器	皿	在地	8.5	-	2.2	整地層		
第177図251	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.4	整地層	スス付着	
第177図252	京都系土師器	皿	在地	(8.6)	-	2.1	整地層		
第177図253	土師器	皿	在地	(8.2)	(5.1)	1.9	整地層	底部系切り	
第177図254	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.4	整地層	被熱?	
第177図255	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.4	整地層		
第177図256	京都系土師器	坏	在地	11.3	-	3.7	整地層	スス付着	
第177図257	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	2.3	整地層		
第177図258	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.3	整地層	スス付着	
第177図259	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	整地層		
第177図260	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	-	2.2	整地層		
第177図261	京都系土師器	皿	在地	(13.1)	-	2.3	整地層		
第177図262	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.4	整地層		
第177図263	京都系土師器	坏	在地	-	-	-	整地層	変形	
第178図264	土師質土器	埴塼	在地	(7.2)	-	3.3	整地層		
第178図265	土師質土器	埴塼	在地	(8.0)	-	-	整地層		
第178図266	土師質土器	埴塼	在地	(6.8)	-	-	整地層		
第178図267	土師質土器	埴塼	在地	(8.4)	-	-	整地層		
第178図268	土師質土器	埴塼	在地	(9.0)	-	-	整地層		
第178図269	土師質土器	埴塼	在地	(12.0)	-	-	整地層		
第179図270	土師質土器	不明	在地	-	(5.3)	-	水田層	金箔土師器	15
第179図272	土師質土器	鉢?	在地	-	-	-	整地層		
第179図273	土師質土器	火鉢	在地	(26.6)	-	-	整地層		
第179図274	土師質土器	耳皿	在地	-	-	2.0	整地層		
第179図275	土師質土器	?	在地	-	(6.8)	-	整地層		
第179図276	土師質土器	燭台	在地	-	(7.1)	-	整地層	底部系切り 内部空洞	
第179図279	土師質土器	風炉	在地	(21.0)	-	-	整地層		
第180図280	瓦質土器	碗	在地	10.2	5.6	4.4	整地層		
第180図281	瓦質土器	香炉	亀山	(11.4)	-	4.8	整地層	3足?	
第180図282	瓦質土器	火鉢	在地	-	-	-	整地層		
第180図283	瓦質土器	蓋	在地	-	-	-	整地層		
第180図284	瓦質土器	捏ね鉢	在地	26.8	7.8	11.5	整地層		
第180図285	瓦質土器	播鉢	在地	(29.0)	(15.0)	10.4	整地層	内面 波形描目	
第180図286	瓦質土器	播鉢	在地	(28.4)	(13.2)	9.3	整地層		
第180図287	瓦質土器	鍋or鉢	在地	(40.6)	-	-	整地層		

第18次東調査区遺物観察表 (土製品)

押図No	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No		
				長さ	幅	孔径	厚さ						
第96図27	土鍾	土師器		長さ	4.6	幅	1.0	孔径	0.3	3.8	SK085		
第96図28	土鍾	土師器		長さ	5.1	幅	1.0	孔径	0.3	4.4	SK085		
第96図29	土鍾	土師器		径	5.0	幅	1.0	孔径	0.4	6.6	SK085		
第104図1	円盤状加工品	土師質		長さ	5.3	短径	4.5	厚さ	1.0		SK013		
第114図3	土鍾	土師質		長さ	6.9	幅	1.5	孔径	0.4	13.5	SX245		
第122図13	土鍾	土師質		長さ	3.8	幅	1.0	孔径	0.3	3.6	SE085		
第122図14	土鍾	土師質		径	3.8	幅	1.5	孔径	0.5	7.9	SE085		
第131図48	円盤状加工品	土師質		長さ	4.3	短径	4.3	厚さ	1.0		SE079		
第156図14	土鍾	土師質		径	4.3	幅	1.2	孔径	0.3	5.5	SX301		
第156図15	土鍾	土師質		径	5.2	幅	1.4	孔径	0.4	8.6	SX301		
第179図271	烏	土師質	胴	高さ	3.1	幅	3.0	厚さ	2.2		整地層	近世 型抜き? 頭部欠損	15
第179図277	円盤状加工品	土師質		長径	3.2	短径	3.1	厚さ	1.9		整地層		
第179図278	円盤状加工品	土師質		長径	1.9	短径	1.7	厚さ	0.7		整地層		
第182図295	仏土製品	土師質		高さ	6.9	幅	3.0	厚さ	2.2		整地層	近世 型抜き? 先背先端欠損	15
第182図296	内裏形土製品	土師質		高さ	4.7	幅	4.9	厚さ	2.1		整地層	近世 型抜き? 頭部一部欠損	15
第182図297	犬形土製品	土師質	頭	高さ	(4.6)	幅	-	厚さ	-		整地層	手づくね 胴部欠損	
第188図376	硯	須恵器		長さ	(9.0)	幅	(6.3)	厚さ	(2.4)		包含層	円面硯	17

第18次東調査区遺物観察表 (石製品)

押図No	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No		
				長さ	幅	厚さ	孔径						
第96図25	茶臼			長さ	(19.4)	幅	-	厚さ	(4.4)		SK085	上臼	
第152図 11	砥石	硅岩		長さ	(4.1)	幅	(2.8)	厚さ	(2.6)		SX308		
第184図322	不明	石製品?		-	-	-	-	-	-		整地層	装飾品?	
第188図377	硯	輝緑凝灰岩		長さ	(7.7)	幅	(4.0)	厚さ	(1.0)		包含層	長方硯・赤間石	17
第188図378	硯	片岩		長さ	8.4	幅	3.1	厚さ	1.9		包含層	長方硯・赤間石	17
第188図379	砥石	輝緑凝灰岩		長さ	(7.5)	幅	(4.3)	厚さ	2.3		包含層	長方硯・赤間石の転用	17
第188図380	砥石	硅岩		長さ	(3.6)	幅	5.2	厚さ	3.4		包含層		

第18次東調査区物観察表 (木器)

押図No	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No		
				口径	底径	器高	厚さ						
第96図26	漆器椀		胴部	口径	-	底径	-	器高	-		SK085	内外面に赤色漆	
第133図62	漆器皿			口径	-	底径	(7.9)	器高	-		SE079	外面に赤色漆	15
第133図63	漆器椀	サクラ属		口径	(17.4)	底径	(9.3)	器高	(11.3)		SE079		15
第133図64	漆器椀	ホオノキ		口径	15.0	底径	8.0	器高	10.1		SE079		15
第133図65	不明			長さ	14.8	幅	1.2	厚さ	1.1		SE079		
第133図66	曲物		底	長さ	17.8	厚さ	1.1	孔径	0.3		SE079	底部 穿孔あり	
第133図67	不明			長さ	18.7	幅	(7.6)	厚さ	2.2		SE079		
第133図68	曲物		胴部	長さ	15.7	厚さ	1.1	厚さ	0.3		SE079	底部 穿孔あり	
第138図27	漆器椀		胴部	口径	-	底径	-	器高	-		SE261		
第138図28	曲物		底	長さ	4.6	幅	3.4	厚さ	0.4		SE261		
第138図29	曲物			長さ	15.1	厚さ	1.2	孔径	-		SE261	底部	
第138図30	匙?			長さ	14.8	厚さ	0.5	孔径	0.4		SE261	底部 穿孔あり	15
第138図31	匙?			長さ	(13.8)	幅	5.7	厚さ	0.9		SE261		15
第138図32	柄			長さ	13.2	幅	2.9	厚さ	0.9		SE261		15
第138図33	不明			長さ	(7.6)	穴径	(2.3)	厚さ	1.3		SE261		15
第183図298	漆器椀		胴部	口径	-	底径	-	器高	-		整地層	漆器皮膜	
第183図299	漆器椀			口径	13.7	底径	-	器高	-		整地層		16
第183図300	漆器椀		底部	口径	-	底径	-	器高	-		整地層	漆器皮膜	16

第18次東調査区遺物観察表 (金属製品) ①

押図No	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No		
				長さ	幅	厚さ	孔径						
第84図21	釘	鉄	-	長さ	(2.7)	-	-	厚さ	0.6	5.1	SK065		
第84図22	釘	鉄	-	長さ	3.4	-	-	厚さ	0.5	3.9	SK065		
第84図23	釘	鉄	-	長さ	(3.1)	-	-	厚さ	0.7	6.2	SK065		
第84図24	釘	鉄	-	長さ	(5.4)	-	-	厚さ	0.4	4.1	SK065		
第84図25	不明	鉄	-	長さ	(5.3)	-	-	厚さ	0.7	6.8	SK065		
第87図 2	釘	鉄	-	長さ	4.3	-	-	厚さ	0.3	1.7	SK068		
第87図 3	釘	鉄	-	長さ	(3.6)	-	-	厚さ	0.5	3.3	SK068		
第89図 5	釘	鉄	-	長さ	(4.0)	-	-	厚さ	0.5	2.2	SK071		
第89図 6	釘	鉄	-	長さ	(7.5)	-	-	厚さ	0.8	10.4	SK071		
第90図 6	釘	鉄	-	長さ	(6.2)	-	-	厚さ	0.9	11.9	SK077		
第90図 7	釘	鉄	-	長さ	5.0	-	-	厚さ	0.7	7.4	SK077		
第90図 8	釘	鉄	-	長さ	3.9	-	-	厚さ	0.7	5.8	SK077		
第96図30	釘	鉄	-	長さ	3.5	-	-	厚さ	0.5	4.1	SK085		
第96図31	釘	鉄	-	長さ	(3.6)	-	-	厚さ	0.3	5.2	SK085		
第96図32	釘	鉄	-	長さ	(5.5)	-	-	厚さ	0.5	6.0	SK085		
第96図33	釘	鉄	-	長さ	5.4	-	-	厚さ	0.5	4.7	SK085		
第96図34	釘	鉄	-	長さ	6.0	-	-	厚さ	0.2	17.4	SK085		
第96図35	釘	鉄	-	長さ	(8.4)	-	-	厚さ	0.6	17.4	SK085		
第96図36	釘	鉄	-	長さ	(12.7)	-	-	厚さ	0.8	27.6	SK085		
第96図37	不明	鉄	-	長さ	(6.1)	-	-	厚さ	0.9	23.3	SK085	L字状	
第96図38	不明	鉄	-	長さ	-	-	-	厚さ	-	6.0	SK085	板状鉄製品	

第18次東調査区遺物観察表 (金属製品②)

挿図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.
				長さ			厚さ						
第97図1	釘	鉄	-	長さ	(3.0)	-	-	厚さ	0.4	2.3	SK097		
第97図2	釘	鉄	-	長さ	6.0	-	-	厚さ	0.8	10.5	SK137		
第99図2	火箸	鉄	-	長さ	(4.6)	-	-	厚さ	0.4	5.3	SK203		
第99図3	釘	鉄	-	長さ	3.1	-	-	厚さ	0.3	1.1	SK203		
第99図4	釘	鉄	-	長さ	(4.3)	-	-	厚さ	0.3	2.8	SK292		
第99図5	釘?	鉄	-	長さ	(5.7)	-	-	厚さ	0.3	2.1	SK292	針金?	
第109図2	釘	鉄	-	長さ	(3.5)	-	-	厚さ	0.4	2.8	SK300		
第112図5	釘	鉄	-	長さ	(5.0)	-	-	厚さ	0.3	3.6	SX244		
第123図15	馬具	鉄	轡	長さ	(6.6)	幅	(5.7)	厚さ	0.7	80.6	SE075		
第123図16	釘	鉄	-	長さ	(4.1)	-	-	厚さ	0.5	4.8	SE075		
第123図17	釘	鉄	-	長さ	(7.0)	-	-	厚さ	0.4	11.2	SE075		
第123図18	釘	鉄	-	長さ	(6.9)	-	-	厚さ	0.9	14.1	SE075		
第123図19	釘	鉄	-	長さ	(6.0)	-	-	厚さ	0.4	9.8	SE075		
第123図20	釘	鉄	-	長さ	(5.5)	-	-	厚さ	0.5	6.8	SE075		
第123図21	釘	鉄	-	長さ	(4.6)	-	-	厚さ	0.8	10.9	SE075		
第123図22	釘	鉄	-	長さ	4.0	-	-	厚さ	0.4	4.7	SE075		
第123図23	釘	鉄	-	長さ	(5.0)	-	-	厚さ	0.4	2.7	SE075		
第123図24	釘	鉄	-	長さ	(3.5)	-	-	厚さ	0.4	2.8	SE075		
第132図52	鍵	銅	-	長さ	(3.8)	-	-	厚さ	0.5	7.9	SE079		
第132図53	釘	鉄	-	長さ	7.2	-	-	厚さ	0.8	17.1	SE079		
第132図54	釘	鉄	-	長さ	7.2	-	-	厚さ	0.4	11.5	SE079		
第132図55	釘	鉄	-	長さ	6.0	-	-	厚さ	0.6	7.9	SE079		
第132図56	釘	鉄	-	長さ	(4.7)	-	-	厚さ	0.6	9.4	SE079		
第132図57	釘	鉄	-	長さ	(4.3)	-	-	厚さ	0.6	7.1	SE079		
第132図58	釘	鉄	-	長さ	4.0	-	-	厚さ	0.3	4.1	SE079	刻印有り	
第132図59	釘	鉄	-	長さ	3.7	-	-	厚さ	0.3	3.1	SE079		
第132図60	釘	鉄	-	長さ	3.5	-	-	厚さ	0.4	3.3	SE079		
第132図61	不明	鉄	-	長さ	(3.3)	-	-	厚さ	0.3	2.0	SE079	針金?	
第137図22	釘	鉄	-	長さ	(6.7)	-	-	厚さ	0.4	11.8	SE261		
第137図23	釘	鉄	-	長さ	(3.5)	-	-	厚さ	0.4	10.7	SE261		
第137図24	釘	鉄	-	長さ	4.5	-	-	厚さ	0.4	5.7	SE261		
第137図25	釘	鉄	-	長さ	3.2	-	-	厚さ	0.3	2.7	SE261		
第137図26	釘	鉄	-	長さ	2.6	-	-	厚さ	0.3	1.8	SE261		
第144図88	刀子	鉄	-	長さ	4.1	-	-	厚さ	0.3	7.8	SX054		
第144図89	刀子	鉄	-	長さ	5.4	-	-	厚さ	0.3	9.3	SX054		
第144図90	釘	鉄	-	長さ	(2.5)	-	-	厚さ	0.4	1.8	SX054		
第144図91	釘	鉄	-	長さ	(2.5)	-	-	厚さ	0.3	2.0	SX054		
第144図92	釘	鉄	-	長さ	3.5	-	-	厚さ	0.2	2.3	SX054		
第144図93	釘	鉄	-	長さ	(3.2)	-	-	厚さ	0.3	2.9	SX054		
第144図94	釘	鉄	-	長さ	(3.2)	-	-	厚さ	0.3	3.3	SX054		
第144図95	釘	鉄	-	長さ	(3.8)	-	-	厚さ	0.3	5.5	SX054		
第144図96	釘	鉄	-	長さ	(3.7)	-	-	厚さ	0.4	5.3	SX054		
第144図97	釘	鉄	-	長さ	(4.0)	-	-	厚さ	0.4	4.7	SX054		
第144図98	釘	鉄	-	長さ	(4.4)	-	-	厚さ	0.4	5.4	SX054		
第144図99	釘	鉄	-	長さ	(4.5)	-	-	厚さ	0.4	4.6	SX054		
第144図100	釘	鉄	-	長さ	5.0	-	-	厚さ	0.3	4.9	SX054		
第144図101	釘	鉄	-	長さ	4.5	-	-	厚さ	0.3	4.3	SX054		
第144図102	釘	鉄	-	長さ	(4.5)	-	-	厚さ	0.4	11.2	SX054		
第144図103	釘	鉄	-	長さ	(5.1)	-	-	厚さ	0.4	8.0	SX054		
第144図104	釘	鉄	-	長さ	4.2	-	-	厚さ	0.5	4.8	SX054		
第144図105	釘	鉄	-	長さ	6.9	-	-	厚さ	0.7	8.5	SX054		
第145図1	釘	鉄	-	長さ	5.7	-	-	厚さ	0.6	4.6	SX062		
第151図5	釘	鉄	-	長さ	(3.6)	-	-	厚さ	0.4	5.0	SX256A		
第152図12	釘	鉄	-	長さ	(1.5)	-	-	厚さ	0.3	1.9	SX308		
第156図16	釘	鉄	-	長さ	(4.3)	-	-	厚さ	0.4	5.1	SX301		
第156図17	釘	鉄	-	長さ	8.0	-	-	厚さ		16.0	SX301		
第159図20	釘	鉄	-	長さ	(3.5)	-	-	厚さ	0.3	1.9	SP035		
第159図21	釘	鉄	-	長さ	(3.9)	-	-	厚さ	0.6	5.3	SP036		
第159図22	釘	鉄	-	長さ	(3.5)	-	-	厚さ	0.6	5.1	SP118		
第159図23	釘	鉄	-	長さ	(3.5)	-	-	厚さ	0.3	2.1	SP123		
第159図24	釘	鉄	-	長さ	(5.0)	-	-	厚さ	0.4	7.7	SP169		
第159図25	釘	鉄	-	長さ	(6.7)	-	-	厚さ	0.6	11.3	SP172		
第159図26	釘	鉄	-	長さ	6.6	-	-	厚さ	0.8	8.3	SP173		
第159図27	釘	鉄	-	長さ	(4.0)	-	-	厚さ	0.3	6.7	SP208		
第159図28	釘	鉄	-	長さ	4.5	-	-	厚さ	0.4	5.5	SP212		
第159図29	釘	鉄	-	長さ	(2.0)	-	-	厚さ	0.3	1.9	SP221		
第159図30	釘	鉄	-	長さ	(3.9)	-	-	厚さ	0.5	1.7	SP234		
第159図31	釘	鉄	-	長さ	5.0	-	-	厚さ	0.4	5.8	SP234		
第159図32	不明	鉄	-	長さ	(5.5)	-	-	厚さ	0.2	5.1	SP239		
第159図33	釘	鉄	-	長さ	(2.6)	-	-	厚さ	0.3	1.7	SP263		
第159図34	釘	鉄	-	長さ	4.0	-	-	厚さ	0.3	2.6	SP285		
第159図35	釘	鉄	-	長さ	3.3	-	-	厚さ	0.3	3.5	SP296		
第184図301	分銅	銅	縦	6.7	横	2.0	厚さ	1.0	60.1	包含層	3連分銅未製品	16	
第184図302	分銅	銅	縦	1.0	横	1.0	厚さ	0.2	0.2	L16		16	
第184図303	分銅	銅	縦	1.4	横	1.4	厚さ	0.2	1.6	L17		16	



第18次東調査区遺物観察表 (金属製品③)

挿図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)					重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.	
				縦	横	厚さ	幅	頭部径					
第184図304	分銅	銅		縦	1.8	横	1.7	厚さ	0.4	5.9	K15		16
第184図305A	分銅	銅		縦	1.6	横	1.6	厚さ	0.8	10.4	L15		16
第184図305B	分銅	銅		縦	2.1	横	2.1	厚さ	1.0	16.5	包含層	分銅未製品	
第184図306	鏡	銅		縦	5.4	横	5.5	厚さ	0.5	33.3	包含層		16
第184図307	鉄砲玉	銅		径	1.6	-	-	厚さ	-	16.9	包含層		
第184図308	鉄砲玉	銅		径	1.4	-	-	厚さ	-	11.8	包含層		
第184図309	鉄砲玉	銅		径	1.3	-	-	厚さ	-	9.9	包含層		
第184図310	鉄砲玉	銅		径	1.5	-	-	厚さ	-	14.8	包含層		
第184図311	鉄砲玉	銅		径	1.4	-	-	厚さ	-	14.9	包含層		
第184図312	鉄砲玉	銅		径	1.3	-	-	厚さ	-	10.8	包含層		
第184図313	鉄砲玉	銅		径	1.3	-	-	厚さ	-	10.3	包含層		
第184図314	不明	銅		径	4.8	-	-	厚さ	0.3	10.9	整地層	リング状	17
第184図315	不明	銅		-	-	-	-	-	-	15.1	整地層	板材	17
第184図316	?	銅		径	1.8	-	-	厚さ	0.4	2.1	整地層	リング状	17
第184図317	?	銅		径	1.7	-	-	厚さ	0.2	0.9	整地層	リング状	17
第184図318	針	銅		長さ	3.1	-	-	-	-	0.8	整地層		17
第184図319	ビス?	銅		長さ	1.7	頭部径	0.8	-	-	0.6	整地層		17
第184図320	ビス?	銅		長さ	1.3	頭部径	0.7	-	-	1.3	整地層		17
第184図321	ビス?	銅		長さ	1.9	頭部径	0.9	-	-	1.1	整地層		17
第185図323	鍵	銅		長さ	(3.0)	-	-	厚さ	0.5	2.3	整地層		
第185図324	鍵	銅		長さ	(3.0)	-	-	厚さ	0.4	2.8	整地層		
第185図325	鍵	銅		長さ	(4.5)	-	-	厚さ	0.4	1.6	整地層		
第185図326	鍵	銅		長さ	(4.5)	-	-	厚さ	0.4	4.0	整地層		
第185図327	鍵	銅		長さ	(3.0)	-	-	厚さ	0.7	6.4	整地層		
第185図328	鍵	銅		長さ	(2.6)	-	-	厚さ	0.3	2.2	整地層		
第185図329	鍵	銅		長さ	(5.0)	-	-	厚さ	0.4	5.4	整地層		
第185図330	鍵	銅		長さ	(7.0)	-	-	厚さ	0.4	9.4	整地層		
第185図331	鍵	銅		長さ	(3.5)	幅	0.4	厚さ	0.2	1.7	整地層		
第185図332	鍵	銅		長さ	(4.5)	-	-	厚さ	2.5	3.7	整地層		
第185図333	鍵	銅		長さ	(5.0)	幅	1.7	厚さ	0.5	7.2	整地層		
第185図334	鍵	銅		長さ	(7.0)	-	-	厚さ	0.7	11.4	整地層		
第185図335	鐔	銅		縦	4.1	横	2.5	-	-	7.8	整地層		
第185図336	不明	銅		縦	1.8	横	1.6	厚さ	0.3	1.4	整地層	ボタン状製品	17
第185図337	碗	銅		口径	9.5	-	-	-	-	5.7	整地層		17
第186図341	碗	鉄		口径	9.0	器高	4.0	-	-	180.4	整地層		17
第186図342	不明	鉄		長さ	5.3	-	-	厚さ	0.4	22.0	整地層	板状	
第186図343	不明	鉄		長さ	-	-	-	-	-	-	整地層		
第186図343	不明	鉄		長さ	(6.4)	-	-	厚さ	0.2	13.1	整地層	板状	
第186図344	筭?	鉄		長さ	(9.5)	-	-	厚さ	0.2	10.6	整地層		
第186図345	筭?	鉄		長さ	(6.6)	-	-	厚さ	0.2	7.2	整地層		
第186図346	筭	鉄		長さ	13.4	幅	1.3	厚さ	0.1	7.4	整地層		
第186図347	刀子	鉄		長さ	(6.7)	幅	0.3	厚さ	0.3	9.6	整地層		
第186図348	刀子	鉄		長さ	(14.3)	幅	0.3	-	-	24.1	整地層		
第186図349	火箸	鉄		長さ	(8.3)	幅	0.7	厚さ	-	9.0	整地層		
第186図350	火箸	鉄		長さ	32.0	幅	0.8	厚さ	0.6	54.3	整地層		
第186図351	火箸	鉄		長さ	36.1	幅	1.3	厚さ	0.4	53.0	整地層		
第186図352	火箸	鉄		長さ	(36.2)	幅	1.7	厚さ	0.5	60.2	整地層		
第187図353	釘	鉄		長さ	(3.4)	-	-	厚さ	0.4	1.9	整地層		
第187図354	釘	鉄		長さ	3.5	-	-	厚さ	0.3	1.3	整地層		
第187図355	釘	鉄		長さ	3.4	-	-	厚さ	0.3	1.3	整地層		
第187図356	釘	鉄		長さ	(3.0)	-	-	厚さ	0.2	2.4	整地層		
第187図357	釘	鉄		長さ	(4.0)	-	-	厚さ	0.3	3.2	整地層		
第187図358	釘	鉄		長さ	4.2	-	-	厚さ	0.2	2.2	整地層		
第187図359	釘	鉄		長さ	4.8	-	-	厚さ	0.4	2.4	整地層		
第187図360	釘	鉄		長さ	5.7	-	-	厚さ	0.4	4.7	整地層		
第187図361	釘	鉄		長さ	(5.0)	-	-	厚さ	0.3	4.4	整地層		
第187図362	釘	鉄		長さ	(5.6)	-	-	厚さ	0.5	7.8	整地層		
第187図363	釘	鉄		長さ	6.5	-	-	厚さ	0.3	3.9	整地層		
第187図364	釘	鉄		長さ	6.8	-	-	厚さ	0.5	5.9	整地層		
第187図365	釘	鉄		長さ	6.1	-	-	厚さ	0.4	9.2	整地層		
第187図366	釘	鉄		長さ	7.7	-	-	厚さ	0.5	9.6	整地層		
第187図367	釘	鉄		長さ	9.0	-	-	厚さ	0.4	18.4	整地層		
第187図368	釘	鉄		長さ	(6.5)	-	-	厚さ	0.4	8.4	整地層		
第187図369	釘	鉄		長さ	(7.4)	-	-	厚さ	0.6	15.4	整地層		
第187図370	釘	鉄		長さ	(3.7)	-	-	厚さ	0.6	8.4	整地層		
第187図371	釘	鉄		長さ	6.1	-	-	厚さ	0.4	4.1	整地層		
第187図372	釘	鉄		長さ	(5.7)	-	-	厚さ	0.6	12.6	整地層		
第187図373	釘	鉄		長さ	6.0	-	-	厚さ	0.4	10.3	整地層		
第187図374	釘	鉄		長さ	(6.0)	-	-	厚さ	0.4	9.7	整地層		
第187図375	釘	鉄		長さ	5.5	-	-	厚さ	0.5	12.8	整地層		

遺物観察表22 (第18次東調査区)

第18次東調査区遺物観察表 (瓦)

挿図No.	品 種	部 位	寸法 (単位cm)				遺構名	備 考	図版No.
			長さ	幅	厚さ	器高			
第131図49	軒平瓦		長さ 4.0	-	幅	厚さ 2.3	SE079		
第131図50	軒平瓦		長さ 4.3	-	幅	厚さ 2.0	SE079		
第131図51	軒平瓦		長さ (4.5)	-	幅	厚さ (1.7)	SE079		
第181図288	軒丸瓦		長さ (4.9)	-	幅	厚さ (2.4)	整地層		
第181図289	軒平瓦		長さ 4.3	-	幅	厚さ (1.7)	整地層		
第181図290	軒平瓦		長さ (2.8)	-	幅	厚さ 2.0	整地層		
第181図291	軒平瓦		長さ 4.3	-	幅	厚さ (1.5)	整地層		
第181図292	軒平瓦		長さ (3.0)	-	幅	厚さ (2.8)	整地層		
第181図293	鬼瓦		長さ (9.8)	-	幅	厚さ (4.5)	整地層		
第181図294	鬼瓦		長さ -	-	幅	厚さ -	整地層		

第18次東調査区遺物観察表 (ガラス製品)

挿図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.
				口径	底径	器高	孔径				
第185図338	碗	ガラス		口径 (9.6)	底径 -	器高 -	2.2	整地層		17	
第185図339	碗	ガラス		口径 -	底径 -	器高 -	0.4	整地層			
第185図340	玉	ガラス		長さ 1.1	幅 1.1	孔径 0.4	2.7	整地層		17	

第18次東調査区遺物観察表 (銭貨①)

挿図No.	銭貨名	初鋳造年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	書 体	遺構名	備 考	図版No.
第126図1	至道元寶	995	北宋	2.2	2.5	真書	SE079		
第126図2	至道元寶	995	北宋	4.1	2.4	草書	SE079		
第126図3	不明	-	-	1.6	2.1	-	SE079	無文銭	
第160図36	不明	-	-	1.1	2.4	篆書	柱穴	「通」「寶」判読	
第160図37	紹聖元寶	1094	北宋	2.7	2.3	行書	柱穴		
第189図381	開元通寶	621	唐	2.1	2.4	真書	整地層		
第189図382	開元通寶	621	唐	1.9	2.2	真書	整地層		
第189図383	開元通寶	621	唐	1.9	2.5	真書	整地層		
第189図384	景德元寶	1004	北宋	1.5	2.5	真書	整地層	「元」欠損	
第189図385	景德元寶	1004	北宋	2.3	2.4	真書	整地層	「景」「寶」判読	
第189図386	祥符元寶	1008	北宋	1.8	2.4	真書	整地層	「寶」欠損	
第189図387	祥符通寶	1008	北宋	1.1	2.5	真書	整地層		
第189図388	祥符通寶	1008	北宋	1.8	2.5	真書	整地層		
第189図389	天聖元寶	1023	北宋	1.2	2.4	真書	整地層		
第189図390	天聖元寶	1023	北宋	2.5	2.4	真書	整地層		
第189図391	明道元寶	1032	北宋	2.2	2.5	真書	整地層		
第189図392	皇宋通寶	1038	北宋	2.3	2.3	真書	整地層		
第189図393	皇宋通寶	1038	北宋	2.1	2.4	真書	整地層		
第189図394	皇宋通寶	1038	北宋	2.0	2.5	篆書	整地層		
第190図395	嘉祐通寶	1056	北宋	1.5	2.3	篆書	整地層		
第190図396	熙寧元寶	1068	北宋	2.1	2.4	真書	整地層		
第190図397	元豐通寶	1078	北宋	1.3	2.4	行書	整地層	「元」「寶」欠損	
第190図398	元豐通寶	1078	北宋	1.8	2.2	行書	整地層		
第190図399	元豐通寶	1078	北宋	2.0	2.4	行書	整地層		
第190図400	元豐通寶	1078	北宋	2.1	2.3	行書	整地層		
第190図401	元豐通寶	1078	北宋	2.4	2.4	行書	整地層		
第190図402	元豐通寶	1078	北宋	2.4	2.4	行書	整地層		
第190図403	元豐通寶	1078	北宋	2.0	2.5	篆書	整地層		
第190図404	元豐通寶	1078	北宋	2.0	2.4	篆書	整地層		
第190図405	元豐通寶	1078	北宋	2.1	2.4	篆書	整地層		
第190図406	元祐通寶	1086	北宋	2.2	2.3	篆書	整地層		
第190図407	紹聖元寶	1094	北宋	2.3	2.4	篆書	整地層		
第190図408	元符通寶	1098	北宋	1.3	2.4	篆書	整地層	「元」字部が欠損	
第191図409	元符通寶	1098	北宋	3.0	2.4	篆書	整地層		
第191図410	大欽通寶	1107	北宋	2.5	2.4	真書	整地層	星形孔 銭裏面に金属付着	
第191図411	洪武通寶	1368	明	1.4	2.2	真書	整地層	マ頭通 重点通?	
第191図412	洪武通寶	1368	明	1.7	2.2	真書	整地層	コ頭通 単点通	
第191図413	洪武通寶	1368	明	2.1	2.2	真書	整地層		
第191図414	洪武通寶	1368	明	3.0	2.4	真書	整地層		
第191図415	洪武通寶	1368	明	3.2	2.2	真書	整地層	コ頭通 単点通	
第191図416	洪武通寶	1368	明	2.7	2.3	真書	整地層	単点通	
第191図417	永樂通寶	1408	明	2.4	2.5	真書	整地層		
第191図418	永樂通寶	1408	明	3.1	2.5	真書	整地層		
第191図419	寛永通寶	1638	日本	1.7	2.4	-	整地層		
第191図420	寛永通寶	1638	日本	2.5	2.3	真書	包含層		
第191図421	不明	-	-	0.9	2.3	篆書	包含層	「元」「寶」判読	

第18次東調査区遺物観察表 (銭貨②)

挿図No	銭貨名	初鋳造年	国・王朝名	重量(g)	直径(mm)	書体	遺構名	備考	図版No
第191図422	不明	-	-	0.9	2.4	篆書	整地層	「元」「寶」判読	
第192図423	不明	-	-	1.0	2.4	-	整地層		
第192図424	不明	-	-	1.2	2.5	-	整地層		
第192図425	不明	-	-	0.8	2.2	-	整地層		
第192図426	不明	-	-	1.6	2.3	-	整地層		
第192図427	不明	-	-	1.6	2.4	-	整地層		
第192図428	不明	-	-	1.9	2.2	-	整地層		
第192図429	不明	-	-	3.4	2.2	-	整地層	銭全体が白い	
第192図430	不明	-	-	2.4	2.5	-	整地層		
第192図431	治平元寶	1064	北宋	5.7	2.5	篆書	整地層	2枚付着	
第192図432	元豊通寶	1078	北宋	6.2	2.4	行書	整地層	2枚付着	
第192図433	元祐通寶	1086	北宋	12.7	2.4	行書	整地層	5枚付着	
第192図434	聖宋元寶	1101	北宋	6.0	2.4	行書	整地層	2枚付着	
第192図435	不明	-	-	5.6	2.5	-	整地層	3枚付着	
第192図436	不明	-	-	12.7	2.5	-	整地層	4枚付着	

第28次調査区遺物觀察表 (土器・陶磁器類①)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第200図1	華南三彩	鳥形水注	中国	-	-	-	SF012		30
第200図2	華南三彩	小皿	中国	(6.4)	-	-	SF012	青釉	30
第200図3	陶器	壺	中国	-	-	-	SF012		30
第200図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.2)	-	-	SF012		30
第200図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	3.2	-	SF012		30
第200図6	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(4.0)	-	SF012		30
第200図7	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(12.0)	-	-	SF012		30
第200図8	焼締陶器	掃鉢	備前	-	-	-	SF012		
第200図9	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.4	SF012		30
第200図10	土師質土器	皿	在地	8.0	4.8	1.8	SF012		
第200図11	瓦質土器	鉢	在地	(31.4)	(19.8)	11.4	SF012		30
第202図1	瓦質土器	甗	不明	-	(11.0)	-	SD049		
第202図2	瓦質土器	甗	龜山・勝間田?	-	-	-	SD049		30
第202図3	瓦質土器	甗	不明	-	-	-	SD049		30
第202図4	須恵質土器	捏鉢	東播磨	-	-	-	SD049		30
第202図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(7.0)	-	SD049	混入	
第205図1	土師質土器	坏	在地	(12.4)	(9.4)	3.6	SD040		
第205図2	土師質土器	不明	不明	-	-	-	SD040		30
第205図3	焼締陶器	甗	常滑	-	-	-	SD040		30
第205図4	瓦質土器	壺	不明	(28.0)	-	-	SD040		30
第206図	土師質土器	坏	在地	-	(6.4)	-	SD052		
第208図	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	-	SK002		
第210図1	華南三彩	小皿	中国	(6.0)	-	-	SK007	青釉	31
第210図2	京都系土師器	皿	在地	9.9	-	1.9	SK007		
第212図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK008 a		31
第212図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK008 a		31
第212図3	焼締陶器	掃鉢	備前	(28.6)	-	-	SK008 a		
第212図4	京都系土師器	皿	在地	9.6	-	2.6	SK008 a		
第212図5	京都系土師器	皿	在地	9.4	-	2.0	SK008 a		
第212図6	京都系土師器	皿	在地	10.2	-	2.6	SK008 a		
第212図7	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.2	SK008 a		
第212図8	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.4	SK008 a		
第212図9	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	3.8	SK008 a		
第212図10	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	-	SK008 a		
第212図12	瓦質土器	火鉢	在地	-	-	-	SK008 a		31
第212図14	瓦質土器	火鉢	在地	-	(35.8)	-	SK008 a		
第212図15	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.6	SK008 b		
第212図16	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.2	SK008 b		
第212図17	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.6	SK008 b		
第212図18	京都系土師器	坏	在地	(11.8)	-	3.2	SK008 b		
第212図19	焼締陶器	掃鉢	備前	-	-	-	SK008 b		
第212図20	白磁	瓶	中国	-	-	-	SK008 b		31
第213図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK009		31
第213図2	白磁	瓶	中国	-	-	-	SK009		31
第213図3	京都系土師器	皿	在地	(9.6)	-	-	SK009		
第213図4	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	2.0	SK009		
第213図5	京都系土師器	坏	在地	(11.2)	-	-	SK009		
第215図1	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.0	SK010		
第217図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK011		
第217図2	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.8	SK011		
第217図3	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.4	SK011		
第220図1	京都系土師器	坏	在地	10.8	-	3.2	SK022		
第220図2	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.2	SK022		
第220図3	瓦質土器	火鉢	在地	-	(34.8)	-	SK022		
第223図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK018		
第223図2	京都系土師器	皿	在地	(9.4)	-	2.0	SK018		
第223図3	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	-	SK018		
第223図4	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	-	SK018		
第223図5	陶器	壺	中国	-	(14.0)	-	SK018	黒釉	
第223図8	土師質土器	坏	在地	12.8	9.0	3.0	SK018	混入	
第224図	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	2.2	SK019		
第225図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.2)	(8.2)	2.5	SK020		31
第225図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(8.0)	-	SK020		31
第225図3	瓦質土器	鉢	在地	(30.6)	-	-	SK020		
第225図4	京都系土師器	皿	在地	8.6	-	2.4	SK020		
第225図5	京都系土師器	皿	在地	9.0	-	2.1	SK020		
第225図6	京都系土師器	皿	在地	(9.0)	-	-	SK020		
第225図7	京都系土師器	坏	在地	(10.8)	-	-	SK020		
第225図8	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	-	SK020		
第227図1	青花	碗	中国(漳州窯)	-	3.6	-	SK021		
第227図2	焼締陶器	掃鉢	備前	-	-	-	SK021		
第227図3	焼締陶器	掃鉢	備前	-	-	-	SK021		
第227図4	焼締陶器	掃鉢	備前	-	-	-	SK021		31
第227図5	瓦質土器	碗	在地	-	5.6	-	SK021		31

第28次調査区遺物觀察表 (土器・陶磁器類②)

種 図 No.	器 種		生 産 地	法 量 (単位cm)			遺構名	備 考	図版No.
				口径	底径	器高			
第230図1	焼締陶器	壺	備前	-	(10.0)	-	SK025		32
第230図2	焼締陶器	搦鉢	備前	(6.4)	(35.4)	-	SK025		32
第230図3	京都系土師器	皿	在地	-	8.6	1.8	SK025		
第230図4	京都系土師器	皿	在地	(9.2)	8.5	2.8	SK025		
第230図5	京都系土師器	皿	在地	-	9.0	2.1	SK025		
第230図6	京都系土師器	皿	在地	-	12.4	2.8	SK025		
第230図7	土師質土器	燭台	在地	(12.0)	7.8	6.7	SK025		32
第232図1	焼締陶器	壺	備前	-	-	-	SK026		32
第234図1	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	8.4	1.8	SK028		
第234図2	焼締陶器	搦鉢	備前	8.0	-	-	SK028		32
第234図3	焼締陶器	搦鉢	備前	(31.4)	-	-	SK028		32
第234図4	焼締陶器	鉢	備前	-	(12.0)	9.6	SK028		32
第234図5	陶器	壺	中国	-	-	-	SK028	褐釉	
第234図7	瓦質土器	不明	在地	-	-	-	SK028		
第236図1	京都系土師器	皿	在地	-	8.0	1.9	SK029		
第236図2	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SK029		
第236図3	焼締陶器	搦鉢	備前	(12.4)	-	-	SK029		
第237図1	京都系土師器	皿	在地	-	11.7	2.2	SK030		
第237図2	瓦質土器	火鉢	在地	-	(37.0)	-	SK030		
第240図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(28.0)	-	-	SK031 b		
第240図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK031 b		32
第240図3	青磁	鉢	中国	(10.6)	-	-	SK031 b		32
第240図4	黒色土器	塊	在地	(6.0)	-	-	SK031 b	9世紀 混入	
第240図5	土師器	坏	在地	9.9	13.0	3.8	SK031 b	9世紀 混入	
第243図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK033		33
第243図2	陶器	不明	中国	-	-	-	SK033		33
第243図3	陶器	合子	中国?	(28.6)	-	-	SK033		33
第245図1	京都系土師器	皿	在地	9.6	(12.2)	2.0	SK035		
第245図2	土師質土器	坏	在地	9.4	(12.2)	2.2	SK035	混入	
第247図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.2	-	-	SK038		33
第247図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	11.0	-	-	SK038		33
第247図3	白磁	皿	中国	11.0	(10.2)	2.3	SK038		33
第247図4	京都系土師器	皿	在地	12.0	(8.6)	2.0	SK038		
第247図5	京都系土師器	坏	在地	(12.0)	(10.6)	(3.4)	SK038		
第247図6	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(31.2)	-	SK038		
第247図7	瓦質土器	火鉢	在地	-	(36.6)	8.0	SK038		33
第247図8	瓦質土器	火鉢	在地	(10.4)	-	-	SK038		
第250図1	青花	小杯	中国(景德鎮窯)	12.2	-	-	SK043		33
第250図2	焼締陶器	搦鉢	備前	(12.0)	-	-	SK043		33
第252図	青花	碗	中国(漳州窯)	(11.8)	-	-	SK044		33
第254図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK045		33
第254図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK045		33
第254図3	白磁	皿	中国	-	(8.2)	1.9	SK045		33
第254図4	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SK045		
第254図5	土師質土器	皿	不明	(9.6)	(15.0)	-	SK045	白色系	
第254図6	土師質土器	土鍋	在地?	10.0	(20.2)	-	SK045		33
第255図1	焼締陶器	搦鉢	備前	(11.2)	-	-	SK046		
第255図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	8.8	8.0	1.4	SK046		
第257図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK047		
第257図3	土師質土器	坏	在地	(10.4)	(10.8)	2.8	SK047		
第257図4	土師質土器	坏	在地	12.0	11.2	3.3	SK047		
第259図	焼締陶器	甕	備前	10.8	-	-	SK048		
第261図1	土師質土器	坏	在地	12.0	(9.6)	2.2	SK050		
第261図2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK050		33
第263図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	(12.2)	-	SK051		34
第263図2	青磁	碗	中国(同安窯)	(9.4)	-	-	SK051		34
第263図3	白磁	碗	中国	(11.8)	-	-	SK051		34
第263図4	白磁	皿	中国	(12.0)	-	-	SK051		
第263図5	土師質土器	坏	在地	-	(12.7)	2.6	SK051		
第263図6	土師質土器	坏	在地	12.8	-	-	SK051		
第263図7	土師質土器	坏	在地	12.8	-	-	SK051		
第263図8	須恵質土器	鉢	東播磨?	(14.2)	-	-	SK051		34
第263図9	瓦質土器	鉢	在地?	-	-	-	SK051		34
第263図10	瓦質土器	鉢	在地?	(30.6)	-	-	SK051		34
第265図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	8.6	-	-	SX005		
第265図2	白磁	皿	中国	9.0	-	-	SX005		34
第265図3	陶器	皿	美濃(志野)	(9.0)	-	-	SX005		34
第265図4	焼締陶器	搦鉢	備前	(10.8)	-	-	SX005		
第265図5	陶器	壺	中国	(11.8)	-	-	SX005	褐釉	34
第265図6	京都系土師器	皿	在地	-	(9.2)	-	SX005		
第265図7	土師質土器	火鉢or風炉	在地?	-	-	-	SX005		
第267図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006		
第267図2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(15.2)	-	SX006		
第267図3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006		
第267図4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006		



第28次調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類③)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第267図5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006		
第267図6	白磁	皿	中国	(14.2)	(8.2)	3.2	SX006		
第267図7	焼締陶器	大甕	備前	-	-	-	SX006		
第267図8	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SX006		
第267図9	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(10.8)	-	SX006		
第267図10	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(10.0)	-	SX006		
第267図11	焼締陶器	大甕	備前	-	(44.6)	-	SX006		
第267図12	京都系土師器	皿	在地	8.0	-	2.1	SX006		
第267図13	京都系土師器	皿	在地	9.0	-	2.4	SX006		
第267図14	京都系土師器	皿	在地	(12.5)	-	-	SX006		
第267図15	土師質土器	甕?	在地	-	-	-	SX006		
第267図16	瓦質土器	火鉢	在地	-	(36.4)	-	SX006		
第268図17	土師質土器	火鉢	在地	-	(37.8)	-	SX006		
第271図1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	(5.2)	-	SX013		
第271図2	青花	盤(大皿)	中国(景德鎮窯)	-	(16.2)	-	SX013		35
第271図3	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SX013	SK011と接合	
第271図4	焼締陶器	壺	備前	15.2	-	-	SX013		35
第271図5	焼締陶器	鉢	備前	(11.4)	-	-	SX013		
第271図6	焼締陶器	瓶	備前	-	(7.8)	-	SX013		
第271図7	京都系土師器	皿	在地	7.8	-	1.6	SX013		
第271図8	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	-	2.2	SX013		
第271図10	瓦質土器	不明	在地?	-	-	-	SX013		
第271図11	瓦質土器	火鉢	在地	(40.8)	-	-	SX013		
第272図12	焼締陶器	水屋甕	備前	(14.8)	-	-	SX013	遺構間接合	35
第272図13	焼締陶器	水屋甕	備前	-	(15.8)	-	SX013	遺構間接合	35
第272図14	焼締陶器	壺	タイ(メナムノイ窯)	-	-	-	SX013	遺構間接合	35
第277図1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.8	-	SX037		35
第277図2	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.4	SX037		
第277図3	瓦質土器	不明	在地?	-	-	-	SX037		35
第277図4	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(14.8)	-	SX037		35
第277図5	焼締陶器	搦鉢	備前	(38.6)	-	-	SX037		
第277図6	焼締陶器	瓶	備前	-	-	-	SX037		35
第281図	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(11.2)	-	SX003		
第283図	京都系土師器	皿	在地	(8.6)	-	1.8	SX023		
第285図	土師質土器	小皿	在地	8.4	6.4	1.6	SB060	SP1002から出土	
第289図1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.2)	(6.8)	2.1	SP1102		36
第289図2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.4)	(7.0)	2.8	SP1107		36
第289図3	京都系土師器	皿	在地	(8.4)	-	-	SP1109		
第289図4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SP1135		
第289図5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(8.9)	-	-	SP1110		36
第289図6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SP1110		
第289図7	白磁	皿	中国	-	-	-	SP1117		
第289図8	京都系土師器	皿	在地	9.1	-	2.1	SP1121		
第289図9	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SP1114		
第289図10	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.4)	-	-	SP1130		
第289図11	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	-	-	SP1130		
第289図12	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1119		
第289図13	白磁	瓶	中国	-	-	-	SP1120		
第289図14	白磁	瓶	中国	-	-	-	SP1120		
第289図15	土師質土器	火鉢or風炉	在地?	-	-	-	SP1120		
第289図16	土師質土器	碗	不明	(14.8)	(8.1)	5.6	SP1137	底部外面に糸切り痕	36
第289図17	京都系土師器	皿	在地	(9.6)	-	-	SP1141		
第289図18	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP1142		
第289図19	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP1144		
第289図20	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP1146		
第289図21	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.8)	-	-	SP1150		
第289図22	土師質土器	鉢	在地	-	-	-	SP1148		
第289図23	焼締陶器	大甕	備前	-	-	-	SP1147	外面にへら描き「入」字	
第289図24	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.0)	(7.9)	3.6	SP1159		
第289図25	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1162		
第289図26	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(8.0)	-	-	SP1209		
第289図27	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	3.4	SP1209		
第290図28	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1210		36
第290図29	京都系土師器	皿	在地	9.4	-	1.9	SP1214		
第290図30	土師質土器	坏	在地	-	(8.8)	-	SP1221		
第290図31	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1233		
第290図32	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(9.2)	-	-	SP1413		
第290図33	京都系土師器	皿	在地	(11.0)	-	-	SP1413		
第290図34	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	-	SP1415		
第290図35	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1415		
第290図36	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(7.2)	-	SP1425		36
第290図37	瓦質土器	火鉢	在地	(39.2)	-	-	SP1413		
第291図41	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(6.2)	-	SP1432		36
第291図42	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1413		
第291図43	瓦質土器	鉢	不明	-	-	-	SP1404		

第28次調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類④)

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
				口径	底径	器高			
第291図44	焼締陶器	播鉢	備前	-	(12.2)	-	SP1419		
第291図45	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	-	-	SP1442		
第291図46	青花	皿	中国(漳州窯)	(11.2)	-	-	SP1442		
第291図47	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.4	SP1505		
第291図48	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	3.0	SP1501		
第291図49	白磁	皿	中国	11.6	5.0	3.1	SP1501		
第291図50	焼締陶器	壺	備前	-	-	-	SP1501		
第291図51	青花	碗	中国(景德镇窯)	(13.0)	-	-	SP1502		
第291図52	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	(8.4)	-	SP1502		
第292図55	土師質土器	焼塩壺	不明	(5.8)	-	-	SP1514		36
第292図56	陶器	天目碗	中国	(10.8)	-	-	SP1517		
第292図57	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.2)	-	-	SP1517		
第292図58	焼締陶器	播鉢	備前	-	-	-	SP1527		
第292図59	瓦質土器	火鉢	在地	(38.0)	-	-	SP1526		
第294図1	青花	碗	中国(景德镇窯)	(11.0)	-	-	SE027		36
第294図2	青花	皿	中国(景德镇窯)	(17.6)	-	-	SE027		36
第294図3	白磁	皿	中国	-	(7.8)	-	SE027		36
第294図4	白磁	皿	中国	(11.4)	(6.8)	2.7	SE027		36
第294図5	焼締陶器	播鉢	備前	(32.2)	-	-	SE027		
第294図6	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	-	SE027		
第294図7	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.4	SE027		
第294図8	土師器	坏	在地	12.3	7.1	4.3	SE027	9世紀 混入	
第295図	京都系土師器	皿	在地	9.0	-	2.8	SX004		
第296図1	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	-	2.1	SX034		
第297図1	青花	碗	中国(景德镇窯)	(13.6)	-	-	包含層・整地層		37
第297図2	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	(3.2)	-	包含層・整地層		
第297図3	青花	皿	中国(景德镇窯)	(12.4)	(5.6)	3.2	包含層・整地層		37
第297図4	青花	皿	中国(景德镇窯)	(10.6)	(5.6)	2.6	包含層・整地層		37
第297図5	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	(6.0)	-	包含層・整地層		37
第297図6	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	-	-	包含層・整地層		37
第297図7	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	(7.0)	-	包含層・整地層		37
第297図8	青花	皿	中国(景德镇窯)	-	-	-	包含層・整地層		37
第297図9	青花	小杯	中国(景德镇窯)	-	2.8	-	包含層・整地層		
第297図10	青花	不明	中国(景德镇窯)	-	-	-	包含層・整地層		
第297図11	磁器	碗	中国(景德镇窯)	-	-	-	包含層・整地層	内外面に褐彩	
第297図12	青花	碗	中国(漳州窯)	(13.8)	4.2	4.4	包含層・整地層		
第297図13	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.6	-	包含層・整地層		
第297図14	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.0	-	包含層・整地層		
第297図15	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(5.4)	-	包含層・整地層		
第297図16	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(4.8)	-	包含層・整地層		
第297図17	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(3.8)	-	包含層・整地層		
第297図18	青花	碗	中国(漳州窯)	(8.2)	-	-	包含層・整地層		
第297図19	青花	皿	中国(漳州窯)	(10.4)	(5.0)	4.0	包含層・整地層		
第298図20	青磁	香炉	中国	(7.6)	-	-	包含層・整地層		
第298図21	青磁	皿	中国	-	(4.7)	-	包含層・整地層		
第298図22	青磁	瓶	中国	-	3.6	-	包含層・整地層		
第298図23	白磁	皿	中国	(12.0)	(6.0)	3.0	包含層・整地層		
第298図24	白磁	小杯	中国	-	(2.2)	-	包含層・整地層		
第298図25	白磁	小杯	中国	(5.6)	(2.4)	2.4	包含層・整地層		
第298図26	白磁	皿	中国	-	-	-	包含層・整地層		
第298図27	焼締陶器	壺	中国	(10.4)	-	-	包含層・整地層		
第298図28	陶器	壺	中国	(10.6)	-	-	包含層・整地層	黒褐釉	
第298図29	焼締陶器	壺	中国	-	-	-	包含層・整地層	30と同一個体	
第298図30	焼締陶器	壺	中国	-	-	-	包含層・整地層	29と同一個体	
第298図31	陶器	壺	中国	(6.0)	-	-	包含層・整地層	黒褐釉	
第298図32	陶器	茶入	中国	(2.2)	-	-	包含層・整地層		
第298図33	陶器	茶入?	中国	-	-	-	包含層・整地層		
第298図34	磁器	不明	中国	-	(4.6)	-	包含層・整地層	外面と外底部に緑彩	
第298図35	華南三彩	不明	中国	-	-	-	包含層・整地層		
第298図36	華南三彩	小皿	中国	-	-	-	包含層・整地層	青釉	
第298図37	華南三彩	小皿	中国	-	-	-	包含層・整地層	青釉	
第298図38	華南三彩	小皿	中国	-	(4.0)	-	包含層・整地層	青釉	
第298図39	白磁	碗	ベトナム	-	-	-	包含層・整地層		
第298図40	白磁	碗	ベトナム	-	(5.9)	-	包含層・整地層		
第298図41	陶器	碗	朝鮮王朝	(14.6)	(6.0)	4.0	包含層・整地層		
第298図42	陶器	鉢	朝鮮王朝	(12.8)	-	-	包含層・整地層		
第298図43	陶器	瓶	朝鮮王朝	(4.8)	-	-	包含層・整地層		
第298図44	陶器	瓶	朝鮮王朝	-	(10.2)	-	包含層・整地層		
第298図45	陶器	小型天目碗	瀬戸美濃	(5.8)	(2.8)	2.8	包含層・整地層		
第298図46	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.8)	-	-	包含層・整地層		
第298図47	陶器	皿	瀬戸美濃	(10.6)	(6.0)	2.1	包含層・整地層		
第298図48	陶器	碗	瀬戸美濃	-	(4.6)	-	包含層・整地層		
第298図49	焼締陶器	播鉢	備前	-	-	-	包含層・整地層		
第298図50	焼締陶器	播鉢	備前	-	(14.8)	-	包含層・整地層		
第299図51	京都系土師器	皿	在地	(8.2)	-	-	包含層・整地層		

遺物観察表28 (第28次調査区)

第28次調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑤)

挿図No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
			口径	底径	器高			
第299図52	京都系土師器	皿	在地	8.2	-	1.8	包含層・整地層	
第299図53	京都系土師器	皿	在地	8.9	-	2.4	包含層・整地層	
第299図54	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.2	包含層・整地層	
第299図55	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	1.9	包含層・整地層	
第299図56	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	-	2.0	包含層・整地層	
第299図57	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.4	包含層・整地層	
第299図58	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.0	包含層・整地層	
第299図59	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.4	包含層・整地層	
第299図60	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.4	包含層・整地層	
第299図61	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.2	包含層・整地層	
第299図62	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.4	包含層・整地層	
第299図63	京都系土師器	坏	在地	(10.0)	-	3.3	包含層・整地層	
第299図64	京都系土師器	坏	在地	(10.4)	-	3.4	包含層・整地層	
第299図65	土師質土器	埴	在地	-	(5.4)	-	包含層・整地層	
第299図66	土師質土器	蓋or小皿	在地	5.2	-	1.6	包含層・整地層	
第299図67	土師質土器	焼塩壺	在地?	(5.0)	-	-	包含層・整地層	
第299図68	土師質土器	取瓶	在地	2.8	-	1.4	包含層・整地層	
第299図70	瓦質土器	鉢	在地	(30.4)	-	-	包含層・整地層	
第299図71	瓦質土器	火鉢or風炉	在地?	-	-	-	包含層・整地層	
第299図72	瓦質土器	火鉢	在地	-	(26.0)	-	包含層・整地層	
第299図73	瓦質土器	火鉢	在地?	-	-	-	包含層・整地層	
第299図74	瓦質土器	火鉢	在地	-	-	-	包含層・整地層	

第28次調査区遺物観察表 (土製品・その他)

挿図No.	品種	材質	部位	寸法(単位cm)						重量(g)	遺構名	備考	図版No.
				長さ	幅	孔径	厚さ	孔径	厚さ				
第212図11	土錘	土師質	-	長さ	4.8	幅	1.9	孔径	0.2	17.0	SK008a		
第223図6	土錘	土師質	-	長さ	5.4	幅	0.9	孔径	0.2	4.3	SK018		
第223図7	土錘	土師質	-	長さ	4.6	幅	0.9	孔径	0.2	3.8	SK018		
第225図9	土錘	土師質	-	長さ	5.4	幅	1.0	孔径	0.4	7.1	SK020		
第257図2	土錘	土師質	-	長さ	4.9	幅	1.1	孔径	0.3	5.7	SK047		
第263図11	土錘	土師質	-	長さ	4.9	幅	1.1	孔径	0.3	6.5	SK051		
第263図12	土錘	土師質	-	長さ	4.4	幅	1.0	孔径	0.3	4.9	SK051		
第268図20	輪	土師質	羽口	長さ	5.4	幅	4.8	厚さ	1.3	-	SX006		
第292図60	土錘	土師質	-	長さ	4.8	幅	1.1	孔径	0.3	7.6	SP1139		
第292図61	土錘	土師質	-	長さ	4.6	幅	1.0	孔径	0.3	3.8	SP1201		
第292図62	土錘	土師質	-	長さ	3.9	幅	1.6	孔径	0.4	8.1	SP1227		
第292図63	土錘	土師質	-	長さ	5.0	幅	1.1	孔径	0.3	6.1	SP1230		
第292図64	土錘	土師質	-	長さ	3.9	幅	1.6	孔径	0.4	8.7	SP1211		
第299図69	土器片加工品	土師質	-	径	3.9	厚さ	0.7	-	-	-	包含層・整地層		
第299図75	土人形	土師質	-	長さ	4.0	幅	2.0	厚さ	1.2	-	包含層・整地層		
第300図1	土錘	土師質	-	長さ	2.9	幅	0.8	孔径	0.3	2.7	包含層・整地層		
第300図2	土錘	土師質	-	長さ	4.7	幅	0.8	孔径	0.2	3.1	包含層・整地層		
第300図3	土錘	土師質	-	長さ	4.4	幅	0.8	孔径	0.3	3.2	包含層・整地層		
第300図4	土錘	土師質	-	長さ	3.4	幅	1.0	孔径	0.4	3.6	包含層・整地層		
第300図5	土錘	土師質	-	長さ	4.6	幅	1.0	孔径	0.3	3.8	包含層・整地層		
第300図6	土錘	土師質	-	長さ	5.4	幅	0.8	孔径	0.2	3.8	包含層・整地層		
第300図7	土錘	土師質	-	長さ	4.7	幅	0.8	孔径	0.2	3.8	包含層・整地層		
第300図8	土錘	土師質	-	長さ	5.2	幅	0.8	孔径	0.2	3.9	包含層・整地層		
第300図9	土錘	土師質	-	長さ	5.2	幅	0.9	孔径	0.2	4.4	包含層・整地層		
第300図10	土錘	土師質	-	長さ	3.4	幅	1.0	孔径	0.3	4.4	包含層・整地層		
第300図11	土錘	土師質	-	長さ	4.0	幅	1.0	孔径	0.3	4.5	包含層・整地層		
第300図12	土錘	土師質	-	長さ	3.0	幅	1.2	孔径	0.3	4.6	包含層・整地層		
第300図13	土錘	土師質	-	長さ	4.9	幅	1.0	孔径	0.3	5.3	包含層・整地層		
第300図14	土錘	土師質	-	長さ	4.5	幅	0.9	孔径	0.3	5.5	包含層・整地層		
第300図15	土錘	土師質	-	長さ	3.8	幅	1.1	孔径	0.3	5.6	包含層・整地層		
第300図16	土錘	土師質	-	長さ	4.8	幅	1.0	孔径	0.3	5.7	包含層・整地層		
第300図17	土錘	土師質	-	長さ	5.0	幅	1.0	孔径	0.2	5.7	包含層・整地層		
第300図18	土錘	土師質	-	長さ	4.7	幅	1.0	孔径	0.4	5.9	包含層・整地層		
第300図19	土錘	土師質	-	長さ	4.8	幅	1.0	孔径	0.4	5.9	包含層・整地層		
第300図20	土錘	土師質	-	長さ	4.4	幅	1.0	孔径	0.3	6.0	包含層・整地層		
第300図21	土錘	土師質	-	長さ	5.4	幅	1.0	孔径	0.3	6.4	包含層・整地層		
第300図22	土錘	土師質	-	長さ	5.2	幅	1.0	孔径	0.3	6.6	包含層・整地層		
第300図23	土錘	土師質	-	長さ	3.6	幅	1.4	孔径	0.4	6.6	包含層・整地層		
第300図24	土錘	土師質	-	長さ	4.8	幅	1.1	孔径	0.3	7.0	包含層・整地層		
第300図25	土錘	土師質	-	長さ	3.8	幅	1.3	孔径	0.5	7.6	包含層・整地層		
第300図26	土錘	土師質	-	長さ	4.8	幅	1.2	孔径	0.3	7.8	包含層・整地層		
第300図27	土錘	土師質	-	長さ	4.8	幅	1.2	孔径	0.4	8.1	包含層・整地層		
第300図28	土錘	土師質	-	長さ	5.0	幅	0.9	孔径	0.2	8.1	包含層・整地層		
第300図29	土錘	土師質	-	長さ	4.9	幅	0.8	孔径	0.2	8.8	包含層・整地層		
第300図30	土錘	土師質	-	長さ	2.8	幅	1.9	孔径	0.7	9.7	包含層・整地層		
第300図31	土錘	土師質	-	長さ	3.4	幅	1.9	孔径	0.6	14.1	包含層・整地層		
第300図32	土錘	土師質	-	長さ	4.4	幅	1.7	孔径	0.5	14.3	包含層・整地層		
第300図33	土錘	土師質	-	長さ	3.2	幅	2.0	孔径	0.6	19.7	包含層・整地層		
第301図1	鋳型	土師質	-	長さ	4.4	幅	2.5	厚さ	0.7	19.8	包含層・整地層	目貫金具の鋳型	37
第301図2	油煙墨	-	-	長さ	3.7	幅	1.5	厚さ	0.4	1.4	包含層・整地層		37



第28次調査区遺物観察表 (金属製品)

挿図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ				
第200図12	鉄砲丁	鉄	-	長さ	17.0	幅	8.1	厚さ	0.7	-	SF012	丸砲丁	30
第215図2	不明	青銅	-	長さ	11.8	幅	0.4	厚さ	0.3	5.2	SK010		31
第232図2	火箸?	鉄	-	長さ	37.0	幅	1.0	厚さ	1.0	69.0	SK026		32
第234図9	不明	鉄	-	長さ	24.8	幅	5.6	厚さ	1.0	61.9	SK028		32
第236図5	鉄釘	鉄	-	長さ	11.2	幅	1.4	厚さ	0.6	10.0	SK029		
第288図1	小柄	青銅・鉄	-	長さ	9.3	幅	1.3	厚さ	0.5	18.2	SP1101		36
第303図1	懸仏	青銅	仏像部	長さ	7.7	幅	5.1	厚さ	0.4	72.9	包含層・整地層		
第303図2	小柄	青銅・鉄	-	長さ	8.9	幅	1.4	厚さ	0.6	19.2	包含層・整地層		
第303図3	不明	青銅	-	長さ	2.1	幅	1.5	厚さ	1.5	25.4	包含層・整地層		
第303図4	環付金具	青銅	-	径	3.4	厚さ	0.3	-	-	3.1	包含層・整地層		
第303図5	環付金具	青銅	-	径	3.4	厚さ	1.4	-	-	15.2	包含層・整地層		
第303図6	不明	青銅	-	長さ	1.4	幅	0.4	厚さ	0.4	0.5	包含層・整地層		
第303図7	不明	青銅	-	長さ	1.5	幅	0.4	厚さ	0.4	0.5	包含層・整地層		
第303図8	不明	青銅	-	長さ	4.0	幅	0.4	厚さ	0.4	7.0	包含層・整地層		
第303図9	不明	青銅	-	長さ	4.8	幅	2.2	厚さ	0.1	6.4	包含層・整地層		
第303図10	不明	青銅	-	長さ	3.3	幅	0.4	厚さ	0.4	1.2	包含層・整地層		
第303図11	不明	青銅	-	長さ	4.5	幅	0.3	厚さ	0.3	1.9	包含層・整地層		
第303図12	不明	青銅	-	長さ	-	幅	0.4	厚さ	0.4	0.5	包含層・整地層		
第303図13	不明	青銅	-	長さ	5.2	幅	0.4	厚さ	0.4	1.9	包含層・整地層		
第303図14	不明	青銅	-	長さ	6.5	幅	0.4	厚さ	0.4	2.9	包含層・整地層		
第303図15	鍵	青銅	-	長さ	8.4	幅	0.7	厚さ	0.7	12.7	包含層・整地層		
第303図16	鍵	青銅	-	長さ	3.0	幅	0.8	厚さ	0.4	2.6	包含層・整地層		
第303図17	鍵	青銅	-	長さ	3.8	幅	0.5	厚さ	0.3	1.8	包含層・整地層		
第303図18	分銅	青銅	-	長さ	2.2	幅	1.5	厚さ	0.9	13.4	包含層・整地層	蘭形	37
第303図19	分銅	青銅	-	径	1.1	厚さ	0.5	-	-	2.6	包含層・整地層	太鼓形	37
第303図20	メダイ様金属製品	鉛	-	長さ	-	幅	-	厚さ	-	11.3	包含層・整地層		37
第303図21	鉛加工品	鉛	-	長さ	2.1	幅	2.1	厚さ	0.3	10.4	包含層・整地層		37
第303図22	鉛加工品	鉛	-	長さ	2.4	幅	2.4	厚さ	0.3	12.7	包含層・整地層		37
第303図23	鉛玉	鉛	-	径	1.2	厚さ	1.2	-	-	10.3	包含層・整地層	鉄砲玉	37
第303図24	鉛玉	鉛	-	径	1.3	厚さ	1.2	-	-	10.4	包含層・整地層	鉄砲玉	37
第303図25	鉛玉	鉛	-	径	1.3	厚さ	1.1	-	-	10.2	包含層・整地層	鉄砲玉 使用済み?	37

第28次調査区遺物観察表 (ガラス製品)

挿図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.
				径	厚さ	径	厚さ	径	厚さ				
第199図	ガラス玉	ガラス	-	径	(2.0)	厚さ	1.0	-	-	1.1	SF012	青色 コンタか?	30
第288図2	ガラス玉	ガラス	-	径	0.3	厚さ	0.4	-	-	0.1	SP1218		
第303図26	ガラス玉	ガラス	-	径	0.4	厚さ	0.2	-	-	0.1	包含層・整地層		
第303図27	ガラス玉	ガラス	-	径	0.4	厚さ	0.3	0	-	0.1	包含層・整地層		

第28次調査区遺物観察表 (石製品)

挿図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ				
第234図8	石臼	凝灰岩	下臼	長さ	9.0	幅	10.0	厚さ	9.2	1038	SK028		
第236図4	叩石	安山岩	-	長さ	12.4	幅	7.4	厚さ	3.6	751.9	SK029		32
第243図5	不明	凝灰岩	-	長さ	10.2	幅	10.8	厚さ	9.0	547.6	SK033		33
第263図13	石鍋	滑石	口縁部	長さ	-	幅	-	厚さ	-	-	SK051		34
第263図14	茶臼	安山岩	下臼	長さ	-	幅	-	厚さ	-	-	SK051		34
第268図18	不明	安山岩	-	長さ	19.4	幅	6.6	厚さ	9.8	1600	SX006		
第268図19	砥石	砂岩	-	長さ	10.0	幅	7.6	厚さ	4.6	490.4	SX006		
第268図21	茶臼	凝灰岩	下臼	長さ	-	幅	-	厚さ	-	1800	SX006		
第269図22	凹石	安山岩	-	長さ	15.8	幅	14.4	厚さ	6.0	2100	SX006		
第302図1	硯	粘板岩	周縁部	長さ	6.4	幅	0.6	厚さ	0.5	5.5	包含層・整地層		
第302図2	石鍋	滑石	口縁部	長さ	-	幅	-	厚さ	-	-	包含層・整地層		

第28次調査区遺物観察表 (木製品)

挿図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)						重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ				
第240図6	不明	木・漆	-	長さ	19.4	幅	3.4	厚さ	-	-	SK031 b	折敷の一部か?	32

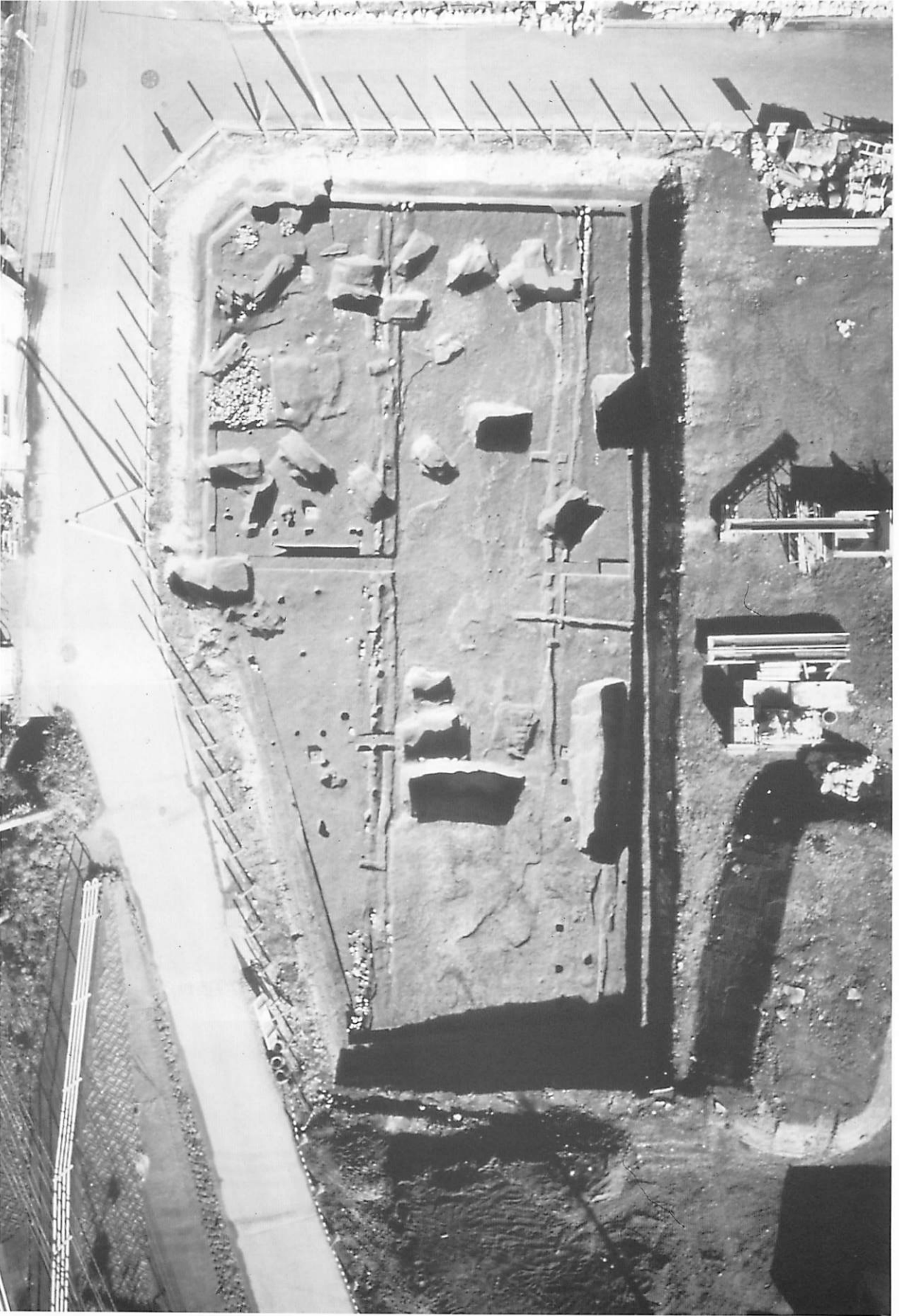
第28次調査区遺物観察表 (瓦)

挿図No	品 種	部 位	寸法 (単位cm)						遺構名	備 考	図版No
			径	-	1.8	-	-	-			
第212図13	軒丸瓦	瓦当部	長さ	17.8	4.8	厚さ	2.4	2.4	SK008a		31
第234図6	軒平瓦	瓦当部	長さ	9.2	8.2	厚さ	2.0	2.0	SK028		32
第245図3	平瓦	-	長さ	10.0	11.6	厚さ	2.4	2.4	SK035		
第245図4	伏間瓦	-	長さ	9.4	12.4	厚さ	2.6	2.6	SK035		
第245図5	伏間瓦	-	長さ	8.0	3.8	厚さ	2.4	2.4	SX005		34
第265図8	軒平瓦	瓦当部	長さ	12.0	4.2	厚さ	2.8	2.8	SX013		35
第271図9	軒平瓦	瓦当部	長さ	-	1.8	-	-	-	SX039		35
第279図1	軒丸瓦	瓦当部	径	4.0	3.8	厚さ	3.4	3.4	SX039	古代 上野庵寺と同範	35
第279図2	軒平瓦	瓦当部	長さ	21.8	15.0	厚さ	2.8	2.8	SP1404		
第290図38	丸瓦	-	長さ	15.2	-	厚さ	2.0	2.0	SP1404		
第291図39	丸瓦	-	長さ	16.7	-	厚さ	2.0	2.0	SP1404		
第291図40	丸瓦	-	長さ	20.0	10.1	厚さ	1.8	1.8	SP1425		
第292図53	平瓦	-	長さ	16.2	10.5	厚さ	2.0	2.0	SP1425		
第292図54	平瓦	-	長さ								

第28次調査区遺物観察表 (銭貨)

	銭貨名	初铸造年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	書 体	遺構名	備 考	図版No
第212図21	祥符元寶	1008	北宋	2.4	24	真書	SK008a		
第212図22	景德元寶	1004	北宋	2.1	23	真書	SK008b		
第228図	□聖元寶	-	-	1.8	24	行書	SK021		
第240図7	元豐通寶	1078	北宋	2.3	23	篆書	SK031 b		
第240図8	元祐通寶	1086	北宋	3.3	23	篆書	SK031 b		
第243図4	皇宋通寶	1038	北宋	3.0	23	篆書	SK033		
第263図15	元豐通寶	1078	北宋	2.6	23	行書	SK051		
第288図1	元符通寶	1098	北宋	2.4	23	行書	SP1138		
第288図2	不明	-	-	0.5	-	-	SP1216		
第288図3	洪部通寶	1368	明	0.8	-	真書	SP1408		
第288図4	洪部通寶	1369	明	0.9	-	真書	SP1431		
第296図2	不明	-	-	0.5	-	-	SX034		
第304図1	皇宋通寶	1038	北宋	1.0	-	真書	包含層・整地層		
第304図2	治平元寶	1064	北宋	2.4	24	真書	包含層・整地層		
第304図3	治平元寶	1064	北宋	2.3	23	真書	包含層・整地層		
第304図4	熙寧元寶	1068	北宋	2.0	23	真書	包含層・整地層		
第304図5	熙寧元寶	1068	北宋	2.5	23	真書	包含層・整地層		
第304図6	熙寧元寶	1068	北宋	2.2	23	行書	包含層・整地層		
第304図7	元豐通寶	1076	北宋	2.4	23	真書	包含層・整地層		
第304図8	元祐通寶	1086	北宋	2.9	24	真書	包含層・整地層		
第304図9	紹聖元寶	1074	北宋	2.4	23	真書	包含層・整地層		
第304図10	不明	-	-	1.8	23	真書	包含層・整地層		
第304図11	寛永通寶	1636	日本	1.9	23	-	包含層・整地層	古寛永	
第304図12	寛永通寶	1636	日本	1.8	23	-	包含層・整地層	古寛永	
第304図13	寛永通寶	1636	日本	2.3	24	-	包含層・整地層	古寛永	
第304図14	寛永通寶	1636	日本	9.7	23	-	包含層・整地層	古寛永 3枚付着	
第304図15	寛永通寶	1636	日本	2.4	23	-	包含層・整地層	古寛永	
第304図16	寛永通寶	1668	日本	2.7	24	-	包含層・整地層	文銭	

# 写 真 图 版



第18次西調査区全景

写真図版 2 (第18次西調査区)



第18次西調査区全景 (南から)



第18次西調査区SD003、D-H断面



第18次西調査区SD007-3ピット列 (南から)



第18次西調査区SD007-3 (南から)



第18次西調査区SD007-3 (東から)



第18次西調査区SD008-2 (西から)



第18次西調査区  
SD008-2 (南から)



第18次西調査区  
SD013 (西から)





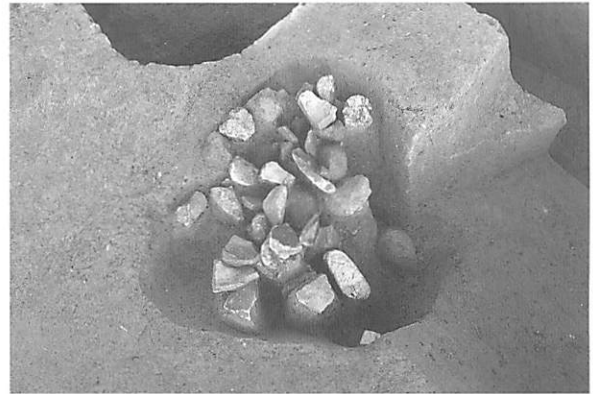
第18次西調査区SD010 (北東から)



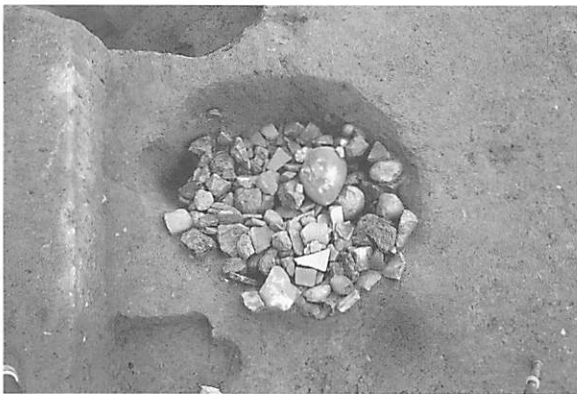
第18次西調査区SD009 (東から)



第18次西調査区SD010・SD009・SB018 (北東から)



第18次西調査区SB018-P2



第18次西調査区SK015遺物出土状態



第18次西調査区SK015完掘状態



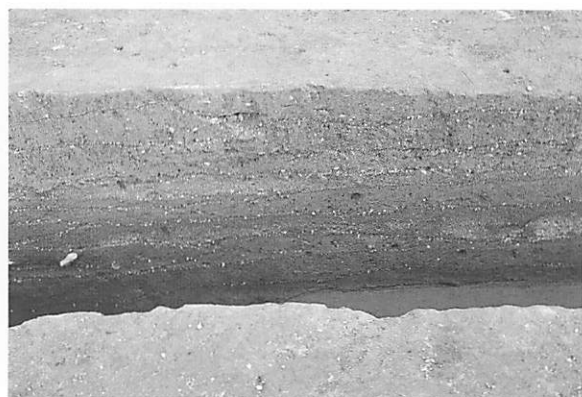
第18次西調査区SB017遺物出土状態



第18次西調査区SB017完掘状態



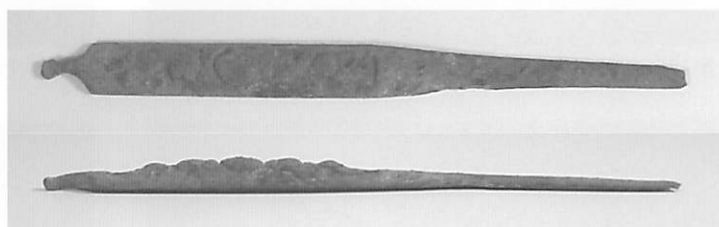
第18次西調査区SF019・SD007・SD008 (北から)



第18次西調査区SF019土層



25-4



25-5

SD007-3出土遺物 (第25図参照)

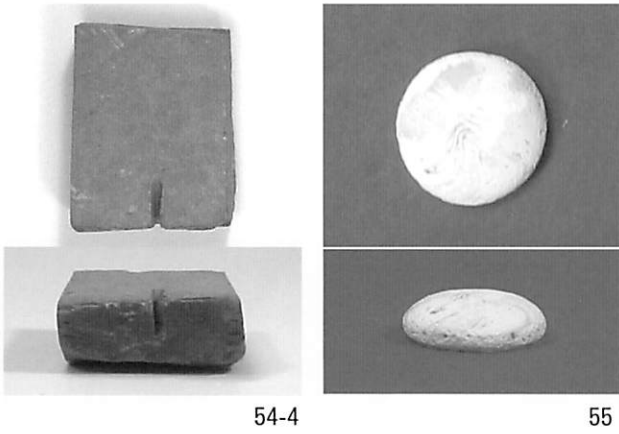


53-12



53-22

SF019出土遺物 (第53図参照)



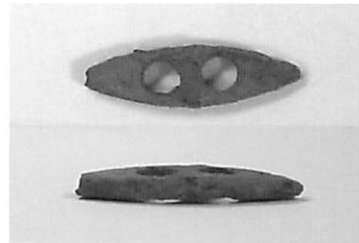
54-4 55  
SF019出土遺物 (第54・55図参照)



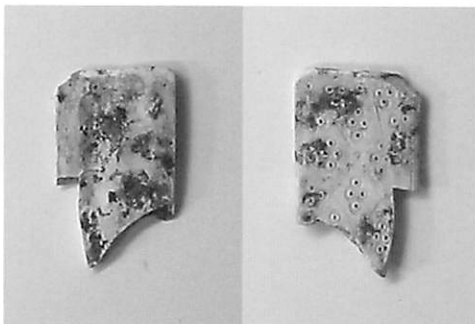
57  
SP020出土遺物 (第57図参照)



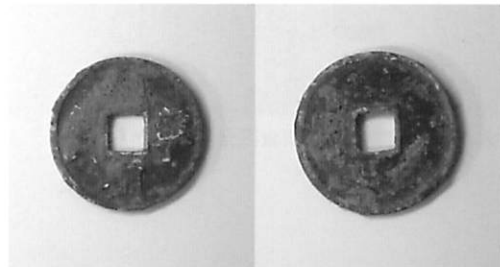
64-1・2  
15層出土遺物 (第64図参照)



68-1



68-3



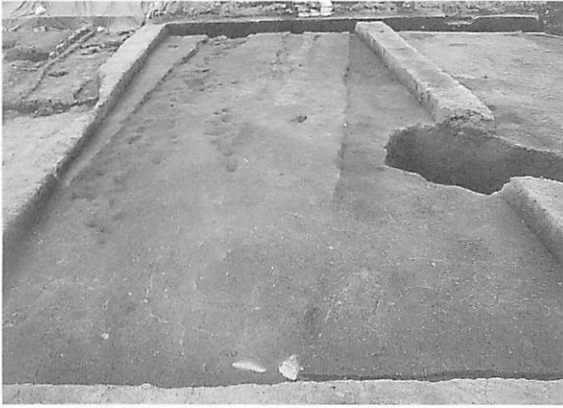
69-6

18次西調査区出土遺物 (第68・69図参照)





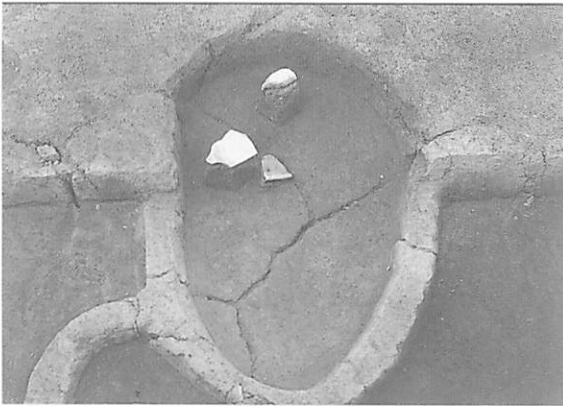
中世大友府内町跡第18次調査区全景（北から）



SD023



SD306



SK046



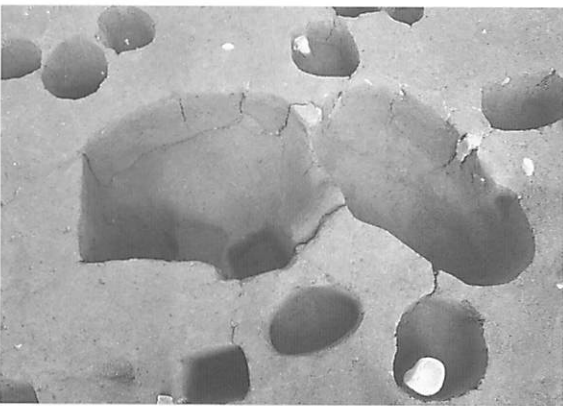
SK065・75



SK067



SK068



SK067・068



SK077



SK078



SK085



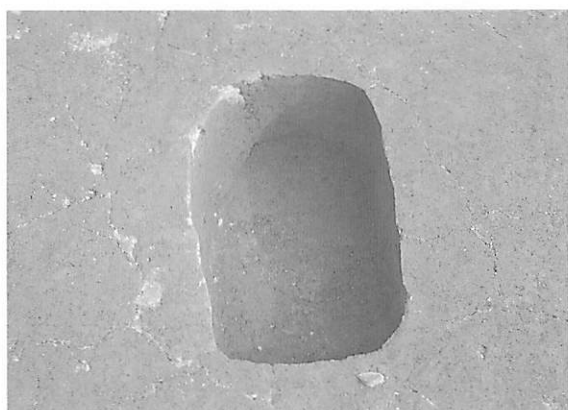
SK085



SK085遺物出土状況



SK085



SK244

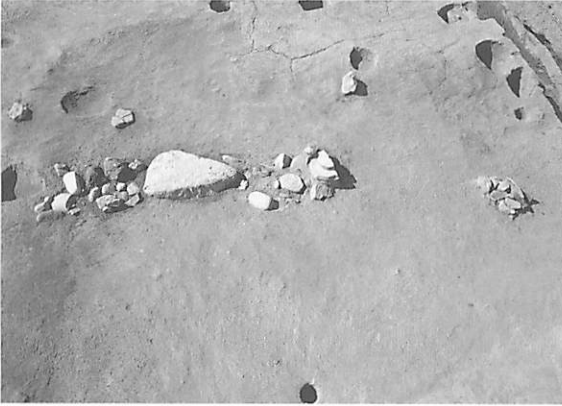


SK252



SK252





SK253



SK253



SK254



SK255



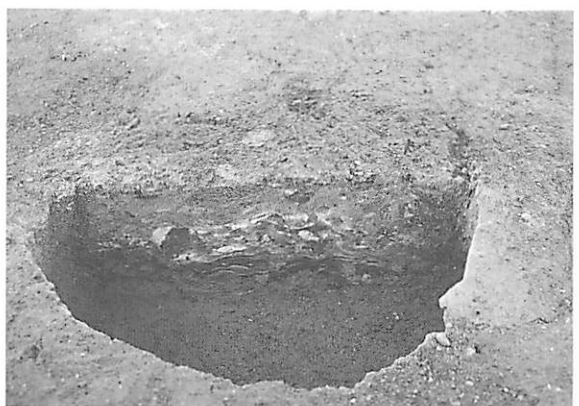
SK256



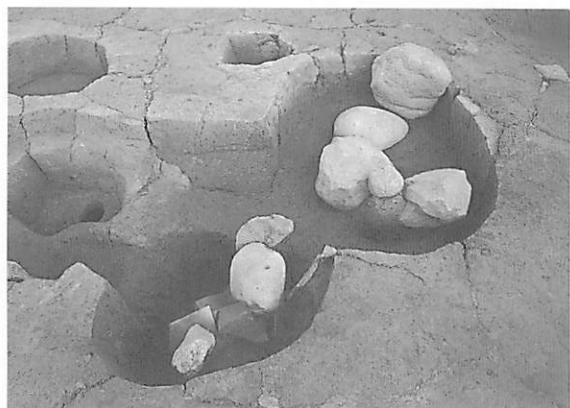
SK262



SK273



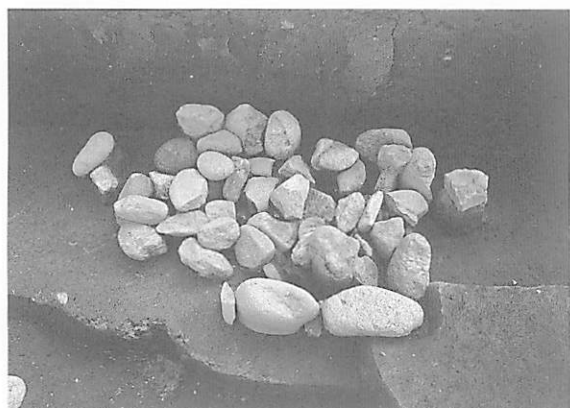
SK274



SK292・293



SK300



SX080



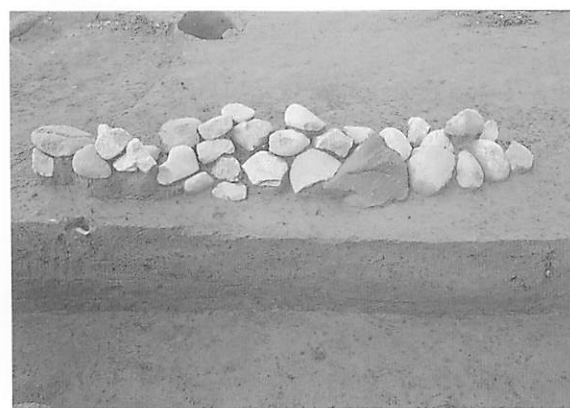
SX244



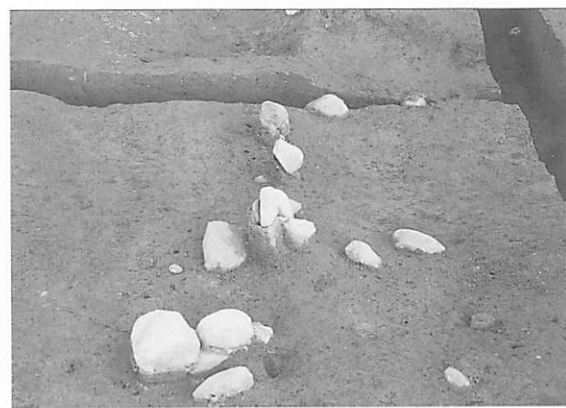
SX245



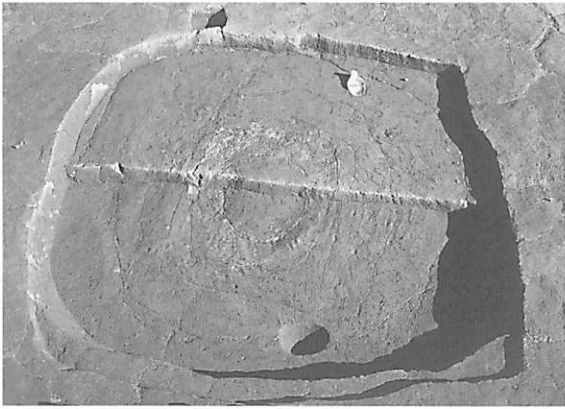
SX302



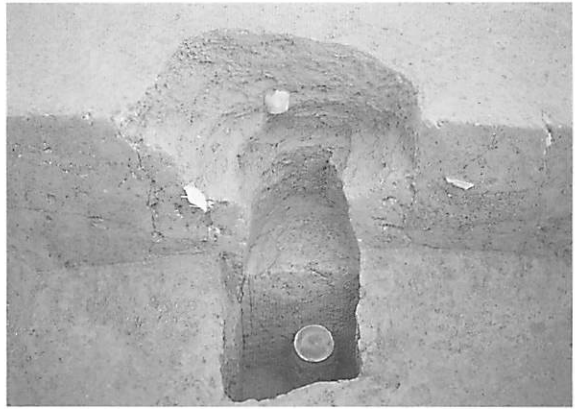
SX303



SX309



SE176



SE176



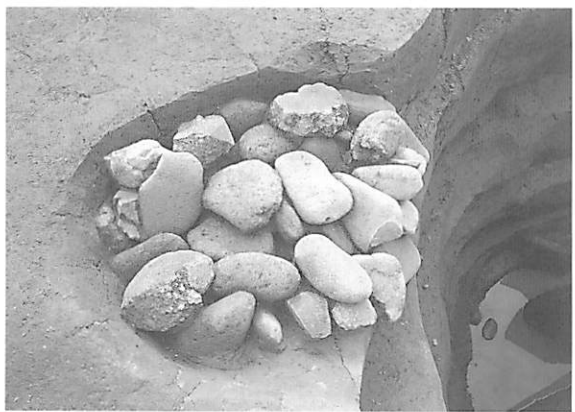
SE176



SE176完掘



SE075



SE075 (SK294)

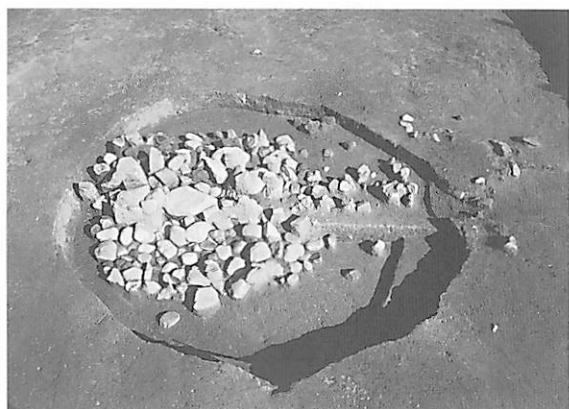


SE075



SE075完掘





SE079



SE079



SE079



SE079



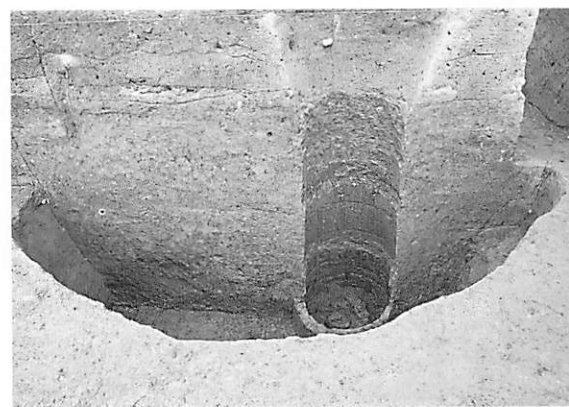
SE079



SE079完掘



SE079遺物出土状況



SE261



SE261井筒検出状況



SE261結桶二段目



SE261結桶三段目



SE261結桶四段目





SX054



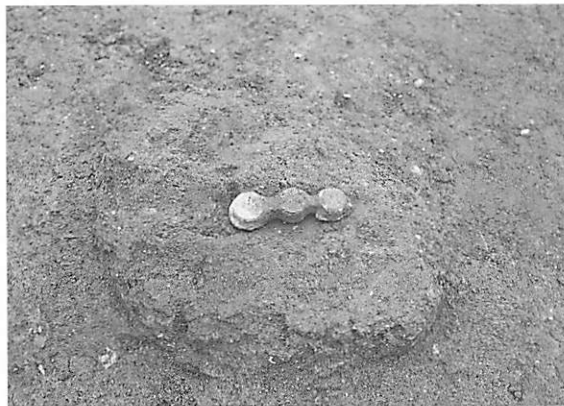
SX062



SX066



SX310



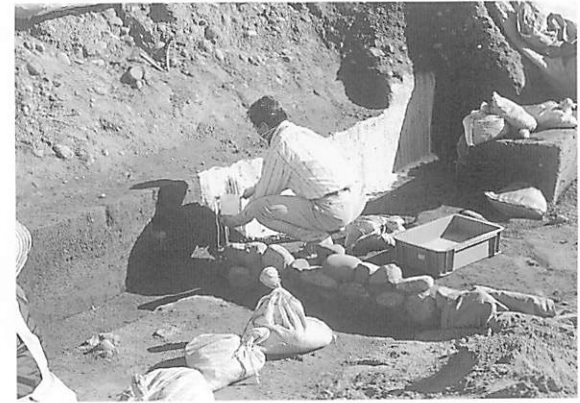
遺物出土状況 (三連分銅)



遺物出土状況 (和鏡)



遺物出土状況 (漆器椀)

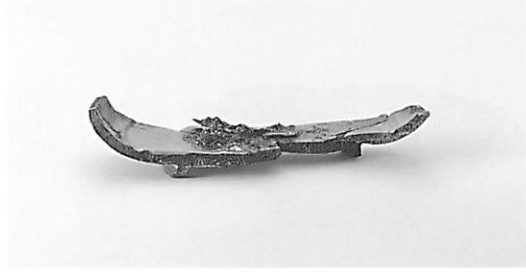


土層剥ぎ取り作業

SE079出土遺物



133-63

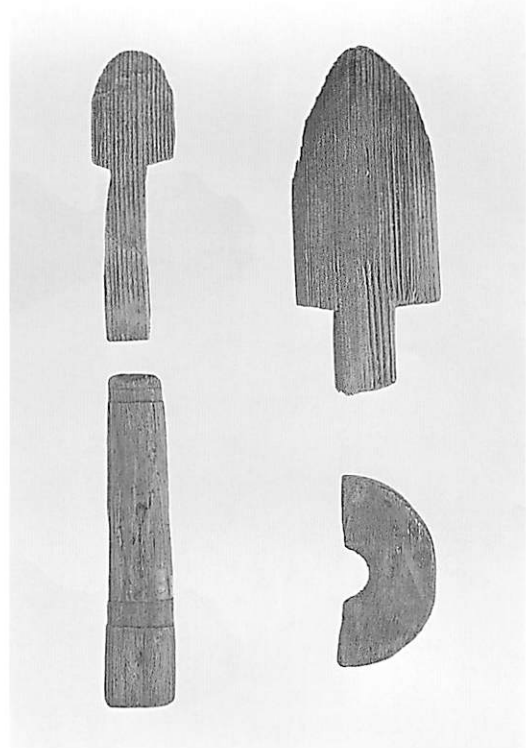


133-62

SE261出土遺物



133-64



138-30~33

包含層・整地層出土遺物



173-177



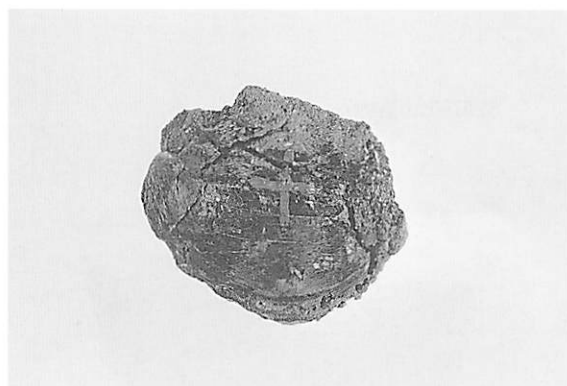
179-270



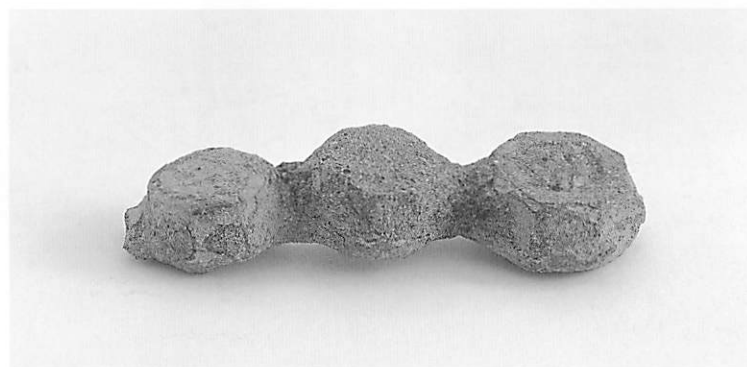
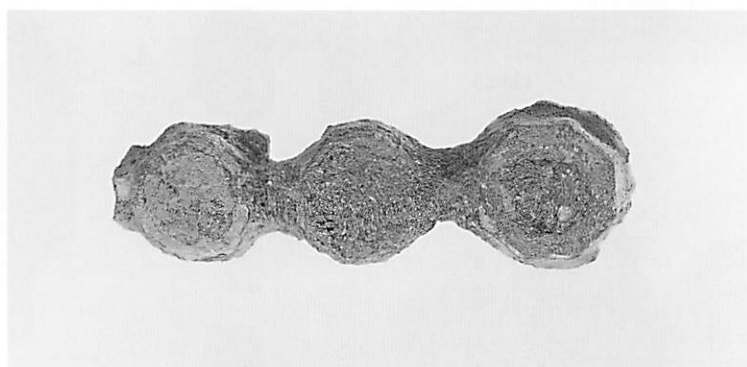
179-271・182-295・296



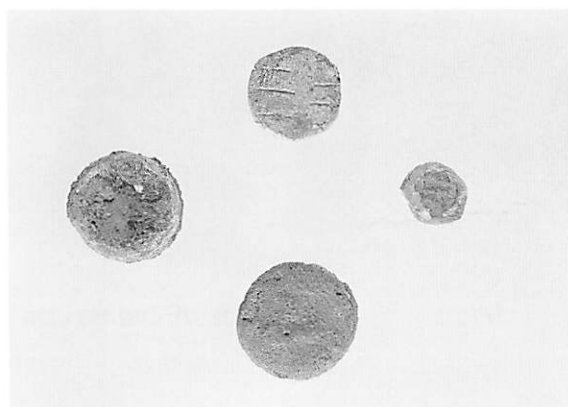
183-299



183-300



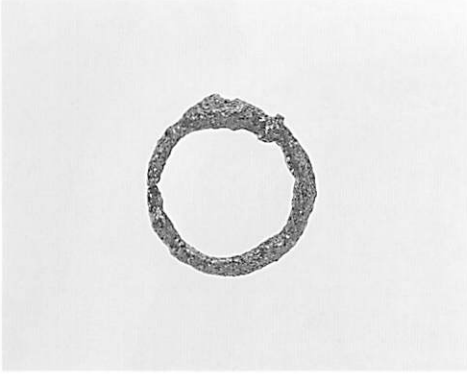
184-301三連分銅



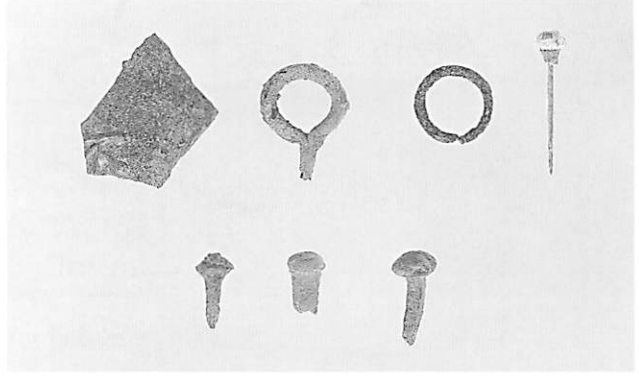
184-302~305A



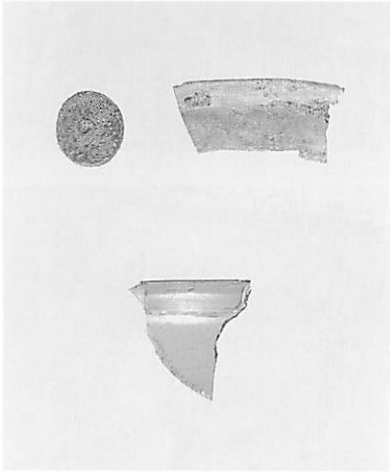
184-306



184-314



184-315~321



185-336~338



185-340

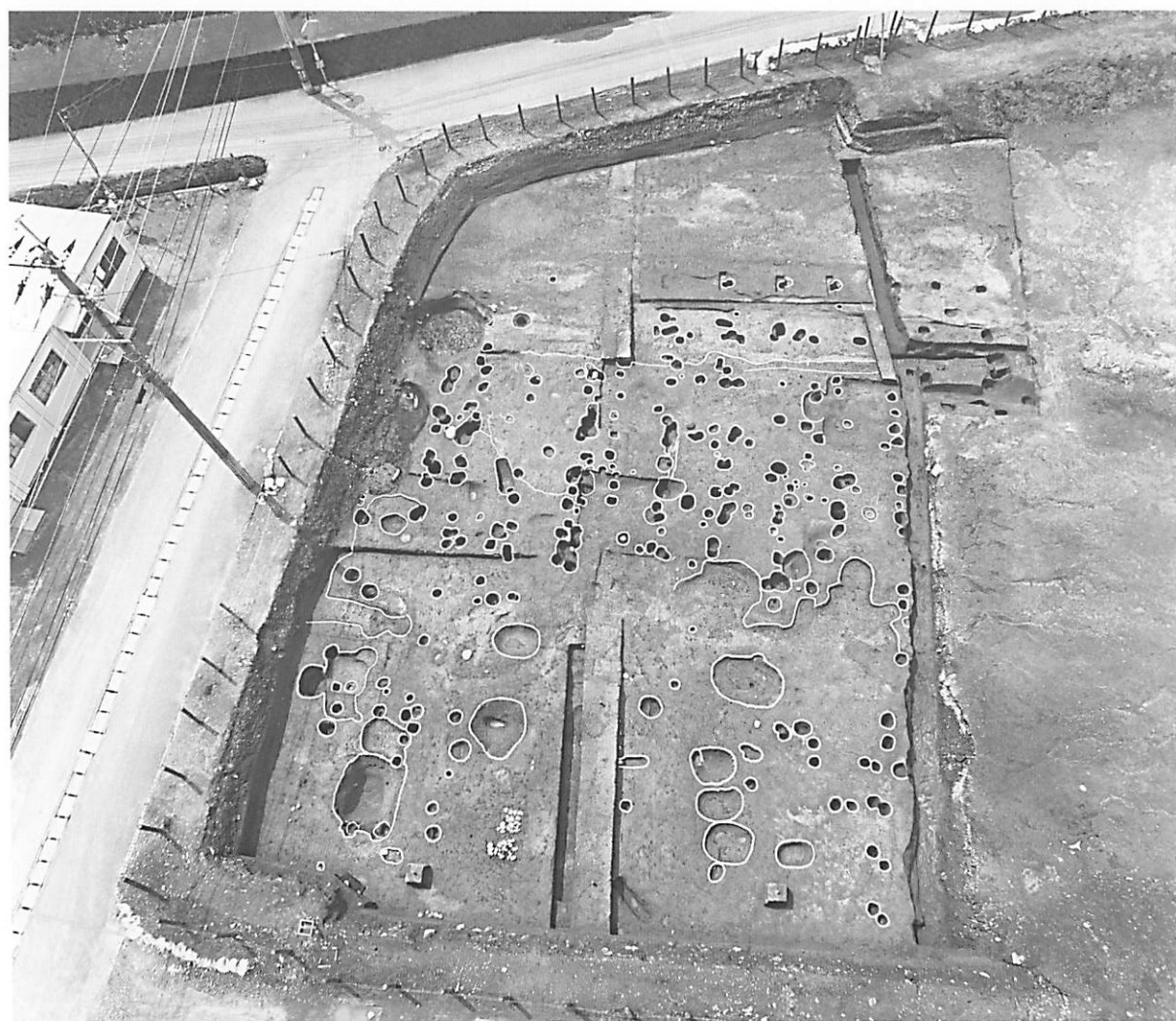
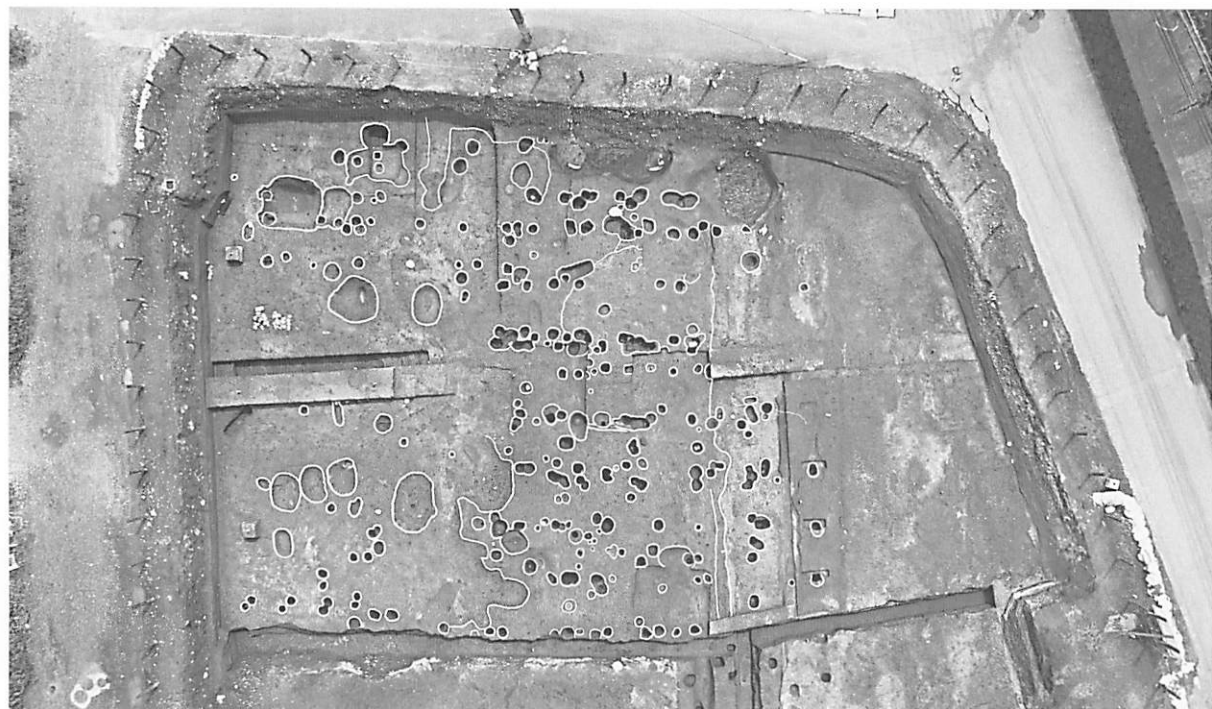


186-341

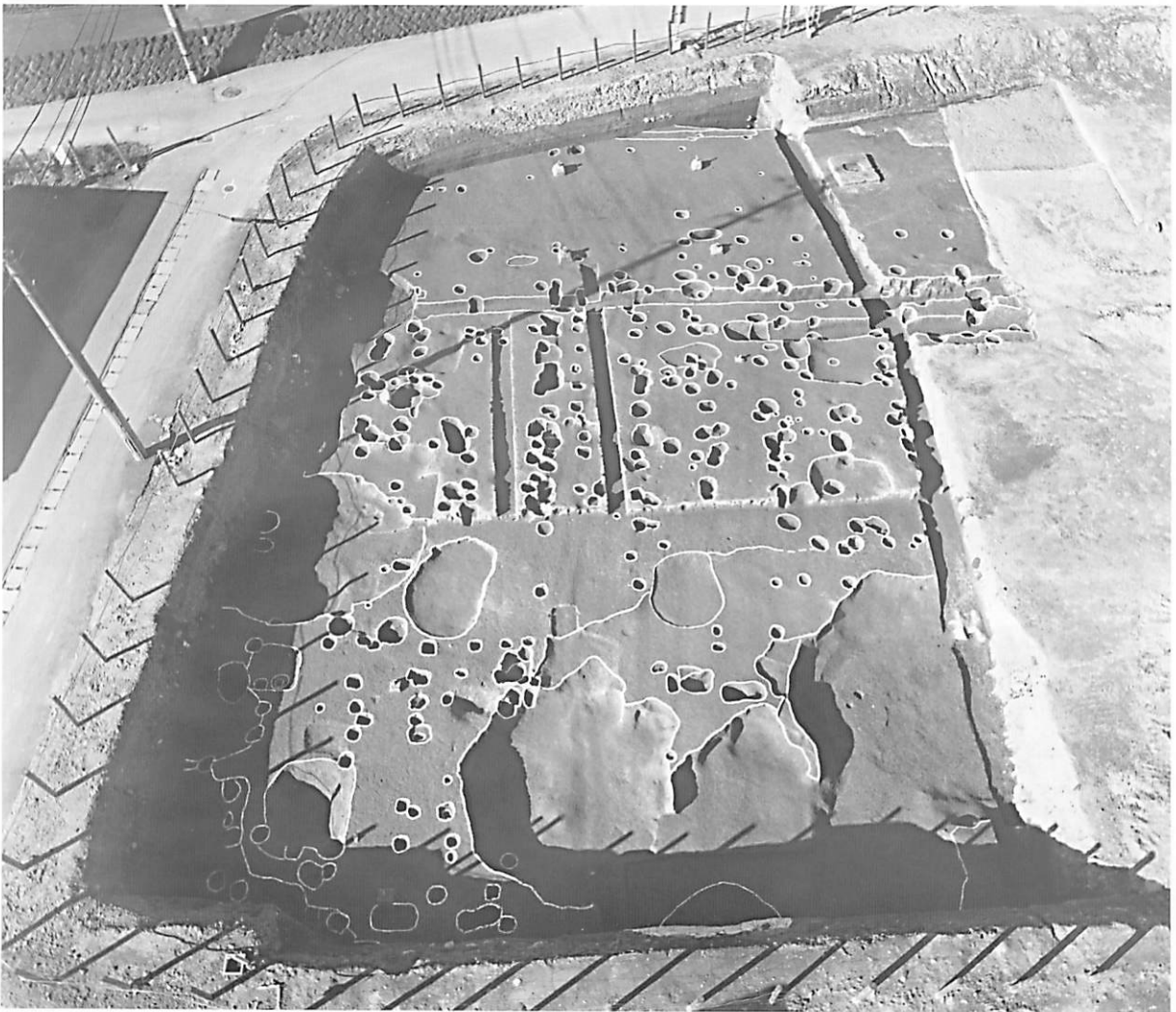


188-376~379





中世大友府内町跡第28次調査区全景 (上層遺構群)



中世大友府内町跡第28次調査区全景 (下層遺構群)



SF012全景 (南から)



道路上の柱穴



SF012華南三彩出土状況



SF012瀬戸美濃産天目出土状況



SF012鉄包丁出土状況



SF012ガラス玉出土状況



SF012撤去後 (南から)

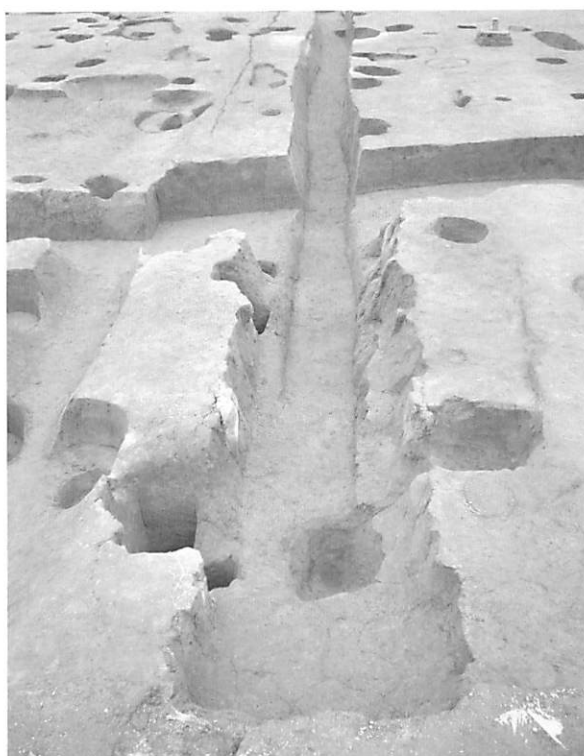


SF012撤去後 (北から)





SD040 (南から)



SD040 (北から)



SD053



SD049





SK002



SK007



SK008検出状況



SK008a土層



SK008a完掘状況



SK008b遺物出土状況



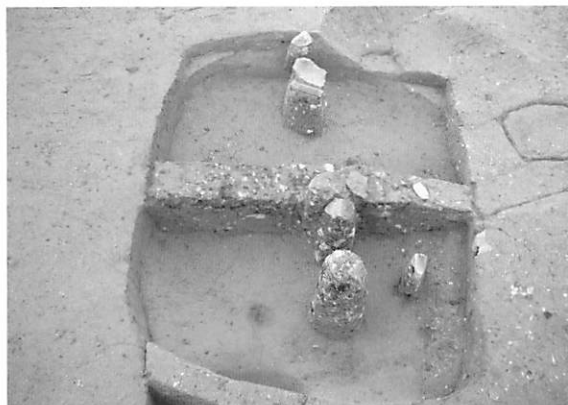
SK009



SK010遺物出土状況



SK010検出状況



SK010完掘状況



SK011



SK015



SK016



SK017



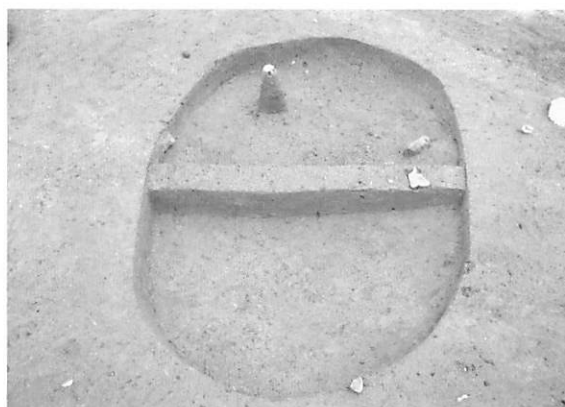
SK018



SK019



SK020



SK021



SK022



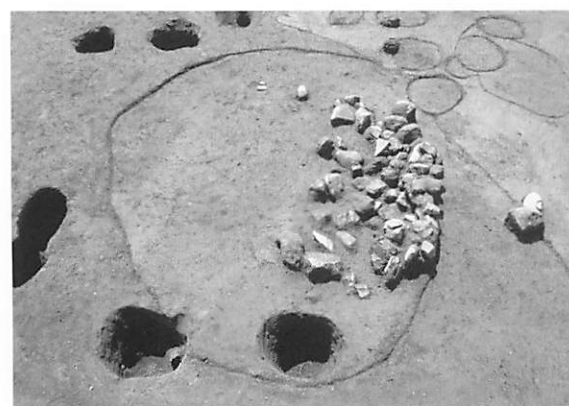
SK025



SK026



SK026遺物出土状況



SK028検出状況



SK028完掘状況



SK029



SK030



SK031検出状況



SK031完掘状況



SK031b漆器出土状況①



SK031b漆器出土状況②



SK032



SK033

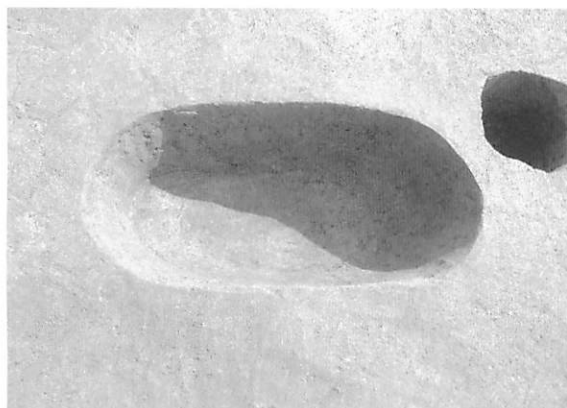




SK035



SK038



SK042



SK043



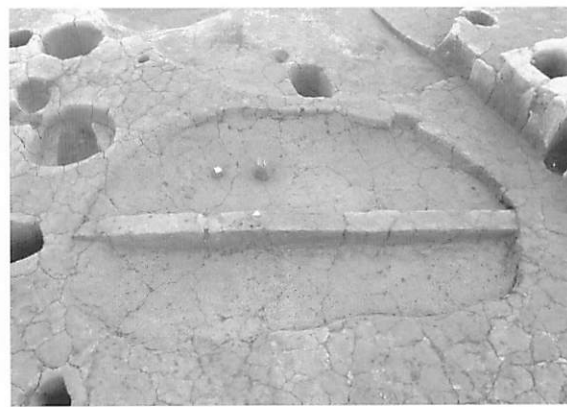
SK044



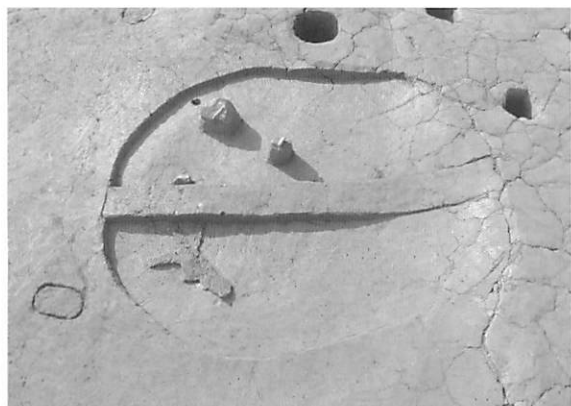
SK045



SK046検出



SK047



SK048



SK050



SK051



SX005



SX006



SX013



SX014



SX024



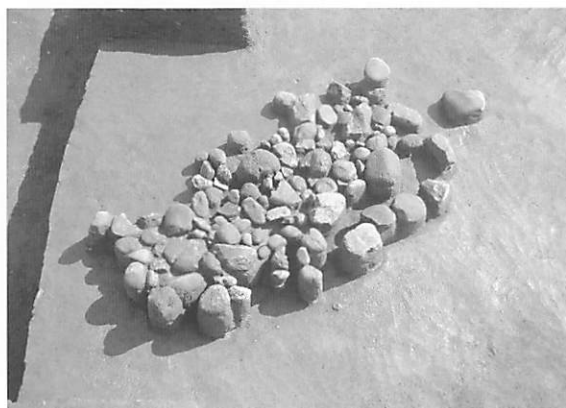
SX036



SX037



SX037完掘



SX039



SX003検出状況



SX003



SX023



SX023根締め石

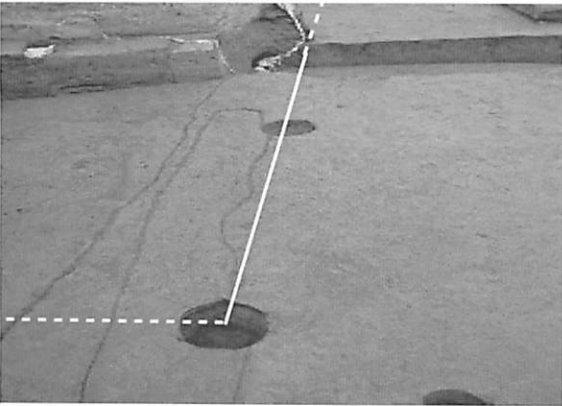




SE027



SE027 (井筒部分)



SB060



SX004 (焼土層)



SX034



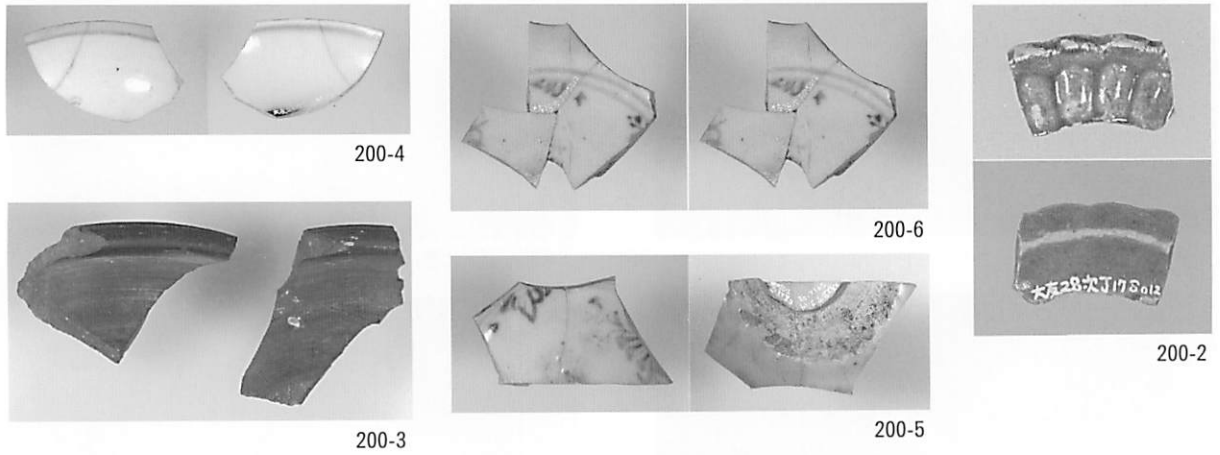
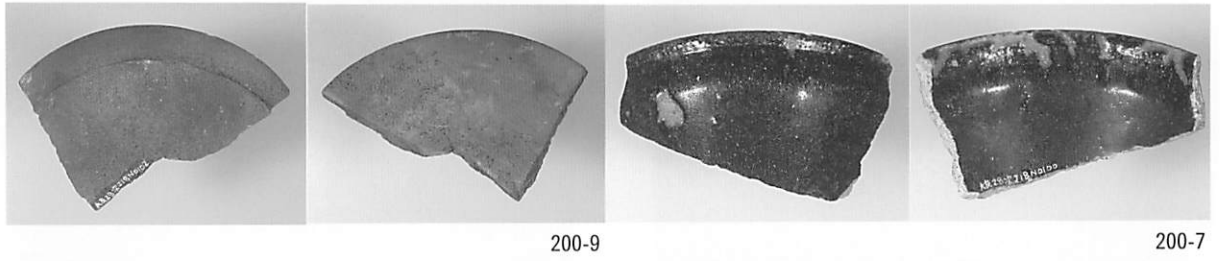
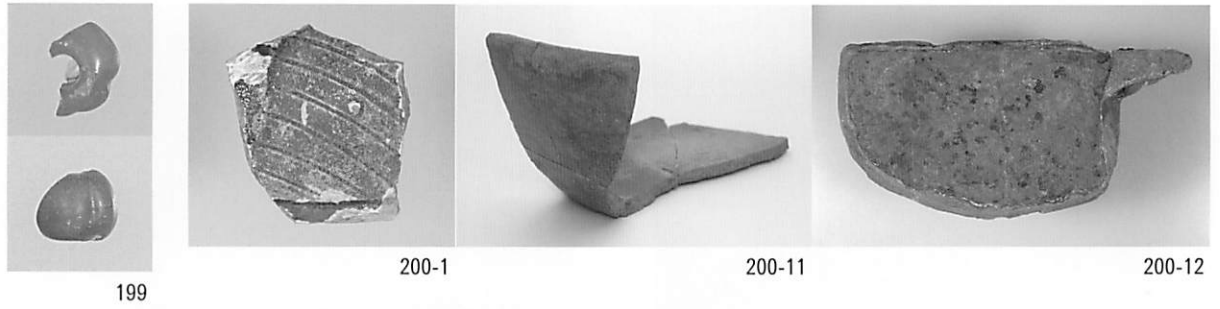
SP1209



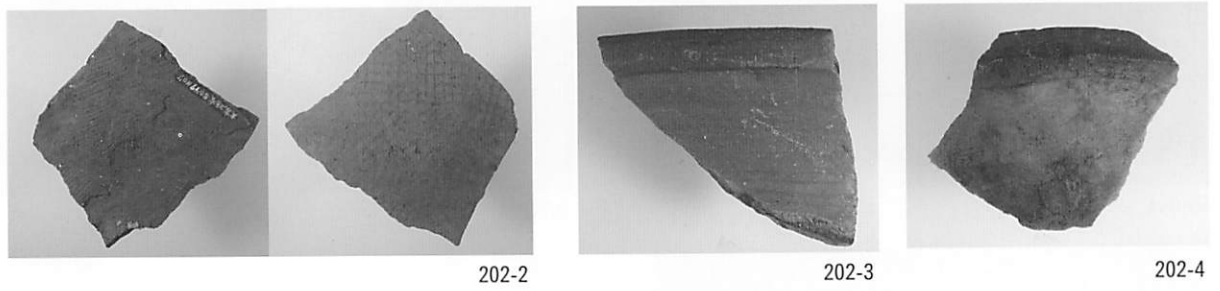
L17区漳州窯系青花出土状況



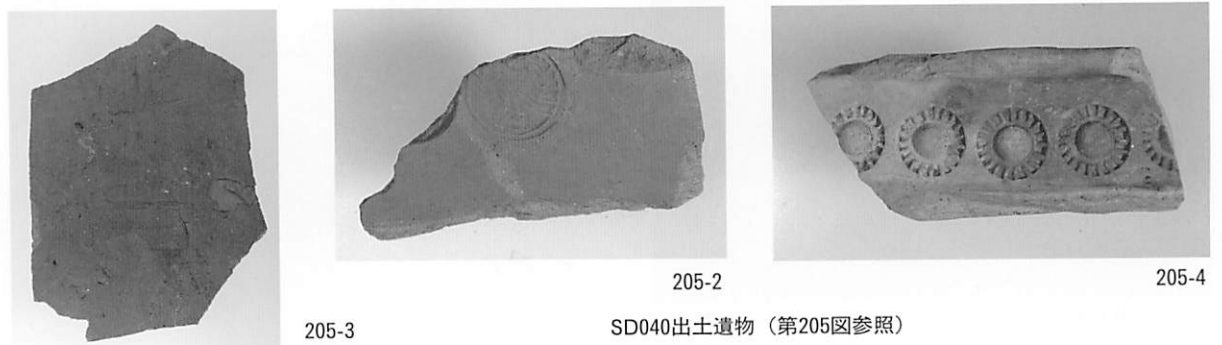
懸仏出土状況



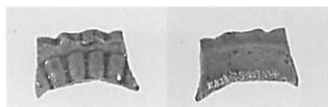
SF012出土遺物 (第199・200図参照)



SD049出土遺物 (第202図参照)



SD040出土遺物 (第205図参照)

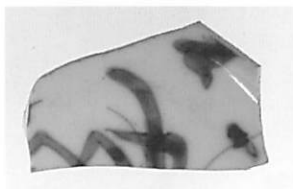


SK007出土遺物 (第210図参照)

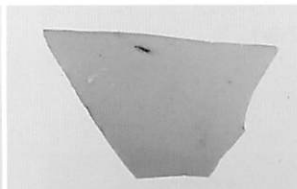
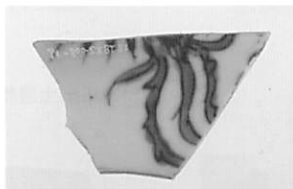
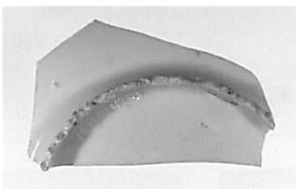
210-1 SK010出土遺物 (第215図参照)



215-2



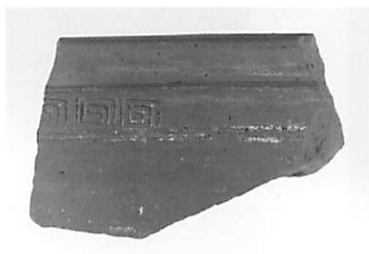
212-1



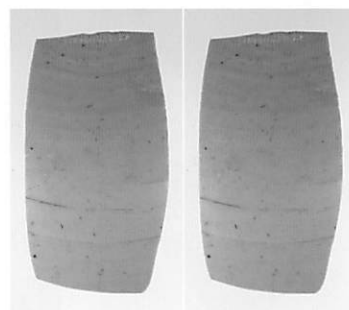
212-2



212-13

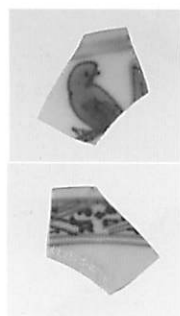


212-12

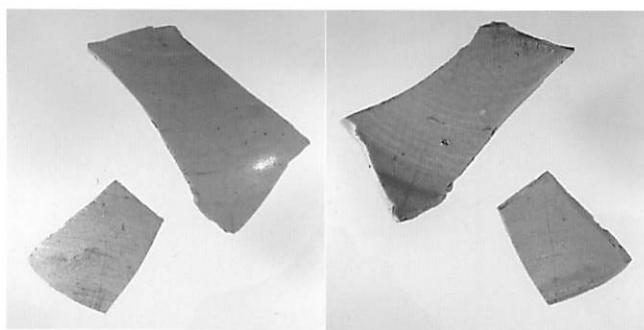


212-20

SK008出土遺物 (第212図参照)

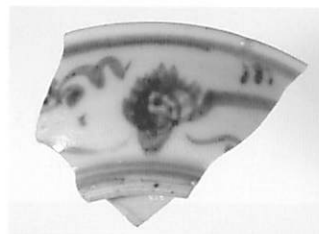


213-1



213-2

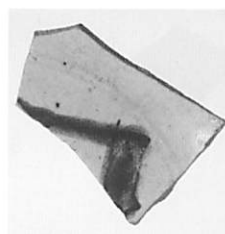
SK009出土遺物 (第225図参照)



225-1



SK020出土遺物 (第225図参照)



225-2



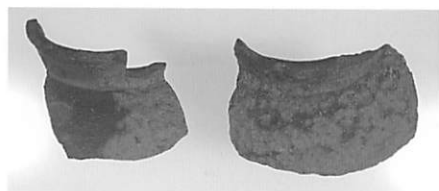
227-5



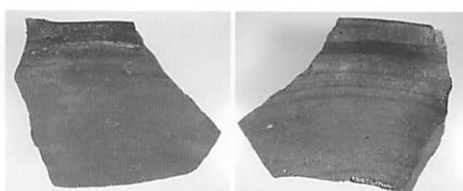
SK021出土遺物 (第227図参照)



227-4



230-1

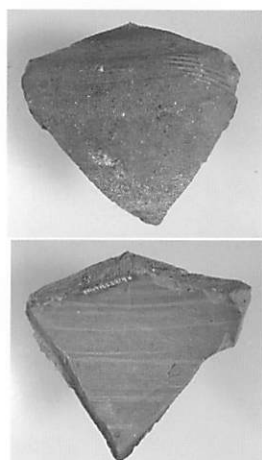


230-2



230-7

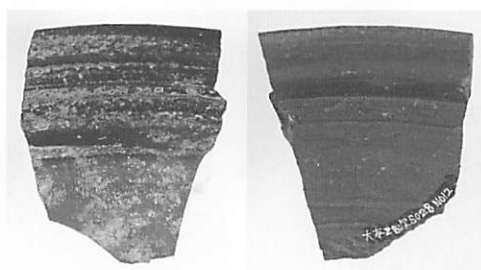
SK025出土遺物 (第230図参照)



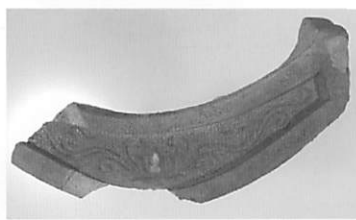
232-1



232-2



234-2

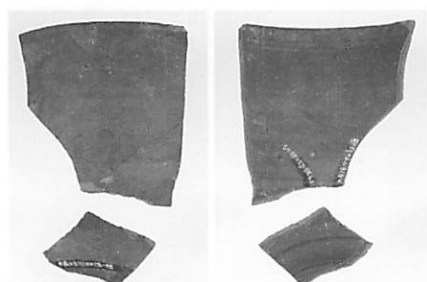


234-6

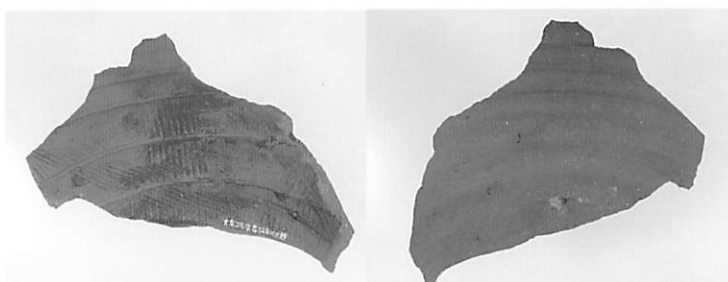


234-9

SK026出土遺物 (第232図参照)

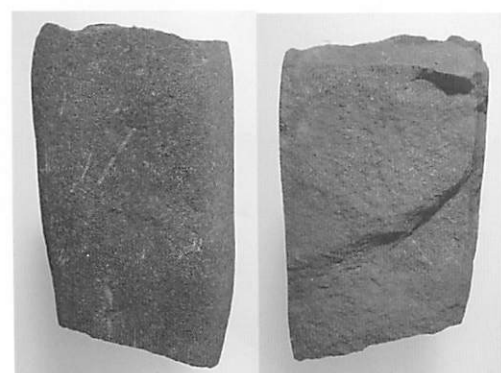


234-4



234-3

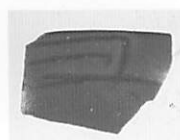
SK028出土遺物 (第234図参照)



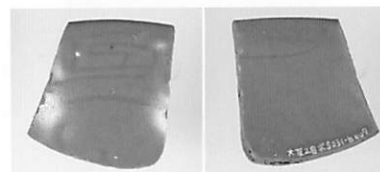
236-4



240-6



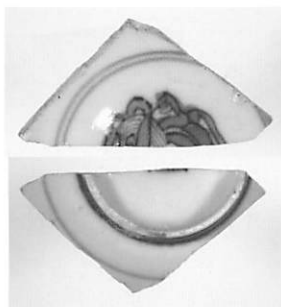
240-2



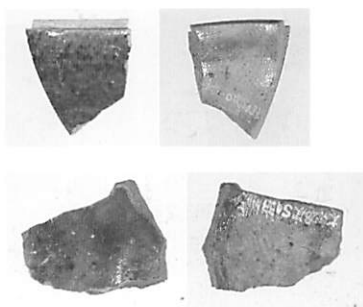
240-2

SK029出土遺物 (第236図参照)

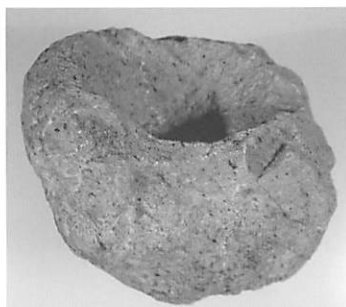
SK031出土遺物 (第240図参照)



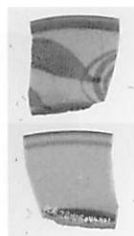
243-1



243-2・3

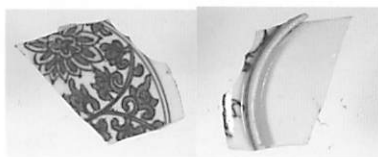


243-5

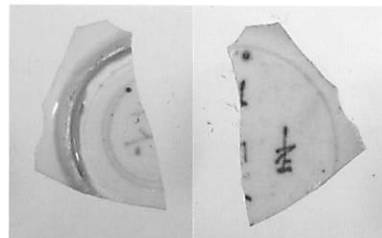
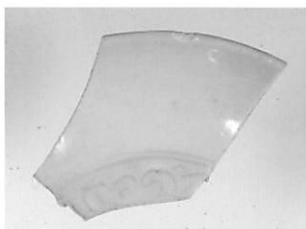


SK044  
出土遺物  
(第252図参照)

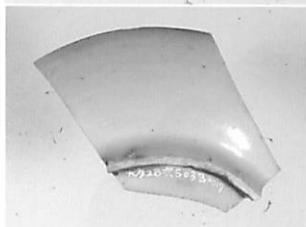
SK033出土遺物 (第243図参照)



247-1



247-2

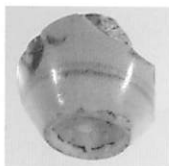


247-3

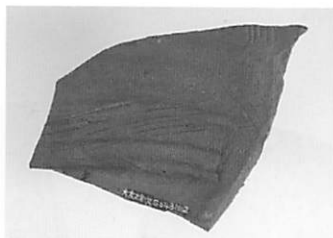


247-7

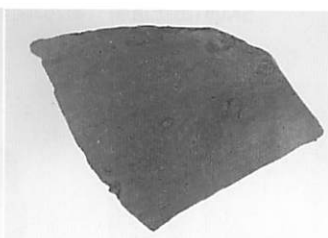
SK038出土遺物 (第247図参照)



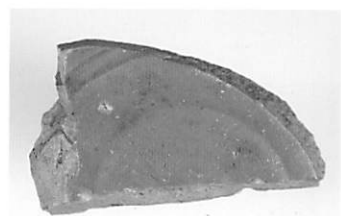
250-1



250-2



SK043出土遺物 (第250図参照)

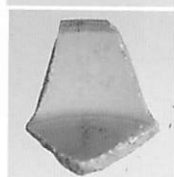
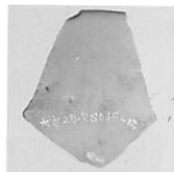


261-2

SK050出土遺物 (第261図参照)



254-1



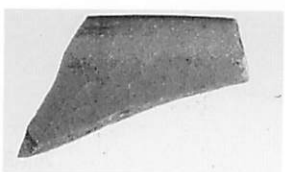
254-3



SK045出土遺物 (第254図参照)

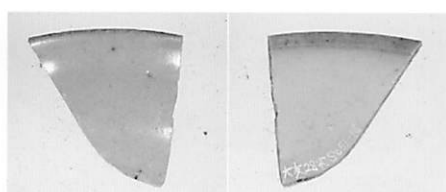
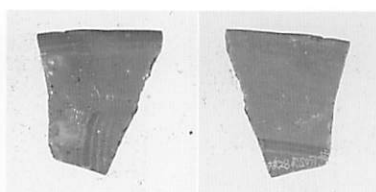
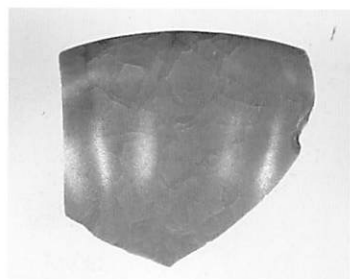


254-6



254-2

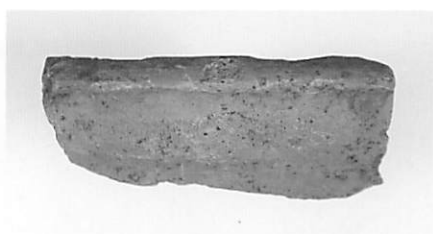
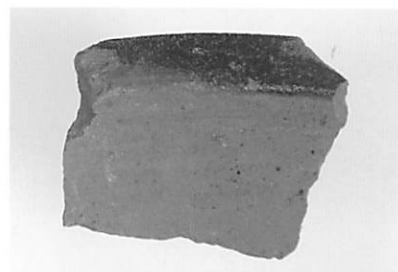




263-1

263-2

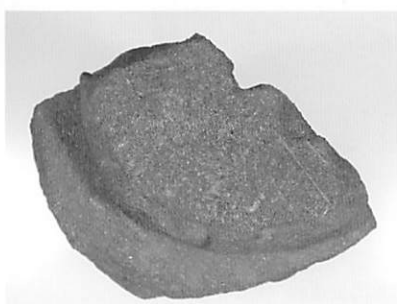
263-3



263-8

263-10

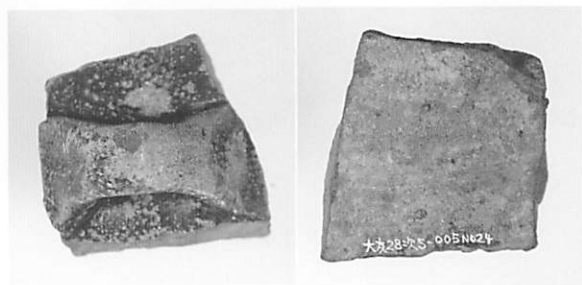
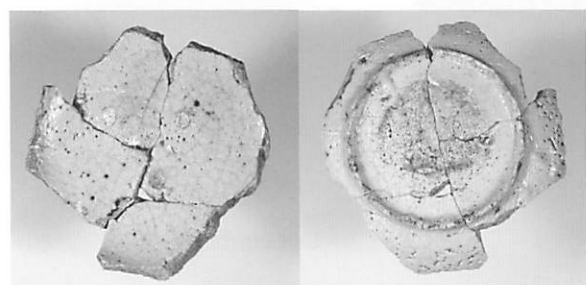
263-9



263-2

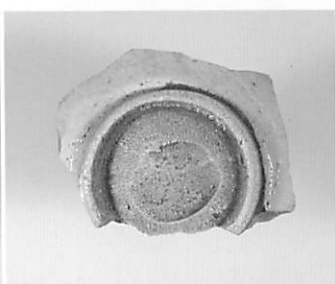
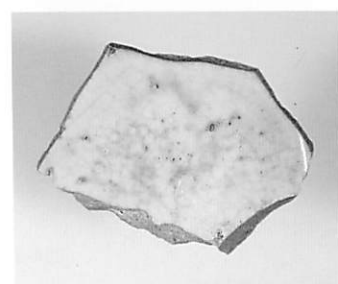
263-14

SK051出土遺物 (第263図参照)



265-3

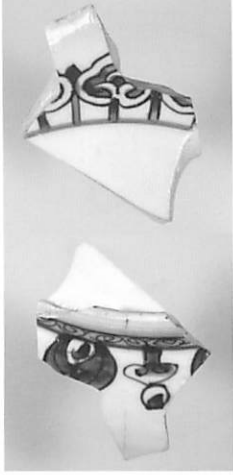
265-5



265-2

SX005出土遺物 (第265図参照)

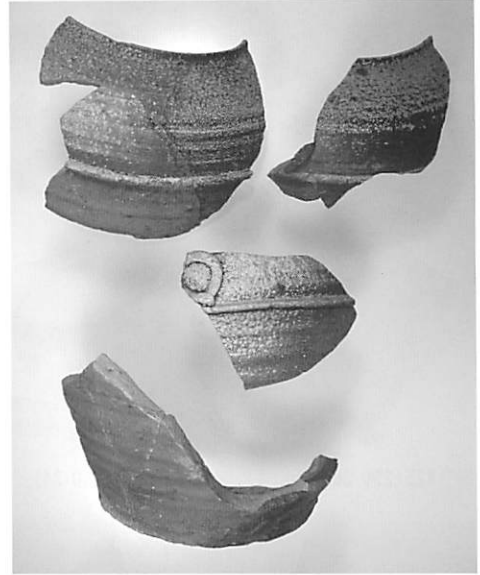
265-8



271-2



272-14



272-12・13



271-9



271-4

SX013出土遺物 (第271・272図参照)



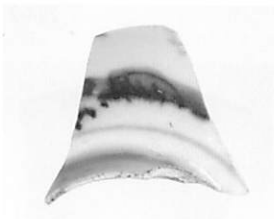
277-6



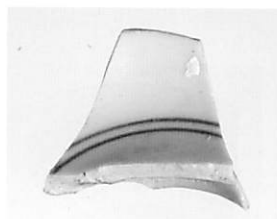
277-3



279-1

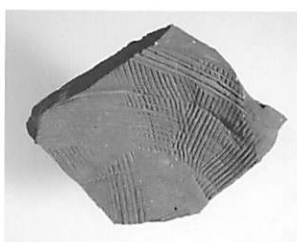


277-1

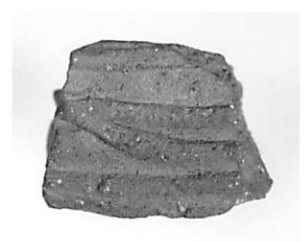


277-4

SX037出土遺物 (第277図参照)



SX029出土遺物 (第279図参照)



279-2

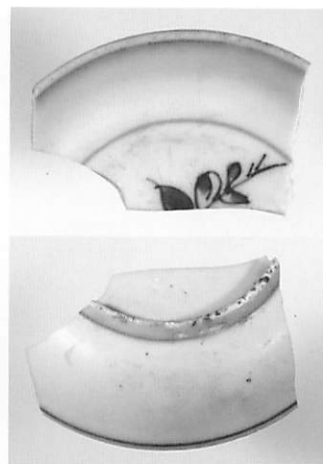




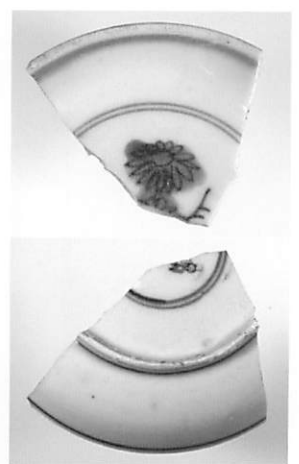
SP1425 (290-36)



SP1159 (289-24)



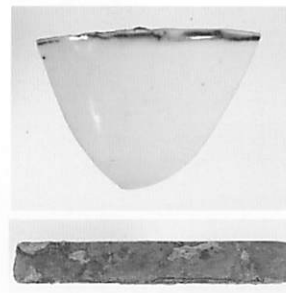
SP1102 (289-1)



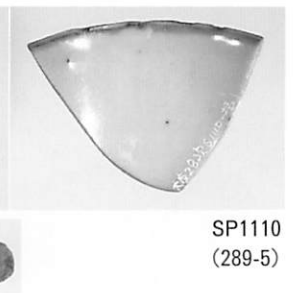
SP1107 (289-2)



SP1432 (291-41)



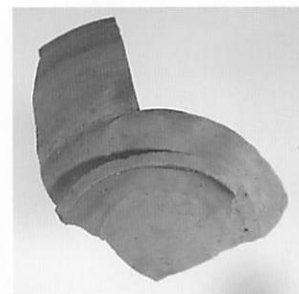
SP1110 (289-5)



SP1101 (281-1)

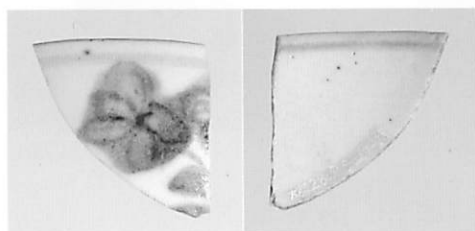


SP1432 (292-55)

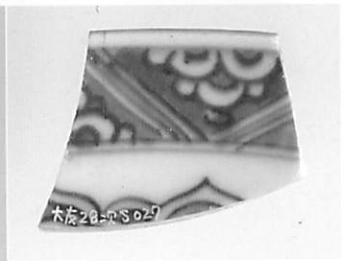
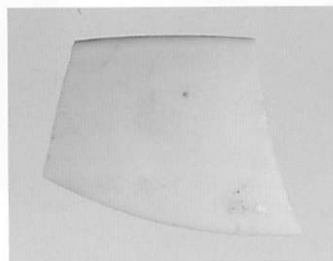


289-16

ピット出土遺物 (第288~292図参照)



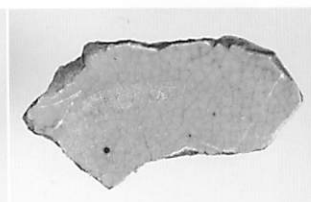
294-1



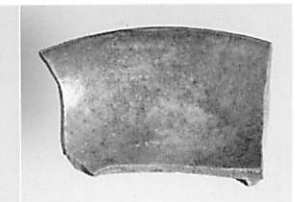
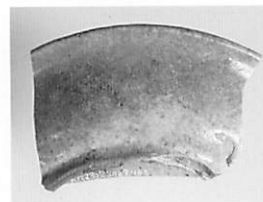
294-2



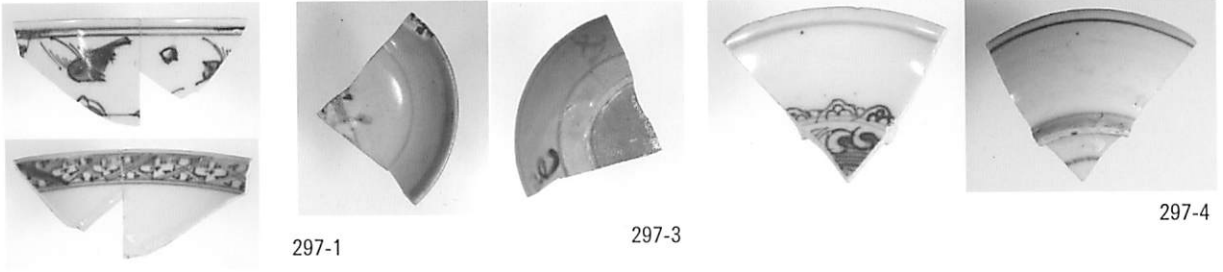
294-1



SE027出土遺物 (第294図参照)



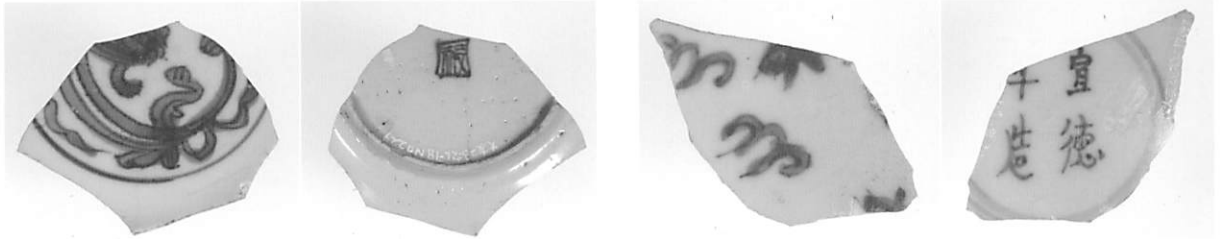
294-4



297-1

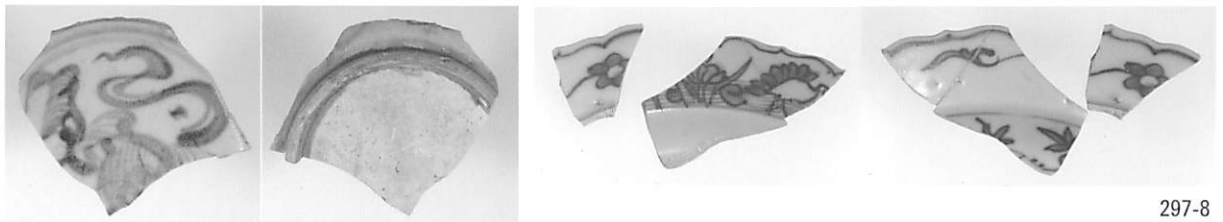
297-3

297-4



297-5

297-6



297-7

297-8



297-1

303-18

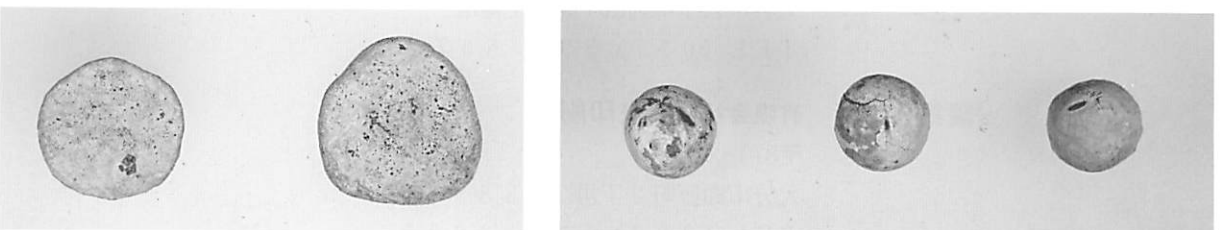
303-19



301-2

303-1

303-20



303-21・22

303-23~25

包含層・整地層出土遺物 (第297~303図参照)

---

---

## 豊 後 府 内 4

中世大友府内町跡第9次・第12次・第18次・第22次・第28次・第48次調査区

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

(第2分冊)

平成18年3月31日

**編集・発行** 大分県教育庁埋蔵文化財センター

〒870-1113

大分市大字中判田1977番地

TEL(097)597-5675

**編集・発行** 有限会社 中央印刷

〒870-0025

大分市顕徳町2丁目2-38

TEL(097)532-3805

---

---